平成３０年　１月３１日　開会

平成３０年　３月　２日　閉会

平成３０年３月定例会

美 作 市 議 会 会 議 録

平成３０年第１回３月定例会目次

◎　第１日（１月３１日開会）

1.　議　事　日　程…… 1
2.　出　席　議　員…… 3
3.　欠　席　議　員…… 3
4.　会議録署名議員…… 3
5.　出 席 説 明 員…… 3
6.　出席事務局職員…… 3
開　　会…… 4
散　　会……37

◎　第２日（２月２日再開）

1.　議　事　日　程……39
2.　出　席　議　員……39
3.　欠　席　議　員……39
4.　出 席 説 明 員……39
5.　出席事務局職員……39
開　　議……40
延　　会……93

◎　第３日（２月５日再開）

1.　議　事　日　程……95
2.　出　席　議　員……95
3.　欠　席　議　員……95
4.　出 席 説 明 員……95
5.　出席事務局職員……95
開　　議……96
延　　会…… 151

◎　第４日（２月６日再開）

1.　議　事　日　程…… 153
2.　出　席　議　員…… 153
3.　欠　席　議　員…… 153
4.　出 席 説 明 員…… 153
5.　出席事務局職員…… 153
開　　議…… 154
延　　会…… 222

◎　第５日（２月７日再開）

1. 議　事　日　程…… 223
2. 出　席　議　員…… 223
3. 欠　席　議　員…… 223
4. 出 席 説 明 員…… 223
5. 出席事務局職員…… 223
開　　議…… 225
延　　会…… 283

◎　第６日（２月８日再開）

1. 議　事　日　程…… 285
2. 出　席　議　員…… 285
3. 欠　席　議　員…… 285
4. 出 席 説 明 員…… 285
5. 出席事務局職員…… 285
開　　議…… 286
散　　会…… 335

◎　第７日（３月２日再開）

1. 議　事　日　程…… 337
2. 出　席　議　員…… 337
3. 欠　席　議　員…… 337
4. 出 席 説 明 員…… 337
5. 出席事務局職員…… 337
開　　議…… 338
閉　　会…… 404

◎　その他資料

一般質問…… 405

平成３０年１月３１日

（第　　１　　号）

1. 議　事　日　程（初日）

（平成30年第１回美作市議会３月定例会）

平成30年１月31日
午 前 10 時 開議
於　　議　　場

日程第１　会議録署名議員の指名
日程第２　会期の決定
日程第３　諸般の報告
日程第４　行政報告
日程第５　議会改革特別委員会委員長の中間報告について
日程第６　発議第１号　予算審査特別委員会設置について
日程第７　同意第１号　農業委員の任命について
同意第２号　農業委員の任命について
同意第３号　農業委員の任命について
同意第４号　農業委員の任命について
同意第５号　農業委員の任命について
同意第６号　農業委員の任命について
同意第７号　農業委員の任命について
同意第８号　農業委員の任命について
同意第９号　農業委員の任命について
同意第10号　農業委員の任命について
同意第11号　農業委員の任命について
同意第12号　農業委員の任命について
同意第13号　農業委員の任命について
同意第14号　農業委員の任命について
同意第15号　農業委員の任命について
日程第８　諮問第１号　人権擁護委員候補者の推薦について
諮問第２号　人権擁護委員候補者の推薦について
諮問第３号　人権擁護委員候補者の推薦について
日程第９　報告第１号　専決処分の報告について（和解及び損害賠償額の決定）
日程第10　議案第１号　美作市音声告知放送基幹設備・戸別放送端末購入契約の締結について
議案第２号　美作市こぶしの里設置及び管理に関する条例の廃止について
議案第３号　美作市附属機関設置条例の一部を改正する条例について
議案第４号　美作市職員の分限に関する手続及び効果に関する条例の一部を改正する条例について
議案第５号　美作市職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例について
議案第６号　美作市職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について
議案第７号　美作市特別職の職員の給料及び旅費に関する条例の一部を改正する条例について
議案第８号　美作市国民健康保険税条例及び美作市国民健康保険条例の一部を改正する条例につ

いて

議案第９号　美作市手数料徴収条例の一部を改正する条例について

議案第10号　美作市介護保険条例の一部を改正する条例について

議案第11号　美作市指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営の基準等を定める条例の制定について

議案第12号　美作市特定疾患医療附帯療養交通費支給条例の一部を改正する条例について

議案第13号　美作市後期高齢者医療に関する条例の一部を改正する条例について

議案第14号　美作市公共下水道条例等の一部を改正する条例について

議案第15号　美作市都市公園条例の一部を改正する条例について

議案第16号　美作市営住宅管理条例の一部を改正する条例について

議案第17号　市道路線の認定について

議案第18号　市道路線の変更について

議案第19号　美作市過疎地域自立促進市町村計画の変更について

議案第20号　美作市内の辺地に係る総合整備計画の策定について

議案第21号　美作市高齢者福祉センター「やまゆり苑」の指定管理者の指定について

議案第22号　平成29年度美作市一般会計補正予算（第５号）

議案第23号　平成29年度美作市国民健康保険特別会計補正予算（第１号）

議案第24号　平成29年度美作市介護保険特別会計補正予算（第２号）

議案第25号　平成29年度美作市簡易水道特別会計補正予算（第２号）

議案第26号　平成29年度美作市住宅新築資金等貸付事業特別会計補正予算（第１号）

議案第27号　平成29年度美作市公園墓地事業特別会計補正予算（第１号）

議案第28号　平成29年度美作市都市と農村の交流施設特別会計補正予算（第１号）

議案第29号　平成29年度美作市老人保健施設事業特別会計補正予算（第１号）

議案第30号　平成29年度矢田茂・原田政次郎・福田五男奨学基金特別会計補正予算（第１号）

議案第31号　平成29年度美作市後期高齢者医療特別会計補正予算（第１号）

議案第32号　平成29年度美作市水道事業会計補正予算（第２号）

議案第33号　平成29年度美作市下水道事業会計補正予算（第２号）

議案第34号　平成30年度美作市一般会計予算

議案第35号　平成30年度美作市国民健康保険特別会計予算

議案第36号　平成30年度美作市介護保険特別会計予算

議案第37号　平成30年度美作市簡易水道特別会計予算

議案第38号　平成30年度美作市住宅新築資金等貸付事業特別会計予算

議案第39号　平成30年度美作市公園墓地事業特別会計予算

議案第40号　平成30年度美作市都市と農村の交流施設特別会計予算

議案第41号　平成30年度美作市老人保健施設事業特別会計予算

議案第42号　平成30年度矢田茂・原田政次郎・福田五男奨学基金特別会計予算

議案第43号　平成30年度美作市後期高齢者医療特別会計予算

議案第44号　平成30年度美作市水道事業会計予算

議案第45号　平成30年度美作市病院事業会計予算

議案第46号　平成30年度美作市下水道事業会計予算

2.　出席議員は次のとおりである（18名）

１番	青　山　　慶	２番	和　田　広　宣
３番	岩　﨑　清　治	４番	岡　野　鉄　舟
５番	中　山　忠　明	６番	倉　地　重　夫
７番	重　平　直　樹	８番	安　藤　　功
９番	金　谷　のり子	10番	岡　本　泰　介
11番	山　本　雅　彦	12番	萬　代　師　一
13番	山　本　重　行	14番	尾　髙　誉　久
15番	岩　江　正　行	16番	日　笠　一　成
17番	内　海　健　次	18番	鈴　木　悦　子

3.　欠席議員は次のとおりである（なし）

4.　会議録署名議員

９番	金　谷　のり子	10番	岡　本　泰　介

5.　地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名（20名）

市　長	萩　原　誠　司	副市長	横　山　博　光
教育長	大　川　泰　栄	政策参与	山　下　　亨
政策審議監	福　原　　覚	総務部長	岡　本　和　之
危機管理監	皆　木　佳　久	企画振興部長	池　田　義　和
総合戦略監	大　森　洋　平	市民部長	角　南　良　雄
環境部長	妹　尾　昌　弘	経済部長	遠　藤　宏　一
保健福祉部長	江　見　　勉	建設部長	真　野　弘　紀
教育次長	山　名　浩　二	消防長	山　崎　正　雄
会計管理者	山　本　和　毅	都市住宅課長	小　林　英　樹
秘書課長	春　名　利　亮	社会教育課長	船　曳　敬　吾

6.　職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名（３名）

議会事務局長	尾　崎　功　三
課　長	大　佛　裕　彦
主　任	井　上　大　佑

午前10時00分　開会

議長（鈴木　悦子君）

おはようございます。

携帯電話の電源を切っていただきますようお願いいたします。

傍聴者の方は、傍聴規則第８条にもありますように傍聴席にあるときは静粛にしていただきますようお願いいたします。傍聴席においての写真撮影、録音等は禁止されております。

今定例会中、報道機関より取材のため録音及び撮影をしたい旨の申し出がありましたので、これを許可いたしております。なお、携帯電話、その他電子機器の電源はお切りください。傍聴者の方が傍聴規則が守れない場合は議場より退席をしていただきます。

定刻が参りましたので、ただいまより平成30年第１回３月美作市議会定例会を開会いたします。

全員の出席です。

定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

今定例会に説明員が随時出席いたしますので、これを許可しております。

日程第１　　会議録署名議員の指名

議長（鈴木　悦子君）

日程第１、「会議録署名議員の指名」を行います。

会議録署名議員は、会議規則第88条の規定により９番金谷のり子議員、10番岡本泰介議員を指名いたします。

日程第２　　会期の決定

議長（鈴木　悦子君）

日程第２、「会期の決定」を議題といたします。

先般本定例会の運営について議会運営委員会が開催されておりますので、委員長の報告を受けます。

尾髙委員長。

１４番（尾髙　誉久君）〔登壇〕

皆さんおはようございます。

ただいまから議会運営委員会の委員長報告を行います。

去る１月23日午後２時から、議長、委員全員、市長、副市長、政策参与、政策審議監、担当部長出席のもと、また本日31日午前９時30分から、議長、委員全員出席のもと、議員控室において議会運営委員会を開催し、３月定例会の運営について協議いたしましたので、その結果を報告いたします。

まず、会期につきましては、本日１月31日から３月２日までの31日間とし、会議日程は既にお手元に配付のとおりです。

次に、市長から送付されました議案は、人事案18件、専決処分の報告１件、契約の締結案１件、条例の廃止案１件、一部改正案13件、制定案１件、市道路線の認定案１件、変更案１件、計画の変更案１件、策定案１件、指定管理者の指定案１件、補正予算12件、当初予算13件の以上65件であります。

議員からの議案は、予算審査特別委員会設置についての発議１件です。なお、この発議は、議会運営委員

会で発議いたします。

本日の１日目は、諸般の報告、行政報告、議会改革特別委員会委員長の中間報告、予算審査特別委員会の設置発議、議案の一括上程の後、提案説明を受け、即決案件のみ委員会付託を省略し、質疑、討論、採決といたします。

続いて、２日目の２月２日から２月８日までの５日間を一般質問及び議案質疑を予定しております。なお、議案質疑終了後、各議案を委員会付託といたします。

最終日は３月２日とし、各委員長報告、報告に対する質疑を受けた後、討論、採決といたします。

次に、申し合わせに基づいて行っていただきます質問についてでございますが、一般質問につきましては、発議の順番は通告順であり、質問回数は１通告事項で３回まで、質問時間は45分であります。

議案質疑については、通告期限は２月２日午後５時までといたします。

なお、通告しない者の質疑は、通告した者の後に行うこととし、１議案につき１件といたします。各議案は委員会付託されますので、所属委員会に属する質疑は控えていただきますようお願いいたします。

次に、請願・陳情については、１月22日までに受理した請願１件、陳情３件について、委員会付託し、審議いたします。

予備日は、２月１日、９日、21日とし、休会日は、２月22日、23日、27日から３月１日としております。

以上で議会運営委員会の委員長報告といたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

議会運営委員長の報告が終わりました。

会期についてお諮りいたします。

ただいま議会運営委員長の報告がありましたように、本定例会の会期を本日31日から３月２日まで31日間と決定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

異議なしと認めます。よって、本定例会の会期は本日31日から３月２日までの31日間と決定いたしました。

日程第３　　諸般の報告

議長（鈴木　悦子君）

次に、日程第３、「諸般の報告」を行います。

一部事務組合議会については、美作養護老人ホーム組合議会からお手元に配付いたしております資料をもとに報告を行います。

岩﨑清治議員より報告をお願いいたします。

岩﨑議員。

３番（岩﨑　清治君）

去る１月19日午後２時30分より、作東総合支所委員会室におきまして開催されました平成30年第１回美作養護老人ホーム組合議会定例会について御報告をさせていただきます。

今定例会の出席議員は１名欠席で、７名の出席でありました。

上程された議案は６件で、平成29年度の補正予算３件、平成30年度の当初予算３件の６件であり、内容に

つきましては、お手元に配付されています報告書のとおりでありますが、配付されている内容と重複を避け、説明をさせていただきます。

昨年の10月より指定管理に移行し、８名の職員が組合に残り、公務員の地位を維持しながら今後３年間にわたり派遣という形で職務遂行し、派遣先である指定管理者から給与相当額が雑入として入ってくる。不足分は基金の取り崩し等で対応する。

平成29年度の補正は、年間予算を組んでいたが、10月までの確定した数値に合わせ、補正をしている。また、雑入の中は派遣職員給与相当額で、養護会計で３名、特養会計で３名、訪問会計２名である。

平成30年度の予算は、指定管理に移行したためサービス収入がゼロとなり、収入では、分担金及び負担金、派遣職員給与、基金繰入金、歳出では、公債費、議会費、人件費等であり、派遣職員は８名との挨拶並びに提案説明がありました。

質疑に入り、派遣職員給与相当額負担金があるが、契約内容はとの質問に対し、管理者は、派遣法に基づく指定管理委託したときに説明しているなどの、非常に不親切で、質問に対する答弁になってなく、たびたび同様の質問をしたところ、指定管理の選定はサービス提供の内容、給料の高いところで決定し、それ以上はプライバシーの問題があるので答えられないとの答弁であり、確認で、派遣先の平均給与の人数分とかの質問に対しても回答がありませんでした。

平成30年度予算において給与負担金が下がっている旨を尋ねたところ、職員の給料については、契約前のプロポーザル時点で全て個々の人に対し細かく決まっており、ポジションが変わった時点で微妙に変わるとの説明がありました。また、防火設備、検査委託料が計上しているがとの質問に対し、他の施設も施設の設置者が負担しているとのことでありました。

以上が質疑の概略であり、議案第１号「平成29年度養護老人ホーム補正予算（第１次）」、議案第２号「特別養護老人ホーム会計補正予算（第２次）」、議案第３号「訪問介護事業特別会計補正予算（第１次）」、議案第４号「平成30年度養護老人ホーム会計予算」、議案第５号「特別養護老人ホーム会計予算」、議案第６号「訪問介護事業特別会計予算」、以上６議案は採決の結果、お手元に配付のとおり原案のとおり可決いたしました。

以上で平成30年第１回美作養護老人ホーム組合議会の報告といたします。

議長（鈴木　悦子君）

次に、請願・陳情の取り扱いについては、お手元に配付しております資料をもって報告にかえます。

以上で諸般の報告を終わります。

次に、市長から送付されております議案の送付書につきましては、お手元に配付をしておりますので、ごらんください。

日程第４　　行政報告

議長（鈴木　悦子君）

日程第４、「行政報告」を行います。

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

皆さん、おはようございます。

平成30年第１回３月美作市議会定例会を招集をいたしましたところ、議員各位の御出席を賜り、厚く御礼

を申し上げます。

３月定例会の場合には、本来でございますれば、所信を申し述べるところでございますけれども、３月に市長選挙が予定をされておりますので、補正予算と骨格予算、そしてそれら予算との関係で財政状況の現状について行政報告という形でお話をさせていただくことにとどめたいと思っております。

平成29年度最終補正予算、そして平成30年度当初予算、その他の予算の関連事項についてお話を申し上げます。

まず、平成29年度最終補正予算は、歳入歳出それぞれ８億3,022万円を減額をし、予算規模を219億6,670万円といたしました。全体的には事業費の確定や決算見込みによる財源更正等で、また市税、繰越金、諸収入増加もありまして、昨年度に引き続き公共施設整備基金に２億8,827万円を積み立てた上での、いわゆる黒字決算型の減額補正とするということになったわけであります。

次に、平成30年度一般会計予算につきましては、３月に市長選挙を控えており、骨格予算として編成をしております。政策的なものは補正予算で追加計上したいと考えておりますが、なお行政懇談会等での御意見や御要望に関しまして、年度当初から執行が必要なものにつきましては、骨格予算に組み入れされていただいておりますことを申し添え、さらに既に債務負担行為において御承認をいただいております告知通信放送施設整備事業や、同時に実施をする必要がございますところの屋外拡声器整備事業につきましては、完了期限が迫っていることから当初予算の対応とさせていただいております。

この結果、予算総額は193億3,000万円で、対前年比で21億1,600万円、9.9％の減でございます。また、以前に同様に骨格編成であった年度と比較をいたします。平成26年度が骨格編成でございましたが、この平成26年度予算との関係では、11億3,100万円余、約5.5％の減少となっております。また、その前に平成25年度についても骨格編成でございました。この平成25年度につきましては、約18億円の減、さらにその前の平成21年度も骨格予算でございましたが、これと比較しますと、約16億円の減ということになっておりまして、行政の効率化を図ってきた成果が顕著にあらわれてきたものであります。

その差、内容を詳細に見ていきますと、平成26年度当初予算との比較だけ申し上げますが、公債費で７億3,000万円、人件費で３億9,000万円がそれぞれ減額となり、扶助費全体では１億3,000万円の増額ですけども、これら義務的経費全体で10億円の減額ということができております。そして、残りの１億3,000万円強でございますけども、これは細かくなりますけれども、電気料金の削減や新聞、雑誌等の購読物の削減、封筒の一括発注によるコストダウン等々、本当に細やかな部分でさまざまな見直しをこの数年間行ってきたものがそういった形で予算に反映されてきているということでございます。これらの経費削減の効果と各般の交付税等の拡大の成果は、肉づけの補正予算で市民生活に使われ、そして市民福祉の向上に生かされるべきものと考えているところでございます。

次に、財政の状況でございますけども、平成26年度から取り組んでございます財政の総点検におきまして、年を重ねるごとに各種の指標が改善をしているという方向性が見てとれてございます。今後の収支見通しは地方交付税のいわゆる一本化、一本算定が始まる平成32年度においても収支不足は生じないと見込まれ、大型事業所の進出による市税の増加、また公債費の抑制、電力供給会社の見直しなど、経常経費の削減に努めてきた成果があらわれていると、先ほど申しましたけども、そういう感覚を持っておるところであります。一部に財政力指標や自主財源比率が低いことを問題視する見方がございます。しかし、これらの指標につきましては、当市が中山間地に位置するということに由来する、いわば生まれながらの特徴であり、変化することはまずあり得ません。したがいまして、これらの指標が低いということの本当の意味は、交付税や交付金、補助金などの外部の財源をできるだけ多く獲得する必要性が高い地域であるということにすぎな

いと考えております。当市としましては、そのような自覚、つまり財政力指数が低い、自主財源比率が低いのであるから、外部の資金をたくさん取ってこなければならないんだと、こういう自覚のもとに外部からの積極的な資金獲得に努めており、それが成果をおさめてきているがゆえに、他の変化可能な重要な指標であるところの、例えば基金残高や起債残高が確実に改善をしているというふうに捉えるべきであろうというふうに考えております。

市の実質的な借金残高を標準財政規模に対する割合で示す将来負担比率、これが財政の将来に対して我々現役世代がどこまで負担をお願いするのかということになります、非常に重要な指標でございますが、これが平成25年度決算では92.7であったものが、平成28年度決算では38.6ということで、大幅に改善をした。これも同様の成果の裏側、あらわれでございます。借金である起債残高は外部からの資金獲得で減少し、合併来の懸案であった作東産業団地も順調に企業誘致が進み、債務が大幅に減少をいたしております。一方、貯金である基金残高が財政規模の圧縮等により年々増加をしており、市の財政に不安を抱く必要がないという状況に今なっております。

以上、補正予算、そして骨格予算、さらに財政状況について申し上げまして、議会の御審議と市民の美作市政に対する御理解と御支援の一助にできればと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げて、今回えらい簡単でございますけども、行政報告ということにさせていただきます。どうもありがとうございました。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

以上で行政報告を終了いたします。

日程第５　　議会改革特別委員会委員長の中間報告について

議長（鈴木　悦子君）

日程第５、「議会改革特別委員会委員長の中間報告について」を議題といたします。

議会改革特別委員会委員長より中間報告をしたいとの申し出があります。

お諮りします。

本件は申し出のとおり報告を受けることにしたいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

異議なしと認めます。したがって、議会改革特別委員会委員長の中間報告を受けることに決定いたしました。

日笠委員長。

１６番（日笠　一成君）

議長の許可をいただきましたので、これより議会改革特別委員会委員長の中間報告を行います。

去る１月26日、議員控室におきまして、委員２名欠席で、16名の委員出席のもと、議会改革特別委員会を開催し、前回に引き続き、各委員から提出された議題について協議いたしましたので、その中間報告を行います。

まず初めに、前回継続審議となっておりました議会だよりの発行、広報委員会の立ち上げについて、有志３名の委員から真庭市議会での議会だよりの作成の状況について調査されたことについて報告がありました。その後、協議に入り、発行するとした場合には議会事務局の体制も含め、どのような体制をするのかと

の議論となり、協議の結果、まずは事務局に嘱託職員でも専従の職員を置くことを執行部に要求することに決定し、その他の詳細な事項については、後日改めて協議することになりました。

次に、本会議のインターネット配信については、一般質問について、インターネット配信するための予算措置を要求することに決定いたしました。

次に、委員会、全員協議会のみまちゃんネル中継放送については、常任委員会のみ、みまちゃんネル中継を行う方向で今後検討することに決定いたしました。

次に、議場内の中継カメラの改良とマイクの改善については、議場内の照明も含め、執行部に改善を求めることに決定いたしました。

当日は以上で閉会し、残りの議題は後日となりました。

以上で議会改革特別委員会委員長の中間報告といたします。

なお、閉会中も引き続き調査が必要ですので、御承認をいただきますようにお願いをいたします。

以上です。よろしく。

議長（鈴木　悦子君）

議会改革特別委員会委員長の中間報告が終わりました。

ただいまの議会改革特別委員会委員長報告において委員会で調査中の事件について、会議規則第111条の規定により閉会中も引き続き調査終了まで継続調査したい旨、申し出がありました。

お諮りします。

委員長から申し出のとおり閉会中の継続調査をすることに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

異議なしと認めます。したがって、委員長からの申し出のとおり閉会中の継続調査とすることに決定しました。

日程第６　　発議第１号「予算審査特別委員会設置について」

議長（鈴木　悦子君）

日程第６、発議第１号「予算審査特別委員会設置について」を議題とし、提案者の説明を求めます。

議会運営委員長、尾髙議員。

１４番（尾髙　誉久君）〔登壇〕

予算審査特別委員会の設置発議をいたします。

発議第１号「予算審査特別委員会設置について」。

〔以下朗読〕

以上でございます。よろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

提案説明が終わりました。

これより質疑を行います。

質疑はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようですので、質疑を終了いたします。

本件は、美作市議会申し合わせ事項及び会議規則第37条第３項の規定に基づき、委員会付託を省略し、直ちに本会議において採決することにいたしたいと思いますが、これに御異議はございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

異議なしと認めます。よって、発議第１号「予算審査特別委員会設置について」は委員会付託を省略し、直ちに本会議において採決することに決定いたしました。

これより討論を行いますが、討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようでございますので、討論を終結し、採決を行います。

発議第１号「予算審査特別委員会設置について」、本案に賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（鈴木　悦子君）

全員賛成。発議第１号は原案のとおり可決されました。

ただいま設置されました予算審査特別委員会につきましては、委員の定数が18名となっておりますので、委員会条例第８条の規定により議員全員を指名いたします。

続きまして、委員長、副委員長の選任ですが、委員の構成が議員全員ということですので、本日議会終了後に予算審査特別委員会を開催し、委員長、副委員長を決定したいと思います。これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

異議なしと認めます。それでは、予算審査特別委員会を本日議会終了後に開催いたします。委員長、副委員長につきましては、後日報告をさせていただきます。

日程第　７　　同意第　１号「農業委員の任命について」
同意第　２号「農業委員の任命について」
同意第　３号「農業委員の任命について」
同意第　４号「農業委員の任命について」
同意第　５号「農業委員の任命について」
同意第　６号「農業委員の任命について」
同意第　７号「農業委員の任命について」
同意第　８号「農業委員の任命について」
同意第　９号「農業委員の任命について」
同意第１０号「農業委員の任命について」
同意第１１号「農業委員の任命について」
同意第１２号「農業委員の任命について」
同意第１３号「農業委員の任命について」
同意第１４号「農業委員の任命について」

同意第１５号「農業委員の任命について」

日程第　８　諮問第　１号「人権擁護委員候補者の推薦について」

諮問第　２号「人権擁護委員候補者の推薦について」

諮問第　３号「人権擁護委員候補者の推薦について」

日程第　９　報告第　１号「専決処分の報告について（和解及び損害賠償額の決定）」

日程第１０　議案第　１号「美作市音声告知放送基幹設備・戸別放送端末購入契約の締結について」

議案第　２号「美作市こぶしの里設置及び管理に関する条例の廃止について」

議案第　３号「美作市附属機関設置条例の一部を改正する条例について」

議案第　４号「美作市職員の分限に関する手続及び効果に関する条例の一部を改正する条例について」

議案第　５号「美作市職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例について」

議案第　６号「美作市職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について」

議案第　７号「美作市特別職の職員の給料及び旅費に関する条例の一部を改正する条例について」

議案第　８号「美作市国民健康保険税条例及び美作市国民健康保険条例の一部を改正する条例について」

議案第　９号「美作市手数料徴収条例の一部を改正する条例について」

議案第１０号「美作市介護保険条例の一部を改正する条例について」

議案第１１号「美作市指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営の基準等を定める条例の制定について」

議案第１２号「美作市特定疾患医療附帯療養交通費支給条例の一部を改正する条例について」

議案第１３号「美作市後期高齢者医療に関する条例の一部を改正する条例について」

議案第１４号「美作市公共下水道条例等の一部を改正する条例について」

議案第１５号「美作市都市公園条例の一部を改正する条例について」

議案第１６号「美作市営住宅管理条例の一部を改正する条例について」

議案第１７号「市道路線の認定について」

議案第１８号「市道路線の変更について」
議案第１９号「美作市過疎地域自立促進市町村計画の変更について」
議案第２０号「美作市内の辺地に係る総合整備計画の策定について」
議案第２１号「美作市高齢者福祉センター「やまゆり苑」の指定管理者の指定について」
議案第２２号「平成２９年度美作市一般会計補正予算（第５号）」
議案第２３号「平成２９年度美作市国民健康保険特別会計補正予算（第１号）」
議案第２４号「平成２９年度美作市介護保険特別会計補正予算（第２号）」
議案第２５号「平成２９年度美作市簡易水道特別会計補正予算（第２号）」
議案第２６号「平成２９年度美作市住宅新築資金等貸付事業特別会計補正予算（第１号）」
議案第２７号「平成２９年度美作市公園墓地事業特別会計補正予算（第１号）」
議案第２８号「平成２９年度美作市都市と農村の交流施設特別会計補正予算（第１号）」
議案第２９号「平成２９年度美作市老人保健施設事業特別会計補正予算（第１号）」
議案第３０号「平成２９年度矢田茂・原田政次郎・福田五男奨学基金特別会計補正予算（第１号）」
議案第３１号「平成２９年度美作市後期高齢者医療特別会計補正予算（第１号）」
議案第３２号「平成２９年度美作市水道事業会計補正予算（第２号）」
議案第３３号「平成２９年度美作市下水道事業会計補正予算（第２号）」
議案第３４号「平成３０年度美作市一般会計予算」
議案第３５号「平成３０年度美作市国民健康保険特別会計予算」
議案第３６号「平成３０年度美作市介護保険特別会計予算」
議案第３７号「平成３０年度美作市簡易水道特別会計予算」
議案第３８号「平成３０年度美作市住宅新築資金等貸付事

業特別会計予算」
議案第３９号「平成３０年度美作市公園墓地事業特別会計予算」
議案第４０号「平成３０年度美作市都市と農村の交流施設特別会計予算」
議案第４１号「平成３０年度美作市老人保健施設事業特別会計予算」
議案第４２号「平成３０年度矢田茂・原田政次郎・福田五男奨学基金特別会計予算」
議案第４３号「平成３０年度美作市後期高齢者医療特別会計予算」
議案第４４号「平成３０年度美作市水道事業会計予算」
議案第４５号「平成３０年度美作市病院事業会計予算」
議案第４６号「平成３０年度美作市下水道事業会計予算」

議長（鈴木　悦子君）

次に、日程第７、同意15件、日程第８、諮問３件、日程第９、報告１件、日程第10、議案46件、同意第１号から第15号、諮問第１号から第３号、報告第１号、議案第１号から議案第46号を一括議題といたします。

日程第７、同意第１号「農業委員の任命について」、市長より提案説明を求めます。

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

それでは、ただいま御上程なされました同意第１号について説明いたします。

現農業委員が平成30年３月30日で任期満了となるため、新たに農業委員として、長岡寛明氏を任命をしたいので、農業委員会等に関する法律第８条第１項の規定により、議会の同意を求めるものでございます。

同氏は、平成18年から農業委員として職務を行われております。農業に関し、豊富な経験と知識を有されており、農業の健全な発展を推進した方として適任であると、美作市農業委員候補者評価委員会より意見の報告がございました。

経歴等につきましては、配付をさせていただいております。

御審議の上、何とぞ御同意をいただきますようにお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

提案説明が終わりました。

これより質疑に入ります。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

質疑なしと認め、質疑を終結いたします。

次に、同意第１号の委員会付託省略及び討論省略についてお諮りいたします。

人事案件は即決といたしておりますので、会議規則第37条第３項の規定に基づき、委員会付託及び討論を省略し、直ちに本会議において採決することにいたしたいと思いますが、これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

異議なしと認めます。よって、同意第１号は委員会付託及び討論を省略し、直ちに本会議において採決することに決定いたしました。

それでは、同意第１号「農業委員の任命について」、本件に賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（鈴木　悦子君）

全員賛成。よって、同意第１号は承認することに決定しました。

続きまして、同意第２号「農業委員の任命について」、市長より提案説明を求めます。

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

ただいま御上程になりました同意第２号につきましては、第１号と同様な理由で、新たに農業委員として、江見文夫氏を任命したいということで、農業委員会等に関する法律第８条第１項の規定により議会の同意を求めるものでございます。

江見文夫氏は、平成５年から岡山県就農アドバイザー、平成21年から勝英地区土地改良区副理事長を務めるなど、農業に関し、豊富な経験と知識を有しておられ、農業の健全な発展を推進していただく方として適任であると、美作市農業委員候補者評価委員会より意見の報告がございました。

経歴等につきましては、配付をいたしております。

どうぞよろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

提案説明が終わりました。

これより質疑に入ります。

質疑ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

別に質疑がないようでございますので、質疑を終結いたします。

次に、同意第２号の委員会付託省略及び討論省略についてお諮りをいたします。

人事案件は即決といたしておりますので、会議規則第37条第３項の規定に基づき、委員会付託及び討論を省略し、直ちに本会議において採決することにいたしたいと思いますが、これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

異議なしと認めます。よって、同意第２号は委員会付託及び討論を省略し、直ちに本会議において採決することに決定いたしました。

それでは、同意第２号「農業委員の任命について」、本件に賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（鈴木　悦子君）

全員賛成。よって、同意第２号は承認することに決定いたしました。

続きまして、同意第３号「農業委員の任命について」、市長より提案説明を求めます。

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

ただいま御上程になりました同意第３号につきましては、新たに農業委員として、中嶋勝志氏を任命したいので、議会の同意を求めるものでございます。

同氏は、平成18年から２期農業委員を務めるなど、農業に関し、豊富な知識と経験を有しておられまして、農業の健全な発展を推進していただく方として適任であると、美作市農業委員候補者評価委員会より意見の報告がございました。

経歴につきましては、配付をいたしております。

どうぞよろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

提案説明が終わりました。

これより質疑に入ります。

質疑ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

質疑なしと認め、質疑を終結いたします。

次に、同意第３号の委員会付託省略及び討論省略についてお諮りいたします。

人事案件は即決といたしておりますので、会議規則第37条第３項の規定に基づき、委員会付託及び討論を省略し、直ちに本会議において採決することにいたしたいと思いますが、これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

異議なしと認めます。よって、同意第３号は委員会付託及び討論を省略し、直ちに本会議において採決することに決定いたしました。

それでは、同意第３号「農業委員の任命について」、本件に賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（鈴木　悦子君）

全員賛成。同意第３号は承認することに決定いたしました。

続きまして、同意第４号「農業委員の任命について」、市長より提案説明を求めます。

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

ただいま御上程されました同意第４号につきましては、新たに農業委員として、平田榮一氏を任命したいので、議会の同意を求めるものでございます。

平田榮一氏は、平成27年から認定農業者として、農業経営基盤の改善に努められるなど、農業に関し、豊富な経験と知識を有しておられ、農業の健全な発展を推進していただく方として適任であると、美作市農業委員候補者評価委員会より意見の報告がございました。

経歴等につきましては、配付をいたしております。

どうぞよろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

提案説明が終わりました。

これより質疑に入ります。

質疑ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

質疑がないようでございますので、質疑を終結いたします。

次に、同意第４号の委員会付託省略及び討論省略についてお諮りいたします。

人事案件は即決といたしておりますので、会議規則第37条第３項の規定に基づき、委員会付託及び討論を省略し、直ちに本会議において採決することにいたしたいと思いますが、これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

異議なしと認めます。よって、同意第４号は委員会付託及び討論を省略し、直ちに本会議において採決することに決定いたしました。

それでは、同意第４号「農業委員の任命について」、本件に賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（鈴木　悦子君）

全員賛成です。同意第４号は承認することに決定しました。

続きまして、同意第５号「農業委員の任命について」、市長より提案説明を求めます。

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

ただいま御上程になりました同意第５号につきまして、新たに農業委員として、大坊和吉氏を任命したいので、議会の同意を求めるものでございます。

大坊氏は、平成27年から農業委員として職務を行っておられます。農業に関し、豊富な経験と知識を有しておられ、農業の健全な発展を推進していただく方として適任であると、美作市農業委員候補者評価委員会より意見の報告がございました。

経歴等については、配付をいたしております。

どうぞよろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

提案説明が終わりました。

これより質疑に入ります。

ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようでございますので、質疑を終結いたします。

次に、同意第５号の委員会付託省略及び討論省略についてお諮りをいたします。

人事案件は即決といたしておりますので、会議規則第37条第３項の規定に基づき、委員会付託及び討論を省略し、直ちに本会議において採決することにいたしたいと思いますが、これに御異議ございますか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

異議なしと認めます。よって、同意第５号は委員会付託及び討論を省略し、直ちに本会議において採決することに決定いたしました。

それでは、同意第５号「農業委員の任命について」、本件に賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（鈴木　悦子君）

全員賛成。同意第５号は承認することに決定しました。

続きまして、同意第６号「農業委員の任命について」、市長より提案説明を求めます。

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

ただいま御上程になりました同意第６号につきまして、新たに農業委員として、小林真知子氏を任命をしたいということで、議会の同意を求めるものでございます。

小林氏は、平成27年から農業委員を務められるほか、認定農業者として農業経営基盤の改善に努めるなど、農業に関し、豊富な経験と知識を有しておられ、農業の健全な発展を推進していただく方として適任であると、美作市農業委員候補者評価委員会より意見の報告がございました。

経歴等につきましては、配付をさせていただいております。

どうぞよろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

提案説明が終わりました。

これより質疑に入ります。

ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようでございますので、質疑を終結いたします。

次に、同意第６号の委員会付託及び討論省略についてお諮りをいたします。

人事案件は即決といたしておりますので、会議規則第37条第３項の規定に基づき、委員会付託及び討論を省略し、直ちに本会議において採決することにいたしたいと思いますが、これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

異議なしと認めます。よって、同意第６号は委員会付託及び討論を省略し、直ちに本会議において採決することに決定をいたしました。

同意第６号「農業委員の任命について」、本件に賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（鈴木　悦子君）

全員賛成。よって、同意第６号は承認することに決定しました。

続きまして、同意第７号「農業委員の任命について」、市長より提案説明を求めます。

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

ただいま御上程になりました同意第７号につきまして、新たに農業委員として、山本正人氏を任命したいということで、議会の同意を求めるものでございます。

山本氏は、平成24年から農業委員として職務を行われ、そして平成27年からは農業委員会会長として職務に精励されておられます。農業に関し、豊富な経験と知識を有しておられ、農業の健全な発展を推進してい

ただく方として適任であると、美作市農業委員候補者評価委員会より意見の報告がございました。

経歴等につきましては、配付をいたしております。

どうぞよろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

提案説明が終わりました。

これより質疑に入ります。

ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようでございますので、質疑を終結いたします。

次に、同意第７号の委員会付託及び討論省略についてお諮りをいたします。

人事案件は即決といたしておりますので、会議規則第37条第３項の規定に基づき、委員会付託及び討論を省略し、直ちに本会議において採決することにいたしたいと思いますが、これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

異議なしと認めます。よって、同意第７号は委員会付託及び討論を省略し、直ちに本会議において採決することに決定いたしました。

それでは、同意第７号「農業委員の任命について」、本件に賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（鈴木　悦子君）

全員賛成。よって、同意第７号は承認することに決定をいたしました。

続きまして、同意第８号「農業委員の任命について」、市長より提案説明を求めます。

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

ただいま御上程になりました同意第８号につきまして、新たに農業委員として、山本弘美氏を任命したいということで、議会の同意を求めるものでございます。

山本氏は、平成27年から農業委員として職務を行っておられます。農業に関し、豊富な経験と知識を有しておられ、農業の健全な発展を推進していただく方として適任であると、美作市農業委員候補者評価委員会より意見の報告がありました。

経歴等は配付のとおりでございます。

御審議の上、どうぞよろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

提案説明が終わりました。

これより質疑に入ります。

質疑ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようでございます。質疑を終結いたします。

次に、同意第８号の委員会付託及び討論省略についてお諮りをいたします。

人事案件は即決といたしておりますので、会議規則第37条第３項の規定に基づき、委員会付託及び討論を省略し、直ちに本会議において採決することにいたしたいと思いますが、これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

異議なしと認めます。よって、同意第８号は委員会付託及び討論を省略し、直ちに本会議において採決することに決定をいたしました。

それでは、同意第８号「農業委員の任命について」、本件に賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（鈴木　悦子君）

全員賛成。よって、同意第８号は承認することに決定いたしました。

続きまして、同意第９号「農業委員の任命について」、市長より提案説明を求めます。

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

ただいま上程されました同意第９号につきまして、新たに農業委員として、黒坂浩教氏を任命したいということで、議会の同意を求めるものでございます。

黒坂氏は、平成24年から農業委員を務めておられますが、このほか、認定農業者として農業経営基盤の改善に努めるなど、農業に関し、豊富な経験と知識を有しておられ、農業の健全な発展を推進していただく方として適任であると、美作市農業委員候補者評価委員会より意見の報告があったものです。

経歴等はごらんのとおりでございます。

どうぞよろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

提案説明が終わりました。

これより質疑に入ります。

質疑ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

質疑がないようでございます。質疑を終結いたします。

次に、同意第９号の委員会付託及び討論省略についてお諮りをいたします。

人事案件は即決といたしておりますので、会議規則第37条第３項の規定に基づき、委員会付託及び討論を省略し、直ちに本会議において採決することにいたしたいと思いますが、これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

異議なしと認めます。よって、同意第９号は委員会付託及び討論を省略し、直ちに本会議において採決することに決定をいたしました。

それでは、同意第９号「農業委員の任命について」、本件に賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（鈴木　悦子君）

全員賛成。よって、同意第９号は承認することに決定いたしました。

続きまして、同意第10号「農業委員の任命について」、市長より提案説明を求めます。

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

ただいま御上程になりました同意第10号につきましては、新たに農業委員として、松本政幸氏を任命したいということで、議会の同意を求めるものでございます。

松本氏は、平成27年から農業委員を務められておられますが、このほか、認定農業者として農業経営基盤の改善に努められるなど、農業に関し、豊富な経験と知識を有しておられ、農業の健全な発展を推進していただく方として適任であると、美作市農業委員候補者評価委員会より意見の報告がございました。

経歴等は配付をしております。

どうぞよろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

提案説明が終わりました。

これより質疑に入ります。

質疑ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

質疑なしと認め、質疑を終結いたします。

次に、同意第10号の委員会付託及び討論省略についてお諮りをいたします。

人事案件は即決といたしておりますので、会議規則第37条第３項の規定に基づき、委員会付託及び討論を省略し、直ちに本会議において採決することにいたしたいと思いますが、これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

異議なしと認めます。よって、同意第10号は委員会付託及び討論を省略し、直ちに本会議において採決することに決定をいたしました。

それでは、同意第10号「農業委員の任命について」、本件に賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（鈴木　悦子君）

全員賛成。よって、同意第10号は承認することに決定いたしました。

続きまして、同意第11号「農業委員の任命について」、市長より提案説明を求めます。

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

ただいま御上程になりました同意第11号につきましては、新たに農業委員として、山本進一郎氏を任命したいということで、議会の同意を求めるものでございます。

山本氏は、平成21年から勝英農業協同組合監事を１期務めるなど、農業に関し、豊富な経験と知識を有しておられ、農業の健全な発展を推進していただく方として適任であると、美作市農業委員候補者評価委員会より意見の報告がございました。

経歴等については配付をしております。

どうぞよろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

提案説明が終わりました。

これより質疑に入ります。

質疑ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

なしと認め、質疑を終結いたします。

次に、同意第11号の委員会付託及び討論省略についてお諮りをいたします。

人事案件は即決といたしておりますので、会議規則第37条第３項の規定に基づき、委員会付託及び討論を省略し、直ちに本会議において採決することにいたしたいと思いますが、これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

異議なしと認めます。よって、同意第11号は委員会付託及び討論を省略し、直ちに本会議において採決することに決定をいたしました。

それでは、同意第11号「農業委員の任命について」、本件に賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（鈴木　悦子君）

全員賛成。同意第11号は承認することに決定いたしました。

続きまして、同意第12号「農業委員の任命について」、市長より提案説明を求めます。

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

ただいま御上程になりました同意第12号につきましては、新たに農業委員として、岡本昌弘氏を任命したいということで、議会の同意を求めるものでございます。

岡本氏は、平成24年から農業委員を１期務められたほか、認定農業者として農業経営基盤の改善に努めるなど、農業に関し、豊富な経験と知識を有しておられ、農業の健全な発展を推進していただく方として適任であると、美作市農業委員候補者評価委員会より意見の報告がございました。

経歴等は配付をいたしております。

どうぞよろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

提案説明が終わりました。

これより質疑に入ります。

質疑ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

なしと認め、質疑を終結いたします。

次に、同意第12号の委員会付託及び討論省略についてお諮りをいたします。

人事案件は即決といたしておりますので、会議規則第37条第３項の規定に基づき、委員会付託及び討論を省略し、直ちに本会議において採決することにいたしたいと思いますが、これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

異議なしと認めます。よって、同意第12号は委員会付託及び討論を省略し、直ちに本会議において採決す

ることに決定をいたしました。

それでは、同意第12号「農業委員の任命について」、本件に賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（鈴木　悦子君）

全員賛成。同意第12号は承認することに決定いたしました。

続きまして、同意第13号「農業委員の任命について」、市長より提案説明を求めます。

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

ただいま御上程になりました同意第13号につきまして、新たに農業委員として、小林一三氏を任命したいということで、議会の同意を求めるものでございます。

小林氏は、平成９年から認定農業者として農業経営基盤の改善に努めるなど、農業に関し、豊富な経験と知識を有しておられ、農業の健全な発展を推進していただく方として適任であると、美作市農業委員候補者評価委員会より意見の報告がございました。

経歴等は配付のとおりでございます。

どうぞよろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

提案説明が終わりました。

これより質疑に入ります。

質疑ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

質疑なしと認め、終結をいたします。

次に、同意第13号の委員会付託及び討論省略についてお諮りをいたします。

人事案件は即決といたしておりますので、会議規則第37条第３項の規定に基づき、委員会付託及び討論を省略し、直ちに本会議において採決することにいたしたいと思いますが、これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

異議なしと認めます。よって、同意第13号は委員会付託及び討論を省略し、直ちに本会議において採決することに決定をいたしました。

それでは、同意第13号「農業委員の任命について」、本件に賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（鈴木　悦子君）

全員賛成。よって、同意第13号は承認することに決定しました。

続きまして、同意第14号「農業委員の任命について」、市長より提案説明を求めます。

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

ただいま御上程になりました同意第14号につきまして、新たに農業委員として、小川正明氏を任命したいということで、議会の同意を求めるものでございます。

小川氏は、平成27年から農業委員として職務を行っておられます。農業に関し、豊富な経験と知識を有し

ておられ、農業の健全な発展を推進していただく方として適任であると、美作市農業委員候補者評価委員会より意見の報告がございました。

経歴等につきましては、配付のとおりでございます。

どうぞよろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

提案説明が終わりました。

これより質疑に入ります。

ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

なしと認め、質疑を終結いたします。

次に、同意第14号の委員会付託及び討論省略についてお諮りをいたします。

人事案件は即決といたしておりますので、会議規則第37条第３項の規定に基づき、委員会付託及び討論を省略し、直ちに本会議において採決することにいたしたいと思いますが、これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

異議なしと認めます。よって、同意第14号は委員会付託及び討論を省略し、直ちに本会議において採決することに決定いたしました。

それでは、同意第14号「農業委員の任命について」、本件に賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（鈴木　悦子君）

全員賛成。よって、同意第14号は承認することに決定いたしました。

続きまして、同意第15号「農業委員の任命について」、市長より提案説明を求めます。

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

ただいま御上程になりました同意第15号につきまして、新たに農業委員として、角南芳明氏を任命したいということで、議会の同意を求めるものでございます。

角南氏は、平成24年から農業委員を務められておられますが、このほか、勝英農業協同組合理事も務めておられます。農業に関し、豊富な経験と知識を有しておられ、農業の健全な発展を推進していただく方として適任であると、美作市農業委員候補者評価委員会より意見の報告がございました。

経歴等につきましては、配付のとおりでございます。

どうぞよろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

提案説明が終わりました。

これより質疑に入ります。

質疑ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

質疑なしと認め、質疑を終結いたします。

次に、同意第15号の委員会付託省略及び討論省略についてお諮りをいたします。

人事案件は即決といたしておりますので、会議規則第37条第３項の規定に基づき、委員会付託及び討論を省略し、直ちに本会議において採決することにいたしたいと思いますが、これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

異議なしと認めます。よって、同意第15号は委員会付託及び討論を省略し、直ちに本会議において採決することに決定いたしました。

それでは、同意第15号「農業委員の任命について」、本件に賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（鈴木　悦子君）

全員賛成。よって、同意第15号は承認することに決定いたしました。

続きまして、日程第８、諮問第１号「人権擁護委員候補者の推薦について」、市長より提案説明を求めます。

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

ただいま御上程になりました諮問第１号につきましては、平成30年６月30日に任期満了となります英田地域人権擁護委員につきまして、青山和利氏を人権擁護委員の候補者として、新任として推薦したく、議会の御意見を頂戴するためのものでございます。

青山氏の略歴について申し上げます。

住所、生年月日等につきましては、配付をしております資料をごらんください。

青山氏は、昭和54年３月に大学を御卒業後、津山市役所に勤務をされ、平成28年３月に退職された後は現在まで津山市役所再任用職員として勤めていらっしゃいます。津山市役所在職中は、社会福祉行政に携わり、ケースワーカー及び査察指導員として生活困窮者の方々を支援をされたほか、高齢者・障がい者の方々等の全ての市民がみずからの意思で自由に行動し、安全かつ快適に生活できる社会環境を整備するためのまちづくり条例の制定などに尽力をされたと聞いております。

地域の皆さんの信頼も厚く、識見に富み、人権擁護委員として適任者であると判断をさせていただき、ここに推薦をするものでございます。

御審議の上、どうぞよろしくお願いをいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

提案説明が終わりました。

質疑はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

なしと認め、質疑を終結いたします。

次に、諮問第１号の委員会付託及び討論省略についてお諮りをいたします。

人事案件は即決といたしておりますので、会議規則第37条第３項の規定に基づき、委員会付託及び討論を省略し、直ちに本会議において採決することにいたしたいと思いますが、これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

異議なしと認めます。よって、諮問第１号は委員会付託及び討論を省略し、直ちに本会議において採決することに決定いたしました。

それでは、これより採決を行います。

諮問第１号「人権擁護委員候補者の推薦について」、本件に賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（鈴木　悦子君）

全員賛成。よって、諮問第１号は同意することに決定をいたしました。

続きまして、諮問第２号「人権擁護委員候補者の推薦について」、市長より提案説明を求めます。

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

ただいま御上程になりました諮問第２号につきましては、平成30年６月30日に任期満了となります東粟倉地域人権擁護委員につきまして、福田敬氏を人権擁護委員の候補者として、再任、推薦を申し上げたく、議会の御意見を求めるものでございます。

福田氏の略歴でございますが、福田氏は、平成27年７月１日から人権擁護委員として現在も御活躍をしていただいております。津山人権擁護委員協議会専門部の男女共同参画部会の委員を務めておられ、特にＤＶ問題に焦点を当てて、青少年に対し、人権啓発活動に御尽力されており、ここに再任、推薦をさせていただくものでございます。

どうぞよろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

提案説明が終わりました。

質疑はございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

なしと認め、質疑を終結いたします。

次に、諮問第２号の委員会付託及び討論省略についてお諮りをいたします。

人事案件は即決といたしておりますので、会議規則第37条第３項の規定に基づき、委員会付託及び討論を省略し、直ちに本会議において採決することにいたしたいと思いますが、これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

異議なしと認めます。よって、諮問第２号は委員会付託及び討論を省略し、直ちに本会議において採決することに決定いたしました。

それでは、これより採決を行います。

諮問第２号「人権擁護委員候補者の推薦について」、本件に賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（鈴木　悦子君）

全員賛成。諮問第２号は同意することに決定をいたしました。

続きまして、諮問第３号「人権擁護委員候補者の推薦について」、市長より提案説明を求めます。

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

ただいま御上程になりました諮問第３号につきましては、平成30年６月30日に任期満了となります作東地域人権擁護委員につきまして、名部奈保子氏を人権擁護委員の候補者として、再任、推薦したく、議会の意見を求めるものでございます。

名部氏は、平成27年７月１日から人権擁護委員として現在も御活躍をいただいております。岡山県人権擁護委員連合会の代議員を務めておられ、高齢者や障がい者の方々の人権啓発活動に御尽力され、ここに再任、推薦をさせていただくものでございます。

どうぞよろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

提案説明が終わりました。

質疑はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

なしと認め、質疑を終結いたします。

次に、諮問第３号の委員会付託及び討論省略についてお諮りいたします。

人事案件は即決といたしておりますので、会議規則第37条第３項の規定に基づき、委員会付託及び討論を省略し、直ちに本会議において採決することにいたしたいと思いますが、これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

異議なしと認めます。よって、諮問第３号は委員会付託及び討論を省略し、直ちに本会議において採決することに決定いたしました。

それでは、これより採決を行います。

諮問第３号「人権擁護委員候補者の推薦について」、本件に賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（鈴木　悦子君）

全員賛成。よって、諮問第３号は同意することに決定をいたしました。

ここで10分間休憩いたします。

午前11時06分　休憩

午前11時16分　再開

議長（鈴木　悦子君）

休憩前に戻り会議を開きます。

続きまして、日程第９、報告第１号「専決処分の報告について（和解及び損害賠償額の決定）」、市長より提案説明を求めます。

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

ただいま御上程になりました報告第１号につきましては、地方自治法第180条第１項の規定によりまして、議会において指定されている事項について専決処分をいたしましたので、同条第２項の規定により報告を申し上げるものでございます。

内容については以下のとおりでございます。

〔以下朗読〕

以上、御報告をいたしますので、よろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

提案理由の説明が終わりました。

これより質疑に入ります。

ございませんか。

青山議員。

１番（青山　　慶君）

済みません、１番について質問です。

水路上を覆うように敷設した鉄板ということですが、これに対して今後再発防止をするかしないか、するのであれば、その再発防止の内容、しないのであれば、再発防止をしない理由を教えてください。

議長（鈴木　悦子君）

総務部長。

総務部長（岡本　和之君）

私のほうからお答えをさせていただきます。

事故後には当該鉄板を適正な位置に戻しまして、注意喚起のためのカラーコーンを設置しております。今後二度と浮き上がらないように舗装等で保護をしていきたいというふうに考えておりますので、よろしくお願いいたします。

議長（鈴木　悦子君）

ほかにございますか。

岩江議員。

１５番（岩江　正行君）

１の関係なんじゃけども、鉄板が上がったというのは今までも再々あるわけじゃ。そじゃけど、最近〔聴取不能〕との関係やこうでも、ボルト締めになっとんじゃけども、ボルトで皆締めとんじゃけども、固定して、Ｌ字型の鉄筋を入れて、そこのとこに上へぱんと置いたら、それボルトで締めるようになっとんじゃけど、そういうなん全部解消されとらんのんか、古いやつが、しとらんやつがこういうなはね上がるんか、その辺のとこをちょっと教えてください。

議長（鈴木　悦子君）

総務部長。

総務部長（岡本　和之君）

この案件の鉄板につきましては、非常に薄くなっておりまして、舗装との段差が幾分かあるというものでございます。ほかにもこういう箇所があろうかと思いますけども、危険な箇所があれば、順次修理をしていきたいというふうに思いますので、よろしくお願いいたします。

議長（鈴木　悦子君）

岩江議員。

１５番（岩江　正行君）

２度、３度、一遍したら大体、次にはちょっと気をつけて確認せにゃいけんな、直さにゃいけんなということになるんじゃけども、この鉄板が今までこれずっと損害賠償の関係でたびたび出てくるんよ、これな、鉄板がはね上がったということが。それを事故防止のために再度確認するということが私は大事じゃないか

と思いますんで、その辺のとこ、これからもちょっと確認をしていただきたいと思います。

終わります。

議長（鈴木　悦子君）

尾髙議員。

１４番（尾髙　誉久君）

２、３、４、要は真加部の1748番地１の屋根が飛んだということでございますので、わかりましたが、この住宅には入居者がなかったのかというのが１点と、それから住んでおられたとしたら、雨等はこれ後に降らなかったのかと、それでもってこの周りの人に被害を与えたことはあるんですけど、入居されておる方がなければ、隣に入居されとる等、家具等が雨でぬれるようなことはなかったのかだけをお聞きしたいと思います。

議長（鈴木　悦子君）

建設部長。

建設部長（真野　弘紀君）

まず、この案件ですけれど、10月22日から23日にかけての深夜ということで、台風21号による強風によりまして、住宅の波形のスレートぶき屋根の約10平米が吹き飛ばされました。室内が雨にぬれ、損傷をいたしたところです。影響のありました入居者は１名でございまして、要介護の独居老人であったため、同日夜から老人介護施設に一時避難をお願いしていただきました。屋根の復旧を終えた後、11月21日に帰宅をしていただいております。

以上でございます。

議長（鈴木　悦子君）

尾髙議員。

１４番（尾髙　誉久君）

それで、家具等が水でぬれて使えなくなって、賠償したというようなことはないんですね。

議長（鈴木　悦子君）

建設部長。

建設部長（真野　弘紀君）

１部屋だけでございました。あと市といたしまして、スレートぶきのところがありましたので、全部点検をして、一部強風によってくぎが浮いていたというようなところもありましたが、そこは既にビスどめで修復済みであります。

１４番（尾髙　誉久君）

わかりました。

議長（鈴木　悦子君）

ほかにございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようでございますので、質疑を終了いたします。

以上で報告第１号を終わります。

日程第10、議案第１号から議案第46号について、市長より提案説明を求めます。

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

それでは、ただいま御上程になりました議案の第１号から第46号についてそれぞれ説明申し上げたいと存じます。

まず、議案第１号「美作市音声告知放送基幹設備・戸別放送端末購入契約の締結について」、説明をいたします。

新たな音声告知放送システムを選定するため、一般公募型プロポーザル方式によって提案公募をいたしたところ、４つの事業者から参加の表明がございました。そして、提案内容と価格の両面から選定を行いました結果、広島市西区庚午中１丁目20番地22というところにございますシンクレイヤ株式会社広島営業所と、このたび告知放送の基幹設備一式と放送端末8,000台分の購入費用として、１億692万円で本契約を締結をするに当たりまして、美作市の議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第３条の規定により議会の議決を求めるものでございます。

次に、議案第２号「美作市こぶしの里設置及び管理に関する条例の廃止について」を御説明申し上げます。

美作市こぶしの里整備事業の休止に伴い、本条例を廃止するものでございます。

次に、議案第３号「美作市附属機関設置条例の一部を改正する条例について」でございますが、大原高校の跡地は、専門学校等の校舎ほか、特別養護老人ホームとして利用され、その目的を果たしたことから、大原高校跡地利用検討委員会を廃止することに伴い、関連条例から当該委員会及び委員の部分を削るように改正するものであります。

次に、議案第４号「美作市職員の分限に関する手続及び効果に関する条例の一部を改正する条例について」でございますが、地方公務員法では、「禁錮以上の刑に処せられ、その執行を終わるまで又はその執行を受ける事がなくなるまでの者」などの欠格条項に該当するに至った職員は、条例に特別の定めがある場合を除くほか、その職を失うものと規定されております。現在美作市におきましては、この特別の定めを設けておりませんが、公務の遂行が複雑化、高度化する中で、職員が誤って事故等に関与した場合などについては、さまざまな事情が存在すると考えられ、そのような状況で現行の条例では何の考慮もなく職員が失職することになるため、地方公務員法第28条第４項に規定をしている特別の定めを当市美作市においても規定する必要があるということから、本条例の一部改正を行おうとするものでございます。

次に、議案第５号「美作市職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例について」でございますが、地方公務員の育児休業等に関する法律、児童福祉法及び人事院規則の一部改正によりまして、養子縁組によって養親、雇い親ですね、になることを希望するものが養子縁組里親として決定されるほか、育児休業の取得、延長並びに育児短時間勤務の取得を認める特別な事情として、「保育園等の利用を希望し申し込みを行っているが定員などの理由によって当面できない」ことなどを加えるものでございます。

また、非常勤職員の子が２歳に達する日まで育児休業ができる場合などについても定めるものでございます。

次に、議案第６号「美作市職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について」でございますが、平成29年８月８日付で人事院において国家公務員に対する給与の改定に関する勧告がなされたことに伴いまして、美作市におきましても、国公準拠を基本としていることから、本条例の所要の改正を行うものでございます。

今回の改正は、人事院勧告に基づく給与改定として、平成29年４月にさかのぼり、給料表を平均0.2％引き上げるとともに、平成29年12月に一般職に対して支給する勤勉手当の支給率を0.1月分引き上げ、年間の

期末勤勉手当の総支給率を4.4月分とし、平成30年４月１日以降の支給率については、年間の総支給率4.4月分を維持し、６月を2.125月分、12月を2.275月分とするということでございます。

また、医師に対する初任給調整手当の限度額を月額500円引き上げる所要の改正も行いたいと思います。

次に、議案第７号「美作市特別職の職員の給料及び旅費に関する条例の一部を改正する条例について」でございますが、平成29年８月８日付で人事院において国家公務員に対する給与の改定に関する勧告がなされたことに伴い、特別職の期末手当の支給率を一般職の期末勤勉手当の総支給月数と同様に改正するため必要な事項を定めるものであります。

今回の改正は、平成29年人事院勧告に基づき、平成29年12月に支給する期末手当の支給率を0.1月分引き上げ、2.325月分とし、一般職と同様に年間の支給率を4.4月分とし、平成30年４月１日以降の支給率について、年間の総支給率4.4月分を維持し、６月を2.125月分、12月を2.275月分とするものでございます。

次に、議案第８号「美作市国民健康保険税条例及び美作市国民健康保険条例の一部を改正する条例について」でございますが、平成30年度からの新たな国民健康保険制度の施行に伴い、保険税率を改定をするほか、所要の改正を行うものでございます。

国民健康保険税条例の主な改正内容につきましては、基礎課税額、後期高齢者支援金等課税額及び介護納付金課税額において、所得割額及び資産割額、並びに被保険者均等割額及び世帯別平等割額を改定するもので、全ての課税区分において保険税率を引き下げるものであります。

国民健康保険条例につきましては、改正国民健康保険法の規定に基づき、文言の修正を行うものでございます。

次に、議案第９号「美作市手数料徴収条例の一部を改正する条例について」でございますが、地方公共団体の手数料の標準に関する政令に定められている手数料の標準額について見直しが行われ、その改正に伴い、美作市手数料徴収条例の一部の改正が必要となったものでございます。

手数料の標準額につきましては、原則として３年ごとに見直しが行われ、平成29年度は見直しの時期に該当をしてございます。人件費単価または物価水準の変動に伴い、現行の手数料の標準額との乖離が大きくなっている事務、及び事務の内容の変化に伴い、現行の手数料の標準額の見直しが必要となる事務に係る手数料の標準額についての改正が行われます。

これに伴いまして、製造所の設置許可、完成検査前検査、保安検査、及び液化石油ガス充填設備の変更許可の手数料を定めた美作市手数料徴収条例の一部を改正するものでございます。

次に、議案第10号「美作市介護保険条例の一部を改正する条例について」につきましては、平成30年度から平成32年度までの１期、３年間の第７期介護保険事業計画に伴い、65歳以上の第１号被保険者の所得段階別、介護保険料の改正を行います。

また、総務省行政評価局のあっせんに伴い、刑事施設に収容されている者に対する介護保険料の減免措置を実施すること、及び介護保険法の改正により、市町村の質問検査権について、第２号被保険者の配偶者、もしくは第２号被保険者の属する世帯の世帯主やその世帯に属する者などについて、その対象となるよう範囲が拡大されたことに伴い、所要の規定の改正を行おうとするものでございます。

また、平成30年度から平成32年度までの各年度において、法第124条の規定に基づき繰り入れる額のほか、介護保険の財政の状況、その他の事情を勘案した所要額を一般会計から特別会計へ繰り入れることができるよう所要の改正を行うものでございます。

次に、議案第11号「美作市指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営の基準等を定める条例の制定について」でございますが、介護保険法の改正により、指定居宅介護支援事業者の指定等は市町村が実施すること

とされました。それに伴い、指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営の基準等を定める条例を制定する必要が生じたものでございます。

次に、議案第12号「美作市特定疾患医療附帯療養交通費支給条例の一部を改正する条例について」でございますが、特定疾患として罹患した者に対し、医療附帯療養交通費の一部を助成することで、患者家族の方々の生活の安定と福祉の向上に寄与することを目的として、美作市特定疾患医療附帯療養交通費支給条例を施行してございますが、難病の患者に対する医療等に関する法律の施行に伴い、指定難病が年々拡大していることから、本条例において規定をしている指定難病対象者を関係する法律に基づくように改めるものでございます。

次に、議案第13号「美作市後期高齢者医療に関する条例の一部を改正する条例について」でございますが、平成30年４月１日より持続可能な医療保険制度を構築するための国民健康保険法等の一部を改正する法律が施行され、高齢者の医療の確保に関する法律第55条の２の規定が新設されたことに伴い、法第55条の２に関する住所地特例の規定を当該条例に追加するものでございます。

次に、議案第14号「美作市公共下水道条例等の一部を改正する条例について」でございますが、下水道関連施設の農業集落排水の２施設及び小規模の１施設について公共下水道への統合事業が完了いたしますので、該当施設について公共下水道条例等へ移管するため、改正を行う必要が生じたものでございます。

次に、議案第15号「美作市都市公園条例の一部を改正する条例について」でございますが、都市緑地法等の一部を改正する法律が公布をされ、都市公園法の一部改正が行われたことに伴い、本条例で引用している条文に条のずれが生じたために改正の必要が生じたものであります。

次に、議案第16号「美作市営住宅管理条例の一部を改正する条例について」でございますが、地域の自主性及び自立性を高めるための改革の推進を図るための関連法律の整備に関する法律により公営住宅法の一部が改正をされまして、認知症患者の方々などの公営住宅入居の収入申告義務が緩和されまして、また同法施行令及び施行規則もあわせて改正をされましたことに伴いまして、本条例で引用している条文に条のずれが生じたために行う改正でございます。

次に、議案第17号「市道路線の認定について」でございますが、公共性が高い道路を市道に認定をしたいので、道路法第８条第２項の規定により提案をするものでございまして、当該路線につきましては、市道認定基準に適合するもので、宗掛地内の１路線、北山地内の１路線、今回合計の２路線を考えてございます。

次に、議案第18号「市道路線の変更について」でございますが、公共性が高い道路を既存市道にかえて市道に認定をしたいということで、道路法第10条第２項の規定に基づく路線変更として、同法第10条第３項の規定において準用する同法第８条第２項の規定により提案をさせていただくものであります。

当該路線につきましては、市道認定基準に適合する栄町地内の１路線で、都市公園の整備に伴い新設した道路を既存市道の終点を延伸して認定するものでございます。

次に、議案第19号「美作市過疎地域自立促進市町村計画の変更について」でございますが、過疎地域自立促進特別措置法の規定に基づきまして、美作市の過疎地域自立促進市町村計画の変更を行うものでございます。

交通通信体系の整備・情報化及び地域間交流の促進、生活環境の整備の分野等において事業を進めるに当たり、過疎地域自立促進特別措置法に基づく事業として位置づけ、より効果的に効果的に事業を実施するために美作市過疎地域自立促進市町村計画への各事業の追加などの計画の変更が必要になっております。

主な追加・変更事業といたしましては、交通通信体系の整備・情報化及び地域間交流の促進分野では、市道３路線の改良舗装、橋梁13本の補修事業など、生活環境の整備分野では、勝田浄水処理施設更新事業など

を計画の中に入れようとするものでございます。

次に、議案第20号「美作市内の辺地に係る総合整備計画の策定について」であります。辺地に係る公共的施設の総合整備のための財政上の特別措置等に関する法律の規定に基づきまして、美作市の辺地総合整備計画の策定を行うものです。

主な内容といたしましては、梶並辺地におきまして、適切な地域医療を確保するため、梶並診療所に設置しているエックス線一般撮影装置、画像読み取り装置一式の更新整備を計画しております。

また、角南辺地におきまして、非常備消防による初期消火活動に欠かせない小型動力ポンプ付き積載車の更新整備を計画をいたしております。

次に、議案第21号「美作市高齢者福祉センター「やまゆり苑」の指定管理者の指定について」でございますが、現在社会福祉法人美作市社会福祉協議会において管理している美作市高齢者福祉センターやまゆり苑の施設につきましては、平成28年４月１日からの５年間の指定管理でしたが、業務上の都合により平成30年３月31日をもって社会福祉協議会から撤退の申し入れがございました。これを受けまして、本議案は当該施設の設置目的を効果的に達成するため、梶並地区活性化推進委員会を指定管理者として、平成30年４月１日から平成33年３月31日の３カ年間指定しようとするものであり、地方自治法第244条の２第６項の規定により、指定管理者を指定することについて、議会の議決を求めるものでございます。

次に、議案第22号「平成29年度美作市一般会計補正予算（第５号）」でございますが、歳入歳出それぞれ８億3,021万6,000円を減額し、総予算額を219億6,670万円とするもので、災害復旧費の繰越明許費の設定４件、債務負担行為の追加２件、変更１件、地方債の変更15件を行ってございます。

歳出における追加補正の主なものは、総務費では看護師等養成学校整備補助金1,600万円、土木費では国県道新設改良事業費負担金2,070万円、諸支出金では美作市公共施設整備基金積立金２億8,826万9,000円、また全体的にわたり人事院勧告に伴う勤勉手当の調整を実施させていただいております。

そのほかに、事業の確定や決算見込みなどによりまして財源更正や減額補正を行っており、減額の補正予算となってございます。

なお、今回の補正予算の財源につきましては、市税が１億1,940万円、そして財産収入が2,536万4,000円、諸収入が5,317万8,000円などとなってございます。

次に、議案第23号「平成29年度美作市国民健康保険特別会計補正予算（第１号）」でございますが、事業勘定の歳入歳出をそれぞれ6,001万9,000円増額し、総予算額を歳入歳出それぞれ42億1,253万4,000円とするものでございます。

主な内容につきましては、歳入につきましては、国庫支出金が3,175万8,000円、県支出金が621万9,000円、繰入金が2,418万9,000円の増額、医療給付費交付金が3,764万円の減額となっております。

歳出につきましては、保険給付費が4,226万8,000円の増額、後期高齢者支援金が111万6,000円、介護納付金が424万8,000円の減額、諸支出金が2,113万6,000円の増額であります。

諸支出金の内訳につきましては、過年度の医療給付費確定による返還金1,965万1,000円と、直営診療施設勘定繰出金148万5,000円になってございます。

また、作東診療所直診勘定につきましては、406万6,000円を減額し、予算総額を8,727万1,000円とするものであります。

歳入につきましては、診療収入678万円の減額、財産収入25万円の増額、前年度繰越金246万4,000円の増額となっております。

歳出につきましては、人件費13万2,000円の減額、医薬材料費480万円の減額、基金費25万円の増額、予備

費61万6,000円の増額となっております。

また、福山診療所直診勘定につきましては、434万4,000円を増額し、予算総額を1,621万7,000円とするものであります。

歳入につきましては、診療収入が17万円の減額、事業勘定繰入金で、へき地直営診療所運営交付金を148万5,000円の増額、前年度繰越金を302万9,000円の増額となっております。

歳出につきましては、歳入の額を予備費に追加いたしております。

次に、議案第24号「平成29年度美作市介護保険特別会計補正予算（第２号）」でございますが、保険事業勘定の歳入歳出それぞれを4,013万4,000円を増額し、介護保険特別会計予算総額を歳入歳出それぞれ44億6,200万7,000円とするものであります。

主な内容は、歳入につきましては、保険給付費に係る国県支払基金の負担金が968万1,000円の減額、繰入金が221万2,000円の減額、繰越金が5,134万円の増額補正となります。

歳出につきましては、介護サービスの利用に係る保険給付費が387万6,000円の減額、地域支援事業費が1,191万1,000円の減額、基金積立金が68万7,000円の増額、また平成28年度の介護給付費等の国・県精算返還金2,309万9,000円の増額となっております。

次に、議案第25号「平成29年度美作市簡易水道特別会計補正予算（第２号）」でございますが、これにつきましては、歳入歳出それぞれ778万7,000円を増額し、予算総額を５億344万6,000円とするものであります。

歳出の主な内容につきましては、人事院勧告に伴う人件費差額21万3,000円の増額、消費税確定申告に伴う210万円の減額、簡易水道財政調整基金積立金967万4,000円の増額となってございます。

歳入の主な内容は、一般会計繰入金268万2,000円の減額、消費税還付金957万円の増額となってございます。

次に、議案第26号「平成29年度美作市住宅新築資金等貸付事業特別会計補正予算（第１号）」でございますが、歳入歳出それぞれ547万4,000円を増額し、予算総額を1,469万6,000円とするものであります。

主な内容でございますが、歳入につきましては、基金利子16万6,000円の増額、前年度繰越金530万8,000円の増額となっております。

歳出では、基金利子相当分の積み立て16万6,000円の増額、一般会計への繰出金510万8,000円の増額、予備費20万円の増額となっております。

次に、議案第27号「平成29年度美作市公園墓地事業特別会計補正予算（第１号）」でございますが、歳入歳出それぞれ４万4,000円増額し、予算総額134万1,000円とするものであります。

主な内容は、歳入につきましては、基金利子12万4,000円、前年度繰越金78万7,000円の増額、繰入金86万7,000円の減額となっております。

歳出は、消耗品８万円の減額、基金積立金12万4,000円の増額でございます。

次に、議案第28号「平成29年度美作市都市と農村の交流施設特別会計補正予算（第１号）」でございますが、歳入歳出それぞれ2,000円を増額し、予算総額それぞれ837万円とするものでございます。

歳入の主なものは、ふれあいガレージ使用料53万7,000円の減額、ふれあいガレージ使用料の滞納に係る遅延損害金150万1,000円の増額、それに伴う英田河会地区都市と農村の交流施設整備基金からの繰入金65万4,000円の減額となっております。

歳出は、英田河会地区都市と農村の交流施設整備基金積立金2,000円の増額でございます。

次に、議案第29号「平成29年度美作市老人保健施設事業特別会計補正予算（第１号）」でございますが、

歳入歳出それぞれ120万4,000円を減額し、予算総額を２億8,691万3,000円とするものでありまして、歳入につきましては、介護保険収入702万円の減額、使用料310万9,000円の減額、前年度繰越金742万5,000円の増額、雑入150万円の増額となってございます。

歳出につきましては、職員人件費31万9,000円の増額、賃金207万円の減額、社会保険料30万円の減額、需用費64万円の増額、給食用賄い材料費30万円の減額、予備費50万7,000円の増額でございます。

次に、議案第30号「平成29年度矢田茂・原田政次郎・福田五男奨学基金特別会計補正予算（第１号）」でございますが、歳入歳出それぞれ29万円を増額し、予算総額を1,979万8,000円とするものであります。

歳入は、利子及び配当金と平成28年度決算確定による繰越金、合わせて29万円の増額でございまして、歳出は、貸付金144万円の減額、予備費173万円の増額でございます。

次に、議案第31号「平成29年度美作市後期高齢者医療特別会計補正予算（第１号）」でございますが、事業勘定の歳入歳出をそれぞれ572万6,000円増額し、予算総額を４億5,070万円とするものであります。

主な内容は、歳入につきましては、後期高齢者医療保険料1,695万6,000円の増額、繰入金1,169万9,000円の減額であります。

歳出につきましては、総務費488万3,000円の減額、後期高齢者医療広域連合納付金910万4,000円の増額、諸支出金98万3,000円の増額であります。

次に、議案第32号「平成29年度美作市水道事業会計補正予算（第２号）」でございますが、収益的収支予算の収入を250万円減額し、総額を６億3,716万円に、支出を286万5,000円減額し、総額を６億4,431万円とするものであります。

また、資本的収支予算の支出を1,330万円減額、総額を３億2,144万3,000円とするものであります。

収益的収支のうち収入は、受託工事収益250万円の減額であります。

支出は、受託工事費250万円の減額、人事院勧告に伴う人件費86万5,000円の増額、貸倒引当金繰入額450万円の増額であります。

資本的支出は、配水設備改良費1,330万円の減額であります。

次に、議案第33号「平成29年度美作市下水道事業会計補正予算（第２号）」であります。

事業収益において63万9,000円を、事業費用において82万8,000円をそれぞれ増額補正するもので、また資本的収支予算において5,967万9,000円をそれぞれ減額補正するものであります。

補正の主な内容は、事業費用予算においては、人件費を計上しております。

また、資本的支出におきましては、管渠工事等の確定に伴う減額補正でございます。

次に、議案第34号平成……。

議長（鈴木　悦子君）

市長、ここで１時まで休憩したいと思います。

市長（萩原　誠司君）

休憩ですか。

それじゃ、休憩後にまたやりましょう。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

ここで１時まで休憩いたします。

午前11時59分　休憩

午後１時00分　再開

議長（鈴木　悦子君）

休憩前に戻り会議を開きます。

それでは、議案第34号から説明をお願いします。

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

それでは、午前中に引き続きまして議案説明を行います。

まず、議案第34号「平成30年度美作市一般会計予算」でございます。

本件につきましては、歳入歳出の総額をそれぞれ193億3,000万円とするものでございますが、加えまして、債務負担行為の設定３件、地方債の発行、一時借入金の借入最高額などについても定めてございます。

平成30年度当初予算は、平成30年３月に市長選挙を控えていることから骨格予算とし、政策的なものについては原則補正予算で追加計上することとしており、前年度予算と比較しますと、21億1,600万円、率にしまして9.9％の減となっております。

また、以前の骨格予算と比較しますと、平成26年度対比では11億円の減、平成25年度の対比では18億円の減、平成21年度の対比では16億円の減となっております。

歳出の主なものは、みまさか創生事業8,190万7,000円、告知通信施設整備事業５億5,311万円、屋外拡声器整備事業１億5,670万円などとなっております。

なお、これら歳出予算の財源は、地方交付税96億円程度、市税29億6,260万円余、国県支出金26億1,400万円余、市債19億2,000万円余というような状況になっております。

次に、議案第35号「平成30年度美作市国民健康保険特別会計予算」でございますが、歳入歳出の総額をそれぞれ36億6,822万円とし、その内訳は、事業勘定が、35億4,973万3,000円、地域医療の役割に沿って診療業務を遂行するための直営診療施設勘定は、１億1,848万7,000円となっております。

次に、議案第36号「平成30年度美作市介護保険特別会計予算」についてでございますが、歳入歳出の総額はそれぞれ45億100万7,000円とし、前年比2.2％、額にして9,711万5,000円の増額であります。

保険事業勘定では、前年比9,980万1,000円増額の44億8,475万3,000円、介護サービス事業勘定では、前年比268万6,000円減額の1,625万4,000円となっております。

予算の主な内容でございますが、歳出につきましては、介護サービスの利用に係る保険給付費が、前年比9,002万9,000円増額の41億897万8,000円、介護予防事業に伴う地域支援事業費が、前年比5,200万6,000円増額の２億1,598万7,000円となっております。

歳入につきましては、保険給付費と介護予防事業に係る国県支払基金の負担金が、前年比3,927万円増額の29億3,546万5,000円、介護保険料が、前年比3,400万円減額の７億5,700万円となっております。

次に、議案第37号「平成30年度美作市簡易水道特別会計予算」についてでございます。

歳入歳出の総額をそれぞれ４億2,770万7,000円とするものであります。

予算の主な内容につきましては、簡易水道施設の維持管理など、総務管理費、これにつきまして１億1,716万7,000円、老朽管更新事業など、水道施設整備費6,630万円、公債費２億4,334万1,000円となっております。

次に、議案第38号「平成30年度美作市住宅新築資金等貸付事業特別会計予算」でございますが、歳入歳出の総額をそれぞれ952万7,000円とするもので、前年対比で30万5,000円の増額となっており、予算増額の要因としましては、歳入では、県補助金及び基金利子の増額が主なものとなります。歳出の主なものとしては、一般会計繰出金、償還元金、利子などとなっております。

次に、議案第39号「平成30年度美作市公園墓地事業特別会計予算」でございます。

歳入歳出の総額はそれぞれ138万3,000円とするもので、主な内容としましては、歳入が、基金繰入金117万6,000円、財産運用収入20万4,000円となっております。

歳出の主なものは、墓地管理委託料70万円、需用費43万2,000円となってございます。

次に、議案第40号「平成30年度美作市都市と農村の交流施設特別会計予算」であります。

歳入歳出の総額はそれぞれ519万8,000円とするものでございます。

主な内容は、歳入では、ガレージ使用料216万6,000円、ラジコンコース使用料19万8,000円、アゼリア館の雑入の軽食、販売収入185万4,000円であります。

歳出では、ガレージの管理費110万9,000円、アゼリア館の管理費407万5,000円であります。

次に、議案第41号「平成30年度美作市老人保健施設事業特別会計予算」でございます。

歳入歳出の総額をそれぞれ２億8,103万円とするもので、前年対比で708万7,000円の減額となっております。

主な内容につきましては、歳入では、入所者48名、通所リハビリ20名を見込んでおり、介護保険収入は１人当たりの介護報酬単価が減っているため、前年より256万1,000円の減額でございます。

歳出では、総務費、医業費を減額し、予算計上してございます。

次に、議案第42号「平成30年度矢田茂・原田政次郎・福田五男奨学基金特別会計予算」であります。

歳入歳出の総額はそれぞれ1,968万2,000円でございます。

大学、短大、専修学校（専門課程）に修学される方々を支援するため、平成30年度は新規６名と継続16名の計22名の方々に総額792万円を貸し付けたいと考えております。

次に、議案第43号「平成30年度美作市後期高齢者医療特別会計予算」であります。

歳入歳出の総額はそれぞれ４億6,354万8,000円であります。

主な内容は、歳入につきましては、後期高齢者医療保険料で２億6,360万1,000円、そして歳出は、後期高齢者医療広域連合納付金でございまして、４億3,302万円であります。

次に、議案第44号「平成30年度美作市水道事業会計予算」でございます。

収益的予算につきましては、収入である水道事業収益について、６億3,744万4,000円を、支出の水道事業費用では、６億4,311万8,000円をそれぞれ計上してございます。

主な内容は、水道料金収入及び水道施設の維持管理、減価償却費等となっております。

資本的予算は、収入の出資金等について408万9,000円を、支出の建設改良費等では２億9,752万3,000円をそれぞれ計上しておりまして、主な内容は、水道施設の制御盤及び配水管等の更新整備並びに起債の償還費用であります。

次に、議案第45号「平成30年度美作市病院事業会計予算」であります。

収益的収支につきましては、業務予定量を入院患者１日68人、内訳を申し上げますと、一般病棟が34人、療養病棟が34人、稼働率85％の想定であります。そして、年間２万4,820人日、外来患者１日、101人、年間２万9,492人と算定しており、予算の総額を収益、費用、それぞれ９億8,852万5,000円とするものであります。

資本的収支につきましては、収入額が1,794万7,000円、支出額は4,649万9,000円で、支出の内訳は、医療器械等購入が1,073万9,000円、起債償還につきまして3,576万円となっております。

次に、議案第46号「平成30年度美作市下水道事業会計予算」であります。

事業収益において26億4,633万1,000円を、事業費用におきましては27億1,757万3,000円を計上いたしてお

りまして、その主な内容につきましては、収益では、下水道使用料及び一般会計からの繰入金、費用では、施設の維持管理費及び減価償却費となっております。

また、資本的収支予算につきましては、収入において８億4,482万4,000円を、支出においては18億4,965万7,000円を計上してございます。

主な内容は、収入では、一般会計からの出資金及び企業債、支出では、下水道管の布設及び企業債の元金償還となっております。

以上、諸議案につきまして御説明を申し上げました。御審議のほどよろしくお願いをいたしまして、提案理由にいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

以上で本日の日程は全部終了いたしました。

本日はこれで散会いたします。

再開は、２月２日午前10時からです。

御苦労さまでございました。

午後１時12分　散会

平成３０年２月２日

（第　　２　　号）

1. 議　事　日　程（２日目）

（平成30年第１回美作市議会３月定例会）

平成30年２月２日
午 前 10 時 開議
於　　議　　場

日程第１　一般質問

2. 出席議員は次のとおりである（18名）

１番	青　山　　慶	２番	和　田　広　宣
３番	岩　﨑　清　治	４番	岡　野　鉄　舟
５番	中　山　忠　明	６番	倉　地　重　夫
７番	重　平　直　樹	８番	安　藤　　功
９番	金　谷　の り 子	10番	岡　本　泰　介
11番	山　本　雅　彦	12番	萬　代　師　一
13番	山　本　重　行	14番	尾　髙　誉　久
15番	岩　江　正　行	16番	日　笠　一　成
17番	内　海　健　次	18番	鈴　木　悦　子

3. 欠席議員は次のとおりである（なし）

4. 地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名（22名）

市　長	萩　原　誠　司	副 市 長	横　山　博　光
教 育 長	大　川　泰　栄	政策参与	山　下　　亨
政策審議監	福　原　　覚	総 務 部 長	岡　本　和　之
危機管理監	皆　木　佳　久	企画振興部長	池　田　義　和
総合戦略監	大　森　洋　平	市 民 部 長	角　南　良　雄
環 境 部 長	妹　尾　昌　弘	経 済 部 長	遠　藤　宏　一
保健福祉部長	江　見　　勉	建 設 部 長	真　野　弘　紀
教 育 次 長	山　名　浩　二	消　防　長	山　崎　正　雄
会計管理者	山　本　和　毅	管 財 課 長	岸　本　正　人
財 政 課 長	太　田　裕　二	営 業 課 長	坂　元　省　吾
総 務 課 長	春　名　竜　也	消防総務課長	藤　原　陽　二

5. 職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名（３名）

議会事務局長	尾　崎　功　三
課　　長	大　佛　裕　彦
主　　任	井　上　大　佑

午前10時00分　開議

議長（鈴木　悦子君）

おはようございます。

携帯電話の電源を切っていただきますようお願いいたします。

傍聴者の方は、傍聴規則第８条にもありますように傍聴席にあるときは静粛にしていただきますようお願いいたします。傍聴者の方が傍聴規則が守れない場合は議場より退席をしていただきます。

１月31日に引き続き会議を開きます。

全員の出席です。

定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

31日、議会終了後に予算審査特別委員会を開催し、委員長に岡野鉄舟議員、副委員長に青山慶議員を選任いたしましたので、御報告をいたします。

日程第１　　一般質問

議長（鈴木　悦子君）

日程第１、「一般質問」を行います。

一般質問につきましては、申し合わせにより質問席で行い、質問の方法は１質問項目ごとに３回まで、質問時間は45分とすることになっておりますので、御承知願います。

それでは、通告順に発言を許可いたします。

通告順番１番、議席番号16番日笠一成議員の発言を許可いたします。

日笠議員。

１６番（日笠　一成君）〔質問席〕

皆様方に改めましておはようございます。

議長に発言の許可をいただきましたので、これから一般質問をさせていただきます。

今回は、２項目を通知させていただいております。

１項目めは、旧県立江見商業高等学校跡地等を活用した特別な支援を必要とする子どもの支援と地域の活性化対策について、２項目めは議会の生中継放送及び再放送についてでございます。

それでは、１項目めから始めさせていただきます。当計画の推移はもうやりませんし、質問の趣旨から始めます。

学校法人日本体育大学の誘致（進出）計画の進捗状況と今後の取り組みのプロセスについてでございます。

当計画の推移は、多くの方が関心を持っておられると思います。平成30年度当初予算は、３月に市長選挙を控えているので義務的経費の計上が主で、政策経費は極力抑えた骨格予算編成になると思いますが、当事業は国、県、学校法人日本体育大学その他との連携で成立する事業です。計画どおりにぜひいけると漏れ聞きされておりますが、ここで事業費不足に起因する事業が停滞しては政策に支障が生じ、国等関係団体等にも迷惑をおかけする事態にならないかと危惧しますので、次の２項、事柄をお尋ねします。

事業の進捗状況、予算上の対応方針についての説明をお願いします。

議長（鈴木　悦子君）

政策審議監。

政策審議監（福原　　覚君）〔登壇〕

改めまして、皆さんおはようございます。

日笠議員からの特別支援学校整備に関する御質問でございます。

まず、計画の進捗状況でございますけれども、今年度立ち上げましたプロジェクトチームを中心に学校法人日本体育大学の事務担当者と協議を進めており、平成29年４月に北海道網走市に開校いたしました日本体育大学附属高等支援学校の教育理念や取り組みを参考としながら、学校法人日本体育大学と連携して教育カリキュラムや卒業後の就職など特別支援教育を必要とする方々のニーズを踏まえた学校運営を現在検討しているところでございます。今後は、学校法人日本体育大学と連携して新たに設立準備室を立ち上げ、文部科学省や岡山県との協議を加速させていきたいと考えているところでございます。

予算上の対応方針につきましては、現在検討している基本計画や教育プログラム、教育環境の整備に必要となる施設、設備、拠点機能などを取りまとめ予算計上をしてまいりたいと考えておりますので、その際には御審議のほどよろしくお願いいたします。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

日笠議員。

１６番（日笠　一成君）

この事業は、継続事業、義務的事業ではなく政策的事業でありますが、ただいまの補助機関である職員の説明で市長の行動の推測はできます。しかし、市長のお考えと代弁者の表現には一般論として何かしら違いが生じやすいと思いますので、みずからのお言葉での説明を求めます。しかし、市長としては、来る３月18日に投票即開票される選挙を控えておられるので、当然ながら確約には控えられると思います。再選された場合との前提を打っての構想をお聞かせください。

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

それでは、できる限りの範囲でお答えをさせていただきたいと思いますが、まず教育の内容や目標としてどんなことを構想してるかといいますと、１つは最近非常にその数あるいは率がふえている発達障がいに、何とか対応できるような支援学校というものを目指していきたいと考えているという１点であります。このことにつきましては、支援学校という、あるいはかつてで言うと養護学校ですけども、そういったものが日本の国の中で明治以降逐次発展をしてきました。かつては盲学校とか聾学校が中心だったわけですが、それに肢体不自由が加わり、それが義務化され、そして戦後、そうですね、昭和30年代において知的な分野についても、これは支援が必要な場合にはそれを義務的に都道府県がやるんだというような形で展開をし、今国としても発達障がいっていう新たな障がいに対してどう社会が対応すべきかということをやや積極的に考えている中で、この問題について先進的な取り組みを我々の地域でもすべきじゃないかという示唆も頂戴している。そのことが日本全体にとって大きな先行的な意味がある、そういうような気持ちで当たってほしいということも伺っておりまして、そういう役割を市として果たせることができれば大変にいいことであろうと、こういうふうに考えているというのが構想の一つであります。そして、その行き先につきましては、１つには就業可能な形で子どもたちが社会との関係を取り持つ能力を拡大をしていくこと、１つには専門学校や、場合によっては大学ということについても進学を可能にするような教育をして差し上げたい、これが教育面における大きなポイントであります。

もう一つは、今度はまちづくりということになりますけれども、御案内のとおり江見地区を中心として考えていらっしゃることは、こういう学校誘致というものを一つの起爆剤にして江見の中心市街地の活性化や、あるいは作東町全体、さらには美作市全体にいろんな意味でのいいインパクトを与えるということになろうかと思うんです。その第１点は、就労の場の確保、つまり支援学校とはいっても、これは子どもたちだけで教育ができるわけではございません、いろんな形で支援をする方、あるいはいろんな形で子どもたちにさまざまな学科や技能を教える役割を果たす教職員の方々、これが相当数、そうですね、四、五十名は間違いなく要ると思うんですけども、かなり大きな職業集団ができる、その職業集団に対して私たちの子弟や今外におる方々がここに来て定住をして、活気のある町の担い手になっていくということが当然期待をされているというふうに私は思っております。加えて、今人手不足という問題がございますけども、県内の状況を拝見する限りにおきましては、しっかり訓練をされていた方々、障がいがあろうがなかろうが非常に重要な働き手として工場やさまざまな事業所で働いていらっしゃる。そのことを考えますと、今後の私どもの企業誘致といったことについても、今誘致の一番のネックが働き手の確保になってることも考えますと、非常にいいインパクトが全市的に与えられていくということもあろうかと、こんなふうに考えているわけであります。

つまり、構想の１点目は、国も求め、社会も求めている発達障がいを含めた知的障がいの対応を、先進的に行っていくことによって貢献をしたい。２点目は、働く場所の確保であったり、あるいは働き手の確保というようなことの中で、この私たちのふるさと美作市に対してあるいは地域に対して活性化の起爆剤とすると、これが大きな２つの私どもの狙いだというふうにお答えをさせていただきたいと思います。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

日笠議員。

１６番（日笠　一成君）

この事業は、子どもと保護者の支援に必要であります。あわせて、地域の活性化のためにも有効な施策だと思いますので、ぜひとも早急に実現できる工夫をとっていただくことを期待して、この項の質問は終わります。

議長（鈴木　悦子君）

続けて、２項目めに入ってください。

１６番（日笠　一成君）

２項目めは、議会の生中継放送及び再放送についてでございます。

質問の要旨は、放送の形態についてでございます。生放送はともかく再放送を視聴する場合、深夜に及ぶので、何とか工夫はできないかとの問い合わせがありましたのでお尋ねをします。当事業は、株式会社みまちゃんネルとの契約であり、契約内容の変更は相手との交渉事であります。これまでには、議員全員の協議、合意等が必要です。議員の意向がまとまった場合は、契約の変更は可能でしょうか。仮定を含めての質問ですが、基本的なお考えをお知らせください。

議長（鈴木　悦子君）

企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）〔登壇〕

日笠議員の２項目めの御質問でございます。

議会生中継の再放送について、再放送を視聴する場合に深夜に及ぶので時間帯等につきましてみまちゃん

ネルとの契約変更は可能かという御質問でございますが、現在の再放送は休憩時間等のカットをするなどの編集作業を行った上で、当日の午後７時から行っております。編集作業を行う時間を確保する必要があるため、放送時間の繰り上げは時間的に厳しいものと思われますが、放送形態につきまして議員の皆様の御意向がまとまった場合にはみまちゃんネルと調整を行ってまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

日笠議員。

１６番（日笠　一成君）

２回目。

前述いたしましたように、生放送を視聴したくても昼間に所用がありできなかった場合、再放送を視聴する場合、深夜に及ばないような工夫、例えば分割放映等が必要と思います。いずれにせよ、議会議員の意向がまとまった場合は、みまちゃんネルと調整するとの前向きな答弁がありました。その場合は、対応いただくことを期待をして、この項目の質問は終わります。

以上で私の質問は終わります。ありがとうございました。

議長（鈴木　悦子君）

以上をもちまして通告順番１番、議席番号16番日笠一成議員の一般質問を終了します。

続きまして、通告順番２番、議席番号４番岡野鉄舟議員の発言を許可いたします。

岡野議員。

４番（岡野　鉄舟君）〔質問席〕

改めておはようございます。

議長の許可をいただきましたので、質問をさせていただきます。

私は、昨年の６月に行財政改革について質問をいたしました。そして、最終議会におきまして行財政改革において締めをいたしたいと思います。２つございます。

１つは、美作市公共施設等総合管理計画について、もう一つは項目は７項目ですが、財政について質問をさせていただきます。

まず、１点目の美作市公共施設等総合管理計画でございますが、御承知のように平成26年４月22日であったと思いますが、総務大臣通知によって公共施設等の総合的かつ計画的な管理の推進についてという通達が出されております。これによりますと、公開をして地域の方々との意見を聞くようにという趣旨のものがございますが、私が昨年６月に質問いたしたときには既に平成28年度において七百数十万円の成果物ができておりました。で、かれこれ１年がたとうとしておるわけでございますが、一向に公開をされておりません。私は、常々美作市のホームページにおいて、市民の方々が情報公開請求をされているものを見ているわけでございますが、その中にこの計画を発見することができました。それを２回ほど見ておるわけでございますが、７項目について質問をさせていただきます。

１番目、当管理計画の現在の進捗状況はどうか、２つ目、「公共施設」と、その「等」の内容、箇所数、面積は幾らか、そしてこの内容を公共施設と公共施設以外に区分した場合に更新の見込み期間は何年か、また更新費用は幾らか、４つ目はこの区分を整理、更新しようとした場合に見込まれる財源不足は幾らか、またこの財源不足をクリアしようとする場合にはどのような作業が必要かでございます。５番目、公共施設等の中には、上水道、下水道、簡易水道、大原病院の整備を含むかということでございます。そして、６つ目でございますが、これら上水道、下水道、簡易水道、大原病院について、公共施設等と同じ更新期間を設定

した場合に更新費用はどのくらいかということでございます。そして、最後の７番目に、この上水道、下水道、簡易水道、大原病院に係るそれぞれの管理計画作成時点の減価償却の累計額は幾らかということでございます。また、それぞれについて、直近３カ年平均で１年当たり一般会計からの繰り出しは幾らかでございます。

以上、御答弁をお願いいたします。

議長（鈴木　悦子君）

総務部長。

総務部長（岡本　和之君）〔登壇〕

失礼いたします。

岡野議員の美作市公共施設等総合管理計画の進捗状況はということで御質問でございます。

現在、この管理計画の基礎資料となります固定資産台帳に、平成28年度中の変更等を反映させるため業者に委託し、修正作業を行っているというところでございます。また、それぞれの建物の状態、そして利用状況等を把握する必要がございますので、各施設の管理をいたしております部署にそれらの調査を依頼しているところでありまして、今後その結果を踏まえ、個々の施設ごとに維持修繕、長寿命化、更新化など何が一番適切であるかを検討してまいりたいというふうに考えております。

次に、「公共施設」と「等」――などですね――の内容の箇所数、面積という御質問でございますが、公共施設には学校教育施設、保健福祉施設、そして市営住宅、スポーツ施設等の建築物と、これに附属した設備等が含まれておりまして、この総合管理計画では策定時の数値を337施設、面積にいたしまして28万2,936平方メートルといたしております。また、「等」、などでございますが、これには道路、橋梁、上下水道の管路等社会基盤施設が含まれておりまして、区分ごとの数量は市道が97万1,930メートル、橋梁が813橋、農道が25万323メートル、林道が13万4,226メートル、トンネルが１カ所、その他駐車場、それから防火水槽等が651カ所というふうになっております。

次に、公共施設と、その公共施設以外に区分した場合の更新の見込み期間、そして更新費用という御質問でございますけども、建築物を初め公共施設等の耐用年数は非常に長期にわたることから、このたびの計画では平成29年度から平成78年度までの50年間の計画といたしております。そして、その更新期間につきましては、公共施設につきましては、財務省令「減価償却資産の耐用年数に関する省令」の耐用年数表を基準といたしまして、計画期間中にその期限が到来する施設について試算をいたしております。また、公共施設以外のインフラ等につきましては50年を耐用年数と設定し、試算をいたしました。そして、更新、すなわち新しく同じ施設を整備した場合の費用でございますけども、公共施設につきましては50年間で約707億円、公共施設以外については829億円と見込んでおります。なお、この金額には、特にインフラ等につきましてはこれまでも更新や修繕工事を行っておりますので、現在の事業費に加えこれらの費用全額が新たに必要になるというものではございません。

次に、公共施設等を更新する場合の財源不足、という御質問でございますが、本計画では今後50年間に必要となる更新費用を、先ほど申し上げました707億円、829億円、合わせて1,536億円と想定をしております。このうち普通建設事業の年平均額――毎年行っている金額でございますが――これと更新の必要のない廃校等の更新費用を除きますと、計画期間中に必要となる更新費用は326億円、これを50年間で割りますと単年当たり６億5,000万円というふうになってございます。しかしながら、この計画では施設の更新に活用できる補助金、あるいは交付税算入が期待できる起債等の充当を考慮されていないことから、実際に施設を更新する場合にはこれらをフルに活用することで必要となる市費を軽減でき、加えて施設の統廃合や長寿命

化、これに取り組むことでさらにその費用は圧縮できるものと考えております。

また、公共施設等には上下水道、簡易水道、大原病院の整備は含んでいるのかとの御質問でございますが、これら公営企業会計の適用を受ける施設につきましては、別途事業中期計画を作成することとなりますので、本計画には含めていないというものでございます。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

環境部長。

環境部長（妹尾　昌弘君）〔登壇〕

それでは、改めましておはようございます。

岡野議員御質問の美作市公共施設等総合管理計画についての６番、７番について、環境部のものについてお答えをさせていただきます。

最初に６番目の上水道、下水道、簡易水道について公共施設等の整備と同じ更新期間を設定した場合、更新費用はどれくらいになると考えられるのかということにつきましては、管理計画の中に上水道は約101億円、下水道は約748億円、簡易水道は約96億円と取得価格が記載されておりますが、上水道と簡易水道は平成27年２月に平成30年度までについての中期計画を策定し、老朽化している配水管等は順次更新していき、東粟倉地域に４つある簡易水道の統合を行うとしております。老朽化の更新には年間約２億円程度の予算で更新しており、平成28年度には東粟倉地域の簡易水道の統合も完了をいたしました。今後は、現在の中期計画が終了する平成30年度中には、後年必ず発生する更新費用や維持管理費等を抑制するために施設の統合や長寿命化を含め水道事業長期計画など策定し、事業を進めていきたいと考えており、総合管理計画書で示している50年間の更新というような事態は想定をしておりません。

次に、下水道は、平成27年８月に中期経営計画を改正し、後年発生する施設の更新費用の削減や維持管理費の軽減等を図り、経営の健全化を行うため現在27ある処理場の統合を行い12施設などに集約するとともに、施設の延命化を図るため補助事業を取り入れながら長寿命化を進めているところでございます。昨年に２つの処理場を統合し、本年度も１つの処理場の統合を行っているところでございます。施設の長寿命化についても、平成26年度から行った美作処理場の長寿命化も平成28年度には完了し、本年度から新たに２年をかけて長寿命化であり、不明水対策にも効果のある管更生の事業にも取り組んでおります。これらの事業を計画どおり実施した場合、約43億円程度の費用を見込んでおりますが、上水道、簡易水道と同じく総合管理計画書で示している50年間の更新というような事態は想定をしておりません。

また、起債元利償還額も平成21年度の23億4,000万円をピークに年々減少し、平成36年度には17億6,000万円程度になると試算をしております。

また、７番の上水道、下水道、簡易水道に係るそれぞれの減価償却累計額は幾らか、またそれぞれについて直近３カ年平均で１年当たりの一般会計からの繰出金は幾らかということについては、それぞれ合計減価償却累計額は平成28年度決算で上水道63億1,398万7,974円、下水道287億2,995万5,121円となり、簡易水道はまだ特別会計であるため減価償却累計額の計上はしておりません。直近３カ年（平成26年から28年）平均で、１年当たりの一般会計からの繰出金は、上水道が1,060万円、下水道23億5,960万円、簡易水道２億3,370万円となっております。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）〔登壇〕

失礼します。

それでは、大原病院について説明をさせていただきます。

更新の費用ということですが、公共施設等管理計画に記載のとおり、大原病院の建物の取得価格は平成16年度（2004年度）建築で約22億円でありました。建築費用の財源としましては、国県補助金、病院事業債、過疎対策事業債を約19億5,900万円充当しております。

今後の更新費用につきましても、同様に国県補助金、病院事業債、過疎対策事業債等を充当することとなります。耐用年数経過後の2043年度においては、起債充当率等国の財政支援も変動が見込まれるため、現在では実情に沿った費用の更新費用の算定というのは難しいのではないかなあというふうに考えております。

次に、減価償却累計額（管理計画策定時点）の償却額の累計でありますが、管理計画にあります建物につきましては、平成28年度美作市病院事業会計決算では６億1,418万3,405円となっております。先ほども申し上げましたとおり、建物の耐用年数が39年ですので、39年後の2043年には減価償却累計額は約20億円になります。この償却費は過年度分損益勘定留保資金として大規模修繕等の費用としても充当可能であり、一般会計が負担する繰入金等のマイナス要因になるものというふうに考えております。

それから次に、最近直近３カ年の平均の一般会計からの病院事業への繰出金でございますが、２億5,510万円ということになっております。

以上です。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡野議員。

４番（岡野　鉄舟君）

２回目の質問をさせていただきます。

今、冒頭私がお話ししましたように、この成果物は平成28年度にできているわけでございますが、第１点目の質問は何冊つくられて、これをどのように活用されたかというのが１つ目です。そして、２つ目ですが、昨年の私の６月の議会の一般質問において、部長は答弁されておりますのが、525施設で29万1,000平方メートルの答弁があったがということでございますが、今回の御答弁されたこととこれほど施設について大きな差があるのはなぜかということでございます。そして、次に更新費用、それから区分等につきましての質問でございますが、御承知のようにこの31ページに財源不足額が出ております。この試算は、当然市民の安全・安心が最優先でございますが、インフラの更新額829億円は全額充当との考えでよいかということが第１点です。そして、この前提に立ったときに、不足額は先ほど326億円と言われましたが、公共施設と、それからインフラの更新、トータル費用1,536億円に占める割合は46％となります。この数値からどのようなことをお考えになるかということが２つ目でございます。

続きまして、上水道、簡易水道、下水道、50年の更新は想定していないということをおっしゃられました。私は素人でございますから、どうしてできないのかなということはありますが、これをわかるように御説明いただきたいと思います。

それから、江見部長にお尋ねしますが、大原病院については実情に合った更新費用の算定は難しいということでございますが、この管理計画の21ページを見ますと更新費用は24億円と試算されますとありますが、これは一体何を指すのかということでございます。

そして、次に繰出金の絡みで質問させていただきますが、上水、下水、簡水、大原病院につきまして先ほど御答弁されました繰出金の中で、基準額の基準外の金額は幾らかというのが２回目の質問でございます。

議長（鈴木　悦子君）

総務部長。

総務部長（岡本　和之君）〔登壇〕

それでは、岡野議員の２回目の質問にお答えをさせていただきます。

まず、この計画の印刷を何冊したかという御質問でございますけども、印刷はいたしておりません。データとして保管をさせていただいております。そして、どのように活用しているかということでございますけども、こちらにつきましては今回出た結果をもとに、各部署において改めてそれと、出た結果と部署ごとの計算というのを比較をしていけるものというふうに思っております。

それから、525施設がなぜ300幾つになったかという御質問でございます。実を言いますと、この６月でお答えをした時点から、先ほど申しました基礎資料となります固定資産台帳について再度検討をいたしました。そうした中で、これは公共施設として取り扱うことが適当でないと思われるような各地域での集会所であるとか、それから細かいものであれば消防器具庫というようなものがございました。そういうなものを外しますと、先ほど申しました337施設、面積にして28万2,936平米となったものでございます。

それから、先ほどの46％とかなり大きな部分を占めるということを御指摘をいただいとるわけでございますけども、先ほども申しましたようにいかにその46％を、どうしてもインフラ部分というものについては削減するということがなかなかできにくいのでございます。すなわち、施設の中でも公共施設といわれる建物等の統廃合ということは必然的にやっていかなければいけないというふうに思っておりますし、先ほど申しましたように多方面からの資金を充当しての更新ということに心がけたいというふうに思っております。よろしくお願いいたします。

〔４番岡野鉄舟君「答弁漏れがありますよ。インフラは、全部換算しての財源不足かという質問をいたしましたが」と呼ぶ〕

済いません、私どもの情報として知り得とる部分について、全て含ませていただいております。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

当市の現行の公共施設等総合管理計画についての全体的な理解について若干補足をさせていただきたいと思ってるんですが。本件は、民間の企業に委託をして総務部がつくったわけです。そして、国に対する提出期限っていうのが、たしか昨年の３月の末というようなことであったんですが、前日になってこちらにようやく持ち込まれまして、出すには出したんですけれども精査が必要な部分が結構たくさん残ってるなあと、こういうような問題として私どもとしても今後次の段階で精査をした形で、より具体的に活用可能な公共施設等総合管理計画の具体版をつくっていかにゃいかんと、こう思ってます。で、どういうことかと言いますと、先ほど総務部長からの答弁にもございましたように、例えば対象施設数が大幅に違ってるんですが、どっちが正しいかっていうことについては今総務部長がお答えしたほうが現行の制度の中では正しいというなことになっております。したがいまして、さまざまな数字等につきましても、より具体的な精査をする必要がありまして、あの現行の公共施設等総合管理計画をそのままこう当てはめて議論を精密に行うというには、ちょっとまだ熟度が足りないという性質のもんであるってことを全般論として補足をさせていただいときますんで、御理解賜りますようにお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

環境部長。

環境部長（妹尾　昌弘君）〔登壇〕

それでは、岡野議員２回目の御質問の上下水道に関しまして総合計画の中で示している50年間の更新というようなことがなぜできないのかという御質問でございますが、総合管理計画書の中にも記載されておりますが、資産更新の考え方として資産更新必要額を全部今の地方公共団体の財政状況の中で捻出するのは不可能であり、人口減少の中でそのような計画を立てること自体に問題があると記載されております。資産更新の一手段として適正な維持管理を行って、資産について計画される耐用年数を超えて使い続けるようにしなければならないと記載されております。特に、上下水道施設は生活に密着したライフラインであり、その施設を常に稼働させながら全ての施設を新しく更新していくことは上下水道施設の性質上現実的に難しく、修繕等を随時行いながら可能な施設は更新していき、日々の生活に支障を来さないよう適切に管理をしていく必要があると考えております。そのことから、全ての施設の更新を考えず、それぞれ中期、長期の管理計画を策定し、その計画をもとに事業を進めていくこととしております。

また、一般会計からの繰出金のうち基準外の金額の３カ年平均でございますけども、上水道は1,060万円のうち920万円、下水道、23億5,960万円のうち６億8,250万円、簡易水道、２億3,370万円のうち4,800万円が基準外の繰出金となっております。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）〔登壇〕

失礼します。

議員御質問の公共施設等総合管理計画の21ページにあります更新の費用24億円は何の数字かということでございますが、この管理計画につきましては、先ほどの総務部長の答弁にもありましたが、充当可能な補助金とか一般交付税措置のあります起債等が考慮されておりませんので、この24億円につきましても取得価格がもとについての金額でございます。病院が耐用年数39年、医師住宅が24年でありますので、病院本体が更新１回、医師住宅が２回ということを基礎に取得価格から算定した額が24億円ということになっております。よろしくお願いします。

議長（鈴木　悦子君）

繰出金。

〔４番岡野鉄舟君「あっ、議長、繰出金」と呼ぶ〕

保健福祉部長（江見　　勉君）

繰出金につきましては、病院の場合は全て基準内の繰り入れということになっております。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡野議員、３回目。

４番（岡野　鉄舟君）

３回目の質問させていただきます。

まず、総務部長にお尋ねしますが、各部署に依頼しており、その結果を踏まえ、何が適当であるかを検討してまいりたいということでございますが、先ほど数値で申し上げましたように約半分の床面積、あるいは施設を減らす必要が計算上は出てくるんですが、具体的に今後どうされるかということでございます。

そして、今度は繰出金の関係で質問させていただきますが、私が昨年６月に行財政改革のときに事務事業台帳を作成してやっており、今後もそうだということなんですが、この繰出金がやはり下水道、それからそのほかの上水なんかも含めましても膨大な額ですが、これをこれまでどのように事務事業台帳に基づき削減の行財政改革的な努力をされてきたのかということをお尋ねいたします。

そして、最後に市長に対してお尋ねいたしますが、市長も見ていらっしゃると思いますが、この２ページのところに今回の計画の目的は市民全体の情報共有であると、このためには財源不足があって、市民の皆さんに情報開示するためにはシンポジウムを開いたりとか、そういうことを完成品ではなくてもやはり了解を得るためには必要であったと思うんですが、これをなぜこの１年間の間にされていなかったということを最後に市長にお尋ねいたします。

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

一言でお答えするとすれば、その総合管理計画につきましては提出をしなきゃいけないと、こういう期日直前に出てきていろんなことが書いてあるんですが、その点検をしてみますとさまざまにこれは精査をして、かたい話として出す必要がある部分が見えてきたものですから、これをつまり実態をあらわしていないものを、不正確なものをベースに議論するのは不適切であろうと、こういう判断のもとにもう少し具体的に、先ほど言いましたように床面積にしても随分違うもんですから、これを明確にした上で市民の方々と共有をしなければ誤解の上に話が進んでいくのは不得策であると、こういうような判断であります。

それからもう一つは、そこの会社の方々の財源不足についての御理解っていうのが余り正しくないという議論もあります。先ほどの病院についてもそうなんですけども、２億円ばかし過大に出ていて、病院については既に償却費をずっと積んどりまして、先ほど申し上げましたように22億円相当の償却の積み立てが39年後にはもう完全にできていて、これ実は財源的に言うと過疎債なんかを使えば余ってくるんですね、そういうことの計算が一切できてないということで、やや私どもから申し上げますと素人っぽい計算になっとるもんですから、ちょっとこれはもう少し勉強してもらった上での議論にしないかんというようなことがある。そういったことの中で、より具体化された計画の中で、具体化されますとどこの施設がこれは今後外していくんだというまさに市民生活に直結した部分が出てくるやもしれませんので、その辺について市民との共有が必要だろうということになった場合にきちっと話をしようと思っています。

一方で、これはもう御案内かと思いますけれども、例えば具体の問題として橋梁でございますとか、あるいは道路の維持管理、こういう問題につきましては当然のこととして行政懇談会などで常に市民の方々と情報交換をしてまいっとりますし、あるいは市民の方々からの情報提供でございますとか、市民の方々からの行政上の行動を要請する言葉などがいっぱい来てますんで、そういう中で具体的には理解が進んでいくということになってございます。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

総務部長。

総務部長（岡本　和之君）〔登壇〕

岡野議員の３回目の御質問でございますが、今後具体的にどのような取り組みをするかということだと思います。先ほど市長の答弁にもございましたように、施設ごとの市が所有しております建物の面積というのが、人口１人当たりに割りまして非常に美作市は高うございます、10.11平米というふうになっております。県内平均では7.49平米ということでございますので、比較的かなり多いということでございます。このようなことも踏まえまして、統廃合ということはいずれにしても地域で利用されてる方の御理解を得ながら今後進めてまいりたいというふうに考えておりますし、また試算をいたしております総務省の試算ソフトでございますけども、ちょっと確認をいたしましたところ道路の舗装等につきましては平米当たり一定の単価

で計算するようにされております。実際には各道幅等もございますけども、舗装構成等によってもかなり単価が変わってくるかと思います。そのあたりがございますので、もう少し精査した形での試算というのをもう一度する必要があるのだろうというふうに思っておりますので、よろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

環境部長。

環境部長（妹尾　昌弘君）〔登壇〕

それでは、岡野議員３回目の御質問でございますが、上下水道に関しましての一般会計からの繰出金の削減についての対策でございますけども、先ほどの答弁でも御説明をいたしましたが、水道事業に関しましては上水道と簡易水道の統合や、更新費用、維持管理費等の抑制を図るとともに、安全な水道水を安定的、効率的に供給するため核となる施設などを定めて、施設の統廃合や取水源、取水方法、耐震対策などを含めて長期的な計画を策定して事業を今後進めていきたいとしております。

下水道に関しましては、中期経営計画に基づきまして現在既に施設の統廃合や長寿命化事業を進めているところであり、今の計画どおり処理場が半分以下になれば更新費用も大きく大幅に削減できるものと思っております。どちらの計画も状況に合わせながら、可能な補助事業を取り入れながら、必要に応じて随時見直しをしていき、持続可能で適正な管理に努めてまいりますので、御理解のほうよろしくお願いをいたします。

済いません。つけ加えまして、動力費等の電力費につきましても、今回上下水ともに電力会社に依頼して検討した結果、多少なりとも削減できるということで、今後３月、４月ぐらいに電力についても入札を行い、経費の削減に努めてまいりたいと考えております。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡野議員、総括です。

４番（岡野　鉄舟君）

総括をさせていただきます。

私はこの計画をまず最優先すべきだと思いますが、その理由は２つあると思います。財源不足の割合が46％と、こういった非常に高いわけでございますが、財政の第４版を出されておりますが、そこの27ページに普通建設事業費が書かれております。30年から34年のこの間の普通建設事業費をもとに、この計画でやっておられる分をこういろいろとやってみますと、更新の財源不足額が私なりに計算をしますと525億円足らないと、つまり財源不足で同じような計算式に当てはめますと74.2％になるという、だからここの財政試算については鉛筆を倒して計算されてはいないと思います。起債もそれから補助金もいろいろとされてると思うんですが、刻々と変わってくるということの中で箱物が減らせるかという、ここが非常に大事なものだと思います。財政調整基金から70億円あっても、100億円あっても、200億円あっても足らないと思います。こういった問題が１点あるということと、もう一つは後ほど財政のところで質問をるる説明させていただきますが、事務局を通じて財政課のほうにお願いして合併から28年までの特定財源率を出してみますと、約86.7％という率になるわけです。つまり、起債とか国庫補助金をそれだけ平均的に見て必要だなというわけなんですが、今後10年、その後について本市の財政状況を考えたときに起債ができるかという、この私なりに考えれば２つが地元同意をとるということの中で非常に大問題であるというふうに認識をしております。

以上でございます。

議長（鈴木　悦子君）

これより10分間休憩しますので、２項目めはその後にしてください。

午前10時58分　休憩

午前11時08分　再開

議長（鈴木　悦子君）

休憩前に戻り会議を開きます。

岡野議員、２項目めから始めてください。

岡野議員。

４番（岡野　鉄舟君）〔質問席〕

２項目めでございますが、本市の財政力指数についてお尋ねいたしますが、この指数はどのように計算され、またどのような意味を持つのか、２つ目は平成28年度の数値、それから３番目は27市町村に占める位置と県平均をお聞かせいただきたいと思います。

議長（鈴木　悦子君）

総務部長。

総務部長（岡本　和之君）〔登壇〕

失礼いたします。

財政力指数ということで御質問でございます。

地方公共団体の財政力を示す指数でございまして、基準財政収入額を基準財政需要額で除して得た数値の過去３年の平均値をもってあらわしております。財政力指数は外部への財源の依存度、つまり市税以外の財源をどれだけ活用しているかということをあらわしておりまして、年によって大きく変動するという指標ではございません。

また、美作市の平成28年度の財政力指数でございますが、0.26という数値でございまして、合併直後の平成17年度も0.26でございまして、ほぼ同様の数値ということになってございます。

また、岡山県の中に占める位置でございますけども、岡山県全体の平均は0.54、市の平均につきましては0.66となっております。これは、新見市が0.25、真庭市が0.31、高梁市が0.32でございますので、中山間地域では平均的な値であるものと考えております。よろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡野議員。

４番（岡野　鉄舟君）

２回目の質問です。

１番目は、基準財政需要額といったものはどういうものか、基準財政収入額といったものはどういうものか、わかりやすく御説明をいただきたいと思います。

そして、２つ目でございますが、大きく変動しないという御説明を言われましたが、これ大きく変動すると大変ですよ、この財政力指数が。しかしですね、部長、平成25年度からこう見てまいりますと、悪くなる率が0.01ずつぐらいかこうふえていってるんですね、ここに注目する必要があります。

そこで、質問でございますが、この計算式の中で数値が小さくなっている、つまりその体力が弱くなっているんですが、これはどうしてだと思いますか、２つお尋ねいたします。

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

どうも財政力指数についての御理解がよくおできになってないんで、お話をさせていただこうと思ってるんですけれども。まず、基準財政需要額っていうものにつきましては、実は微妙ですけれどもこれを動かすことができます。例えば、私ども議会の御提案を受けて、市道の認定を加速化をさせていただきました。そして、市道の認定を拡大をいたしますと、基準財政需要額がふえます、ですね、市道が長いんですから。そういたしますと、交付税の額がふえるんですけども、こういう努力をいたしますと、実は財政力指数が微妙に低下します。収入が同じと、一方で必要な需要額、仕事の量がふえて交付税がふえるんですから。実は、基準財政需要がふえて、基準財政収入が同じだとすると、財政力指数が低下をしている。このことは、どういう意味を持つかというと、市の一般財源がふえて、市民生活を向上させるための手元資金が増加をするということなんです。ですから、これは典型的に議員のおっしゃってることっていうのは、逆さまに物事を捉えていらっしゃる可能性がある。これは、ぜひ一度よくお勉強されてから、再度御質問されるべきだと私は思います。したがいまして、私どもとしては、基準財政需要額をふやすための道路の努力とか、あるいは都市公園の努力をして、その結果として微妙に下がっていくことについては、あっ、やっぱりそうだな、よかったなあと、こういうふうに一般的には思うべき話だと、こういう理解をまずしたほうが、こういう町において突然税収がどんとふえることはありません。この財政力指数につきましては、全国ずっと見てますと、当然でございますけども臨海工業地帯を抱えているとかあるいは大消費地を抱えているとか、そういう平野部についてはこれは高いんですけども、中山間地域においてこれが高いところはまずめったにありません。それは、私たち行政報告でも言いましたけども、持って生まれた特性がありまして、これを変えることはできませんが、しかし微妙に外部からの資金導入努力をすることによって、それでもしっかりとした市民生活を確保する努力が必要なんです。これが低いということは何を意味するかというと、外部の資金をあらゆる手段を活用して自分たちの町に呼び込む努力をする必要性が高いっていうことを意味しておると、そのことは議員もそろそろお気づきになられたほうがよろしいかと思います。そして、基準財政需要を含めて努力をしないとどうなるかというと、だんだんじり貧になっていく。この財政力指数が低いからといって外部との関係を取り持つことを放棄すると、どんどんこれは体力が衰えていく。そういうふうに御理解をされることを、この場をかりてお勧めをさせていただきます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡野議員。

４番（岡野　鉄舟君）

３回目ですか。

議長（鈴木　悦子君）

はい。

４番（岡野　鉄舟君）

思わぬ、部長が答弁されるんかなあと思ったら市長が答弁されて、私も光栄なんですが。私も財政は少し知っておりますから、基準財政需要額が何で、収入額が何かということは知っております。私がなぜこの財政の項目をこんなに小刻みに出したかと言いますと、傍聴をされてる方、テレビを見ていらっしゃる方に美作市の財政状況がどうかということをおわかりいただくためにあえて知った上で質問をしているわけでございまして、私は市長ほど国も経験をしておりませんから知識は雑駁でありますが、わかった上の質問でございます。わかりやすく言えば、美作市の要するに体力はよくないということですよ。ちょうど私の家に猫が２匹おります。子猫がナターシャという名前なんですが、私が２階に上がるときは、たったったったっと先に上がるんですよ。私もできるだけ両足で上がるようにするんですが、ところがおりるときは私も両足でお

りれないんですね。手すりを持ちながら、片足をちょっと下げながらというように、だんだん私も高齢化の域に入っておりますので弱くなっているという状況なんですが。何が言いたいかといいますと、市長は先ほど御自分の説を述べられましたが、財政、要するに体力が下がっているということですよ。基準財政需要額から収入額を引けば、それは交付税が出るっていうのはちゃんと算式であるわけです。まあ本問題は非常に、この問題にずっと費やすわけにはいきませんが、今総務部長が指数をこうやってテレビを通じて言われたことによって私の質問の目的は達しておりますので、次に行かさせていただきたいと思います。

議長（鈴木　悦子君）

じゃあ、次に３項目めに行ってください。

４番（岡野　鉄舟君）

同じ質問でございますが、経常収支比率について計算式とその意味、それから平成28年度の数値、27市町村に占める位置と県平均、市長にお答えいただいても結構でございますが、とりあえず御答弁をお願いいたします。

議長（鈴木　悦子君）

総務部長。

総務部長（岡本　和之君）〔登壇〕

引き続き岡野議員の財政に関する指標の関係で、経常収支比率についての御質問でございます。

経常収支比率は、人件費、扶助費、公債費のように毎年度経常的に支出される経費に充当された一般財源の額を地方税、普通交付税を中心とする毎年度経常的に収入される一般財源で除して計算いたします。経常経費のほとんどは基礎的な住民サービスに要する費用が占めておりまして、近年の行政需要の高まりからこの指標は全国的に上がってきているという状況にございます。

また、美作市の28年度の数値でございますが、経常収支比率は89.3％でございまして、平成17年度以降、17年が94％でございましたので、徐々に下降しているということでございます。

そして、27市町村に占める位置と県平均ということでございますけども、岡山県全体の平均は89.4％で、市の平均をとりますと89.7％、市の中では県内の平均的な位置にあるというふうに考えております。よろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡野議員。

４番（岡野　鉄舟君）

２回目の質問をさせていただきます。

御承知のように、財政力指数は平成24年から28年は、こう今手元に書いておりますが91.6、89.1に下がり、それから平成26年が88.5、27年が88.6とこう上がってきております。28年が89.……

〔市長萩原誠司君「経常収支じゃろ、財政力指数じゃない」と呼ぶ〕

経常収支比率です。時間が刻々と過ぎてて、あと秒を争っとるというか、もう失礼いたしました。

そこで質問なんですが、望ましいとされる数値の85.0％を26年度から高くなって、いずれまあ来年は90％を超えるんじゃないかと私は思っておりますが、この原因を総務部長はどのように考えていらっしゃいますかというのが２回目の質問です。

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

御案内のとおり、経常収支比率の分母と分子がありまして、人件費、扶助費、公債費というような経常的に支出されるものが分子になります。この分子の要因ということで考えますと、人件費につきましては累次申し上げておりますけども、おかげさまで大分コントロールがきいてきておりますんで、この合併以来経常収支比率が改善をしてきた流れの中で見ますと人件費の減少というのが一番大きくきいております。ただ、この人件費も市民サービスを維持していくこと、あるいは職場を維持することということも含めてまいりますと、大体これが底を打ってる、もうこれ以上極端に減らすことはできませんし、加えて国の政策として人件費単価というか給与ベースを次第に引き上げよう、特にことしの春闘におきましては３％の引き上げということが目指されておりまして、それがどこまで実現するかは今後の課題でございますけども、いずれにしてもある程度の人件費の民間における引き上げが起こりますと、これが人事院勧告等によって公務員の給与ベースに反映をしてくるということが考えられますので、今後については若干のプラス要因になっていく可能性がございます。

それから、扶助費につきましては、これはいろいろございますが、生活保護費については割と私どもも含めて全国的にコントロールがきいてはきておりますけど、一方でさまざまな他の扶助費については国としても住民サービス、国民サービス、国民福祉の向上の観点からこれを拡大をしていくという流れもございます。したがって、これはもう政策次第であります。

公債費につきましては、当市はごらんのとおりかつて相当の借り入れをしておりましたんで、その借り入れをいわゆる起債残高として減らしてはおりますけど、まだ相当残っていることも含めますと、これが今は簡単に申し上げますと、かつて私どもの経常収支比率が非常に高かったことの大きな要因ですけども、これが減ってることが今度は今後の私どもとしての経常収支比率を下げる一つの項目になってくるということです。

一方で、分子は以上でございますけども、分母のほうにつきましては、ごらんのとおり毎年度経常的に収入とされる一般財源、この中に普通交付税というのが入っております。普通交付税につきましては、私どもとして基準財政需要を上げる努力はいたしておりますけれども、その反面で合併に伴う交付税算定の水増しがありましたけども、それが一本算定に徐々に徐々に展開をしていくということがございますので、ここ数年間は恐らく私どもが一生懸命積んでいっている基準財政需要額の増、これは道や公園でいいますと、そうですね、今のところ毎年の額として１億二、三千万円ぐらいは積んできてるんですが、一方で合併に伴う交付税の上増しを一本算定することによって生ずる調整額っていうのは１億円を超えておりましたから、その間はなかなか全体としての分母であるところの経常的収入額の見込みがふえない、微妙に減ると、こういうことがありますんで、したがって計算をしたところの経常収支比率っていうものが改善するというのはちょっと最近は困難になりつつあるというふうに見ておりますが、ただそのことが市民生活に影響を絶対に与えないようにするというのが我々の基本的なスタンスであります。あるいは、そのことが私どもの財政の安定、つまり例えば一定水準の基金をちゃんと維持していくと、あるいは場合によっては基金をふやしていくというふうなこととの関係で、変な影響が与えられないようにするためにさまざまな経費削減努力をする中で、私どもの行っております財政の総点検においては今後５年間においては問題なく乗り切れるだろうということになります。そして、来年度においてもまたさまざまな努力をいたしますから、その次の５年間についても乗り切れるように財政上の工夫をしていくということであります。これがトータルになりまして、比率が低い高いってことをもってどうのこうのという意味は余りないというふうに私どもは思っております。いずれにしましても、この数値から我々が市民生活に影響を与えるようなことが起こるというようなことではないことを改めて申し上げさせていただいて、答弁といたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡野議員。

４番（岡野　鉄舟君）

細かい数値とか、県平均とかは部長のほうからお答えいただけるんですか。

議長（鈴木　悦子君）

答えれますか、数値。

〔市長萩原誠司君「さっき言うたが」と呼ぶ〕

〔４番岡野鉄舟君「答えられましたか」と呼ぶ〕

〔市長萩原誠司君「数値、１回目に言うた」と呼ぶ〕

じゃあ、３回目の質問をしてください。

４番（岡野　鉄舟君）

３回目です。

確かに人件費、それから扶助費、公債費、今市長が答えられましたが、私もそのように整理をしておりまして、そのとおりでしょう。ただ、この経常収支率というのは財政の硬直度合いで、高いほど融通がきかないと、こういうことであろうと思うんですが、私は総括にかえながら述べさせていただきますと、市長がる言っておられるように、国のほうは財政調整基金がたくさんあるから、もう留保資金がたくさんあるから減らそうよと、地方六団体が陳情しているというのを市長も言っておられましたけど、要は問題は国にこの交付税を出す体力があるかどうかなんですよ。一本算定が終わるから当然交付税も減ってまいりますし、ちょうど2020年にオリンピック・パラリンピックがあったりするんでいろいろとにぎわっておりますが、ちょっと話がそれますけども、真山仁さんといわれまして読売新聞の記者をされた55歳の方なんですが、その方が最近本を出されまして、オペレーションＺといって、要は国の財政に対して警鐘を鳴らされているということなんですが、それはひとえに地方が被害をこうむるという可能性のことを言っておられるんですが、要はその方も言っておられますけども、交付税がもうままなりませんよと、こういうことを言っておられます。分母の数値ではありますが、これは必ず下がってまいりましょう、所得税も高齢化によって減ってまいりましょう。そういったことで、市民生活をマイナスにしてはいけませんけども、大事な指標であります。やはり、本市はふえていくわけでございますので、そこは謙虚に指数を捉えながら支出のほうも考えていくということが必要であろうと思います。

この質問はこれで終わります。

議長（鈴木　悦子君）

それでは、続けて４項目め。

４番（岡野　鉄舟君）

続きまして、実質公債費率でございますが、この計算式とその意味、それから平成28年度数値、それから３番目に27市町村に占める位置と県平均、これについて御答弁をいただきたいと思います。

議長（鈴木　悦子君）

総務部長。

総務部長（岡本　和之君）〔登壇〕

引き続き、実質公債費比率という御質問でございますけども、実質公債費比率は普通会計における市債の元利償還金のみでなく、公営企業会計や一部事務組合における市債等の元利償還金のうち一般会計が負担するものを加えて財政規模に対する割合をあらわすものでございまして、通常前３年度の平均値を用いており

ます。

この指標は、地方公共団体の財政の健全化に関する法律において、財政の早期健全化等の必要性を判断する健全化判断比率の一つとして位置づけられておりまして、18%以上の場合、地方債の発行に国・県の許可が必要となり、また25%以上になると早期健全化団体となって一定の地方債が制限されるというものでございます。また、それ以上、35%以上の場合につきましては、さらに制限の度合いが高まってまいるというものでございます。

美作市の平成28年度の決算では、実質公債費率は13.5%ということでございまして、ピークの平成20年度、20.4%を最高として徐々に降下をいたしております。

次に、県内での順位ということでございます。岡山県全体の平均では8.6%、市の平均では8.4%でございます。県内の市の中では一番高く、町村も含めますと勝央町の次に高い順番になっているということでございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡野議員。

４番（岡野　鉄舟君）

２回目の質問でございます。

今、総務部長答えられましたように、標準財政規模が分母になっております。上は、簡単に言えばローンの返済などです。標準財政規模といいますものは、普通税、地方税とか固定資産税など、プラス地方交付税、そして地方譲与税、そして臨時財政対策債、実質的な赤字地方債と言いかえられるかなと思いますが、それが分母になっておりますが、これが、総務部長、お尋ねしますが、今後当市の数値はどのようになっていくと考えられますか。

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

そのお答えに入る前に、若干その補足をいたしますが、この実質公債費比率っていうものは分母と分子がありまして、分母については先ほどおっしゃったとおりなんですが、これはさまざまな変動をもって影響を受ける、一番影響を受けるといえば先ほどの交付税のところが一本算定になるということですから、分母が小さくなって割ったものが上がるっていう可能性が若干あるっていうことをお答えしときます。で、もう一つ分子のほうで重要なことがありまして、この分子は実質ベースで出てくるわけですね、こんだけ元利償還金を払いましたと、それで過去３年間どうだと。過去３年間でいいますと、私どもは相当な勢いでこれ繰上償還をしてるんです。繰上償還をいたしますと、公債費の比率が上がってくるもんですから、いわゆるこの比率が繰上償還をしない場合に比べて高くなってくるんですね。繰上償還できる自治体はできない自治体よりも同じ起用の債務を持ってたとすると、実はこの実質公債費率を上げることができるんですよ。これはおもしろいところで、ローンでもそうなんですけども、いろんな形で親からの収入の移転があったんでローンの返済を上げましたと、そうするとローンの返済比率は上がってるんですが、そのことは財政的に見て非常に楽になったっていう意味があるんです。ですから、これ一概にまずこの指数を見て高いか低いかっていうのを議論するのは余り意味がなくて、繰上償還をしている自治体かどうかを含めて考える。つまり、私どもは繰上償還をしてますんで、例えば10億円繰上償還をして、基準財政規模が200億円あったとすると、５%上がってるわけですね。そうすると、13.何ぼと言ってますけども、8.何ぼになっていって、それは普通になってくるんですね、これ。そういうトリックがじっくり味わってみるとあるっていうことも、財政の御専

門でいらっしゃるんでよく御理解をされているとは思いますけども、これを表面的に捉えて高いとか低いとかということは余り意味がない。我々は財政体力が大分ついてきたんで、この数年間繰上償還をしながらやってきた、それもあらわれてるということをぜひ御理解をしていらっしゃるとは思いますけども、多くの方々にお願いしたいと思っております。

したがいまして、同じ13.5でも、もう繰上償還ができない、ぎりぎり払ってる13.5と、繰上償還をして13.5に上げてるっていうのは全く意味が違う。同じ8.4でも、あるいは市の平均は8.4ですけども、払うのに非常に苦労をしながら基金が本当に底をついている町も実はなくはない。そのこともぜひ御理解を賜っておきたいというふうに思っておりまして、指標ってものは表面上の意味と、そしてその表面上の意味に加えてそれぞれの自治体がやってる財政政策の結果、数値が変動してる部分についても、それを認識をし、その意味は何なんだと、きついのかきつくないのかということを御理解をした上で今後の質問に生かしていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡野議員、３回目です。

４番（岡野　鉄舟君）

私も市長が言われたとおりだと思います。私はよく勉強しておりませんので、さすがに行政の専門家と思いますので、この質問は市長の説に従いたいと思います。

続きまして、よろしいですか。

議長（鈴木　悦子君）

５項目め。

４番（岡野　鉄舟君）

５項目め。

議長（鈴木　悦子君）

はい、どうぞ。

４番（岡野　鉄舟君）

美作市の将来負担比率についてということで、同じような形ですが、１番目はその計算式とその意味、平成28年度の数値、そして３番目は27市町村に占める位置と県平均を御説明いただきたいと思います。

議長（鈴木　悦子君）

総務部長。

総務部長（岡本　和之君）〔登壇〕

続きまして、将来負担比率という御質問でございます。

将来負担比率は、将来負担すべき実質的な負債の標準財政規模に対する割合でございまして、将来の財政の圧迫度を示すというものでございます。将来負担すべき実質的な負債には、全会計の起債残高だけでなく、年度末に全職員が退職した場合に必要となる退職手当の積立不足額、債務負担行為に基づきます支出予定額や、一部事務組合、第三セクター、土地開発公社等の負債のうち美作市が負担すべき額などを含んでいるというものでございます。

この指標につきましても、地方公共団体の財政の健全化に関する法律において財政の早期健全化等の必要性を判断する健全化判断比率の一つとして位置づけられておりまして、350％以上になると早期健全化団体となり、財政健全化計画の策定が義務づけられるというものでございます。

また、28年度の数値ということでございますけども、28年度決算の将来負担比率は38.6％でございます。

参考でございますが、平成20年度、195.0％を最高値として徐々に下降しているというものでございます。これにつきましては、先ほど市長が申し上げられましたように、繰上償還等を行っている結果であるというふうに思っております。

なお、岡山県の全体の平均では、33.5％、市の平均では34％、市の中では大体中ほどに位置するというものでございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡野議員。

４番（岡野　鉄舟君）

２回目の質問です。

今、部長が言われたように、分母は標準財政規模であります。分子は、一言で言えば将来の負担額ですが、標準財政規模をもう一度私なりに説明をいたしますと、普通税、市民税、固定資産税などと、地方交付税、地方譲与税、それから実質的な赤字地方債であります臨時財政対策債がございます。これをちょっとこの負担率を財政の総点検から見てみますと、平成20年度以降から減少しておりますが、この原因をどう考えるかと、それは分子が減るからだということではなくて、具体的にこういうことがあったからというふうな御説明をいただければありがたいですね。

それから、２つ目ですが、今後はどのようになるかという質問をさせていただきたい、今後ですよ。

以上、２点でございます。

議長（鈴木　悦子君）

総務部長。

総務部長（岡本　和之君）〔登壇〕

将来負担比率の下がってきた理由でございますけども、先ほど申しましたように繰上償還を行ったということが大きなものだと思っております。それから、今後につきましてですが、今後大規模な事業に取り組みまして、起債をたくさん借り入れるということになりますれば、多少なりとも上がってくる可能性はございますけども、当面大幅に変わる予定ではないというふうに思っております。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡野議員、３回目です。

４番（岡野　鉄舟君）

何と申し上げましょうか、事前に通告してないんで私の期待どおりの答弁にはなっていないんですけども、これ以上総務部長とやりとりをしても平行線になりますので、この指標も今先ほど質問させていただきましたが指標と同じように、やはりキーポイントは地方交付税です。で、必ず分母は減っていきます。逆に当市の場合は、当市の財政シミュレーションを私は見ておりませんが、いろいろ一般質問でありましたような項目を予定されているということであれば、逆に元利償還も上がってきますし、債務負担行為のその額も上がってきますし、むしろ分母が減って分子がふえるということですから、上がっていくに決まってるじゃないですか。まあそれは私の自説だけかもしれませんが、もう少し丁寧に、私は２番目の通告ではありますがしてるわけでございますので、やっていただけたらなというのが私の感じでございますが。総括的に、一方的に言いっ放しになりますけど、これでこの問題は終わらせていただきます。

議長（鈴木　悦子君）

どうぞ。

４番（岡野　鉄舟君）

６番目ですが、自主財源比率、これは最後の総括まで行きたいと思いますが。この計算式というほどのことではないんですけど、この比率はどうすれば出てくるかということと、その意味、それから平成28年度の数値、それから３番目に27市町村に占める位置と県平均、これは私は少しはわかっておるんですが、お願いなのは、テレビを見ていらっしゃる傍聴されてる方にわかりやすいようにできるだけ御説明をいただきたいと思います。私も質問の工夫をして、財政をこれだけ細項目に分けているというのは、その辺の意図がございますので、よろしくお願いいたします。

議長（鈴木　悦子君）

総務部長。

総務部長（岡本　和之君）〔登壇〕

続きまして、自主財源比率ということでございます。

自主財源比率は、地方税、分担金及び負担金、使用料、手数料など自主財源の歳入総額に対する割合を示しておりまして、財政力指数と同じく外部への財源の依存度、つまり市税以外の財源をどれだけ活用しているかということをあらわしておりまして、大きく変動するという数値ではございません。

それから、平成28年度の数値でございますが、28年度決算では23.1％ということでございます。

27市町村に占める位置と県平均という御質問でございますけども、これにつきましては個々の市町村の自主財源比率は市町村ハンドブックにも総務省の地方財政状況調査個別データにも掲載がされておりません。公表されている平成27年度決算値をもとにこちらで計算をいたしましたところ、新見市が21.6％、真庭市が25.4％、高梁市が28.1％で、財政力指数と同じく県内の中山間地域ではやはり平均的な数値であろうというふうに思っております。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡野議員。

４番（岡野　鉄舟君）

２回目の質問をさせていただきます。

ちょっとまだ３番目の質問が残念なお答えだったんですが、質問ですが、岡山県のホームページに平成28年度普通会計決算の概要というのがございます。その５ページに、まあ皆さん見ていらっしゃらないですけど、ただ情報公開されてるわけですから、その５ページに27市町村の全体額の推移があります。自主財源、依存財源の推移の折れ線グラフで書いたものがあるわけです。部長がおっしゃられたように、27市町村の個表はありません。ところが、残念なのは、個々のこういう全体像があるわけですから、その固有の積み立てはあるわけですよ。私どもは行政の皆さんみたいに情報公権がないから、総務省へ電話をかけたり、あるいは総務省に行ったり、内閣府にかけたり、あるいは県に情報を尋ねたりするわけです。私どもがこうやって電話をかけたり行ったりしますと、丁寧に教えてくださいます。私は何が言いたいかといいますと、27市町村の28年度の数値を教えてくれないかと、こうお願いをしたところ、快く教えていただきました。ここの努力をしていただきたかったわけでございますが。

これをちょっと御披露させていただきましょう。本市は、おっしゃられたように23.1％です。県平均が44.2％です。市平均が45.2％です。残念ながら美作市は23.1％で、ワーストワンです。この数値がどこに出てくるんですかといって県の職員の方にお聞きしますと、県は毎年市町村年報というのを発行されているというふうに聞いております。一番いいのが、当然御承知のように不交付団体でありました倉敷市が54.9％、町村では里庄町さんが50.7％で１番です。

で、そこで質問でございますが、今部長が答えたように歳入総額に占める分子が自主財源ですから、地方

税、分担金とか、いわゆる自主的な財源でございますが、現在の国家財政と当市の収入状況をいろいろと普通税に考えながらもうされてると思いますが、それを考えてこの比率はどうなると思いますかというのが私の２回目の質問でございます。

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

先ほど財政力指数のとこで申し上げたことが、まだ御理解が十分できてないようだと思います。今、議員がお答えになっていただいたように、28年度決算ベースでは私どもがワーストワンだとおっしゃいましたね、それは私どもの政策努力によってワーストになった。つまり、分母を一生懸命ふやすことができたという結果だというふうに一般的には解釈をしていただきたい。この指数っていうのは財政力指数と非常に似てまして、自主財源だけでは食えないんで外部資金をなるべくたくさんとってこなきゃいけないよというその必要性が高いことをこの低いことは示していて、そしてそのときにいろんなことができるんですが、突然私どもが世田谷区と合併すれば上がりますけども、そういうことはできない以上、今度は外部資金の獲得のほうに一番の努力をしなきゃいけない。その努力をしっかりして成功すると、これが下がるんですね、もう一回。だから、好循環で下がっていくっていうことがあるってことを、先ほど御理解を賜りたいというふうに財政力指数のとこで申し上げましたけれども、今のはまさにそれができたんだってことを岡野議員の綿密な調査によって立証していただいたというふうに私どもとしては受け取っていきたいと思います。

ただし、私どもとして自主財源であるところの税その他について、これを軽視をしているわけではございません。昨年でございますけれども、私どもの税務課のほうで一生懸命頑張った事例を申し上げますと、東洋エンジニアリングっていう会社がありまして、これは大原でいわゆるメガソーラーの工事をいたしました。そして、６カ月以上この地において事業所を展開しておられたもんですから、税務課と相談をしまして法人税がいわゆる課税標準となっている法人市民税ってのを取ってこようじゃないかと、東洋エンジニアリングに言ったらそんなことは飯場をつくったからって払ったことはないと言うんだけども、６カ月以上いたんで法律上は取れるはず。岡山県に御相談をしたら、そんな面倒くさいことはしないとおっしゃるんだけども、私ども税務課はようやく理論武装をして交渉して、結局きちっと取れました。残念なことに、私どもが例えば100万円取れたとしたときに、岡山県は700万円取れたって共連れでくるんですけれども、そういう努力もしております。

今着目しているのが、この法人市民税の増収、私どもの今年度の予算を見ておわかりかどうか、微妙ですけどもたしか税収がふえる形で算定させていただいてる。そこには、分子もなるべくふやそうとしているその努力があって、分子が微妙にふえてる中でこの自主財源比率が減るということは、分母である収入がもっとふえてるってことなんですね。これほどいい形になってることはめったにないんだと、これも財政の御経験のある方ですから、多分頭をよく整理をされたらおわかりになると思います。したがって、これも単なる表面上の数字じゃなくて、どういうところに生まれたものがどうやってその問題を克服しようとしているのかと、そういう動きをしているかどうかで数字が持ってる意味が真逆になるんだということも御理解の上、今後の御質問に生かしていただきたい。同じようなことでございますけども、御注意を申し上げて答弁にいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡野議員、３回目です。

４番（岡野　鉄舟君）

３回目の質問をさせていただきます。

私は、昨年の12月議会で行政懇談会のことをちょっと質問させていただきましたときに、そのときにこういうことを私はお話をしたと思います。私は、28回の中で21回行っていろいろと勉強させていただいたんですが、市長は全てのところで借金が減っておって基金がふえていて、我が市はもう大丈夫なんだと、まあこういったことを言われたときに、今私が質問させていただいております自主財源比率について非常に当市は低いんだと、こういうことを言いますと、市長は、それは岡野さん、古い考えですよと、こういうて言われたのを覚えていらっしゃると思いますが、私はそれに対して古くはないという意味でその問いを市長にお返しをしますと、こういってその場限りになっておって、今回が自主財源比率の質問を改めてさせていただいておりますが。

３回目の質問は、今の市長の財政力指数につき、それからこの自主財源比率についても今のような形でおっしゃられているわけですから、そのときと同じように古い考えだというふうにお思いですかという質問です。

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

財政力指数が低い、あるいは財政力指数が高いから安心だとか、財政力指数が低いから例えば不安だとかというふうに理解をするのは古い考えです。そういうふうに聞こえたもんですから、古いと申した。例えば、財政力指数が非常に高くて、財政がきつくて大変になった自治体があることは御案内だと思います。典型的に言えば、大阪府大阪市、なぜかというと放漫経営をしたからなんです。その結果大変なことが起こった。一時大阪府は、経常収支比率が101じゃったことがあります。大変なことになりました。人員整理をしないかん。大騒ぎをいたしました。つまり、財政の指数が高くたって、財政が不安になることは幾らでもある。一方で、財政力指数が低くてもあるいは自主財源比率が低くても、さまざまな工夫、外部資金の導入において努力を傾注することによってその市民生活や財政が安定することがある。これが今の理解であって、その指数そのものを見て大変だとかいいとかっていうことを、その裏にある努力の方向や成果の方向を抜きにして議論するのは極端に古いというか幼稚であろうと、古いという言葉がだめであれば幼稚な理解だというふうに申し上げなければなりません。

ですから、私どもはさまざまな努力をいたしております。全国で１市だけ過疎債に特別支援学校を対象にしてほしいといって動いて、そして過疎法の改正とともに今年度以降過疎債が使える。つまり、財源の入り口の拡大をしている。あるいは、先年中国市長会においてこんな議論がありました。地方消費税の算定基準を変えろと、つまり人口によって、やることによって微妙だけども田舎の自治体に地方消費税が回ってくるっていうのを大きな声で出そうっていう話がありました。これは危ないのは、その話をそのまま持っていくと交付税の削減要因になるんですよ。とめました、僕は、とまり切らなかった。そこで、特別決議として地方交付税総額の確保という特別決議を出すことにして、それを並列で出したもんですから全国市長会では特別決議のほうが優先して、会長はその動きの中で、総務省、財務省に地方交付税総額の確保というのが市長会としては最大の眼目であるという動きをしてもらいました。そして、例の基金が多過ぎる問題については、私としてはそれは東京都問題であるというふうに位置づけてぎゃあぎゃあ騒ぎましたところ、大体今の雰囲気として東京都の問題をまず片づけるべきだと、東京都から分捕ろうというような方向の議論が主流になりつつあります。そういうことによって、我々は自分の自治体の財源を確保する努力をしなきゃいけない。その努力を怠るとですね、議員、その努力こそが大切であって、議員、いいですか、その努力ができる

かどうかがこの町を守るという意味で大変重要なんだと。ですから、表面の指標が低いからといって心配したふりをしても、何ら町の財政には貢献をしないんだということで、恐らく私はそのときに古いと申し上げたんだと思います。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡野議員、総括です。

４番（岡野　鉄舟君）

12時が過ぎましたけど、総括を簡単にさせていただきます。

やはり市長の答弁をずっとこう聞いておりますと、ずっと行政内部でやっておられるからそういう形になるんだろうと思いますが、私ども議員の役目は確かにそこを深くする必要もありましょうが、指標について言えば２つあると思います。

１つは、行政内部がこれから箱物をつくる、どうするといったときにやらなければいけない指針ですよ。内部的には、それはいろいろ試行錯誤をされればいいわけであって、それを幾らになるかと、幾らになったらどういう意味があるかということを平素の中でやっておかなきゃいけんという意味が、大事な意味がありますよ。形式的なものだ、内部ではこうやっとるんだというのは、それは当然のことですよ、やるということは。

もう一つ大事なことは、開かれた行政ということでずっと就任当時からこれまでやっていらっしゃるんですが、私が行政懇談会に行きましても行政の内部を私なりの感じでは知っておられない、知らされていないという状況がある中で、この財政指標は指標であれど、されど指標ですよ。どういった意味を持つかということを市民の人に知ってもらう必要があるわけで、そこに住民参加の気持ちを市民の方が持っていただいて、公債費率があがっとるじゃないかと、箱物をやり過ぎたら困るというような、例えばそういうようなこと。経常収支比率でいえば、人件費がふえとるじゃねえか、どうして類似団体と比べたら減らさにゃいけんのんじゃないかということを、市民の方々にそういった参加の機会をつくっていかなけりゃいけないんです。るる言われましたが、私は今質問させていただきました指標は、そういった意味合いで大変重要な指標であろうと思います。したがって、コンマの１％悪く上がればいけないし、よく下がればいいんですよ。私はそういう指標と考えております。12時を過ぎまして、この自主財源比率についてはこれで質問を終わらせていただきます。

議長（鈴木　悦子君）

７項目めは、１時以降にお願いいたします。

ここで１時まで休憩いたします。

午後０時03分　休憩

午後１時00分　再開

議長（鈴木　悦子君）

休憩前に戻り会議を開きます。

御報告申し上げます。

山崎消防長が、公務出張のため午後から退席をされております。代理で藤原消防総務課長が出席されておりますので、お願いいたします。

それでは、引き続き岡野議員の７項目めから入ってください。

岡野議員。

４番（岡野　鉄舟君）〔質問席〕

６項目めまで質問させていただきました感想ですが、岡野議員は考えが古いんじゃないんか何かという、そういう御意見を賜ったような感じがするんですが。ちょっと離れますけど、私はカラオケに時々行くんですけど、歌う歌が２つあります。１つは、井上陽水と鶴田浩二の歌を歌うんですが、鶴田浩二の歌には古いやつほど新しいものを欲しがるもんで、たしか右から左まで真っ暗闇じゃありませんかというんがあると思うんですが、私は団塊の世代で市長よりも古いんですが、極めて斬新に新しいものをやっていると思っております。

さて、７項目めの美作市の財政は大丈夫だろうかでございますが、上記５つの指標から判断をして、市の財政はどう判断をされるだろうかというのが１つ目、そして２つ目は公共施設等の実施プランが未作成の中でどんなことが予想されるか、また考えなくてはならないかということを質問させていただきます。

議長（鈴木　悦子君）

総務部長。

総務部長（岡本　和之君）〔登壇〕

それでは、これまでお答えさせていただきました５つの指標から判断して、美作市の財政状況をどう判断するかという御質問でございます。

財政状況を分析する上では、２つの考え方がございます。

１つは、美作市の指標がどのような動きをしてきたかということでございます。こちらにつきましては、常々申し上げていますように、着実に指標は改善をしてきておりまして、財政状況はよくなっているということでございます。特に重要視しているのが将来負担比率でございまして、土地開発公社の借入金減少と基金残高の増により大きくその数値が下がってきておりまして、財政状況を好転させている大きな要因と考えております。

また、２つ目でございますけども、御質問いただいたように他団体との比較の中でどのような位置にあるかということでございますけども、県内の中山間地域の新見市、真庭市、高梁市と同じような値を大体示しておりますし、財政見通しについても赤字にならないという見通しでございます。十分な基金残高があることからしても、財政的に問題はないものというふうに考えております。

次に、公共施設等管理計画の実施プランとの関係でございますけども、財政推計を行う上で普通建設事業については毎年度一定量を見込んでいるというものでございます。現在の計画では、全体的な収支バランスはとれる見通しを立てております。今後、具体的な実施プラン、施設の計画の実施プランですけども作成に着手いたしますけども、先ほど申しましたように施設の統廃合、そして長寿命化等を図るとともに、利用可能な補助金、有利な起債を最大限活用し、財政計画に盛り込んだ事業量と照らし合わせながら財政運営に支障を来さない現実的なプランを立てていく必要があるものと考えております。よろしくお願いいたします。

議長（鈴木　悦子君）

岡野議員。

４番（岡野　鉄舟君）

２回目の質問をさせていただきます。

まず、最初の５つの指標からどう判断をするかということで、おっしゃられたのは指標はよくなっていると、したがって財政状況はよくなってると、特に将来負担比率を上げて言われましたが、よくなっているというのはどうしてそんなに言えるんでしょうかね。非常に楽観的というよりも、現実の数字がこう示してる

わけでございますので、例えば財政力指数についてはいろいろと市長は私に言われましたが、相対的にもう上がっていきますよ。そして、経常収支比率も、これは市長は言われなかったですけど、つまり仕事をやっておれば、それは上がります、まあ上がっていくでしょう。ところが、財政の硬直力を示してるということで……

〔市長萩原誠司君「硬直力って何」と呼ぶ〕

極端に言えば……

〔市長萩原誠司君「硬直力って何」と呼ぶ〕

人が発言するときに、黙っててください。財政の硬直度をあらわしているということです。関係なくはありません、まさにそのとおりです。そして、実質公債費比率は、財政規模の中でどれくらいの借金があるかというローンの比率です、これも上がってきますよ。それから、将来負担比率は、将来的な現在の元利償還に加えて、債務負担行為なんかも踏まえるとどうかということですから、それも分母分子の相対的な関係の中では上がってきますよ。そして、最後に言いました自主財源比率、これもいろいろ議論があろうと思いますが、私は市長とは全く反対の考え方ですね。つまり、体力が、自主財源比率が低ければないということです。それはなぜかといいますと、あと再質問なんかでいろいろと質問させていただきますが、そういった意味で私は総じて財政状況はよくないと思っておりますが、今私は総務部長が言われることに対して反論をさせていただきました。それについてのお考えをいただきたいというのが１点目。

２つ目の公共施設等管理計画の実施プランが未作成の中で、どんなことが予想されるか考えなければならないかということなんですが、確かにおっしゃられたように施設の統廃合、これはやらなきゃいけないでしょう。利用可能な補助金を獲得しなきゃいけないでしょう。有利な起債を最大限活用しなければいけないでしょう。問題は、それができるかということなんです。今の部長の答弁は、あくまで、私は公共施設等の管理計画の中でるる細かく各論に分けて質問した、あれほど細かく質問した中で数値も述べましたけど、それに対しての答弁としては余りにも総金的な討論であろうと思うんですが、もう少し踏み込んだ観点でお答えをいただきたいと思います。

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

まず、全般の財政見通し、その他でありますけれども、伺っておりますと、岡野議員がもし私の立場でおやりになったら財政は悪くなると思います。外部資金は導入しないということですから、縮こまり思考になって悪化する。私どもは財政力指数についてもるる申し上げましたし、自主財源比率についてもるる申し上げたとおり、それが低いことを恥じるんじゃなくて、それを補うだけの外部資金の導入を積極的に行う、あるいは財政制度を我が市に有利なように国に対して要望していく、そういう努力の中で市民福祉を向上させると、こういう基本方針です。ですから、誰がおやりになるかで、財政運営の基本的な考え方が違えば、それは違った結論が出てまいります。そして、岡野議員のおっしゃったようなやり方をされると恐らく悪化すると思いますが、我々としては財政を悪化させない。けれども、財政を悪化させないってことは、例えば申し上げたように財政力指数が見かけ下がるんですね、これ、外部資金を入れますから、自主財源比率が下がると。それを問題視するとしたらそれをさせないわけだから、外部資金の導入を減らせと、減らせば自主財源比率は上がりますけども財政はきつくなる。したがって、岡野議員の御心配のようなやり方をしますと、当市が破綻をするという結果が起きると私は今感じました。

それから、２点目でございますけれども、お尋ねにもありましたように、平成26年４月22日に総務省のほ

うから公共施設等総合管理計画について各県を通じて各自治体に対して策定の要請、並びに細かいやり方について自治財政局の財務調査課っていうのがあって、そこから通知が来ているわけであります。その通知にはいろんなことが書いてあるんですが、財政との関係で言いますと、これは一つの表現なんですが、充当可能な財源見込み等を踏まえて維持管理政策などをつくりなさいと、こういう考え方なんです。当たり前のことで、公共施設を維持するために財政があるのではありません。公共施設の維持のために市民生活が犠牲にされとるということでは困るんで、まず財政の点検をした上でその財源見込みがある、その財源見込みの中でどんなふうにしたら公共施設が住民サービスを提供しながらどの程度まで維持できるかということを考えなさいというのがこの趣旨、これが自治財政局からの通知の中で現状や課題に対する基本認識という項目に出ております。これも御案内でしょうか、御案内ですか。であれば、この問題はさっき総務部長が答えたように、我々として用意できる財源、これはふやすつもりはありますけれども、それを固めに見積もった上で、その範囲内でどこまでのことができるかということをまず考える。そして次に、どうやったら住民サービスをできれば向上させることができるかということを考えた上で維持管理計画をつくる。そして、無理なところについて言えば、きちっと廃止をする。その廃止については、住民の方々の御理解を得るためにいろんな形で住民懇談会等を開催をして御理解を得ていくということになる。したがって、これは住民生活を守る福祉のサービス、さまざまな扶助費もあります、そういったものを維持するということが基本でありますので、財政計画が優先をしてその中で公共施設の維持管理、あるいは新増設というものが可能かどうかを考えていくというのが作成の手順でありまして、その点の御認識をどうぞよろしくお願い申し上げて答弁といたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡野議員、３回目です。

４番（岡野　鉄舟君）

３回目ですね。

議長（鈴木　悦子君）

はい。

４番（岡野　鉄舟君）

１点目は、私がもし市長であればどうするかという形で言われましたが、もしそうであれば市が破綻するだろうと、こう言われたんじゃないかと思いますが、私はこの点について言えば今の市長のようなやり方をされていれば逆に美作市が破綻すると思いますよ。それは何でかというと、確かに外部資金は導入しなきゃいけませんよ、補助金、県の補助金を導入、寄附金も入れるとしてもそれ入れなきゃいけませんよ。問題は、一事業をするときに、まず当市はいわゆる普通税が幾ら上がってるからといってそんなにあるわけでないわけですよ。それは、私が今公共施設等の中で申し上げましたように、特定財源比率と一般財源比率を事務局を通じてお願いをしたという数字を申し上げたと思いますが、その中のが約八十五、六％が特定財源です。その中に、今申し上げました補助金、それは取らなきゃいけない。私が申し上げたいのは、起債ができる状況に美作市がそのときにあるかということです。今公共施設で言えば、湯郷の幼稚園を当年度壊してますよね、それが例えば合併した３年後の20年ぐらいにいろいろ327の施設があったときに、あの幼稚園を壊さなきゃいけないか、地元の人の土地を借りているんであれば地上権を回収しなきゃいけないという問題、そういうことを20年当時からいろいろ含めて327ぐらいの施設を研究して、そのときに起債をしなきゃいけない。その起債が借れるかどうかということです。私はそういうふうに、市長の立場であったらやりますよ。今の市長がるる説明されたことであれば、外部資金を導入するということは、まあそれはわかるんです

けど、そういうことをお考えでないじゃありませんか。財政シミュレーションをして、普通建設事業費の財源はどのように盛り込んでいったときにどれくらいの懐があるかということが大事なんですよ。そうじゃありませんか。いや、まあちょっとお待ちください。それができるかどうかということを、考えないといけませんよということです。御承知のように、社会福祉費はどんどんどんどん上がってるじゃないですか。国においてもそうだし、美作市においても午前中言われましたように扶助費は上がってるわけですよ。その中で、５つの指標の中に分母に来る数字はどうしてもキーポイントがあるんです。それは、地方交付税ですよ。分子にあるのは地方税ですよ。実質公債費比率はちょっと違いますが、そういったものは２つのポイントをどう見比べて財政シミュレーションをつくっていく中でやらにゃいけんわけです。午前中申し上げましたように、327の施設をずっと更新をできないわけですよね。そうすると、面積を減らさなきゃいけない。こういう形になるわけですよ。したがって、いやしくも私が市長であれば破綻するというふうに言われましたけど、申し上げましたように私はそういったものをちゃんと積み重ねをする中で、インフラはつくらなきゃいけない、福祉もやらなきゃいけないというその長い見通しを立って、文化センターはできるか、何をできるかということをやるのが首長ですよ。そういうことをみんな職員の方は考えていただかなきゃいけないと思いますよ。

以上です。

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

どの部分が御質問かどうかはっきりしないんですけれども、今お話を伺ってますと、御自身もおっしゃったように財政運営の基本を起債のところに置いている。それはわかりました。で、起債ができるかどうかについては、今のところ例えば今後４年間という、仮に次の職をいただいたとしても４年間ですが、その４年間についていうとこれは全く問題ありません。ただ、私としてはそれじゃあいけないんで、その後の４年間や、その先の４年間、まあさしずめ10年間ぐらいは安定した財政運営ができるようにということを基本にして財政改善をしてまいりました。岡野議員がおっしゃるのは、起債ができれば起債すると、借金をしようじゃないかと、こういう話なんですけども、それが危険なんですよ。そこのところはなるべく借金を、まあ借金もいい借金がありますんで、しないとは言いませんけども、借金をする前に交付金をふやしていくこと、地方創生の典型ですけども交付金によって起債をしないで済むところをふやしていくほうが、これ実はやっぱりどう考えても３割ばかりは得なんですよね。その３割、結構その３割が重要になってきます。それで、先ほど言った85とか15という数字がありました、これが高いということを何度も申し上げますけども、我々としてはむしろ誇りに思うべきであって、よくそこまで上げてきたなあと。つまり、自己財源をぐっと圧縮してきたわけですね。したがって、自主財源比率が25でしたっけ、そんなもんでしょう、にもかかわらず実態上は15で済んでんですよ。ここんところを、なぜ拍手をもってよくやったというふうに思われないのかというところになかなか理解ができない。そうすると、その逆の方向を行かれたんじゃあ、恐らく自主財源比率と同じ程度の財政運営をされたら15と26の差の10％ぐらいが市民が損するわけですよ。したがって、私は岡野議員がやられたら不安であるというふうに申し上げたわけでありますので、御理解を賜りますようにお願いをして答弁といたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡野議員、総括です。

４番（岡野　鉄舟君）

総括。

とにかく市長ですね、１点目に総括前に申し上げさせていただくんですが、財政シミュレーションを、例えば10年、15年ぐらいをつくっていただいて、私ども議会にお示しください。その中で地方税の伸び、普通建設事業費の伸び、それから構成がどういうふうになっているか、国といろいろとやりとりをする中でできますよ。１案だけじゃいけませんよ、２案、３案ぐらいを示してください。その資料が出された中で、議会の中でいろいろと議論をしてまいりましょう。

そして、総括の２つ目ですが、確かに交付金がふえればいいですよ。問題なのは、今の個々の計画のある中で、約46％ぐらいの財源不足をやらなきゃいけない。この前提は、道路や橋をやったという前提の後なんですよ。その箱物を46％にしなきゃいけないということがおわかりだと思うんですが、そこで交付金だけでできればいいですよ、じゃあ起債を使わなくて財政調整基金を使うということも出てまいります。それができないから、財政調整基金はそのときありませんよ、だから起債をしなきゃいけない。それで、僕は何回も申し上げてるのは、そのときに本市の、当時の状況で県が起債を許してくれるか、そこなんですよ。それは、やろうと思うと財政シミュレーションをやってみなきゃわかりません。

以上、この問題は総括です。

議長（鈴木　悦子君）

じゃあ、続けて８項目めに入ってください。

４番（岡野　鉄舟君）

最後にちょっと時間を５分ぐらいつくりたかったんですが、非常に申しわけないです。

人口１人当たりの教育費の類似団体比較についてということでお尋ねをしたいと思います。そして、これをどのように分析してるかという質問でございます。

議長（鈴木　悦子君）

総務部長。

総務部長（岡本　和之君）〔登壇〕

失礼します。

岡野議員の人口１人当たりの教育費ということでございますが、総務省のホームページに各市町村の目的別決算を類似団体と比較したものが公開をされております。最新のデータは平成27年度になりますが、この資料では美作市の住民１人当たりの教育費の決算額は、平成27年度が４万8,092円、平成26年度が４万5,314円、平成25年が４万3,107円でございますが、類似団体を見ますと平成27年度が６万198円、平成26年度が６万724円、平成25年度が５万5,409円となっておりまして、比較いたしますと２割程度美作市は低い状態ということでございます。

そして、この状況をどのように分析しているのかということでございますけども、平成27年度決算において類似団体と比較すると約１万2,000円程度低い状況にございますが、その要因でございますけども、普通建設事業が美作市の4,913円に対しまして、類似団体では２万2,269円となっております。ハード事業において他団体と比較して１万7,356円低いことが、総額で低いという結果につながっているものと思っております。逆にソフト事業で見ますと、他の団体よりも5,250円高いのが出ておりまして、普通建設事業を含めた決算額に投じられた一般財源も5,293円高い状況にございまして、教育費、特にソフト部分につきましては十分に資金を投入しているものというふうに考えております。同様に２年前まで同じように試算をいたしましたが、どれも同じ傾向となっておりました。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡野議員。

４番（岡野　鉄舟君）

数字的な問題ですので、総務部長にお答えいただきましたが、次も同じように答えていただいても結構でございます。

今の答弁の中で、ソフト事業で5,250円美作市が高いということですが、類似団体と当市の額を教えていただきたいと思います。

議長（鈴木　悦子君）

総務部長。

総務部長（岡本　和之君）〔登壇〕

失礼します。

ソフト事業の内容でよろしかったですか。

〔４番岡野鉄舟君「金額でええです」と呼ぶ〕

あっ、金額ですか。ソフト事業の中の大きなものとしまして人件費……

〔市長萩原誠司君「総額。美作市が４万3,000円程度、類似団体が３万8,000円程度」と呼ぶ〕

済いません、他の団体で３万8,000円程度ということでございます。

〔４番岡野鉄舟君「美作市と類団の額ですよ、その差が5,250円高いわけでしょ、美作市が幾らで、類団が幾らですか」と呼ぶ〕

〔市長萩原誠司君「４万3,000円程度」と呼ぶ〕

４万3,000円程度と３万8,000円程度ということでございます。約5,000円差があります。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡野議員。

４番（岡野　鉄舟君）

私はもう少しこの質問はやりたかったんですが、なぜこれを質問させていただいたかといいますのは、平成28年度の市町村課が出している当市の目的、構成比が6.8、予算総額のですよ、それから27年度が6.8％、まあたまたま同じなんですが、歳出総額に占める割合は目的別が非常に少ないと、それで一方、類似団体を比較したときに今おっしゃられたような差があるので、ひょっとして教育委員会としては予算要求をしてるのにこれをカットされたんだということがあるんじゃないかなあという疑念がありましたからお聞きをしてるんですが、聞けば普通建設等幼稚園を建てれば高くなる、なくなれば下がるというのが当然あるわけですが、そういった思いがございました。

教育長にお尋ねしたいのは、インターネットで出しまして、美作市子育て若者支援プランということでここにございます。私たちの将来を見て、見据えた教育力の高い市を目指して美作市教育大綱を作成し、取り組みたいというふうに答弁があります。私は先般質問しましたように、新学習指導要領ではアクティブ・ラーニングをやるようになっており、18年度は既に移行期間が始まろうとしておりますが、美作市の教育行政をこの大綱の中でどういうふうにお考えになっていらっしゃるかということを、これはソフトになりますのでお聞きしたいと思います。

議長（鈴木　悦子君）

教育長。

教育長（大川　泰栄君）〔登壇〕

失礼いたします。

先ほど教育費の占める割合というふうにおっしゃいましたが、私といたしましては教育委員会の所管部分というのは、いわゆる教育費の中では、例えばスポーツ関係、保健体育関係でございますね、これは現在は企画部のほう、企画振興のほうに移っている。逆に、いわゆる保育所、これが教育委員会の所管でございますので、そういった部分もございます。そのあたりも御理解いただいた上で、それも含めて教育大綱ということでございますが、ソフト面の充実ということに関しましては、私がこちらにまいりましてから本当に人件費を、先ほどから議員が御心配のように本当に財政が厳しいという中で人件費をどうするのかと、減らさなきゃいけないんじゃないかということですが、その中では本当に教育には、例えば指導主事をふやしていただいたり、あるいは学校の特別支援教育支援員をふやしていただいたり、あるいは保育所への支援員を配置していただいたりということで、大綱の上でもしっかり就学前教育から充実するということでしております。また、そのほかにも校務支援ソフト、ＩＣＴ教育の推進ということでしっかりと大綱の中にはそうした教育面の充実も含めてということで書き込み、そしてまた実施できるようにということで進めてまいっているところでございます。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡野議員、総括です。

４番（岡野　鉄舟君）

同じ27市町村の歳出で見まして、私はいつか和気町の企画担当の人が英語の特区をつくるんだという記事を見たことがございます。非常に和気は頑張っとるなと、こう見たときに、例えば歳出でいけば21.7％と、教育費が非常に高いと、恐らく箱物が入ってるんだろうと思いますが。大変失礼な言い方でありますが、私だけかもしれませんが、何をされようとしとるんかというのが私個人が見えてこないというのが現実です。もっと表に出すというか、そういったものがあっていいんじゃないかなあという思いがございます。そのあたり続きまして翌年度にはもっと踏み込んだ質問をしてまいりたいと思いますが、十分な質問もできておりません。

そういうことで、この問題については終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

議長（鈴木　悦子君）

以上をもちまして通告順番２番、議席番号４番岡野鉄舟議員の一般質問を終了します。

続きまして、通告順番３番、議席番号12番萬代師一議員の発言を許可いたします。

萬代議員。

１２番（萬代　師一君）〔質問席〕

それでは、議長の許可をいただきましたので、一般質問のほうに入らせていただきます。

私は、本定例議会のほうには２項目通告をさせていただいております。

１点目といたしましては、都合３回目の質問になりますけども、美作市スポーツ医療看護等専門学校についてでございます。２項目めにつきましては、昨年10月に取りまとめをされました財政の総点検「第４版」の中から３点ほどお尋ねをさせていただいております。

それでは、まず１項目めの美作市スポーツ医療看護等専門学校について質問に入らせていただきます。

本年４月開校に向けまして、昨年８月から各学科の生徒募集が開始されているとのことでございます。広報みまさかのこれは昨年の９月号でございますけど、これによりますと平成30年１月には入学試験を実施す

るという内容でございました。また、生徒の募集につきましては、看護学科が40名、柔道整復スポーツトレーナー学科が30名、介護福祉学科が40名、日本語学科が40名でございます。それぞれの募集の定員に対する現状についてお尋ねをいたします。また、広報本年度の１月号でございます、募集の窓口ということでこの滋慶学園関係につきまして学校職員、事務局、広報、司書、また学校の教員、そういうものについて募集をされておられます。このような体制は整っているのかなと、現状をどのように把握されておるのかをお尋ねをいたします。

次に、２点目でございます。

専門学校建設に係る総事業費につきまして、昨年の６月定例議会におきましても質問をさせていただきました。工事費と設計監理を合わせまして９億2,383万2,000円、内訳といたしましては工事費が８億9,964万円、設計監理費が2,419万2,000円を補助対象経費とする。滋慶学園が自前で整備した教育機器と図書費２億1,016万8,000円を加えると、総事業費は約11億3,400万円程度となるとの答弁をいただきました。本年の１月24日付の山陽新聞によりますと、専門学校「美作市スポーツ医療看護専門学校（仮称）」と通信制高校「滋慶学園高校キャンパス（同）」が完成をし、23日に竣工式が行われたと、両校とも４月に開校するという内容でございました。開校をいよいよ間近に控えられまして、それぞれ先ほど申しました工事費等々精算ができておると考えます。それぞれの精算額についてお尋ねをいたします。

次に、３点目の美作市の補助金額とその財源、及び市の実質負担額についてお尋ねをいたします。

以上、第１回目の質問とさせていただきます。よろしく答弁のほうお願いいたします。

議長（鈴木　悦子君）

企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）〔登壇〕

萬代議員の滋慶学園の整備に関する質問にお答えをさせていただきます。

まず、各学科の生徒数及び教員、職員等の体制の現状と今後の予定についての御質問でございますが、専門学校の生徒、学生の募集状況でございますが、看護学科と柔道整復スポーツトレーナー学科はおおむね定員を確保できる見込みであり、日本語学科も中国やベトナムからの学生が見込まれてるというふうに聞いております。介護福祉学科は、定員確保に向けて募集活動をさらに強化したいと伺っております。入学試験につきましては既に開始されており、合格者も発表されております。今後の予定といたしまして、各学科とも定員に達するまで入学試験を行うというふうに聞いております。

教員、職員等の体制の状況でございますが、専門学校、高等学校等を合わせまして、２月１日現在、教員13名、職員13名、合計26名となっております。このうち美作市在住者は、教員３名、職員11名、合計で14名となっており、雇用の創出、定住の促進も図られるというふうに考えております。今後も教員、職員ともふえる見込みというふうにお聞きをしております。

次に、建設に係る総事業費及び美作市の補助金額についての御質問でございます。

専門学校の校舎新築に係る総事業費につきましては、大阪滋慶学園から工事費や設計監督費、教育機器費、図書購入費など総額で11億3,892万4,000円と伺っております。そのうち補助対象経費としていたしております工事費及び設計監督費につきましては、追加工事として2,451万6,000円の増加と、高等学校整備費のうち専門学校と共有する部分の経費について追加要望があり、内容を精査したところ、高等学校との共有部分であります体育館改修工事費や駐輪場の設置工事費など1,600万円について補助対象費と認められることから、工事費９億1,564万円と設計監督費2.419万2,000円を合わせた９億3,983万2,000円を補助対象経費として補助することとし、増額する1,600万円につきましては補正額をこの議会のほうへ提出をさせていただ

いております。

次に、補助金の財源及び市の実質負担額についての御質問ですが、補助金の財源は地方創生加速化交付金4,000万円、西粟倉村負担金500万円、佐用町負担金500万円、合併特例債８億4,530万円、一般財源4,453万2,000円となっております。市の実質負担額は、合併特例債の元金利子部分の70％が地方交付税により財源措置されることから、市の実質負担額は元金利子部分の30％と一般財源となり、２億円台となっております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

萬代議員。

１２番（萬代　師一君）

答弁いただきました。

生徒数及び教職員数については定員確保に向けて募集活動をさらに強化するということで、各科とも定員に達するまで入試を行っていくということでございましょうし、また教職員につきましても今後増加も考えておるということでございます。ともに４月開校に向けて現在進行形だなというふうに捉えております。

次に、建設に係る総事業費及び市の補助金につきましては、答弁では高等学校との共有部分である体育館改修工事や駐輪場設置工事など1,600万円については補助の対象経費と認められるということで1,600万円を追加して、９億3,983万2,000円を補助の対象経費として補助するという答弁でございました。

滋慶学園が整備する専門学校の校舎建設費等の一部を補助するということで、平成28年６月１日付告示第85号で美作市スポーツ医療看護専門学校建設費等補助金交付要綱というものが制定をされました。この中でこの交付要綱によって補助をするということは結構でございますけども、補助費用及び補助対象経費、こちらにつきましては同条第３条で、条文を読み上げさせてもらいますと、補助金の交付の対象となる事業――以下補助事業――は、平成28年度から平成29年度までの期間において行うスポーツ医療看護専門学校校舎等建設事業及びそれに附帯する事業として補助金の交付の対象となる経費――以下補助対象経費という――は、別表に掲げる経費とするというふうに定められておられます。この別表につきましては、補助金の事業としては校舎と建設事業及び附帯事業、補助対象経費といたしましては、１、校舎建設費については建築費、電気設備工事費、空調設備工事費、給排水衛生設備工事費、外構工事費、設計監理費、２といたしましてはグラウンド整備費、以上でございます。また、このことにつきまして、平成28年の12月定例議会におきましても、補助対象経費については別表に記載しておるとおりかということをお尋ねしましたら、見込みのとおり相違ありませんとの答弁をいただいております。

そこで、何をもって先ほど申しました1,600万円が補助対象経費として認められると判断をされたのか、そしてこれは誰の決裁で認めるに至ったのかをまずお尋ねをいたします。

また、この補助金交付要綱の第４条、補助金の額ということで条文を読み上げさせていただきます。

補助金の額は交付限度額を総額10億円とし、補助対象者が申請を行う国及び県からの交付金等がある場合は、当該交付金の額を控除した額のうち市長が定める額とする。この場合において、当該補助金の額に1,000円未満の端数が生じたときは、その端数を切り捨てた額とするという４条で示されておりますが、補助対象者が申請を行う国及び県からの交付金等がある場合は当該交付金の額を控除した額のうちとありますのは、当初からの説明で看護学校設立として制度上看護師等養成所施設整備事業交付金及び看護師等養成所初度設備事業交付金があり、合わせて約１億5,000万円程度となり市の負担軽減になるとの説明を受けておりました。その額が控除すべき額となるとして、この先ほど読みました第４条の条文中に付されていると思

います。

そこで、初度設備事業につきましては県の補助事業ということで、先日県のほうに確認をいたしましたところ、これは備品等が補助の対象とのことであり、補助金666万7,000円は建設事業の補助金から控除できる金額ではないなというふうに理解をしているところでございます。しかし、国の交付金であります看護師等養成所施設整備事業交付金１億4,772万円につきましては、この金額の積算根拠といたしましては１人当たり20平米、そして定員が40名、その３学年、この掛け算に平米当たりの単価12万3,100円を掛けたその２分の１であるとの説明を受けております。この内容からいたしましても、当然この金額は建設事業に係るものであります。したがいまして、市の補助金から控除すべきものとなります。このことにつきましても、昨年６月議会で質問をいたしました。当初予定しておりましたが、この補助のスケジュール、そういったものから事業主体であります滋慶学園のほうにおいて申請を断念されたとの答弁でございました。

再度お尋ねをいたします。

滋慶学園が申請を断念したということは間違いがないんでしょうか。と申しますのも、申請者はあくまで先ほど申しました事業主体が滋慶学園でございます。後日確認したら、もう既に申請もして、受領もしとったというようなことにはなりませんねという意味合いでの確認でございます。

また、申請をしなかったことへの、市はそのことに対してどのような対応をされておったのでしょうか。10億円以内で納まりそうなんで不問ですということで解決されておったのでしょうか、お尋ねをいたします。

また、１億4,770万円、市の補助金からなぜ控除をされないのか、その理由、そして誰の決裁でそのように控除をしないこととしたのかをお尋ねをいたします。

次に、もう一点、実質負担額についてお尋ねをさせていただきます。

当初より、２億円台ということでございます。私は精査ができたんじゃないかということでお尋ねをしましたら、相変わらず２億円台という答弁でございました。額についてどこまで精査されておるのかをお尋ねをいたします。

以上、２回目の質問とさせていただきます。

議長（鈴木　悦子君）

企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）〔登壇〕

２回目の御質問でございます。

まず、市の補助金で1,600万円が補助対象と認めた根拠と、決裁者を尋ねるという御質問でございます。

この根拠につきましては、先ほど議員のほうからお話がございました美作市スポーツ医療看護専門学校建設費等補助金交付要綱第３条の別表に規定する補助対象経費と認められることから、それに該当する経費であるということで市長と協議の上、決定をさせていただいたものでございます。

次に、同要綱第４条中の控除額に当たる交付金１億4,772万円について、滋慶学園が補助申請をしなかった、市への対応を尋ねるということでございます。また、その額を補助金から控除しなかったのはなぜかと、その理由と決裁者を尋ねるという御質問でございます。

大阪滋慶学園が申請を行う施設整備に係る岡山県からの交付金等につきましては、当初予定をされておりましたが、議員からもお話があったとおりこの補助金申請につきましてはスケジュール、そういったものから滋慶学園のほうで申請を断念されたとお聞きしております。このことから、滋慶学園の責任において建設事業費も当初予定からかなり削減をされており、そうした努力をされていることから市長と協議の上、市と

いたしましてはやむを得ないものと判断したものでございます。

また、その額を補助金から控除しなかったのはなぜかという御質問でございますが、実際に交付を受けておられないものを控除することはできないと考えているところでございます。

次に、実質負担額は２億円台ということで額を尋ねるということでございますが、市の実質負担額でございますが、合併特例債の元金利子部分の30％、それから一般財源を合わせて約２億9,900万円となっております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

萬代議員。

１２番（萬代　師一君）

まず、1,600万円につきましては、この交付要綱の別表に該当するとおっしゃられました、答弁でした。私はあえて補助対象経費につきましては、校舎建設費については６項目、２としてグラウンド整備ということでございます。ここには体育館という表示はありませんよ。この別表第３に該当するとおっしゃられたんですけども、もっとわかりやすくお答えをください。

それから、当初から、当初予定からかなり削減されたからやむを得ないという答弁でございます。こちらにつきましては、当初はそれぞれ私たちも現地のほう見させていただきましたけども、鳥取学校へ行きました、また出雲学校のほうへ視察に行かせていただきました。鳥取のほうにも行かせていただきました。こちらについては、当初事業費といたしましては15億円が概算事業費だと、そのうち建設費が12億円、設計監理が5,000万円、１億2,500万円、だから10億円を上限ということで話が進んでおりました。その鳥取並びに出雲につきましても、いただいた資料の中では――以前の研修のときの資料ですよ――鳥取では鉄骨づくりの６階建てで、延べ床面積が6,000平米、募集生徒数は560人、出雲につきましては鉄骨づくり４階、延べ床面積が6,500、定員600名を参考にしたと。美作市につきましては、当初は出雲と鳥取にも引けをとらない680人の定数でございました。その後、28年１月に滋慶学園の橋本常務理事が大原で講演されたときに、定数についてはたしか480ということを申されました。その後の一般質問に対する答弁の中で、たしか近隣にも同等の学校があると、安定経営を図るために定数を見直すというようなこと、そのような内容の答弁をいただいております。そして、480を360に訂正を変更をかけられて、そして美作市の学校が４階建ての鉄骨づくりの、たしか4,170平米の建物になりました。だから、決して節約したわけじゃないんですよね。当初大きなものを予定しとったから、大きな事業費、これを360人の定数に落としたがために事業費も減ってきたんですよ。そして、480と360の数合わせという失礼な言い方かしれませんけど、数合わせということで通信制高校を旧大原高校跡地へ引っ張ってくるということで、まず120人の通信制の高校をもってきたということでございます。そして、鳥取、出雲、どちらもこの専門学校の資料を見させていただきましても体育館はありませんよ。だから、通信制高校と今回の美作の滋慶学園で共有する体育館だから補助の対象にするということもおかしな話であり、先ほど冒頭申しましたこの別表には当たらないと、どの字句がそこに当たるんかを再度教えていただきたいというふうに思います。

それから、国からの交付金ですね、やむを得ないということと、１億4,000万円何がしのものを実際に交付を受けてないから控除することはできないという答弁でございます。はっきり申します。677万円の初度の設備費、これはそのまま滋慶学園の備品として入るから申請をされたと、１億4,000万円何がしについては滋慶学園は一切影響はないんですよね、美作市の補助金から減額するんじゃから。これについては、スケジュールの都合で申請をしなかった、だから補助金をいただいてない、だから控除するかてできない。これ

は、普通考えてみてこの流れでよろしいんですか。私は、おかしいなと思います。

それから、先ほど具体的な数字といたしましては、一般自主財源、実質負担金については２億9,900万円ということでございます。私も、私なりに試算をいたしました。ちなみに、1,600万円を加えず、また控除すべき１億4,772万円を控除した額といたしましては、補助金額は７億7,611万2,000円になります。それから、先ほど説明がありました加速化交付金、全部で美作市の分と合わせて5,000万円、これを差し引きました合併特例債の充当率95％、そしてこの金額、合併特例債の対象にならない金額として3,631万2,000円でございます。そういうなことを計算をさせていただきました。また、合併特例債として交付税措置にならない３割相当分、こちらの金額は２億694万円、合わせまして２億4,400万円ぐらいになります。ただ、これには償還利息は利率がちょっとはっきりいたしませんのんで加味しておりません。そういうことになりますと、ざっと実質一般財源ですら5,500万円、美作市の一般財源ですよ、実質の、これが軽減が図れるんですよ。そういうようなことで、これを単に補助金を申請しなかったから控除する、それで済まされるものではないと思います。答弁をお願いをいたします。

議長（鈴木　悦子君）

企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）〔登壇〕

３回目の御質問でございます。

まず、1,600万円の根拠ということでございますが、この先ほど答弁させていただきました補助要綱の第３条の別表でございます、この別表の中で新たな項目といたしましては建設費及び外構工事費、こういったものに該当するというふうに判断をさせていただいたものでございます。

それから、滋慶学園の国への交付金の関係でございますが、これについては先ほども答弁をさせていただきましたとおり、補助金等のスケジュール、そういったものをいろいろ学園のほうで検討された結果、この申請のほうはやむを得ず断念をされたというふうにお聞きをしているところでございます。

それから、市の単独の経費でございます、この２億9,900万円につきましても、先ほど議員がおっしゃったような計算も当方でやった結果、この額をはじいているところでございます。

以上でございます。〔降壇〕

〔12番萬代師一君「議長、このままで控除しなくていいんですかという問いをさせていただいております。それについては、明快な答弁をお願いします」と呼ぶ〕

議長（鈴木　悦子君）

企画部長。

企画振興部長（池田　義和君）〔登壇〕

控除につきましては、先ほども答弁をさせていただきましたとおり、実際に交付を受けられておりませんので控除することはできないと、そういうように判断をさせていただいたものでございます。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

萬代議員、総括です。

１２番（萬代　師一君）

まあ答弁については平行線しかないんだろうなと、今の答弁は一切一歩二歩踏み込んだ答弁はありません。オウム返しのような答弁でした。ちなみに、滋慶学園につきましては、これまでも用地、また旧大原高

校の校舎等々無償で貸与をしておりますし、それから平成27年度からでもみまさかの創生事業と、28年度につきましても創生事業と、また28年度は新たに営業活動、29年度につきましては愛の村パーク交流施設、またこぶしの里、そしてふるさと融資というようなことで、おおむね４億8,000万円以上を別枠で美作市としては滋慶学園に絡む支出をしております。ここに至りましては、あっ、それからもう一つ大事なことです、28年４月から準備室を設けまして、課長クラス、それから係長クラス、２名の人的支援、ここまでやってますよね。非常に一学校法人といいましても民間事業者に手厚い保護を、補助をしております。

当然、これだけ美作市の莫大な市税が投入をされておりますので、この期に至りましてはこれに見合う事業効果を望むところでございます。

以上でこの項の総括とさせていただきます。

議長（鈴木　悦子君）

ここで、10分間休憩します。

午後２時09分　休憩

午後２時20分　再開

議長（鈴木　悦子君）

休憩前に戻り会議を開きます。

萬代議員、２項目めから入ってください。

萬代議員。

１２番（萬代　師一君）〔質問席〕

それでは、２項目めの財政の総点検「第４版」について、その中の一部につきまして質問をさせていただきます。

まず、１点目の電力の小売自由化でございます。

取り決めにつきましては、このことにつきましては電力の小売が自由化になって以来、私も今回で３回目ということになります。財政の総点検「第４版」によりますと、これちょっと市民の方がわかりやすくということでここへ記載されとることを読み上げさせていただきますけど、御容赦ください。

平成28年度では、本庁舎以下、大原総合支所、東粟倉総合支所、作東総合支所、英田総合支所、大原地区の公民館ということで９施設につきまして見直しをいたしまして、約800万円の経費軽減が図られたと、また29年度におきましては教育関係の施設を主にされまして、保育園が３、保健センターが２、火葬場、斎場が１、じんかい処理施設が１、観光施設が１、消防署が１、小学校が８、中学校が５、公民館、文化施設が５、スポーツ施設が９、給食調理場が３ということで、全てで11区分で、合計いたしまして39施設について見直しをして、こちらについても約2,600万円の経費軽減が図られたということでございまして、非常に大きな成果が上がっていると私は考えております。また、いまだに契約をされてない、すなわち見直しですね、電力の調達の予算とか実施されてない施設、先ほど岡野議員のほうで公共施設につきましては何回も耳にいたしました、337施設ございますんで、こちらについて今後どのような取り組みをされるのか、１点お尋ねをさせていただきます。

２点目といたしまして、公共施設の統廃合についてお尋ねをしておりましたが、これは公共施設総合管理計画についての質問の内容でございました。内容につきましては、先ほど岡野議員のほうが微に細に質問をされておりますので、私のほうはこの質問については省略をさせていただきたいと思います。ただ、市民の皆様の協力なくしてこの事業は進むものではございません。早急な行動計画によりまして、更新また統廃

合、長寿命化を計画的に行い、財政の負担軽減、平準化に早急に取り組んでいただくことを要望して、２点目の質問は以上とさせていただきます。

３点目といたしましては、今後の収支見込みにつきましてということで、向こう５年間を推計した普通建設事業費で、主な事業内容につきましては推計の考え方というところに表示をされておられます。主な内容といたしましては、庁舎の耐震化事業、都市公園整備事業、ごみ処理施設（最終処分場）の整備事業、道の駅整備事業、道路防災事業、幼児園建設事業、告知放送更新事業、市道整備事業、ケーブルテレビ機器更新事業ということで、主な普通建設事業費は上げられております。この５年間の年次ごとにつきまして、説明をいただけたらと思います。

それともう一点は、一昨年、第３版の分に比較いたしまして、建設事業費につきまして大幅な増減が見られます。その大幅な増減となった要因についてお尋ねをいたします。

以上、１回目の質問とさせていただきます。

議長（鈴木　悦子君）

総務部長。

総務部長（岡本　和之君）〔登壇〕

失礼いたします。

萬代議員の財政の総点検についての御質問にお答えをさせていただきます。

まず、電気料金の削減ということでございますけども、議員の御質問にございましたように、平成28年度から２年度にわたりまして市の主要施設について電力供給会社の見直し、これを行っておりまして、今年度末では従前と比較して年間約3,400万円が削減できるものと見込んでいるところでございます。このことから、今後につきましても節減効果が期待できる、そういう施設を中心に電力供給会社の見直しということを行ってまいりたいというふうに思っております。

そして、公共施設の統廃合ということでございますけども……。あっ、それは、はい、議員、また説明等をさせていただくときには、御協力のほどよろしくお願いいたします。

次に、今後の収支見通しということでございます。

財政の推計を行う上で盛り込んだ事業についてでございますが、事業の内容の固まっているものについて御説明を申し上げます。

まず、ごみ処理施設整備事業では、平成30年度に最終処分場の建設費と旧施設の解体費を約９億円、そして告知放送更新事業では平成30年度に屋外拡声器整備と合わせて約６億円、そして都市公園整備事業では平成31年度まで毎年度約１億円、そして道路防災事業では毎年度約２億円、その他の道路整備事業で年間約３億円を計上させていただいております。その他に記載しております庁舎耐震化事業、幼児園建設事業、道の駅整備事業、ＣＡＴＶ機器更新事業につきましては、詳細がまだ決定しておりませんことから、これはあくまでシミュレーション上の事業費として盛り込ませていただいております。

次に、年度ごとの事業量でございますけども、平成30年度から32年の間の事業量はふえております。平成33年に約５億円減っているのは、情報基盤整備事業においてフレッツ光マイタウン仕様の通信機器の更新費用を平成28年度に推計を行った際には計上しておりましたが、平成31年１月末までにフレッツ光ネクストという一般的な仕様のものにＮＴＴの負担で機器の更新を行うことになりまして、その費用が不要になったことから大幅な減額となってまいっております。

なお、これらの事業は推計時点の計画でございまして、今後国の方針転換、そして景気対策などにより追加される事業も出てくるものと考えております。財政運営を行う上で、国・県の補助金と交付税算入がある

有利な地方債を活用し、市の負担が少なくなるように計画的に実施をしてまいりたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

萬代議員。

１２番（萬代　師一君）

答弁ありがとうございます。今後の収支見通しにつきましては、先ほど言われたとおりこの動向を注視するということと、少しでも有利な財源を確保ということで健全な財政運営をお願いしたいと思います。

電力の自由化につきまして、１点だけお尋ねをします。

前の岡野議員の答弁の中でも、重要な施設については本年取り組むというような環境部長の答弁がございましたけども、その他について30年度に予定されとるところがあるんかなあと、あれば教えていただきたい。

それから、答弁の中で、節電効果ができる施設を中心にという答弁がございましたけども、逆に効果が見られない、期待が持てない施設というものはどういうものか。また、その判断基準は何をもってされておるのか。この２点についてお願いをいたします。

議長（鈴木　悦子君）

総務部長。

総務部長（岡本　和之君）〔登壇〕

失礼いたします。

それでは、２回目の御質問にお答えをさせていただきます。

まず、電力料金の削減の期待できる施設、30年度に見直しを予定している施設ということでございます。先ほど妹尾部長のほうからお答えをした上下水道、これの浄水場ですね、それと下水道の処理場、また大原病院など高圧電力を使用しているところを中心に見直しを行っていきたいというふうに考えております。なお、あくまでもこれは推計の段階ですけども、上下水道では約100万円程度、それから下水道では約80万円程度、病院につきましても40万円程度は節電できるんではないかと期待をしてるところでございます。

それから、反対に削減の期待が薄い施設ということでございます。どういう施設かと申しますと、家庭用の低圧電力を使用している規模が小さく、また使用量の少ない施設でございまして、例えば申し上げますとスクールバスの車庫、電灯だけというような施設がございます、そういうものが期待できない、期待が薄いという施設と判断をさせていただいとります。

それと、判断基準。

〔12番萬代師一君「判断基準、はい」と呼ぶ〕

判断基準につきましては、現在電力の供給をしている電力会社、新しく電力の供給をしてくれている会社ですけども、こちらのほうにあらかじめ試算をしていただきました。その結果をもって、優先順位をつけて取り組んでいるということで御理解をお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

萬代議員、３回目。

１２番（萬代　師一君）

先ほども申しましたけども、公共施設、いかんせん337、これから行政のほうが見直していかにゃいけない施設がございます。やはり、少しの金額でも数を積み上げれば大きな金額になりますので、今後におきましても積極的な軽減につながる取り組みをしていただきたい。このことは、一切市民の方に迷惑をかけませ

んのんで、よろしくお願いをいたします。

それから、財政につきましてですけども、先ほど来の答弁でございます、今後控えてる大きな事業というものは公共施設の総合管理計画でございます。これに伴う更新、そして長寿命化事業というものが後ろに控えておりますので、今後におきましても健全経営につながる取り組みをお願いをいたしまして、本定例議会での私の一般質問を終わらせていただきます。

以上です。

議長（鈴木　悦子君）

以上をもちまして通告順番３番、議席番号12番萬代師一議員の一般質問を終了します。

続きまして、通告順番４番、議席番号13番山本重行議員の発言を許可します。

山本議員。

１３番（山本　重行君）〔質問席〕

議長の許可をいただきましたので、私のこの議会における一般質問をさせていただきたいと思います。

私は、今回５項目にわたって通告をいたしております。

高齢者の移動手段の確保について、２番目にはベトナムとの友好関係の問題点について、３番目に議会との関係について、４番目、美作市の学校誘致の施策について、５番目には日体大高等支援学校の誘致施策についてというふうなことで５点を通告いたしておりますけれども、このたび市長の改選というのがございまして、少し前の課題というかそういった点にも触れることがあろうかと思いますけども、お許しをいただきたいと思います。

それでは、まず１項目めの高齢者の移動手段の確保ということについて質問をさせていただきます。

今年度の４月から高齢者の移動手段の確保というふうなことで、タクシーの利用補助事業というのを試行を始められました。そして、年末年始にかけて利用範囲の拡大をいたしましたけれども、利用状況はどのように推移をいたしておるのでしょうか。また、現在までに問題点とかあるのでしょうか。また、市長が就任時に言われていた近代的な市民の生活協同組合方式の移動手段の実施に向けどのように取り組まれて、何が問題だったのかをお尋ねをいたします。

議長（鈴木　悦子君）

市民部長。

市民部長（角南　良雄君）〔登壇〕

高齢者の移動手段の確保についての項目の中のタクシー利用補助の実証実験における利用状況についてですが、昨年７月から市営バスの運行していない交通空白地として作東地域の一部土地――土居地区を除くわけですが――でタクシー利用補助の実証実験を行っております。１月22日までの登録状況でございますが、７月から10月までの登録者より20人増加し、262人の登録で、19.4％となっております。これは1.5％の増加となります。利用状況でございますが、７月から12月までの利用延べ人数は1,163人で、利用者の実数は75人です。登録者数に対する利用率は29.5％の状況となっており、徐々にではありますが利用者が増加しております。

次に、12月20日から利用対象者を介護認定を受け、なおかつ運転免許のない方を対象に、市内全域に拡大し実施いたしましたタクシー利用補助の状況でございますが、登録者は対象者1,810人に対し176人で、9.7％の登録となっております。利用状況につきましては、12月20日から年末までの約10日間の実績でございますが、利用延べ人数は52人、利用者の実数は22人、登録者数に対する利用率は13.7％の状況でございます。

次に、現在までの問題点についての御質問ですが、タクシー利用補助の実証実験で、市に対し利用者やタクシー事業者などからの問題点の報告はございません。

以上です。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）〔登壇〕

失礼します。

生活協同組合方式はどこに問題があったのかという御質問です。

高齢者の移動手段確保のため、組合員が低料金で移動支援を受けることができる生活協同組合方式について、市ではモデル地域における実証実験について検討してまいりましたが、運転ボランティアを地元で手配する必要がありましたが、応募者が足りない、また二種免許でないボランティアの場合、事故の心配があるなどの問題が指摘されました。一方で、交通福祉対策としては、住民アンケートの結果、タクシー利用補助に強い支持があったことと、里山公園の面積拡大が順調に進みまして安定財源の確保が可能になったことから、生活協同方式を断念しましてタクシー利用補助に変えたという経緯でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

山本議員。

１３番（山本　重行君）

２回目に質問させていただきますが、今日までは問題はないというふうなことでございました。

先ほど利用状況について説明を受けましたけども、利用状況のうち特に6,000円が上限、補助でいえば3,000円になってこようかと思いますけども、その上限に達する以上の方っていうのはどの程度おられるのかお聞きしたいと思います。

それから、生活協同組合方式につきましては、先ほどの答弁ございましたけども、私たちが余りにもリスクが多いんじゃないかと、無理じゃないかという、当初から私たちは申し上げていたわけでございますけども、この点を認識されるまでに３年間かかったというふうなことでございましょうか、再度御質問いたします。

議長（鈴木　悦子君）

市民部長。

市民部長（角南　良雄君）〔登壇〕

タクシー利用料金のオーバーのところの御質問かと思います。

3,000円以上、6,000円以上ですから9,000円以上になったところについては、3,000円以上4,000円オーバーの範囲が約８人、それから4,000円以上5,000円までが14名、これは延べ人数です。それから、5,000円以上の場合、この方は延べで７人おられました。その中で、行った先はということでございますが、ちょっと見た感じなんですけれども、作東地域から津山のところが多かったのかなあと感じております。

以上です。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）〔登壇〕

政策の方向転換に３年間までの日を要しなければならなかったのかということでございますが、当初そのような生活協同組合の方法でということで検討を始めました。全国的に見ましても、そういうふうな事例は

ほかの団体でも実際にそういう交通手段、方式をとられて足の確保ということをやられてる団体もあるかと思います。そういった状況を調査し、また平成28年度において行われた市民アンケートの結果、これを総合的に鑑みて今回のタクシー利用の方法に方向転換を変えたということでございますから、より市民の皆様が利用しやすい形の中の交通手段の確保という政策を、結果を導くための期間でありますから、まあそういった期間は必要であったのではないかなあというふうに考えます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

山本議員、３回目です。

１３番（山本　重行君）

３回目ですけれども、先ほどの利用状況といいますか補助で言えば3,000円、これが妥当なのかどうか、その辺が今後の課題になってこようかと思っております。まあ今の段階で試行というようなことでございますから、その辺を利用状況を見ながら今後考えていただきたいなあというふうに思います。

それから、生活組合共同方式ですけれども、市長就任のときからずっと言われてきまして、私たち、特に私はデマンドタクシーとの関係で、デマンドタクシーは片便2,000円というような形で日当を払っていても運転手が見つからないと、そういった中で非常に難しいんじゃないかというふうなことも申し上げましたし、またほかの議員もほかの提言というのをされましたけれども、その都度市長におかれましてはその考え方は古い、けさもありましたけど古いというふうなことを言われたわけでございます。最後には、国交省まで古いと、そこまで言われてちょっと結果としてはどうなんかなあというふうに思いますけれども、いずれにしても先ほど言われましたタクシー補助が皆様方に十分に行き渡ればいいかなあというふうなことを思っています。

この点についての質問は終わります。

次、行きます。

議長（鈴木　悦子君）

では、続いて２項目めに入ってください。

１３番（山本　重行君）

次は、ベトナムとの友好関係と問題点についてというふうなことで質問をさせていただきます。

市長は、ベトナムに何度も行かれまして、交流外交等進められるとともに、友好協会等の設立がされまして、ベトナム国あるいはベトナム人との対策を進めてこられました。そして、学校の開設という名目のもとに東南アジア圏の実態調査、そしてベトナムへの実態調査、そういうふうな形で予算計上をされて市の予算を使ってきたわけでございます。そして、関係が深まったことが評価をされて、ホー・チ・ミンの像の寄贈を受け、2,074人もの反対署名のある中でホー・チ・ミン像を設置されました。その後も市民初め各方面からの反対の声があるんですけれども、どうされるのですか。

それから、２点目としては、ベトナム人の増加という正の部分ですね、ばかりを見ておられますけれども、ベトナム人あるいは留学生をめぐる事件といいますか課題といいますか、そういったことが多方面から取り上げられているところでございますけれども、実態把握はされているのでしょうか。

また、市民の安心・安全の面からどうお考えなのかお尋ねをいたします。

議長（鈴木　悦子君）

企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）〔登壇〕

ホー・チ・ミン像のほうの関係の御質問にお答えをさせていただきます。

ホー・チ・ミン像は、今も反対の意見が多い、どのような対応をするのかという御質問でございます。

昨年10月には2,074名の反対署名をいただきましたが、12月議会でも御説明させていただきましたとおり、ベトナムとは平成27年度に国立ダナン大学との協力協定の締結を初めとしてスポーツ、文化、人材などの交流を深めてまいりました。その取り組みが評価され、ベトナムと日本、美作市との友好のあかしとしてベトナム政府から銅像が寄贈されたものでございます。特に、平成30年は、日本とベトナムとの友好関係樹立45周年を迎える年であり、広く市民の方々に御理解がいただけるよう観光振興につながる取り組みや、文化交流を進める取り組み、ホー・チ・ミン像が寄贈され、さらに意義あるものとしてまいりたいというふうに考えております。

次に、ベトナム人、留学生をめぐり問題が指摘されている、どういうふうに考えているのかという御質問でございます。

平成28年３月に、警察庁刑事局組織犯罪対策部及び国際捜査管理官のまとめによりますと、ベトナムの検挙人員は平成25年から３年連続で増加している模様でございます。しかし、美作警察署に確認したところ、これまで美作市内ではベトナム人による犯罪検挙はないということでございます。これは、美作警察署が防犯や生活支援に取り組まれてることや、技能実習生の受け入れ機関のみまさか商工会が優秀な人材を配置してることのたまものというふうに考えてるところでございます。

留学生につきましても、美作警察署と大阪滋慶学園が連携、協力して防犯や生活支援などを行われるよう、取り組んでまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

山本議員。

１３番（山本　重行君）

まずは、ホー・チ・ミン像の関係でございますけれども、インターネットの記事でございますけども、ベトナム民主化運動を応援するブログっていうのがタイガっていうとこがございますけれども、今回の美作市の展示がインターネットでニュースになって、世界中のベトナム人から批判が殺到している。既に、展示の撤去を求めるネット署名運動が開始されてる。今後もこの問題は国内外に住む300万人ものベトナム難民、本土に住む多数の民主化ベトナム人からの非難の的になると、なり続けるというふうに思われますとあります。どうするのでしょうか。

次に、犯罪の関係でございますけれども、美作市のほう、美作市内ではないというふうなことでございますけれども、ＮＨＫの放送によりますと、総務省がことし７月に全国の日本語学校から30校を抽出して初めての実態調査をしたとのことです。全ての学校が、海外の留学あっせん業者に手数料を支払って留学生を募集している。30校のうち15校で、留学生が犯罪で検挙をされている。その15校は、日本語能力検定試験の合格率も入学者の４分の１程度の低い傾向だったというふうなことでございますし、また警察庁によりますと、来日外国人による犯罪では、一昨年中国人が4,620件、ベトナム人が3,177件となっており、ベトナム人の犯罪は10年前と比べて２倍以上に急増しているとのこと。そして、去年の前半では、ベトナム人が中国人を抜いて検挙件数では国別で最も多くなっているとＮＨＫの放送内容でございます。そして、原因としては、仲介業者へ多額の借金、留学生の生活苦と言われておりますけれども、ことしここで学校を開設されるわけですけれども、先ほどの答弁の中では定数の確保に努力してるんだというふうなことで具体的なベトナムの方の留学生とか報告はなかったんですけども、もしその点がわかれば教えていただきたいと思いますし、また募集に当たっての経済状況等の審査とかはされてるのでしょうか。また、日本での学費であった

り、あるいは生活等の情報提供っていうのは十分されてるのでしょうか、以上についてお尋ねをいたします。

議長（鈴木　悦子君）

企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）〔登壇〕

２回目の御質問でございます。

まず、ホー・チ・ミン像でございますが、ネット等での反対運動がと、その中でどうするのかという御質問でございますが、これにつきましては先ほども答弁をさせていただきましたとおり、このホー・チ・ミン像、そういったものを今後広く市民の方々に御理解をいただく取り組みを進める中で、この観光振興、そういったもの、それから文化交流、そういったものでこの取り組みが有意義なものになるように取り組んでまいりたいというふうに考えているところでございます。

それから、２点目の日本語学科のほうでございますが、大阪滋慶学園の日本語学科の留学のほうにつきましては、ベトナムのほうから日本へ留学される方については滋慶学園、それからダナン大学とも締結をさせていただいとりますが、学生の人選をしっかり行った上で日本のほうへ留学をされてくるというふうにお聞きをしております。それから、日本に来られた後の支援でございますが、これにつきましては各市内等の施設の方々に施設奨学金の制度の新設につきまして滋慶学園のほうから各施設のほうへ要請をされまして、幾つかの施設のほうで奨学金の検討をしてるというふうなことをお聞きしているとこでございます。それから、来られた後の学生の支援につきましても、これは滋慶学園と連携をいたしまして、そういったところから生活の支援、情報の提供、そういったこともやっていきたいというふうに考えております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

若干の補足を申し上げておきたいと思うんですが、議員の御指摘のように留学生の手数料、送り出し機関におけるコストといった問題は、実は国際的にも注目されてる問題として我々もよく理解をしております。そこで、我々としては留学生、特にベトナムからの留学生の送り出し、日本語学科の受け入れにつきましては、基本的にダナン大学を送り出し機関として考えれるような形をとってまいりました。つまり、民間の機関が向こうにあってやっておりますと、送り出し費用についてチャージをするんですけれども、ダナン大学はそれがないわけでございまして、そのあたりはやはり国立大学としてのしっかりとした行動がとれるというのが１点目。２点目に、問題を起こしている日本語学校につきましては、日本に来て以降の進路が必ずしも決まってないわけでございますけれども、私どもの場合におきましては日本語学校で終わるということは基本的には想定をしていないわけでありまして、日本語学校に来た後、介護でありますとか看護というところに進む。そして、さらに３点目で申し上げますと、介護、看護に進む方々ではありますが、事前に母国において看護、介護、介護はないかもしれませんが、まだ、看護についての勉強をしていて日本語学校へと、こういう構造になっておりますんで、かなり〔聴取不能〕にもしっかりとした背景を持ち、目的意識も明確で、したがって奨学金、今日本の民間の医療機関等も相当の奨学金を持ってますが、その奨学金の獲得が非常にたやすい形になるような、かなりきめ細かい配慮をした設計になっているということで御理解を賜りたいと思います。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

山本議員、３回目です。

１３番（山本　重行君）

まず、ホー・チ・ミン像の関係でございますけれども、私反対署名を持っていって、それは新聞に出てたわけですけれども、そういった人を見ておられない方、たまたまあそこに行かれた方においても、あれは異質なんじゃないかなあというふうな意見が寄せられてるわけですね。今後十分検討をしていただきたいというふうに思ってます。

それから、先ほどベトナム留学生の関係では、ダナン大学を窓口にしてというふうなことでございまして、来られてからの生活支援等も十分考えとるというふうなことでございました。県下では、岡山県で去年の１月から12月まで中国よりベトナム人の方の犯罪が多いわけでございまして、犯罪が起きてからでは遅いわけですから、十分さまざまな形での支援をやっていただきたいというふうなことを要望いたしまして、この項については終わりたいと思います。

議長（鈴木　悦子君）

それでは、続けて３項目めに入ってください。

１３番（山本　重行君）

次、３項目めに行きます。

議会との関係というふうなことで、市の庁舎の位置を定める条例の提案の説明では、地方自治法は庁舎については執行部の判断よりも議会の判断を重視してる、地方自治法の精神にのっとって議会の判断に当然従うものであると言われたにもかかわらず、否決されたらこのような案件で全国で例のない再議といわれまして、市長を初め職員を動員して反対した議員に説得に動かれたわけですけれども、議会についてどのようにお考えになっているのかお尋ねをいたしたいと思います。

議長（鈴木　悦子君）

総務部長。

総務部長（岡本　和之君）〔登壇〕

失礼いたします。

山本議員の議会との関係についてという御質問でございます。

議会は、地方公共団体の意思を決定する機能及び執行機関を監視する機能を担うものとして、同じく住民から直接選挙をされた長と相互に牽制し合うことにより、地方自治の適正な運営を期することとされております。

庁舎の位置につきましては、地方自治法第４条第３項に規定する特別議決でございますが、結果として過半数の賛成をいただいたことを深く受けとめる必要があり、また議員の皆様の討論をお伺いし、御意見を真摯に受けとめる中、いろいろな工夫をすれば何とか御理解をいただけるのではないかという可能性も非常に強く感じたところでございます。また、この議会議決が一つの契機となりまして、多くの市民の方々に関心を持っていただけたところでございまして、その強い関心、期待というものにどう答えるかが最大のポイントと考えました。そのオプションの一つといたしまして、議会と長の意見が対立した場合の調整方法の一つである、今まで非常に狭めて解釈されていた地方自治法第176条第１項の再議についてのあり方について示唆をしたものでございます。先ほど申しましたように、庁舎の位置決定ということは非常に重要な案件でございます。議会の決定を深く受けとめているがゆえに、もう一度御検討をお願いしたいと考えたものでございますので、よろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

山本議員。

１３番（山本　重行君）

２回目です。

先ほども半数の方が賛成したからとか、あるいは討論があって市民の方々の強い意向というものがどうだったかとかというふうなことを言われました。また、再議のあり方について示唆したとかとも言われましたけれども、条例の提案のときには、先ほども言いましたけれども、地方自治法について、庁舎については執行部の判断より議会の判断、殊に議会の圧倒的多数の賛成という点を重視していると、わざわざそこまで言われてるわけですね。それと、再議というふうな形を言われるのとは、違うんじゃないかと私は思います。特別決議というものは、そもそも過半数と、特別決議、そこの差っていうのは非常に大きいわけですね。ですから、わざわざそういう形で制定をされているんじゃないですかね。どこの庁舎移転であってもいろんな問題があったり、引っ張り合いというそういったことがあるわけですから、そこで半分というのは多々あっても３分の２というのはなかなかないと思います。そしてまた、重要な案件だから何もしないほうがおかしいというふうに言われますけれども、そもそも１度議決があったものを、その会期中にまた説得をすると、それは違うんじゃないでしょうかね。普通、それは提案する前に執行部の方が動かれるというのは、それはあり得ることかと思いますけれども、１度あったものを動かれるのは私は間違っていると思いますけども、いかがでしょうか。

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

先ほども部長から答弁がありましたように、市民の方々からの強い後押しもありましたということですが、間違ってると思われるのは今議員がおっしゃったとおり御意見としてはあるかもしれません。一方で、全く逆の御意見もあり、適合性については問題ないという解釈論もあるわけでございまして、御意見としてそういうふうに議員が思っておられることはお聞きをさせていただきます。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

山本議員。

１３番（山本　重行君）

再議についてここで今さらといいますか、また出てくればともかくとして余り長く言うあれもなかったんですけれども。たしかあの議決のときに、総務省の意見とかというふうなこととか、あるいは一つの前例というんですかね、そういったものをみずから美作市にもつくるんだというふうな答弁があったと思いますけれども、そういったことがあるのは普通の場合は通達とかが出てくるんだというふうに思います。この点についても、おかしいんじゃないかと私は思っています。ただ、きょうここで私が言いたいのは、そういったことよりも、市長のこのここの場におかれる発言、それに先ほどのタクシーの利用補助の関係でも言いました、若干一貫性がないんじゃないかと私は思います。といいますのは、先ほどの高齢者の移動手段の確保にいたしましても、多々12月に私が学力調査について質問をいたしました。そのときに、以前成績のええときは小学校は全ての科目において全国平均を上回っています。また、中学校においても、もう少しで全国平均にたどり着くんだと、そういうふうなことを言われておりまして、私が今年度成績が若干悪かったというようなことで指摘をいたしました。すると、市長は、学業は――市長と教育長どちらだったかわかりませんけれども――２つの教科だけじゃないんじゃ、ほかの教科があるんだというふうなことを言われまして、これ

はやっぱりちょっとおかしいんじゃないか、一貫性がないんじゃないかというふうなことを思いまして、私はここでこういったことを言ってるわけですけれども。もう少し発言に一貫性を持っていただきたいなあというふうなことを思います。もし何かありましたら、よろしいですか。なければ、はい。

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

教育の話が出ましたんで、不易流行という言葉を使えばいいかと思いますけれども、やはり本筋において、例えば財政については、財政の健全化ということについては、これは一貫して取り組むべき、あるいは市民福祉のレベルの向上ということについては一貫して取り組むべき、そういうところについて全くぶれることがあってはならない。しかし、時々において世の中の状況が変わったり、国の方針も変わったり、いろんなことが変化するときに、例えば石が飛んでくれば身をかわすぐらいのことをしていくっていうのは、これはまあまた当然のことであろうかと思います。学科の話で、僕覚えてないんですけども、多分教育長がおっしゃったんで、一貫して私の御批判をされるんなら、一貫して私を批判していただければと思います。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

山本議員、総括です。

１３番（山本　重行君）

先ほど市長が、市長と教育長の違いというふうなことを言われましたけども、私はそれで言うならば、市長は答弁に立つ必要があるときに立たれない、また教育の、ほぼ教育については教育長に任せられると思いますけれども、時にしては立ってこられる。この辺もちょっと一貫性がないんじゃないんかなあというふうなことと総括して、これは終わらせていただきます。

次、行きます。

議長（鈴木　悦子君）

ここで、10分間休憩します。

午後３時08分　休憩

午後３時19分　再開

議長（鈴木　悦子君）

休憩前に戻り会議を開きます。

山本議員、次の項目に入ってください。

１３番（山本　重行君）〔質問席〕

４項目めの質問をいたします。

なぜ学校誘致の施策にこだわるのかということでございます。

滋慶学園、日体大の支援学校、そして自衛隊の体育学校等々、次々に学校を誘致するというふうなことを市長は言っておられますけども、なぜそのように学校の誘致の施策にこだわるのかお尋ねをいたします。

議長（鈴木　悦子君）

企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）〔登壇〕

滋慶学園、日本体育大学の高等部の支援学校、自衛隊の体育学校等の学校誘致になぜこだわるのかという

御質問でございます。

美作市では、高校を卒業した学生が働く場や学ぶ場を求めて転出することによる人口減少、またUターン就職につながりにくい状況から、いわゆる18歳の崖が深まることや、より充実した支援教育を求めて転出する方もあるなど、人口減少につながる状況が続いておりました。このことから、専門学校を初めとした学ぶ場を整備することにより、若者にとって魅力的な進路や、支援が必要な生徒の教育の充実が図られるとともに、学校の誘致によって教職員や事務員、調理員など働く場の創出が見込まれること、また市内の商店での学校教材や食料品の購入、飲食店やバスなどの交通機関の利用など地域の活性化が見込まれ、人口の社会増につながると考えていることから、地域創生の最重要課題である人口増加の取り組みとして学校誘致に取り組んでいるところでございます。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

若干補足を申し上げますと、こだわってるのは学校誘致だけではございません。既存の学校を強化することも大変大切でございまして、その観点から林野高校は特に重要でございまして、林野高校につきましては現行の校長さん等々とよく連携をしながら、グーグルのクロームブックっていうものをグーグルの最初費用でもって導入することによって、かなり大幅に雰囲気が変わってまいりました。学習環境がよくなる、あるいはよくなった学習環境を振り返ってみると、日本の高校の中ではその分野においては一番にある日なっていたというなことがだんだん広まってまいりまして、生徒たちの自信にちょっとしたプラス要素がある。さらには、せんだっても先生方と懇談をしましたけども、先生方においても自信がついてくる、そういう相乗効果がございまして、来年度、平成30年度につきましては恐らくまた４学区、４クラスへ復帰する、これはほぼ間違いないと思います。そして、場合によっては、定員が今140でございますけれども、130台の後半に乗せるんじゃないかと、こういうふうに思っておりますが。このことは、実は先ほどの18歳の崖でいいますと、今まで、そうですね、津山、岡山とかいろんなところへ行っていた方々の市内居住の延長ということにつながるわけでありますんで、これも大きい。あるいは、話をまた戻しますと、小学校、中学校レベルで申し上げますと、私ども他の自治体に先駆けてインクルーシブというかユニバーサルデザイン教育というか、そういうとこに強いこだわりを持ってやってまいりましたが、おかげさまで、例えば今まで勝央町から見ると余り教育的に魅力がなかったかどうかは別として、教育を理由にして当市に転入することはほとんどなかったんですが、最近発達障がい対策が進んでるからというなことの中で当市へ転入をしていただける家族が出てくるというなことであります。

簡単に申しますと、誘致がないところは誘致せざるを得ないんですが、あるものについては教育というものを徹底的に強化するということが、議員にはおわかりになるかどうかわかりませんけれども、恐らく日本の地方創生の一つのモデルとして国が評価をしている、美作市をですね、というところの原点になってますし、美作市の方針は明確であるということで石破大臣などがおっしゃっている、そういうところにつながっているというふうに思っております。

補足を終わります。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

山本議員。

１３番（山本　重行君）

既存の学校についても強化をしてるんだというふうな答弁でございましたけれども、少なくとも私には何でこんなに学校誘致にこだわられるんかなあというふうなことをつくづく思ってるわけです。先ほど市長のほうでは、来年は林野高校は定員オーバーするんじゃないかと、そういうふうなことも言われましたけれども、現在は少なくともこの林野高校、定員割れが続いているというふうな状況でございます。以前は、ここには江見商業があり、大原高校があり、３校あったわけですけれども、そういった中で１校残った林野高校がそういった定員確保が難しいような状況、そうした中で学校誘致というのは、先ほど言われましたけれども、どうもまあ、先ほど市長はほかのことにもやってんだということでございましたけれども、どうも納得いかないというふうなことを思います。

公共施設の管理計画というふうなことで、私のほうもこっちのほうという形で思っておりましたけれども、この点については先ほど来本当に緻密な質問がございました。私のほうがこの点に触れるほどの能力もございませんので、この点は控えたいと思いますけれども。例えば、先ほど言われました市内の商店の学校教材あるいは食料品の購入だとか、地域の活性化につながるんだというふうなことを言われました。野田レーシングのときも、そういったことを言われたわけでございます。この場で人口増につながる、働く場の確保につながるんだというふうなことを何度も言われて、でも結果はやっぱりこれも失敗じゃなかったのかと思います。この点についての反省っていうのがないんじゃないかと思いますけれども、この点はどうでしょうか。

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

質問の趣旨はどの辺にあるか、微妙にわかりにくいんですけれども、まず第一に学ぶ場をつくっていくことっていうのは非常に大きな意味があります。午前中にもお話をしましたように、我々としては学ぶ場イコールまた働く場所であるということについては、これは大きな意義があるというふうに考えております。そして、今申し上げた幾つかの事例を見ますと、恐らく大きな成果が上がってくるだろうというふうに想定をされておりますが、それがお弁当を何ぼ買うとかって話は午前中したつもりはないんですけれども、そういうことにもつながれば、これは幸いだと思います。

野田レーシングにつきましては、30名程度の募集をという話があって、これは非常にありがたいと思っておりますが、今の現在の時点においてその段階には達していないということは事実であります。したがいまして、私どもとしても野田レーシング殿に対しては、新しいスポンサーも得ていただいた上で今後の拡充、つまり多くの生徒を集めるためにどうするんだということについて真摯に考えていただくように御指導、お願いをしているところでございます。加えて、数は少ないわけでございますけども、藤井聡太に並ぶというか、本当にそれぞれ世界の今日本の若者たちがすばらしい頭角をあらわして、そして日本人を元気づけてるという場面がいろいろございます。今申し上げたように、将棋では藤井さん、そして卓球でいえば張本さん、そしてレーシングでいえば野田樹潤さんと、こういうことになるわけでありまして、そういう人材を育てつつあるということは、これは大きな成果として評価をするという声もあることをあわせて申し上げ、そして繰り返しになりますけれども、今後さらに生徒あるいは外国からのお客様のトレーニングを含めて、当市の活性化につながるプランづくりをお願いしているということでございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

山本議員。

１３番（山本　重行君）

先ほどから公共施設の管理計画というふうなことで、全体的な施設の見直しというふうなことを、私も以前この場で質問をいたしました。まずそこを急ぐべきではないかというふうなことを申し上げてきましたけれども、できたもんがもう一つよくないから精査をするんだというふうなことでございました。当然、公共施設の管理計画というものを立てられまして、そういった中で学校というのもそこの中で一つ考えてみる必要があるんじゃないかというふうなことを申し上げて、この点については終わりたいと思いますけれども。この学校施設の関係について、この御挨拶というのが市長の後援会か何かの方、このふるさとを守り、育てようというような形で出ております。この中で、議長は、美作市議会は執行部とともに大変多くの仕事をしてきました。例えば、看護学校の誘致は私たち美作市議会が提案したものですとあるわけですね。市議会として提案をしたことはないと私は思っております。そりゃあ議長が議員としてされたんかもしれません。この点は明らかに間違ってるというふうなことを申し上げて、この質問は終わりたいと思います。

次、行きます。

議長（鈴木　悦子君）

５項目めがありますけど、いいんですか。

１３番（山本　重行君）

日体大の支援学校の誘致の施策についてというふうなことで質問をさせていただきます。

１点目。

日体大の誘致に向けて期成会等の準備を進めていると聞くが、どのような方々に、どのような内容で進めておられるのか。それから、議会との協議等はどうされるのか。やまゆり苑のような問題のある契約締結がされたこともあったところである。バレンタインパークは多く市民がさまざまな形で利用しているが、学校は安全・安心の面で包囲網等をすることとなり、市民の出入りすら制限を受けることとなるのではないか。支援学校の組織体制等、責任窓口について。もとより、私は障がいのある方たちの支援施策は必要なことだと思います。必要なこととして考えていかにゃいかん、そう思います。けさからの質問でも、商業高校の跡地をするんだというふうなことを言われてました。そういうふうに聞こえたかもしれません。それなら私は全然質問のあれが違うわけですから、その辺は前段として私は江見商業高校の跡地を利用されるんだったら、その点については全く意見が違うというふうなことを最初に申し上げて今の質問に入らせていただきたいと思います。

議長（鈴木　悦子君）

政策参与。

政策参与（山下　　亨君）〔登壇〕

期成会等の結成に向けて、どのような内容で、どのような方々に、あるいはどこまで進めているのかとの御質問でございますが、本市のまち・ひと・しごと創生総合戦略というのがございますが、それにおきまして日本体育大学と連携する特別支援学校高等部を誘致する事業、これは障がい者の学び場をつくろうという事業、これを重点施策として掲げております。本市では、この構想の具体化を研究しているところでございます。

さて、県北の美作市、特別支援学校の開設を美作市にという期待の声が大きく聞こえてまいります。県内各地の障がい児を持つ保護者、これはもちろんでございますが、有識者のほか、国や体育系大学などからも聞いております。また、特別支援教育に関する市民向けの講演会も今まで開催されております。今、状況を報告しておりますが、最近では平成28年９月２日に作東バレンタインホテルで行われました日本体育大学の松浪健四郎先生、松浪健四郎理事長による御講演、それから平成29年５月27日に湯郷地域交流センターで文

部科学省の藤原誠様、これは当時の初等中等局長でございますが、その方による御講演、こういった講演がなされております。講演会には、多くの市民も参加されました。作東地区の市民の中からも参加されておりますが、特別支援学校を江見に誘致したらどうかっていう声が広がっていることを聞いております。もとより、作東地区の市民の間では、先ほどもお話に出ておりましたが、旧江見商業高等学校の跡地問題をどうするか、作東総合支所へのアクセスが不便だ、あるいは老朽化した作東公民館を建てかえていただきたいといったような議論がなされております。大原地区に大阪の滋慶学園の専門学校あるいは高等学校の開設の動きがありましたから、これが刺激になって作東地区の活性化を求める声がより大きくなっているというふうに聞いております。

一方、江見の区長さんたち、あるいは障がい者団体の幹部の方々、あるいは商工会の関係者、あるいは消防団の幹部の方々、教員ＯＢの方々などから、江見には福祉関係の施設が多くあるわけで、作東地区は福祉のまちづくりをもっともっと進めるべきだというような声、そして特別支援学校を作東地区に誘致するための期成会をやったらどうかとの声が市役所のほうに寄せられてきました。こういった声が発端となりまして、期成会結成の動きが進んでおります。そして、寄せられた有識者の方々によってメンバーが推薦されたり、あるいは本人の意思確認等が行われたりしておりました。その結果、有識者35名のメンバーをもって11月の下旬に期成会の準備会が作東公民館大会議室で開催されました。会長１名、副会長は５名、幹事５名、理事24名が決定されたのでございます。ちなみに会長には、美作市身体障害者福祉協会副会長で、作東支部長の安東充宜先生が互選されました。先生は、勝間田高校の教員をされた方です。みずからも障がい者の方でございます。その後、12月中旬に、美作市特別支援学校誘致期成会第１回総会が、作東公民館大会議室で開催されました。この総会では、萩原市長を招請しまして、美作市特別支援学校の構想や学校整備をする上での想定される課題等につきまして説明をいただきました。安東充宜会長の議事進行によりまして、参加者による質疑がなされました。その結果、作東地区に特別支援学校高等部を開設していただきたいという要望が全会一致で決議されました。

なお、作東公民館が老朽化しているので改築してほしい、あるいは高齢者や障がい者が行くのが不便な作東総合支所、これを下に移転してほしいといったような強い要望、意見も出されました。これも了承されております。次回の総会や三役会議の時期は未定のようでございますけども、期成会からの相談があれば対応してまいりたいと思っております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

政策審議監。

政策審議監（福原　　覚君）〔登壇〕

失礼いたします。

私のほうから２項目め、３項目め、４項目めについて御回答させていただきたいと思います。

まず、議会との協議の件でございますけれども、日笠議員にもけさお答えさせていただきましたけれども、特別支援学校の設立につきましては知的障がいや自閉症、情緒障がい、発達障がいの疑いのある児童・生徒も年々増加する傾向を踏まえ、教育カリキュラムや卒業後の就職など特別支援教育を必要とする方々のニーズを踏まえた学校運営を検討しているところでございます。また、障がいに応じた特別な指導を行う指導形態も必要になっており、地域における特別支援教育を推進するセンター的機能を担う機関も必要であると考えております。

現在、特別支援学校の教育プログラムなど具体的な内容につきましては、文部科学省や岡山県、日本体育

大学と協議を重ねているところでございまして、具体的な内容がまとまった際には当然議会のほうで報告、説明をさせていただきたいと考えているところでございます。

また、設置場所については、まだ具体的にどこでという、先ほど議員申されましたように江見商業跡地、そしてバレンタインパークが候補に上がっとるわけでございますけれども、落ちついた教育環境と教育プログラムに必要な施設、設備、拠点機能等を踏まえるとともに、市民の利便性や施設の有効利用などを考えて、市民の皆様の御利用に不便のないよう十分検討してまいりたいと考えているところでございます。

また、支援学校の組織体制等につきましては、今後設立準備室を立ち上げまして、基本計画や教育プログラム、卒業後の就職などの検討を行ってまいりたいと考えております。また、基本計画や教育プログラムなどの策定には、学校法人日本体育大学にアドバイスや人材の確保に協力をいただくとともに、学校法人日本体育大学と連携して新たに立ち上げる設立準備室を窓口にしてまいりたいと考えているところでございます。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

山本議員。

１３番（山本　重行君）

２回目の質問です。

答弁される方が、山下さんから福原審議監に変わられたわけですけども、答弁が何で変わるんかというのはよくわかりません、それはまあ執行部の勝手でございますから。ただ、私がおかしいと思うのは、山下参与はこの会議にずっと行っておられるというふうに私は市民の方々から、何人の方からか聞いてるわけですね。参与が行っとられるのは、一番内容的によく知っとられると思うんです。それを途中から変わられる、これはおかしいんじゃないかなというふうなこと、まず申し上げておきたい。作東の活性化の声が上がってる、どの程度の方が言われてるんですかね、どこで言われてるんですかね。そういった活性化の声が高まってることを聞いたという、聞かれたと、全く他人事のような形ですね、言われてるんじゃないですか。しかも、僕が聞いてるのは、期成会等のメンバーについては山下さんが回ってお願いをされたんか依頼をされたんかよくわかりませんけども、そういった形で進められるというふうに私は聞いてますよ。どちらが違ってるんかわかりませんけども、言われてる市民の方があるかどうかわかりません。私が聞いてるのは、そう聞いてます。

それから、公民館云々という話がございました。あそこは江見の公民館ではございません、作東の中央公民館です。もしそういったことがあるならば、やっぱり作東地区全体の方にいろんな話をするべきじゃないんですかね。それはおかしいと思いますよ。

それから、もう少し教育プログラム、具体的なあれを決めてからというようなことを言われました。これもおかしいんじゃないですかね。先ほど市長のほうが、一番最初に質問された方に構想とかというのを述べておられました。市長は、江見地区の、自治区の会議に行って、バレンタインパークに日体大の支援学校の誘致する、そういって言っとられるわけですよ。私が聞いてるのは、そういうに聞いてます。それから、作東公民館を建てかえて、作東総合支所を入れる。江見商業高校の跡地のことは、なぜか３年後に考えてほかのことをするというふうなことを言っとられるわけですね。これはどうなんですかね。

議長（鈴木　悦子君）

政策参与。

政策参与（山下　　亨君）〔登壇〕

私山下が、職として具体的にきちんとした形で動いたということは、半分半分だと御理解いただきたいと思います。というのは、答弁の中で最初申し上げましたように、そういった期成会をつくって誘致したらどうだという声が私のほうに、あるいは市役所の中の職員のほうにも入ってきておりましたので、これについては期成会っていうのは、要するに作東地区、これは江見でもどこでもともかく皆さんで一致団結して、ここの地区に学校を、つまり学びの場をつくりたいんだという人たちの集まりをつくるわけでございますから、そういった方たちがどこにいらっしゃって、どうなのかっていうことは、私は探ってみました。その中で、先ほどちらっと申し上げましたが、実はこういう人に集まってもらって、こういう議論したらどうだっていったような意見がございました。消防団の幹部の方とかいろんな方からそういった提案がありました。私も実は余り詳しくこの作東地区のメンバーの人々、有識者なる人たちを知りませんもんですから、そうした人の声を聞きながら判断をしながら、どのくらいの規模にするんでしょうかねっていう相談を受けたり、あとこちらのほうからも声をかけたりしながら期成会は進めていったものでございます。その点は間違いございません。

作東公民館云々っていうのは、これも作東公民館がどの程度古いのか、老朽化してるのかっていうのは一度は見にまいりました。あそこで使っておられる方が月に700人ぐらいおられます。年間8,000人超しておりますが、こういった方たちの使い勝手がだんだんだんだん悪くなってるということでございますし、それからあそこをつくりかえるとかというようなことがもし希望どおりいくようになれば、それはもうシンボルタワー的な要素も持つでしょうから、これは活性化の一つになるんじゃないかと、そういうように私は思います。それは賛成、賛成といいますか私の立場からも将来の作東の発展、美作の発展のためには必要なことではないかと思います。

そういったことでございまして、バレンタインパーク云々っていうようなことはいろいろとございますが、詳しく具体的に出たわけでありませんが、ただおのずとあそこの山の上にある総合支所が不便であると、何とかっていうことはもうあそこに役場が、作東町役場ができたころからいろいろと聞いておりました。我々も、私も実は自転車で上がり、歩いて上がるという不便さを感じておる人間の一人でございますから、それは何とかしなきゃいけないんだなと思います。

そういったことでございまして、私からはこういった答で勘弁していただきたいと思います。〔降壇〕

〔「休憩」と呼ぶ者あり〕

〔「議長、ちゃんと〔聴取不能〕」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

しばらく休憩します。

10分間休憩します。

午後３時47分　休憩

午後３時57分　再開

議長（鈴木　悦子君）

休憩前に戻り会議を開きます。

山本議員、３回目の質問です。

１３番（山本　重行君）〔質問席〕

先ほど質問の中で、質問の答弁がなかったようなところもあるかと思いますけれども、２点、確認をしときたいと思います。

バレンタインパークに日体大の支援学校を誘致するという話、それから作東公民館を建てかえて作東総合支所を入れる、その２点について山下参与は聞かれていないですか。市長は、この点をどこかで話をされてないですか。２人に確認をします。

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

きょうの午前中の日笠議員の御質問にお答えをいたしましたけれども、日笠議員も３月に当市の市長選挙が控えてるってことで答えれる範囲でと、こういうことでありました。したがいまして、私としては今まで累次の議会において申し上げたことを整理、要約をして、そして理念というか目標というようなことでお答えをさせていただきました。それ以上のことをこの場で申し上げるのはやや注意を要するという日笠議員の御配慮もあったわけでございますけれども、それはそれといたしまして一方で今度は市長選の立候補予定者としてはさまざまな公約というものをお話をしていく立場にもございます。ただ、そのことをこの場で申し上げるのは不適切であるということも御理解を賜りたい。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

いいですか、ありませんか。

政策参与。

政策参与（山下　　亨君）〔登壇〕

バレンタインパーク云々とか、それから作東公民館云々っていうお話、これは耳にはよくします。耳にはよくしておりますが、私があの当時、10月ぐらいからでございますが、期成会をどうこうしていくときといったときの相談にはそういう声は聞いております。江見の人は江見の人なりにいろいろ考えて〔聴取不能〕、あるいは自分たちのこれから、子どもたち、孫たちがここで住んでいって、学校ができて、学びができてした場合どうするんだっていうなことは彼らなりにアイデアを持って、いろんな考えを持ってやっておるんだと思います。それは、私の親しい友人も、もちろん私にいろいろなことは話をされますが、私自身が何しろ立場が立場として、そうですね、そういうアイデアもありますねって言ってんのは、これについてのお話はしてまいりました。そういうことはございますが、それ以上でも、それ以下でもございません。期成会の取りまとめをきちんと私が行政マンとしてやったわけではございませんし、彼らは彼らで自発的に作東のためにということで、千載一隅のチャンスじゃないかっていう方もいらっしゃいました。そうやってみんなが頑張っているということでございましたので、私もそれに対応したことでございます。お答えにならないかもしれませんが、以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

山本議員、総括です。

１３番（山本　重行君）

先ほどの片や公約だと言うし、片や最初は職として行ったというふうなことで、どうもそこの点は非常に矛盾してるんじゃないかというふうには思いますけれども、総括でございます。

今回、幾つかの市政の問題かなあというふうなことを、私は質問をしてきました。その中で、特に私が今回触れませんでしたけれども問題だと思いましたのは、やまゆり苑の一部の土地を無償の貸与を、奥さんが取締役をされてる、その会社に貸与されてた、少なくともあの時点ではそういう形だったというんで、この点はやっぱり最大の問題だというふうに私も思います。

今回のバレンタインパークという大きな市の施設、先ほど来はっきりしてないということでございますけれども、これをごく一部の者にだけ説明をして進めておられるのならば、これは非常に問題じゃないかなあと、市民の皆さん、もっと皆様に知らせるべきだというふうに思います。

それから、先ほど参与の話の中にございました。日体大の理事長である松浪健四郎さんですね、この方がお話をされました。いいお話でございましたけれども、国会議員のときですね、松浪氏は秘書の給与の問題で非常に問題になった方でございます。市民の皆さんもぜひ一度松浪とインターネットを引いていただければ、いろんなことがわかると思います。そういったことを多方面から、今回の日体大の誘致の件も検討されて、そしてこのたびの市政そのものについて十分配慮をされますよう要望して、私の一般質問を終わります。

議長（鈴木　悦子君）

以上をもちまして通告順番４番、議席番号13番山本重行議員の一般質問を終了をします。

お諮りします。

本日の会議はこれで延会したいと思います。御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

異議なしと認めます。

本日はこれで延会することに決定しました。

本日はこれで延会します。

再開は５日午前10時からです。大変御苦労さまでした。

午後４時03分　延会

平成３０年２月５日

（第　　３　　号）

1. 議　事　日　程（３日目）

（平成30年第１回美作市議会３月定例会）

平成30年２月５日

午 前 10 時 開議

於　　議　　場

日程第１　一般質問

2. 出席議員は次のとおりである（18名）

１番	青　山　　慶	２番	和　田　広　宣
３番	岩　﨑　清　治	４番	岡　野　鉄　舟
５番	中　山　忠　明	６番	倉　地　重　夫
７番	重　平　直　樹	８番	安　藤　　功
９番	金　谷　の り 子	10番	岡　本　泰　介
11番	山　本　雅　彦	12番	萬　代　師　一
13番	山　本　重　行	14番	尾　髙　誉　久
15番	岩　江　正　行	16番	日　笠　一　成
17番	内　海　健　次	18番	鈴　木　悦　子

3. 欠席議員は次のとおりである（なし）

4. 地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名（20名）

市　長	萩　原　誠　司	副 市 長	横　山　博　光
教 育 長	大　川　泰　栄	政策参与	山　下　　亨
政策審議監	福　原　　覚	総務部長	岡　本　和　之
危機管理監	皆　木　佳　久	企画振興部長	池　田　義　和
総合戦略監	大　森　洋　平	市民部長	角　南　良　雄
環境部長	妹　尾　昌　弘	経済部長	遠　藤　宏　一
保健福祉部長	江　見　　勉	建設部長	真　野　弘　紀
教育次長	山　名　浩　二	消 防 長	山　崎　正　雄
会計管理者	山　本　和　毅	税務課長	玉　櫛　哲　也
企画情報課長	小　林　健　一	スポーツ振興課長	平　田　幸　春

5. 職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名（３名）

議会事務局長	尾　崎　功　三
課　長	大　佛　裕　彦
主　任	井　上　大　佑

午前10時00分　開議

議長（鈴木　悦子君）

おはようございます。

携帯電話の電源を切っていただきますようお願いいたします。

傍聴者の方は、傍聴規則第８条にもありますように、傍聴席にあるときは静粛にしていただきますようお願いいたします。傍聴者の方が傍聴規則が守れない場合は議場より退席をしていただきます。

２日に引き続き会議を開きます。

15番岩江正行議員が少しおくれるとのことです。

定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

日程第１　　一般質問

議長（鈴木　悦子君）

日程第１、「一般質問」を行います。

それでは、通告順に発言を許可いたします。

通告順番５番、議席番号11番山本雅彦議員の発言を許可いたします。

山本議員。

１１番（山本　雅彦君）〔質問席〕

それでは、発言の許可をいただきましたので、この定例会の一般質問をただいまより行ってまいります。

早いものできょうはきさらぎ５日ということでございまして、昨日が立春ということでありましたようです。随分と春が近づいてきたなという思いがしておるわけでございます。たしか旧暦では今月16日が旧正月ということになるようでございまして、寒さは、寒いですけども、少しずつ緩んでくるということでございます。私もこういう呼び名が以前も申し上げましたように大変好きでございまして、一般的には余り使わないんですけども、こういうところで使うと少し厳かな雰囲気になるかなというふうに思いまして使わせていただくんですけども、きさらぎは衣をさらに着るというそういう意味もあるようでありますけども、ほかには初花月とか梅見月とか、そういうことを言うそうであります。よくこの庁舎の庭にもロウバイの花がありまして、それが咲いたりあるいはフクジュソウが咲いたりしてくるわけでありますけども、私は知らなかったんですけど、フクジュソウというのは毒があるんです、あれは。御存じでした、皆さん、教育長は知っておるね。たしか一定の量を食べると死んじゃうんです、我々も。文献によると、55キロぐらいの方が38グラムのもののフクジュソウを食べると死んじゃうという、そういう例があるようでありますけれども、気をつけていただきたいなというふうに思います。

春がそこまで来ているということでありますけども、今少し騒がしくなっておりますけれども、美作市の将来に対して、若い方々を初め、市民の皆様にさらに御期待をしていただけるように、私も皆様とともに、さらに頑張ってまいりたいと、このように思うところでございます。

先ほど、この定例会一般質問の挨拶の中ではございますけども、この定例会で私は３つの項目の通告をしております。先ほど申し上げましたように、３月には首長の改選を控えておりますので、余り政策的なことは申し上げないでおこうというように思っております。そういった質問については次の定例会に譲るということにいたしまして、今回は少し角度を変えての質問というふうにしたいと思いますし、何よりも朝一番でございます。きょうの天気のように、爽やかな答弁をよろしくお願いをしたいと思います。少々難しい質問

でございましても、わかりました、やりましょうと、そのようにおっしゃっていただければ非常に早く終わるというふうに思いますので、どうかそれを少し御自分で練習していただきながら答弁していただいたらというふうに思っております。

それでは、１項目めの質問に入らせていただこうと思います。

その前に、今回の質問の３項目について、一応申し上げておきますけども、まず１項目めが高速バスについてです、これについてお尋ねをしております。２項目めがＪＲ姫新線そして智頭急行鉄道の利用についてということ、３項目めがふるさと納税について改めてお尋ねをしておきたいと、このように思っております。

そのまず第１項目めでございますけれども、中国道そして姫路鳥取道の路線バスの利用状況、また高速バスの利用状況についての現在の状況、そういったデータがおありでしょうか。この辺については、路線バスとしては大阪、京都、夜行バスでは東京行きというのがあるようなんですけども、また姫路鳥取道については、路線バスとしては、鳥取から姫路行き、また夜行バスとしては、鳥取倉吉からですか始発は、姫路鳥取道から中国道を経由して東京品川に向かっているバスがあるようでございます。こういったところの今の状況について、まずはお尋ねしてみたいと思います。よろしくお願いします。

議長（鈴木　悦子君）

市民部長。

市民部長（角南　良雄君）〔登壇〕

おはようございます。

それでは、山本議員の１回目の質問にお答えさせていただきます。

当初厳かなということがあったり爽やかな答弁ということがあったんですけれども、それにそぐうかどうかわかりませんけれども、よろしくお願いしたいと思います。

それでは、市内の高速バスの利用状況、データ分析、改善点についてでございますが、中国縦貫自動車道を運行している事業者は２社であります。共同で運行している状況で、バス停ごとの乗降人数は、業者が行った乗降調査期間での数値ではありますが、報告をさせていただきます。平日の１日平均の大阪方面から津山行では、美作インターで乗車が11人、下車が49.4人、作東では乗車が5.6人、下車が15.2人となっております。また、津山方面から大阪行きでは、美作インターで乗車が45.7人、下車が16.7人、作東で乗車が15.2人、下車の方が9.8人となっております。休日では、１日平均の大阪方面から津山行きでは、美作インターで乗車が8.6人、下車が58人、作東で乗車の方が13人、下車された方が12.5人となっております。また、津山方面から大阪行きでは、美作インターで乗車が60.9人、下車が11人、作東で乗車が14.1人、下車が12.8人となっております。

津山駅発大阪駅行きの種別運行は、急行、快速急行、特急があり、早朝から夕方まで１時間に２便の運行があります。そのうち、美作インターと作東停留所には全てのバスが停車し、乗降できるようになっております。そのほかとして、土曜休日運行の超特急は作東停留所には停車しない状況でございます。このように美作市内から京阪神方面に、京阪神から美作市へ約３時間程度、運賃は2,500円から2,800円程度となっており、利用者の多くが仕事、観光、帰省、通学などに利用されております。

次に、鳥取自動車道の高速バスの運行について、事業者は２社であり、共同で運行している状況で、この路線は、鳥取から姫路間を１日４往復しており、美作市内の停留所は大原インター１カ所となっております。大原インター停留所の利用人数は、１日平均で乗車は上下線ともゼロ人で、下車は0.2人から0.6人の利用の状況です。この路線は智頭急行が並行して運行していることから、利便性など地域の方の利用が低調な

状況があります。

中国道の運行についての改善点でございますが、美作インター停留所を御利用いただく方の送迎用の自動車の停車場所や駐車場は、隣接する商業施設を御利用されていましたが、利用に規制がかかったことから、早朝や夜間などの御利用時には自動車の停車場所や駐車場に苦慮されている状況がございます。このことから、隣接するもうもう工房の跡地を臨時的な駐車場として当面無償で御利用いただけるようになっております。よろしくお願いをいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

山本議員。

１１番（山本　雅彦君）

中国道そして姫路鳥取道についての高速バスの利用状況について答弁をいただきました。

中国道については、特に美作インターでの乗降が上下線とも人数が多いようでございまして、このあたりが一つのポイントになるかなというふうに思っております。

そして、姫路鳥取線につきましては、路線バスについては、これは智頭急行というこれがあるんで、なかなか利用が少ないんだろうというふうに思うわけであります。これはよく理解できるわけでありますけれども、これは料金的に、例えば大原インターから姫路まで行くバスの料金と、智頭急行で行くのとどちらがどうなのかというこの辺も気になるわけでありますけれども、多分バスのほうが安いんだろうというふうに思っておりますが、利便性からいうと、鉄道のほうがいいんだろうということだろうと思います。これについては、今なぜお聞きしたかというのはこの後また申し上げますけれども、この美作市内を走っている２つの高速道、そしてこの２つの高速道を運行しているバス、これを改めてその利用を見直す必要があるということで今お尋ねをしているわけであります。

この中で、今路線バスについては御答弁いただきましたけれども、夜行バスというのがありますよね。この夜行バスについて、今度はお尋ねするんですけれども、この中国自動車道美作インターまたは作東インターでの、作東の場合はバス停ですけども、乗車をもう少し考えていく必要がある。今夜行バスの話をしてるんです。夜行バスは夜、この辺ですと津山駅からお乗りになって、東京新宿のほうに行くバスもあります、そういったバスに乗車する場合、現在は岡山のほうから上がってきて津山の駅の前で、ここはきれいに整備されましたけども、そこで乗って、そして津山インターに乗ったらもう東京までおりないということなんです。こうなると、例えば美作地域の人は津山まで行かなきゃいけない、しかもその乗車時間というのが大体10時ごろなんです、10時過ぎぐらいか、そうすると少し距離もあるので随分と不便をされている方もあるんだろうなとそういうふうに思うわけであります。

そこで、この中国道美作インターまたは作東バス停での乗車は、この夜行バスについてこういう乗車ができないんだろうかと考えるんです。今さっき市民部長の答弁がございまして、もうもう工房の跡地もたしかこの２月から無料開放されているということでありました、無料ですよね。そういうことで開放されているので、現在まだ前の建物は残ってますから、これを撤去して、そして新しい交通結節点としてどのように整備されるのか、具体的なことはまだわかりませんけども、そういう整備をするという予定があるわけでございますから、何としてもここの美作インターで津山を出た後、岡山県の最後に美作インター、または作東バス停かに乗っていただけるようなそういう乗車ができないだろうかと、これは事業者の方との協議になると思いますけど。

実は先日この中国ハイウェイバスを運行している事業者の方の１社の方からお聞きしたんですけども、向こうから話があったんです。どういう話かというと、今ＪＲなんかですと、改めて前もってチケットを買っ

ておけば、パーク・アンド・ライドというのがあります、そこに車をとめさせてもらって乗車するという。この美作インターでもし乗車ができるようになれば、パーク・アンド・ライドとしての駐車場の確保をぜひともお願いしたいという話があって、多分これは幾らか費用負担がどこも発生するんだと思います。これは事業者が負担することになると思うんですけれども、そういうこともありますので、このパーク・アンド・ライドも含めて、例えば今申し上げたもうもう工房の跡地を再整備するんであれば、そこにそういった市民の方々が例えば１日無料でとめられるとか、あるいは２日でも３日もとめてもわずかな使用料で済むとか、そういうことも考えながらパーク・アンド・ライドもぜひとも検討していくべきじゃないかなというふうに思います。

そういうふうな利用者の声がありましたので、先ほど乗降の人数は、これは路線バスの乗降の人数ですけども、多分夜行バスもかなりの人数があると思うんです。そういう方々がもしもこの美作インターの新しい停留所ができれば大いに活用していただけると思いますし、この辺は将来の美作市のことも考えながら、改めて御検討いただいたらどうかなというふうに思うわけであります。

一方で鳥取道、つまり鳥取姫路道でありますけれども、先ほど路線バスについては、これはなかなか乗降客が少ない、余りいないということなんですけども、夜行バスについては、現在鳥取県の智頭町にちょうど県境をちょっと越えたところにバス停がありますよね、あれは福原と言うんですか、大原の人はわかりますよね、そうですよね、あのバス停も結構皆車をとめて、そこから東京品川行きに乗っていくという方もありまして、私は知人友人なんかでも、大原の方それから東粟倉や西粟倉の方もあそこまで行くんです。あっこまで行って東京行きに乗って、また帰ってくるというそういう方も随分といらっしゃる。そういう方々が例えば智頭急行に乗って大阪や京都まで行って乗りかえていくというよりも、あらかじめ夜行バスに乗ったら、もう乗ったまま向こうに着くわけですから、そのほうがよっぽど便利がいいと、しかも金額的にも安いということになります。そういうことで、大原のインターチェンジに高速夜行バスのバス停を設けることができないだろうかと、もちろん乗降客のそういったアンケートも一回とってみる必要がありますけれども、そういうことでこの姫路鳥取道も活用しながら、東京行きの夜行バスの停留所もひとつ検討していかれたらどうかなということを考えておるわけでございます。これが当初運行し始めたころから見ると、今は少し社会状況も変わってきつつあります、また美作市全体もそういった交流人口というのが今後変わってくるだろうと、また今現在も変わってると思うんです。そういう時代の変化を見据えながら、高速バスについても、より利便性の高い方法を考えるべきじゃないかというふうに思うわけであります。そういったことで、どのようにお考えになっていかれるかお聞きしておきたいと思います。２回目の質問です。

議長（鈴木　悦子君）

萩原市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

主に東京行きの夜行バスについてのお話でありますが、その議論に入る前に、基本的な交通についての方針を確認をしたいと思っております。

交通の利便性がいいということは、交流人口のみならず、定住人口の増加にも大きな意味があることは間違いないと、これが１点目です。２点目は、そういう中で、私どもの地域を初め、幾つかの地域が競合、競争しているというのが２点目であります。そして、その我々のライバルの地域はどの辺かといいますと、県内ではやはり津山市でありますとか真庭市、それから隣接したところでいうと、智頭であるとか鳥取であるとかそういうところになってくるわけであります。したがいまして、３点目として、我々としては今申し上げた地域全体がよくなることもそれはいいんですが、できれば私どもの地域がほかの地域よりもよくなる、

これが基本的な方針にする。つまり、非常に端的に言うと、津山よりも便利な町ですねということにするのが、津山の方には申しわけないんだけれども、非常にわかりやすい目標ということになるわけであります。

路線バスにつきましては、先ほどお尋ねの中に、あるいは市民部長からの答弁の中にありましたように、大阪行きの路線バスについては、うちのほうが便利がいいんです、これは、これはもうまさってるわけです。そういたしますと、次に問題点になるのが、夜行バスの便、東京行きがどうかということについては、今の現状は津山のほうが便利がいいんです。これはやはりぜひとも変えていかなきゃいけない。どういう問題があったかというと、これもお尋ねにあったように、夜行バスに乗って行かれる方の大半、つまり７割５分ぐらいは自家用車でそのバス停まで行くということに１人の場合はなりますし、あるいは御家族があって送っていただくということになる場合においても、やはり駐車場の整備というのが非常に重要でありまして、駐車場があるところのバス停をどう生かすかということだったんですが、今までは市内にあるスーパーの駐車場を何となく借りることができたのができなくなったということで、より問題が明確になって、結局もうもう工房の跡地を駐車場として活用する、当面無料ということであります。この当面無料といいますのは、バス会社の方々との関係で、行かれる方も当然その中に含まれておりますので、これからえらい混雑が起こって、これはさばかにゃいかんという状況が出るまでは無料のパーク・アンド・バスライドというものに結びつくというふうに考えております。したがって、前提条件がある程度できましたんで、議員の御提案もありあるいは議員の御支援もいただきながら、当局としても事業者の方々にそろそろ始めませんかと、美作で乗って、新宿か品川かは別として、東京に行けるというようなことを考えませんかということを言うべき時期に達してると、こんなふうに考えております。

それから、鳥取から東京行きというやつもございまして、これについては、実は西粟倉村長も非常に強い関心を持っているわけでありまして、少なくとも我々と西粟倉村共同でこれは考えていくべき課題の一つだと思っております。具体的には、この便につきましても、駐車場の整備というのがどこまであるか、あるいは駐車場の整備がされているところとバス停との距離感がどんなものかというところが重要なポイントの一つになってくるわけでありまして、こういったことは具体的にどこが一番いいかについては、私も整理仕切れておりませんけれども、必ずしも大原インターではないかもしれない、あれはおりてきてまた上がるんですけども、どこへ駐車場を整理するか。前に国土交通省がつくった広場がありますんで、あれかなとも思ってみたりするんですが、その辺の状況もよく考えながら整理をしていきますが、基本的な方向性としては同様であります。この深夜便については、ぜひ積極的に対応をしていくべき課題であろうというふうに思っているところでございますので、相変わらずの御支援を頂戴できますようにお願いをして、答弁といたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

山本議員。

１１番（山本　雅彦君）

市長から前向きな御答弁をいただいておりまして、これは我々としても、私としても積極的に進めていきたいなというふうに思っておりますので、今後の検討をできるだけ早く進めていく必要があろうというふうに思いますので、そのように要望して、この１項目めを終わりたいと思います。

続いて、２項目めに入ります。

議長（鈴木　悦子君）

どうぞ。

１１番（山本　雅彦君）

２項目めでございます、これはＪＲ姫新線です、それから智頭急行鉄道、この利用についてということでお尋ねをしておきたいと思います。

まず、このＪＲ姫新線とそして智頭急行鉄道の現在の利用状況について、また市内の方がどの程度利用されているかというのがわかりましたら御答弁いただきたい、よろしくお願いします。

議長（鈴木　悦子君）

角南市民部長。

市民部長（角南　良雄君）〔登壇〕

ＪＲ姫新線、智頭急行鉄道の利用状況についてでございますが、まず姫新線の利用状況から申し上げますと、平成３年度を100として、平成28年度は39.7％まで減少しております。美作市内の４駅の１日の利用人数は、昭和62年度を100として年々減少し、平成28年度では、定期利用が57、普通利用が16、合計で40まで減少しております。

次に、智頭急行の平成28年度の利用状況につきましては、スーパーはくとが約63万人、スーパーいなばが約26万人、普通列車が約24万人の利用がございます。平成22年に鳥取自動車道のほぼ全線開通などの影響もあり、利用者が減少したものの、沿線高校の通学者の増加などにより、平成27年度から徐々にではありますが、回復しております。また、旧大原高校の跡地に学校法人大阪滋慶学園が平成30年４月開校に向けて整備を進めている美作市スポーツ医療看護専門学校と滋慶学園高等学校美作キャンパスの生徒の始業時間、終了時間を考慮したダイヤ改正が行われるとともに、一部列車を１両編成から２両編成になり、混雑緩和の図られる予定となっております。

次の利用促進についてでございますが、姫新線では毎年湯郷Ｂｅｌｌｅのホームゲームにあわせて利用促進キャンペーンを実施しており、遠くは東京、神奈川、大阪、広島、香川、県内では岡山、倉敷、津山市などから参加していただいております。また、市内小学生による校外学習では、体験利用も計画実施しております。

次に、智頭線の利用促進は、利用促進協議会が主体となり、各沿線自治体でのイベントや各駅や沿線施設のスタンプラリーなどを実施しております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

山本議員。

１１番（山本　雅彦君）

姫新線と智頭急行鉄道の利用状況についてお答えをいただきました。

ここにこういうパネルがございます。

これは、議長の許可をいただいておりますけれども、議員の皆さんにもお配りしてありますけど、皆さんのはカラーでございませんけど、これはどこかわかりますか、これを御存じですか。ここは、実は平成24年１月27日から大手の保険会社のコマーシャルで使われました。多分３カ月ぐらい放映したんだろうと思うんですけれども、最初に見たときに私はすごくうれしくなって、どこだろうかなと思いながら見ようたら、これは江見じゃがなというそういう中で、昔何回も乗ったことがあるわけですから、当然懐かしく思ったわけであります。こういうことを民間の会社がコマーシャルで取り上げて全国的に流したわけです。残念ながらそのときに美作市は、たしかみまさかフィルム・コミッションが幾らか協力したと思いますけれども、余りこのことについて触れてなかったように思うんです。せっかくの機会だからもう少しこれを活用すればよかったのかなと私も自分自身で反省をしたわけでありますけども、せっかくのこういったことが全国的には放

映されるところでは、時にはぜひ活用できたらなというふうに思ったもんですから、余り大きな活用はできなかったというふうに思っておりますので、今改めて紹介したんですけども、実はこの江見駅というのは全国で２つあるそうです。もう一つあるのは、千葉県の内房線というＪＲがあるんですけど、そこの中に全く同じ江見駅というのがある。ところが、ここの千葉のほうは大正11年に開業したもんですから、美作江見駅は昭和になってから、昭和たしか９年だったか、昭和９年です、ですから向こうのほうが先だったので、江見駅はあのまま残って、こちらは美作江見駅というふうになったんだろうと、これは私の説です、書いてあったわけじゃありませんけども、そういうふうに私は理解したんですけども、駅そのものが余り活用されなかったということは少し悔やまれているということを今申し上げているわけであります。

そこで、本題に入るわけでありますけども、この江見駅については、先ほど申し上げましたみまさかフィルム・コミッションを初め、作家のあさの先生のバッテリーにも新田駅として登場するわけであります。そういうことで、少しずつ全国には流れたわけです、そしてなおかつ先ほど市民部長の答弁にありましたように、美作市内にはＪＲの駅が４つあります、美作土居駅そして美作江見駅、楢原駅と林野駅です。この４つの駅をもう少し活用できないかなというふうに思うんです。今この駅に行ってごらんになった方があるかどうかわかりませんけども、私もちょくちょく寄りますけども、もう少し何とかならんだろうかなと思うんです。ただ駅があるというだけで、そこに行って休憩しようとか、あるいはトイレを使おうかとかなんてそういうふうなことを思う人は余りいないだろうと、やむを得ず行く人はあるかもしれないけど。ですから、この駅をもう少し整備をするということも考えていいんじゃないかなというふうに思うんです。また、その駅の整備ということになると、私は今現在ここの林野駅についても、この周辺を一体的に整備をする必要があるというふうに考えております。詳しくはまたいずれの機会に申し上げますけれども、このあたりは先に庁舎の検討委員会もそこのあたりの場所については一応触れていらっしゃると思いますし、あのあたりは、この美作市にとってみれば一番の中心地でもありますので、このあたりを林野駅の整備というものも含めながら、一体的に再開発してはどうかなというふうに思うわけであります。その中で、この残りの駅もできれば今のようなレトロな風情をたたえた駅もいいんですけども、若い方からお年寄りまでがそこへ行って休憩できるような、そういう駅に改修していくということも考えていく必要があるんじゃないかなというふうに思うわけであります。このＪＲの姫新線について、改めて市内の駅の整備というものを考えていかれたらどうかなということが１つ。

それからもう一点は、先ほど答弁にございましたように、智頭急行については利用者がかなりたくさんいらっしゃって、特に京阪神もそうなんですけれども、岡山からの利用客というのも随分あるんだなと改めて思うんです。ここのところをもう少し考えていく必要があるなということでございまして、このＪＲの佐用駅をもう少し改良できないかなというふうに思うんです。例えば、岡山を出発した汽車が津山駅を経由してこちらへ来る、そして佐用駅から切りかえて鳥取へ行く、あるいは岡山から出発した電車が上郡を経由して佐用駅へ来て、美作まで来る、林野まで来る、津山が黙っとらんかもしれんから津山まで行くとかということもあるかもしれんけども、そういう新しい路線というもの、鉄道路線というものを１日に１本でも２本でも考えていけたら、もう少し美作市にとってみれば交流人口がふえてくる要因の一つになるだろうというふうに思うわけであります。先ほどの答弁にありましたように、この専門学校の生徒も利用するやもしれません。そうなれば、交流人口の増大にもさらに拍車がかかってくるということもあろうかというふうに思うわけであります。美作市にとってみれば、さまざまな面で経済効果の高いこういった鉄道利用ということが考えられます。今市のほうでは市長の政策もありまして、高齢者の方のタクシー利用というのを積極的に考えていらっしゃるわけであります。もちろん交通の利便性の厳しいところではそういった利用も必要なんです

けども、そこはそことして一定の利便性をアップするように考えていきながら、それはそれとして、例えば公共交通であるバスだとか電車だとかそういったものを利用できるような、そういう仕組みを考えていくほうがこれからの美作市にとってみればいいのではないかというふうに思うわけであります。そのために駅を整備するということも理由の一つにあるわけであります。

それと、ここで今佐用駅のことを申し上げましたけれども、この佐用駅が一つのポイントとしてうまく切りかえができるようになれば、かなり電車そのものが動きやすくなってくる。今三県境という首長会議があります、美作、西粟倉、鳥取県智頭町、兵庫県宍粟市と佐用町と上郡町ですか、この三県境の中で、６市町村の首長が集まっていろんな政策を今議論をされている、また実行に移している。また、我々議員のほうも５市町村の議員連盟というのがありまして、その組織に対して、もう少しこれが前に行くように活用できるように、その中でいろんな協議を行っていく必要があるなと、多分既に首長会議ではそこまでの議論はある程度できてんだろうというふうに思うんですけども、これをさらに進めていきながら、この地域が一つのエリアとして鉄道そのものも利便性が高くなるように、そして先ほど申し上げたバス等についても利便性が上がるような、そういう取り組みとしてこの鉄道の改良という、佐用駅の改良というものをぜひとも私は考えていくべきであるというふうに思うわけであります。

そして、あわせてこれはもう一つ別な角度でお聞きするんですけども、今岡山市は、県北の津山市まで入っている連携中枢都市圏構想というのをやってます。私はようわからんのです、県南から県北までといったって、何の連携ができるんだろうというように思ってるんですけど、それはそれとして倉敷もやってます、高梁川流域としてやってる、そして姫路市は播磨の国ということで、姫路から西は今それで連携中枢都市圏構想を進めていく、また因幡の国では、つまり鳥取市では、兵庫県の一部までも加えながらこの連携中枢都市圏構想をやってるわけです。鳥取については、多分ことしの４月からスタートするんだろうというふうに思うんです、これは智頭町まで入ってるんです。ここらあたりがこういった連携中枢都市圏構想というのがあるわけですけども、これらに対して、美作市そのものは今どこにも属してない、地理的な要因もあるんですけども、これがどこにも入ってない、この美作市が入ってないということがありまして、一体美作市はこういったものに対して、どういうふうに今後進めていくんだろうかという、これを今お聞きするのが正しいのかどうかわかりませんけども、一つの参考意見としてお聞きできたらなというのをまた別に御答弁いただけたらと思います。

そういうことで、今２項目めの２番目の質問にお答えいただけたらと思います。

議長（鈴木　悦子君）

ここで岩江議員が出席されました。

萩原市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

ただいま山本議員から鉄道の駅や、あるいはその駅周辺の再開発、あるいは線路のポイント化も含めて、広範な鉄道問題に関する御指摘がありましたけれども、私のほうから広範な話ですけれども、大ざっぱな方向性についてお答えさせていただきたいというふうに思っております。

１つは、鉄道というもの非常に重要なインフラであるとことは間違いなくて、江見駅について言えば、かつては我々が一番最初に、僕が遠出したのは小学校３年生のときに、じいさんに連れられて江見から大阪まで行って高野山に参ったというのがありましたけども、非常に大きな意味のあった駅、京阪神に直行できる駅ということにはなっておったわけです。そういう意味では、今後とも線路はつながってるんで、京阪神への移動ということをこの姫新線が担うべきだろうということについては妥当な判断だと思います。加えて、

兵庫県サイドは、姫路から新宮あるいはそれこそ県境近くまで線路の改修、安全施策の改修をして、列車が割合高速で走れるようになっている、そういうことも活用できる。あと少しなんです、あと10キロぐらいこっちに線路改修、安全〔聴取不能〕改修ができれば、それは私どもとの関係でもありがたいことになるだろう。一方で姫新線につきましては、真庭市長さんなんかがよくおっしゃってるように、存続をどうさせるんだという議論もあります。私どもとしては、存続よりも、今山本議員の発想の中にあるもう少し積極的にこの姫新線というものを少なくとも林野から向こうについてはやっていく必要があるだろうと、こういう思いとしては全く同感であります。そして、その思いを実現するのにどういうことがいいかということについては、駅周辺の整備の仕方あるいは鉄道線路の改修、そしてイノシシや鹿の害や山から石が落ちてくることの危険性に対する防護柵改善、及び結節点となるべき佐用駅の改修、それがインフラ事業としては典型的に出てきて、これに今度は運行形態の改善というのがあって、岡山鉄道管理局というんですか、でなくて姫路のほうに管理をしてもらうと断然よくなるんです、これは、姫路から直行というのができる。先ほど乗車人員が減っているという話がありましたけれども、県境またぎのところが随分劣化してきてるんです、路線であるとかダイヤとして。それで、どちらが鶏でどちらが卵かは別として、県境のところを生かさないダイヤ編成がだんだんできてきていることについて我々は危機感を持っていて、その危機感の裏返しは、少なくとも林野までは姫路のほうで管理をしてくれみたいなことができると、これは随分変わってくるわけでありまして、ソフト面での議論もしていかなければならないだろうというふうに思っております。そして、その議論の中で、いわゆる三県境の会議とか、あるいは５の自治体の連合とかといったものについては、首長会議で既に議案を出してますけれど、もっともっと議論の加速化をしていければありがたいなと思っておりますのでよろしくお願いします。

もう一個ぜひとも考えていかなければいけないのは、先ほどの乗車問題に戻るんですけども、追っつけ美作岡山道路ができる、追っつけできます。かつて宇野バスが林野駅から岡山までシンプルに来たわけでありますけども、それはさておきまして、インターのところから、美作インターのところにもうもう工房の跡地があって、あそこにバスがとまれるスペースがありますんで、あそこを出発して、くるっと回って勝間田のところから岡山まで直行いたしますと、バス便でも１時間を切るんです、これは。これはまたぜひ考えていかなきゃいけない課題になってまして、それと今申し上げた鉄路の利便性の問題をどういうふうに役割分担をしていくかという実は問題になっておりますので、その辺をよく見きわめながらでないと、やったことが若干重荷になってくるようなこともありますんで、少し時間をいただきながら、交通施策の基本の一つとして考えていきたいというふうに思っております。

次に、その絡みもあって中枢連携拠点構想というのがありました。この中枢連携拠点構想というのは、全国どこでもやられるんですが、１つだけハードルがありまして、人口が一定程度でもって中核市というのができるんですけど、鳥取がなってますが、中核市以上の基本的には町が中核になって、みんなと役割分担をする、役割分担をしますと、各自治体に交付税が年間何ぼか増額されるんです、これはまことにありがたいことであります。その中で、本来岡山の県北については、地理的な条件を考えますと、津山が中心になって我々のところも含めて一緒になって役割分担していこうということになるのが本筋は本筋なんですが、先ほど申し上げたように、津山の都市核が届かないんです、だからこういういびつな形になってしまってはいます。一方で、私どもは三県境の連携もございますので、場合によっては鳥取の連携中枢拠点構想の中に入れていただくことについても非常に大きな意味がある、殊に私どもとして美岡道の北部延伸もしております、あるいは先ほどあったように、高速夜行バスについて、鳥取に行く便を連携活用しようとかという具体な話もありますので、その具体な話のない連携構想というのは意味がないんです、具体の話のある連携構想とい

うのは、それは推進すべきということになります。といたしますと、今申し上げたように、具体の話のある連携推進構想の連絡先としては、鳥取と場合によっては姫路というのもなくはないんじゃないかなと思わさせていただいておりまして、これも研究課題の一つとして今後勉強していきますが、ちなみに鳥取の深澤さんという市長さんとはこの問題について話をもう始めてまして、市長同士としてはそれは悪くないねというような議論にもなっていることをあわせて報告をさせていただいて、答弁といたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

池田企画部長。

企画振興部長（池田　義和君）〔登壇〕

私のほうからは、ＪＲの佐用駅のポイントの切りかえについてということで御答弁させていただきます。

この切りかえにつきましては、ＪＲ姫新線と智頭急行鉄道は、現在佐用駅で乗りかえが必要ということからも、ポイントを設置することで相互の乗り入れを可能にし、利便性を向上させようとするものでございます。

このポイント設置に対しましては、約７億円程度の工事費が見込まれるほか、佐用駅での敷地拡張が必要となっており、鉄道の利用促進、利便性の向上については、県境を越えた取り組みが必要ということから、議員お話のとおり、三県境の取り組みの中で、先ほど市長からも答弁させていただきましたけど、課題に上げて検討させていただく、それから西日本旅客鉄道のほうへも要望活動を行っているところでございます。

また、兵庫・岡山両県境隣接市町村地域振興協議会におきましても、西日本旅客鉄道株式会社に対しまして、在来線の利便性の向上についての要望を行っている、そういうところでございます。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

山本議員、３回目です。

１１番（山本　雅彦君）

大方の方向性については御答弁いただいたので、私はその方向性が一番現実的だろうというふうに思っております。鳥取市を中心としたこの構想、また播磨の国の姫路市、これも有力な考え方だろうと思いますが、岡山市もそのあたりをどのようにお考えになるのか、そのあたりは私にはわかりませんけれども、一番現実的な方法で地域の活性化を図っていくということがこれから求められてくるというふうに思っております。

ＪＲでも鉄道でもバスでもそうなんですけども、乗降客が減ってくるからだんだん便数が減ってくる、また乗降客が減ってくるから停留所、駅がだんだん廃れてくる、活気がなくなってくる。そうなると、だんだんと本数が減ってくる、運行回数が減ってくる、いわゆる負の連鎖、悪循環になってくる、そこを知恵と工夫で活性化させる方法をこれから私たち美作市は考えていかなきゃいけない。なぜならば、この地域をさらにこれから活性化させていくためには、こういった公共機関というのが必要不可欠であり、またその公共機関の利便性がさらに求められる、そのために行政としてもしっかりとそのお手伝いをしていくということは当然求められることだと思いますので、このあたりはまたいずれの機会かに質問させていただきますけれども、しっかりとこれからも取り組む必要があるんじゃないかというふうに思うわけであります。

そのように申し上げて、３項目めに入らせていただきたいと思います。

議長（鈴木　悦子君）

ここで10分間休憩します。

午前10時52分　休憩

午前11時02分　再開

議長（鈴木　悦子君）

休憩前に戻り会議を開きます。

山本議員、３項目めからです。

山本議員。

１１番（山本　雅彦君）〔質問席〕

それでは、３項目めについて御質問させていただきます。

３項目めは、ふるさと納税についてでございます。

まず、１回目としては、年度途中ではありますが、平成29年度の状況について、納税額あるいは件数、前年対比です、また返礼品の人気のランキングとかがどうなっているかというようなことをお聞きしてみたいと思います。よろしくお願いします。

議長（鈴木　悦子君）

池田企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）〔登壇〕

ふるさと納税の現状についての御質問でございます。

ふるさと納税の現状につきましては、平成30年１月末で1,066件で2,736万3,000円の御寄附をいただいております。これは、前年度同月比では、件数では1.17倍、寄附額では1.22倍となっております。

返礼品につきましては、美作市で生産されている桃、ブドウや湯郷温泉宿泊利用券など51品目を用意しております。今後につきましては、湯郷温泉宿泊利用券など、美作市独自の魅力的な返礼品のラインナップ増に努めて、寄附額の増加、特産品のＰＲに努めてまいりたいというふうに考えております。

また、返礼品の人気のラインナップでございますが、やはり１位につきましては、これは湯郷温泉の利用券、これが第１位になっております。それからあとは桃、ブドウ、そういった美作市産の産品が人気を集めているという現状でございます。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

山本議員。

１１番（山本　雅彦君）

昨年に比べてというか、年々これは増加をしているなというふうに思うんですけども、これに頼り切って税収をふやすということではありませんけども、このふるさと納税によって、多くの政策が実現できるというそういう市町村もありまして、もう少し上積みができないかなというふうに考えているわけであります。

先ほど今部長の答弁にありましたが、この返礼品については、湯郷温泉の宿泊券が今のところ一番多いんだと、そういうふうに希望されているんでしょう、納税者の方が、非常にこれは結構なことであります。このことによって、湯郷温泉の認知度もさらに深まってくるということかもしれません。同時に、こういうときにはよく思うんですけども、美作市内の宿泊施設あるいは観光施設、そういったものをセットにしたチケットというか、そういう返礼品というか、そういうものも一回考えてみたらどうかと思うんです。市内に観光地がいろいろありますんで、宿泊と合わせたそういう観光のチケットもセットになってる、そういうことも考えていくと案外おもしろいんじゃないかなと思います。そのあたりも少し検討したらどうかなと思うんですが、いずれにいたしましてもこのふるさと納税というのは、美作市を外へ向かって、国内にあるいは国

外に大きくこれはアピールできる一つの有効な方法なんです。そういうことで、海外のほうはそういう納税制度がありませんから仕方ありませんが、しかしながらインターネットを通じて見ることはできるわけですから、そういうことも含めてアピールしていけるんじゃないかなというふうに思うんです。

そこで、少し角度が変わるんですけども、東京の新橋です、とっとり・おかやま館ですか、ここのアンテナショップでは随分たくさんのものが陳列されているのを何回か見たことがありますけども、このとっとり・おかやま新橋店の入店者数、あるいは美作市産の物の売れ行きというんですか、このあたりがどのようになっているかなというのをお聞きしてみたいんです。あそこは余り広くないんです、広いようなんですけど、岡山県下全部ものが集まるとなかなかスペースがとれないという。だから、そこらあたりのことを考えていくと、美作市産のものを広くアピールしていくというのは、もうあそこではなかなか難しいんじゃないかなというふうにも思うわけです。そういったことに対する何かお考えがあるのかどうかというのもあわせて聞いておきたいと思うんですけども、魅力のある返礼品というものをこれを考えていくべきだということで、さらにそれを広く皆様に知っていただくということを考える、そういう意味ではそこの新橋店だけにこだわる必要もないというふうに思うんですが、そういったあたりのお考えをお聞きしたいと思います。２回目です。

議長（鈴木　悦子君）

池田企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）〔登壇〕

２回目の御質問でございます。

東京にあります県のアンテナショップの活用ということでございますが、現在このアンテナショップのほうへは、美作市からは漬物や干しシイタケ、日本酒など、ふるさと納税の返礼品として数点が販売をされております。来場者の方々にこの返礼品を手にとっていただき、ふるさと納税につながるよう、今後も情報の発信と取扱商品の増加を事業者に働きかけていきたいというふうに考えております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

遠藤経済部長。

経済部長（遠藤　宏一君）〔登壇〕

東京のアンテナショップの活用ということでございますけど、岡山県と鳥取県が自治体や特産品の知名度アップを目的に、共同でとっとり・おかやま新橋館を設置しております。この新橋館は、平成26年９月にオープンしまして、オープン後３年間で入館者数が150万人を超えるといったことでお聞きしております。果物、野菜、加工食品、飲料、菓子、民芸品などの物産が販売されております。これまでの市内の物産の販売実績ですが、11社78品目でございまして、種別といたしましては、うどん、そうめん、漬物、みそ、甘酒、黒豆加工品、緑茶、お菓子、清酒、イチゴ加工品などでございます。アンテナショップには、この新橋館にはでございますが、チャレンジ商品出品という１カ月間の試験的な販売制度がございます。美作市のもち麦につきまして出品の準備をしておりましたが、この２月からチャレンジ商品ということで販売をいたしております。このもち麦の県外における販売展開といたしまして、関東地方を中心に、東海、近畿地方に店舗を展開するスーパーマーケットチェーンに300グラム用を2,000パック納品して、12月中旬から直営店105店舗で販売していただいております。販売単価は税込み755円でございますが、１月末で５割以上の販売ができたと聞いております。なお、市内で販売しておりますものは390円ということでございます。また、県南のスーパーマーケットチェーンにも12月上旬より300グラムのものを400個を納品しており、販売単価が税込み

429円でございますけど、こちらも１月末で５割以上の販売ができたというふうに聞いております。これらチェーン店との取引を、美作市のほかの産品にも広げていきたいというふうに考えております。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

山本議員。

１１番（山本　雅彦君）

私が申し上げたいのは、ふるさと納税に対する返礼品というのは、とりもなおさず美作市内の方が生産されているもの、あるいはおつくりになっているもの、これを広く紹介できるもの、そして販売ができるもの、そのことによって市内のそういった方々が恩恵を受けられるようにすること、これが一番大事だろうというように思ってます。したがって、ふるさと納税でお返しする返礼品は、もちろんこれは特色のあるものが必要であるということは、それはそれで一つ正解だろうと思いますけども、そのことによって市内の事業者の方あるいはおつくりになっている方、この方たちにどれほどの恩恵が行き届くかということ、ここが一つのポイントなんです。その意味で先ほどアンテナショップの話をしたわけでありまして、アンテナショップ新橋店では、多分私はもう限界に近づいているんだろうというふうに思うんです。紹介することはそれはそれで結構だと思うんです、しかしながら市内の生産者の方あるいは事業者の方、その方々の収入のアップにつながっていくということを考えていったときには、やはりもっと幅広くそれを紹介できるそういった方法を考えなきゃいけないということを申し上げたいわけであります。そのためにお尋ねしているわけでありますけども、先ほど部長の答弁でありましたが、関東地方を中心にするスーパーマーケットですか、そこらあたりがもち麦を販売をやってもらってる、あるいは県南のスーパーがやってくれている。私も時々スーパーマーケットに行きますけど、あちこち行くんですけど、もち麦というのは結構今置いてますよね、割とありますね、300グラムのがセットになっとるようなことがあります。やり出したころにはもう終わってるというそういう時代の流れというのはあるんで、もちろん安定的にこれは売れるとは思いますけども、そのことだけにこだわらないで、もっと幅広いものを紹介できるように、そういったスーパーにも協力をしていただきながら、市内の生産者の方あるいは事業者の方に対して恩恵が行くような方法がとれないものかなというふうに思うんですけど、何かいい工夫はありますか、ありませんか。最後にもう一回それをお聞きしておきます。

議長（鈴木　悦子君）

萩原市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

先ほど申し上げたというか、経済部長のほうから答弁をさせていただいた中に、我々が今までやってなかったけれども、大変大きな価値のある情報がとれた、まずアンテナとして機能したというのがあるわけです。関東圏を中心とするスーパーといいましても、これは高級スーパーなんです。かなりブランド力のあるスーパーで、あえて名前は言いませんけども、そこに出せたということ自身が割合いいんですが、そこのスーパーが全量買い取りをした上で、自分のマーケットだったら何ぼで売れるかという値づけをしたのが755円なんです。うちでは390円で売ってるやつを、そのスーパーだと755円で売り切れるというそういう判断をしてくれたことというのは、私は大きな情報と思っております。だから、値段を誰がつけるかというところが実は重要でして、値段をつける方の力量によって、例えば黒豆でも結構ないい値段になったり、あるいはえらい安く販売を無理にしてやっている方もいらっしゃるんですけども、どこにどう流すと、どういう値段がつくかということが実は生産者に還元するときの非常に重要な第一歩の情報になります。そういう意味でこの東京の某スーパーについては、今後市内の例えばゴボウ、カブあるいはクレソンとかそういうもの

で、高級感のある、あるいは機能性の高いものを何ぼで売ってくれるのかというような場として活用できればというのは今思ってるんです。その機能が実はとっとり・おかやま新橋館にはないんです。低く抑える形はやってくれるんだけども、どこまで売れるか、それは持ってる客層によるんだと思うんです。いい客層の方々を持ってるお店に持っていって、これはどうですかと、そうしたらこの値段で売れる、この情報があると後かなり強気で行けるということがありまして、そこを今後の課題の一つとして考えておったんですが、関係部局の職員の努力によって、東京の某有名高級スーパー、それからかつてでいうと東栗倉の方々が関西圏の某有名高級スーパーというところとも取引を持ってますんで、そういうところにもアクセスをしながら、まさにアンテナショップというのはいい情報が入らないとアンテナにならないんです。いい情報、つまり価格、値決め情報がぴしっと入るような、うちにとって有利な値決め情報が入るようなところに今後つき合いの幅を広げていきたいというふうに考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

山本議員。

１１番（山本　雅彦君）

総括をさせていただきます。

このふるさと納税につきましては、今市長のほうからも答弁がございましたけれども、あるいは担当部長からもございましたが、年々上昇傾向にはあるということは間違いないようでございます。その中で、美作市の生産者の方また事業者の方がそのことを通じて、御自分のところの商品あるいはおつくりになっているものがさらに販路がふえていく、また収入アップにつながっていく、このことが今一番重要なわけでありまして、美作市が商売をしてはいけないということはどこにもありませんので、しっかりとそのあたりは市内の生産者の方をあるいは事業者の方を少しでももうけていただくというか、収入アップにつながっていくということも考えていける政策を今後とも取り組んでいただきたい、市内には食料品もあれば工芸品もある、いろんなものがあります、宿泊券もありますし、そういったものをうまく工夫しながら、行政の範疇で考えるのではなくて、市民の方からもいろんな意見を聞きながら、こういったものをやっていこうというそういう取り組みを今後さらに続けていただくことをお願いを申し上げまして、この項の質問を終わりたいと思います。

以上で本定例会の私の一般質問を終了させていただきます。ありがとうございました。

議長（鈴木　悦子君）

以上をもちまして通告順番５番、議席番号11番山本雅彦議員の一般質問を終了いたします。

続きまして、通告順番６番、議席番号14番尾髙誉久議員の発言を許可いたします。

尾髙議員、どうぞ。

１４番（尾髙　誉久君）〔質問席〕

鈴木議長の許可をいただきましたので、平成30年第１回３月美作市定例会の一般質問をさせていただきます。

質問に入る前に、去る１月30日の山陽新聞に日本遺産新規２件申請へという記事が載っておりました。美作市と西栗倉村は、中国山地に息づいていた製鉄や木工の技術と現在も残る修験道に着目。兵庫県宍粟市と一緒に国境の秘境で生まれた異能集団の技と文化とのタイトルで初めて申請をするとの記事が掲載されておりました。美作市ホームページにも後山修験道と東栗倉村文化、山伏の行くところ鉱山ありの抜粋が載っており、修験道とは、日本の山岳信仰、特定の山岳での修行により超自然的能力を習得し、呪術、まじないの術などの宗教活動を行う山伏の宗教とあります。修験道の開祖は役行者と言われております。今から

1,300年有余年前、修験道の開祖役行者が奈良の大峰山系から我々の美作市の後山に移り、修験道を始めました。以降多くの山伏たちが後山に入り、村人に薬草や健康野菜を普及したほか、鉱石や良質の木材のありかを教え、製鉄を指導いたしましたと書いてあるんです。ホームページには、山伏のかかわったもう一つの先端技術は製鉄であると言うと、うそ、山伏は宗教家でしょうといういぶかる声が聞こえてきそうだ。しかし、山伏、特に大峰系の修験者は、山中に埋もれている鉱物資源を見つけ出し、それを高熱で溶解して金属を生産する知識を持っていたのである。ところで、地球上で最初に製鉄を始めたのはトルコ半島に勢力を張っていたヒッタイト帝国だと言われ、紀元前2200年ごろの鉄剣が発見されている。その技術はやがて世界中に拡散し、紀元前1000年ごろには中国、３世紀には朝鮮半島にまで伝わってきた。我が国で砂鉄を原料として鉄がつくられるようになったのは６世紀ごろからで、朝鮮半島からの渡来人が技術を持ち込んだ。そういえば修験道の開祖役行者も渡来系の人と言われる。いずれにしても、分水嶺の国境の里で健康生活と産業興しが始まり、ここにまれに見る秘境の産業文化が花開いたのであります。このことから、日本遺産に登録しようと萩原市長の指揮のもと、幹部職員らが文化庁に日本遺産登録の申請をしたものと推察いたします。そして、月日はめぐり、役行者が658年斉明天皇４年に後山に入ってから1,300年後の1956年、すなわち昭和天皇31年に後山山系の地に１人の少年がおり立ちます。萩原誠司その人であります。そして、今から４年前に多くの美作市民に請われて、東京から帰郷し、合併９年目の美作市政を預かることとなりました。彼の経歴、行政経験は、いずれも人口２万8,000人の町には奇跡的な逸材であり、市長就任以来、卓越した知見と行政経験により粉骨砕身して職員を指導し、かつ市民目線で数々の行政改革を実行してまいられました。総務省を初め、国の各省から地方創生のモデルと評価され、支援をいただいていることを知るにつけ、あるいはまた６つの旧町村地域の一体的な発展を目指す崇高な地方政治家の姿を見るにつけ、萩原市長の真摯な市政運営は大いに期待されるものであります。さかのぼること４年前の2014年４月18日の金曜日の臨時議会におきまして、私は市長に、あなたは王陽明の陽明学を師事されておられるのでしょうか、知行合一の精神、すなわち考えを素早く行動に移す、風のように動き、山のごとく心は動かず、孫子の兵法にも通ずるものを感じますと発言いたしましたが、今まさに４年が過ぎ去ろうとしておりますが、きょうの美作市政の中に市長の強い人脈と政治力をかいま見た思いですということをお伝えいたしまして、一般質問に入らせていただきます。

まず、１項目め、固定資産税減免と補助政策について、中小企業生産性革命にかかわる固定資産税減免と補助政策についてということでまず質問させていただきます。

今通常国会さなかでございますが、国において、中小企業生産性革命にかかわる固定資産税減免及びものづくり補助制度が、これは戦略監、私は議員立法発議と思っておりましたんですが、そうではないというらしいので、その辺も含めて成立見通しとお聞きしております。これまでの過疎法等、すなわち低開発地域工業開発促進法、農村地域工業等導入促進法、過疎地域自立促進特別措置法、これは私が知る限りでは同じ制度だと思います。固定資産税の土地、家屋、そして償却における機械及び装置がそれに値するならば、課税減免ということがなされていたと。今回のこの中小企業生産性革命にかかわる固定資産税減免及びものづくり補助制度ということの再議を、再答についてをまずお尋ねをいたします、よろしくお願いいたします。

議長（鈴木　悦子君）

大森総合戦略監。

総合戦略監（大森　洋平君）〔登壇〕

失礼いたします。

議員お伺いの中小企業の生産性革命に係る固定資産税の減免と補助制度についてでございますが、現在国

のほうで設備投資に係る新たな固定資産税の特例が検討されております。こちらのほうは、平成30年度の税制改正大綱、昨年の12月にまとめられて閣議決定をされておるものでございますが、こちらのほうにも記載をされており、また先般１月22日に開会された通常国会においても、総理のほうから御発言がされたところでございます。

この特例に関しましては、集中投資期間、平成30年から平成32年における中小企業の生産性革命を実現するための臨時、異例の措置でございまして、中小企業が取得する機械装置等の償却資産の固定資産税について、３年間ゼロから２分の１の範囲で市町村が条例で定める割合で軽減をするというものでございます。

これにつきまして、現在美作市におきましては、この国の政策の動向につきまして市内の企業に説明をし、市内企業の積極的な投資の意向を確認しておるといったところでございます。そういった中では、中小企業の投資を後押しする制度ができるというのは大変ありがたいといったお声であるとか、老朽化しているラインを新しくして生産性を上げたいといったような積極的な投資に向けた声が多数聞こえておるというところでございます。さらに具体的に、設備投資の金額を当初計画の1.5倍として、次年度以降も新たな設備投資を計画したいといったような声も複数聞こえておるといったところでございます。当市としましては、こういった国の施策の動向でございますとか市内の企業の意向、こういったものを踏まえながら、必要な条例の制定など対応を検討してまいりたいというふうに考えております。

また、御質問のこれまでの過疎法の減免との差異につきましてですが、過疎法では、償却資産につきましては課税免除の対象が機械装置に限定をされております。また、償却資産への投資額の合計が2,700万円超の場合に限定をされておるというものでございます。他方で、今回の特例に関しましては、機械装置のみならず、測定工具、検査工具、器具備品など、対象設備の範囲が幅広くなってございます。また、その金額も機械装置が160万円以上、測定工具及び検査工具並びに器具備品が30万円以上、建物附属設備が60万円以上と幅広い対応が可能となっております。

また、今回の特例措置におきまして、市町村が条例で固定資産税をゼロといったふうにする場合においては、企業の設備投資等に活用できるものづくり補助金等が重点配分されるというものになっております。

最後に、議員お尋ねの法律に関しましてですが、現在国のほうで検討してございますけれども、議員立法ではなく、各法で、要は所管省庁が明確に、具体的に申しますと経済産業省が今検討してございますけれども、法律のほうを検討しておるというふうに聞いておるところでございます。

以上です。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

尾髙議員。

１４番（尾髙　誉久君）

ありがとうございました。

もしこの法律が通りますと、固定資産税は当然市の税でありますので、市町村が条例で定める割合に軽減しようとするものですと、ゼロから２分の１の範囲で３年間ということで、それよりも大きいなと思うのが機械及び装置が合計で2,700万円が160万円まで、また工具等にも及ぶ、このようなことはまさに強い経済を目指す新三本の矢の１本でしょうが、本当に賃金３％アップがなされて、美作市の誘致企業、地場企業に大きな多大な影響が出ればいいなと、これがチャンスだなと。一つには、これは税のほうの担当の市民部長のほうも節税というものは大いに足を運んででも、これが市民サービスということで思っております、脱税はいけません、脱税は逮捕される場合もありますので、そういうことは絶対だめですけど、私は以前そういう低工法、低開発地域工業開発促進法云々という長いのを低工法と言うんですが、ある会社に足を運んで社長

に会いまして、こういう制度があるのは御存じですかということをやるのも、確かに厳しく当たるのも税です、しかしドラマで窓際太郎さんがやるように、わかりやすくみんなに思いやりを持ったことをなすべきのも税務課の仕事であるとそのように考えております。

次に、２回目の質問ですが、美作市内の企業からは、どのような声がこういうふうに制度がなされたら聞かれているのか、もし聞かれているならばのことですけど、また当該措置が実際に使える時期はいつごろとなると見込まれているのか、また補助金の拡充措置というのは具体的にどういう内容か、すなわちものづくり補助金のことなんですけど、もう少し突っ込んで説明をお願いできたらとお願いいたします。２回目です。

議長（鈴木　悦子君）

大森戦略監。

総合戦略監（大森　洋平君）〔登壇〕

失礼いたします。議員２回目の御質問でございます。

お伺いの美作市内の企業からどのような声が聞かれているかというところでございますが、先ほど最初の答弁でも申し上げたような積極的な答申に向けた前向きな声が複数聞かれているというところでございまして、企業の方々からは、こういった制度について歓迎をしたいといった声が聞こえております。固定資産税の特例、補助金の拡充といったものを好機と捉えて、積極的な投資を検討したいといった声が出てきているというふうに認識をしております。

また、みまさか商工会、美作市誘致進出企業協会様のほうからも今回の特例措置につきまして、固定資産税をゼロとしてほしいといったような要望もいただいておるところでございます。市としましても、こういった企業の声も踏まえながら対応をしっかり検討をしてまいりたいなというふうに思ってございます。

また、当該措置が実際に使える時期ということでございますが、当該特例措置は、平成30年度の税制改正大綱に盛り込まれている内容でございますので、来年度から実施をされるというふうに認識をしてございます。ただし、先ほど少し申し上げましたが、特例措置につきましては、新しい法律を検討してございますので、これが今通常国会で審議をされるということになりますので、この審議、成立、施行を待っての特例措置が使われる時期ということになろうと思いますので、来年度中の中で法律が施行された後ということになろうかなというふうに思っております。

また、補助金の拡充措置というところで、具体的にどういう内容かということでございますが、ものづくり補助金につきましては、企業の生産性向上のための設備投資などに使っていただける補助金でございます。これにつきましては、現在の法律を検討してございますが、この法律の中で企業が計画の認定を受けること、そして自治体に実際の条例において、固定資産がゼロというふうにされている場合には、補助率が通常２分の１でございますが、これが３分の２に上がるということが決まっておるというところでございます。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

尾髙議員。

１４番（尾髙　誉久君）

本当に国が力を入れているんだなと感じるのは第１日目の市長のどの議員の一般質問だったか、法人市民税の中で、うちは100万円だったけど、恐らく県の事業税かなと、法人県民税なのかはわからなかったんですが700万円、県のほうはそれにも全くそういう意識はなかった、非常に不細工な話です、県は。というの

が、市長が言われたように、６カ月というのが、皆さんに常に私は市民部長に疑問を持ってもらいたいと思う、例えばの例を言うと、じゃあ木下サーカスは６カ月いないんです、その場合どこでこの申告をするだろうかというような疑問も常に赤塚不二夫さんの天才バカボンのパパが言います、これでいいのだと。そうじゃない、これでいいのかというような思いというものも必要なんだと。多分私の考えでは東京都でやるんじゃないかなと、日本の首都は東京、矢野サーカス、木下サーカスは２カ月、２カ月でどんどん移っていきます、移っていくならばどこで確定申告をするのか、多分東京じゃないかなと想像してます。このことが市長も言われるように、私も思っているように、いろんな維持管理の企業等が、きょうは教育長が来られますけど、要するに法人税割をたくさん払ってもらえるように、地元の誘致企業にもしていただくことが財政を健全化していく最も近道でありますし、その中でこういう制度があるということが国の力を高めていくんだというふうに思ってます。この質問をなぜしとるかといいますと、次のことに関連してたので、そのような思いで、特に３回目の質問はないわけですけども、非常に市長のお考えでできるだけ手厚い固定資産税の税率にしていただきたいなと思っております。

議長（鈴木　悦子君）

萩原市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

固定資産税の減免につきましては、当然条例でそれを決めますので、議会の皆さんの御理解が必要なんですが、国の制度を見ますと100％減免、100％免除した場合に、国のものづくり補助金が重点配分されるということになっておりますので、中途半端にするのは余り意味がないというふうに理解をしております。

一方、私どもは今かなり綿密な調査、つまり誘致企業の方とか商工会の関係の方々がどういう動きをされるかというのを見てるんですが、次第に投資を今後計画する額が調査ごとにふえてるんです、この影響で。簡単に申し上げますと、確かに減免をします、免除で見ますと３カ年分の償却資産にかかる固定資産税が消えます、これは市にとっては実は損です。一方で基準財政収入額からも差し引かれておりますんで、75％分は交付税が返ってくる形になります。したがって、実損は３カ年分の固定資産税の免除の25％ということになります。一方で、例えば１億円の投資が行われたとしたときに、１億円掛ける大体耐用年数が15年としますと、３カ年分というのが約３割強なんです、３割強の固定資産税がなくなって、７割強の部分がまた入ってくる。そうしますと、１億円でいうと25％がかかるんで、３割の25％ですから7.5％ぐらいが減収になって、あとが入ってくる形になって、そのあとのうちの25％分がネットの得になる、つまり70の４分の１と30の４分の１を比べてどっちが多いか比べたら、実は後半のほうが大きいんです。ということは、追加投資があるということが大分確定をしてきますと、この制度が実は自治体の財政にとっても、長い目で見ると損でもない、場合によっては得にもなるかもしれないというようなことがございます。したがいまして、そこをよく見きわめた上で、積極的な提案ができるように勉強したいというのが１点目です。

もう一点目は、これは県内の状況を見てるんですが、今のところこの制度に対して積極的に動こうとしているのが津山と岡山なんです。もし津山が動くようであれば、これはやっとかないと、企業立地との関係でも競争に負けちゃうんです。したがいまして、その辺の状況もよく見ながらやっていきたいなと思っておりますが、具体につきましては、国の法律がまだできてませんので、法律の案が出た段階でどういう条例をつくるかを検討し、次の議会に条例案を提出をすることに多分なるだろうというふうに思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたしまして答弁といたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

尾髙議員。

１４番（尾髙　誉久君）

総括ということで、市長の説明で私も経験したことがあるんで、低工法の関係で基準財政収入額から控除される額の調べということで、交付税で補填されるということで、決して美作市にとって非常に有利な政策だと思っております。ぜひとも前に進めていっていただきたいというふうに思っております。

以上で１項目めは終わります。

２項目めに入りましょうか。

議長（鈴木　悦子君）

どうぞ。

１４番（尾髙　誉久君）

２項目めは、生産者人口の不足についてということで、今の東証一部の株を私は余りやってないんですけど、２万数千円、景気は右肩上がりで売り手市場と聞いておりますが、売り手市場にもかかわらず、働き手不足が問題になっているというのが近いところで勝央の工業団地、それは大手の企業には殺到し、それでいてあそこの工業団地は大企業ばっかりじゃないですから、働き手不足が問題になっている。作東の産業団地ならどうだろうかということで、美作市及び近隣の産業団地の状況はどういうふうになっているんだろうかというのが１点目で、それと定住対策がなされているが、採用対策との兼ね合いはどういうふうに考えられているのか、次に美作市の採用基準は、これは美作市役所の職員の採用基準は今現在はどうなっているのか、それから４番目に質問しておりますのが、新聞にも出ておりましたけども、国のほうで65歳の解釈というものを見直さなきゃいけないというような新聞だったと思うんですが、65歳現役と言われる時代をどのように捉えられているのか、それと５番目に、Ｕターン、Ｉターンについて、またＪターンについての工夫は今後どういうふうに工夫していこうか等があったらということで、また６番目に、市長が恐らく目指されているのは産官学の見地で市政を進められていることと私は思っております。その中にあって、今まで言った５項目を含めて、６項目で私が言いたいのは、採用年齢枠というものにプラス、これは企業の採用年齢枠に産です、プラス市役所の例えば公営住宅、官は、舛添さんですか、昔リンケージという連携というか連鎖というか、そういうことを言われましたが、日本人の特性ですか、瞬間湯沸かしでばっと飛びつくんですけど、すぐ忘れてしまう、私は結構忘れないたちなんで、そういうことのセット、すなわちパック、飛行機に乗るときに、湯郷のホテルの話等、社長の話を聞くと、飛行機とホテルをパックにした形での売りというものをしているわけですけど、このような考え方ができないか、と申しますんが、雇用促進を取得いたしましたが、あれは雇用促進、字のとおりです、雇用保険に入っているというようなことが条件で、雇用のための促進住宅であったということであるならば、このような考えについて、どのように担当部署は考えられておるのか１回目の質問でございます。

議長（鈴木　悦子君）

遠藤経済部長。

経済部長（遠藤　宏一君）〔登壇〕

働き手不足の問題についてございますが、まず作東産業団地内の８事業所に、平成29年度の従業員採用状況をお聞きいたしました。全体での募集人員は84名で、それに対して41名の採用ということになっており、そのうち高校新卒者は９名となっております。採用割合で申し上げますと48.8％というところにとどまっております。

定住対策がなされているが、採用対策との兼ね合いはとの御質問ですが、都市住宅課が進めております定住促進住宅北山団地及び真加部団地を事業者の社宅として賃貸することによりまして、Ｉターン、Ｕター

ン、これらの方の雇用に利用していただけるように企業にもＰＲをしております。現在市内企業の１社が社宅としての活用を検討されておりまして、関西方面での求人にも力を入れておられます。

次に、65歳現役と言われる時代をどのように捉えているのかと御質問ですが、これも作東産業団地内の企業８社を対象とした聞き取り調査を行いました。この調査では、６社が定年は60歳、その後は65歳まで再雇用が可能とされております。既に定年を65歳とされている企業が２社ございました、再雇用時の年齢制限を設けていない企業が２社ありまして、本人が健康で働く意欲があれば生涯現役といった取り組みをされている状況であります。

Ｕターン、Ｉターンについての工夫につきましては、定住促進住宅とのマッチングに主眼を置いて取り組んでおるところでございます。

また、産官学の見地から、例えば企業それから市役所の公営住宅、採用年齢枠と公営住宅でのセットでの売りはできないかとの御質問でございますが、定住促進住宅を市内企業にＰＲしておりまして、この住宅は３ＤＫと広く、妻帯者にも御利用いただける間取りとなっております。また、独身者を対象とした場合には、１室を３人で共有するといったことも考えられまして、シェアハウス的な活用によりまして、仲間意識を育み、定住につながるような活用をしていただけたらというふうに考えて取り組んでいきたいというふうに思います。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

池田企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）〔登壇〕

失礼いたします。

私のほうからは、定住対策がなされているが、採用対策との兼ね合いと、それからＵターン、Ｉターンについての工夫ということで答弁をさせていただきます。

定住対策として、移住定住促進補助金や子育て若者支援プランなどの取り組みを進めているところでございますが、定住対策を進める上でも働き場の確保が重要な課題となっております。市内企業の中には社員採用に関するチラシの中に住宅を用意している旨を表記したものをハローワーク美作に依頼して、岡山、関西圏へのハローワーク事務所に情報提供をしております。また、今年度整備いたしました定住促進住宅を社宅として利用する取り組みについても、市として企業に働きかけを行っているところでございます。こうした定住と就業情報の提供につきまして、ハローワークなどとも連携を行い、効果的な情報発信を行っていきたいというふうに考えております。

続きまして、Ｕターン、Ｉターンでの工夫でございますが、美作市へ移住される場合には、就職のため、結婚のため、自然豊かな田舎暮らしをしたいためなどのさまざまな理由がございます。特に就業に関する相談につきましては、業種や業務内容など各相談者への個別の対応が必要でございまして、例えば就農につきましては、農業振興課と協力し、新規就農者に関する説明や相談を行い、移住、就農につながったケースがございます。また、一般企業への就業につきまして、相談者の希望する業者への面談の手配などを行っているところでございます。今後とも、Ｕターン、Ｉターンにつながるよう、各市役所窓口などと連携してまいりたいとそういうふうに考えております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡本総務部長。

総務部長（岡本　和之君）〔登壇〕

失礼いたします。

私のほうからは、市職員の採用基準ということでお答えをさせていただきます。

地方公務員法条例及び規則では、職員の募集年齢を特に定めてはおりませんが、雇用対策法施行規則第１条の３第１項第３号イ、長期間の継続勤務による職務に必要な能力の開発及び向上を図る必要がある場合の年齢制限の特例というのがございまして、合併後においても全ての募集職種で一律の年齢制限というものを設けておりました。しかしながら、看護師あるいは保育士などのように専門性を有し、社会人経験によりある程度のキャリア形成がなされている職種につきましては、人材確保のため、平成26年度の採用試験から募集年齢の引き上げを行っております。

また、2033年度からの公務員65歳定年制を政府が検討に入ったという新聞報道もございますので、事務職につきましても、美作市出身者の方はもとより、Ｉターン等による転入者に対しても働き場の一つとして受験の機会を拡大し、有能な人材の採用ということにつながるよう、募集年齢の引き上げにつきましても今後研究する必要があるものというふうに考えております。

なお、現在の募集年齢の上限でございますが、事務職につきましては、大卒程度で28歳、短大卒程度で26歳、高卒程度で24歳とさせていただいております。看護師につきましては、先ほど申しましたように制限は設けておりません。それから、医療技術者、こちらが50歳、保育士につきましては40歳で、経験者につきましては50歳という線引きをさせていただいております。よろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

尾髙議員。

１４番（尾髙　誉久君）

まず、総務部長の答弁がありました、ありがとうございました。

合併からこの方、その辺のこともうそろそろやるべき時期かなと思ってますのが、大卒程度で28歳、短大はそれより２年少ないですから26歳、高校程度で24歳ということですけども、たしか私はこういうことの余り知識がないんですが、共済組合のほう、厚生年金というんですか、それに該当するもんでしょうけど、25年以上というものがクリアできないと、それに非常に金額的なもんが出ないとかという影響があると思うんです。それから考えたときに、35歳に25を足したら60歳です。だから、例えばですけど、大卒というものを、そこを上限にして、そろそろ年齢の枠というものを広げたらどうかなというのが１点。そうすることによって何が考えられるかというと、中途採用です。俗に言う詰め襟というんです、高校を卒業した人なんかは詰め襟、詰め襟と、即入ったのは詰め襟です、中途採用というのは特に団塊の世代のほうが多いですけど、その方というのは他の部署でいろんな経験を積んでるわけです。それが一つの柔軟性につながる、物の考え方が広くなるという点で、これからの市役所の体系についても、市長が営業課というもの、経済部というものを考えられとるのは、私は、考えるなら今までの官公庁ではだめだよと、刷新していくんだよというようなことから、市民の方の中にはいろいろと美作市外から云々ということもあるんですけど、大事なのは、非常に純粋に詰め襟の方を採用するのにも意味があります、しかしいろんな苦労をされた人ということにも意味があります。それで、安倍総理のたしか夢をつむぐ子育て支援というのが２番目だったと思うんです、それから安心につながる社会保障というんですか、そのことを考えてると、たしか私はまだ諦めてないのが市長が最近発せられることがないんですけど、後期青年団が私は必要だと考えております。というのが、そのような考えを美作市民そのものが持っていくべきだと、自動車も自動でとまるようになるといったときに、それが気持ちの中で65歳現役なんだと、もっと言えば70歳現役なんだというような思いを持ってやるべきじゃないか、常に若いということを求めていくことも必要でしょうが、一生涯勉強というかというよ

うな思いというものが必要じゃないかというふうに思います。といいますのが、私が思うのが何を言いたいかというと、既成概念というものをいつもそれに縛られないで、既成概念を打破していかなきゃいけないんじゃないかと思います。というのは、教育問題、アクティブ・ラーニングの考え方というのは、たしか65％が今名もない企業名が存在してきますよ、あと数年だと私は思ってますけど、そういう企業が出てくるんだろうと。47％が機械化になります、機械がどんどん普及してくる、だったら人口が減少していてバランスがとれるんじゃないかなというような考えもできますし、そのような既成の概念を撤廃することが必要なんじゃないかと、しいてもっと突っ込んで言うならば、インバウンドがあるなら、アウトバウンドというものはあるんでしょう。例えば日本ではインバウンドというのは観光というものに限っておるわけですけど、インバウンドが企業の中にインバウンドするとしたらどう考えるんだと、それから一つの先ほどのリンケージもそうですけど、日本ではリストラというものが再構築ではなくて合理化になっとんです。昔で言ういろんなものもあります、民事再生というような破産五法の一つで大正２年にこれが制定され、和議法が民事再生になったというんですけども、私から言えば借金棒引き法かなというようないろんな疑問を持つ中で、常に疑問を持っていくべきなんだと。だから、国のやってることというものが建設部長と一度話をしたことがあるんですけど、市道認定の際に閲覧、要するに不利益をこうむる人の閲覧期間というのがたしか締め切りは３月31日なんです、その年度の締め切りが３月31日であるということは、不服申し立てがあったときに一体どこでやるんだと、次の年度に入っているじゃないか、ということは国のやっていることが全て正しいとは私は限ってないというような思いがあります。県のやってることが正しいか、当然美作市が市がやっている、町村がやっていることが正しいとも限りませんが、そのようなことを常にみずからをチェックしていく、前例主義じゃ、前任者がやっていたからこうだというようなことではなくって、ここで考えることはそうなんだということで、先ほど鶏が先か卵が先かの問題ですけども、私はこの誘致というかＩターンまたＵターン、Ｊターンもありますか、その人たちにまず働く場所が最初なんだと、それにプラス公営住宅をプラスしたセットでもって売り出すんだと、美作市の誘致企業にそれをもって広告にＵターン、Ｉターン、Ｊターン欄というものを設けて、ハローワークとともにそれを売りに出していくんだと、2033年には65歳ということをよそがやってからじゃだめだ。先ほどの固定資産というのは、まだ国会でそれが決まってない、決まってないときから手がけていけばいい、より早く。というのがウサギと亀さんじゃないですけど、市長は時速300キロないし350キロ出すんで、ちょっとでも早く……。

議長（鈴木　悦子君）

尾髙議員、もう少しまとめて質問してください。

１４番（尾髙　誉久君）

大体言いたいことはここで済みますんで、そういう思いを持っているということですので、多少１回目の答弁が、私の言いたいのはまずはそういうものを企業に求めていったらいいんだということで、経済部長や総務部長、それから企画振興部長に求めたいのはそういう質問でございます。

それで、企画振興部長には３回目、１個だけありますんで最後に言います、よろしく。

やりましょう。

議長（鈴木　悦子君）

ここで１時まで休憩します。

午後０時10分　休憩

午後１時00分　再開

議長（鈴木　悦子君）

休憩前に戻り会議を開きます。

尾髙議員の２回目の質問に対する答弁からです。

岡本総務部長。

総務部長（岡本　和之君）〔登壇〕

失礼いたします。

尾髙議員の職員の採用年齢についての２回目の御質問にお答えをさせていただきます。

現在も転職によりまして採用試験を受けて中途採用の職員として働いている者もございます。適正な年齢の上限ということにつきましては、さまざまな場合を想定しながら今後検討させていただき、職員採用に当たっては間口を広げ、有能な人材の確保に努めてまいりたいと考えております。また、結果Uターンそして Ｉターンによる人口増につながれば、またこれは幸いであるというふうに思っておりますのでよろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

遠藤経済部長。

経済部長（遠藤　宏一君）〔登壇〕

従業員募集時に給与などの条件に公営住宅入居を加えてセットにできないかといった御質問でございます。

働き手を集める、そして定住を進めるということにつきましては、市の定住促進住宅が社宅として使用が可能でございます。市営住宅への入居について、企業の採用担当部署、市の住宅担当部署と連携した取り組みを検討してまいりたいというふうに思います。

また、産官学連携については、高校生の職場見学会というものを開催しております。地元企業について知っていただく機会といたしまして、林野高校、勝間田高校、津山商業、津山工業、美作高校の５校の希望者に参加をいただいております。平成29年は、３月に４校が10社を、４月に１校がそれぞれグループ別でございますけど、６社を見学しております。また、近隣高校の就職進路担当教諭と地元企業の採用担当者による意見交換会を開催して、参加企業の採用条件などを理解していただきながら、若年者雇用における早期離職など、就職ミスマッチの解消に向けた取り組みを行っております。こういった取り組みを誘致企業のみでなく、市内の企業に広げて、市内外の若者などに市内の企業を知っていただくよう取り組んでいきたいというふうに思います。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

尾髙議員、３回目です。

１４番（尾髙　誉久君）〔質問席〕

ありがとうございました。

私も市議会議員になったのは何の取り柄もないからなったんであって、これぐらいしかなかったんです。要するに自分が起業家としてやれる自信があったらやってましたし、私は皆さんを先生だと思うのは、農業をやってる人は、私は農業を小さいころやってましたけど、野菜つくったりいろんなことをされる人はすばらしい人だなと、自分にできないことはすばらしい先生だといつも常々思ってます。しかしながら、私がその人よりすぐれてたら、ちいたあ頭を下げろ、俺が教えてやってるんだというようなことがあります。というのが私は中途採用ですけど、それこそ岡山市のオイルショックのときでいろんな紆余曲折があって、そこへ就職するわけですけど、名もない三流設計事務所でしたけど、朝早く起きて行ってモップで掃除をして、

そのときに岡高の夜学に行ったMさんという人に私が三宅さん、三宅さんと言って、尾髙さんやめてよ、尾髙さんほど年齢も上じゃしいろんな、いや、でも技術の上ではあなたが上なんだと、だから私はさんをつけて呼びます、しかしながら５時が来ましたらちょっとマージャンをしようかということなんで、マージャンをするときはみんなに尾髙さんと呼べ、俺が師匠なんだ、オープンにして見せてみろと、その切り方はだめだというて指導したことがあります。そのような考え方で行くような人生観でございますけど、思って、頭の中を時には空にしておくと外からいろんなもんが飛び込んできますけど、常に一定の考え方の中にあったら、それに束縛されて自由度がきかない、その自由度を常に磨いていく必要があると思うのが固定された空間、すなわち市役所という空間の中にあったときに、それを打破するのは何かということを常に考える必要があるんじゃないかなと。私がこの町役場に入ったときに、尾髙、おまえは民間に就職すりゃあよかったのにと言われたときに私はこう返したことがあります。黄色いなしの器に大きな水をためて、黄色いなしがぼんぼん入っとると、その中にバナナを投げ込んだって目立たない、そこで目立つのは真っ赤なリンゴだ、真っ赤なリンゴが投げ込まれると、それが目立つんだ、ということはそこで特異的な自分の力を発揮することができる、異次元の世界に別の次元のもんが入ってくる、そういうようなというような考え方で、要するに化学反応が起これば新しいものが生まれるという考えを持ってます。

最後に、この３月定例で企画振興部長池田部長におかれましては、大変長い間苦労されたし、経験されたと思います。２年前の質問を思い出していただきたいと思います。北に上がって大原の某館長と懇親を深めなさいよということについて、これは全く関係ない質問ではないです。だから、先ほども言ようるように、インバウンド、おもてなしを農業でおもてなしをするにはどうか、保健福祉でおもてなしをするにはどうか、どこどこでおもてなしをするにはどうかという意味の大きな考え方に立ったときに、企画振興部長はおもてなしをなされましたか、それをお聞きしたいなと。

議長（鈴木　悦子君）

池田企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）〔登壇〕

３回目の御質問でございます。おもてなしという御質問でございます。

議員がおっしゃるとおり、おもてなしという心は大変重要なものだというふうに考えております。武蔵武道館の田原館長からもいろいろ懇意にしていただきまして、そのおもてなしの大切さ、それから気配り、心配りの大切さ、そういったもので大きな大会も成功するというのを教えていただいたということを思っております。こういったことを参考にしながら、これからも後輩たちにも伝えていきたいと思いますし、部課そういったところにも伝えていきたいというように思っておりますのでよろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

尾髙議員。

１４番（尾髙　誉久君）

大変期待以上の答弁をなさって私もうれしいなと、一期一会という言葉がありますが、これを一つ一つの会うときがすでに別れであり、また会うことがあるというように、帰られて大きく生かしていただきたいなと、これがえにしというもんだろうと思いますので、期待しております。大変お疲れさまでございました。

それじゃあ、市長、終わりに、２月４日きのうは立春でございましたが、まだ寒さ厳しい日が続くことと思います。幹部職員の皆様におかれましては、風邪など引かれないよう健康に留意されて、市政発展のために尽力くださることをお願いし、特に市長におかれましては、大変重要な時期であります。健康には十分留意されまして、日夜精進されますことを祈願しておりますのでよろしく健康のほうを、酒は少量しか飲まれ

ない市長でございますので心配はそれほどすることはないかもしれませんが、今定例会における私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

議長（鈴木　悦子君）

以上をもちまして通告順番６番、議席番号14番尾高誉久議員の一般質問を終了します。

続きまして、通告順番７番、議席番号７番重平直樹議員の発言を許可いたします。

７番（重平　直樹君）〔質問席〕

議長の許可を得ましたので、平成30年３月議会の一般質問をさせていただきます。

今回の質問は１項目で、大芦高原多目的野球場についてでございます。

社会人野球チームが本拠地を大芦高原多目的野球場に移転したとのことであるが、前年度までの野球場の使用状況はどうなのか、使用日数、管理費用。

次に、野球場の一部をグラウンドゴルフを芝生にしているが、この事業年度、事業内容はどうか、補助事業であるならば、その対応。英田グラウンドゴルフ協会から場所を移転するためのグラウンドゴルフ整備の要望書が出ており、また野球場の改修が必要とのことであるが、この費用は幾らぐらいかかり、誰が負担するのか。

社会人野球チームの本拠地移転や野球場使用について、どのような契約になっているのか。また、体育館を社会人野球チームが改修し、専属使用するような説明があったが、再度説明を求める。そして、今までの使用実績は、使用日数、管理費用、改修内容、それの費用、改修工事の発注や予算、専属使用の費用や契約内容はどのようになっているか答弁願います。

議長（鈴木　悦子君）

池田企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）〔登壇〕

大芦高原多目的野球場についての御質問でございます。

まず、社会人野球チームが本拠地を大芦高原多目的野球場に移転したとのことであるが、前年度までの野球場の使用状況についてという御質問でございます。

野球場の利用実績ですが、平成26年度から28年度まで、野球としての年間利用人数は平均で220人余りでございます。年間の利用日数は、平均で10日程度となっております。また、野球などでグラウンドを利用しない日には、定休日や年末年始、天候不良により利用しない日を除き、外野芝生でグラウンドゴルフとしてほぼ毎日利用されており、平成26年度から28年度までグラウンドゴルフの年間利用人数は平均で2,400人余り、年間利用日数は年間200日を超すものと想定をしております。なお、株式会社ショウワコーポレーションは、平成30年度から活動の拠点を美作市に移転するというふうに聞いております。

次に、グラウンドゴルフ場の整備費用は幾らかかり、誰が負担するのかなどについての御質問でございます。

まず、野球場の芝生の一部をグラウンドゴルフで使用をしているが、この事業年度、事業内容がどうなっているかという御質問についてございます。

野球場は、多目的交流広場として平成10年度に全面真砂土のグラウンドとして整備し、その後平成20年度に野球場としての機能向上のため、約1,500万円をかけて外野部分に芝を植栽しております。グラウンドゴルフでの利用は、グラウンドの利用がないときに補助的に外野の芝生を利用しているもので、グラウンドゴルフ専用として整備したものではございません。

次に、新たなグラウンドゴルフ場の整備につきましては、昨年12月の一般質問で御答弁させていただいた

とおり、大芦池の北側にあるテニスコート周辺に整備する方向で調整をしております。整備費用につきましては、肉づけ予算である平成30年度補正予算で過疎債を財源に予算計上したいと考えております。

次に、野球場の改修についてですが、過疎債を財源に、平成29年度でライト側外野の一部に防球ネットの設置や内野グラウンドの黒土への入れかえ、バッティングゲージの購入を行っているところでございます。30年度で防球ネット等の追加工事を行いたいと考えておりまして、30年度予算につきましては補正予算でお願いしたいというふうに考えております。

次に、体育館を社会人野球チームが改修し、専用使用することの説明を求める、そして今までの実績はとの御質問でございます。

まず、体育館の通年使用についてですが、昨年12月議会の萬代議員の御質問にもお答えをさせていただきましたとおり、株式会社ショウワコーポレーションから要望が寄せられておりますが、使用するために必要な施設整備はショウワコーポレーションが行うこと、ショウワコーポレーションが使用しない場合には市民等の使用を認めることを条件に、年間を通しての貸し出しをする方向で調整を図ってまいりたいというふうに考えております。

次に、体育館の利用実績ですが、平成26年度から28年度までの年間利用人数は平均で1,300人余り、年間利用日数は平均で60日となっております。

次に、管理費用ですが、人件費を除くと、浄化槽の保守点検、光熱水費など年間で約140万円となっております。

次に、改修の内容、費用や改修工事の発注や予算、専用使用の費用や契約内容につきましては、現在ショウワコーポレーションと協議を行っている状況で、具体的な整備内容については今詰めを行っているところでございます。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

重平議員。

７番（重平　直樹君）

２回目でございます。

ショウワコーポレーションが平成30年から活動の拠点を市に移転すると聞いてます。大芦高原にある多目的広場の野球場で活動はされないのですか。時に使用するのと本拠地として使用するのとは大きな違いがあると思います。何らかの契約みたいなものはあるのでしょうか、また使用料はどうなりますか。多目的広場の使用の形態は、野球場としての使用は、利用実績が平成26年度から28年度までの野球利用として年間利用人数が平均220人余りで、年間利用日数が平均10日ということですが、野球などグラウンドを使用しない日に外野芝生でグラウンドゴルフ場としてほぼ毎日使用されて、平成26年度から28年度までのグラウンドゴルフの年間利用人数が平均2,400人、年間利用日数が平均200日を超すとの説明がありましたが、このことは多目的広場の全部か一部かは別として、使用の実績が非常に高い公共施設の利用実績としては非常によいとの判断になると思われるが、そこに社会人野球チームが活動の拠点にした場合、どういうことが問題になるかは誰が考えてもわかることであり、グラウンドゴルフを楽しんでいる市民を追い出すことになりませんか。心配した英田グラウンドゴルフ協会から場所の移転する要望書が出され、これは本末転倒であり、どのように考えているのか、また活動の拠点を市に移転すると聞いてますとの回答は人ごとであり、グラウンドゴルフを楽しんでいる市民や英田グラウンドゴルフ協会を愚弄しているのではないでしょうか。

また、約1,500万円の費用で芝生を植栽したのは、グラウンドゴルフの利用から強い要望で補助金の整備

をしたように聞いているが、財源はどうなっているのか、関係機関との協議はどうなっているのか。そして、一番の疑問は、社会人野球チームが活動の拠点にするために、多目的広場で使用されていたグラウンドゴルフの移転整備そして野球場の整備の費用をなぜ市が負担しなければならないのか理解できません。社会人野球チームのために市民の大切なお金を使う理由はどういう理屈でしょうか。本来であれば、社会人野球チームの寄附と財源に頼らなければならないと思いますが、いかがですか。また、使用料についてはどう考えているのか、条例では１時間単位で市内市外の金額が定められていますが、どうでしょうか。

答弁では、大芦池の北側にあるテニスコート周辺に整備するということです。これは、私は土曜日に岡本議員とこの現場を視察に行ってまいりましたが、テニスコートは２つあって、恐らく北側ということで奥のほうだと思いますが、この整備費用が幾らかかり、誰が負担するのかということです。平成30年度の補正予算で過疎債を財源に計上しただけでは私の質問に対する答弁になっていません。

次に、体育館の改修、使用についてでありますが、社会人野球チームから改修要望と費用の負担の申し入れがあり、答弁では、必要な施設整備はショウワコーポレーションが行うため、ショウワコーポレーションが使用しない場合には市民等の使用を認めることを条件に、年間を通して貸し出しする方向で調整を図りたいと考えておるということですが、市民等の使用を認めることを条件に貸し出すとありますが、美作市の財産ですから、美作市民が利用するのは言うまでもなく当たり前のことではないでしょうか。一方では、管理費用は人件費を除き、光熱費など140万円を市が負担すると言われたが、これはいかがなもんですか。私や市民の方が同じ条件で申し入れたら年間の使用許可が出ますか、出ないと思いますが、常識で考えたらわかるはずです。市の施設は公の施設です。特定の個人や団体に年間を通じて貸し出しなどできるわけがないし、発想自体が行政の考え方から外れると思います。使用料については条例に定めがあるが、時間単位、半面、全面等の基準があるが、どのように想定し、年総額の試算はどうなのでしょうか、答弁お願いします。

議長（鈴木　悦子君）

池田企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）〔登壇〕

２回目の御質問でございます。

まず最初に、ショウワコーポレーションが平成30年度から野球場等で活動するというふうに先ほど答弁させていただきましたが、これはあそこの野球場を本拠地として活動するというふうに聞いておるものでございます。この野球場の使用に当たりまして契約はあるのかと、それから使用料金はというようなことでございますが、これについては先ほども答弁をさせていただきましたが、体育館の使用も含めまして、契約の内容、利用料金の内容、そういったものを今協議をさせていただいておるところでございます。その中で、これから利用料金等は決定していきたいというふうに考えておるところでございます。

それから、野球場多目的広場でグラウンドゴルフをされている方々を、あそこを野球場として使用するんであれば、あそこでグラウンドゴルフができなくなるのではないかというようなお話でございます。これにつきましては、グラウンド野球場をグラウンドゴルフとして利用される方、それから英田の協会等も協議をさせていただいた上で、この野球場をショウワコーポレーションさんが本拠地として使用するということには了解をいただいた上で話を進めさせていただいておるものでございます。その上で、協会のほうから新たなグラウンドのほうの整備をお願いしたいというような要望をいただいているところでございます。

それから、このグラウンドの整備につきまして、市の大切な税金を使って整備するのかというような御質問がございます。これにつきましては、この多目的グラウンドを、先ほど申しましたけど、年間野球場としては60日ほどしか使用されておりませんが、ショウワコーポレーションが本拠地として使用していただくと

いうことであれば、年間を通じて使用していただくということも可能になってまいります。また、野球を通しての合宿の誘致、そういったこともこれから考えられるというようなことから、市のほうでグラウンドのほうを整備するというふうなことにしているところでございます。

それから、この体育館の利用ですが、長期ということで特定の団体に貸し付けるということになるのではないかというふうなことでございますが、これも先ほど答弁させていただきましたけど、このグラウンドそれから体育館も含めて、あそこの周辺につきまして、野球の合宿としていろんなケースが見込める、それから年間を通じて使用が見込めるということで、総合的に判断をして、今最初に答弁させていただいたように、年間を通じて貸し付ける方向で今検討しているということでございます。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

重平議員、３回目です。

７番（重平　直樹君）

３回目でございます。

協会と協議をした結果とか、話し合いはしとるようですが、余り皆さんに知れてないというのが現状だと思います。専用使用は条例がある限りできないと思うし、どうしても専用使用するならば、条例を廃止し、行政財産から普通財産にして、貸し付けや売却する方法であると思いますが、どうでしょうか。

また、使用者の使用に適した施設の改修などは、改修後の使用の方法、使用料などを検討し、費用対効果を考え、また使用者負担も検討に入れなければならないと思うし、改修事業そのものは市の施設であるので、市が寄附金などをいただいて直接するべきと考え、使用者が市の許可で行うことはおかしいのではないでしょうか。通告には入れていませんが、大原に建設中の寮の無償貸し付け、ふるさと融資は、違法とは言わないが、大芦高原にある多目的広場や体育館の使用と同一事業者であり、一業者に余りにも優遇し過ぎではないでしょうか、私はそう思いますが、いかがですか。

議長（鈴木　悦子君）

池田企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）〔登壇〕

３回目の御質問でございます。

専用使用等につきまして、条例等に触れるのではなかろうかという御指摘、それから改修費用につきましても、使用者の負担を求めるべきではなかろうかという御指摘をいただきまして、議員おっしゃるとおり、そういった御指摘、問題があるというようには私どもも承知をしておるところでございます。そういったことの問題点を１つずつクリアしながら、具体的にどういった方向でやっていくかということにつきましては、前回も答弁させていただきましたけど、今後これから検討させていきたいというふうに思っているところでございます。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

総括です。

７番（重平　直樹君）

問題があるというのと、検討して皆様が納得するような形でこの事業は進めていってもらいたいです。

この大芦高原国際交流村は、旧英田町の方々の思いの詰まったシンボル的な施設であります、市民の財産でございます。市民が不安に思われない政治をよろしくお願いいたしまして、私の平成30年３月議会の一般

質問を終わらせていただきます。

議長（鈴木　悦子君）

以上をもちまして通告順番７番、議席番号７番重平直樹議員の一般質問を終了いたします。

続きまして、通告順番８番、議席番号17番内海健次議員の発言を許可いたします。

内海議員。

１７番（内海　健次君）〔質問席〕

それでは、議長の発言の許可を得ましたので、平成30年度３月議会における一般質問をさせていただきます。

もともと滑舌が悪かったんですけれども、さらに年とともに悪くなっておりますが、ひとつ御容赦願いたいと思います。

まず、私ごとで非常に恐縮いたしますけれども、健康管理を怠ったことが原因で入院することになり、議員の責務が果たせず、迷惑をおかけしたことは痛恨のきわみであり、深く反省をしております。今回の苦い経験で感じたことは、公職を担う一員としての自覚をしっかりと意識して心身を鍛練することがいかに重要なことであるか身をもって教えられました。皆さんもぜひ私のような状況に陥ることがないように、健康管理にはしっかりと気をつけてください。

さて、気ぜわしい年末から、子どもや孫が帰省し、にぎやかな正月を過ごした日からはや２月を迎えました。今週９日からは平昌冬季オリンピックが開催されます。私も国民の一人として日本代表アスリートの活躍を大いに期待しております。少し長くなりましたが、本題の一般質問に入ります。

今回は私の質問は２項目です。

１項目めは、エージレス社会を見据えて、新たな年齢区分で高齢者を減少するための発想について、２項目めは、高齢化時代を見据えて、セカンド市民制度を創設する構想、考えについてお尋ねをいたします。２項目ともに、少子・高齢化問題が声高に叫ばれて以来、国、都道府県、全国の市町村はもとより、我が美作市においても議論され、問題の解決に向けてさまざまな施策が取り組まれていることは理解しております。過去を振り返るなら、美作市が発足した大きな要因の一つに人口問題と厳しい財政状況が根底に存在していたと思っております。現在は美作市が誕生して13年を迎える中で、2025年問題が未来の日本の発展と繁栄にかかわる問題として大きくクローズアップされるようになりました。

そこで、この2025年問題を美作市はどのように考えておられるのか、問題解決に向けての取り組むべき施策はあるのか、そのあたりをお聞きしたいと思っております。

まず、高齢化時代を見据えて、新たな年齢区分で高齢者を減少する発想についてですが、今回の質問は、入院時に竹馬の友より2025年問題に関する小冊子を手渡されたことから始まりです。未来の年表というタイトルがございます、河合雅司先生です。ただ、これの冒頭に初めにこう書かれとんです。日本が少子・高齢化社会にあることは誰もが知る常識である。だが、その実態を正確にわかっている日本人は一体どれくらいいるのだろうか。質問者である私もわかっておりません。そういった意味で、ぜひ今回の質問は竹馬の友に対する一つの礼儀でもありますし、本来美作市が抱えている問題も含めて、そちらの行政のほうにお答えをしていただきたいと思います。

その前に、これもまたお答えする前にお断りしなきゃいけない。あの秦の始皇帝が追い求め続けたものは不老不死であったと言われていますが、不死は無理な注文でしょうけれども、長生きする人がふえることは非常に喜ばしい、自由で生き生きとした生き方が広く容認される社会を望むところです。著者が結びでこういうふうに書いております。人口減少問題を語るということは、とてつもなく巨大な未知のモンスターに接

した人がその姿を人々に伝えるようなもので、どんな切り口で説明しようとしても語り尽くせないと、こう結ばれとんです。したがって、きょう私が質問して、じゃあ皆さんのほうから的確なお答えが出るとは思っておりません。ただ、一つの区切りにしたいとこういうことで質問させていただきますから、ゆっくりとゆったりとした気持ちでお答えをしていただきたいと思います。

そこで、2025年問題と私もその一人ですが、1947年――私が1946年ですからその１級下です――から1949年昭和24年の第１次ベビーブームで誕生した約800万人の国民を指しており、この人たちが団塊の世代という巨大な集団となり、後期高齢者と呼ばれる75歳以上に到達し、さらなる少子・高齢化問題に拍車がかかってしまうことで生じるさまざまな問題を表現した言葉であることは皆さんもよく承知されていると思います。これまでの日本の高齢化問題の中心は、高齢化へと進むスピードでした。例えばフランスでは115年、スウェーデンでは85年、イギリスでは47年を要しましたが、日本は24年という人類史上いまだかつて経験をしたことのないスピードで高齢化が進んでいることが問題とされていましたが、2025年問題を語る上では、高齢者の人数も深刻な問題となってくる、先ほども触れましたが、日本は世界に類を見ない勢いで進む高齢化のスピードとふえ続ける高齢者人口の両方の問題に同時に取り組まなくてはならない状況にあると指摘されております。美作市もこの問題は少子化を含めて避けては通れないものであり、美作市の発展と繁栄の礎である人口減少に歯どめをかけて増加を目指す上では、国の方針、施策などの情報、動向を速やかに的確につかんで対応することが必要不可欠であると痛感しております。既に市長は、美作市まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づいて、2019年までにさまざまな施策を通じて、人口問題の根幹である少子化、高齢化問題に取り組まれていることは承知しております。昨年下半期社会増が増加に転じたと、これは国からいいますと１都３県、東京都、埼玉、神奈川、茨城に続くことでございます。小さな県北の美作市がそれに次ぐ社会増、これは非常に評価できるんじゃないかと思っております。

そこで、2025年まで残り７年となったことしを起点に、2019年までを通過点と捉えて、以降をどのような施策に取り組まれるのか。新聞報道によりますと、昨年１月に高齢者を75歳以上に引き上げて、65歳から74歳については准高齢者の区分を新設し、社会の支えとして位置づけ、見直すべきとの提言が行われました。そしてまた、本年１月でしたか、高齢社会対策大綱の見直し案ができました。ポイントとしては、エージレス社会を目指す、こういうふうに明記されております。そこで、昨年そしてことしのこの提言を美作市に置きかえたならば、人口区分はどのようになるでしょうか、またこの区分から、美作市の2025年問題の対応にどういうふうに取り組まれるか、何が明るい兆しや未来が見えてくるでしょうか、簡単にお答えをお願いいたします。思うとおりで結構でございます。

議長（鈴木　悦子君）

萩原市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

内海議員の久しぶりの御質問にお答えさせていただきますが、まず冒頭おっしゃったように、昨年は体調管理とおっしゃいましたが、いろいろ御苦労されました。そして、無事こうやって元気な姿で議会に登壇されたことを心からうれしく思っております。御家族も同様のお気持ちだと拝察をしてますところ、今後さらに健康管理には御留意されて、しっかりと議員としての高い見識を我々にも与えていただきますようによろしくお願いいたします。

お尋ねにもありましたように、日本の高齢化は、世界の先進国の高齢化の中で最も最終局面におけるスピードが高かったわけであります。したがいまして、日本の今後の動向につきましては、世界の各国が大きな注目をしております。どんなふうに日本という国がこの高齢化という問題を明るい形で解決するのか、ある

いは暗い形で終わるのか、これは世界の方々が世界の高齢化を考えたときの大きな先行指標だというふうに見ていることは間違いがないと思っております。そして、その日本の中において、日本が今後迎えるであろう高齢化を先進的に迎えているのが私ども美作市を含む、いわゆる消滅可能性自治体である、これもまた２番目の真実でありまして、したがいまして世界の注目を浴びてとまでは言いませんけども、世界が恐らく参考になるいろんな事柄が美作市で起きつつある。それを我々地域社会がどうこなしていくかが日本全体、世界の全体にもよいあるいは残念な影響を与えていくと思います。私どもがまず取り組もうとしていることは、これは累次の議会でも申し上げましたけれども、高齢化社会というけれども、健康であれば別に関係ないじゃないかというところが大きなポイントでありまして、当市の指標では、いわゆる健康寿命というものの定義を要介護２に至らないレベルの人というふうにしておりまして、逆に言うと要介護２以上にならないようにしようということであります、そして要介護２以上の人の比率を少しずつ下げていこうと。これにつきましては、３年ぐらい前にたしか13％弱だったんですけど、これが今は12％弱ということで、確実に改善をしてきている、そして我々自己の施策の中でも、高齢者の方々の健康づくり、リハビリづくりというようなことも含めて、これは投資をしっかりしていかなきゃいけない。そこで重要になってくるのが、いわゆるマシントレーニングを含めたさまざまなリハビリ施設だけじゃなくて、高齢者の方々が自由に伸び伸びと楽しくやれるようなスポーツの場の提供であるわけでございまして、英田のグラウンドゴルフの方々の御要請の中にも、今後の高齢化社会を見据えた上で、高齢者の健康づくりをすることがいかに意味があるか、それが市の財政にいかに大きな貢献があるかというような観点から、ぜひ市としてもこれは後押ししてほしい、こういうようなお気持ちが入っていたことは議員もお聞き及びかもしれないというふうに思っております。今後私たちの社会が2020年にまたオリンピックをホストすることになりますけれども、そのときにいろんな動きが、松浪健四郎日体大の理事長に言わせれば、この２度目のオリンピックで日本がどういうものを、彼の言葉を使いますとレガシー、伝統として残すのかが問われていて、その中に間違いなく社会全体のスポーツ、社会全体での健康づくりというものが入っているんだと、こういうことであります。社会全体というのは２つの大きなポイントがあって、１つは健常であるかどうかは別として、障がいがあるかどうかは別として、障がいの有無を問わずにスポーツ参加ができること、もう一つは年齢の有無を問わずにスポーツ参加ができる、こういう社会をつくっていこうと、こういうことであったわけであります。したがいまして、私どもとしては、医療的な面あるいは介護的な面を通じての健康づくりに加えて、スポーツの振興あるいはその場の提供の拡大ということを行いながら、市民の方々の健康度を上げる取り組みをしていくというのが１点目です。

もう一つは、働くということであります。年をとっても元気でいようというのがさっきの１番目ですが、次は年をとって元気でいるんだったら、なるべく社会が貢献をしていただけるような工夫をしなければいけない、もちろんシルバー人材センターというのはそういうそもそも目的を持ってやっていらっしゃるわけでありますけれども、先ほどの尾髙議員の問いにもあったように、私どもの地域社会における年齢に対する、年齢と仕事の関係についての方向性というものが問われております。役所のいわゆる普通のポジションが60で終わるとしても、延長雇用で65、70、75というところまでこれはやってもいいんじゃないかということを研究をしなきゃいけない、あるいは同じように、民間の企業でもそういった方向性が動いておりますけども、その点についても市としても後押しをしていくことが必要、つまり日本社会の中でどうしてもこのことは起こってまいりますけども、それをちょっとでも先駆けながら、働いていただける方々の年齢を健康度の増進に合わせて少しずつ上げていく仕組みが必要かというふうに思います。せんだって市内のある学校の先生をしていらした有能な女性とお話をいたしました。恐らく年齢は聞きませんでしたけども、喜寿あたりか

なと思わせていただいたんですが、まだまだ働きが十分だ、自分は介護士の免許を取ったというようなことでありました。私どもとしましては、こういった方々がようやくまた社会に復帰をされるようなことを市として推し進める、その中で健康の上に今度は社会貢献。社会貢献というのは、いわゆる心の健康の男女問わず一番大きな原点であります。貢献をしたことについて評価がある、それが生きがいになる、喜びになる、ストレスも下がるということでありますので、この２つを大きな柱としながら、できれば日本に先駆けた長寿、働き方改革社会というものを目指していきたいなというふうに考えておりますのでよろしくお願いします。

細かい具体的な数字等につきましては、担当のほうからお答えをさせていただきますのでお願いします。

〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

江見保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）〔登壇〕

失礼します。

それではまず、最初にお尋ねでありました2025年問題での提言を美作市に置きかえたら、人口区分はどう見えるかというお尋ねですが、御指摘のとおり、日本老年学会などから昨年１月現在は65歳以上と定義されています高齢者を75歳以上に見直すよう求める提言がなされ、政府は今年１月、65歳以上を一律に高齢者と見る一般的な傾向は現実的なものではなくなりつつあると明記した高齢社会対策大綱の見直し案をまとめました。高齢者の体力年齢は若くなり、社会とのかかわりを持つ意欲も高く、全ての年代の人が希望に応じて活躍できるエージレス社会を目指すとしています。背景としまして、少子・高齢化が急速に進み、全人口の３人に１人が65歳以上となる超高齢化社会が７年後の2025年に迫っていて、働き盛りの世代が高齢者を支えることを前提につくられた年金や医療・介護の社会保険制度は、現行の仕組みのままでは維持できなくなっていることが上げられます。年金受給開始年齢を延ばせば、受給額がふえるようにすることで元気な高齢者が働き、みずから十分な年金額を確保できる自助が期待されています。労働力調査によりますと、2007年以降減少を続けていた全国の労働力人口は、2012年の6,565万人を底に上昇に転じ、2016年は6,673万人になっています。これは2007年に8.2％だった労働力人口に占める65歳以上の割合が2012年以降急増して、2016年には11.8％になっており、高齢者の雇用拡大が大きな要因となっています。国勢調査による美作市の全就業者に占める65歳以上の割合も、2010年の16.1％が2015年には22.1％に上昇しています。また、自立が困難になる要介護２以上の本市の認定率を年齢階層別に見ますと、65歳から74歳が1.6％に対しまして、75歳から84歳が9.0％、85歳以上が35％となり、75歳以上になると介護度が急激に上昇する傾向があります。したがって、高齢社会対策大綱では、高齢者の定義を75歳以上に見直すことまでには言及していませんが、昨年の日本老年学会の見直しの提言の妥当性につながる面があり、介護保険事業計画書等の統計数値の表記や分析に当たって、65歳以上人口と75歳以上人口をできるだけ併記するようにしています。全国的には65歳以上人口、75歳以上とも増加が続いていますが、美作市におきましては、合併以降減少傾向が見られるようになり、高齢化率の上昇幅は鈍化してきておりました。ただ、団塊の世代の高齢化の影響もあって、2012年から10年は65歳から74歳人口が増加の後減少に転じ、減少していた75歳以上の人口が2023年以降は増加に転じ、75歳以上の人口比率が2025年に向けて急増する見込みであります。

そして、美作市行政としての取り組みはというお尋ねですが、美作市におきましては、合併直後から高齢化率が33％を超え、現在40％間近になっており、全国に先駆けて超高齢化社会が進行しています。こうした中、多くの高齢者が支え手として活躍していただいており、これから全国で展開されるべきモデルケースに

なっています。こうした中、美作市としましては、従来からの施策や介護サービスをできるだけ継続するとともに、希望する高齢者は仕事を続け、役割と生きがいを持って健康を維持することのできるエージレス社会の趣旨を取り入れることは有効だと考えます。しかし一方では、一生涯働かせるのかとの懸念もあり、それぞれの個性と希望に応じた多様な活躍の場が必要になります。そのため、高齢化先進地として市内で培ってきた活動や人材を生かしながら、地域で支え合う地域包括ケアシステムを一層進化、推進して、高齢者が住みなれた地域であらゆる世代の市民とともに、豊かに生き生きと安心して暮らせる地域共生社会を目指してまいります。

年齢区分の考え方につきましては、敬老会の対象者が合併前の各町村で70歳以上としていたところがありましたが、合併後は75歳以上に統一されました。また、社会福祉協議会におきましても、新年度から地区社協活動のゆうあい訪問の年齢を65歳以上から75歳以上に引き上げ、74歳までの方は主に福祉活動の担い手として支える側に回っていただく方針というふうに聞いております。真に援助を必要とする人の切り捨てにならない配慮をする中で、それぞれの状況に応じた対応が必要と考えます。

以上です。よろしくお願いします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

内海議員。

１７番（内海　健次君）

さすがに福祉部長らしい気持ちのこもった答弁でした。福祉に限らず、全ての行政分野にぜひこういったものを共有ができるようにお願いいたします。

いずれ、ことしか来年あたりでこの問題はもう一回やらなきゃいけないと思いますので、これで結構でございます。

次に移ります。

議長（鈴木　悦子君）

ここで10分間休憩します。

〔17番内海健次君「わかりました」と呼ぶ〕

午後２時04分　休憩

午後２時15分　再開

議長（鈴木　悦子君）

休憩前に戻り会議を開きます。

内海議員の２項目めからです。

内海議員。

１７番（内海　健次君）〔質問席〕

それじゃあ、２項目めです。高齢化時代を見据えて、セカンド市民制度を創設する構想、考えについてお伺いをいたします。

少子・高齢化が進行する地域社会構造が確立されつつある地方の市町村においては、人口増加につながる地域の活性化のキーワードとして、交流人口の増加をテーマに取り組む自治体も多数存在しておりますと伺っております。一般的に来訪者と地域住民の交流促進は、少子・高齢化が進む中で交流人口をふやし、市民活動の機会を広げていくなど、地域の活性化にも貢献すると言われております。先ほども申し上げました、美作市においても下半期そういう状況が如実にあらわれている、これは同じことではないかと思います。こ

のような波状的な効果が期待できる要素を、定住人口の転出に歯どめをかけて増加に結びつけるべきではないかというのが私の考えでございます。交流人口とは一度きりの観光客でなく、その土地に愛着を持ってリピーターとなってたびたび訪れる人々のことです。それには都会の県外から訪れたくなる縁づくりや目的が必要となります。例えば、都会人が生まれ育ったふるさとにかかわらず、第２の居住地として選び、週末や祝日を含むゴールデンウイーク、お盆、正月などの長期休暇のたびに、帰省気分で自然豊かな田舎暮らしを満喫できる環境の中で地域住民と触れ合い交流を図れることは、まさに心安らぐ第二のふるさとと思える場所となるのではないか。また、その土地に自分を必要として待っている誰かがいて、自分が活躍できる機会と場所が存在していることも心揺さぶる有効なポイントになると考えております。最初は行政が主導して地域住民の理解と協力を得ることが最初の一歩となりますが、交流人口の拡大を目指し、さらに発展的な強固な土台を築く世界が可能であれば、セカンド市民制度の創設を提案したいと考えております。

まず、セカンド市民制度に登録した方には、空き家や古民家を改修したゲストハウス的な宿泊施設を安く利用できるように便宜を図るとか、第２居住地として、美作市から行政サービスの一部を受けられるような特典を設けて誘致を図るとか、これは視点を変えれば、企業誘致と同様な位置づけと考えても過言ではないと思います。そして、この制度に賛同、魅力を感じて加入してくださった人には、美作市のことを広く深く理解して、きずなを築いてもらうことを目指して、地域の伝統文化、芸能、伝承行事を初め、祭りやイベントあるいはボランティア活動への参加を呼びかけるなど、人間関係を深め、親しくなった住民の家に泊めてもらい、さらに信頼関係が育まれ、一層地域住民との交流の輪が広がることが期待できると思っています。現在はインターネットによる情報社会が確立されており、美作市がセカンド市民制度の創設を実現する取り組みを情報発信したならば、瞬く間に世界中を駆けめぐります。行政の皆さん、私のセカンド市民制度創設についてどのように思われるでしょうか。

それと、補足ではありますけれども、山本雅彦議員のふるさと納税、尾髙議員の生産者人口不足について、これらもセカンド市民に対する高い要素も含まれてるんじゃないかと思います、あわせてお願いを申し上げます。

以上です。

議長（鈴木　悦子君）

池田企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）〔登壇〕

セカンド市民制度について考えてみてはという御質問でございます。

議員御提案のセカンド市民制度は、大都市住民が出身地に限らず、お気に入りの旅行先などを第２の居住地として選び、セカンド市民として住民登録を行うという新しい発想であり、こうした地域外住民も参加する地域活性化への仕組みは大変意味深いものと考えております。第２居住地として美作市を選んでもらうには、美作市に地縁のある方々が有望と考えております。例えば、当市に本籍がある方は約５万7,000人おられ、当市に別荘所有をしている方が約80人、また先ほどもありましたが、今年度１月末でのふるさと納税をしていただいた方が1,000人、こういった地縁でつながっている方々が多くいらっしゃいます。こうした方々とふるさと情報の提供やまちづくりへの参加の機会を提供し、お互いに有益なつながりをつくりながら美作市に興味を持っていただき、定住ではなくとも、繰り返し美作市に来てくれるファン人口をふやしたいとそういう取り組みを進め、セカンド市民として住民登録ができる仕組みづくりを研究してまいりたいというように考えております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

内海議員。

１７番（内海　健次君）

もう既に地縁の数の要素がここに含まれておりますから、ぜひこれを伸ばしてください、検討してやってください、終わります。

まとめとして、本年は時代の区切りを刻む改元前です、来年が改元ですから改元前です。ぜひ地域の未来、美作市の未来を考える年にいたしましょう。ぜひ考えてください。

終わります。

議長（鈴木　悦子君）

以上をもちまして通告順番８番、議席番号17番内海健次議員の一般質問を終了します。

続きまして、通告順番９番、議席番号９番金谷のり子議員の発言を許可いたします。

金谷議員。

９番（金谷　のり子君）〔質問席〕

議長の許可をいただきましたので、平成30年２月議会、金谷のり子一般質問に入らせていただきます。

寒い日が続きますのでインフルエンザも流行し、体調管理が難しくなっております。この議場内でも皆さんせきをされる方もおられますし、市民の方も皆さん体にはお気をつけください。

それでは、早速質問に入らせていただきます。

今回私は２項目の質問をさせていただきます。１つは里山公園について、２つ目はもうもう工房跡地についてでございます。

まず、里山公園の質問に入らせていただきます。

美作の里山公園の29年度末までの進捗状況と30年度の計画について質問いたします。さらに、里山公園は、良好な景観の形成、生物の多様性確保、災害の防止、余暇及び教育にかかわる活動の場、伝統的文化の継承等の多目的な活用が維持され、発揮できるよう行われ、里山の恵みを多くの市民が受け、その資源を市民共有の恵みとして位置づけ、市、市民、土地所有者が相互に連携し、協働しなければならないと、平成26年９月18日、条例第44号美作市美しい里山をつくり育てる条例第３条の基本理念にあります。その中で市と土地所有者の話し合いは行われて進んでいると聞いていますが、多面的な活用を行うために、他の市民との協働はどのようになっているか、その点についても質問いたします。

議長（鈴木　悦子君）

真野建設部長。

建設部長（真野　弘紀君）〔登壇〕

金谷議員の里山公園についての答弁をいたします。

里山公園事業は、山が荒廃することで起こる弊害を改善し、その多面的機能を活用するため、美しい里山をつくり育てる条例を平成26年に制定をいたしまして、取り組んでいるところでございます。

今年度末までの進捗といたしましては、公園面積では、多くの地権者の協力をいただきまして352ヘクタールの貸借契約を締結しており、官地を含めた面積は370ヘクタール程度になると見込んでおります。また、事業費といたしましては約４億4,000万円でございますが、財源として、がんばる地域交付金事業、過疎対策事業債を活用することで美作市の実質負担額は約１億2,000円になっております。一方で、平成27年度末の開園面積に対する交付税算入が始まりました。本年度は6,000万円程度と聞いておりますが、来年度は約１億円程度が見込まれるというふうに聞いております。

整備内容といたしましては、里山の手入れや散策に必要な進入路と園路整備が主でございまして、既存林道のほか、地域が整備した山道などの中から６路線約６キロの改良や整備を行っているというところでございます。今年度は各地域からの進入路を尾根付近で結ぶ遊歩道のうち約２キロがおおむね完成することで、複数の散策ルートから通り抜けが可能となるというふうに見込んでおります。

30年度の事業予定でございますけど、これは骨格予算ということで、当初の予算には計上しておりません、補正予算のほうでお願いしたいというふうに思っております。

次に、地権者の方以外との市民の方々との協働ということでございます。

これまでの路線選定や整備内容につきましては、地域が整備、管理をしてきた林道などを活用することから、主に地元区長さんを代表といたしまして協議をしてまいりました。地権者の意向はもとより、地元の方でないとわからない、かつて利用していた山道の場所、大雨のときの水の流れ方、過去の被災歴、隠れた古墳やほこら、湧き水などの見どころ資源等々、多くの情報と意見をいただけたことでこれまでの整備が進んできたところでございます。既存の山道は障害物も多く、山歩きの愛好家でも険しい箇所がありましたが、現在５カ所の進入路を結ぶ縦走ルートに階段やロープ柵を設置いたしまして、４月以降からは初心者の方でも安全に通行していただける骨格のコースが確保できるというふうに予定しております。御指摘をいただきました公園を利用する市民の方々との連携、協働による公園づくりといった取り組みといたしましては、日ごろ山歩きをされておられますグループのほかに、主に子どもたちを対象にゲームを交えて自然観察をするネイチャーゲームや特殊なロープを使って木に登るツリーイングの指導者の方に公園をＰＲするとともに、適地探しや伐採木の選定、今後設置予定しておりますトイレの設置場所などの助言をいただく取り組みを始めたところでございます。今後は多くの層の方に来園してもらうためにも、山歩きの愛好家グループを初め、利用者との懇談等の機会を持ち、御意見をいただきながら、ルート設定、眺望ポイント等の伐採木の選定、案内表示、樹木名の表示、ベンチなどの施設の充実に反映をして生かしたいというふうに思っております。議員におかれましても、里山公園のＰＲ、見識者との、この間山歩きの方の紹介をしていただきましたけれども、御協力を賜りますようお願いを申し上げます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

金谷議員。

９番（金谷　のり子君）

里山公園について、２回目です。

昨年の12月23日に、12月議会が終わりましてすぐになりますが、美作市の山歩きの好きな方々と同僚議員と６人で里山公園を歩いてみました。午前９時半から午後４時半ごろまで歩いたと思います。栄町から急な坂を上り、尾根に沿って朽木方向へ歩き、楢原下へ出る本谷へ下りまして、その間で全員でお昼を食べました。その後急な道をおり、本谷路線を下り、楢原下へ出ました、そして次に楢原下の四ノ谷路線車道を歩き、北原方向に急な坂を上がり、そして北原の沿路にくだりました。６時間近く歩いたんですが、私が山歩きになれていないということで、これはスローペースだったと思います、何回も休憩しました。そして、全く道になっていない山道もありましたので、本当に大変だったんですが、楽しかったです。山を歩く方の気持ちがわかりましたし、木の枝でここを打ちまして傷もできましたし、いろいろな経験をしながら歩きました。本当に急な坂をおりたり上ったりというのも乳酸がたまりながら、とても楽しいんだなということを思わせてもらいました。そして、この３日後の12月26日に、また山歩きの好きな方からお誘いいただいて、岡山市の操山公園を歩かせていただきました。そこは、公園面積が136ヘクタールで、美作市の里山公園の３分の１ほどになるかと思うんですが、護国神社から登り、そしてもう整備されておりましたので快適に登れ

たんですが、木の葉が落ち滑りながら歩くのもとても楽しかったです。そして、歩く最中に何人もの私ぐらいの世代の方とすれ違いまして、こんにちはとか知らない人と挨拶をしながら歩いたんですが、聞いてみました、どこから来られてるんですかということで。そうしましたら、近くの方で健康寿命増進のために週に三、四回歩いているということで、楽しく歩かれているんだなと。こういうふうに市内の人も歩くということに活用できる美作市の里山公園にならないといけないなと思って歩かせていただきまして、しかしながら円山のほうへ道に迷って下ってしまいまして、いろいろと歩けませんでした。そうしましたら、中には途中で市内を一望できる展望広場もあり、本当にきれいな場所を見ることもできましたし、それから勉強になりました。

この２つの公園を、まだ完成していない里山公園なんですが、比較できるところはと感じましたのが、操山公園の管理費がどれぐらいなのか、使っておられるかということを疑問に思いまして、そして里山公園ができたとき管理費をどれぐらいでいくつもりでおられるのかということ、それからその内容と金額についての質問させていただきたい。それから２番目に、今できている車道と沿路、車道が４路線できております、そして沿路が８路線ですか、それぞれの今までの費用です、事業費の内容とそれからどのようなことに使ったのかというところについて質問させていただきます。

議長（鈴木　悦子君）

真野建設部長。

建設部長（真野　弘紀君）〔登壇〕

金谷議員の２回目の御質問です。

まず、岡山にございます操山公園との比較ということでございます。

岡山市に問い合わせたところ、公園が８カ所管理に出しておられるようです。いろいろな公園がございまして、例えば操山公園もあれば、百間川公園とか半田山とかいろいろな公園がございます。先ほど言われましたように、我々のところの里山公園によく似ているという意味では、操山公園がよく似ているなというふうに思います。操山公園の管理費ですけれど、これは公表されているものではございませんので、聞き取りということになるんですが、操山公園のほうは立派な管理棟がございまして、研修施設等もございます。したがいまして、一概には言えないんですが、その管理棟などの管理費が年間420万円ほどかかっている、それから山林部分、我々が今つくっているところの遊歩道なんかの管理費が約250万円年間かかっているというふうに聞いております。規模がうちの３分の１ぐらいですので、私どもの予定としては、少なくとも1,000万円以内までには抑えれるというふうに考えております。

それから、今までに施工しました工事をしました費用の内訳でございますけれど、いわゆる進入道路として、既存の林道を使用した３路線と一部栄町の市道を利用した路線がありますけれど、これについては約３億円程度で１メーター当たり９万円程度がついております。それから、今年度遊歩道を施工しておりますけれど、この遊歩道につきましては、現在工事を発注して積算した内容では、１キロ当たりでございますけど、１キロ2,000万円程度ぐらいかかるということでございます。したがいまして、ことしそのうちの縦走ルートとしては２キロをやっておりますので、予算的には昨年度行いました測量委託も含めると4,000万円ほどかかっているということです。今後縦走ルート５キロぐらいを予定しております、それからその縦走ルートに上がるルートで今地権者の方の同意を得られたところから御相談をさせていただいて、その縦走ルートにつながる地域からの道というのもありますので、確定はしておりませんけれど、縦走ルートの５キロのうち２キロがことし完成しますので、残りの３キロ、それから各地域からの登る道が３キロから５キロぐらい出てくるのかなというふうには思っております。仮に残りの３キロと５キロで、８キロで２万円を掛けま

すと１億6,000万円ぐらいかかるかなというように思っております。したがいまして、30年度、31年度で6,000万円から7,000万円の工事で事業を進めて、一応の完成を見たいというふうに思っております。

以上です。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

金谷議員、３回目です。

９番（金谷　のり子君）

３回目です。

個々に路線の事業費をお尋ねしたかったんですが、私が調べさせていただきましたら、車道が随分費用がかかっているようでございます。もう完成している栄町それから本谷、四ノ谷、北原の４路線で相当の費用がかかっておりますが、あと沿路という車道です、舗装しない道につきましては、それほどかかっていないというふうに見させていただきました。残るとこは沿路が多いようで、それから遊歩道等も多いようで、これからの予算的には今まで４億円前後かかっているようですが、７億円ぐらいまでということなんですが、私が今回質問させていただいた理由としまして、できるだけ削減していただきたい。いい公園になると思います、歩いてみて楽しかったですし、今後も市民の方に愛される里山公園にしないといけないんですが、まず予算的に削減していただくことと、そして先ほどの質問の中で言いましたように、市民の山歩きを楽しむ方はいろんな山へ行かれて、この操山公園がよく似ているというのも、その方に教えていただいたから、連れていってくださったから歩けましたし、本当にいろんなところを歩いておられるので、ぜひそういう方の御意見を聞いていただきたいという思いがあってこの質問も用意したんですが、そしてすぐさま歩いた後にフェイスブックに載せましたところ、市外の方がすごく興味を持ってくださって、早くできるといいねとか、まだ道になっていないところの写真も載せましたので不安に思われるようなコメントもあったりしたんですが、ぜひ全国から来ていただけるような楽しい里山、プラス市民が健康増進で歩ける里山にしていく、そして極力事業費をかけないというところでお願いしたいと思いまして、そのことについて質問します。

議長（鈴木　悦子君）

萩原市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

真野部長のほうは、事業を完成させる責任があるもんですから７億円と言っておりますけれども、先ほどの答弁にありましたように、だんだん先が見えてまいりました。８キロの遊歩道、メートル２万円、これも一応上限がそういう数字になってますんで、恐らくそこまでかかるかどうかは、かからないと見たほうがいい。全体で見ますと７億円という上限を彼、ちょっと言いましたけれども、その前のときには事業実施をする観点から10億円ぐらいと言ったんですけど、だんだん下がってきて７億円になって、恐らく着地は6.5億円前後に着地をいたします。７億円かかった場合の市民負担は１億5,000万円でして、これが平成29年度と30年度の交付税の増額でもうカバーが済んじゃうんです、当然ですけど。それより若干下がりますんで、基本的にはさっきも申し上げましたように、操山公園というのは非常にいい例なんですけれども、管理費がでかいあそこには里山センターというのがあって、これに人もいるもんですから400万円かかってるんですが、その分がうちはないもんですから、どんなに頑張っても1,000万円超えないということになりますんで、基本的に毎年毎年約１億円程度の余剰が生じる形を継続できると思います。

もう一つは、私どもとしましては、今地域をずっとめぐっておりますと、例えば楢原の池のあたりを昔美作八景ということで、楢原の駅前あたりが随分きれいな水面だったんですが、そういうものを復活できるように公園に編入してほしいとか、あるいは塩垂山の問題も残っておりますし、それから長大寺が残っており

ますし、いろいろ市民の方々の御要望というものもまたしっかり聞きながら、じわじわ面積の拡大をし、そしてそれがまた若干の管理費の増大にもつながりますけど、もっともっとその10倍ぐらいの一般財源の余裕になってまいりますんで、その方向でも考えていく。

次に、そのときにお尋ねに戻るんですけれども、利用者の方々のニーズが多様なんです。ここの山の裏山というか、城山と言っておきますけども、そこについては山歩きの方々のニーズが非常に強くなってくると思うんですが、一方で長大寺になりますと、子どもたちが遊びの場としてどう活用できるかという子育て世代のニーズというものも聞かなきゃいけない、てなことで、さまざまな場所に応じて、市民の方々のニーズも少しずつきちっと取り入れながら、公園構想は市の活性化のためにこれからも一歩一歩進めていきたいと思っておりますので、またそういう団体の方々への連絡も含めてよろしくお願いをいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

金谷議員、３回目です。

９番（金谷　のり子君）

先ほど総括的な質問でしたので、次の質問に進めさせていただきます。

議長（鈴木　悦子君）

じゃあ、２項目めです、どうぞ。

９番（金谷　のり子君）

２項目めは、もうもう工房跡地の現在の状況とそれから今後の活用計画はどのようになっているのかということと、その中でも今現在日々高速バス利用者の利用の際に駐車場がないので、市民の方が困っておられる状況についてということで、市民の方から要望いただいております駐車場について通告をさせていただきましたところ、すぐさま駐車場を利用できるように動いていただいたということで、この質問の趣旨をほぼ酌んでいただいたんですが、その中で告知放送で注意事項ということでそれをよく読んでおいてくださいというようなことがありますので、そのことも含めて質問をさせていただきます。

議長（鈴木　悦子君）

遠藤経済部長。

経済部長（遠藤　宏一君）〔登壇〕

もうもう工房の跡地ということで御質問いただきまして、この跡地につきましては、美作市土地開発公社が先行取得をしておりまして、道の駅として整備するために、９月議会におきまして債務負担行為の予算の議決をいただいております。そして、美作市土地開発公社では、現在建物などを除却するために設計業務を委託しておりまして、３月には除却工事を発注したいというふうに準備を進めております。この土地につきましては、美作インターチェンジの南に位置するということで、市民の皆様から高速バス停利用者の駐車場として使用できないかという声をたくさんお聞きしました。議員からも意見を頂戴しましてありがとうございました。跡地の一部をロープで区切って２月１日から使用していただいております。使用料は当面無料としております、二十数台の駐車ができる状態となっております。告知放送で注意事項をお知らせしておりますが、４点ございます。一般的な内容でございますが、まず１番目に、必ず所定の区域内に駐車してください、それから２番目に、駐車場内は禁煙です、３番目に、駐車場内での事故、盗難等につきましては一切の責任を負いません、４番目に、騒音等周りの迷惑になる行為はおやめください、こういった注意事項を掲示しております。また、美作インターチェンジの隣接ということで、インターチェンジの照明自体は隣りにありますけど、駐車場自体には場内に照明がございませんので、夜間の使用の際は御注意いただきたいというふうに思っております。

また、建物の撤去工事の際、一時使用できなくなると思いますので、その際はまた告知放送でお知らせしたいと思います。

以上です。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

金谷議員。

９番（金谷　のり子君）

２回目の質問をさせていただきます。

昨年の７月に私が関西のほうに行く用事がありまして、北山の友人の家に車をとめさせていただいて、そのまま歩いて商業施設の駐車場を横切ると早いので入りましたところ、封鎖してあり、また外に回ってバス停に行ったという経緯がありました。いつごろから封鎖されたのかははっきり、７月に私は気づいたということなんですが、８月に文教厚生委員会のほうでもみんなで視察がありましたので、そのときにはもうもう工房のところにとめさせていただくということで、許可を得てとめた人もいます。そして、９月には一般質問をされた方もありまして、いろいろな状況で恐らく半年ぐらいは市民の方が不便を感じておられたんじゃないかなと思うんですが、その中で、区切って簡易的に使っていただいたらということを言わせていただいたんですが、そこの発想が出てこなかったのか、何かほかに理由があってそういうことをされてなかったのかという質問をさせていただきたいということと、それから今後の活用についてですが、バス停の位置です、今ある位置をもうもう工房側に変えていただいて、道路を横切らなくてもバス停に行けるような要望を今後出していくべきではないかと思いますので、そのことについて質問します。

議長（鈴木　悦子君）

遠藤経済部長。

経済部長（遠藤　宏一君）〔登壇〕

もうもう工房の跡地でございますけど、建物が残ってまして使っていませんので、ひさしも古くなって落ちそうになっているところがある、危険なところもある、それからちょうど中間ぐらいを東西に水路が横切っているということで危険な箇所もあって、なかなか全体を全部使っていただくというのが難しいなということばっかり思ってまして、途中区切ってという発想がなかなかできなくて、もう少し早く一般の方にお貸しすることができればよかったのかなといった思いももちろんございます。

それから、高速バス停の移設ということでございますけど、道の駅の計画を当然してまいりますので、移設できるように取り組んでまいりたいというふうに思っております。

以上です。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

萩原市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

原則は今部長が答弁したとおりなんですけども、若干配慮事項がございまして、その一つがあそこのもうもう工房の用地の外周というかインターの側面というか、インターをつくったときの管理道路みたいなものがあって、それが農道のような形で地元管理であるんです。それの意味があるかどうかというのを検討した上で、地元と調整がつけば、バス停をあそこに移したときにすっと入れるんで、これはまた非常に型がいいんで、それがないと、またこうぐるっと回って出る話になりますんで、その辺の調整をどうするかというのが課題として残っているのが１点。

それからもう一つは、今の高速インターのバス停の利用の実態を僕もこの間見に行ってきたんですけど

も、もちろん長距離バスにあそこから乗って関西に行かれる方もいるんですが、たまたま拝見をしたら、多分勝央のほうの方だと思うんですけれども、あそこでおりて買い物をして、あそこに乗って帰っていくという方がおられるんです。その辺の実態をどう考えるかについて、細かい配慮もしたほうが市民の方々のためにいいのかなという点もありまして、余り断定的に移設するんだという決めつけをするのは今控えておこうかなと思ってますんで、つけ加えさせていただきます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

金谷議員。

９番（金谷　のり子君）

総括させていただきます。

使用できるようになったことを市民の皆さんは喜んでおられると思います。尾髙議員が質問を先ほどされました中に柔軟な発想ということを言われましたが、なかなか決まったことの中で柔軟な発想も難しい、安全を思われてそういうこともあったんですが、皆さんの声を届けさせていただいて、このようにすぐに動いてくださったことは評価させていただいて、みんな喜んでおられることと思います。

そして、今市長がおっしゃいましたように、いろいろなことを調べていただいて、どちらがいいかということで考えていただいたらいいんですが、私は移動していただくほうがいいんではないかと思っております。

これで２月の私の一般質問を終わらせていただきます。

議長（鈴木　悦子君）

以上をもちまして通告順番９番、議席番号９番金谷のり子議員の一般質問を終了いたします。

ここで10分間休憩いたします。

午後２時58分　休憩

午後３時08分　再開

議長（鈴木　悦子君）

休憩前に戻り会議を開きます。

続きまして、通告順番10番、議席番号８番安藤功議員の発言を許可いたします。

安藤議員。

８番（安藤　　功君）〔質問席〕

それでは、失礼をいたします。

議長の発言の許可をいただきましたので、平成30年３月議会の一般質問をさせていただきます安藤でございます、よろしくお願いをいたします。

まずもちまして、今回の議会では３項目にわたりまして質問を通告させていただいております。

１項目めとして、美作市の所有者不明などの空き家、土地問題について、２項目めとして、学校教育について、３項目めとして、合併後の美作市についてということで通告をさせていただいております。

私は議員になりまして５年弱ということでございまして、一般質問でさせていただく項目は、子育てのことであったり子どもの学習のことであったり学力のことであったり、比較的子どもに関する質問が多いと私自身も思っておりますけど、子どもというのは、きょうも２項目めに関連するんですけど、おぎゃあと生まれてからいろいろな成長の過程を経て大きくなって、そして社会人へと育っていくわけですけれども、あるお話を御紹介して質問に入りたいと思うんですが、小さく本当にかわいい玉のような赤ちゃんで生まれて、

かわいいかわいいと育てていく我が子であろうかと皆さん思うんですけれども、あるときお母さんと息子さんの会話なんですけど、ある日その子がすくすくと育って中学生になられて、いつもですと早く宿題をしなさい、勉強をしなさい、テレビを切って、ゲームをやめて、早くちゃんとすることをしなさいというような注意をして、今までですとはあいと長い返事ながら返してやってた、そんなある日にその子どもが、うるさいくそばばあと言ってしまったんです。通常のお母さんであると即座に言い返して、親に向かって何を言うんだというふうな母親と、また余りにもびっくりしてあっけにとられてしまうお母さんもいらっしゃるでしょう、その傍らで沈黙を守る父親もいるかもしれませんけれども、きょう御紹介するお母さんは、うるさいくそばばあと言われたときに、その傍らにいたお父さんに、お父さん、我が子もここまで成長したんですよ、うれしいことですねと、今晩は赤飯を炊いて祝おうとおっしゃったそうです。本当に赤飯を炊いて祝って、よくここまで大きくなったなというふうに褒めたそうです。その子はいわゆる反抗期です、１日で終わったそうです。この事例は特異な例かもしれませんけど、いろんな受けとめ方があって、このような昔でいう肝っ玉母さんかもしれませんけど、どんと来いというような形で子育てをするのもいいのかなという、今みまちゃんネルをごらんの皆さん、またいろんな方々にそういったお子さんがいらっしゃる方も多くおられると思うんですけど、そういったことも御参考にしていただければということで御案内をさせていただきました。

それでは、本題に入ります。

まず、美作市の所有者不明などの空き家、土地問題についてということで質問をさせていただきます。

それでは、平成27年に空家等対策の推進に関する特別措置法が施行されたが、その特別措置法に沿った施策は現在どのようになっているか、美作市空き家バンクの実態は現在どういうふうになっているか、３番目として、美作市内の空き家、廃屋、土地等で所有者不明の実態調査はされているかについて、以上についてのお尋ねをしたいというふうに思います。

人口減少社会において、空き家、空き地、耕作放棄地など、利活用を放棄された不動産が急増しております。テレビ、新聞等でも大きく報道されておりますので、皆様も重々御承知のことと思いますけれども、その中でとりわけ日本の各地で災害復旧、道路整備、山林管理、農地の集約、地籍調査、土地区画整理といった公共のための事業を進める際に、所有者不明土地、建物はコスト増の要因また所要時間の延長要因となるだけでなく、民間においても土地の有効利用や放棄・放置不動産の管理を進める上で大きな障害になっており、また衛生面、生活安全面、景観悪化など、多くの諸問題も表面化をしてきております。所有者不明土地問題研究会がそうした中で発足されているわけでございますが、その中間報告によりますと、例えばある町で昭和初期に50人程度の共有地であったものが、現在は700人の共有地となり、土地の所有者の把握に多大な時間と費用を要したり、それでもなお不明者が多いため、大きく計画を変更したが、断念したというふうな例もあるとのことでございます。農地の集積、集約化や森林の適正な管理なども含め、さまざまな分野で現場が直面する喫緊の課題となっておるとのことでございます。

空き家については、2013年に全国で820万戸の空き家があり、今後世帯数の減少等により、2033年には2,150万戸にまで急増すると見込まれております。そうした中、美作市でもさまざまな手法を用いて取り組みをされているとは思いますが、先ほど申し上げましたけれども、１番目の平成27年に空家等対策の推進に関する特別措置法が施行されたが、その特別措置法に沿った施策は現在美作市ではどのようになっているのか、そして美作市空き家バンクの実態は現在どのようになっているか、登録戸数や入居状況、また移住、定住につながったケースなどをお答えいただければというふうに思います。美作市内の空き家、廃屋、土地等で所有者不明の実態調査はされているか、美作市民にとって、国土あるいは住まう地域が安心な生活空間で

あることは不可欠であり、所有者不明土地、建物問題は、管理が不適切で生活環境の悪化にもつながっているということから、適切な対応が必要と考えますが、以上を１回目の質問とさせていただきます。

議長（鈴木　悦子君）

萩原市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

有効利用がされない、あるいは管理がされてない、さらには所有者がわからないといった各々の不動産の問題、これはこのところ次第にいろんなところで真摯な取り組みというか議論が活発になってまいりまして、国会においても相当のボリュームでこの市の問題に対する立法がなされたり議論がなされている、そういうことでありました。それを２つに分けますと、家屋の問題あるいは家屋プラス家屋敷とそれからもう一個は農地と山林の問題と若干状況が違いまして、空き家を含めた家屋敷の問題については、当市はもちろん問題は抱えてるんですけれども、手法として大分確立をしてきて、有効活用にするのか、あるいは取り壊しにするとか処置をするとかということが仕分けができ、それも制度的に大分しっかりしてきているというような状況であります。

一方で、よくわかんない森林とか耕作放棄地とかといったものについては、もちろん問題もあるんですが、その解決の手法について、まだまだ国も地方も道半ばとこういうことがあります。したがって、この点については、私どもも市長会などを通じて、山林についての中間管理機構ができないかとかというようなことも含めて問題意識を発信はしているところでございますけれども、いずれにしましても全国的な制度がしっかりすることが大変求められているということを、地方としてはまずとりあえずは射貫いていこうよというような状況になっているということで御理解賜りたいという総論を申し上げた上で、それぞれ市民部と経済部のほうから、さっき上げた区分に従って状況等について報告をさせていただきたいと思います。

以上です。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

角南市民部長。

市民部長（角南　良雄君）〔登壇〕

それでは、美作市の所有者不明などの空き家、土地問題についてのまず１番の特別措置法に沿った施策は現在どのようになっているかの質問でございます。

美作市では、空き家等の適正な管理に関し、所有者等の義務を明らかにし、適正な管理が行われていない空き家等に対する措置について必要な事項を定めることにより、防災、防犯、衛生、景観等の市民の生活環境を保全し、もって市民の安全に寄与することを目的に美作市空家等の適正管理に関する条例を制定しております。この条例では、空き家の情報提供があれば立入調査等を行うことができ、周辺に影響がある状態であれば助言指導を行い、改善が見られない場合は勧告、命令を行います、なおかつ従われない場合は行政代執行の措置をとります。このように、条例制定したことにより、情報提供のあった物件のうち、公道等に影響がある状態の空き家84件について現地調査を行い、早急な管理をしていただくよう、現状写真を添付して通知を行いました。この結果、半数の40件の物件については、解体撤去いただいたり草刈り等の処置済みとなっております。

特定空き家等に該当する物件等の判断につきましては、美作市空家等の適正管理に関する条例に基づき、美作市特定空家等対策審議会で協議決定をいただき、対応をしております。また、今年度倒壊のおそれのある緊急性の高い特定空き家を緊急措置として、一部解体撤去いたしました。年々空き家の増加が見込まれ、撤去したくても、多額の撤去費用が発生することからちゅうちょされる方がございます。こうしたことか

ら、美作市空家等除却事業補助金交付要綱を制定し、危険な空き家について、解体撤去費の一部を助成する制度を設けております。

３番目の美作市内の空き家、廃屋、土地等で所有者不明の実態調査についてですが、情報提供いただいた空き家につきましては、他に影響があるかを判断し、影響がある場合は、所有者の把握として法務局の台帳で確認をとります。登記されていない物件については、固定資産税の情報をもとに所有者の特定を図ります。所有者が特定できても、死亡されている場合が多いことから、戸籍の情報により相続人や納税管理人を特定いたします。市外の方については、他の地方公共団体に対し、空家等対策の推進に関する特別措置法の規定により、情報提供をいただいております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

池田企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）〔登壇〕

私のほうからは、２番目の美作市空き家バンクの実態はという御質問について御答弁させていただきます。

空き家情報バンク制度についてですが、空き家の有効活用を目的に、空き家の所有者からの申し込みにより、不動産業者への空き家物件の情報提供から入居決定までの支援を行っております。30年１月末の空き家バンクの登録件数は20件で、内訳は、売買19件、賃貸１件となっております。登録手続中の物件が18件あります。平成27年度から平成29年度において、これまでに13件の契約が成立しており、11世帯22名の方が移住されております。うち２件は別荘の利用ということになっております。

一方、今年度の市内での新築件数は、これまでに61件あり、このうち移住定住補助金の申請件数は39件となっており、新築による移住、定住促進の効果もあると思われます。今後も引き続き新築並びに空き家を有効活用した施策により、移住、定住の促進、良好な居住環境の形成、地域社会の維持などに取り組んでいきたいというふうに考えております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

遠藤経済部長。

経済部長（遠藤　宏一君）〔登壇〕

所有者不明の土地の問題、農地、山林について答弁をさせていただきます。

国土交通省の調査によりますと、平成28年度の全国で行われた地籍調査において、不動産登記簿上の所有者の所在が確認できない土地の割合、これが宅地が17.4％、農用地が16.9％、林地25.6％で、合計で20.1％となっております。また、国土交通省のアンケート調査によりますと、森林の所有者のうち、市町村内に不在の者の割合は24.4％で、そのうち相続時に手続をしていない者の割合は約２割と推定をされております。

美作市内の状況でございますが、農地については、平成28年度相続未登記農地等実態調査というものがございまして、農林水産省に報告をしております。美作市の農地は、全体で６万4,466筆、面積4,328ヘクタールでございますが、このうち相続未登記のものが１万4,628筆、22.7％、面積では946ヘクタール、21.9％となっております。また、所有者が市外在住等のものが１万6,709筆、25.9％、面積では953ヘクタールということで22.0％となっております。

また、農業委員会では、農地利用状況調査を行い、遊休農地については、農地法に基づきまして相続人の調査を行いますが、平成28年度までに把握している遊休農地2,361筆のうち、連絡先がわかったものは

1,836筆、77.8％、面積では165ヘクタールのうち132ヘクタール、80％という状況になっております。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

安藤議員。

８番（安藤　　功君）

それでは、２回目の質問をさせていただきます。

まず、先ほどの御答弁で美作市の空き家等の適正管理に関する条例に基づき、立入調査や最終的には行政代執行の措置に至るとのことでございます。その御答弁の中で、公道等に影響がある空き家84件に対して現地調査を行い、40件については処置済みとのことでございますけれども、そこで残りの約40件については現在どのような状況であるかをお尋ねをいたします。また、公道等とあるわけなんですが、この等とは何を指しておられるのか、公道以外の部分ではどういったものがあるのかというのをお尋ねしたいと思います。また、公道に影響はなくとも、近隣の住民の皆さんに当該物件があらゆる悪影響、例えば植えられている木が生い茂り、枝葉や幹が他の方の敷地や建物に干渉してきたり、悪臭、景観の悪化、不審者の隠れ家になり得るなどさまざまな影響を及ぼしている場合もあると思われますが、そうした物件は対象外として、何もしない、何もできない状態で放置されているのかお尋ねをいたしたいと思います。

また、美作市特定空家等対策審議会は、どういった方々で構成されていて、その会議は定期的に開催されているのか、また必要に応じて開催されているのか、またどの程度まで法的権限が与えられているのかをお尋ねをいたします。

また、所有者不明の土地、建物に関してですが、公共工事等に影響が懸念を予想される物件が現時点であるか否か、先ほど御説明されたさまざまな数字でございますが、その数字は、全国平均のそれと比べ、美作市はどのような状況か、土地、農地、森林の所有者不明物件に対して、今後どうしていくのかをお尋ねをしたいと思います。

通告してないんですけど、先ほど金谷議員もお尋ねをされておりました里山公園も数多くの地権者の方がいらっしゃったと思うんですけど、そうした工事の中で、不明者の土地があって、こういったことがあったような事例がもしありましたらお答えいただければと思います。

次に、空き家バンクに関してですが、四、五年前になりますが、多分私が市議会議員１年生のころだったと思うんですけど、当時空き家バンクというか、名前が空き家バンクだったかよく覚えてないんですけど、空き家を利用促進というようなことがいろいろと取り沙汰されていたころなんですけど、そんなときにある市の職員さんに私が美作市の空き家対策にもっと力を入れないと、これからいろいろと困ることが起きる可能性がございますし、空き家が今後美作市のいろいろな意味においても大きな売り物の一つになるんじゃないですかねって話をしたことがあったんです。そのときその職員さんは、市は不動産屋じゃないんでそれほど大したことはできません、今以上のことは難しいですとはっきりおっしゃったんです、その時点で。私も寂しいというか悲しいというか、本当にこれで大丈夫かなという気がそのときにしたんですけど、私もまだ駆け出しの１年生でございますので反論できずじまいで、今になってとても悔しいなという気持ちがいまだによみがえってきますけど、そのあたりも今ではその考えもきっと変わられていると思うんですけど、そのあたりの御意見も部長にお尋ねをしておきたいと思います。２回目の質問でございます。

議長（鈴木　悦子君）

角南市民部長。

市民部長（角南　良雄君）〔登壇〕

２回目の質問ですが、安藤議員の２回目の質問に対して、市民部からお答えいたします。

まず、処理済み以外の40件の対応状況でございますが、適正管理の通知を送付した後、所有者から草や樹木を早急に対応したいとの連絡や撤去の意向などがあります。撤去の意向の方には、その都度撤去に対する補助金の御案内を行っております。しかしながら、１回だけの連絡では対応していただけない空き家もございますので、再三にわたり所有者に対し連絡を行っているところでございます。

次に、公道等でございますが、安藤議員の御指摘のとおり、道路に接している物件ばかりではなく、隣接した家などに影響がある空き家や防犯上、景観上影響がある空き家なども対象として、所有者に対し早急な管理をお願いしております。

次に、美作市空家等対策審議会の組織と役割、権限、開催でございますが、委員は専門性を要することから、司法書士、弁護士、不動産鑑定士、建築士、家屋調査士、民生委員、法務局の登記官などで構成しております。役割、権限、開催につきましては、美作市空家等の適正管理に関する条例第13条に、審議会は、市長の諮問に応じ、特定空き家等に対する措置等に関する事項を調査審議するための組織と規定しております。審議会の事務といたしましては、市長が危険な状態を解消するため必要な措置を命じようとするときや緊急安全措置を講じるときに審議会の意見を聞く、また条例の勧告、命令、代執行等に関する重要な事項を調査審議する組織でございます。開催については、命令や緊急安全措置の審議については、臨時的に開催いたしますが、定期的には空き家の状況報告について開催しております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

真野建設部長。

建設部長（真野　弘紀君）〔登壇〕

安藤議員の２回目の御質問の土地についてですが、現在建設部のほうで進めている公共事業では、原則地権者の同意が必要となっていることから、所有者不明が原因での影響はないところです。しかしながら、相続者が死亡されて、相続権がお子さまのほうへ行ったりというようなことがありますので、そういうときには担当の者が苦労しておるわけですけれど、現在のところはスムーズに行っておるというところが状況でございます。

今後はそのような土地が多くなることは十分予想されます。災害などによるのり面の崩壊など、予期せぬ事業などにおいて、事業の推進に支障を来すということも考えられます。現在国では所有者不明土地問題の検討会が立ち上がっておりまして、十分その検討会の推移を注視していくというふうなことが必要であるというふうに考えております。

また、里山については、所有権を変えるというものではなくて、借り受けるというものでございますので、大体こちらのほうへ、もし亡くなられておられても権利のある方がおられますので、その方とお話をして借り受けているという状況でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

遠藤経済部長。

経済部長（遠藤　宏一君）〔登壇〕

所有者不明の土地のうち、農地についてでございますが、農林水産省の実態調査によりますと、相続未登記の農地に所有者が市外在住等で相続未登記のおそれがある農地を加えた農地の割合は、全農地面積の約２割とされております。美作市の状況は、先ほど答弁いたしましたが、相続未登記農地の割合、面積ベースで21.9％それから所有者が市外在住等で相続未登記のおそれがある農地の割合22.0％、これを合計しまして

43.9％となりまして、全国の数値の２倍を超える値となっております。なお、参考に申し上げますと、岡山県全体の数値は39.1％ということでございます。対策のほうでございますが、遊休農地につきましては、農業委員会が連絡先を調査し、農地中間管理機構の利用を促すなど、遊休農地の解消に取り組んでおります。

また、国の動きでございますが、現在は農地を担い手に貸し出す際、過半数の相続人の同意が必要でございますが、相続人の範囲を配偶者と子に限るような改正が進められようとしておりまして、担い手への農地が集積しやすくなるような方向にとなっております。森林については、全国と比較できる数値がございませんが、美作東備森林組合にお聞きしましたところ、森林経営計画を策定しようとして所有者と管理者の両方が確認できない土地、これが３割程度あるということでございました。森林につきましては、市町村において、森林所有者や協会等の情報をまとめた林地台帳というものを整備中でございまして、平成31年度からの運用を見込んでおります。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

池田企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）〔登壇〕

空き家バンクの関係の２回目の質問でございます。

空き家対策にもっと力を入れたい、入れなければならないのでは、空き家が今後美作市のいろいろな意味において売り物の一つになるのではという御質問です。

議員のおっしゃるとおり、空き家の有効活用が移住、定住の促進等に重要な施策の一つと考えていることから、市といたしましても空き家対策に積極的に取り組んでいるところです。

まず、空き家情報バンクの登録件数につきましては、平成23年度から平成26年度の４年間で７件でございましたが、平成27年度からことし１月まで約３年間で33件の追加があり、家屋の相続に伴う所有権移転の登記等の手続のため日数を要している登録手続中の物件18件を加えますと、着実に登録件数は増加をしております。

次に、平成27年度に移住、定住のための補助金制度見直しを行い、新たに中古住宅の購入、または中古住宅の購入とあわせて増改築を行った市民の方を対象にした定住住宅奨励金を交付するとともに、ふるさと我が家リフォーム補助金、ふるさと賃貸リフォーム補助金として、空き家情報バンクに登録した家屋の増改築に要する経費等に対しても助成を行うことといたしております。こうした空き家対策等につきまして、有効活用につきましては移住、定住の促進はもとより、まちづくりに大いに寄与するものと考えており、今後も引き続き空き家対策に取り組んでまいりたいというように考えております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

安藤議員。

８番（安藤　　功君）

それでは、総括をさせていただきます。

まず、空き家に関してなんですけど、最近では福祉施設としての利用というのが活発化しようとしているというふうなことでございます。せんだって新聞にも出ておりましたけども、国交省ですかが古い建物を再利用する際の規制緩和をしようというような動きもあるとのことでございます。ただ、規制緩和にしましても、先般北海道でもすごい火事がありまして、福祉施設のような共同住宅ですか、あのようなことがあっても大変な事故につながりますので、規制緩和のあり方というのもまた問われるのかもしれませんけども、いずれにしても有効活用という面では前向きに考えていただきたいというふうに思います。

また、いつかお話をしたことがあるかもわかんないんですけど、私の近隣に空き家がございまして、ちょうど小学生、中学生、高校生もですけど、通学路というか頻繁に通るところに空き家がありまして、そこにいつからかわからないんですけど、不審者がお住まいになってて、大きな事件というわけではなかったんですけど、警察の方もお見えになっていろいろとしたというようなこともあります。子どもたちに被害があったわけじゃないんですけど、そういった面でも危険な部分を空き家というのは含んでおりますので、先ほど市長も申されましたけど、国の動向とかそういうところにも注視をしながら今後対策をしていただきたいなというふうに思います。

また、先日一昨日ですか、市内のＮＰＯ法人をされている方からも御連絡をいただきまして、少し概略ですけど、市内の空き家への対策を何かしらの対策を施すということで、また最終目的には高齢者シェアハウスの建設をしたいというふうなお話もお聞きいたしました。そういった方々へも耳を傾けていただきまして、できる限りの市としてのお力をおかしいただくようなことができれば、事業が展開できるような研究もしていただきたいというふうにここでお願いをいたしておきます。

また、土地、農地、山林につきましても、所有者不明の解消に向けて、国等の動向にも注視をして、努力をしていただきたいというふうにお願いをいたしまして、この項を終わります。

議長（鈴木　悦子君）

続けて、２項目めに入ってください。

８番（安藤　　功君）

それでは、２項目めに入らせていただきます。

それでは、学校教育についてということで質問をさせていただきます。

通告のとおりでございます。まず、１番目として、小・中学校の道徳教育について、２つ目として、小学校の英語科教育について、そして３つ目として、小・中学生の学力全般についてをお尋ねをしたいと思います。

まず、道徳教育についてですが、文科省は、小学校では平成30年度、中学校では平成31年度より、道徳の時間を特別の教科道徳に変更し、より力を入れていくとされております。いじめなど重大な問題が少なくない昨今、道徳教育の必要性はますます高まっていると言えると思います。調べたところによりますと、戦前は修身という名で道徳教育が行われていたそうでございますが、改めて昭和33年より、公立の小・中学校で週１時間の今日まで続いた道徳の時間が始まったと言われております。高度成長経済期を経て、日本は大きく変化をしてまいりました。近年においてもグローバル化や情報通信技術の進展、少子・高齢化進行など、社会は今もなお大きく激しく変化をいたしております。それに伴いさまざまな問題も生まれ、人として求められる資質も少しずつ変容してきており、道徳教育の内容も変わることが余儀なくされているのが実態のようでございます。近年小学生でも携帯電話やスマートフォンを持っていることが多くなっています。インターネット等の普及が急速に進む昨今、この手のひらにあるその小さな端末のそれが世界中にリンクしつながっていることが、本人にはよくよく理解できぬまま利用するケースもふえていると聞きます。例えば悪質な業者にだまされたり、悪意を持った見知らぬ人と容易に出会ったり、またネットいじめと言われるような現象が多発するなど、多くの課題が生まれており、昔にはなかった情報モラルに関する指導の必要性が高まっていると聞きます。道徳教育が学校の教育活動全体を通じて行うものであり、位置づけや授業時間も小学１年生が年間34時間、小学２年生から中学３年が年に35時間と現状と変わらないとのことでございます。がしかし、上記の理由だけではございませんが、教科としての道徳、そのあり方が現在問われていると思います。現在の道徳の時間は教材を読むことに終始し、形骸化しているんではないかというふうな声も聞こえて

おるところでございますが、そのことも踏まえ、今回の変更点では、問題解決や体験的な学習なども取り入れ、考え、議論する道徳教育を目指しているとのことでございます。もちろん家庭や地域での指導やいわゆるしつけは大変重要でございますが、ここでは美作市教育委員会として、道徳に対してどのような取り組みそして展望を描いているかお尋ねをいたしたいと思います。

次に、英語科教育についてでございますけれども、現在小学校では、外国語活動として英語が必修化されています。ほとんどの小学校で５年生、６年生の授業に英語が組み込まれております。それらの授業では、英語の歌やゲームなどを取り入れ、英語を楽しむ、英語に親しむということに力を入れていると聞きます。その英語教育が2020年度からは英語教育義務化完全実施となるとのことでございます。その新たなそして大きな変化は、小学校の英語教育だけにとどまらず、中学や高校での英語科の授業また大学などの受験にまで影響を及ぼしてまいるというふうに考えます。５、６年生において義務化されるということは、必然的に成績のつく教科として英語が授業に組み込まれるわけでございます。先ほどの道徳でもお尋ねをいたしましたが、美作市教育委員会としてどのような取り組み、そして今後の展望を描いておられるかをお尋ねをしておきたいというふうに思います。

また、最後にですけれども、美作市の現段階での小・中学生の学力全般についての評価をどのように考えられているか、また今後の目標値などを想定されているのであれば御答弁よろしくお願いをいたします。１回目の質問とさせていただきます。

議長（鈴木　悦子君）

大川教育長。

教育長（大川　泰栄君）〔登壇〕

失礼いたします。

学校教育の根幹についての御質問を本当にありがとうございます。そしてまた、先ほどはうるせえくそばばあということでの大変心温まるお話をありがとうございました。一つだけ余分ですけれど、私も中学校の教員でございますので、目を三角にした男の子にうるせえくそばばあっていうふうに言われました。そのときにどう返すかというと、ありがとう、女性に見てくれたんか、くそじじい言わんかったな、あんたはすばらしいわ、よう目が見えとるわというと、その子の目が点になるんです。そして、ああっとこう肩の力が抜け、そして心を開いてくれる、そうしたその場のちょっとした言葉、そしてこちらの心の持ち方は随分変わっていくなということが実感でございますので、本当にすばらしいお話をありがとうございました。

さて、御質問の学校教育の件でございます。

まずは、小・中学校での道徳教育についてでございます。

議員御指摘のとおり、小学校では平成30年度から、ことしの春からでございます、中学校では平成31年度から、特別の教科道徳として教科化されます。新指導要領におきましては、道徳科の目標、育成すべき資質、能力が明確になり、学習活動や内容項目も具体的に示されました。考え議論する道徳は、課題の発見、解決に向けた主体的、協働的な学び、いわゆるアクティブ・ラーニングの考え方と同じでございます。多様な価値観の中、答えが１つではない課題を子どもたちに投げかけ、子どもたち自身が考え、議論する道徳へと転換を図ることを目指しております。

道徳教育は、特別の教科である道徳をかなめといたしますが、学校の教育活動全体を通じて行うものであり、それぞれの特質に応じて、児童・生徒の発達の段階を考慮して適切な指導を行わなければなりません。議員御指摘の情報モラルに関する課題につきましても、学習指導要領において、指導の配慮事項として指導を充実する必要があるというふうに示されております。例えば、勝田中学校区においては、中学生が中学校

生徒会スマホサミットの取り組みを小学生に紹介し、スマホ利用のモラル啓発を行っています。ほかにも英田中学区では、中学生がつくったスマホかるたを小学生と一緒に行ったり、あるいはこれは作東ですが、人権集会に小学校を招き、差別やいじめについて一緒に考えたり、それぞれの学校、学区で工夫した道徳教育を推進しているところでございます。今後もこの新指導要領の内容に沿って子どもたちの道徳性を育成するとともに、規範意識や自己肯定感の向上を図ってまいります。

次に、小学校の英語教育でございます。

平成32年度からは、現在小学校５、６年生で行っている聞くこと、話すことを中心とした外国語活動を３、４年生で実施し、５．６年生では新たに今中学校と同じです、読むこと、書くことが加わった外国語科が新設されます。これはほとんどの場合英語で行うわけですけれど、市内では現在もＡＬＴを活用し、５、６年生のみならず、小学校１年生から４年生まで先行して外国語活動を実施しております。次年度30年度からは、小学校のＡＬＴを２名から３名、外国のアシスタントティーチャーでございますが、これを２名から３名に増員して指導の充実を図るとともに、幼稚園、保育園でも外国語体験の機会を今以上にふやし、さらに中学校の英語科教員による小学生への指導など、中学校と連携した指導を進めることで、15年間を見通した連続性のある取り組みを進めてまいります。

最後に、小・中学校の学力全般でございます。

本年度の全国学力の状況は、小学校はほぼ全国平均でございましたが、中学校は全国平均を下回りました。学習状況調査からは、学校の決まりを守り楽しく学校に行っているという状況は伺えますが、学習時間が少ない、テレビの視聴時間、スマホ利用時間が多いというような課題が見られました。今後学力調査におきましては、全国平均を上回ることを目標に、落ちついた学習環境の構築、基礎基本の徹底及び活用力の育成、家庭学習の充実など、今後も子どもたちの確かな学力が身につくように指導を進めてまいります。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

安藤議員。

８番（安藤　　功君）

それでは、２回目の質問をさせていただきます。

まず、学校教育についてということの２回目でございますが、美作市の小学校においては、全国平均を上回る学校もあるほど順調に成果が見受けられますけれども、まことに残念なことなんですけれども、中学校においては全国平均に若干届かない学校が見受けられるというようでございます。この現象が数年続いているということは、一概には言えないのかもしれませんけれども、同じ小学生であった子どもさんたちが年を重ねて中学校へ進学していくと思うんですけど、小学校のときには全国平均をとっていた子どもさんたちが、なぜか中学校に入ると、進学をしたからか成績が下がるというふうにとれるんですけど、それに間違いがあったらまた御指摘をいただきたいんですけど、そういった流れはどこにどういった現象が起きているのかなというのが常々不思議というか謎なんですけれども、教育長はどのように考えられておられるか御答弁をいただけたらと思います。

また、私は常日ごろ考えていることなんですけれども、子どもたちにとって学力が全てではないということは言うまでもございません。学力が全てではございませんが、しかしながらゼロでもございません、ゼロでもないんです。それはテストの点数だけのことを言っているんではございませんで、一生懸命その子その子なりに頑張ることの大切さを知ってもらうことや、将来その子にとって必ず一生懸命頑張ったことというのが役に立つことも多くあるというふうに思います。例えば言い方は乱暴かもしれませんけれども、学校を

卒業して社会人になった途端に、現実として競争社会に放り出されるわけです。そこに待ち受けている競争社会で自分自身を見失わず、そして闘っていかなくてはならない人生も多くございます。そうした中で、知力、体力、精神力を子どものころから身につけておかなければならないというふうに考えます。また、必ず人生において一人一人あると思うんですけど、大きな壁であったり高い壁であったり、分厚い壁にぶち当たることも多々ございます。その壁をぶち破るために、そのときに自分で考え、そして自分を信じて挑戦して決断を下していかなければならないときというのが必ずやってくると思います。ですからこそ、その子その子なりに今一生懸命勉強やスポーツを頑張ることも非常に大切だと考えています。私自身も中学校３年間、高校３年間、大学４年間、英語を10年間学習したというか授業で、おまけに大学ではドイツ語を４年間やったんですけど、済みません、しゃべれません。それはなぜかと考えるんですが、一生懸命勉強しなかったせいもあるのかもしれませんけども、何かしら学習というか学校の授業のあり方も問題があったのかなと自分を慰める意味でもそういうふうに感じているところなんですが、その他もろもろ教育長はいかにお考えをされているか再度お尋ねをしたいと思います。よろしくお願いします。

議長（鈴木　悦子君）

大川教育長。

教育長（大川　泰栄君）〔登壇〕

学力につきましては、なかなか中学校になって上がってないんではないかということで厳しい御指摘でございますが、これは実は27年度から私が参りましてから公表をさせていただいております。27年度の中学生というのは、これはタイムラグがあるわけですが、24年の全国調査の小学校６年生の成績が中学校になって27年で出てきているということになります。では、その24年のときの小学校時代の成績はどうであったかというと、いま一つであったと。それに対して、中学校は確かに全国平均は下回っているかもしれないけれど、これを比べてみますと、確実に上がってきているんです。これは同じことが28年にも申し上げられます、小学校時代よりは確実に点数がとれるようになっていってる、そして29年もと言えればいいんですが、29年は残念ながら一部の学校で少し１、２年生が１年生のときに落ちつかない状況ということがございましたので、やや伸びしろがいま一つであったということでございます。

そうした中で、ですから中学校になったから下がるというわけではないのですが、中１ギャップというお話もございましたように、確かに子どもたちは小学校から中学校へ上がりますと、勉強が難しくなった、わからなくなったな、今まで算数は楽しかったんだけど、数学になったらどうもというような声が聞こえてまいります。そうしたわけで、それぞれの学校におきましても、これは小学校も同様でございますが、例えば放課後学習であったり、あるいは授業をわかりやすくとさまざまな努力を行い、少しずつこれも27年、28年、それ以前の25年、26年、少しずつ改善をしております。目標としましては、全国平均を上回るということでずっと一貫してやってきております。特に小学校で非常に伸びしろが大きいわけですが、これは小学校では授業改革推進チームという教員のチームを置きまして、この４人のリーダーがそれぞれの学校を巡回して、授業についての指導をしたり、好事例、指導のよい例を集めてそれを指導したり、そうした結果があらわれたものというふうに考えております。今後も先ほど英語のことをおっしゃられましたけれども、それは私も10年勉強してきて、じゃあしゃべれるかというと、なかなかあれですが、今後も子どもたちにいろいろな力を身につけさせたいということで、例えば英検、英語の検定です、あるいは数学もあるんですけれども、そうした検定を通過できたということで自信をつけさせたいということで、ことしから英検は教育委員会でも実施して、できるだけ多くの子どもたちが受ける機会をつくれるようにということ、あるいはもし30年度の予算、今回の予算をお認めいただければ、数学についても同様の自作の問題を美作市数検というよ

うな形でしっかりそうしたものも取り組んでまいりたいと考えております。

次に、学力だけでなくということは、これは本当に大切なことでございます。私は着任以来、目指す教育、目指す子どもの姿として、自立ということを上げております。これは、自立というのはみずから立つというほうです、律するではなくて立つというほうです。つまり、できれば18歳になれば自分で生きていける、自分でお金を稼いで生きていけるんだというような自立というものを掲げております。そのために必要な３つの力として、学力そして豊かな心、最後が耐力、耐力の耐というのは、体の体力もありますが、耐える耐、忍耐力の耐ということも申し上げて、これはこのバランスのとれた子どもの育成というものを各学校にお願いをして教育を進めていただいております。

したがいまして、学力は先ほど申し上げたとおりでございますが、心ということにつきましては、例えば一番近いところでいきますと、小学校においては、オリンピック・パラリンピックの文化プログラムを利用いたしまして、障がい者理解を進めるための教育、そうした教材を使っての教育、あるいは中学校では、全中学生を集めまして、パラアスリート、交通事故によって足を切断した若者がしっかりとパラリンピックの選手として活躍をしているわけですが、そうしたパラアスリートの講演を行って、しっかり子どもたちに聞いてもらう。あるいは、小学校５、６年生は、全部の小学校５、６年生を文化ホールに集めまして芸術鑑賞を行う、ことしは狂言の鑑賞ということで文化芸術に触れる。つまり、そうした心を耕す、実際に体験することでしっかり心を耕していきたい、そしてそうしたものは道徳だけでなくて、体験をするということでより深まっていくのではないか、さらには異年齢の交流。美作市内の学校は余り大きな規模ではございませんが、その分アットホーム、年齢が異なる子どもたちが交流しやすい。先ほどスマホのこととか人権集会を申し上げましたけれども、中学生が小学校へ行くとか、あるいは小学校が中学校へ尋ねていくとか、勉強を教えてもらうとかというようなことで、自己肯定感を高め、そしてそうしたことはどんなことにも立ち向かっていける子どもたちを育てていけるものというふうに考えております。

もう一つ言わせていただければ、就学前の教育というものにも力を入れております。就学前からしっかり教育をしていかなければいけないということで、保育園、幼稚園での教育、指導というものにも力を入れている状況でございます。

最後に、お願いということでございますが、皆様方のお子様そしていつぞや孫ラッシュというようなお言葉も聞きましたけれども、我が孫をしっかりと抱き締めて、そして目を見て話しかけるあるいは語りかける、そして話を聞いてあげていただきたいと思います。物心つかない幼いころにそうして抱き締められ愛されていると実感できた子どもは、さまざまな面で頑張れる、自分に力がある、頑張れるんだということができると思います。これは、学校、保育園、幼稚園ではできないということでございますので、この場をかりて皆様にお願いをして、私の思いも含め答弁とさせていただきます。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

安藤議員。

８番（安藤　　功君）

それでは、総括をさせていただきます。

教育長のさまざまな面にわたります御答弁をいただきまして、孫をかわいがるというようなことでかわいがります、頑張ります。我が子どもたちと違うまたかわいさというんが孫にはありまして、そういったことで育んでやっていきたいなというふうに感じます。

それから、道徳の授業もそうなんですけど、英語もそうでございますが、特に道徳を先ほど僕は形骸化し

てるんじゃないかというような話も聞こえてくるということを申し上げたんですが、これが特別な教科になっても、機械的に事務的な道徳、人間とはこうあるべきです、こうしたときはこうしましょうということではなくて、やはりその子が心で受けとめれるような授業の展開というのをしていただくように、先生方は大変かもわかりませんけど、足し算、引き算とはわけが違いますから難しい面もあるかとは思うんですけども、しっかり子どもたちの教育をしてほしいなというふうに感じました。

また、学力に関しましても、中学校に関しては、これから成果があらわれる時期が来るであろうというふうなことでございますので、全国平均より高かったから低かったからで全てをあらわすというか、全てを評価するわけではないんですけど、一つの目印として、目安としてそういったものもございますんで、美作市の子どもたちにも一生懸命頑張っていただいて、心身ともに成長していただいて立派な大人になってほしいなという願いを込めておきたいというふうに思います。この項は終わります。

議長（鈴木　悦子君）

それでは、３項目めは休憩の後にしてください。

これより10分間休憩します。

午後４時09分　休憩

午後４時20分　再開

議長（鈴木　悦子君）

休憩前に戻り会議を開きます。

安藤議員、３項目めから始めてください。

安藤議員。

８番（安藤　　功君）〔質問席〕

それでは、失礼をいたします。

３項目めの質問をさせていただきたいと思います。

通告どおりでございます、３項目め、合併後の美作市についてということでお尋ねをいたします。

旧勝田町、大原町、東粟倉村、美作町、作東町、英田町の６カ町村が平成17年３月31日に合併し、美作市が誕生をいたしました。当時町村合併が求められる背景として、全国的に少子・高齢化の進行、多様化する住民ニーズの対応、住民の日常生活圏の拡大、地方分権の推進、市町村の財政基盤の充実、行財政の効率化、広域的な地域整備などが上げられてございます。

そこで、我が美作市における合併したことによる行政上のメリット、デメリットはどのように考えておられるか、また２つ目として、合併したことによる住民のメリット、デメリット感をどのように把握をされておられるか、３つ目として、今後旧６カ町村のますますの一体感の醸成と均衡ある発展の実現に向けてのさらなる取り組みをどのように考えておられるか、以上３項目めの質問を現段階でどのようにお考えかをお尋ねをしたいと思います、お願いします。

議長（鈴木　悦子君）

岡本総務部長。

総務部長（岡本　和之君）〔登壇〕

失礼いたします。

安藤議員の御質問、合併したことによるメリット、デメリットはどうかという御質問でございます。

まず、合併したことによる行政上のメリットといたしましては、６カ町村の職員を集約したことにより、

全体的な視野の広がりによる大胆な改革とよりよい行政サービスの提供や６地域の特徴を生かした広域的で一体的な施策の展開であると思っております。また、デメリットといたしましては、地域間のバランスや声なき声への市政への反映という点が上げられるかなというふうに考えております。

また、住民の方のメリット、デメリットということでございますけども、メリットといたしましては、自治振興協議会の総会や役員会、そして行政懇談会など、地元からの意見として、旧町村にはなかった図書館等の施設を利用できるようになった、行政区域が広域化することによって、住民票の写しの交付などの窓口サービスが勤務地や外出先でも利用できるようになった、旧町村名から美作市となり知名度がアップしたなどの御意見をいただく反面、福祉部、教育委員会が別々の場所にあることから１カ所での対応ができない、支所の人員減少及び地元出身の職員の減少により、地域の問題について相談しづらくなったとの意見もお聞きしておりましたが、最近ではこのような御意見は余り聞かれなくなったというふうに感じているところでございます。

そして、これらを踏まえまして、今後旧６カ町村のますますの一体感の醸成と均衡ある発展の実現に向けて、さらなる取り組みをどのように考えるかという御質問でございます。これまでの施策の積み上げにより、初めての人口流入超過の達成と、その合併以来最も健全な財政の実現を果たした、消滅の危機を脱したことでようやく幸せな発展を目指すスタートラインに着いたところでございます。また、平成30年度では、予定しておりますＮＨＫのど自慢の開催を初めとした市民の一体感を醸成するための取り組みはもとより、行政懇談会や市民アンケートなどを通じて寄せられたさまざまな課題について、丁寧にそして確実に問題の解決を継続し、美作市をもっと住みよい町にしていくよう、執行部そして職員が一丸となり取り組みを加速させたいと考えているところでございます。よろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

安藤議員。

８番（安藤　　功君）

それでは、２回目でございます。

合併後、合併後という言葉がまだ13年目なんで、合併後何年というような言葉が常に使われているような気がするんですけど、いずれこれが合併30年、50年となると、何丸周年ぐらいで合併後みたいな言葉が出るとは思うんですけど、いずれこの合併後という言葉もだんだんと使われてこなくなるのかなと、それが本当に一体感が醸成されたときなのかなというような気がいたしますが、今岡本総務部長のほうからも御答弁いただいたわけなんですが、きょう内海副議長も申されておりましたけども、こういった問題がきょうのやりとりで全てが解決するというか、全てのお答えを引き出すというような質問ではございませんが、この時点で市長の４年間弱の美作市を見た御感想と今後どのような市にしたいかというお答えができる範囲でお話をしていただければと思いますが、よろしくお願いします。

議長（鈴木　悦子君）

萩原市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

戦後という言葉がありまして、戦後は終わったというのを言い始めたのが昭和30年代の後半ぐらいから、戦争が終わってからもうすぐ20年ぐらいになるころから戦後が終わったというような言葉が出始めたわけであります。新生日本というものが一体感を持ってこれたな、高度成長が始まったなという感じを日本国民が持ったのはそのころです。もちろん、その後も計算上の戦後は何年というのは言ってるんですけども、戦後という言葉は余り使わなくなった、これは事実であります。私たちの町も十何年かたってきて、確かに合併

後という言葉がいまだに残ってますけれども、いろんな地域で伺う話の中に、先ほど総務部長からも御答弁を申し上げましたけれども、合併して損だったという言葉がほぼ消えたということは間違いないことでありますし、あるいは湯郷の方々がお通杯のことを自分たちの問題として議論をするようになった、つまり宮本武蔵は、もともと宮本村のものでありましたが、その後大原のものになって、今や美作市のものになったということです。あるいは、同じように湯郷の方々が国際サーキットのことについて我が事のように考えている、これは本当にありがたいこと。つまり、少なくとも帰属意識、美作市に帰属しているんだという、自分たちは美作市民なんだというところの意識は明らかに出てきている、だからいい方向にまず来ているなと思います。一方で合併をしたことによる市としてのメリット、例えば合併特例債でありますとか、あるいは過疎債が全面的に適用されるようになったとか、これは大きいんですけども、さらに言うと交付税が一時積み上がって、一本算定じゃなくて、もとの算定をベースにしてもらっていたことなどによって、さらにこのところの財政改善によって財政上の問題というのはほぼなくなっているわけですが、じゃあといって市民生活のレベルの向上にどこまでつなげることができたかということについては、もちろん一歩一歩例えばやってきたことがあります。病児病後児保育の問題について、奈義町に負けないように対応したとか、あるいは出産一時金について、これも周辺に負けないように対応したとかあるんですけれども、まだまだやるべきことがいっぱいあると私どもは思っておりまして、例えば今議会について言いますと、これは御案内のとおり、介護保険料について、里山公園における交付税収入を念頭に置きながら、引き下げの方向でやれるような条例改正のお願いもさせていただいているようなわけでありまして、今後は合併した結果、あるいはさまざまに市の職員や議会の方々が無駄を排除していく中で生じた財源、財政上の余裕部分を市民生活に還元をして、そしてそれがなるほどこの町に住むと得なんだなとか、この町に住むことはいいことなんだなというような感覚ができるようにしていきたいというのが私の強い思いであります。そうすれば、今帰属意識ができたけども、今度はこの家に一緒に住んでいることでよかったなというふうにお互いに喜び合えるという状況に次はなっていくのではないかというふうに私は個人的には強く期待をさせていただいているところでありまして、その準備活動が大分済んだ３年余りだったというふうに思っていて、次の４年間、選挙の結果がどうなるかによってではありますけれども、自分としては今度は充実する、市民生活がよくなったという実感が多くの方に共有されるようにして、それが次のステップの一体感につながっていくというふうにさせていただくことを強く希望をしているというような気持ちでいっぱいでありますのでよろしくお願いをいたします。

１点申し忘れましたが、部長のほうから出たＮＨＫのど自慢につきましては、決まったと思っていただいて結構でございますのでよろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

安藤議員、３回目です。

８番（安藤　　功君）

３回目、総括させていただきますが、最後に市長が申されました平成30年度ののど自慢では決まったと思い込ませていただいておきますんで、正確にまた決まりましたら御案内いただければというふうに思います。ぜひとも予選に出て、通過するかどうかわかりませんけど、チャレンジをしてみたいなと思いますので、その節にはよろしくお願いをいたします。

それから、今総務部長また市長に今の現時点でのお話をお聞きしまして、帰属意識というんですか私も勝田町の住民であるときは、宮本武蔵というのは近隣だけど、よその話みたいなのがありました、そういえば本当に。でも、今そんなことは全然感じませんし、我が町の宮本武蔵、我が町の湯郷Ｂｅｌｌｅであった

り、我が町の国際サーキットというような知らず知らずのうちに。岡山県を離れると、必然的にそれを自慢している自分がいるんです。だんだんと壁というか何かしらの境界線がなくなっているのは事実かなというようにお話を聞いてて思いました。

それから、岡本総務部長の一番最後のほうに、執行部、職員が一丸となり取り組みを加速させていただきたいと考えておりますというのを力を込めて申されましたけども、ぜひとも執行部、職員そして美作市議会が一丸となって取り組みを加速したいというふうな言葉にかえさせていただいて、美作市がちっちゃなお子様からおじいちゃん、おばあちゃん、高齢者まで夢と希望そして笑顔のあふれる町になるように、皆様方とともに手を携え、そして力を合わせて粉骨砕身努力してまいりたいというふうに考えておりますので、今後とも御指導いただきながら頑張っていきたいと思いますので、皆様方におかれましてもよろしくお願いを申し上げまして、これをもちまして平成30年３月議会の８番安藤の質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

議長（鈴木　悦子君）

以上をもちまして通告順番10番、議席番号８番安藤功議員の一般質問を終了します。

お諮りをいたします。

本日の会議はこれで延会したいと思います、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

異議なしと認めます。本日はこれで延会をすることに決定をしました。

本日はこれで延会します。

再開は６日午前10時からです。

御苦労さまでした。

午後４時33分　延会

平成３０年２月６日

（第　　４　　号）

1. 議　事　日　程（４日目）

（平成30年第１回美作市議会３月定例会）

平成30年２月６日

午 前 10 時 開議

於　　議　　場

日程第１　議案第11号訂正の件

日程第２　一般質問

2. 出席議員は次のとおりである（18名）

１番	青　山　　慶	２番	和　田　広　宣
３番	岩　﨑　清　治	４番	岡　野　鉄　舟
５番	中　山　忠　明	６番	倉　地　重　夫
７番	重　平　直　樹	８番	安　藤　　功
９番	金　谷　の り 子	10番	岡　本　泰　介
11番	山　本　雅　彦	12番	萬　代　師　一
13番	山　本　重　行	15番	岩　江　正　行
16番	日　笠　一　成	17番	内　海　健　次
18番	鈴　木　悦　子		

3. 欠席議員は次のとおりである（１名）

14番　尾　髙　誉　久

4. 地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名（19名）

市　長	萩　原　誠　司	副 市 長	横　山　博　光
教 育 長	大　川　泰　栄	政策参与	山　下　　亨
総務部長	岡　本　和　之	危機管理監	皆　木　佳　久
企画振興部長	池　田　義　和	総合戦略監	大　森　洋　平
市民部長	角　南　良　雄	環境部長	妹　尾　昌　弘
経済部長	遠　藤　宏　一	保健福祉部長	江　見　　勉
建設部長	真　野　弘　紀	教育次長	山　名　浩　二
消 防 長	山　崎　正　雄	会計管理者	山　本　和　毅
農業振興課長	安　東　栄　作	危機管理室長	皆　木　敏　治
健康づくり推進課長	山　下　富 貴 子		

5. 職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名（３名）

議会事務局長	尾　崎　功　三
課　長	大　佛　裕　彦
主　任	井　上　大　佑

午前10時00分　開議

議長（鈴木　悦子君）

おはようございます。

携帯電話の電源を切っていただきますようお願いいたします。

傍聴者の方は、傍聴規則第８条にもありますように傍聴席にあるときは静粛にしていただきますようお願いいたします。傍聴者の方が傍聴規則が守れない場合は議場より退席をしていただきます。

昨日に引き続き会議を開きます。

欠席者の報告をいたします。14番尾髙誉久議員が通院のため欠席です。福原政策審議監が御家族の介護のため欠席です。

定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

日程第１　　議案第１１号訂正の件

議長（鈴木　悦子君）

初めに日程第１、「議案第11号訂正の件」についてを議題といたします。

この件につきましては、昨日２月５日付で市長より議案の訂正請求書が提出されております。お手元に配付をしておりますので御確認ください。

昨日、議会終了後に議会運営委員会を開催し、「議案第11号訂正の件」を本日の日程に上げることを協議いたしました。

それでは、「議案第11号訂正の件」について、訂正理由の説明を求めます。

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

それでは、説明を申し上げますが、議案第11号は「美作市指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営の基準等を定める条例の制定について」でございますが、同条例案の中におきまして、その条例案第２条第７号なんでございますが、「第４条」とあるのは「第５条」の条ずれということで訂正をお願いしたいと思います。

本件につきましては、御案内のとおり、これまで国において基準が定められておりましたが、関連法の改正によりまして市町村の条例においてこれを定めるということに変更され、厚生労働省のほうからひな形が提示をされておりましたが、我々としてこれを精査をする中で条ずれを発見をするに至りました。

いずれにしましても、当局として訂正をすることにつきましておわびを申し上げながらお許しを賜りたいと存じておる次第でございます。どうぞよろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

訂正理由の説明が終わりました。

質疑はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

なしと認め、質疑を終結いたします。

お諮りいたします。

「議案第11号訂正の件」について承認することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

異議なしと認めます。よって、「議案第11号訂正の件」については承認することに決定いたしました。

それでは、訂正後の議案につきましてはお手元に配付しておりますので、差しかえをよろしくお願いいたします。

日程第２　　一般質問

議長（鈴木　悦子君）

日程第２、「一般質問」を行います。

通告順に発言を許可いたします。

通告順番11番、議席番号３番岩﨑清治議員の発言を許可いたします。

岩﨑議員。

３番（岩﨑　清治君）〔質問席〕

皆さん改めましておはようございます。

それでは、ただいま議長より発言の許可をいただきましたので、平成30年３月議会の一般質問をさせていただきます。

私は昨年の４月にこの場に立たせていただいてから今回が４回目の定例会の発言でございます。年度で言えばこれが総括ということになりますので、そういう総括ということも含めまして質問のほうをさせていただきます。

まず、１項目めにつきましてはメガソーラー事業についてでございます。メガソーラー事業につきましては、議会のたんび、定例会のたんびに私のほうが質問をさせていただいているんですけれども、何か歯応えがない、やっていただいているのがちょっと満足できないというふうなことがありまして今回も質問をさせていただきます。

昨年の春ごろから工事が始まりまして、地域の皆さんが一番心配をしておりました大雨による水害、これが昨年は大雨も降らずに災害がなく、胸をなでおろしているのが現状でございます。正月を迎えた時期に皆さん方といろいろな話し合いをする機会がございまして、この話し合いの中では必ずと言っていいほどメガソーラーの問題が出てまいります。最近では、朝早くから暗くなって、それも夜大分遅くなるまで重機の音が聞こえてまいります。地域の人は、私たちがここに住んでいる、騒音被害という言葉までは出ないんですけれども、住んでいるということを無視しているんじゃないかなというふうな言葉まで出てきて不満の声も聞こえてまいります。また、メガソーラーによって税収がふえる、そういう話の中で、その税収のふえる部分、たとえ一部分でもいいですから、私たちが不利益をこうむっているところにお金を使っていただけないんかなという話も出てまいっている現状でございます。

それでは、具体的な質問のほうに入らせていただきます。

１つ目につきましては、たびたびお尋ねをしているんですけれども、メガソーラーの事業がどの程度の進捗状況であるか。10月末では9.5％というお話を承ってますけれども、それ以後、どんどん仕事が進んでおります。どのようになっているのか、今後どの程度の工事があるんかということが心配であるのでお尋ねをしているところでございます。

そして、工事中に山から落石があって、人的な被害がなかったわけですけれども、歩道にまで石が落ちて

きた。これが車道にまで落ちて、もし事故でも起きたら、人身事故でも起きたら大変なことになるという気持ちの中で驚きと寒けがした状況でございます。落石のあった場所のすぐ隣では昨年の台風の雨で土砂が道路を塞いだこともあり、地形や工事に問題があるのではないか、原因の究明がなされているのか、そしてその対策はどうか、通行者や車両に落石があったらどうするという話があります。前回までの質問の中で、抜根した根が山の上から落ちてきているなどの質問をいたしましたが、その対策をとられてないというふうに思います。それ以外の問題はどのようなものがあり、どう対応されているのか、防災工事終了後に県の検査を受け、造成工事に入ると今まで説明をされておりますけれども、どのようになっているかというのが１つ目の質問でございます。

２つ目につきましては、泥水等の対策として現在調整池やため池の水抜きを行っておりますけれども、地権者や地元民に進め方や水の管理についての説明がなされてない。また、調整池で沈殿するには非常に時間がかかる。ろ過する方法をとらないで、俗に言う垂れ流しみたいな問題が起きているのではないか、指導はどのようになっているのか。

これが２つ目で、３つ目にしましては、これが一番よく言われているんですけれども、道路の通行による状態、ほこりによる道路の汚れ、道路の破損の状況などの現状の把握や指導が十分ではないんじゃないかなと。工事車両が通る道路に交通整理の方が五、六名配置をされております。普通であれば、一般車両、地元車両が優先であると思うんですが、その反対に工事車両優先というふうな状況下が見られる、こういう話があるんですけれども、実際はどうでしょうか。

４つ目にして、昨年までに比較して獣害の被害が余りにも多い。被害が少なくならないか。猟師の方も今まで以上に捕獲はされているというふうに聞いておりますけれども、対策はどうなのか。私の地元の竹田地区においても、昨年どおり電柵等の防護をして対応したが、豆の作付をしていたところ、刈り取りをした最後の段階に、けものに田んぼのほうに入られて食害やにおいでもう収穫ゼロでしたという方もおられます。今まではこのようなことはなかったと、どのように対応していいのかわからない、このような家が数軒あるわけです。この対応についてはどうされるのかということで、１回目の質問といたします。

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

メガソーラーにつきましての質問でございますけども、私としても議員がおっしゃるように地元の方々の御不安が大変気になるところでございまして、このところ何回か現地に行き、また近隣住民の方々のお話も伺ってまいりました。そして、おっしゃるように例えば道路の汚れや道路に小さい石が残っているとかという問題、あるいはこれもございましたけれども獣害の問題、それが恐らくはソーラーの工事が起こったことによって今までいたところからそのけものがほかのところへ移動して、今まで出なかったところに、より多くのものが出てきているというような話も伺いましたし、あるいはまた夜間、早朝の工事について、これは白水の方ですけれども、大変もうかなわんという女性の声なども聞き、そのたびに担当課にも話し、担当課から事業実施をしている関係者、具体的に１番多いのは日揮さんでございますけども、クレームを申し上げて、少しずつではありますけれども、対応がよくなっているのかなというふうには思っておりますが、必ずしもまだ万全ではなかろうということで、これからも地元の皆さんの気持ちを私どもの気持ちとしてしっかりと関係事業者の方々にお伝えをし、事業の改善を求めていきたいというふうに考えております。

詳細につきましては担当のほうからお答えを申し上げます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）〔登壇〕

改めましておはようございます。

岩﨑議員のメガソーラーの御質問にお答えをさせていただきます。

まず、作東メガソーラー事業の進捗状況につきましては、12月末現在の工事進捗率は全体で16.6％とお聞きしております。各項目につきましては、伐採工が97.2％、調整池などの防災工事が57.6％、盛り土工が31％、切り土工が31％との報告を事業者から受けております。

次に、落石とその対策につきましては、平成30年１月５日午前10時30分ごろに市道土居角南線の西谷池付近の歩道へ落石があったと報告を受けております。幸いにも人的被害はなく、このことを土居区長と片伏影区長に当日状況報告をさせていただいております。施工業者は再発防止対策として周辺道路、民家、田畑への落石のおそれがある箇所を再度調査をし、安全対策として土堰堤、防護ネット、板柵の設置をしたと聞いております。

次に、それ以外の問題として、昨年４月に住民説明会を実施してから後に住民に対して事業者からの事業説明ができていないことから、土居地区の小字ごとに少しずつではありますが、説明会を実施してきております。今後も地元から説明会開催の依頼があれば、市で調整をさせていただきたいというふうに思っております。

次に、防災工事終了後の造成工事につきましては、調整池が受ける流域ごとに造成及び排水工事を行い、管理道路の設置や緑化工事を行った後に架台のくい基礎工事に進むと聞いておるところでございます。

次に、濁水等の対策についてございますが、現在調整池、ため池の水抜きを行っており、地権者、地元民に進め方や水の管理について説明がなされているかという御質問でございます。

まず、濁水につきましては、事業地内に数多くの沈砂池を設け、調整池からの出口にはフィルターを設置して対策をとっているというふうに聞いておるところでございます。その中で、小寺大池につきましては、調整池から直接水が池に流れ込むことから、施工業者において調整池の濁水を浄化プラントでろ過する工事を行い、水利組合と協議の上、池の水を抜いているとお聞きをしております。また、今後の進め方や水の管理につきましても協議を始めたというふうに聞いております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

建設部長。

建設部長（真野　弘紀君）〔登壇〕

岩﨑議員のメガソーラー事業についてということで、道路の通行、汚れ、破損の状況ということでお答えをさせていただきます。

メガソーラー事業に伴う道路の通行による汚れ、破損等についてのお尋ねでございますが、議員御指摘のとおり、これまでたびたび地域の方々や通行者の方から降雨後の路面の汚れや破損などに関する情報や指摘が寄せられておりまして、その都度、寄せられるのは市担当部といたしまして企画振興部でありますけれども、企画振興部を通じて事業者へ改善を求めておるところでございます。事業者側では、通行に対し、通行の安全確保や一般車両優先のための交通整理員の配置、道路保全のための毎日の定期的なパトロール、工事現場から場外へ出る際のタイヤ洗浄、降雨後の散水車による路面清掃、破損箇所の随時補修など対応がとられているということになっておりますが、建設部においても不定期ではありますが、道路パトロールを通じたり、私どもが現場へ出向く際にそちらのほうへ寄りましてパトロールを実施するとともに、事業者からの

破損箇所と補修状況の定期的な報告などを建設部といたしましても受けまして現状把握に努め、必要に応じて改善措置を求めているところでございます。

しかし、先ほど議員が御指摘ありましたように、事業者優先の交通整理ができているのではないかと、あるというような声や、地域の方からたびたびの指摘や情報提供を受けている状況でございまして、事業者のさらなる対応の徹底について道路を管理する建設部からも指導をしっかりしていきたいというふうに思っております。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

経済部長。

経済部長（遠藤　宏一君）〔登壇〕

獣害対策についてでございますが、勝英農業共済事務組合に作東地域の土居、福山地区の有害鳥獣によります被害状況について確認をいたしましたところ、水稲についてでございますが、水稲の被害は平成29年度、土居地区で52.9アール、福山地区で60.9アールということで、前年度に比べ、土居地区で38.4アール、264.8%の増、福山地区38.6アール、173.1%の増となっており、有害獣による被害が広がっているという状況になっています。

また、有害獣、イノシシ、ニホンジカの捕獲状況でございますが、平成29年度の12月末現在で、土居、福山地区を合わせまして359頭となっておりまして、前年度同期と比較して37頭の減と、9.3%の減となっております。市内全体の捕獲状況でも12月末現在で4,155頭ということで、前年度同期と比較して218頭、5.0%の減となっているところでございます。

捕獲頭数が減少している状況、また捕獲がなかなかできていない状況でございますが、依然として有害鳥獣による農作物等への被害の連絡をいただいている状況でございますので、改めて猟友会に重点的な駆除をお願いしたところでございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岩﨑議員。

３番（岩﨑　清治君）

御回答をいただいたんですけれども、現時点で言えば約８割程度の工事が今後残っているということが１点あります。そして、道路問題につきまして８割残っているということは、それだけ交通量がふえるという可能性もあります。工期についてもあと一年ぐらいだろうと思いますんで、そのあたりのところ非常に考慮していただきたい。

それから、先ほど獣害の部分について、これは非常に難しい問題だろうと思うんですけれども、被害のほうは倍以上ふえていると、だけど逆に言うたら有害鳥獣の駆除はそれほど対前年から減っていると。土居から福山にかけての猟師の方は逆に狩猟の数がふえているということも聞くんですけど、現実的に倍ぐらいに被害がふえている。これは何とか対策をとらなきゃいけないんじゃないかなという気持ちでございます。

私のほうは、議会のたびに同様の質問を行い、同様な回答をいただいているんですけれども、執行部のほうは報告を受けているとか聞いているなどの回答が主体で、積極性が全然ないんじゃないかなと。業者の言われるままにとれるような発言が多々あります。落石にしても先ほども言いましたが、場所については道路が崩落した近くですよ。このことについてはこのあたりを見て回られているんですか。抜根した根が山から落ちてきているというのを私は議会のほうでも指摘をしたことがございます。そのあたりの対策、どうされているんですか。適切な対応がない、されていないと言わざるを得ないような状況じゃないかなと。行政に対して、業者ももちろんですけれども。なぜならば今回も業者が再調査と安全対策をしたという説明がなさ

れただけで、行政のほうはどうされたんですか、見られたんですか、見られてないんですか。見られてなくて、今度また市道のほうへ石が落ちたり物が落ちたりして人身事故が起きたら、これは２回目ですから知らなかったでは済まないと思うんです。こういうふうなことも含めまして、担当職員を配置してやっていただきたい。市長のほうは毎回話をしていますんで、最初のほうだったと思うんですけども、担当職員を配置する場合には業者からお金をもらってしなきゃ、市のお金じゃできないと、じゃあやってくださいよと。地域の中には非常に心配事が多いですということです。

まだあるんですけれども、先日、これは私は確認していないし、知っている人にも確認されたんですかといって聞いたんですけど、重機の上に熊が１頭か２頭、座っておったという話も聞きました。それから、今発破をされているらしいんです。発破工事をされるのは地域の人は業者から聞いております。だから、その聞いていることについてはクレームも何も言うわけじゃないんですけど、発破によって建物が揺れるというんです。寝よるときに揺れると。素人でわかりませんけど、発破の量の調整か、家まで揺れるようなことのないようなことをやっていただきたい。こういうことを知っておられますかというお話なんです。

基本的に言えば、工事をすることによって地域の人が安全・安心に暮らせないのは大きな問題でもあるし、不利益や不便があったら困ります。この業者に言っても、先ほども言われてましたけど、地区説明会をしてますって、これ本末転倒で、工事をする前にするのが本当のはずですよね。それができてない。こういう状況ですから、行政としてはできる範囲にしかできないと思うんですけど、できれば担当をつくって直接回って落石等の問題がないような状態、たびたび言いますけども不利益や不便のないように、車の通行にしても道路の破損にしてもほこりにしてもゼロということはないでしょうけど、最大限努力をしていただいたら、地域の人も渋々でも納得できるんではなかろうかなという気がします。

そして、地域の人は私に、見られないでしょうけど、こういう手紙を出して、何とかしてほしいというのがあるんです。これはもう被害状況を書かれた分ですし、これも道路の問題とかこういう問題について口頭でもたくさん言われるんですけれども、メモ書きを出して、これこういうことがあるんで議会でも話をしてくださいと、私のほうもどんどん言いたいんですけど、決められた時間内ですからはしょって飛ばして言うんですけれども、被害は着実に不便は着実に大きくなっております。これを少しでも和らげるのは行政の務めではないでしょうか、２回目の質問といたします。

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

私どもとしましても全く同様の感覚で問題を把握をしているつもりでございます。

まず、その担当につきましては、今でも結構忙しくやっておりますが、これがその必要性が高いところであれば、人員を新たに１名何とかふやしてやることも検討させていただきたいと思います。

また、実は答弁にはなかったんですが、経済部に指示をしまして、面積当たりのこの美作市全体において平均的に存在するイノシシや鹿の人口というんですか、存在密度というのはありますので、それとあの面積を掛け合わせますと一定程度の計算ができます。その計算をもとに被害の額などを算定をして損害賠償を求めるようにという指示はしておきましたので、そのうちその成果もあらわれてくると思います。

いずれにしましても、本来はこれは県に文句を言いたいところもあるんですけれども、県に言ってもなかなか反応しないところもあります。住民サイドに立って、先ほど御指摘のあった人員配置も含めて前向きに対応していきたいというふうに考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岩﨑議員。

３番（岩﨑　清治君）

たびたび質問をしてますし、市長のほうから人員配置して地元の意見、現場を見てもらえるということなんで、この項につきましてはそれを期待し、被害額や不便さが少しでも軽減できるのではなかろうかという期待をいたしまして、この項目については終わります。

次に、２項目めでございますけれども……。

議長（鈴木　悦子君）

はい、どうぞ。

３番（岩﨑　清治君）

こぶしの里についての御質問をさせていただきます。

こぶしの里に関しましては、今回質問する前ですけれども、予算関係について新聞にも載っておりますけれども、概略を申しますと、６月議会において交流拠点施設として滋慶学園の寮で、休館していたこぶしの里を改修するとして２億2,000万円の補正予算を計上され、その予算について修正動議が出されて、学校開設には絶対必要とか、投資した市の負担分は回収できるとか、一方では財源が不適切、学校誘致の条件にはないなど、賛成、反対の意見の人が入り乱れ、激論の末に成立した予算であります。その予算額が電気施設や機械施設の水漏れで使用できないので、改修には１億1,900万円が追加必要であり、理由は設備の状況を把握できていなかったということが新聞にも載っていますし、この内容は私たち議会には昨年の11月ごろに説明がありましたが、私は納得ができません。２億2,000万円が３億3,900万円になる、余りにもずさんな積算をされていた。最初から３億円以上の経費が必要となるならば、議会の対応も変わっていたかもしれません。また、予算以外に何か問題があるのではないかと疑心暗鬼になるかもわかりません。大きな構造物をする場合には、ボーリング調査するというのは当たり前ですし、古い建物を改修するときには建物の構造、電気、水道などの調査をしてから工事費の積算をするというのが普通だと思います。事前の調査をせず積算されたのですか、一般的に言えば、古家の造作は新築する以上にお金がかかると言われていますが、このことも承知されずにされたのかが不思議でございます。２億円以上の予算をされているのですが、自分のお金をこのように乱暴に積算されますか。

具体的な質問に入ります。

１つ目につきましては、こぶしの里を改修して使うような、いつ、誰が考えて、費用の積算は誰が作成されたのか。予算の積算では２億2,000万円、国の交付金の申請は１億5,000万円の金額の差があります。電気系統、水道などの水回りの状況を確認してないほうが不思議である。業者には相談されてないんでしょうか。

２つ目に、予算可決後に事業を進めるが、降雪の関係があり、屋根工事を先に発注は理解ができますけれども、全体の計画性がないように思えます。どのように考えて工事執行をされていったのか。また、今後の対応についてはどうするのか。使用してない建物は老朽化が急速に進み、再利用できなくなると思われますが。

３つ目といたしまして、議会や委員会の説明とそれを通しての市民への説明が無になり、無駄なお金を使った責任はどうするのか。市のホームページには、地域再生計画、こぶしの里後山リノベーションによる滞在・交流拠点整備事業が掲載されているが、この計画書は国の交付金の申請の内容と同様だと思います。作成時期は６月の補正予算前だと思いますが、この申請書と私たちに説明のあった時点とでは時期的にも異なりますけれども、内容の相違があります。

１つにつきましては、温泉施設の利用収入というのが計画書の中にあります。こぶしの里にどこに温泉があるのでしょうか。現地視察のときには、お風呂のほうはユニットバスを設置、数基つくるような説明がなされました。また、記載される収入見込み額、稼働率と条例や説明との比較をしても、数値に大きな開きがあるように思われます。これは補助金を単にもらうために適当な数値や言葉を並べたのでしょうか。予算時と状況が変わったのかわかりませんが、事務処理としてはずさんというか、計画性がないと言われても仕方がないと思います。

１回目の質問といたします。

議長（鈴木　悦子君）

総務部長。

総務部長（岡本　和之君）〔登壇〕

岩﨑議員のこぶしの里の御質問でございます。

御質問にありましたように、こぶしの里滞在・交流拠点整備事業に係る地方創生拠点整備交付金の申請につきましては、市の遊休資産を有効活用するとともに、地域の滞在・交流拠点の整備を目指し、申請を行ったというものでございます。申請に当たっては、何とか少しでも費用を抑え、既存設備を何とか使用できないかという思いから、既存設備を最大限活用すべく検討を行ったというものでございます。しかしながら、御質問のとおり電気設備等につきましては、見た目以上に老朽化が激しく使用できないという状況であったことから、当初予定していなかった費用が発生する結果となってしまいました。このことにより費用がかさみ、交付金申請の事業額との差が大きくなったものでございまして、それにより一時休止をしているということでございます。

それから次に今後の対応ということでございますが、先ほど申しましたように、このたびのこぶしの里改修工事の目的でございますが、遊休施設をリノベーションし、滞在・交流拠点施設として活用するというものでございました。議員の皆様にもごらんをいただいたとおり、盗難に遭って雨漏りをしていた屋根につきましては完全に修復ができておりまして、建物を現状のまま維持することが可能というふうになっております。今後は、同じ目的により改修を行った愛の村パークが４月にオープン予定でございますので、その稼働状況を見ながら工事の継続について検討してまいりたいというふうに考えてございます。

そして次に責任ということでございますけども、改修工事の休止している責任ということでございますが、屋根の修復につきましては壊れていたものを直したというものでございます。また、設計につきましても今後工事を継続することが予想されますので、全く無駄であったというふうには考えていないところでございます。よろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岩﨑議員。

３番（岩﨑　清治君）

今答弁をいただいたわけなんですけれども、答弁につきましては私の真意を履き違えられて正当性を主張されている、非常に残念なことだと思います。人にしても、人が行う行政にしても、間違いや誤りというのはあるわけです。そのような場合には、まず謝罪が必要であると私は思います。この議会においても市民の方や議員に謝罪の言葉は一切ありません。そういう意味であり、私が真意をただしたのですけども、理解をしていただけないのが非常に残念であります。

厳しいことを言いますが、まず改修事業費の金額を誰が出したのか。市の予算では６月に２億2,000万円、補助事業費の申請は１億5,000万円で7,000万円の開きがあります。先ほどの答弁では、市の費用を抑え

る努力が裏目になったような話をされましたけれども、そうであるならば事業費は２億2,000万円で国の補助金申請をなぜされなかったかと思いますし、工事の工程がしっかりしていれば早期に大幅な予算不足がわかり、対応策がまだとれたと思います。いろいろな事業実施において負担金の問題とか用地の取得の問題により事業を中止することは時にはあるかもわかりませんけれども、そのような場合につきましては細心の注意を払い、影響額を最小限に抑えるというのが行政の努力でしょう。しかしながら、今回は計画性がなく、無駄な費用を多く使った、その結果により一般財源、つまり市の税金を使ったことになります。それなのに屋根工事も設計も無駄にならないと言われました。仮に、来年度以降に事業を実施したとしても約3,000万円の費用は補助金や起債の対象にならないと思います。来年以降事業費に屋根や設計の費用が起債などの対象になるんでしょうか。もし対象にならなければどうするんですか。つまり今回全額辺地債、これは補助金も入ってますけれども、辺地債で使ったとした場合に、２億4,000万円の損失が発生したということになるわけなんです。このことをどのように考えられているんですか。無駄でなかったと言われるならばこの2,400万円を弁償されるのか、弁償するのであれば誰が弁償するのかということを聞きたいものです。

また、議会に説明した内容は、補助金、辺地債を使って一般財源相当額は十二、三年で回収できるとの説明をされました。議員もそのことで賛成と言われた方もおられます。このことはうそになっているわけですよね。この発言は議会や委員会の議事録にはっきり残ってます。このことをどのように捉えられているんですか。口先の答弁でなく、責任ある回答をしていただきたいと。それがもしできないようであれば、先ほどの部長の答弁というのは偽りであると思うんで、訂正のほうをお願いしたい。

また、市のホームページ、私が見たんですけれども、地域再生計画や認定書が今現在でも載っているんです。今回補正予算で減額をされているんですけれども、いつまで載せられているんですか。何の目的で載せられているんか。事務上のミスによるものか故意によるものかわかりませんけれども、一貫性が全てないように思われます。改めての２回目の質問といたします。

議長（鈴木　悦子君）

総務部長。

総務部長（岡本　和之君）〔登壇〕

こぶしの里、２回目の御質問にお答えをさせていただきます。

議員よりいろいろ多くの謝罪とか、それから被害というようなことをおっしゃったわけでございますけども、過去にも多額の費用を費やして設計を行いながら、また一部工事の施工準備をしながら事業を中止しているというものもございます。それらの事案のときにどのような対応をされたか、また責任についてどのように取り扱いをされたかを参考とさせていただきまして、今後判断をしてまいりたいというふうに考えておりますので、よろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

事務的にはそういうことなんですけれども、やはりこれは私の立場で申し上げるとすれば、職員の皆さんが一生懸命やってくれたものでありますけれども、最終的に議員おっしゃるようにいろんな意味で御迷惑をかけていることは間違いないわけでございまして、御心配かけていることは間違いないわけでございまして、そういう意味では本当に申しわけないという気持ちは重々持ってございます。その気持ちをまずはお伝えをさせていただく。

次に、責任ということにつきましては、今後いろんな形があるわけでございます。建物の保全ということ

については従前にも増してきちっとやろうという意味での保全の責任、あるいは利活用についてしっかり考えていこうということで、そこの部分についても責任が生じてくるわけであります。

そしてさらには、私ども思っておりますのは、東粟倉の住民の方々や、あるいは今後増加するであろう交流滞在者、殊に滋慶の関係の子どもたちとの関係による責任というものもございまして、それらを総合的に考えながら妥当な方向性を見出していこうというふうに考えておりますので、しばらくお待ちいただく、しばらくおつき合いを、いろんなおつき合いを賜りますように心からおわびを申し上げながらお答えにさせていただきます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岩﨑議員。

３番（岩﨑　清治君）

初めて市長のほうから謝罪がありましたんで、この件についてはしつこく追求する気はないんですけれども、現実的に単独の経費を2,400万円程度使ったっていうのは、これは事実です。それももともとの計画から間違った状態、中断ということでやむを得なかったかもわかりません。事前調査をすればこの問題も起きなかったかもわかりませんけども、これは起きたことなんで、それ以上は言う気はないんですけど、やはり間違いがあったら誤りがあったら断り、その次に善後策、いい方法をとるのが行政として当たり前の話じゃないかなという気がいたします。この項目につきましては、もう終わったことに近いんで言いませんけれども、私はこぶしの里については、多分使われずにそのままの状態になるんではなかろうかなという想像のほうが、割合のほうが高いような気がいたします。

次の項目に入ります。

議長（鈴木　悦子君）

はい、３項目めに入ってください。

３番（岩﨑　清治君）

３項目めでございます。これは条例制定の時期についてという質問をさせていただいています。

条例については、これはもう執行部のほうがよくよく御存じの話で、知らないという話は絶対ないと思うんですけれども、改めて私のほうが申し上げれば、日本国憲法の第94条で「地方自治体は、その財産を管理し、事務を処理し、及び行政を執行する権能を有し、法律の範囲内で条例を制定することができる。」と規定されております。自治権において一定の事務に関する定めをする自主的な立法である。必要性や適法が問われ、住民に権利義務にかかわることについては公平性が一番重要であるとなっております。一方、法律等の条文を読む立場――これはつくる立場でなしに読む立場のほうです――については自分に対して不利益な意味合いで解釈すれば間違いないと言われるのが一般的であり、逆に自分に有利に考えて解釈すると大きな間違いが起きる。一つの条文によっても解釈の違いによっていろいろな解釈面ができてくる。こういうふうに言われております。このことを十分に理解されて条例をつくられると思っております。

非常に残念ながらそうでない案件があります。そのことを執行部のほうへ指摘しますと、市長は、今の法解釈は別の見解もありますとか、言いわけか釈明かはわかりませんけれども、正当性をこの議会に私出させていただいてから二、三回主張されております。特に条文には定められた書き方がありますので、それを見ただけでは拒否反応を示される方もいらっしゃいますけれども、誰でも同一の理解ができるようにつくるのが条文等をつくる作成者の力だというふうに私は思います。そして、市の務めであるように思います。

そこで質問に入りますけれども、条例は財産を管理、事務、処理等の行政を行うのに必要な自治権と思うが、そのようになっておりますか。憲法、自治法に定められて市町村独自の定めであり、多くの人が読んで

共通の理解ができるか。

例えば湯郷の幼児園は完成する前から条文があり、愛の村では２人部屋でも１人部屋でも同一料金、これはおかしくないですか。特に愛の村の条文解釈においては、特例の部分で料金を下げることができる、これを対応する。この条文についても災害等の突発的な状況に使う部分だというふうに一般的には思います。私もそれを思っております。

２つ目につきましては、こぶしの里、先ほど質問いたしましたが、改修工事が２億2,000万円が３億3,900万円の増額により、この４月開設は断念するとのことで、この議会において廃止条例が出ております。この条例、なぜ９月議会に条例案を提案されたのかが理解できません。

予算が９月で成立し、設計の入札を行い、業者が決定したのは多分７月の終わりから８月の初めだというふうに思えば、８月末の議案提出には設計がおおむねできていたんでしょうか。設計がもしできていたならば、そこで予算額が不足であるというのがわかったはずです。想像でございますけれども、条例を出された時点では、この数字が出てなかったんではないだろうかと。わかっていれば条例案は出されてないというふうに思います。

つまり事業完成の見込みが立たない現状での運営の条例を提案するとはどういうことでしょうかと。私だけが条例について敏感であるのかと思いまして、知識や行政経験の豊富な市外の方、市の職員ではございません、市外の方に数人にお伺いしたところ、空いた口が塞がらない、聞いたことがない、耳を疑うなど、論外的な答えが返ってまいりました。一般には工事がおおむね完成し、使用可能な状態が目で確認でき、完成予定日から一定の期間前に余裕を持つのが一般的であります。このような常識を逸脱した時期の条例提案の意味するところはどういうことなのか、私はわかりません。今回は市民や議員の知識を試しているのかなと疑いたくなることもあり、議会軽視と言わざるを得ないと思いますけれども、どうでしょうか。

議長（鈴木　悦子君）

総務部長。

総務部長（岡本　和之君）〔登壇〕

それでは、岩﨑議員の条例についての御質問にお答えをさせていただきます。

条例は財産の管理、事務、処理等の行政を行うに必要な自治権と思うがという御質問です。

公の施設の設置及び管理に関する事項は、地方自治法第244条の２の規定により条例で定めるということにされております。これは、公の施設に関する行政の適正、公平な実施を広く住民の法的コントロールのもとに置く趣旨というふうに解されておりまして、地方公共団体における最も基本的な意思決定方式である議会での議決を経て制定される条例という法形式によることにされているというものでございます。

条例の制定、改廃につきましては、二元代表制のもと、それぞれ直接住民から選ばれた者において議会の場で慎重審議を行い、さまざまな意見を反映させるためのものと言えると思います。地方自治制度は、地域住民の意思に基づいて地方行政を行うこととされておりまして、条例の制定、改廃について議会の審議に付すことは地方自治法の本旨であり、住民自治に資するものであるというふうに考えております。

また、条例の制定の日ということでございますけども、時期につきましては、それぞれの条例の置かれた状況などさまざまな要因により決定されるものであると思っております。それぞれ適切な時期に制定をさせていただいております。また、このたびのこぶしの関係につきましても、条例をお願いするときにはまだ工事金額というものがはっきりわかっておりませんでした。私どもも先ほど答弁させていただきましたように、必ずその予算内でできるものという判断のもとに条例を提出させていただいたというものでございます。条例の廃止につきましては、公布後の状況変化等により廃止するものでございまして、その時点その時

点において必要を認めて議会の審議に付しているというものでございます。

今回の廃止も含めまして適切な提案であるとは考えておりますが、このような形で議会の審議に付することは、むしろ議会軽視というよりも重視をしての９月の提案ということでございますので、御理解のほど賜りたいとよろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岩﨑議員、２回目です。

３番（岩﨑　清治君）

今の回答を要約すると、議案の提出時期は正しく、その議案を議員が審査しとるのだから問題ない、一言で言えばそういうふうに言われたように思います。私は大きな間違い、こぶしの里の条例を審議された委員会、そして賛成された議会を逆手にとり侮辱されたような言い方ですよ。

ちなみに、同じ予算で工事の進捗に合わせて審議をした愛の村の条例改正案の進め方を見ていただきたいと。一定のものが目で見えないと審議できないじゃないかということで継続審議にして12月までかかりました。これが私は正しいと思うんですけど。

それから、社会情勢の変化や他の改正による影響などで施行されないままに法律により制定されたもの、廃止されたものがあるのは十分私も知っております。私が特に申し上げているのは、公の施設の問題についての話をさせてもらっているわけです。施設ができるかどうかはわからない状況下で条例制定を言っているので、旧町村でもありましたか、この時期に出したのが。市になってもありましたか。私はないと思います。県内でもないんじゃないかなと思います。100％ないとは調べてないんで言いかねますけれども、条例の意義と制定時期について尋ねているんで、こぶしの里、この条例を出されたとき、先ほども質問いたしましたけれども、図面ができ上がって工事の入札をされてましたかという意味なんです。もちろん工事の入札はされてないですよね。設計ができてましたかと。設計ができてたんだったら予算のことがなぜわからなかったかと、そこのことを言っているわけです。

12月議会の提案であれば時間的には十分出すか出さないかというのははっきりわかったわけです。それをなぜ急いで９月に出したかというのが不思議なんです。で、議会に対して試しているんですか、知識不足を試して執行部は笑っているんですかというふうな意味合いで聞いているわけです。今の答弁を聞くと、何も問題ないと聞こえます。こういうことをされて本当にいいんですかという質問をしているんです。ある文献では条例案をどの時点で提出し、どの時点で制定するかという記載がございます。文献ですから法的な根拠がどの程度あるかというのは別ですけれども、公の施設が住民が利用できる状況になっていることが必要であるが、議会の会期や利用申し込みの事前受け付けで早くなることもあり、政策的な判断もあるが、施行日の確実性のもと、規則で定めることもある。この意味合いすることはわかりますよね。執行部の方々はずっと給料をいただいて行政マンとしてされているわけですから、わからないほうが不思議です。

このことは十分承知された上での条例案の提案であるならば、今回の施行前廃止は、先ほども言いましたけど、議員の知識を試すように思われます。実際そうなんでしょうか。先ほどの質問の工事中止は不注意や一部不可抗力ともこじつけたら言えるかもしれません。条例においては９月議会の提案であり、完全に作為的でございます。どういう表現で用いてよいかわからない、私は腹立たしい、言葉が出てこない腹立たしい気分でございます。それを先ほどの回答では正当化するような話がございます。

改めて尋ねますが、こぶしの里の条例案の制定時期は本当によかったんですか。どこを見てもいいという気持ちはありません。そのあたりについて御回答お願いします。

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

その条例の制定については、議員も市役所におられたわけですからわかると思いますけれども、法令の審査、条例案を含めて規則であるとかさまざまな法令審査の能力というものが非常に重要になってくるわけであります。この能力についていいますと、私が見る限りにおいては、ここ数年確実に向上はしてきているとは思いますが。例えば先ほどの条ずれの指摘などについても背景にあるのは、一部でありますけども厚生労働省が持っていた規則の中で、これも議員もおっしゃったんですけれども、誰が見ても同じような解釈ができないような、ちょっと意味がとりにくい条項が幾つかあり、それを私どもの職員のほうで明確な形にし直す、そしてそれもちゃんと上級官庁というか、関係者の意見も聞きながら、なるほどそのほうがよいねというようなことをやる中で条ずれが生じ、条ずれが見つかったというようなことでありまして、その法令能力ということについて言えば、当市のレベルというのは確実に市の中でも遜色がないものになりつつあります。

しかしながら、条例のその制定については、議員も御指摘がございましたけれども、実態との関係というものの厳しいというか緊張感を持ったチェックあるいは議会との関係での出すタイミングのチェックといったことも当然立法能力の中に入ってくるというふうに過程を考えますと、その点についてはまだまだ私どもとして反省をし、今後さらに研さんを積んでいく必要があるというところもあろうかなというふうに、先ほどのお尋ねを聞きながら反省をしているところでございまして、心から今後の研さんの指導をさせていただくということでおわびかたがた答弁とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岩﨑議員、３回目ですから。

３番（岩﨑　清治君）

回答になってないみたいな気がするんですけれども、市長のほうがおわびという言葉があるんで、そのことについてはしつこく言いませんけれども、１つだけどうしても聞きたいことがある。なぜ９月に出したか、その時点で設計ができ上がってたのかでき上がってなかったのか、なぜ12月に出せなかったか、この２点だけは必ず答えてください。

議長（鈴木　悦子君）

総務部長。

総務部長（岡本　和之君）〔登壇〕

３回目の御質問です。

条例を提出した時点で設計ができていたかどうかという御質問でございますが、設計につきましては完成したものはございませんでした。といいますのが、設計業者に委託をいたしまして、今回不備がございました電気関係の設備というものにつきましては、業者のほうからまたほかの業者に見積依頼をしてされるというものでございます。一番肝心な部分が最後になってしまったということで、このたびのような不手際が発生したというものでございますので、御理解のほどをお願いしたいと思います。

また、９月に提出した理由でございますけども、そのように金額的にも当然その時点では足りるものという判断をしておりまして、少しでも早く予算だけでなく、条例についても議員の皆様にお示しをしたいという気持ちから９月に提出をさせていただいたというものでございますので、どうぞ御理解のほどよろしくお願いいたします。〔降壇〕

〔３番岩﨑清治君「答弁が足らないと思うんですけど」と呼ぶ〕

議長（鈴木　悦子君）

これより10分間休憩いたします。ちょうど11時でございますので。

午前11時01分　休憩

午前11時11分　再開

議長（鈴木　悦子君）

休憩前に戻り会議を開きます。

総務部長。

総務部長（岡本　和之君）〔登壇〕

済いません、大変申しわけございませんでした。

答弁漏れというのは、12月議会でということでよろしいですか。

このたびのこぶしの改修、そして後の運営ということでございますが、これにつきましては指定管理ということを想定しておりましたので、後々の公募期間というふうなこともございましたので、12月にお願いをしたというものでございますので、よろしくお願いいたします。

失礼しました。12月でなく９月でお願いしたというものでございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岩﨑議員、総括です。

３番（岩﨑　清治君）〔質問席〕

総括ということになろうかと思うんですけれども、先ほども説明をいたしましたけれども、条例で制定時期、極端に完成時期が一旦あって、それ以前にいつ条例を出すか、議会の会期とか等々問題があってするのが普通それを政策的に決める。なおかつ日にちがはっきりしない場合は規則委任をする、こういうことは質問ではない、総括ですので聞きませんけれども、執行部の皆さん知っとられるはずでしょう。法律においても政令に定める日っていう言葉があるのも知っとられると思うんです。知られない職員の方がおられたら、ここに座られる資格がないと私は思います。今後につきましては、もう少しきちっとしたやり方でやっていただきたい。こういうふうな議員を試すような議案提案というのは非常に不愉快です。

先ほども言いましたけれども、工事については多少問題がある場合がある、これは一応理解はします。いいとは言いませんけど、理解はしますけど、条例なんかはわかってテされている。俗に言う作為的なんです。こんな侮辱された話はないと思います。

以上で総括を終わって、次の項目に移ります。

議長（鈴木　悦子君）

はい、４項目めに入ってください。

３番（岩﨑　清治君）

きょうはずっとかりかりした質問ばっかりなんで、少しやわらかい質問というか、献身的というか、実りのある質問をさせてもらいたいと思います。

ＮＰＯ法人でございます。市においては、障がい者福祉タクシー等々の福祉事業についてＮＰＯ法人があると思います。地域の活性化等を目的としたＮＰＯ法人があり、市民においても法人の活動で大変助かっておる。特定非営利法人の制定は平成10年に施行されて、民間、公益に資するサービスの提供、営利目的でない、団体という４つのキーワードで資本金がなくてもよく、節税可能ということもあり、非常に多くの団体が設立をされ、有意義な活動をされております。しかし、非営利の持つ好感の得やすさを隠れみのに、一部

でございますけれども、事実上営利目的であったり、犯罪を行ったりする例が出てきました。法の趣旨の裏側を行くようなものであり、まことに残念なことであります。また、活動実績のない法人もあると聞いております。

非営利という言葉で給付金、ボランティア活動、勘違いをされている方もおられます。一般には収益の配分ができません。職員を雇ったり給料を払うことはできます。正しい理解をして有効に制度活用すれば、私たちの地域には非常によい制度であり、多くの人がＮＰＯ法人を立ち上げて活動していただければ、地域はより活力が出るのではないかと思います。いろいろな地域の活動やボランティア活動を行うにしても、会の名前では預金も通帳もつくれません。事務所の借り入れもしにくいです。つまり個人であれば私たちの身近な中での活動は困りませんが、多くの人に呼びかけたり、活動範囲を広げるような場合には困難があると思います。ただし設置するには20の項目、分野しかできませんが、製造業などをしない限り、おおむね設立は可能と思います。

市長はＮＰＯ法人についてどのように思われますか。美作市のＮＰＯ法人は幾らぐらいありますか。職員数や所得を把握されていれば、また一定以上、普通の給料取りぐらい以上の収入のある方はおられますか。市の職員がＮＰＯ法人の職員や役員になることは可能でございましょうか。

先ほど条文の差しかえのあった介護関係の部分につきましても、個人ではだめですよ、法人ですよということになってますので、あのあたりについても法人資格、ＮＰＯ法人であれば受託を受けることができるだろうというふうに思いますので、そのあたりも含めましてできる範囲、もちろんこの法人に関しましては、県のほうへの届け出、県のほうへの報告義務等々を知っておりますので、市ではどの程度の把握をされているのかなという意味合いを含めて、いいことであれば広げてもらいたい、広げるような努力をしてもらいたいという意味合いでの御質問でございますので、わかる範囲内で結構ですので、お答えを願いたいということでございます。

議長（鈴木　悦子君）

市民部長。

市民部長（角南　良雄君）〔登壇〕

ＮＰＯ法人について答弁させていただきます。

美作市のＮＰＯ法人は幾らあるか、職員数や所得額についてですが、美作市内のＮＰＯ法人数は15団体が認証等を受けられております。また、職員数、所得額、一般的以上の収入のある方などについては把握する立場にはありません。

次に、市の職員がＮＰＯ法人の職員や役員になることについての御質問ですが、地方公務員法の第38条、営利企業等の従事制限ですが、38条に「職員は、任命権者の許可を受けなければ、営利を目的とする私企業を営むことを目的とする会社その他の団体の役員その他人事委員会規則で定める地位を兼ね、若しくは自ら営利を目的とする私企業を営み、又は報酬を得ていかなる事業若しくは事務にも従事してはならない。」とあります。この規定では、営利を目的とする会社の役員に就任すること、営利を目的とする私企業を営むこと、報酬を得て、他の事務事業に従事することには、任命権者の許可が必要であると規定してありますので、この規定中でＮＰＯ法人の役員または職員で有償の場合は、任命権者の許可があれば役員または職員になると解釈しております。また、無報酬でＮＰＯ法人の役員または職員になる場合は、法律上は何も定められていませんので、問題はありません。

また、地方公務員法第35条に「職員は、法律又は条例に特別の定がある場合を除く外、その勤務時間及び職務上の注意力のすべてをその職責遂行のために用い、当該地方公共団体がなすべき責を有する職務にのみ

従事しなければならない。」との規定がありますので、勤務中以外にＮＰＯ法人の役員または職員をすることはこれには該当いたしません。

以上でございます。よろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岩﨑議員。

３番（岩﨑　清治君）

私のほうはＮＰＯ法人については、もう数年前というか、大分前からいろいろな部分で調べたり、友人等に話を聞いたりしておりました。ていいますのは、地域においては地縁団体っていうのがございます。これは自治法の改正の中で1991年に地縁団体ができて、町内会で法人格を持つと。なぜならば法人格を持たないと、今の時代、特に最近の時代には通帳をつくることもできないという中で、法人格を持つという中でやろうということで、友達ともいろんな議論の中でいいことだろうなという話をしておりました。今の話を聞けば、職員においても、勤務時間外で無償でやるということになればできるということなんで、もちろんこれは県の許認可ということなんで、いいことだろうなというふうに思います。

でき得る限りそういう制度を多用すればいいと思うんですけど、ちなみに私の友人、これ関東のほうにいるんですけど、協同組合をつくってた人が協同組合の法律改正によって別法人をつくらなきゃいけないという時代がありました。四、五年ぐらい前からだろうと思うんですけど、はっきりした年数を覚えてないんですけど、その人と学生時代の友人なもんでいろんな議論をした中で、その人が少しおかしげなことをずっと言ってて、もうすごい忘れてたんですけど、つい最近思い出したことがあるんです。これは市長のほうにお尋ねなんですけれども、その人が東京におるんですけれども、市長のほうは東京のほうでＮＰＯ法人を立ち上げられてると。先ほど答弁がありましたんで、職員のほうであったんで、これはＮＰＯ法人の役員になろうがならんが別段問題のある話じゃないんですけど、代表されているんではないかというふうな話が数年前にありまして、同一の名前であるんでということだったんですけど、住所は美作市の市長だけど美作市の住所じゃない、岡山ですよと言われたもんで、そりゃあ人が違うでしょうという話をしたところ、その人、友達いわくなんですけど、なんでそのように調べたかどうかは知りませんけれども、市長は同一人物みたいな気がするよ、その上に返す刀で、美作市で住所なしに岡山で住所を持って東京でＮＰＯ法人してて、東京と岡山の部分が非常に遠いのによくできるんですね。私が市の職員だったもんで、市長職はそんなに楽なんですかねっていうような話がありました。事実かどうかっていうのはわかりません、私原本見てないんで。美作市の市長ですので、もし同一であれば、住所は変えられたほうがいいんじゃないですかという意味合いも含めての話であり、これとやかく言う問題じゃないと思います。ただ、二、三日前、同じような市長の名前の話で東京のほうでＮＰＯ法人の役員をしているというふうな話も聞きました。事実かどうかということをお伺いをしているわけではございませんので、お答えのほうは結構ですけど、もしこれがあるようであれば、市長たる人は法令を遵守しなければいけない立場であるんで、その会社の住所等は変えるべきだと思います。

次の項目に入らせていただきます。

議長（鈴木　悦子君）

５項目めですね。

３番（岩﨑　清治君）

はい。財政問題についての質問でございます。

財政問題についての質問に入る前なんですけれども、先日の市長の答弁の中で、岡野議員の質問に対する

答えの中で、実質公債費比率の話が出たときに、繰上償還の話が出ました。前後の話はずっとあるんですけど、実質公債費比率と繰上償還の問題については、市長は勘違いされていると思います。調べられたらわかると思いますけど、もしそういう気持ちがあるのであれば、今回私の対応の中で訂正をされても結構だろうと思います。

それから、私は市長とほぼ同じ意見があったのは、大阪の分を出されて、財政力指数、それから経常収支比率の話をされました。私はこの案件については話が同じだろうと、意見は同じだと。もう一つ市長言われるんだったらラスパイの問題まで言われればなという気がしたんですけど、それは言われませんでした。ただもう一つ残念なのは、なぜ大阪がそういうふうになったかという議論がされなかった。私は聞いているのは、バブル時代の収入の増加によってそれを市民に還元しなきゃいけないという中で市の規模を広げたと、そういう中で職員数をたくさん雇ったり、いろんな経常経費をたくさん使い過ぎた、それがもとであったというふうに私は記憶しているんですけど、そのあたりは市長のお話なんですけど。

もう時間がなくなったんではしょって言いますけれども、それを正常な状態にするのには10年ではできない。長い年数がかかるわけです。岡山県でも長野士郎さんがそうしたときに何年かかりました。夕張市でも10年たってもまだ普通の市町村になってない。このことで財政が一旦破綻すると非常に10年単位での話がかかります。20年ぐらいかかるわけです。だから、財政については非常に慎重に議論も一生懸命してやっていかなきゃいけないと。私の部分については今回特に質問したかったのは、少し市長との考えが違うかもわからんですけど、普通建設事業を今後財政の総点検の部分では非常に低くなっていると。あの考え方については、財政健全化という、市長も知っとられると思うんですけど、財政が破綻しないようにするのにはどうするかということで、最終的にハード事業、普通建設事業にしわ寄せをして、そこの金額を下げていく、この手法の数字でやり方だと思ってますけれども、余りにも下がっている。非常にどうなんかなと。でも、普通の経費が先に使うわけですから、そうした場合にどうなんかなという問題があろうかというふうに思います。

それから、32年、交付税の一本算定の部分についてどういう、もともと私12月でさんざん質問してますんで、今回についても財政問題について少し自分の意見も含め、市の意見を聞きたいという中で、一本化算定をした場合については、どこをどういうふうに削っていくのかなと。特に今回議案質疑でもしているんですけれども、起債のソフト事業に10億円近いお金が使ってあります。これは一般財源と同じような使い方をされてますんで、そのあたりについて逆に返すときにどうなのか。もともと私はあの制度自体には国にお金がないからそういう制度をしているんだろうというふうに思いますけれども。

時間が私ないんで、これで質問のほうは終わります。回答だけいただければ、それでよろしいかと思います。

以上です。

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

幾つかお答えをいたしますが、実質公債費比率につきましては、やや難しい議論があるんですけれども、まず前提としては繰上償還をしようがしまいが、公債費比率は変わりません。

次に、私どもは実質公債費比率13.5ぐらいだったと思いますけども、そういう状況の中において繰上償還はしていると。ということは、その繰上償還できる分だけ財政的には余裕があるんだという理解をぜひこれはしていかなきゃいけないというような趣旨のことを申し上げているつもりでございまして、それが誤解か

どうかにつきましては、若干聞き取りの問題もあろうかなと思います。

２点目に、これは議員が御指摘がありましたけれども、大阪府等の事例につきましては、今議員がお述べになったような理解で私もおります。殊に大阪における人件費問題、これはその人数掛ける給与水準、つまりラスパイレスの問題が両方あったわけでございますけども、これは大変かつこれが大阪の場合には組合の方の権利等の問題とつるんで非常に政治的な問題にもなり、解決に長い長い時間を要したということでありまして、これについてはほぼ同様の見方をさせていただいております。

次に、そういうことで財政が破綻に近い状況になったときに、それを健全化するためには、今の人件費問題も含めて言いますと、大変長い時間がかかる。特に人件費問題がその財政硬直化の主たる要因であるときには、職員の皆さんの権利の保全といったことをあわせて考える必要があることから、大変に長い調整期間を要するということは、これは同感でありまして、したがって私どもとしてもそういった状況にならないようにどうするかということについては常に慎重に、かなり慎重に考えていくというスタンスをとるべきであろうというふうに思っております。

それから３点目に、普通建設事業につきましては、美作市合併後、特に光ファイバー関係を含めて、あるいは建設というべきかどうか若干議論がありますけれども、相当多額の出費をしてきております。その際、当市における起債残高が増嵩、つまり大きくなったという事実がありますが、そういう時期と比べて現在における普通建設事業が、この３年間で平成28年度までの決算で言いますと割合抑え目に動いてきた。しかしながら、一方でやらざるを得ないことはありまして、例えば湯郷の幼児園につきましては、これは私がバトンを引き継いだわけでありまして、引き継いだときのバトンはかなり、今回11億円ぐらいかかりましたけど、それより２億円ぐらいたしか高かったと思います。その部分については私どもとしては無駄を排除するということで設計のし直しを行いまして、そのときも設計の見直しがありまして、たまたま設計の中でこちらが直したのもあるんです。床に全部ばねを入れるという設計については、これは勘弁してもらうと。それから設計が、見ると料理をする調理室の送風口が民家に向いているという設計ミスがあって、それでそれを直しましたけれども、その結果また数百万円のお金が要ったもんですから、これについてはどこへ誰に頼もうかという問題はあるんですけれども、我々としてはなるべく質は保ちながら、一方で安価にする、さらにはぜいたくな部分は抜かしていこうというようなことで、普通建設事業についても実利主義ということで対応していく。そして、それによって当市としての必要なものはある程度できつつあると思います。

ただし今後につきましては、庁舎の問題でございますとか、文化センターの問題とか、かなり大きな課題がありますが、これをどのタイミングでするかということにつきましては財源の余裕期間の問題とか、あるいは財政全体へ与える長期的な影響を考えながら、その範囲内でやらざるを得ないというのは論をまたないことであります。

したがいまして、私どもとしては今後ともさまざまな形で財政力は低いけれども、外部の資金導入を拡大することによって、そういう余地を、事業をできる余地を拡大することを基本として積極的に外部資金導入のための努力を継続をしていくということで対応していきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

答弁ありますか。いいですか。はい。

〔３番岩﨑清治君「いいですか」と呼ぶ〕

はい。

３番（岩﨑　清治君）

時間がないんで終わりますけれども、財政に関しては、議会の本会議だけではなかなかいい質問できないんで、委員会等でお願いしたいと思います。

終わります。

議長（鈴木　悦子君）

以上をもちまして通告順番11番、議席番号３番岩﨑清治議員の一般質問を終了いたします。

これより１時まで休憩いたします。

午前11時35分　休憩

午後１時00分　再開

議長（鈴木　悦子君）

休憩前に戻り会議を開きます。

続きまして、通告順番12番、議席番号15番岩江正行議員の発言を許可いたします。

岩江議員。

１５番（岩江　正行君）〔質問席〕

議長の許可をいただきましたので、平成30年度の当初予算の一般質問をただいまより始めさせていただきたいと思います。

今回の質問は５項目、一番初めには中山間地における農業の現状と課題、２番目には障がい者差別解消法と合理的配慮について、３項目めは子どもの貧困対策について、４番目は部落差別解消推進法とこれからの人権同和行政について、５番目が市民が安心して暮らせる社会実現に向けての取り組みについて、セキュリティーの問題などの質問を順次させていただきたいと思います。

では、１項目めから入らせていただきます。

中山間地における農業の現状と課題ということでございます。質問の１番目としまして若者の農業離れ、農業後継者不足、農業所得の安定について、２番目に耕作放棄地対策と大規模化土地改良事業、農業の効率化について、３番目に農産物の輸出計画について尋ねてまいりたいと思います。

きょう、許可をいただきましたので、パネルを用意させていただいております。

初めに、若者の農業離れについてですが、農業所得の安定等ですが……。

議長（鈴木　悦子君）

岩江議員、マイクをちょっとこっちへ向けてもらえますか。はい、済いません。

１５番（岩江　正行君）

この前、雑誌をちょっと見ようたら、こせがれ、農に生きるというような、ＢＢＱが農業を救うというような、こういうような雑誌がありました。これは読みょうたらひどう長うなりますんで、おやじの後を継ごうと決めたのは、農業についての２つの問題点、農家に価格決定がない、生産者の名前が消されて流出しているのは、実はＢＢＱで解決できるんじゃないかと、こういうような形の中で思いついたんじゃという後継者がこういうような雑誌の中に書いております。ここら辺については、また職員の方々がこういうような資料を手に入れましてＢＢＱについて何がどのような形の中で後継者に育成するのに大きな効果をもたらすんか、その辺のとこも研究していただきたいと思います。

質問に入る前に、そのパネルでちょっと説明したいと思いますので。

これは真野部長はよう知ってますわね。一番初めはここ、萩原市長が妨害してできない道路、桂坪大屋線、いまだに全然できない。今３回邪魔されとんじゃな、妨害されとんよ。ここへ水路が２つがあるんじ

ゃ、こういうような。ここのほうにもあるんじゃ、ここにもある。この上へ水路があって、ここのところへ下水の管と水道の管と２つ入っとる。これが水道になりまして、ほいでここの水路、これが当たり前の水路なんじゃけど、これを越えていけんからというて、ここをまたこれ新しい水路をつくったわけです。今度はこれもどがいにも使えんようになってしもうて、今度はこういうように汚染されてきよる、田んぼが。ほんで、今度目になったらことしの夏、正行さん、いつになったらしてくれるんなというて、平成25年ぐらいからこれ田んぼの暗渠排水、ここの辺のところを直してくれというて言よんじゃけども、いつになったらしてくれるというて言よんじゃけども、とりあえずよう萩原市長に嫌われてしもうて、これのとこがこれおばちゃん泣きよんで、こうで自分は道路へおったんです。ちょっとちょっというけん、これは手刈りしょんじゃな、これ。コンバインが全然入れんようになってしもうた。こういうなことを放置するんが今美作市の行政なのか、こういうようなことについてお尋ねをしたいと思います。

それで皆さん、農業をずっとやられとる方が今こういうような理想な土地をしてくれというて言ようるわけじゃ。これちょっと私の友達の向こうでしょうるやつを写真使わせてもらよんじゃけども、もう効率化農業、２項目めだったかな、効率化農業について、川が上げた残土、そこの中へ下へ入れて、それから基盤土をつくって農地を広うして、あぜがのうて、この草刈りがないようなこういうような形の中へして、そうしょうたら水はけもようする、さっきのとこは田んぼはじゅくじゅくになって、どがいもあんたらもち麦じゃ言ようるけど、もち麦やこうは水の中へ植えたってこれ生えらへん、芽が出らへんからな。そういうな中でこういうような田んぼを求めるわけじゃ。これは農業生産者が専門でしょうる人らがこういうな形のもんをしていただきたい言よんじゃけど、聞く耳もあんた方が持たんのんじゃろう。

これは鳥獣被害、こういうな状況になって耕作放棄地がふえようるという話ですから、わかるでしょう。じゃから、こっちのやつについても、これらも耕作放棄地がこういうような形の中でふやされてきょうるというわけです。こういうような形の中でせなんだらね、もう。

それとこれじゃ、これはよく御存じ、平成17年からずっとわしこれ質問させてもらようた田んぼ、そしたら副市長さん、裁判でも何でもせえ、してもらえと、裁判には一審、二審、三審があって、これが最高裁まで進みょうたら、私も萩原市長もおりゃあせんわいというた田んぼが今はこういうような形になって残っとる。これは今言ようる耕作放棄地になって放っとる田んぼ。これはいつまで放っちゃっとんかな。わしもそういうな形の中で、ほいでここの田んぼでも元市会議員だった、一生懸命この農地の圃場整備の問題に取り組んできとった元先輩のＡ議員が汗かきょうたんじゃけども、この前に会うたら、市のほうが地区外の人が放っとってくれえと、物を言わんようにしてくれえと言われたらしいんです。何もそういうようなことを言われて、いまだたってこういうになっとんじゃな。

ほいで、安藤議員が言ようたけど、あっこの高速道を上がるとこから見ようたら、何か知らんけど丸見えじゃあな。これセイタカアワダチソウというやつじゃ、これが。これがきれいに花を植えとんか思うような田んぼが一面に汚染されてしもうて、これが今言ようる市長がやれえと、梶並のオリンピック、あのオリンピック、わしは何だったんじゃろうかな思うて、今こういうふうな状況の中で農地がどんどん荒廃してきよる。やっぱしこれが美作市の行政のやることなんか、そうじゃなしにやっぱし皆さんの生活圏をきちっと支えていけれるような農業施策を取り組むのが行政のやることなんか、その辺のとこをひっくるめてちょっと聞いてみたいな思います。

それともうかる農業については、最近ＪＡの農協が、全農が中国の大手スーパーのアリババというところに通じて米を送りょうる。大体日本の市場で売っとるやつの約10倍、キロが3,000円ぐらい、それでこの前のこれはＮＨＫのニュースウエブの中でパソコンでちょっと出いてもろうたらこういうふうなことを書いて

おりました。ほいで、今の日本の米をつくるのに、ここらで１万1,000円じゃけど、この前、農家専門でやられようる人に聞いたら、どのくらいの原価がかかるんですかというて言うたら、１俵の米に１万3,000円かかるというて言う、１万3,000円。それだったらつくってみるだけ。それで、その辺のとこで皆さんが言われよんのは、農業の効率化じゃなんじゃというて言われよんでしょうけども、私が言いたいのは、こういうふうなやっぱし質問をさせていただく中で、もうかる農業についてほんまに耕作放棄地を解消するには、もうかることをしてあげたら皆さん荒らさずにつくるわけですから、ほじゃからプロジェクトチームでもつくって、議会や農協や生産者組合や窓口やこう一緒になってつくってすることが今後の今の美作市の農業において大きなプラスになるんじゃないかなと、ちょっとでもというような質問をさせていただいております。

とりあえず兵庫県の大木谷、これ棚田百選というて、うちの英田とは違うんじゃ、大木谷。この前、兵庫県のパンフレットに載っておりましたけど、物すごうきれいに整備されとる。ほじゃから、これらもやっぱし情報化社会ですから、こういうなものをやっぱし世界に向けて発信できるわけじゃから、自分はパソコンはよういらわんけれども。

それと今、ミツクラというてマッシュルームの関係、ここのが馬ふんをどっどどっど栗東から持ってきよるわけじゃ。それで、栗東のとこで出た馬ふんを使うてこのマッシュルームというたけを栽培しょうるらしいです。これはそれで物すごう、日本でも一番大きいぐらいの規模なんでしょう。それで、こういうなところでやっぱしこっちのわらやこうを入れて、いろんなものを入れて堆肥をつくる、それを土に戻すようなことをやったらなというふうなことも言ようりました。そじゃけど、やっぱしもう少し学校には市長はどえらいほど力を入れられるんじゃけども、農業についちゃあ、もう少し目が向きょうらんのんじゃろうか思う。やっぱし後ろ前、目はありませんから、学校のほうへばあ目が向いとるから、後ろ側はよう見えんのんでしょう。

そういうようなことで、とりあえずこういうふうな方法があるんじゃないんかということと、有機農法をする上において、前に大原農協が取り組んだことがあるんですが、イトーヨーカ堂に営業しまして、イトーヨーカ堂が肥料を作るやつから全部調べに来るわけじゃな、堆肥を作りょうるやつを。そしたら、１俵に2,000円ぐらい高う買うてもろうとるわけじゃ。あの時分に１万8,000円ぐらいで買うとんじゃな。じゃから、やり方によっちゃあ農家がようなるわけじゃから、過疎債じゃ辺地債で銭を借らいでも、借ることばっかし考えでも、皆さんの所得が上がったら、自主財源が少しずつでもふえてくるわけじゃから、日本の国も世界でトップクラス、1,062兆円というふうな途方もない、どんだけのかさがあるんか知らんけども、そういうような大借金があって、いつまで地方交付税が、今はきょうも岩﨑さん質問されようりましたけども、一本算定の中で、去年は５億何ぼ、ことしは３億何ぼ、毎年毎年こんなことをやられよったんじゃ、どこにしわ寄せを持っていくんか、しわ寄せを持っていくとこを今度は探していかないけんような状況になりますんで、やっぱしこの所得の安定ということが今回の私の質問でございます。１回目。

議長（鈴木　悦子君）

経済部長。

経済部長（遠藤　宏一君）〔登壇〕

若者の農業離れ、そして農業所得の安定などについてということでございますが、12月議会でも答弁いたしましたが、美作市の担い手に対する農業収入等の調査について20件の回答があったと答弁いたしました。その後、回答がふえまして36件となっております。農業収入の合計は、平成28年が13億7,446万円で、平成26年に比べまして３億3,323万円、32.0％の増となっております。農業所得の合計では、平成28年が３億

3,019万円で、平成26年に比べ１億8,777万円、131.8％の増となっており、12月議会での報告とほぼ同様の結果となっております。この調査によりまして、担い手の農業所得が増加傾向にあるということが改めてわかりました。

また、美作市の新規就農者の状況を見ますと、平成24年に３名、平成25年に５名、平成26年に５名、平成27年にも５名、平成28年に６名ということで連続して就農されておりまして、５年間の合計で24名の方が就農されており、貴重な存在になっているというふうに思います。

また、耕作放棄地対策、農業の効率化などについてでございますが、12月議会でも答弁しましたが、中山間地域等直接支払交付金事業及び多面的機能支払交付金事業では、現況農地や農業施設において地域で取り組む維持管理に対し支援しており、また荒廃農地等利活用促進交付金、耕作放棄地再生利用緊急対策交付金及び生産基盤強靱化支援事業によって荒廃農地の再生作業を支援しております。

耕作放棄地の推移でございますが、平成25年から平成27年度においては、年６％前後で増加しておりましたが、平成27年から平成28年においては３％減少しております。平成29年度の集計はまだできておりませんが、前年度の農地利用意向調査によりますと自主再生するとの回答が多くあり、耕作放棄地が減少すると見込んでおります。

また、農地を有効利用するために農地中間管理機構に集まった貸付希望地を、農地を借りたい担い手農家とのマッチングによりまして担い手への農地の集積と集約を図っておりまして、経営規模の拡大と効率化を進めております。

次に、農産物の輸出計画ということでございますが、以前にも答弁いたしましたが、輸出すれば必ずしも高く売れるものではありません。また、国内の販売に比べコストがかかるという問題もあります。市内においては、台湾にレタスやキャベツを輸出しているケースもあり、これらの農業者の支援を行うとともにノウハウの習得に努めたいというふうに考えております。

そして、輸出のことでございますけど、輸出にはどうしても運送費などの経費がかかります。お話のあった中国というのは、今中国で日本の米を消費されているのは、価格的に見て富裕層ということで大きな市場ですが、競争していくためには価格などに課題があると思います。そして、その農業所得の安定のためには美作市の米がおいしいと言っていただけるような、おいしい米、国内でそういう売れる米をつくっていくことが大切だというふうに思っております。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

建設部長。

建設部長（真野　弘紀君）〔登壇〕

岩江議員の中山間地における農業の現状と課題ということで、耕作放棄地対策と大規模土地改良事業、農業の効率アップということについてお答えをさせていただきます。

先ほどパネルで示されたところにつきましては以前にも御回答申し上げましたけれども、平成30年度新規で計画をさせていただいておるところでございます。若干事務的な手続等により、また地元からの負担金を払っていただくというのを添えた文書が出るのが遅かったりして30年度となっておりますけれど、30年度新規ということで進めてまいりたいと思います。地元の方とは当然事業内容について決めるということが一番ですので、しっかりコンタクトをとっていく必要があるというふうに思います。

それから、最初に見せられました田んぼのほうへ水が出るということでございますけど、これもいろいろと要因がございます。先ほど言われましたとおり、下水とか上水によって水が集まってきて一部弱いところに出てくるというところもあれば、地下水が高いもの、それから山のさざれ水といろいろあるわけですけれ

ど、暗渠排水事業ということで対応したいと思います。また、その下水とか上水ということで特定ができれば、それをまたとめるというような方法も環境部のほうと協議をして進める必要があるというふうに思っております。

それから、大規模土地改良につきましては、平成30年度より補助率が50％以上というものが関係してきますけれど、負担金を少し安くするという方向で受益者分担金の徴収条例施行規則を改正しております。少しではありますけれど、土地を持っておられる方、土地改良される方については事業の推進のほうへ動いていただけるものではないかというふうに思っております。

それから、指摘がありました下町についてでございます。これも長い間、先ほど議員言われましたけれど、そのままでございます。今の現状といたしましては、地域でいろいろと動きが出てきつつあるというふうに捉えております。私どもといたしましても何もしないというわけではございません。当然皆さんと一緒に、皆さんの気持ちが一つになって換地が進んで処理できたらいいというふうに思っております。したがいまして、そういう機会があったり、そういうチャンスがあったら、当然足を運んで進めて処理に向けて頑張りたいというふうに思います。

以上です。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岩江議員。

１５番（岩江　正行君）

市内の耕作放棄地が全部で何ぼうあるん。それで、これがあんたの言うようなことをしたら、すぐのうなってしまう。のうなるのをわしらは望んどんじゃけども、もうかるもうかる言うて、ほんなら農家所得は何ぼうになったんですか。その辺のとこも１軒当たりの農家所得が何ぼうになったんか、大体農家の時給がどのくらいなのかというようなことを言うてもらわなんだら、もうかるもうかるというて、どこの数字を拾うて言よんか知らんけども、美作市の農地が全体で何百町歩あって、そこの中で今言ようる裏作、転作のできるような農地が何ぼうぐらいで、湿田がどのくらいあって、なぜそういうな耕作放棄地ができる原因はどこにあるんかというようなことをやっぱし言うてくれなんだら、原因を究明していかなんだら問題は解決せんのんじゃ、部長な。あんたみたいなどこから拾うてきた数字か知らんけど、べらべらもうかっとんじゃ、もうじきしたらのうなるというような話をして、のうなるんだったらこれほどうれしいことはない。

これ毎回やっとんじゃ、毎回、農業問題。本城議員もずっとこの農業問題にかかって言よった。どこまで進んどんですか、それで。自分は減ってもふえようりゃあへん、ふえても減っとらへんというふうな認識でここで物を言ようるわけじゃから。うちの上でも行ってみなさいよ。ここへ資料があったの、これ。これじゃあな、これ。あんたら、これは行ったことがねんじゃろう。もう何にもできん、圃場整備して。これが向こうへまだずぼっと全部じゃ。７町ほど固まっとる、ここへ。ほんまにできるんかな、あんた部長。そこで、言いっ放しじゃあいけんで。あんたとこの親戚がわしに相談したんじゃから、米１万3,000円ぐらい、3,000円はかならんのんじゃと。どがいにももうからん、あんたとこの専業農家が言うたんで。もうからんのじゃというて、厳しいというて。ほじゃから、それをもうかる農業をしていこう思うたら、やっぱしこういうふうな効率化農業、こういうふうな広いなるい土地をつくって、あぜの畦畔を少なくしてせないけんということを言われとんじゃ。もうあんた方と話しする意味がない。もう何遍言うても同じことはか。岩江さん言ようたけども、去年の当初予算からいうたら、こんだけ前進しましたというような話がないんじゃ。同じことばあ言うても、進歩も発展もない言うたのは、これは誰が言うたというのは、この前言うたわな。

ほじゃから、そういうふうなもう少し同じことばあ言うたら進歩も発展もないわけじゃから、少しこうい

うふうなこれが解決せんけん、こういうふうに変えてみたんじゃと、そしたらこういうふうなええ面が出てきたぞというようなことをせなんだら、この問題はいつまでたっても解決せん思います。答弁。

議長（鈴木　悦子君）

経済部長。

経済部長（遠藤　宏一君）〔登壇〕

具体的な数字を今持ち合わせておりませんので、今答えることができませんが、先ほど答弁いたしました農業収入等につきましては、市内の担い手に対して調査を行いまして、回答がいただけた中では農業所得が増加しとるというようなところが見てとれるということで答弁させていただきました。

そして、農業の効率化ということですけど、農地中間管理機構、そちらを利用しながら担い手に農地の集積を図って大規模化、集約して大型化を支援をしているところでございます。そういったことで耕作放棄地の解消にももちろんつなげていきたいというふうに取り組んでおります。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岩江議員。

１５番（岩江　正行君）

資料を持ち合わせてないというて、何日前からこの質問書を出いとって、先ほど来岩﨑議員も言ようたけど、無礼でしょうがな、ここで。資料を持ち合わせんとここへ出てくるというのはもってのほかじゃがな。根拠のない数字をべらべら言うてもろうて、根拠を明らかにせえというて言よんじゃから。そんなとんでもないことを言うてもろうては困る、もう。

もう議長、次の問題に入ります。

議長（鈴木　悦子君）

はい、２項目めですね。

はい、どうぞ。

１５番（岩江　正行君）

はい。こんなもの、のれんに腕押しと一緒ですから。

では２項目め、障害者差別解消推進法と合理的配慮についてお尋ねをいたします。

前回も肝臓疾患による透析治療を受けている方々の経費とかいろんな問題について、車の問題、利便性、病院に通ようる、こういうなことについてお話をしました。けれども、非常に残念だったんじゃけども、福祉の部長に言うたんじゃけども、部長は汗かいてもらようたんじゃけども、とうとう病院から出てこれないような状況になりました。家の方々がテレビ見させてもらようたんじゃけども、残念ですというて、病院から出れんようになった。ほじゃから、人の命というのは余り軽う見ちゃあいけん。かえがないわけじゃから、マルナカへ行っても天満屋へ行っても売っとらへんのじゃから。この世に生をうけて出たら、もうほんまにいつ亡くなってもありがとうというて感謝してもらうような形の中でお見送りしたい、これが私の思いです。

ほいで、障がい者の差別の解消と合理的配慮についてですが、１項目め、少子・高齢化と過疎化について、過疎化の中で大きな問題を抱えとると思います、地域の足の問題。

それからイとしまして、高齢者、ドライバー免許証の自主返納、それから買い物、病院などの生活に必要な移動手段、子どもの問題、障がいのある人、それからひとり暮らしのサポート、障がい者の自立支援や社会復帰を促すためにさまざまなトラブル対応、家事全般についてに関する、人が今最近、うちの近所では孤独死した人が３人おられる。３日、４日たっとんじゃ。こういうな問題。それで、行政としては何ができる

んか。何が足らないのか。一人の人間として、行政じゃのうても一人の人間として、社会全体がどのような目を向けていかなきゃならないのかという、そのようなことをこの障害者差別法ではうたわれとんじゃねんかと思います。障害者差別法、ちょっと読ませてもらいますけど。

障害者差別解消法では、障がいのある人に合理的配慮を行うことなどを通じて共生の社会を実現することを目指しておると。障がいのあるなしにもかかわらず、全ての命は同じように大切でかけがえのないものであります。一人一人の命の重さは障がいのある人ない人によって少しでも変わることはありませんと。このような当たり前の価値観を改めて社会全体として共有していくことは何よりも大切じゃないかということを言われております。こうした取り組みの一歩一歩の積み重ねが障がいのある人もない人もお互いにその人らしさを認め合いながらともに生きる社会、共生の社会の実現についてつながるんじゃねえかということでございます。

それで、ちょうどこれは黄福タクシーというやつじゃな、黄福タクシー。黄福タクシーというたら美咲じゃ。これはタクシー運賃、これ助成金、これ個人のタクシーもあるし、障がい者の乗れるバスもこういうふうな形の中でございます。それで、このデマンドバスの関係、市民部長はこの間の質問に対して、今研究中じゃというて言われたんよな、吉野、大聖寺。大聖寺じゃ宮原じゃというて言うたら、恐らく萩原市長さんの選挙の支持者が非常に多いとこじゃな、これ。梶並、右手、そこらが放置されとんよ。何でかなというて、放置されとん。まだこれ今調査中じゃというん。デマンドバスが土居、福山を走ったのはいつですか。合併してから２年ぐらいしたら、もう走っとんでしょうがな。十何年たったいまだにまだ研究しょんか。とんでもない話じゃろう、これ。

ほいで、あんた方はきれいごとじゃ。半分じゃと、あんたの報酬の中で半分じゃというて言うたら、そりゃあよう頑張ってくれとるなあということになるじゃろうけども、市民３万5,000円の国民年金、国民年金の人、農業者年金、公務員年金の人、一月３万5,000円ほどもろうて後期高齢者から介護保険から何ぼう引かれて、何ぼう手元へ残るんか。それを透析する場合だったら月水金と週に３回行かにゃあいけん。この近所だったら一番近いとこは勝央じゃ。その次には東へ向いたら徳久、それから津山の中央病院、こうなっとんじゃけども、そこに行くのに物すごう弱者に優しいような行政が敷かれとるところがある。市内1,000円、タクシーが。もう少しそこに、やっぱしあなた方、行政をやる人間というのは仕事をする気でそこへ座っとんだったら、やっぱし長靴とかっぱを着るような行政をやってもらわなんだら、少し研究するということを、ええとこへはどんどん出ていくんじゃと、勉強しに行くんじゃと、なぜあいうふうな形の中で市民に合理的配慮ができるんかということをやっぱしその辺のとこが一番大事なんです。それができとらんというのはもう情けない。情けないに尽きる。

ほじゃから、３万5,000円の人が週３回行って、月水金と行って、大原から勝間田の病院へ行ったらタクシー代が恐らく7,000円から上かかる思います。3,500円じゃ、半額だったら。往復いるんよ。往復したら今度は7,000円要るわけじゃ。それで、週月水金と３回行ったら三七、２万1,000円でしょうがな。一月だったら何ぼうになるん、計算してみんさいよ。家庭が崩壊するというて泣きよんじゃ、皆。奥さんおられる、奥さんが軽でも運転できるんだったら、軽で病院へ連れていくんじゃ。けれども単車じゃ。どがいにもならない。日笠議員にもちょっと冗談半分で言うたんじゃけど、日笠議員、おまえもちょっと本気出いてやってくれなんだら、あんたや萩原市長の一番たくさん指示してもらようるところの大聖寺や宮原のほうじゃがな。いう話はしたんじゃけども、やっぱしその辺の一番皆さんのかゆいところに手が届くような行政をやらなんだら、これは福祉行政と言えんのんじゃねえかと、かように思います。

それで、免許証の自主返納、最近物すごう多ゆうなっとるわな。75歳の人になったら自主返納せえと、事

故がある、たくさん。この間も七十何歳か知らん、女性の人が赤磐のほうで事故をされて、歩道を歩きょうる生徒に当たって亡くなった。最近、高齢者の事故が非常に多い。ほいで、あんたとこのお父さんも最近自転車をこうやして歩きょうると。もうやっぱし自主的に返しょうる。

ですから、そういうなものをひっくるめて、ほいで国のほうも東京オリンピックを見据えて障害者差別解消法条例を東京都がしとるわけじゃ、うちはしとらんけども。へえから、これバリアフリー義務化、最近山陽新聞が市民の目線の、この次にも言よう思よんじゃけど、ハンセン病の関係もなにも最近掲載して載りょうります。やっぱしこういうふうなのは、一番我々が感じるようなことを出していただいておりますし、やっぱし身近にそういうなもんがおるというたら、考えていかにゃあいけんなということになるわけですから、これが１回目の質問でございます。

ついでにハンセン病も言わないけんな。ハンセン病の関係、昭和22年ごろから有効な治療薬プロミンの使用が開始され、ハンセン病は治る病気になったにもかかわらず、国は平成８年に、らい予防法を廃止するまで強制隔離という誤った政策を続けているんじゃと。強制隔離という誤った、これが患者や家族は偏見や差別を受けてきたと。それがいまだたって子が親に、親が子に、これは同和問題も一緒じゃ、何も。こういうな形の中で親が子に同じ過ちを繰り返したらいけんと、ハンセン病を正しく理解して、恐らくここの中でもわしらひっくるめて、あの長島の施設に恐らく訪問やこうした人は誰もおらん思う。ですから、生の声を聞いて、どんだけ苦しい目をしたんか、やっぱし苦しみを分かち合えて、それを行政の中できちっとせなんだら、これ私の孫が人権週間のときにあそこの文化センターで発表、作文を読んだんよ。ありゃ思うて、ほいでしょうたら、資料がちょっと出てきましたんで、ほいでこれは、おじいちゃん言えよというあんばいじゃ思うて、今回一緒に障がい者差別等の関係の中で質問させていただいております。学校の中でもどういうふうな形の中でやられよんか、この問題を。

ほいで、合理的配慮というのは、これは文科省が出いとるやつじゃな、文科省が考える合理的配慮の例が示されておりますと。文部科学省のものですから、学校教育現場での例ということになりますが、合理的配慮というのは学校教育だけを想定しているのではなく、職場、病院、デパートなどあらゆる公共施設などを想定しているのですと。さまざまな場面で役立つのではないでしょうか。具体的に合理的課題について理解する上でわかりやすいのは、学校現場での例であると思うので、ここに紹介しておきますというて、こういうふうに書いて、そじゃからこの資料では、障がい者差別の合理的配慮の例を挙げております。視聴覚障がいのある人、たくさんの知的障がい、肢体不自由の関係、病弱、身体、やっぱしその移動手段によってどういうふうなことができるんかということを、うちには教育委員会ないけえ、答弁書をもろうておりませんけど、してもらわあでもいいしね。何にもしてもらわんでもえんじゃ、もう。早う新しい教育委員会を市長つくってもらわなんだら、何の答弁もないわけじゃから。仕事が大儀い言ようるような人におってもろうたんじゃ困る。そういうことで１回目です。

議長（鈴木　悦子君）

市民部長。

市民部長（角南　良雄君）〔登壇〕

それでは、岩江議員の障害者差別解消法と合理的配慮についての１番目の少子・高齢化と過疎化について課題を抱える地域の足をどう守るかということでございますが、免許証の自主返納者や子ども、障がいのある人などの移動手段については、公共交通手段として各地域の利便性を考慮し、自治振興協議会等で協議を行い、市営バス、デマンドバスといった交通手段を提供しております。

また、市営バスが運行していない地域では、新たな交通手段として７月１日からタクシー利用補助という

制度について実証実験を実施しております。この制度は、タクシー利用料の半額を補助する制度で、補助の対象者としては高齢者、70歳以上のみならず、身体障がい者、精神障がい者、特定疾患のある方、妊産婦、運転免許証を返納した方といった、みずから自動車を運転することが困難な方をフォローするものです。現時点では、特定の地域、具体的には土居、福山地区を除く作東地域でございますが、のみの実施でありますが、実証実験の結果によっては市内の他の地域にも広げていくことを検討する予定でございます。

また、高校等へ通学については、市内唯一の岡山県立林野高等学校の存続という観点からも、同校への通学手段確保ということを念頭に市営バスの運行、民間バス会社への補助等を行っております。また、津山市や勝央町等市外への通学につきましても市営バスの運行、民間バス会社への補助という形でサービスの提供を行っております。

次に、２番目のハンセン病患者に対する偏見、差別解消のための啓発、実施についてでございますが、議員御指摘のハンセン病患者に対する偏見や差別については、知識や理解の不足から、日常生活、職場、医療現場など社会生活のさまざまな場面で差別やプライバシーの侵害などの人権問題が発生しており、感染症に対する正しい理解や知識を深めていくことが必要であります。

岡山県でも、毎年６月22日のらい予防法による被害者の名誉回復及び追悼の日を中心に、広報等による啓発、啓発パネルの貸し出しを実施しており、また年間を通じて普及啓発のＤＶＤ「未来への絆～ハンセン病問題から学ぶ～」の貸し出し、リーフレットや小冊子の作成配布を行っております。また、人権週間の強調事項の柱の一つとしてハンセン病患者に対する差別解消が位置づけられております。

美作市といたしましても、今後も岡山県、人権啓発活動ネットワーク協議会等の関係機関と緊密な連携を図りながら、ハンセン病を初めとして人権が尊重される社会を実現するために人権に関する知識の習得のみにとどまらず、一人一人がみずからの課題として捉え、日常生活で生かせる人権感覚を身につけることができるよう、人権週間を初めさまざまな機会を捉えての啓発活動を進めてまいります。よろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）〔登壇〕

私のほうからは、障がいのある方へ対する交通対策に対する配慮ということで答弁をさせていただきたいと思います。

障がい者の交通手段の確保についてですが、９月議会で説明をさせていただいたとおり、福祉有償運送は通常のタクシー料金の半額程度での利用が可能であり、通院費の軽減や家族の方の都合がつかないときの代替手段として有効と思われます。先に実施しましたアンケートの調査結果をもとに現在事業を実施しております社会福祉協議会と連携しまして利用の拡大を行っているところでございます。

また、特定疾患医療附帯療養交通費につきましても、今般、条例改正の提案を行っております。法の整備がなされたことに伴い、難病患者の対象者が拡大傾向にあります。法律の理念を踏まえ、より有効な制度になるよう研究を進めてまいりたいと考えております。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岩江議員。

１５番（岩江　正行君）

余りこっちが言ようたら時間がなくなってしもうて。とりあえず半額というて言よんじゃ。半額というのと、これ市内が全部1,000円、よその地区と調べてみなさいよ言よんじゃ。９月のときと全然変わっとらん

という話をしょんじゃ。あんた方の仕事というのは、進歩も発展もないという話をしょんで、ここで。もう少し皆さんの目線での行政をやっていただきたいということを言よんじゃ、これ。

それと、ハンセン病の関係、これらでも６月22日にというて、一遍か、これ。これ県へ行ったらもうたくさん資料があるか、ここの下に。資料があるか、これ。

それと、学校の中で、今うちらは教育委員会がないけええええけども、早う教育委員会をつくっていただいて、やっぱし間違った親が指導しょうたら、子どもが学校がいかに大事なんか。学校の先生が、おじいちゃん、あんたが言よんの違うよと、僕らは学校ではこう習うとんじゃと、子どもが親に聞かせ、親がまたおじいちゃん、おばあちゃんに正しい理解をさすことが、これが一つ一つの偏見がのうなるんじゃないんかな。うちの教育委員会はないけんね、何もしょうらんのんじゃろうけども、やっぱしたくさんの子どもがおるわけですから、早いことやっていただきたい。

それと、これ兵庫県、これまたちょっとのぞかせてもらうん。この間も言ったんよ。人権ライブラリーというて、申し込みじゃ、これ。兵庫県やこうたくさんこういうな会をやるんよ。市民部長やこう盆と正月というような行政やりょうるわけじゃけんな。そがんことで問題が解決つくわけはないがな。同和問題でもあんたとこの窓口は、徳川300年続いた封建政治、明治維新からきょうまでいつまで何年かかっとんな。これがいまだたって独断と偏見によって差別が残っとるからわしがここでやかましゅう言よんじゃねんか、ほいで。ちいたあ踏まれた者の立場になって物事を行政をやらなんだら、これ一向に進みゃあせん。２回目。

議長（鈴木　悦子君）

岩江議員、教育委員会、美作市はありますので……

〔15番岩江正行君「あるんだったら、ちゃっと答弁書を出さんかいな、ほいで」と呼ぶ〕

ないというようなことは余りふさわしくないと思いますので、よろしくお願いします。

〔15番岩江正行君「仕事をするんだったら、せえよ、ほんなら」と呼ぶ〕

教育長。

教育長（大川　泰栄君）〔登壇〕

美作市には教育委員会はございますが、いただいた御質問の要旨の中には学校教育、社会教育に関しての御質問はございませんでしたので、最初はお答えいたしませんでした。今、御質問がありましたのでお答えいたします。

なお、ここにございます第４次岡山県の人権政策推進指針、ハンセン病の部分には学校教育においては教育をしっかりすると、社会教育においても同様であるということがしっかり書かれております。

さて、市内学校におきましての、特にハンセン病というお尋ねでございましたので、お答えさせていただきますが、市内の全中学校全ての学年におきまして、ハンセン病を初めとするさまざまな人権教育課題については学習しております。先ほど御自身のお孫さんの例も挙げておられましたけれども、そうしたことを学び、前回の議会でも御紹介をいたしましたが、人権のつどいでその中ですばらしい作文も御紹介しております。

なお、昨年の最優秀の作文は、このハンセン病について学んだ、実際に現地にも行って学んだと、そうした中学生による作文でございました。

また、先ほど岩江議員は、この中には話を聞いた者も行った者もいないだろうとおっしゃいましたが、私は実際に入所者の方、そして入所者で町内会長をなさって、そして御自身も苦労された方、そうしたお話を実際に二、三度伺ったことがございます。また、今現在長島愛生園におきましては、非常に先進的な学芸員

の方が世界遺産の登録を進めようということでいろいろ運動をなさっておられますが、その方の本当に懸命の努力の様子、まだ世界遺産ということを言っていないうちにもいろいろ講演をしたいんだというようなお話の段階でいろいろ熱いお話も伺うことができております。

なお、皆様にも御紹介させていただきますが、２月24日に人権教育講演会ということで、かつた市民センターでまさしくこのハンセン病に関しまして小説「あん」というものがございます。原作者であるドリアン助川氏による講演会、そして映画の上映をいたします。ハンセン病回復者の人生、ハンセン病の病気を患ったことがあるということだけで、隔離生活を送ったというだけでさまざまな差別を受けた方の映画でございます。ぜひ皆様方にもごらんいただきたいというふうに思いますし、少し長くなりますが、幼稚園就学前の教育におきましても人権感覚ということでやっておりますが、皆さん、肌色という言葉が現在使われない、クレヨンとかパステルというと、我々幼いころには肌色という色がございました。今現在ないというのは皆さん御存じだと思います。これは肌色という言葉が何を指すのかということでございます。今は薄ダイダイとかという言葉です。そうしたこと、先日の山陽新聞、滴一滴にも載っておりましたけれども、そうした何げなく使われている言葉の中にも人権のいろいろな課題が潜んでいるということで、世界にはいろいろな方がおられるわけで、肌の色といってもさまざまでございます。ですから、一概にその色を肌色と決めることはできない。これを実は美作市では保育園のときにそうした課題も見出しながら、皆さんのパステルの中には肌色ってないよね、何でだろうねというような問いかけの中から人権課題をしっかり学んでおります。

そしてまた、人を傷つける言動、そして威嚇をするような言動、そうしたものもいけないということはしっかり子どものうちから教えておりますので、どうぞ皆様方も御理解いただきますようにお願い申し上げます。教育委員会としての御答弁でございました。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

市民部長。

市民部長（角南　良雄君）〔登壇〕

タクシーのほうで半額ではないかというお話なんですけれども、９月から……

〔15番岩江正行君「半額じゃねえかというより、あんたは半額じゃ言ようるけれども、よその地区ではこういうふうな市内全域をというて例えてちょっと言うたがな、そのことを言よんじゃがな」と呼ぶ〕

はい。９月から変わっていないということもあったかと思うんですけれども……。

〔15番岩江正行君「よそのええことはどんどんどんどん学んでいかにゃあいけんじゃねえですかという問いをしょうるわけじゃけん、それを言わにゃあいけんが。そんなんで時間を延ばすな、ほいで」と呼ぶ〕

議長（鈴木　悦子君）

質問者は勝手にやりとりしないようにしてください。

〔15番岩江正行君「もうわかった」と呼ぶ〕

市民部長（角南　良雄君）

今回の実証実験は、限定的な条件のもとで実施しておりますので、全ての方々が御利用できるわけではございませんが、この実証実験のデータを収集、分析し、市内全域に拡大または継続が可能であるか、また民間事業者の路線バスや市営バスなど運行への影響を含め検討してまいりますが、岩江議員の言われました美咲町であったり、兵庫県のほうのいいところとか、そういったところも研究してまいりたいと思いますの

で、よろしくお願いしたいと思います。まだ始まったばかりの実証実験ですので、もうしばらくお待ちください。

それから、ハンセン病の資料でございますが、岩江議員の言うとおりでございますので、資料を取り寄せて準備させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岩江議員。

１５番（岩江　正行君）

教育長が行った言よんじゃけんな、行っとんだったら、何を感じたか、見っ放し、聞きっ放しで戻って、自分だけ聞いてじっとこもっとる問題じゃない。えかったら、どんどん広げていくということはあんた方にかけられた使命、こういうことなんじゃ。学校教育というのは、一番大事なんよ。子どもを戦争に追い込んでいったのも学校の教員たちが追い込んでいったわけじゃから。お父さん、お母さん、国のために行ってまいりますというような教育をしたのは学校の教員。

次に入ります。

議長（鈴木　悦子君）

ここで10分間休憩しますので。

午後１時59分　休憩

午後２時10分　再開

議長（鈴木　悦子君）

休憩前に戻り会議を開きます。

14番尾髙議員が出席をされております。

それでは、岩江議員、３項目めから始めてください。

岩江議員。

１５番（岩江　正行君）〔質問席〕

はい、３項目め。時間がないので簡単に言います。

子どもの貧困対策について。子どもの貧困対策の現状、実態調査と支援体制の整備計画策定についてのお尋ねをします。

計画を全部説明していただきたいと思います。

議長（鈴木　悦子君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）〔登壇〕

子どもの貧困の現状、実態調査と支援体制の整備計画の策定についてというお尋ねでございます。

子どもの貧困対策に関する整備計画の策定についてですが、子どもの貧困対策の推進に関する法律第９条におきまして、都道府県に努力義務として課せられておりまして、市町村に策定を求められているものではありません。しかしながら、子どもの貧困問題は非常に重要な課題だと考えており、子どもの将来がその生まれ育った環境によって左右されることのない支援を行うことが肝要と考えています。このため、世帯の経済状況が子どもの育ちに影響している御家庭につきましては、要保護児童対策地域協議会におきまして高い率で捕捉しており、担当職員はもとより地区担当保健師、家庭児童相談員、母子・父子自立支援員、あるいは地域の民生委員などが連携し、さらには子どもの居場所づくりや子ども食堂といった、民間事業者が行う

インフォーマルなサービスなども活用しながら支援に努めているところでございます。よろしくお願いします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岩江議員。

１５番（岩江　正行君）

また、あれか。

議長（鈴木　悦子君）

教育委員会として何かありますか。

〔15番岩江正行君「子ども預かっとらんのか、ほいで」と呼ぶ〕

教育長。

教育長（大川　泰栄君）〔登壇〕

貧困対策ということでございますが、美作市におきましては、就学援助等を実施しております。就学援助の受給率は約20％近くに現在達しております。

そのほかにも通学の援助、また中学生におきましてはヘルメットの交付等、通学補助等も含めましてさまざまな支援をいたしております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岩江議員。

１５番（岩江　正行君）

よう勉強してあるわ、ねえ、校長さん。校長さんじゃあねえ、教育長さん。

これ山陽新聞、ちょっと切り抜きさせてもろうたんじゃけども、これ子育て世帯４割を減額じゃというて、これ生活保護、18年度見直しというて書いとる。こういうな中で子どもの貧困対策、これをやった場合についてはどのような状況になるんか。国のほうもいろいろと施策は考えておるんでしょうけども、ずっとブログを出いてもろうたら、もう時間がないけんな、次行かにゃあいけんのんじゃけど、27年度の子どもの貧困の状況と子どもの貧困対策の実行状況の公表というて、こういうふうな形でブログにも載っております。よう見ときねえ、あんたもパソコンもいらうんじゃろうで。ほいで、沖縄での取り組み、自治体での取り組み状況、これ全部ここへ岡山県も東京都も神奈川も全部の都道府県のやつ載っております。時間がないのでもうこれ以上言うのはなんですが、やめときますけれども、もう少し真剣に答弁していただきたいと思います。もうあんたら、もう45分じゃけえ、もうちょっと時間したらのうなるけえやめる思うとるけど、そういうなわけにはいきませんので、次、また６月議会にさせてもらいますけれども、次に入ります。

議長（鈴木　悦子君）

はい、４項目めですね。

１５番（岩江　正行君）

４項目め、部落差別解消法、これも部落差別解消法が28年12月９日に施行された、成立したんよ、国会で。それで、部落差別解消法とこれからの人権の同和行政の取り組みについて、１年も経過したんじゃからそれなりの基本方向は出いとる思うんじゃけども、人権行政の基本方向、人権行政、同和行政の方向性、同和行政の今日的重要課題実態調査、この課題をちょっと説明をしていただきたいと思います。答弁していただきたいと思います。

議長（鈴木　悦子君）

市民部長。

市民部長（角南　良雄君）〔登壇〕

岩江議員の部落差別解消推進法とこれからの人権同和行政について、平成28年12月に部落差別解消推進法が制定された差別解消に向けた取り組みについてですが、議員御指摘のとおり依然として女性、子ども、高齢者、障がいのある人、同和問題、外国人、ハンセン病問題などさまざまな人権問題が存在し、複雑化、多様化しています。

美作市では、人権施策の基本的な考え方などを示す第４次岡山県人権政策推進指針に沿い、国、県、関係機関等と連携、協力のもと、人権尊重の視点に立った施策を総合的に推進しております。具体的な市民部の取り組みといたしましては、毎年12月の人権週間にあわせて人権のつどいの開催、また平成26年度からは地域人権講演会を実施しております。市内６地域を持ち回りで人権講演会を開催しており、これまでに大原地域、勝田地域、英田地域で実施し、本年度は作東地域で「子どもの未来をあきらめない」という演題での講演会、シンポジウムを開催する予定としております。また、毎年岡山湯郷Ｂｅｌｌｅに御協力いただき、市内の小学校や保育園での人権の花やふれあいスポーツ教室を開催し、幼少期からの人権意識の醸成に努めております。

憲法の基本理念である平和主義、民主主義、基本的人権の尊重を地域社会で実現していくことが行政の目標であり、とりわけ基本的人権の尊重は、市民の皆様の生活に密接にかかわる差別解消についての重要な課題でもございますので、市民部としましても市民の皆様のさらなる人権意識の醸成に努めるため、今後もさまざまな機会を捉えた人権啓発活動の充実を図っていく所存でございます。よろしくお願いいたします。

〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岩江議員。

１５番（岩江　正行君）

言うたことに対しての答弁してくれ言うとんで。

議長（鈴木　悦子君）

具体的に何が。

１５番（岩江　正行君）

具体的に今言うたがな。具体的に４項目ほど分けて言うたがな。岡山県がしょうる、12月に何しょうるんじゃないがな、今言ようるこの法律の意義、なぜ必要なんか、今回の、こうやって言ようたらおかしゅうなるしな。もう少し言うたことだけ答弁してくれにゃあいけんわい。この法律を皆読んどんじゃろう。何をせにゃあいけんかということを読んどんじゃろう。

議長（鈴木　悦子君）

これ以上の答弁はないそうですので、次へ進んでください。

１５番（岩江　正行君）

ないんじゃな、答弁が。

これは姫路がこの前、〔聴取不能〕したときに配ったやつなんじゃ、これ。解消の推進に関する法律等が施行されました。ほいで、姫路市の取り組み、同和問題の差別、こういうずっと書いとって、差別について法律の中身を書いとんよ。これ読んどんか、あんた。読んどらんのんじゃろう。これは理念法であっても、一番にやらにゃあいけんのは、何年たって、差別があるかないかきちっとそれ調べていかなんだら、問題解決せんのんじゃねえか、ほいで。その実態調査ができようるかできようらんかということを厳しゅうここで

うとうとんじゃろう。あんたも一緒じゃ、教育長も。もう２人が一家じゃ、ほんまにこんなもの。そういうなことじゃあ、いつまでたっても何ぼう法律ができても、これ解決しゃあせん。これ元総務庁地域改善対策協議会の委員だった稲積という人が解消法について成立の意義をうとうとるわけじゃ、これ。市長は知っとる、この地域改善対策室。もう少しあんたは今回の予算も減らしとるけど、人権推進を。調査費やこうは全然のっとりゃへんがな。あんたらの給料だけじゃがな、あっこにのっとんのは。とんでもない話じゃがな。もうこれ以上言うてものれんに腕押しになりますんで、６月の議会で今度はきちっとした取り組みを実態調査、これをしていただきたいと思います。

それで、この予算の減額しとるけども、去年より少のうしとるけど、当初予算で。ほじゃけども、これは補正でも組んで、きちっとしたこれは法律じゃから、萩原市長はここへ座ったときにコンプライアンスを一番に言うとるわけじゃから、法令遵守を言うとるわけじゃから、法に尻を向けてそんだけ人権が侵害されようるやつを放置する行政というのは美作市にはない思いますんで、その辺のところをきちっとしていただきたいと思います。この項目はこれで終わります。答弁も何もならへん。無礼な、ほんまあんた方は。

議長（鈴木　悦子君）

５項目めに入ってください。

１５番（岩江　正行君）

では、５項目めですが、市民が安全・安心して暮らせる社会実現に向けての取り組みについて尋ねる。セキュリティーや犯罪、事故などを防止するための警備全般について。このことについて無線ＬＡＮとか〔聴取不能〕とか防犯カメラの進捗状況率とか、進捗状況がどがいなったんか。この間は、あの事件はないない言ようるけど、ないことはない。あそこの今、けさ午前中、こぶしの里の屋根の泥棒に還元してやった、あの銅板、あのことについての質問を３番議員がされようりましたけれども、それと最近、新聞紙上やこうで老人ホームに職員が〔聴取不能〕されるような、不審者が入って。学校はもう内海教育長のときぐらいから非常に警備が、不審者が入らないように、大原小学校もああいったとこもきちっとしてくれております。するんじゃけども、最近東粟倉で軽ワゴン車が盗まれて、火をつけ、放火したのが、今度は山を越えて、ほいでわしの知っとる人のとこの車を盗んで、ほいで佐用に逃げとる。そしたら、あそこの一番上のとこで勝英署が張っとったんじゃけども、カメラがあったらすぐわかる。わからんけえ逃げて、佐用のほうがつかまえとん、これ。ほいで、こっちの新聞に載ったのは１月21日じゃ。佐用の軽ワゴン車盗難容疑で逮捕したんが18日なんじゃ。そんだけずれたわけじゃ。

じゃから、一日も早うそういうふうな、これからはベトナムがどうの、中国がどうのじゃなしに、人がわかったら個人の名前、あの人らが、あの人がと言えるんじゃけども、ベトナムの人の名前はわからんわけじゃから、同和問題と一緒、部落問題、部落の人が誰か一人やったら、あ、同和地区の人がというような、これが差別。その辺のとこも十分してもらわなんだら、未解決の事件がたくさんあるわけです。うちの前の農協のＡＴＭが重機でめがれたり、こぶしの後山も屋根をはぐられてしもうたり、それから岩藤の建設の運送屋のあそこの事務所にも２回も３回も入られた。それから、古町のほうもずっと泥棒が入って、古町の泥棒は盗んだやつを所有してわかったらしいんじゃけども、こういうことについてセキュリティーについてどがいに考えられるんか。今度はカメラとかというようなやつについてのお尋ねをいたします。防犯カメラね。

議長（鈴木　悦子君）

市民部長。

市民部長（角南　良雄君）〔登壇〕

市民が安全・安心して暮らせる社会実現に向けての取り組みについて、犯罪や事故などを防止するための警備全般についてですが、美作市の平成29年12月末の犯罪発生状況は、岡山県警資料によりますと刑法犯認知件数が114件で前年比26.5%の減少となっており、上位の手口としては、万引き、車上狙い、自転車窃盗となっております。また、全国的に凶悪犯といわれる、殺人、強盗、放火、強姦、粗暴犯といわれる暴行、傷害、脅迫、恐喝などの犯罪が頻繁に発生している状況があります。

こうした状況から美作市では、街頭犯罪や少年非行、子ども、女性等弱者を狙った犯罪等の防止の目的で、不特定多数の人が利用する道路、公園、駐車場等に防犯カメラを設置し、犯罪の起きにくい安全で安心なまちづくりを進めております。

また、人身交通事故の状況ですが、11月末までの人身事故件数は35件と前年より32件の減少となっておりますが、事故件数のうち高齢者の占める割合は16件で45.7%と約半数を占めております。市内では薄暮での死亡事故も発生していることから、高齢者の外出時には十分注意していただくよう啓発するとともに、美作交通安全協会や美作交通協助員の皆様方の街頭指導や啓発活動により、未然防止に努めております。また、各地域の危険箇所等につきましては、要望をいただき、早急な対応を図っているところでございます。どうぞよろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岩江議員。

１５番（岩江　正行君）

総務部長に聞きたいんじゃけど、時間がない。部長、屋根が壊れていたものを直したんじゃが。あんたとこの管理不行き届きによって盗人に盗まれたんじゃろう、これ。勘違いせんのよ。あんたとこの財産管理ができてのうて、それを今2,000万円から金を入れたんじゃろう。勘違いせんようにせなあかんで。壊れたもんじゃないで、これ。壊されたもんじゃ。

それと、今の事件云々というて、今言ようる野菜とられましたというて、わしのとこ、はや２件も相談があったんじゃ、外国人に。一遍はあげたらしいんじゃ。そしたら、今度目にごそっと盗まれて、畑へ行ってみたら何もなかったというて言ようるわけじゃ。そじゃから、誰か知らんで、名前は。ほじゃけど、来られた人はわしのよう知った人ですから、そういうようなことが次々あっても困るし、そじゃからこれから余計に滋慶学園やこうして、よそから人がたくさん来るんじゃから、防犯カメラ、人を悪う悪う言うんじゃないけども、するまでにきちっとしてわかるように、誰がどうしたんかという、すぐわかるような防犯体制をちょっともう一度計画をちょっと説明をお願いしたい。

議長（鈴木　悦子君）

市民部長。

〔15番岩江正行君「どんだけぐらい必要なんかな。必要性で」と呼ぶ〕

市民部長（角南　良雄君）〔登壇〕

防犯カメラの今の現状でございますが……

〔15番岩江正行君「必要性」と呼ぶ〕

先ほど必要性のようなことはお話をしたかと思うんですけれども……

〔15番岩江正行君「何カ所ぐらいまで必要なんかということを言よんじゃ」と呼ぶ〕

箇所数については、何ぼう必要というところまで検討しておりませんが、来年度当初予算でございますが、補正の対応になるかもしれませんが、検討をしておりますので、よろしくお願いいたします。〔降壇〕

〔15番岩江正行君「安全・安心のまちづくり、何もないか、あっこだけか」と呼ぶ〕

議長（鈴木　悦子君）

危機管理監。

危機管理監（皆木　佳久君）〔登壇〕

安全・安心ということで危機監理室のほうで防災の面でお答えをさせていただきたいと思います。

議員も御承知のとおり、消防力の基準でありますとか、それから防火水槽の基準、こういったものがきちっとした基準がございます。しかし、防災力の基準というものはございません。これから先、美作市がどういった防災をしていかなければいけないか、過去の災害の事例を踏まえてしっかりとした防災力を身につけていきたいと思っております。

その一つとして河川カメラが19カ所、県内でも一番多く設置しております。また、ハード面だけではなく、ソフト面をとりあえず強化していかなければいけない。例えば消防団の防災に対する災害に対する避難行動でありますとか、自主防災組織の育成強化、また職員の防災に対する意識改革というものも必要になってこようかと思いますので、今後とも防災に対する御意見、御協力のほどよろしくお願い申し上げます。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岩江議員。

１５番（岩江　正行君）

とりあえずもうこれからは人がたくさん来ていただけるのは非常にありがたい話ですけども、もう事故を未然に防ぐためにも、あっこは監視しとんじゃと、うちもセキュリティーを入れてから、もう人が全然、うちの事務所も一遍被害があったんじゃけど全然ないようになっております。そういうようなことで十分な対応をお願いします。

終わります。

議長（鈴木　悦子君）

以上をもちまして通告順番12番、議席番号15番岩江正行議員の一般質問を終了いたします。

続きまして、通告順番13番……

〔15番岩江正行君「議長、議長、議長」と呼ぶ〕

はい、岩江議員。

１５番（岩江　正行君）

ちょっと〔聴取不能〕させていただきたい。

セキュリティーいうのはセコムですから。最後の質問。セコム。

議長（鈴木　悦子君）

岩江議員の最後の質問の中のセキュリティーがセコムということでございますので、よろしくお願いいたします。

それでは続きまして、通告順番13番、議席番号10番岡本泰介議員の発言を許可いたします。

岡本議員。

１０番（岡本　泰介君）〔質問席〕

議長より御指名をいただきましたので、今議会の一般質問をさせていただきます。

私は今議会は、ホー・チ・ミン除幕式についてと、それから国際交流、こぶしの里盗難事件のてんまつと

改修中止、４番目としては光ファイバー事業の変更全体像、５番目としては特別支援学校誘致、６番目としては農業振興と観光振興政策についてといって６項目挙げておりますので、順次させていただきます。

まず１番は、ホー・チ・ミンの除幕式についてです。

ホー・チ・ミンの除幕式は、昨年11月21日にされたようです。これは22日の新聞です。私はホー・チ・ミンの除幕式が行われたということはこの新聞報道で知りました。実は、21日にされたんですけど、その前の日に全員協議会があったんですけど、市長が除幕式については何もおっしゃらなかったですね。それは市長の方針でしょうからそれでいいんですけど、そのときに市長が言われた言葉が非常に私はもう鮮明に覚えております。議員の皆さんと情報を共有して物事を進めていきたい、もうその言葉が物すごく耳にひっついておりまして、そう言いながら次の日のホー・チ・ミンの像の除幕式については何もそのときおっしゃらなかった。反対しとる議員は来なくていいということだったんかもしれません。このときに議員がどなたが出られて、市民がどういう人が出られたのかということはよくわかりません。式には関係者37人が出席と、新聞報道ですよ、37人出席した。それで、ベトナムからは十何人来られたというようなことが書いてあって、この新聞報道しか私はわからないんですけれども、それがなされたと。市長は議員に対して、それは知らせるか知らせないかはもうそのときそのときでされるんでしょう。

もう一つ言わせていただくと、滋慶学園の落成式に議員は何人行かれたか私は知りません。招待もなかったし、行ってないんです。議長や何人か関係者の方が行かれたんだと思います。市長は一貫性があるんですね。こういうふうに自分に都合の悪い者には言わない。私はそれは市長としていかがなものかなという思いがします。特に滋慶学園なんかは市が10億円も補助しているんですね。その他、まだほかにもありますけど、補助金はあるんです。そういったこともあるのに、議員には何も言わない。ごく一部の何人かの議員には言う。

そうかと思えば、津山中央病院と何か調印式があるから、そこの市民センターへ来てくれというようなことも言われるんです。そのときそのときで何を判断に議員に言うのか言わないのか、私はさっぱりわかりません。私はそういうことはいかがなもんかなと。市長の職にある者として人間としていかがなもんかなという思いがいたしておりますので、あえてここで苦言を呈させていただきます。

さて、今度はホー・チ・ミンに戻りますけど、ホー・チ・ミンが像が除幕式されたというのは新聞報道で知ったと先ほど申しましたが、ここに何も書いてないことが実はあったんです。これに子どもが参列というか、参加している。そのことは私も知りませんでした。そうすると、市民から電話があった。何で子どもが行かにゃあいけんのんか。私初めてそのとき知ったんです。いろいろと調べてみると江見保育園の年長組が二十五、六人、そこへ行って歌を歌ったということを後で知りました。それを早く知っとりゃあ12月議会でも言えたんですけど、まだ知らなかったんで、それで今になってそういう質問をしているんですけどね。私に電話した人は、そういうところへ子どもを参加させるのはいかがなもんかという思いで私に連絡されたんだと思います。私は、これもおかしいなと。子どもがこういうところへ行くのは、私は物すごく批判的な思いがありますので、私は市長、古い人間ですから、市長ほど新しくない。古いことをしっかり勉強して、そして新しいことに生かしていかなければならないという思いがあるんで、これを申し上げているんです。

この子どもが保育園が参加したのは誰が発案して、どういったことでこういうことが実現したのか、市長部局、ここへ答弁には企画振興部長が答えるようになってますから、企画も恐らく絡んどったと。恐らく市長部局も絡んでおると。スクールバスで送迎したという話も聞きましたから、多分スクールバスは教育委員会ですから、教育委員会も、先ほど岩江議員が言ってた教育委員会あるわけですから、教育委員会が絡んでいたんじゃないかなと。保育園ということですから保健福祉部のほうも絡んでいたんかなと。どういったこ

とでこれがなされたのか、そのてんまつをちょっとお聞かせください。

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

我々が勝手に何か人を選んでいる話をされるんで、頭の古いかどうかは別として御訂正いただきたいのは、さまざまな式典がありますけれども、市が単純主催しているケースにおいては、基本的に議会の方々に全員の御招待が行っているはずであります。一方で、典型的に言いますと、滋慶学園の大原の校舎についての竣工式は、これは主催がうちではない、うちはゲストでございまして、相談は受けて、向こうの人数限定を聞いておりますので、したがいましてこれこれ呼んだほうがいいんじゃないかということは言っても、それが人数限定の中で通らないということもあるわけであります。一方で、共催であっても調印式のような形で行う場合に、相手方がそれは全員にどうぞということで合意をすれば、当然ですけれども全員の方に御案内すると。ぜひ今度案内があったときには御出席をお願いをして、頭の訂正もあわせてお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）〔登壇〕

除幕式に児童の参列をさせたことについての御質問でございます。

この件につきましては、江見保育園につきまして贈呈式に参列したものではなく、贈呈式の前に出席される皆さんにふだんからの練習している合唱を披露し、歓迎をしたものでございます。また、児童の表現活動の一つとしての意義があったものと考えているところでございます。この企画につきましては、当方の企画のほうにおきまして発案をさせていただいたものでございまして、江見保育園とも相談して決めさせていただいたものでございます。

以上でございます。〔降壇〕

〔10番岡本泰介君「教育部局は全然知らん、スクールバスを動かしたんよ。教育部局と相談せなんだんか」と呼ぶ〕

議長（鈴木　悦子君）

教育委員会、よろしいですか。ありますか。

教育長。

教育長（大川　泰栄君）〔登壇〕

スクールバスにつきましては、園のほうから直接依頼があって動かしたものと聞いております。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡本議員、２回目です。

１０番（岡本　泰介君）

直接依頼があって動かしたというて、それは何のことかようわかりません。江見保育園がスクールバスの車庫に直接電話して動かすというようなことが許されるんですか。おかしいでしょう、そんな一時しのぎの言いわけしたって。おかしいですよ、そんな言い方をするのは。これは恐らく市長部局、企画、教育委員会、３者がやったと私は思います。それでなかったらできないですよ。そういうもんですよ。子どもを動かしているんですから。

それじゃあ聞きます。これに対して保護者の了解とか、そういうものを得たんですか。

これはホー・チ・ミンという人の性格を考えると、政治教育とか思想教育になるんです。参列だ参加でなく、その式の前にしたとかせんとか、そんな問題じゃないですよ。私はそう思います。思想教育ですよ。そういうことを教育委員会はしていいんですか。子どもを参加させていいんですか。岡本はまたこまいことを大きゅう大きゅう言うてと思われているかもわからんですけど、そんな問題じゃないんです、これは。子どもは真っ白い心を持った子どもなんです。英語で言うとインプリンティング、刷り込みするんですよ、刷り込み。知ってますか、皆さん、インプリンティング。刷り込みなんです。それは26人の子どもがすぐ忘れてしまう子もおるかもしれんし、だけど何十年たっても覚えている子もいるかもわかりません。そういう問題なんです。一人覚えとってもいけんのんです、これは。それについての見解をお聞かせください。

議長（鈴木　悦子君）

教育長。

教育長（大川　泰栄君）〔登壇〕

先ほどはバスについてのお尋ねでございましたので、お答えいたしましたけれども、このことについてどうかということですが、先ほども企画部長からもお答えいたしましたように、あくまでも贈呈式の前に園児たちが日ごろから練習している歌を披露して、そしてベトナムからのお客様を歓迎したということでございます。小さい子どもたちが一生懸命歌を歌っている姿というのは、ベトナムの方々にも非常に喜ばれ、大きな喝采を浴びたと聞いております。

このことにつきましては、保育園で行う教育というのは、保育所保育指針というものに基づいて実施をしておりますが、その中に人間関係という領域がございます。外国人など、自分とは異なる文化を持った人に親しみを持つという狙いが明記されております。言葉や服装など、日本では余り見かけることのない方々に接するということで、ベトナムの国や方々への親しみを持つということになるかと思います。こうしたことは子どもたちの関心が世界の国々に広がり、そしてグローバル社会という中で生きていく力ということになっていくものと考えております。

また、保護者の方々につきましては御了解をいただいているというふうに聞いております。

何度も申し上げますが、除幕式ではございませんので、外でいらっしゃった方を歓迎したということでございます。誤解のないように申し添えておきます。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡本議員。

１０番（岡本　泰介君）

先ほどちょっと場所が云々という話が出ましたけど、それじゃあ何メーター離れとったんですか。そんな言いわけしたらいけんですよ、言いわけを。

私は先ほど言ったように古い人間なんです。それで、過去の歴史をいろいろと勉強するのが好きなもんですから、新聞もよく読むし、いろんなことをやるんですけど、子どもを政治に使うということは昔からたくさんあるんです。全体主義者が子どもを教育して、そして自分の都合のいいように教育していくというのは、もう物すごくたくさんあるんです。

最近の例ではポル・ポトです。ポル・ポトは少年兵を、小学生ですけど、少年兵を雇って、それに機関銃やピストルを持たせて、親でも何でも自分らの主義主張と合わん者は指揮官が撃てと言ったらパーンと撃つんです。それはキリング・フィールドというて、市長御存じですか、映画があるんですけど、アカデミー賞もとった非常に有名な映画ですけど、キリング・フィールドという映画にも克明に描かれています、出てお

ります。

それから、ルーマニアのチャウシェスク、市長御存じでしょう。チャウシェスク夫婦、これが大統領になったんですけど、ルーマニアのチャウシェスク大統領夫婦は子どもたちに衣類、食べ物、勉学の用品とか物すごう与えるんです、たくさん、たったたった、どっどどっどといって。そして、自分の権力維持に使っていた。そういう例があるんです。

ヒトラーだって少年兵を使ったんです。日本だってそうでしょう。戦前の教育は、先ほど岩江議員が子どもたちを戦争に連れていったのは教育だというふうに言われましたけど、そうなんです。日本も全体主義だった、戦前は。そういう古いと言われるかもわからんですけど、歴史を学んでいかないけんのんです。だから、私はホー・チ・ミンは、ベトナム友好は市長、何回も言ようるようにいけんとは全然言いませんよ、ベトナム友好は非常にええです。でも、ホー・チ・ミンの像は私はどうしても違和感がある。これはだめだというふうに思っております。だから、こういうふうに何回も何回もベトナムのホー・チ・ミンのことを言っているんです。

市民も意外とこのことについては敏感です。市長御存じかどうかわかりませんけど、よく私に言われます、市民の方。岡本さん、ホー・チ・ミンどうなったん、ホー・チ・ミンの像はできたんかなと、よく何人かの人に私も言われます。ですから、こういうことを軽く考えてしないでほしい。さっきみたいに岡本が小さいことを大きゅう大きゅう言うてというふうに思われるかもわかりませんけど、そんな問題じゃないんです、これは。大事なことなんです。子どもたちの心にインプリンティングしない、思想教育をインプリンティングしない、これは大事なんです。ぜひそこのところを理解していただきたいと思います。それに対して市長、御答弁ございますか。

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

御質問の中で思想教育という言葉を使われましたけれども、それが何を意味するかということをもう少し明確に言っていただかないと、これはお答えは多分できないと思います。先ほど教育長が答弁をいたしましたように、保育園、幼稚園における就学前教育の大枠については、それぞれの大きな方針がございますけども、その中では、ただ平和であるとか、倫理観であるとか、国際的な友好の気持ちを持つとかということが掲げられていて、このことをもって思想教育というのであれば、そうかもしれないけれども、それは恐らく議員が意図しとる思想教育とは違うでしょう。議員おっしゃったのは、ポル・ポトであり、チャウシェスクである、あるいは恐らくスターリンとかとなってくるんでしょうけど、あるいは戦前の日本だとかという話もありました。キリング・フィールドの話までされた。そのことは議員がおっしゃったことは、例えば教育委員会がやっていることや、あるいは企画を一生懸命考えて、子どもたちに友好の気持ちを与えようとしたこと、それを全面的に否定をして、さらにそれを思想教育だという、キリング・フィールドに結びつけるというのは、大いなる、これは問題を含んでいる。議員としてもそこまでおっしゃることは本当に妥当なのかと、またもや疑わざるを得ない脱線の御議論だという部分もありはしないかと感じたので、そのようにお答えをいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

総括です。

１０番（岡本　泰介君）

私が少し飛躍し過ぎているんじゃないかという切り返しでございますが、私はそうは思わないので、その

ことは申し上げておきます。思想教育が云々という話もされましたけど、そういうことに鈍感になってほしくないという気持ちをぜひ理解していただきたい。私は先ほどからベトナムとのことでよく言います。ベトナムと友好することは一つも構わないんです。でも、ホー・チ・ミンは私はいけない。ホー・チ・ミンの像に関してはどうしても違和感があって、あそこに置くということに対しては反対している立場で物を申し上げているわけでございます。なんかありましたら、また次のときに申し上げます。

それでは、総括は終わります。次に入ります。

議長（鈴木　悦子君）

ここでこれより10分間休憩いたします。

午後２時52分　休憩

午後３時02分　再開

議長（鈴木　悦子君）

休憩前に戻り会議を開きます。

岡本議員、２項目めから進めてください。

岡本議員。

１０番（岡本　泰介君）〔質問席〕

２項目めは、国際交流についてでございます。

国際交流のあり方と市民感覚という題にしております。国際交流はさまざまありまして、私も市のホームページなんかも見てみますと、５項目ほど出てたんですけど、そこの中の３つぐらいはベトナムで、あとの２つは県の事業に乗っかかったような事業が出ておりました。ここへ市民感覚ということを書いているんですけど、先ほどホー・チ・ミンのときにも言いましたけど、市民の方がいろいろと言われるんです。岡本さん、市長さんは何であんなにベトナムベトナム言われるんだろうかという声が出るもんですから、あえてこういう質問をしているわけです。ここへ答えが書いてありますから、とりあえずそのことについて国際交流のあり方についてどういうふうに思っておられるか、まず聞いてから２回目の質問をいたします。

議長（鈴木　悦子君）

企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）〔登壇〕

国際交流についての御質問でございます。

国際交流につきましては、カナダのバレンタイン村と昨年２月に協定20周年を機に再調印を行い、昨年12月には、児童・生徒の作品交換などの市民間の交流を行うことなどを文書を通じて取り交わしをしたところでございます。

また、オーストラリアのメイトランドエリアスクールとの交流につきましては、市内中学生を対象に海外交流を行っております。平成28年に21名の中学生が海外での生活体験を行い、国際化の理解を深め、国際化社会に対する人材の育成を図っているところでございます。

美作市で住所を有する外国人の国別では最多となるベトナムとの交流につきましては、平成27年４月、ベトナムの国立ダナン大学と人材交流などに関する協定を締結し、平成28年４月に発足した美作日越友好協会を中心に交流促進を行っているところでございます。また、28年12月には、2020年東京オリンピック・パラリンピックに参加する外国の選手らと市民との交流を促進する政府のホストタウン構想でベトナムとのホストタウンに登録をされたところでございます。今後、同国の女子サッカーチームの合宿誘致や市民レベルで

の文化交流などを目指してまいります。

また、湯郷温泉を中心に、インバウンドとしていわゆる訪問外国人の増加があり、昨年４月から12月までの市内外国人宿泊者数が7,918人日となり、昨年同期と比較して3,381人日増加しております。国別の内訳では、台湾が2,651人日、香港が1,718人日、韓国が1,518人日が上位３カ国で、全体の70％を超えております。

こうした人の交流による国際交流は、住民にも日常的に外国人との触れ合う機会を増加させており、多様化する社会への理解につながっているものと考えているところでございます。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡本議員。

１０番（岡本　泰介君）

いろいろと私も外国人が日本へ来る人数をちょっと調べたりしました。そうすると、湯郷温泉、美作市の人数はそこへさっき言われましたけど、日本全体では中国とか韓国、台湾、香港、それからアメリカ合衆国、それからオーストラリア、これが常にベスト５ですね。１位、２位は入れかわったりしますけど、ずっとこれがベスト５で大分長いこと続いているんじゃないかなと思います。

そして、ベトナムからは大体15位ぐらいですね。それでもだんだんふえてきていると思います。年間に日本へ来るお客さんの数ですが、ベトナムは大体15位ぐらい、それが低いか高いかは別にしまして、その程度来られていると。そして、先ほど湯郷の温泉には台湾、香港、韓国が多いというふうに池田部長は答えられました。そういったことを考えたときに、私はベトナム友好をするなというわけじゃないんですけど、もう少し門戸を広げて、前回ちょっと言うたら切り返しくいましたけど、全方位で行かれたほうがいいんじゃないかなと思います。

特に、最近は韓国とは竹島問題とか慰安婦の像の問題でぎくしゃくしたり、中国とは尖閣諸島とか南シナ海の領有権の問題とかでぎくしゃくしている。それでも観光客はもう圧倒的に多いんですね、韓国や中国は。そういったことを考えたときには、美作もベトナム一辺倒で行くのはいかがなものかなという思いがするので、今回この質問をさせていただきました。市長はこのことについてどのように思われますか。

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

友好親善という観点からは全ての国や地域との関係を重視をするという考え方についてほぼ同感だと申し上げておいた上で、一方で観光ということもありますけれども、市内の産業であるとか、あるいは市内におけるさまざまな活動とのマッチングといったこと、あるいは現在定住をされていらっしゃる外国人の動態なども別途考えなければなりません。そして、我々の限られた資源を国際交流の中で使うときに、それが市民の生活や産業により大きく効果があるという観点からいろいろチェックをすると、これは議員が議会におられなかったんで、そのときの答弁はお聞きになっていらっしゃらないかもしれんけれども、我々も商工会などで聞いてみると、やはり今後の課題として人手不足のある中で、ベトナムの方々の働き手としての優秀さということもこれあり、ベトナムとの関係を重視したいという思いは間違いなくあるわけであります。

さらにまた、中国のほうはかつては人材供給源として非常に頼りになったわけでありますけれども、次第に中国における所得の向上の中でなかなか我が国、特にこういった地域に対していい人材が供給されることも難しくなっていると、こういうような状況もこれあり、かつて中国一辺倒だったわけでありますけども、

それをどう拡大するかということが市の経済にとって大変重要であったというところは、その議員でいらっしゃらなかったころの話でございますので、改めて御説明を申し上げさせていただきたいというふうに思っております。

そしてまた、私どもとしてはやはり今後の課題としていろいろ考えるときに、観光面で言いますと１つは台湾、香港というものに対しては継続的にアプローチをしていくつもりであります。加えて実は当市の観光の状況を見ますと英語圏が余りふえてないというか、ちょっと若干減少ぎみであります。そこのところは原因がありまして、このところ英語圏に対するセールスというか、売り込みが必ずしも十分でなかったということ、観光については台湾を重視したんですが、重視すればやっぱり効果があってふえるんですけれども、英語圏に対しても今後対応していきたいと。ちなみにヨーロッパについては、一昨年から昨年にかけて少し重視をして、こういういいところですよというようなことをフランス語のパンフレットなんかもつくりながら動いてみたところ、これは量はしれてますけども、確実にふえてきているということであります。

したがいまして、次は英語圏をどうするかということ、それから東南アジアではタイであるとかマレーシアであるとかインドネシアといった東南アジアにおける大きな人口、そして割と高い所得を持っている国々に対するアプローチを強化をしていくということが必要だろうというふうに思っておりますので、つけ加えておきます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡本議員、３回目です。

１０番（岡本　泰介君）

先ほどの企画部長の答弁では、国別では美作市に在住する人が最多となっているということで、多分私もこの前聞いた80人ぐらいおられるんですかね、70人、80人でベトナムが多い。かつては先ほど市長が言われたようにほとんど中国人だったんですね、研修生が。それが今はベトナムに来てる。ほんなら、次はどこへ行くんでしょうか。次もまた出てくるんじゃないかな。ベトナムもだんだん所得は上がってくると思いますから。そうなってくると今度はカンボジアかラオスかフィリピン行くんか、次々こういうふうに動いてくる。それは歴史的にずっと動いてくるんじゃないかなと。そういった意味でも、今はベトナム一辺倒でいっても、いずれはまた変えていかなきゃあいけんということもあるわけですから、その辺のことも考えて次々と手を打つ必要もあるという思いもしております。そういったことを考えて、市長のおっしゃるベトナムの資源を有効に生かすためには限界があるからということを言われたんですけど、そのこともわからんではないですけど、余りベトナムベトナムと言われるのを、もう少し胸襟を開いてカンボジアもラオスもありますから、そういったところにも少しずつ目を開いていったほうが私はいいんじゃないかなと、美作市の将来、日本の将来にとっていいんじゃないかなという思いがしておりますので、そういったことを申し上げました。

この項はこれで終わります。

議長（鈴木　悦子君）

じゃあ続けて３項目めに入ってください。

１０番（岡本　泰介君）

３項目めはこぶしの里盗難事件のてんまつと改修中止について、この件は午前中、岩﨑議員が詳しくされましたので、私は余りつけ加えることもないような状況になっているわけでございますけれど、私はとにかく今どうしても理解できないです、何で中止になったんかなという。私や岩﨑議員もですけど、この案には物すごう批判的で、ずっと６月議会から批判的なことばっかり言って、予算案も私は賛成しなかったと思い

ます。

そういったことで、本当はこの事業はできなくて私は美作市にとってよかったなという思いはあるんですけれども、それは3,000万円を使わなかったときの話なんです。3,000万円を使ってやめるということに対してはどうしても納得がいかない。どうしてもっと早くやめれなかったのか。もうそのことがどうしても頭から離れないんです。ですから、私はこのこぶしの里盗難事件、行政が実施する事業のあり方ということを問うてるわけでございますが、この事業のあり方が間違ってたと。そして、そのことに対してどなたも責任をとることはないと。４年ないし５年先に愛の村の動向を見て、また再開するかしないか決めるというような、そんなことが事務事業のあり方として本当に許されているのかと。行政の仕事としてそういうことが許されているのか許されてないのか、私はもうどうしてもそれは納得できない。

私はこれに賛成された議員が全然このことには何の質問もされないことも非常に不思議に思います。反対する者ばっかり言ってる。私や岩﨑議員とか、ほかにもおります。誰も賛成した者が、何でやめたんならというて、私は賛成した人が言ってくれるの一人ぐらいおるんかなと思うたけど、誰も言われない。もうそのことに物すごう違和感もありますけど、それはいいです、めいめいの議員の考え方ですから。それはいいんですけれど、私はこの事務事業のあり方についてどうしても納得できないんで、こういうことを言いました。先ほど言ったように本当にこれが許されるんか許されないのか、その辺について見解をお聞かせください。

議長（鈴木　悦子君）

総務部長。

総務部長（岡本　和之君）〔登壇〕

岡本議員のこぶしの里の件についての御質問でございます。

御質問、以前にいただいとった内容の中に盗難に関してのことがございましたので、まず初めにそちらのほうも読み上げさせていただきます。

こぶしの里後山の管理状況でございますが、合併以前から東粟倉村の宿泊施設として長年運営をいたしておりましたが、平成21年１月に事業を中止し、閉館をいたしております。その後は平成26年５月に普通財産として経済部より総務部の管財課に所管がえを行いまして以降、管財課で管理を行ってまいりました。そうした中、平成27年９月にエアコンの室外機、そして屋根の銅板が盗難に遭う事件が発生いたしまして、このことにつきましては遅くなりましたが、平成28年10月11日の決算特別委員会総務部分科会と、そして10月25日には議員全員協議会で報告をさせていただいたとおりでございます。

また、今回計画を一時休止するということになりました最大の要因でございますけども、建設に関する十分な知識を有しない者がさまざまな設備について安易に再利用可能と判断したところにあるというふうに思っております。今後につきましては、今回のようなことが起きないよう、事業を計画そして実施する場合には十分な期間をかけて専門家の意見や判断を仰ぐなど、慎重な対応に心がけたいと思っております。

また、御質問の内容の中に岩﨑議員の御質問と同様なものがございましたので、その部分についてはこの場では差し控えさせていただきます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡本議員。

１０番（岡本　泰介君）

部長、先ほどの答弁の中にいみじくも言われたんですが、十分な時間をかけなかった、これが大きな問題だと私は思います。何で十分な時間をかけれなかったのか。ようテレビで言いますわね、銭形平次じゃない

ですけど、悪いことをする人が急ぎ働きとかなんとかというて失敗することがよくあるんですけど、急ぎ働きだったと思うんです。ばたばたして一番大事なところを見落としたというのが私は現実じゃないかなと。十分な時間をかけなかったということでうまくいかなかったと。

そしたら、それはできなかった理由なんですけど、それで済むんですかということなんです、3,000万円のお金を使って。4,000万円使ったら、ほぼできた仕事が何もできずに3,000万円使ったと、先ほど午前中、岩﨑議員が言われたんですけど。そういうことです。3,000万円使って何もできなかった。屋根が残ったといやあ残ったんですけど、それは何年先に役に立つんか立たんのんか、全くわからないわけでしょう。そういうことが本当に行政の仕事として何の責任もとらずに許されるのかという思いがするので、こういったことを聞いとるわけです。それに対する御回答をお願いします。

議長（鈴木　悦子君）

総務部長。

総務部長（岡本　和之君）〔登壇〕

岡本議員の２回目の御質問にお答えをさせていただきます。

まず、十分な期間ということでございますが、この事業につきましては平成29年３月21日を締め切りとした地方創生拠点整備交付金の事業で行っておりまして、申請が先ほど申しました３月21日ということでございまして、事業を思いついてから申請までの期間が非常に短かったということが１つございます。

また、岩﨑議員にもお答えをさせていただいたんですけども、事業を実施する場合のこういうことが起きた場合の責任というふうなことでございます。これまでにも設計のみをしたというような事業もございます。そういうふうな例を見習いまして、今後判断をさせていただきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

今総務部長からお答えした中で若干補足が必要なところがございますんで申し上げますが、この事業は実は国のほうの予算で言いますと平成28年度のたしか最終補正で計上された費目でありまして、予算総額全体を執行しないで全体を繰り越した上で募集が始まったものですから、なかなかこれは募集の手上げも難しいという、こういう状況になっているわけであります。

もう一個は、一回繰り越しているもんですから、国の段階において、次の繰り越しができないという、なかなかタイトなスケジュール管理が必要だった予算だということが、それ今話をされた、部長がされた中でちょっと抜けておりましたんで、この点を補足させていただきます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡本議員、３回目です。

１０番（岡本　泰介君）

繰り越しできなかったということは私も聞いております。それは事業をやめたということに余り関係ない、私はそう思います。そして、総務部長は責任については今後判断すると言われました。どういう判断が出てくるか見守りたいと思います。判断が出たら、議会にお知らせください。これをもってこの質問を終わります。

議長（鈴木　悦子君）

続けて４項目めに進んでください。

１０番（岡本　泰介君）

次は、光ファイバー事業の変更全体像ということで、システム全体像は確定したのかと。これは私は総務委員会におりますから、このことはよく何度も総務委員会でも申し上げたりいろいろしていたんですけど、これ一向にもう全体像が見えなかったんです。もう予算を委員会でしても、この前は債務負担行為で５億何千万円送りましたけど、もう全体像が全然見えない。去年の６月に市長が告知放送を突如もう一遍やるんだということになってから、次々物事が動いていったと思うんですけれど、もう全体像が全然見えない。例えば今回は告知放送が機械が決まったという説明を受けましたけど、サイレン放送についてもまだ説明は聞いておりませんし、去年は説明会が途中で流れるようなこともあったし、何か知らんもう行き当たりばったりのような気がしてかなわんですね。もう一つもかちっとしたものが出てこない。それがもう物すごく私たちは不安ですよね。市民の方もそのことを思っておられると思います。

ですから、これをここでしっかりとこういうふうに決まったんだと、こういう方針でいくんだということをきちっと言っていただきたい。市民の方も安心するためにこうするんだということをぜひお願いしたいと思います。

議長（鈴木　悦子君）

企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）〔登壇〕

光ファイバー事業の変更の全体像についての御質問でございます。

システム全体像につきましてですが、ＦＭ放送波を利用した音声告知放送につきましては、音声告知放送システムを選定するため一般公募型プロポーザル方式により提案を公募したところ、４事業者から参加表明があり、提案内容と価格の両面から審査を行った結果、広島市のシンクレイア株式会社広島営業所を契約予定者として基幹設備、戸別放送端末購入契約の締結に係る議案を本議会に提案をさせていただいているところでございます。

これにあわせて、サイレンを鳴らし気づきのための運用を行う屋外拡声器の整備につきましては、既存の施設を活用して整備を行い、勝田地域と英田地域には既存の設備がないため旧小学校単位に設置を行う予定としており、30年度当初予算案に工事費を計上をさせていただいております。

また、昨年12月25日からスマートフォン、タブレットを利用して美作市の行政情報や地域情報などを入手していただけるアプリケーションみまさかオンラインの配信を始めており、美作市一斉メール配信サービス、ケーブルテレビの美作市データ放送とともにさまざまな方法で情報を伝達をしてまいりたいというふうに考えております。

次に、新通信サービスについてですが、市内無料電話サービスの終了に伴い、携帯電話網を利用した低価格な格安携帯電話サービスの提供を予定をしております。このサービスでは、加入者間の通話が無料になることや月額定額で利用していただけるお手ごろな価格の設定を検討しております。

インターネット接続につきましては、市民の皆様の選択肢を拡大するため、地元事業者による安価でインターネットが利用できる美作市独自のインターネットサービスを検討しており、格安携帯電話サービスとあわせて平成31年２月からサービスが提供できるよう準備を進めているところでございます。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡本議員。

１０番（岡本　泰介君）

いろいろと御説明いただきましたが、市民の方がなぜこれに対して告知放送とか光ファイバーの事業に対して不信感を持っておられるかというたら、この前、市民の方々に告知端末機の取りかえの確認書を送られているんです。でも、末端の人はどんな機械にかえるかということを全然知らないですよ。私たちはこの前聞きました。総務委員会で実物も見ました。でも、市民の方でそれを見た人もいないし、知った人もいないです。それでも告知放送の確認書を取りかえますかというて送っているんです。それじゃあ、市民の方も納得できないです。どんなもんが来るんだろうか、もうわしらに任せときゃえんじゃとおっしゃるかもしれませんけれども、市民の方もちょっと不安に思うとられるんです。岡本さん、これ手紙出したらえんでしょうか、どねんしたらえんですかというてこの前も電話かかってきたんです。近所の人ですけどね、明見の。これどねんしたらえんですか、岡本さんというて。いや、それは告知放送をかえるんだったら、かえるというところに丸か、それはっきりしない〔聴取不能〕連絡してください。光ファイバーのテレビはどうしたらえんですかというて、テレビは今見えているんだったらいいですよ、新しいの申し込まれる必要もないですからという、そんな説明をいろいろしたんですけれど、先ほど申しましたように告知端末の機械も何もわからないのに確認書を送れと、これはいかがなもんかなと。順番としてですよ。政策実行の順番として私はおかしいなと。きょうはシンクレイア社ということに決まったということを先ほど言われましたけど、シンクレイア社に関しても初めて聞く名前です、私は。聞いたこともないです。インターネットを見てみますと、資本金は４億円ほどで、従業員は153人おる会社だということしか出ていない。役員の名前とかいろいろ出てます。そして、どんなもんをつくっているかと……。

議長（鈴木　悦子君）

岡本議員、もう少し大きな声で言っていただかないと聞こえないんです。

１０番（岡本　泰介君）

聞こえませんか。

議長（鈴木　悦子君）

はい。

１０番（岡本　泰介君）

そういったことで、シンクレイア社のネットで見る情報しかわからないんですけど、何かこの会社が本当にいい製品をつくって、住民に対して10年間保証してくれるのかなという思いも私にはあります。大きなメーカーがいいとか、小さいメーカーは悪いんだというつもりはないんですけれど、余りにも聞いたことがない会社なので、そういったことが頭をよぎりました。

その辺、今２点ですけど、告知端末機の取りかえ確認書を機械もわからないのに出すというのはどういうことかということと、シンクレイア社に対する信頼度はどのようなものか、この２点についてお答えいただけたらと思います。

議長（鈴木　悦子君）

企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）〔登壇〕

２回目の御質問でございます。

まず、確認書の送付でございますが、この確認書の送付につきましては、昨年末それぞれ市内各地域におきまして告知放送の変更に伴う住民説明会を開催をいたしました。ただしその住民説明会に御都合で出席できなかった方々に対するこの告知端末の変更ということの説明も兼ねまして、この変更に関する内容でございますとか、そういったものを改めて説明させていただくという趣旨で送らさせていただいたものでござい

ます。

その中でもう一点、今現在つけている端末につきまして今後の整備を促進するために、この端末を更新されるかどうかということの確認をとらさせていただいたということで通知をさせていただいたものでございます。

それから、２点目のシンクレイアの企業でございますが、これは選考委員会におきましてこの企業の実績、そういったものも十分加味をさせていただいた上で選定されたものでございます。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡本議員、３回目です。

１０番（岡本　泰介君）

企画部長はいろいろと言われますけど、ちょっと言いわけみたいになりますわね。去年の12月に説明会をしたと、それに出席されてない人が云々かんぬんというて言われますけど、そんな問題を私今言うたんじゃないでしょう。告知端末機の、それからプロポーザルをやっているんですよ。変更機種もわからない間にいろんなことをするのはいかがなもんかということを聞いているのに、全く違う答弁をされているんです。すりかえの答弁をしないでください。おかしいですよ、今の答弁は。

シンクレイア社に関しては、私はちょっと疑問は持っているんですけれど、執行部が決められて自信を持たれているということですので、それに対して私たちがとやかく言う権限はないんで、疑問はあると。余り聞いたことのないメーカーなのでどんなんかなという一抹の不安を持っているということを申し上げます。

先ほどの確認書のことに関しては部長の答弁は間違っていると思いますので、訂正をお願いしたい。

議長（鈴木　悦子君）

答弁ありますか、ありません。

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

部長の言ったことは言ったこととして間違ってはいないんですけれども、一方で議員がおっしゃるように市民の方々にとってみれば、必ずしもわかりやすい話じゃないことも確かであります。忙しい方が説明会に出れるかというと、それはなかなか難しい。忙しくない方であっても、たまたまそのときに葬式があったとか、そういうこともあって行けない理由も、これはあるわけであります。それから、説明会に行って聞いてもなかなかわからないということも、これも当然あるわけでありまして、その辺の事情をもう少し私どもとしても配慮をしながら丁寧にやっていく必要があるとは思います。

一方で、この場をかりて、間違ったら教えてくださいね。この機材っていうものは市の予算で調達をいたしますので、これは市の保有であります。それを交換をするという立場にあるわけでありまして、それぞれの方が機材を購入するという立場ではない。逆に言うと管理責任というか、もちろんバッテリー等につきましてはお願いをするわけでありますけれども、その機材が例えば破損をしたときに、原因がその機材にあれば我々が交換をし、そしてその原因が今度はまたメーカーであれば、メーカーに対して損害を請求をしていくと、こういう形になっていて、家庭において故意に壊されると、そのときにはその責任はそっちに行きますけども、通常の使用、善良なる管理者の注意を持って使用していただく中でおかしいことが起きたときには、こちらがその責任を何らかの形で背負っていく、こういう形のものであるということもこの場であわせて市民の方の御理解のためにも申し上げさせていただきたい。

ほかのところはいろいろあります。恐らくあとはインターネットのところだろうと思いますけれども、告

知放送については基本的にははいと答えていただければ、それで済む話であります。ただ、その後で工事の日程調整なんかがありますので、そのときにまたいろんな連絡が行きます。そのことを市民の方々にも御理解を賜っておきたい。

それから、インターネットについては、今度はこれは若干難しい問題がありますのは、ＮＴＴさんが提供しておられるサービスと、今度は独自でＮＴＴさんより少し安いサービスが提供できそうだということになってございますので、その辺の比較考慮というようなことをする必要があるんでございますけれども、これにつきましてはそれなりにインターネットを使っていらっしゃる方を念頭に置きながら、ある程度わかった話として理解ができる、比較できるというような資料もつくりながら提供していくということを総務委員会でも申し上げさせていただきました。プロバイダーがあって、それが県内どれぐらいの順位になっているかぐらいのことを想定しながら、こんな可能性がありますよということをたしか情報提供するようなことを申し上げさせていただいているということであります。

加えて、今度はスマホのユーザーの方々にお願いをしたいのは、みまさかｏｎｌｉｎｅといいまして、告知に関することがほぼ全て見れるし、今警察とも協議をしているんですけども、警察の安全情報なんかも場合によってはそれに乗っかってくることができるということで、かなり私たちの生活の安全やあるいはお悔やみ情報とかも含めて端末で見える。唯一その欠点があるとすると、情報が入るときにピンポーンて鳴るもんですから、余計な音が出るというのがお嫌いな方はこれはちょっとあれかもしれませんけども、割と便利なシステムができておりますので、これもぜひ御案内をしておきたいというふうに思っております。

せっかくのお尋ねでございます。この放送を聞いておられる方々、少しでもああなるほどわかったということで理解をしていただけるような場にしたいと思いますので、もし私の言い方がまずければ、企画のほうでさらに住民の方々向けにこうしたらどうですかという説明があれば、していただこうと思っております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）〔登壇〕

告知放送に関しまして取りかえに関する確認書、それぞれ今市民の方々に通知をさせていただいているところでございます。これは現在ついている告知端末を新しい告知端末に取りかえを行うための確認ということで記入をしていただくものでございまして、この記入していただいた後に、また改めまして実際３月以降になろうかと思いますが、工事の説明会、それから実際の取りかえ工事につきましては５月ごろからということの開始をさせていただくというふうなことになっております。

そういうことで、まずこの確認書につきましては、御記入の上、市の企画振興部のほうへ郵送をしていただきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いをいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡本議員、総括です。

１０番（岡本　泰介君）

市長のおっしゃられることもわかりましたし、企画部長のおっしゃることもわかりました。

結局情報不足なんですよ。今告知端末で朝晩放送はしているんですけど、そういったところにも今おっしゃったようなことを積極的に言われて、市民の理解度を高めていかにゃあいけんですよ。ばんと封筒を送ったらもうえんだというんじゃなしに、封筒を送りましたと、これはこういう意味ですといってどうして放送されんのんですか。滋慶学園のを募集しておりますということばあ、毎日並べてみんなうんざりしているん

です。もう少し市民本位の企画振興部でやってほしいと思います。私はこれを要請して、この項の質問は終わります。

議長（鈴木　悦子君）

はい、次、５項目めに入ってください。

１０番（岡本　泰介君）

次は、特別支援学校誘致です。構想の内容についてということですけど、これは私以外にも何人か今まで質問されました。いろいろとそこで聞いているんですけど、どうもわからないですね。市長部局というか執行部局が何を考えられているのか、ちょっととにかくわからない。バレンタインパークの話が出るわ、商業高校の跡地の問題は出るわで、どこに的を絞っているんや、どういったことを考えられているんか、もうさっぱりわからない。ですから、質問を何々してえんか、もうわけがわからんように自分でもなってくるんですけど、日本体育大学附属高等支援学校というふうに聞いているんですけど、それで市長はどこかで言われたんかどうか知りません。公設民営だというような話も耳に入ってきておりますが、そういったことはどこで言われてどう入ってきたんかわかりませんけど、そんなことが入ってきたり、何が何やらとにかく皆目見当がつかないんで、もう少し市民にわかりやすく説明されたほうがいんじゃないですか。そのことについてお伺いいたします。それがわからないともうちょっと質問もしにくいんですよね。わからない、何がなんやら。

議長（鈴木　悦子君）

企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）〔登壇〕

特別支援学校の構想の内容についての御質問でございます。

特別支援学校の構想につきましては、学校法人日本体育大学が北海道網走市に開校した日本体育大学附属高等支援学校の教育理念や取り組みが注目をされておりますことから、この教育理念や取り組みを参考にしながら学校法人日本体育大学と連携をして、教育カリキュラムや卒業後の就職など、特別支援教育を必要とする方々のニーズを踏まえた学校運営を検討しているところでございます。また、発達障がいの疑いのある児童・生徒も年々増加する傾向にあることから、地域における特別支援教育を推進するセンター的な機能を持たせたいと考えているところでございます。

設置場所につきましては、江見商業跡地や作東バレンタインパークなどを候補地と考えておりますが、落ちついた教育環境と教育プログラムに必要な施設、設備、拠点機能等を踏まえるとともに、市民の利便性や施設の有効利用などを踏まえて、市民の皆様の利用に不便のないよう検討してまいりたいと考えているところでございます。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡本議員。

１０番（岡本　泰介君）

今説明聞いてもよくわかりません。結局私は日本体育大学の附属でやるんだということがわかるだけで、あとは特別支援教育を必要とする方々のニーズを踏まえた学校運営と、これは一体何を意味するんかもわかりません。障がい者には、市長はきのうも言われましたかね、知的障がいもあれば身体障がいもあったり、障がいにはもう多種多様でたくさんあるわけです。どこに的を絞っていくのかもわかりませんし、それらを網羅したものになるのか、私は網羅したものができたらなという思いがあるんですけれど。私は前に県のほ

うへ出てたときも、今福渡に養護学校がある。新見には健康の森というのがあります。そして、こっちには何もないじゃないかと。ですから、何かつくってくれということはもう再三教育委員会に言ってたんですけど、倉敷のほうに大きな養護学校をつくって、こっちは後回しにされました。それはあっちのほうが生徒というか、ニーズが高かったからという思いはわかるんですけど、こっちには何もしてくれんのんです。そのことがあって、しつこく言ってたんですけど、全然してくれませんでした。

私は支援学校は欲しいと。正直言って滋慶より先にこれをしてほしかったです。支援学校を滋慶よりも先にして、困っておられる人を助けてあげれたらなと、弱者に対する思いやりをしなきゃあならんと。大体今誕生寺養護学校へ通う人は７時半にここへ出てきてます。それで、私の家の前を７時40分ごろ、バスがばあっと通ります。ああ、今行きよんじゃなあと。そしたら、ここへ７時半に出てくるというたら、大原の人は多分７時前に出られると。そしたら、その人の身支度や何なりかしよう思うたら、もう６時過ぎからてんてこ恐らくお母さんやお父さんはしょうられると思うんで、そういったことを御苦労を考えたときに、この地にも養護学校、支援学校が欲しいなという思いがあります。

私はそこで、日本体育大学の構想がどんなもんか私もよくわからないから言いにくいんですけど、私は岡山県は旭川荘という、もう日本の一番の先駆者の施設があるんです。もうたくさんの子どもさんを抱えられて、いろんな種類、種類というたら失礼ですけど、障がいを持った方を抱えられて、もうあそこの川崎祐宣さんという人が日本でも一番最初につくられたと言ってもいい学校、立派なもんがあると思います。そういうとことできたら提携して、日本体育大学よりもそちらのほうを優先していただいて、そういったほうに向かってほしいなという思いがあります。県とも連携してほしいなという思いがあります。

日本体育大学の高等支援学校がどんなものか、割とできてから新しいんで、まだノウハウ的にはしっかりしていないんじゃないかなという思いもありますから、そういったしっかりしたとことやってほしいという思いがありますので、こういったことを申し上げているわけでございます。それに対して市長のお考えはいかがでしょうか。

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

この問題については、今議会だけじゃなくていろんなところで申し上げておりまして、ノウハウをさまざまなところから頂戴をする、運営の仕方あるいは募集等についてのノウハウ、就職支援についてのノウハウ、その中核に日本体育大学を置く。それは私どもが見た限りにおいても、あるいは議会の方々の何名かも行かれたわけでございますけども、今全国で非常にニーズの高まっている特別支援教育について新しい考え方でいい方向性を示していると。既存のものとしてできているものについては、それはそれで任せてさしあげればいいわけでありまして、欠けているところはどこかというと、知的障がいプラス発達障がい、その混在型というところが一番今エアポケットになっていると、ここの辺はもう随時お話をしておりますので、殊に先週になりますけれども、日笠議員のお問いに対してお答えをいたしておりますので、やや繰り返しになりますけれども、お忘れのようでございますんで、そういう理念については申し上げておきます。

次に、私どもがこの支援学校をやる場合においては、当然のことながら岡山県との密接な連携が必要であります。というのは、認可の主体が岡山県になるわけでございますので、当然ですけれども岡山県との密接な連携が必要になってきます。

さらに、私どもとしては日体大を主軸にしながらも、例えば支援教育に当たる教職員の養成をしていらっしゃる教育学部を持っていらっしゃるところ、例えばこの近辺で言うと作陽大学でありますとか、あるいは

姫路にある兵庫教育大学などもその観点から必要に応じてお話をするようにしますし、また私どもとしましては文科省との連携というのは非常に重要だと思っております。特に文科省の初等中等教育局が長官をしております特総研といいまして、特別支援教育総合研究所という名前だったと思いますけども、そことももうつながりができておりまして、日本で一番一応最先端と言われている特総研との連携も視野に入れながら、いい立地をきちっと対応して、そして就職のできる形にする、あるいは場合によっては進学もできるような形にしたいというようなことをるる申し上げているとこであります。

また、議員がおっしゃったように、当地としては私が市長になる以前から支援学校の誘致問題というのはありまして、そして一時かなり県としてもその動きが盛り上がりかけていたんですけども、記録によると平成25年をもってその動きがとまってしまったということもあります。つまりもともと本件についてはニーズが高いという地域であります。ぜひ議員もいろいろお考えがおありのようでございますので、できる協力がもしございましたら、御協力をしていただければありがたいというお願いを申し上げて答弁といたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡本議員。

１０番（岡本　泰介君）

市長は知的障がいとか発達障がいがポイントだというふうに今おっしゃったんですけど、私もそれは否定するもんではないんですけれど、身体障がい者もたくさんおられて、両方持った人もおられるんです。知的障がいがあって、そして身体障がいもある、いろんな形があって本当に障がいを持たれている方の御苦労は大変だということは皆さんも御存じだと思います。そういったことにいかに行政が応えるかということが大切でございますので、ここで必要とする方々のニーズを踏まえたという文言があるんですけど、これをぜひもっともっと調査していただきたい。知的障がい、発達障がいをするということに対して異議あるわけではないですけど、もっともっとニーズを深めていただきたい。そうしないと、市民の思いと少し違うもんができるという思いがいたします。

私も障がい者の会合なんかにも時々出ますけれども、その人の話をいろいろ聞いてみると、一人一人違うんですね。それで、そこら辺のことがありますので、そこら辺のことをもう少し集約されたほうがいいんじゃないかなと、まだ時間はありますので、その意見の集約を今後どういうふうにされるか、しないのかするのか、その辺のことをお聞かせください。

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

いずれにしましても、私どもとしましては、いろんな形でいろんな方の御意見をお伺いをすることは当然必要だと思っております。そして、その中に市内の方々の声もありますし、また岡山県の意見とか、先ほどおっしゃった中で言うと旭川荘との役割分担をどうするかとか、私も個人的にもよく知っている場所がございますし、方々もおられますんで、いろんなルートを通じて意見を集約し、そして深めていくことに努めてまいりたいと思いますが、議員もぜひまた御協力ができるところがもしございましたら、よろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡本議員。

１０番（岡本　泰介君）

しっかり勉強していただいて、ミスマッチのないようにしてもらいたい。せっかく特別支援学校をつくるのであれば、ああ、ええもんができたなと言われるようにしていただきたいと思います。ああ、何かできたけど、市民のニーズと違うじゃないかということが起きると困りますので、私は日本体育大学に限定する必要はないというふうに思っております。まだまだほかに選択肢があるんじゃないかなと、たくさんあるんじゃないかなという思いはしております。そういった研究も今後私はしていきますが、市長のほうもいろいろと勉強していただいて市民にとって何がいいのか、よく考えてくださったらいいのではないかと思っております。

総括ですのでこれで質問終わって、次の項目に入ります。

議長（鈴木　悦子君）

次、６項目めに入ってください。

１０番（岡本　泰介君）

次は、農業振興と観光振興政策についてでございます。農業振興と観光振興政策についての取り組みを問うということで、第１回目のお答えをお願いしたいと思います。

議長（鈴木　悦子君）

経済部長。

経済部長（遠藤　宏一君）〔登壇〕

まず、農業振興についてでございますが、農業が産業として持続的に成長していけるような取り組みを考えていくことが必要だというふうに思っております。担い手を中心に農業者が他の産業と比べて遜色のない所得を確保していくために農地中間管理事業を活用して農地の集積、集約化を図り、経営規模の拡大と効率化を進めているところでございます。

農産物については、米、黒大豆、アスパラガス、ゴボウなどの既存作物の維持拡大を図るとともに、収益性が高いもち麦、クレソンなどについても栽培技術の向上を図り、生産の拡大を進めているところでございます。そして、栄養分析調査を行いまして栽培適地の検討や生産技術の向上、消費者へのＰＲに生かしていきたいというふうに思っております。

また、経営規模の大小にかかわらず、意欲を持って農業を続けていくことができるよう、引き続き有害鳥獣対策に取り組むとともに、多面的機能支払制度、中山間地域等直接支払制度によりまして地域の共同活動や営農活動を支援してまいりたいというふうに思います。

次に、観光振興政策についてでございますが、年間の目標としまして、インバウンド観光客の宿泊者数を１万5,000人、入湯税を5,000万円と設定しまして、年間を通じ入湯効果などによる安定した長期滞在客数の確保を目指すことにしております。

具体的には、海外の旅行会社などを対象としたスタディーツアーや商談会の開催によるインバウンドの促進、地域の文化財を活用した日本遺産認定を目指した取り組みや、剣道、モータースポーツなどのスポーツ分野との連携、機動的な観光情報の発信や国民保養温泉地に指定されました湯郷温泉の効能などの情報発信、バスツアー補助金、それから連泊補助金の継続、農林業体験とサイクリングを連携させた観光誘客事業などに取り組むことを計画しております。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡本議員。

１０番（岡本　泰介君）

いろいろばあっと風呂敷を広げられて、ええことを言われたんですけど、実は私、市民の方の声ですよ、

今の市長さんは農業や観光には目は向けてくれとらんなという声が聞こえます。そんなことはねえというて市長は反論されるかもわかりませんけれども。それで、私は去年の決算書を農業振興費、観光振興費のとこをずっと見てみました。やっぱし市民の声は正しいんじゃないかなという思いがしております。それはいろんな国や県の補助金絡みのものは出てます。いわゆる常に出ているものです。毎年毎年ルーチンで出ているものは確かにあるんですけど、市独自が、例えばもち麦はこういう政策でこうするんだというようなお金は全然出てない。観光に関してもです。インバウンドどうのこうのと言われますけど、それじゃあそのお金がどういうふうにするんだと。連泊の補助金なんか出てますけど、大した金額じゃないし、ちゅんというたら終わりのような金額です。観光にはこうするんだと、湯郷温泉を売り出すにはこうする、よその観光地とタイアップするときはどうするんだと、市独自のプロパーのお金はほとんどない。私はこれではさみしいなという思いがしております。ことしも観光誘客事業に取り組むことを計画していますということですが、今までの例を見ると余りない。それではさみしいなと。市長さんは学校学校言われるけど、私らのほうにも目を向けてもらいたいというのが市民の素朴な要望です。その点について市長はどう答えられますか。

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

いかにも岡本議員らしい御発言だと思います。いろいろお考えになっていただきたいと思いますのは、例えば観光というときに、スポーツ振興というのが非常に大きく当市の場合は絡んできているわけです。ただ合宿を誘致をした。どこへ泊まるんだというと、別にこれ兵庫県に泊まっているわけじゃなくて、私どもの宿泊施設、基本的には最も多いのは湯郷温泉に泊まっていると。そして、そういう面で言うと当市のスポーツ振興事業の中で誘致型のものについていうと、大いなる観光施策として活用されていて、そのことは湯郷地域の方々もよくこれ御案内のとおりであります。

あるいは、私たちが健康施策というようなことでもち麦のことをやっております。これは全国の中でも先駆けた問題ですし、栄養評価についても全国で私どもしかやってないと、こういうことで決してほかの地域と比べて引けをとっているとは思いませんし、独自の農業政策についていうと、少なくともこの３年間、拡充はされてきた。

したがって、その見方はそれはいろいろあります。世の中の見方というのはいろいろありますけれども、いかにも岡本議員らしい御発言だなと思って聞いておる次第であります。

あと詳細に具体の数字を多分経済部のほうで持っていると思いますので、それをお答えさせていただいた上で、また御議論を賜ればと思っておりますので、よろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

経済部長。

経済部長（遠藤　宏一君）〔登壇〕

農業振興費、それから観光費につきましての単独事業ということでございますけど、当然単独事業を取り組んでいるところでございますけど、現実的に29年度の予算で申しますと、団体助成が単独であったり、それから彩菜みまさか箕面店の借地料、これは1,700万円程度支払いしてますけど、そういったものが単独であったり、それから林業費になりますけど、有害鳥獣の捕獲奨励上乗せ分なんか5,000万円以上予算をしている状況でございます。

そして、今予算的には単独事業ではなくて、美作市まち・ひと・しごと創生総合戦略によりまして、地方創生推進交付金、これは２分の１補助があるものでございますけど、みまさか創生事業として栄養成分の分

析であったり、糖度計の購入、それから農業機械などの導入補助、これもうかる農林業として2,490万円の予算を組んでおりますけど、そういった取り組み、それからもち麦につきましては、販路開拓会議というところで推進を図っておりますけど、こちらについては農業振興課内で事務局を持ってその推進に当たっております。

それから、観光予算でございますが、こちらのほうでは美作市観光振興協議会助成事業としまして608万円の予算を組んでおりますが、連泊補助金であったり、バスツアーの補助金の計上をしております。そのほか観光パンフレットの増刷として339万5,000円など計上をしておるところであります。

そして、観光費につきましてもみまさか創生事業ということで、観光振興課分が1,172万円ございますが、モニターツアーの業務委託など、観光振興に充てているところでございます。

それから、もう一つほかの比較でございますが、これは平成27年度の決算額に基づく美作市と類似団体の住民１人当たりの支出額の比較でございます。農林水産業費で申しますと、美作市が４万9,298円、類似団体が３万2,320円ということで、類似団体に比べて1.53倍の決算というふうになっております。そして、建設部関係の農地費、それから林業費などを除いた農業費のみの比較で申し上げますと、美作市が２万1,393円、類似団体が１万3,110円ということで1.63倍というふうになっております。商工費につきましては、同様に住民１人当たりの支出ですが、美作市が３万8,419円、類似団体が１万8,407円、2.09倍といった決算になっております。

以上です。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡本議員、３回目です。

１０番（岡本　泰介君）

ああ、もう３回目ですか。

今部長ないし市長もいろいろと言われますが、おっしゃることもわかるんですけど、市民は実感としてそれをつかめてないんです。皆さんの言われることを実感としてつかめないから、私が言うような言葉が出てくる。岡本議員らしい質問ですと言われますけど、私が言っているんじゃないですよ。私にある人たちがいろんな人が私に言われるんです。岡本さん、もうちょっと農業をええようにしてえや、そういう言い方しかしないですけど、ほんなら何したらえんですかというて私はいつも聞くんですけど、言う人もおれば、言わない人もいるんですけれども、市民の実感としては何かしら農業と観光には市部局の目が行ってないんじゃないかなという思いを持たれているんです。それはまずいですよ、市長。部長、まずいですよ、それは。だから、言っているんです。それを克服するためにどうしますか、そしたら。今言ったことを、米、大豆、アスパラガス、ゴボウなど農作物の維持拡大を図るって言うてみたところでわからんわけですから、もち麦をやりますというてももち麦のためにはこれだけの予算をつけてこうしとるんです、それははっきり言われにゃあいけんです。

例えばいつも言われる成分分析表はこういうふうに生かしているんです、それによってこれだけ売り上げが伸びたんだということを市民に説明してください、そうすりゃあ皆わかるんですから。どうも私だけがようわからないですよ、成分分析表をどこかに張ってあるんか知らんのだけど。彩菜茶屋へ行ってもそんなに張ってあるようには見えないんですけど。小さいパンフレットでもつくって商品に挟んでいくとか、そしてリピーターをふやすとか、何か工夫していかれんと、成分を分析しただけで皆さん、消費者がわかるわけじゃないんですから。そういったことをきめの細かいことをされて農業に応援しているんだということをやっていただかないと、いつまでたっても今私が言うような声が出てくる。農業と観光には今の市は全然目が向

いて、全然というんですよ、全然向いてない、学校ばっかり市長さんは本気になる、そういう声が出るんです。現実なんです、それが。それをぜひ市長払拭してください。どうですか。

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

おっしゃるとおり、その現実を払拭することが当市が今後発展する上で大変に重要なポイントだと思いますので、よろしくお願いします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡本議員、総括です。

１０番（岡本　泰介君）

まだ時間が少しありますが、総括ということで。

市長は簡単に言われますけれど、それが本当に市執行部の皆さんに与えられた仕事であり、私たちもそれは皆さんにはできるだけの協力はするつもりですけれども、どうも言いようがないんですね、私たちも。いや、市長は、市はこういうことに取り組んでこうですからこうじゃというて、もう大見え切って言いたいんですけど、言うことがないんです。ですから、言えるようにしてください。観光には市がこういうふうに取り組んでこうなっとんだと、インバウンドについてはどうするんだと、スタディーツアーじゃというて言いますけど、スタディーツアーというてようわからんですよ。本当にやるんかやらんのんかわからないし、何か知らん、今の流れに任せているような気がしてなりません。それでは市の観光は衰退していくと思わざるを得ません。湯郷の人なんかもう焦っているんですよ、客が減っているから。そこのところもよくわかっていただけにゃあいけんのんです。

農家の方も所得、岩江議員は所得をふやさにゃいけんというのを言われてましたけど、農業が成り立つにはどうしたらいいかということも大事でしょう。その辺のことを生産者の方と膝を突き合わせて、どんな要望があるんかという、例えばもち麦つくるんだったら、もうただ単にもち麦を植えてもできんわけでしょう。圃場を乾燥するように向けていかにゃあいけんわけですから。そういったことにはどうして力をかしていったらえんかと、生産したくてももうじるじるのとこじゃできんわけですから、そういうことを願うとられる人もおるんです。そういう声を聞いて、そういうことに対していく、きめ細かい対応をしていただきたい。そうしないと農業に観光に目を向けているという声は出てこないと思いますので、そこら辺のことはよろしくお願いいたします。

これで私の一般質問を終わります。

議長（鈴木　悦子君）

以上をもちまして通告順番13番、議席番号10番岡本泰介議員の一般質問を終了します。

ここで10分間休憩します。

午後４時12分　休憩

午後４時22分　再開

議長（鈴木　悦子君）

休憩前に戻り会議を開きます。

内海議員が体調管理のために退席をしておりますが、すぐ帰ってこられると思います。

お諮りいたします。

本日の会議時間は議事の都合により延長いたしたいと思います。御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

異議なしと認めます。よって、本日の会議時間は延長することは可決されました。

それでは引き続き一般質問を始めます。

通告順番14番、議席番号６番倉地重夫議員の発言を許可いたします前に、17番内海議員が席に着かれました。

倉地議員、発言を許可いたします。

はい、どうぞ。

６番（倉地　重夫君）〔質問席〕

６番倉地、ただいまより30年最初の３月議会一般質問を行わせていただきます。

今回、私は１項目めといたしまして核兵器禁止条約について市長のお考えをお伺いいたします。２番目として学校給食において地場産農産物の利用についてということでお尋ねします。それから、３番、４番、５番、これは関連しているかと思うんですが、先ほどきょうも岩江議員や岡本議員が重ねて質問されてきた項目と重複するような内容も含んでますんで、若干変更の内容が原文とは変わるかもわかりません。そのことをまずお断りしておきます。

それではまず１番目に、昨年７月、国連では核兵器禁止条約が採択されましたが、このことについて市長のお考えをお伺いいたしますということで発言させていただきます。

市長におかれましては、昨年６月、被爆者の訴えによる核兵器廃絶を願い、核兵器を禁止し廃絶する条約を結ぶことを全ての国に求めることに賛同を表明され、署名をいただいております。また、当議会においても６月には日本政府に対し、核兵器禁止条約の交渉に参加し、核兵器禁止のための真剣な努力を求めるという意見書を採択していただきました。また、12月議会におきましては、同じく日本政府に核兵器禁止条約の調印を求める意見書の提出を採択していただきました。

この条約採択に至る過程には、核兵器禁止、廃絶を60年以上にわたって訴え続けてきた日本被団協や原水爆禁止日本協議会、日本原水協の運動が大きく貢献し、その努力が実って昨年７月７日、核兵器を違法とする核兵器禁止条約が国連加盟国193カ国のうち124カ国が参加をし、122カ国の圧倒的多数が賛成し条約が採択されました。これらの運動をともに進めてきた核兵器廃絶国際キャンペーン、ＩＣＡＮのノーベル平和賞の受賞は記憶に新しいところです。12月10日に、ノルウェーのオスロで行われたその授賞式で、長崎で被爆をしてカナダに在住しておられる被爆者サーロー節子さんは、人類みずからの存在のために核兵器廃絶に向けてさらに力を合わせようと呼びかけています。

さて、このような核兵器禁止、廃絶という大切な会議に、世界で唯一の被爆国である日本政府は背を向けて参加をしませんでした。日本はさきの大戦で唯一の原爆による被害を受けた国民として多くの悲惨な状況を目の当たりにしてきたところです。70年以上たった今も被爆の後遺症で苦しんでおられる方がおられます。国際的な立場から唯一の被爆国である日本に求められることは、人類にとって絶対悪である核兵器の地球上からの廃絶を求める。そして、核保有国に対して被爆国民として核保有国と核を持たない平和を希求する多くの国民との橋渡しをすることが求められています。

政府は北朝鮮などの核ミサイルの抑止のためアメリカの核の傘に守られているとして核保有国の立場を認める態度をとっています。今回、ハワイでミサイル着弾の警報が流れ、多くの市民がパニックに陥ったとの報道がありましたが、操作ミスで警報を流すスイッチに触れたとのことでしたが、これが核ミサイルを発射

するボタンであったならどのようになったであろうと思われた方もたくさんおられます。核攻撃ミサイルの発射ボタンは常に最高権力者の手元にあるとされています。まさに人類絶滅の危機と隣り合わせということではないでしょうか。

北朝鮮がミサイルを発射してから日本へ着弾するまでの時間はわずか七、八分と言われています。どんな迎撃装置を備えても着弾前に打ち落とすことはできないと専門家は言っておられます。昨年、北朝鮮がミサイルを発射したとのＪ－ＡＬＥＲＴが流れることがありましたが、Ｊ－ＡＬＥＲＴが流れた時点で日本海や太平洋に着弾していたとの状況でした。ことしになってＩＣＡＮのベアトリス・フィン事務局長が長崎、広島の被爆地を訪れ、核兵器禁止条約をどう生かすかと題した市民セミナーなどを行っておられます。安倍総理にも会って話がしたいと申し出られていましたが、総理のほうの都合がつかないということで会えなかったとのことです。このような状況で萩原市長は政府の態度をどのように思われますか。また、市長として核兵器禁止条約についてどのようにお考えかをお尋ねいたします。

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

必ずしも市議会に適した議論ではないんですけれども、御質問ですからなるべく丁寧にお答えしようと思いますが。

おっしゃるとおり私どもの国日本は唯一の被爆国でありますし、実は私のめいっ子たちは被爆者の孫であります。そういう意味で親族に被爆者がおりますので、その核廃絶あるいは平和というものに希求する気持ちというのはある意味ではその原水協の方々、被団協の方々の思いに通ずるところが私自身ございます。したがいまして、何らかの形で人類がこの核というものときちっと縁が切れれば、これにこしたことはないと思います。そして、もしこの条約がそこへ向けての具体的な有効なステップであれば、これはもうもろ手を挙げて賛成をしなきゃいけないと、こう思うわけであります。

一方で、同じような気持ちを持っているはずの岸田、今は幹事長ですか、政務調査会長ですか、政調会長か、自民党の。かつてこの条約の議論が燃え盛っていたときには外務大臣としてこの問題を仕切っていらして、そして彼の内心は十分に吐露されなかったんだけれども、日本がこの場に行かないという決定をし、それを表明するときに非常につらそうな表情でその決定を国民の方々に伝えておられたことを思い出すわけであります。そしてその後、核兵器国と非核兵器国の対立というのは今あるわけだし、現に今議員もおっしゃったように日本としては近隣諸国、特に今の状況で言うと北朝鮮の核配置に対しては非常な脅威と思っているわけでありますが、こういった状況の中で一体どうしたらいいのかということを相当外務省ないし岸田外務大臣当時もお考えになったんだと思います。結果として核兵器国と非核兵器国の対立を一層深めるということになれば、逆効果になりかねない、日本の安全にとって、あるいは核の廃絶にとって本当にいいのかどうかに迷いがあるんだと、こういう表現だったように、今手元の文章にあるんですけれども、そういう思いも私も理解できなくはないわけであります。

したがいまして、複雑な心境でございますけれども、被爆をした日本人あるいはその親族にそういう被爆者がかつていたということから発想すると、当然ながらこれがもし目の前にあれば賛成したくなる気持ちがいっぱいある一方で、今自分自身は政治を、地方行政でございますけども、分担するときにその責任はやはり市民の安全を最終的に守るにはどれが一番いいんだということを真面目に考えなきゃいけないというところがあって、そういう立場で言うと、岸田外相の苦渋がまた理解できるというような気がいたします。

議員も多分同じような感じだと思うんです。最終的に日本という国が平和であってほしい、核の脅威にさ

らされないでほしいという思いについて、これは党派を超えた共通の日本人としての思いがあるわけでありますけれども、その先具体にそれをどう実行するかという段になってくると、さまざまな戦略的な思考というものも使わなければならないという難しい状況になるというのが私の今の考えでございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

倉地議員。

６番（倉地　重夫君）

この件に関しましては市長のお考えをお聞きするという形での発言なんで、これに対して討論をするつもりはありません。どうもありがとうございました。

議長（鈴木　悦子君）

じゃあ、２項目めに進んでください。

６番（倉地　重夫君）

２項目め、学校給食において地場産農産物の利用についてということで、美作市健康増進・食育推進計画策定委員会設置要綱で美作市健康増進計画策定委員会が設置されていますが、いきいきにこにこ夢プランは現在どのように取り組みがなされているかお尋ねします。

このいきいきにこにこ夢プランについて若干説明しますが、美作市の基幹産業である農産物の生産拡大に対する取り組みの一環として、学校給食において食材を地場生産の使用拡大で50％を超える実現する取り組みをということで、美作市のいきいきにこにこ夢プランは健康増進・食育推進の計画です。平成28年３月31日発表の岡山県市町村食育推進計画実施状況調査によると、美作市は平成23年３月に計画書を策定し、この計画の予定では平成27年度に計画が改定されることになっていますが、まだ公表されていないようです。いきいきにこにこ夢プラン、この中で食育の取り組みの一環として学校給食において食材を地場産材の使用で50％を超える実現をする取り組みについてお尋ねいたします。

生産者を学校に招いたり、地域のお年寄りと一緒に調理したりするなど多彩な活動が市内の小学校で取り組まれてきました。学校給食での地場産農産物の使用においては、子どもたちと生産者の距離を近づけること、地元でとれる新鮮で安全な食材に関心を持つことで食にかかわる人に感謝し、ふるさとを誇りに思う心を育む上で有効な取り組みだと思います。

まず、地域で生産されたものをその地域で消費することを基本とする地産地消の推進と、健全な食生活を実践することができる人間を育てることを目的とする食育の推進にどう取り組むのか。

平成27年３月31日に新たな食料・農業・農村基本計画が閣議決定された。食料・農業・農村基本計画においては、食育の推進、御飯を中心に多彩な副食等を組み合わせ、栄養バランスにすぐれた日本型食生活の実践を推進するために消費者各層の特性に適した方策を検討し実施するとともに食品産業における情報提供等の取り組みを促進する。また、幅広い世代に対する農林漁業体験の機会の提供により消費拡大の前提となる食や農林水産業への国民への理解を増進させる。地産地消の推進が重要政策課題の一つとして位置づけられているとともに、平成17年６月に制定された食育基本法においては、食育推進の方策の一つとして学校給食における地産地消の促進が挙げられます。これらを推進する上で解決すべき課題はどういうものがあり、どのように解決を図っていくのかお尋ねします。

学校給食に美作市産での地元食材の使用の割合50％を安定して確保して目指す取り組みを提言します。地場農産物を供給する生産者サイドと地場農産物を受け入れる学校給食関係者との連携の実態はどのような状況でしょうか。

学校給食における地場産、岡山県産の使用割合が発表されておりますが、これは平成25年、美作市が

50.9%、県が51.8%、平成26年が美作市が43.5%、県が55.5%、平成27年、美作市が49.2%、県が57.3%、平成28年が美作市が50.9%に対して県が53.8%となっております。学校給食における地場産物、岡山県産の使用割合の紹介をしましたが、現状では岡山県の平均では50%超えが定着しています。しかし、美作市の学校給食での使用食材に占める地場産、県産の割合は５割前後で県の平均からその水準に達していないのが現状です。美作市産の食材を給食に活用していく上で不可欠なのは美作市地場生産者の掘り起こしと流通の確立は農政の仕事であるという位置づけであると考えます。どのように認識されていますか、お尋ねいたします。

例えば農政行政に経験のある学校給食センター所長がコーディネーターとなり対応していくこと、あるいは農業普及指導センターから支援をするというように、農政を含めた自治体の役割が重要になると考えられます。その前提として美作市として学校給食の食材として地場産農産物の使用の方針を明確にする必要があります。出荷量の割り当て、値段の決め方、代金決済等について産地直売所の流通コーディネーターを活用、地域の関係者で役割を分担することを構築しなければならないと考えます。どのように対応されていますか、質問いたします。

調理場と生産者とコーディネーターが不在であること、経費の問題と調理員不足などにより調理場が流通機能を担うことが難しいために新たに構築することが困難です。野菜自家消費用栽培ないしその延長として産地直売所で販売している生産者が学校給食に出荷を始めた事例があると聞きます。この場合、栽培技術が定着しておらず、共通の規格基準がなく、それを遵守するための仕組みがないことが規格に関する問題が生じる要因となっていると言われていますが、実態はどうなのか。

生産流通システムの構築と規格の問題もあります。自家消費用栽培やその延長としての産地直売所で販売していた生産者から野菜を直接調達するシステムの場合、教育面からの効用として調理場と子どもたちと生産者の距離は近くなり、地元の愛着心が育てられることが指摘できます。地場産野菜調達に係る流通面での調達の負担を軽減することへの取り組みが必要となります。職員が出荷の等級づけを行い、それを生産者にフィードバックすることが有効ではないでしょうか。

こうした現状の中、給食調理場における地場産農産物使用の移行はどのようになっているのか。民間委託前には使用量の拡張の希望が出されていましたし、拡大の余地はあると栄養職員からの声を聞いていましたが、現在はどのようになっているのでしょうか。

地場農産物使用拡大にはさまざまな問題があることは認識しています。地場農産物調達のための生産流通システムの構築ができていない。食材規格にばらつきがあり、学校給食に規格外品や腐敗品の混入といった規格に関する問題があります。本格的に地場産農産物の使用を開始する際に、業者や卸売市場以外から調達する場合には、調理場からのニーズに対応できる生産体制や物、代金、情報に関する流通機能を備えた流通システムを新たに構築する必要があります。農業が基幹産業である美作市の学校給食における食育での具体的な取り組みの一環として美作市産の食材50%超えの使用の確立を実現することを求め、質問といたします。

議長（鈴木　悦子君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）〔登壇〕

美作市健康増進・食育推進計画策定委員会設置要綱で美作市健康増進計画策定委員会が設置されていますが、いきいきにこにこ夢プランは現在どのような取り組みがなされているかというお尋ねでございます。

いきいきにこにこ夢プランは、健康増進法及び食育基本法により、策定が市町村の努力義務となった健康

増進計画及び食育推進計画を統合して平成22年３月に策定したものです。この計画は22年度から31年度までの10年計画であります。県の調査で27年度改定となっているとのことですが、この計画では26年度を中間評価年度としており、改定は最終年度の31年度末を予定しているものでございます。

この計画において、食育推進に向け、３つの重点目標を挙げております。

第１点は、食を通じて感謝できる心を育てること、第２点は、「早寝早起き朝ごはん」を実行できること、第３点は、安全な食品を選び健康的な食生活を送ることの３項目であります。これらの目標を念頭に保健福祉部では、子どもさんの健診での食事指導、４歳児のクッキング教室、保育園、幼稚園、小・中・高校での食育指導等、ライフサイクルに合わせて各種事業を行っているところでございます。

議員御質問の学校給食における地場生産財使用割合については、目標３点目の安全な食品を選び健康的な食生活を送るという目標に対する評価項目の一つとして設定したものであります。先ほど御紹介いただいた割合は年間平均値であろうと推察しますが、本計画で策定時に設定した評価数値は21年11月調査数値51.4％に対し、最終年度の31年度の目標値を60％と設定しております。中間評価の26年11月調査数値では57.3％であり、県は54.8となっております、目標値に向け進展していると評価したところであります。

以上です。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

倉地議員。

６番（倉地　重夫君）

私がお尋ねしたいきいきにこにこ夢プランという、このプランについては、岡山県産の地産地消の中のその県産の食材をどれだけ利用しているかというデータに基づく先ほどの江見部長からの答弁にもありましたが、そのデータであります。私はこの際、ここで求めたいと思うのは、いわゆる美作市は農業が基幹産業ですから、やっぱり学校の給食の食材、これに市として美作市で生産された食材を積極的に利用していく方法を検討してほしいという、そういう立場からの質問であります。

調理現場におられる管理栄養士さんですか、こういった方がどういう食材を選ばれるのか、どういう基準でそういったものを現場の人が求められるのか、そういった人の中にしっかりと地場農産物、地場生産品を取り組んでいくという姿勢、それをぜひとも取り組んでいただきたいと思います。１回目の質問の中でも申しましたが、やっぱり地場産農産物にはいろいろ基準を設けたり、その規格に関する問題がなかなか難しいという面があるかもわかりませんが、いわゆる学校給食の食材としては例えば多少ゆがんだキュウリであるとか、多少いびつな野菜であっても、やっぱり調理員さんの愛情でもって安全なものであれば使っていくというふうな、市場に出し切れないようなものでもそういう利用の方法を取り組んでしっかり地場産の農産物を学校給食に取り組んでいるという地域の報道もあります。そういったことで何とか地場産の農産物を学校給食などに使っていただきたいという思いで質問しております。

今現在、美作市の学校給食において食材として利用されている美作市産の作物はどのようなものがありますか。データでは、私が先ほど言った県産食材の利用割合について年度ごとに触れられていますが、地元食材、美作市産についてはどのような材料がどのような割合で利用されているのかをお尋ねいたします。

自分の孫や子が食べる野菜であれば、生産者の喜びも違ってきます。このような生産利用の取り組みにはしっかりとした意識づけ、また生産者と調理場の積極的な取り組みが必要と思われますが、その取り組みはどのように行われていますか。実務としてそれらを担当している部署がありますでしょうか。

ただ市場に出回っている県内産、市内産の食材を選んで利用するだけでなく、生産者の皆さんと学校給食の食材、生産者への協力、また開発の取り組みが必要と考えますが、どのように取り組まれますか。

野菜を自家消費目的で栽培し、その延長として産地直売所で販売している生産者、このような生産者に対して共通の規格や流通生産システムの構築をしていくべきであると思います。

１回目の質問項目でしたが、給食調理現場における地場農産物使用の意向はどのようになっているのか。民間委託前には、先ほど言いましたように使用量の拡大の余地はあるとの栄養委員からの声を聞いていましたが、現在はどのようになっているのでしょうか。

学校給食における食材に係る予算は１億2,000万円ということでありました。それ全てが農産物だけじゃありませんが、農業が基幹産業である美作市の学校給食における食育での具体的な取り組みの一環として、美作市産の食材50%超えの確立を実現することを求めます。

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

教育委員会から具体的な数字その他についてお答えをさせていただく前に少し総論のところで補足をさせていただきますが、この今テーマになっておりますすいきいきにこにこ夢プラン、名前もおもしろいんですけども、これは割合難しい計画でありまして、先ほどの答弁の中にありましたように、健康増進法と食育基本法なんですね、母法が。健康増進法の観点というのは、あくまで学校給食で言えば子ども主体です。子どもが安全に、そしてしっかりとした必要な栄養分あるいは必要なカロリーをとって食を通じて健康になることということを目指しているわけです。一方で、食育基本法のほうは、そういうところもあるんですが、お尋ねのように食にまつわるさまざまな伝統であるとか、文化であるとか、生産者との関係であるとか、感謝の気持ちであるとか、そういったことを含めて食育と言っています。一見矛盾がないようでございますけども、ほかの概念であるんで、これは別々の計画にしてしまいますとやや矛盾が出る可能性があるもんですから、恐らく平成22年当時ですけども、一緒に策定をしている。

どういう矛盾があるかといいますと、例えば私もかつて経験があるんですけど、岡山市で。地場産のもんだからというんで、生産者のところから超熱心な栄養士の方が持ってきたんだけども、それについて残留農薬検査をしたんかというたら、してないというような問題が出てくる。つまり子どもの安全というものは絶対にこれは犠牲にしてはならない最大のポイントでありまして、これ非常に微妙な問題がありますのは、例えば流通経路のときに、流通業の問題も表面では見えるんですけれども、もう一つ重要な問題は、流通段階における安全チェックというものが、大きな市場であると定期的にやられているんですけども、そこのところはしっかりやられているかどうかというようなところもあわせて考えていかないと、子どもに対する食の提供というところについて言えば若干の問題を残さざるを得ないということがあるんで、かなりこれ綿密な話として考えたほうがいいと思います。

それから２点目に、一方で食育の話から出発をしますと、議員言われたとおり、まさに地場産のもの、顔の見える生産者のものを食べている、そしてその顔の見える生産者の方がいいものをつくって子どもたちに語りかけるみたいなことは非常にいいことなんです。そういう意味では岡山県産のものというのは幅が広過ぎるんです、実は。全くもって幅が広過ぎて、何のことやら本当わからないということがあるんで、この計画において食育のほうからいきますと、美作市産というものをどう位置づけるか、今後の方針としては平成三十何年度かに直すわけですけども、それまでの勉強の期間において少し勉強した上で、もし継続するとすれば、美作市産というものを当市としては位置づけた形の計画にしなければいけないだろうなと、こう思うわけであります。

いずれにしましても、かなり複雑な問題をはらんでいる計画であることを御理解賜った上で、現場もいろ

いろ苦労しておりますけども、そう一朝一夕にぴゅんと数字だけを変えるわけにもいかないんだというようなこともぜひニュアンスとして御理解賜りたいと思って、今このような話をいたしました。よろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

教育長。

教育長（大川　泰栄君）〔登壇〕

地場産食材、できるだけ利用してほしいということ、先ほど市長も答弁しましたが、これは皆思いは同じかと思います。

学校給食につきましては、学校給食法第10条におきまして、学校給食を通じた食に関する教育を初め、地場産食品の使用、あるいは地域の産物を学校給食に活用すること、また地域の食文化、食に係る産業または自然環境の計画に対する児童または生徒の理解の増進を図るというふうに定められてございます。

これに基づきまして、現在学校給食におきましては、市内産の米、もち麦につきましては、これは全て100％利用をしておりますが、その他につきましては、先ほど市長からもありましたけれども、県教委が発表される地場産というのは県内産の食材ということでございます。

したがいまして、米、もち麦、そして牛乳は、これはもう県内産の牛乳でございます。あとは野菜等になるわけでございますが、このパーセンテージでございますが、非常にわかりにくいかと思いますが、品目の割合でございます。例えばみそ汁のみそ、それから中に例えばあげ、豆腐、タマネギ、ジャガイモ、５品目を入れて、この５品目の中の幾つが県内産のものであるかという、その数でパーセントというものを出しております。なお、本市におきましては、平成29年度は全品目の53.4％が県内産の使用となってございます。

また、先ほど給食では少々曲がったものでも何でもよかろうがというような表現がございましたが、これにつきましては、私参りました当初、生産者の方、納入業者の方をお招きしたところ、学校給食なんじゃけん、少々よかろうがというようなお言葉もいただいて、とんでもございませんと、子どもたちが食べるものですと、ぜひとも一番よいものを入れていただきたいというふうに改めてお願いをしたところでございます。キュウリも曲がったんでよかろうが、確かにそうなんですが、いろいろな調理の機械等にかけますという関係もございますので、できるだけ質のいいものをと、規格に合ったものをということで今お願いをしているところでございます。

そうした状況の中、できるだけやはり市内産のそうした御理解もいただきました上で、市内産食材の使用というものはできる限りということで、栄養士もしっかりとそうしたものに努めていると。特に黒豆等、あるいはシイタケとかそうした地場産で十分賄えるものについては利用したいということで、そうして取り組んでいるものもございます。使用促進に向けまして関係部局としっかりと研究してまいりたいと考えております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

岡野議員。失礼しました。

倉地議員。

６番（倉地　重夫君）

今はっきりした地場産野菜の使用割合というものはデータとしてとっておられない、持っておられないという答弁ですかね。

結局葉物であるとかは、根物、通常いわゆる野菜系のもの、根菜類、こういったものをやっぱり先ほど教

育長の話の中にはそういったものがどういうものが入っとるということは答弁にはなかったわけで、シイタケであるとか、豆であるとか、そういう乾物じゃないけど、いわゆる新鮮野菜というものが漏れてたというふうに感じます。

やっぱりこれ現状がどうなのか、現在その生鮮野菜、そういったものが美作市産のものがどの程度実際に利用されているんかどうか、これをデータをきちっととっていただきまして、やっぱりこれを改善して、最初に言いましたように美作市の基幹産業が農業であるという位置づけの野菜をつくっとられる農家もしっかり支援していかなきゃいけない、米やもち麦や穀類なんかは多くの方が生産されているので100％使用っていうのはうなずけるんですけれども、そういった葉物とか根菜類、そういったものをしっかり美作市産を使用していく計画をどのように立てていただけるか、ちょっと一回お尋ねします。

議長（鈴木　悦子君）

教育長。

教育長（大川　泰栄君）〔登壇〕

確かに今現在市内産ということでは把握できておりません。これは食材の納入は最終的には入札でございます。したがいまして、それぞれの業者さんが一番よいと、そして安く入るというもので納入をしていただいております。それぞれの納入先をできるだけ市内にしてほしいというふうに頼まれている栄養士さんもいらっしゃいますが、正確に全てというわけにはまいりません。ですが、例えば白菜であるとか、トマトであるとか、そうしたものを納入をお願いをしているという状況は聞いております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

倉地議員、総括です。

６番（倉地　重夫君）

給食の食材に市内産の生産物をということで、これはもうやっぱり市として教育委員会が関与されるんかどうかはわかりませんが、管理栄養士さんをきっちりそういう方向で話し合って、そういう方向に位置づけをしていかないと、ただ漫然と今までどおりただ安いとことか、あるいは調達しやすいところから調達するというやり方でやっていたんでは美作市産のそういった野菜が食材に上がるというか、どんどんふえていくということにはつながらないと思いますんで、これはぜひともそういう方向で検討をお願いしたいと思います。

以上です。

議長（鈴木　悦子君）

じゃあ次に入ってください、３項目めに。

６番（倉地　重夫君）

この農業問題に関しましては、先ほど最初に申しましたように岩江議員とか岡本議員が盛んに質問されてますんで、かなりの分が重複するようなところになるんですが、当市の基幹産業は観光と農業の位置づけは市民として共通の認識であるが、ことしから米の生産調整を廃止し、所得保障の交付金も廃止されています。農産物や食品の輸入をふやすＴＰＰや日ロ連携協定、日米協議も強行されようとしています。

当市では、米価の下落や鳥獣被害により農業収入が低下し、また農業従事者の高齢化が進み、後継者が不足していることから、農業の担い手が減少している。農林業センサスのデータによると、平成17年には約2,800戸であった販売農家数が平成22年には2,400戸まで減少しているとされています。これらのことを市はどのように対応しているのか、まずお尋ねいたします。

議長（鈴木　悦子君）

経済部長。

経済部長（遠藤　宏一君）〔登壇〕

先ほどの岡本議員への答弁と重複してまいりますが、農業政策ということでございます。

農業が産業として持続的に成長していけるような取り組みを考えていくことが必要だというふうに思っています。担い手を中心に農業者が他産業と比べて遜色のない所得を確保していくため、農地中間管理事業を活用して、農地の集積、集約化を図り、経営規模の拡大と効率化を進めております。

農産物については、米、黒大豆、アスパラガス、ゴボウなどの既存作物の維持拡大を図るとともに、収益性が高いもち麦、クレソンなどについても栽培技術の向上を図り、生産の拡大を進めております。そして、栄養成分分析調査を行い、栽培適地の検討や生産技術の向上、消費者へのＰＲに生かしていきたいというふうに思います。

また、経営規模の大小にかかわらず、意欲を持って農業を続けていくことができるよう、引き続き有害鳥獣対策に取り組むとともに、多面的機能支払制度、中山間地域等直接支払制度によりまして地域の共同活動や営農活動を支援してまいりたいというふうに思います。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

倉地議員。

６番（倉地　重夫君）

担い手を中心に農業者が他産業と比べて遜色のない所得を確保していくためとして、経営規模の拡大を挙げられておりますが、それらの成果についてお尋ねいたします。

それぞれの産物に対して取り組みの成果をどのように認識しておられますか。

農林業センサスにもあるように、農家数は減る一方、プラスに転じる要素はなかなか難しく、先輩議員も繰り返し追求されておりますが、もうかる農業、若者が新たに就農して美作市の農地で農業に取り組もうと転入してこられるような政策が求められます。

全国的には特殊な参考例かもしれませんが、耕作放棄地や空き家対策で子育て中の家族が営農のために転入されているという話が美作市でもあります。岡山県は自然災害も少なく、天候にも恵まれ、農業するには適しているとされています。現状では空き家、耕作放棄地は増加し続ける状況でもあります。市のほうでこれらの積極的活用を検討していただきたい。

美作市でも地域おこし協力隊の皆さんが元気に活躍をしておられます。30年度は２名増員し、14名で活躍するとして、予算5,660万円が計上されています。協力隊の皆さんも協働で活躍する企画などの取り組みが必要であると考えますが、これらの取り組みについてお尋ねいたします。

ごめんなさい、続けます。今の質問、２回目を。

議長（鈴木　悦子君）

まだあるんですか。

６番（倉地　重夫君）

はい。最初に申し上げましたように、ことしから減反制度の廃止に伴いその保障制度もなくなります。米生産農家にとっては再生産費を賄うことが難しい状況になってきます。水稲作付面積はお答えのように1,313ヘクタールという大きなウエートを占めてます。

ごめんなさい、４回目です。

議長（鈴木　悦子君）

経済部長。

経済部長（遠藤　宏一君）〔登壇〕

３項目めの２回目の答弁とさせていただきます。

農地中間管理事業を活用した農地の集積状況でございますが、平成27年度が28経営体に対しまして21.5ヘクタール、平成28年度が19経営体に対しまして26.1ヘクタールとなっており、本年度は現在12経営体に対して12ヘクタールということになっております。

農産物に対しての取り組みにつきましては、黒大豆は大型農家、農業法人でございますが、広範囲の作付によりまして、平成26年度には85ヘクタールであったものが平成29年度は101ヘクタールの作付となっております。アスパラガスにつきましては、平成28年度、平成29年度、各１名、２名でございますけど、新規就農者があり、日指ごぼうについても新規就農者などに進めておりまして、今年度１名の方が作付に取り組む予定となっております。もち麦につきましては、水はけのよい圃場の管理に努め、高収穫となるように取り組んでおります。販路についてはスーパー、チェーン店と契約できたことは今後のほかの産物も含めた販路拡大の足がかりとしたいというふうに考えております。

また、新規就農対策については、岡山市や大阪市で開催されております就農相談会などで美作市をＰＲしているところでございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）〔登壇〕

私のほうからは地域おこし協力隊につきまして御答弁をさせていただきます。

地域おこし協力隊につきましては、平成22年度から平成29年度までで29名が地域における課題解決に向けた活動をしてまいりました。住居につきましては、活動地域において空き家を利用して生活をしております。

平成29年度におきましては、12名が梶並、古町、巨勢、福山、上山の５地域と現代玩具博物館において活動をしております。活動内容は、現代玩具博物館では体験教室の運営や、梶並ではコンニャクなどの特産品の販売や空き家解消の事業、古町では観光案内、巨勢ではソバ料理の提供、福山では山の学校を中心とした地域活動、上山では棚田再生活動などさまざまな活動を行っております。協力隊員の全員が農業に携わっているわけではございませんが、道づくりや水路づくりなどの地域活動に積極的に参加をしております。

お互いの活動内容を共有するために、全協力隊員による定例会を毎月開催をしているところでございますが、各協力隊員がそれぞれの拠点で活動をしているため、市内全域的な共同での活動は難しいものと思われますので、御理解のほうよろしくお願いをいたします。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

倉地議員、３回目です。

６番（倉地　重夫君）

地域協力隊に予算が、先ほど言いましたように5,660万円ついてて、それぞれ別々の地域でばらばらに活動されているということ、結局これ各それぞれの生活支援のような形のお金になっているということなんですかね。だから、この費用対効果というんですか、地域おこしということで地域にどのようなそういった効果が生まれているのか、それぞれ月に１回、顔を合わせて報告会のようなことをやっているということなんで、そういった面で費用対効果について市もきっちり把握して、その成果について確認していただきたいと

思います。

以上です。それでいいです。

議長（鈴木　悦子君）

次、４項目めに入ってください。

６番（倉地　重夫君）

最初に申し上げましたように、ことしから減反制度の廃止に伴いその保障制度もなくなり、米生産農家にとっては再生産費を賄うことが難しい状況になってきています。水稲作付面積はお答えのように1,313ヘクタールという大きなウエートを占めてます。食味ランキングが高く、業務需要も高い品種であるとのことです。生産拡大と同時に需要先の拡大が大きな問題になると思われますが、これらについてはどのように取り組まれますか。

もち麦などについては、栄養委員さんなど農協女性部の皆さんの協力、努力により私たちも日常的に触れる機会もふえています。30年度は２年目としておおむね２倍の作付を目標とされているようですが、もち麦の商品化に先進的に取り組んでいる行政区もあります。健康志向からの期待の持てる食材と思われます。レシピの開発もあわせての取り組みが必要かと思われます。その展望などについてお尋ねします。

また、黒豆に関しては、生産、販売など定着してきていますが、黒豆、アスパラ、ゴボウなど、実態は生産者が減少しているのではないかと思われます。とりわけ日指ごぼうは人気商品であるが、生産地の日指では生産者が４戸だけになっており、後継者ができていないとの声が聞こえております。

議長（鈴木　悦子君）

岡野議員、あ、倉地議員、ごめんなさい間違いました。すみません、失礼しました。

倉地議員、４項目めのもう１回目の質問がなしで飛んで、２回目の質問に入っとんですけど、整理してちょっとお願いします。済いません、岡野議員、失礼しました。

続けてされますか。休憩しましょうか。

倉地議員、よろしいか、続けて。

〔６番倉地重夫君「ほんならちょっと休憩させてください。ちょっと休憩させてください。ごめんなさい」と呼ぶ〕

はい。じゃあ、10分間休憩します。

午後５時19分　休憩

午後５時29分　再開

議長（鈴木　悦子君）

休憩前に戻り会議を開きます。

それでは、倉地議員、先ほどの続きをお願いします。

６番（倉地　重夫君）〔質問席〕

ちょっと御迷惑かけます。もち麦の続きから質問に入らせていただきます。

もち麦の商品化に先進的に取り組んでいる行政区もあり、健康志向からも期待の持てる食材と思われます。レシピの開発もあわせての取り組みが必要かと思われます。その展望などをお尋ねいたします。

黒豆に関しては、生産、販売など定着してはいますが、黒豆、アスパラ、ゴボウなどの実態は生産者が減少しているのではないか。とりわけ日指ごぼうは人気商品であるが、生産者の日指では４戸だけになっており、後継者ができていないとの声が聞こえております。維持拡大の方策は具体的にどう扱うのか。

もち麦、クレソンにしても、栽培技術の向上を図ると言われておりますが、ＪＡが取り組む講習会などに行政の立場として参加し、農家の意見や要望を直接聞くようにすべきと思われますが、行政が参加していたという声は聞いておりません。基幹産業と位置づけることは喜ばしいことであるが、農政としての積極性が欠けるのではないか。

多面的機能支払制度の取り組みにしても美作県民局管内でも取り組む組織が最も少ない状況であるのは、市の農政に力の入れようが不足しているのではないか。担当職員をふやしてでも強化する必要があるのではないか。生産農家に寄り添った支援、生産売り上げが美作市の基幹産業の農業にふさわしい施策として取り組んでいただきますよう期待いたします。

議長（鈴木　悦子君）

経済部長。

経済部長（遠藤　宏一君）〔登壇〕

特産物にどのように取り組むのかということでございます。

具体的な支援ということでございますが、まずもち麦につきましては、１年目の平成29年産が16.7ヘクタールの作付、２年目の平成30年産では30ヘクタール以上の作付となっております。水稲の場合と比較できるよう収支を精査しながら引き続き栽培技術の確立、販売先の拡大に取り組んでまいりたいと思います。

米については、平成29年産の作付状況を見ますと、水稲作付面積は1,313ヘクタールとなっており、品種別に上位からコシヒカリ、あきたこまち、きぬむすめでございまして、この３品種で81.1％を占めている状況でございます。この３番目のきぬむすめは、コシヒカリより１週間程度奥手で品質が安定しており、家庭用のほか県外の中食、弁当用などで業務需要も高い奨励品種でございまして、食味ランキングにおいて最高の特Ａを取得しており、県内での生産拡大が見込まれる品種となっております。中手ということで、大規模農家にとりましては耕作時期がずらせるというメリットがございます。生産者の意見を聞きながら取り組んでまいりたいというふうに思っております。

次に、黒大豆は、平成29年産で101ヘクタールの作付、黒大豆枝豆は５ヘクタール、アスパラガスも５ヘクタールとなっておりまして、引き続き農協などと協力しながら消費拡大に努めてまいります。

そして、米につきましての政策でございますが、10アール当たり7,500円交付がありました米の直接支払制度がなくなります。引き続き水田活用の直接支払交付金といいまして、いわゆる転作奨励金でございます。これは継続されます。麦とか大豆ですと10アール当たり３万5,000円、それからアスパラガスですと10アール当たり２万円が上限となりますが、こういったものは継続されます。平成30年産からは、この米の作付につきまして行政による生産目標面積の配分は行わず、農業者の判断により需要に応じた生産、販売を行うことになっておりまして、各農家に対しまして前年並みの転作面積の目安を示していくことにしております。

もち麦については、主に米に対してもち麦が２対１の御飯を勧めておりますが、美作市におきましては健康づくり推進課がレシピを盛り込んだしおりを作成しておりまして、これにあるレシピをＰＲしながら普及に努めてまいりたいと考えております。

それから、クレソンにつきましては、栄養分析による適地栽培や栽培希望農家に対して普及センターなどの協力を得て栽培技術の指導と習得に努めていきたいと考えております。

また、多面的機能支払制度の取り組みは、中山間直接支払交付金事業に比べまして交付金の額が低くて事務量がふえるために申請時に辞退される地区が多く、実績が上がっていない状況にあります。記入例なども用意して対応しておりますが、さらに取り組みがふえるよう対策を検討してまいりたいというふうに思いま

す。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

倉地議員。

６番（倉地　重夫君）

いろいろ生産者にプラスになるような施策をしっかり生産者と話し合って、農業をされる方がしっかり所得保障が得られるような取り組みをしていただきたいと思います。

じゃあ続きまして５番目。

議長（鈴木　悦子君）

５項目めに入ってください。

６番（倉地　重夫君）

農産物の栄養成分分析を自治体が行うことは全国的にも例のない取り組みであるとして、一部の美作市農産物を分析したところ、標準値より栄養価が高いものが多いとの結果が出たとされておりますが、年度別に評価された農産物の種類は何々か。評価の項目はどのようなものか。うまみ成分などはないのか。同じ作物でも圃場や施肥、天候により異なるのではないか。他地域との差が比較できるのか。この取り組みがどのように生かされているのか。どのような効果が認められてきたのかをお尋ねいたします。

議長（鈴木　悦子君）

経済部長。

経済部長（遠藤　宏一君）〔登壇〕

農作物の栄養成分の分析についてでございますが、年度別の状況は平成26年度が13品目、平成27年度が19品目、平成28年度が14品目、平成29年度は４品目で、主なものは黒大豆、日指ごぼう、万善かぶら、トマト、アスパラガス、レタス、サツマイモ、茶、イチゴ、エゴマ、もち麦などでございます。

評価の項目は、これまで89の項目について検査をしております。主にビタミンＣ、ベータカロテン、鉄分、食物繊維、カリウムなど、健康増進に効果があるとされる栄養素ですが、対象農産物それぞれの主要成分となる栄養素を検査しております。黒大豆であればイソフラボン、トマトであればリコピン、もち麦であればベータグルカンなどでございます。茶のうまみ成分であるテアニン、これはアミノ酸の一種でございますが、カブのグルタミン酸についても検査をしております。

同じ作物を複数の地域で検査しておりまして、結果は地域ごとに異なりまして、特にビタミンやミネラルは地質や天候の影響が強く出ており、美作市の農産物はビタミンＣが総じて多い結果が出ております。また、アスパラガスや黒大豆は、複数年度にわたり検査をしておりまして、同じ圃場でも結果は異なっておりまして、その年の気象状況に影響されていると考えられます。

ほかの地域との比較につきましては、日本食品標準表にある全国平均値と比較しております。日指ごぼうは全国平均に比べ、鉄分が2.8倍多く含まれていることがわかりました。

この取り組みをどのように生かすかでございますが、農産物の適地栽培の確認、市民の健康意識の向上、農家の販売力支援などでございます。適地栽培の確認では、検査した35品目のうち32品目で全国平均以上の項目が一つ以上ありまして、18品目で半分以上の項目が全国平均を上回る結果となっております。この結果により、美作市ではこれらの農産物の栽培に適しており、栄養価が一定以上含まれているということがわかりました。健康意識の向上では、市内の直売所５カ所で栄養価を表示しまして、消費者に栄養摂取のサポートを行っているところでございます。販売力支援では、商品のＰＲ、商談の際に利用しておりまして、農業者の販路開拓、販売量増大の支援をしておるところでございます。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

倉地議員。

６番（倉地　重夫君）

お答えでは、多くの分野にわたり詳しい結果が出ています。美作産農産物の売り込み、販売力支援、商品のＰＲ、商談にしっかり生かしていただきたいと思います。

市内の直売所５カ所で栄養評価を表示してとなっておりますが、これ例えば彩菜茶屋なんかにそういったものが、表みたいなもんが掲示されているのかどうなのか、先ほど岡本議員も言っておられましたが、私もちょっと探してみたんですが、彩菜茶屋では見つけることができませんでした。手間をかけて得られたこれらのデータを特産物を育てる美作産野菜の差別化などに大いに活用し、農家の皆さんの喜び、ひいては美作の基幹産業の農業の発展につなげていくことが大事ではないかと思います。こういったすぐれたデータについては、例えばラベルにして張りつけるとか、そういうことをして、買おうと思うて手を伸ばしたときに、これが消費者に選んでもらえるような表示をきっちりしていかないと、せっかくお金をかけてこういうデータをとっても、それが販売促進に生かされていかないと何か無駄なことのように思われますので、ぜひそもそういうことにはしっかり取り組んでいただきたいと思います。

以上でこの回の質問を終わります。

議長（鈴木　悦子君）

以上をもちまして通告順番14番、議席番号６番倉地重夫議員の一般質問を終了いたします。

お諮りします。

本日の会議はこれで延会したいと思います。御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

異議なしと認めます。本日はこれで延会することに決定しました。

本日はこれで延会します。

再開は７日午前10時からです。

大変御苦労さまでした。

午後５時42分　延会

平成３０年２月７日

（第　　５　　号）

1. 議　事　日　程（５日目）

（平成30年第１回美作市議会３月定例会）

平成30年２月７日

午 前 10 時 開議

於　　議　　場

日程第１　一般質問

日程第２　議案質疑（議案第１号～議案第46号）

日程第３　請願・陳情について

請願第１号　林野公民館建て替えについての請願書

陳情第１号　ＮＨＫ第一及び第二放送及び山陽放送のＡＭラジオ電波をＦＭ電波に変換してケーブル回線に乗せることに関する陳情書

陳情第２号　「ＮＨＫ第一及び第二ラジオ放送」のワイドＦＭ放送の実現と、音声告知放送端末機の性能対応確保に向けての要望書

陳情第３号　山陽放送（ＲＳＫラジオ）のワイドＦＭ放送開始に備えての陳情書

2. 出席議員は次のとおりである（18名）

１番	青　山　　慶	２番	和　田　広　宣
３番	岩　﨑　清　治	４番	岡　野　鉄　舟
５番	中　山　忠　明	６番	倉　地　重　夫
７番	重　平　直　樹	８番	安　藤　　功
９番	金　谷　の り 子	10番	岡　本　泰　介
11番	山　本　雅　彦	12番	萬　代　師　一
13番	山　本　重　行	14番	尾　髙　誉　久
15番	岩　江　正　行	16番	日　笠　一　成
17番	内　海　健　次	18番	鈴　木　悦　子

3. 欠席議員は次のとおりである（なし）

4. 地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名（20名）

市　　長	萩　原　誠　司	副 市 長	横　山　博　光
教 育 長	大　川　泰　栄	政策参与	山　下　　亨
政策審議監	福　原　　覚	総 務 部 長	岡　本　和　之
危機管理監	皆　木　佳　久	企画振興部長	池　田　義　和
総合戦略監	大　森　洋　平	市 民 部 長	角　南　良　雄
環 境 部 長	妹　尾　昌　弘	経 済 部 長	遠　藤　宏　一
保健福祉部長	江　見　　勉	建 設 部 長	真　野　弘　紀
教 育 次 長	山　名　浩　二	消　防　長	山　崎　正　雄
会計管理者	山　本　和　毅	建 設 課 長	春　名　隆　広
教育総務課長	宮　前　　聖	社会福祉課長	長　畑　真　吾

5. 職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名（３名）

議会事務局長	尾　崎　功　三
課　　長	大　佛　裕　彦

主　　任　井　上　大　佑

午前10時00分　開議

議長（鈴木　悦子君）

おはようございます。

携帯電話の電源を切っていただきますようお願いいたします。

傍聴者の方は、傍聴規則第８条にもありますように傍聴席にあるときは静粛にしていただきますようお願いいたします。傍聴者の方が傍聴規則が守れない場合は議場より退席をしていただきます。

昨日に引き続き会議を開きます。

15番岩江正行議員が葬儀のため、午前中欠席です。

定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

日程第１　　一般質問

議長（鈴木　悦子君）

日程第１、「一般質問」を行います。

昨日に引き続き、通告順に発言を許可いたします。

通告順番15番、議席番号５番中山忠明議員の発言を許可いたします。

中山議員。

５番（中山　忠明君）〔質問席〕

改めましておはようございます。議長に発言を許可していただきましたので、３月の定例会一般質問をさせていただきます。

１項目めの湯郷温泉の活性化について。

１番、平成27年７月から翌28年２月末まで岡山県が国の補助金で取り組んだ事業内容と当市の湯郷温泉への効果の説明。２点目が、今後美作市として独自の事業展開の計画はあるのか、ないのか。また、やる考えはあるのか、ないのか御説明お願いします。

議長（鈴木　悦子君）

経済部長。

経済部長（遠藤　宏一君）〔登壇〕

改めましておはようございます。

岡山県が国の補助金で取り組んだ事業内容ということでございますが、平成27年７月１日から平成28年２月末までの８カ月間に岡山県内の宿泊施設で利用できるプレミアムつきふるさと旅行券、通称ふるさと旅行券というものがございました。このふるさと旅行券は額面１万円の旅行券を5,000円で、また額面5,000円の旅行券を2,500円で、どちらも半額で購入できるものでございまして、国の地域住民生活緊急支援のための交付金と。これに県の上乗せで総額12億2,000万円のふるさと旅行券が平成27年６月１日から全国のコンビニで発売されました。利用状況としましては、備前地区では89施設で２億8,000万円、備中地区では51施設で３億3,000万円、美作地区は74施設で６億円の利用がございました。その中でも美作市エリアは22施設で２億7,700万円と県内全体の約23％、美作地区内でみても約46％を占め、非常に利用頻度が高い状況であり、美作市の入湯税による宿泊客数から見ても前年度対比109％と非常に好調でありました。

次に、美作市として独自の事業展開ということでのお尋ねでございますが、平成29年11月までの入湯客数は平成28年度の同時期と比較して93.8％、ふるさと旅行券のあった平成27年度と比較しますと86.1％という

ことで非常に厳しい状況にあると思います。湯郷温泉の関係者からも、入湯税が前年に比べ15％程度減少状況にあり、宿泊客の増加に向けてタッグを組んで市全体で対策に取り組んでいきたいとの意向をお伺いしております。また、岡山県が取り組んだ旅行券などの緊急の対策が必要であるとのお話をお聞きしており、湯郷温泉からは入り込み客数などのデータを提供していただき、その正確なデータをもとに効果的な対策を協議していきたいと考えております。

そのほか市独自の取り組みとしましては、年間を通じ湯郷温泉の入湯効果による安定した長期滞在客の確保を目指して湯郷温泉を初め、美作市ならではの魅力を情報発信するための継続した取り組みや民間組織の活力を支援することが重要であるというふうに考えております。具体的には、美作市への観光客を送客する旅行会社に対するバスツアー補助金制度、また市内の宿泊施設へ３泊した方への連泊補助、この補助制度を継続する予定としております。また、民間で組織する美作市観光振興協議会への補助金を増額しまして観光スポットを連携させた体験型の旅行商品の造成を行い、ホームページやフェイスブック、ツイッター、インスタグラムなどＳＮＳを活用して民間目線での機動的な観光情報の発信を強化してまいりたいと思います。さらには、国民保養温泉地に指定され肌によい療養湯として有名な湯郷温泉の効能について、講演会の開催や国民保養温泉地協議会の活動を通じての情報発信や宮本武蔵ブランド、ナショナルチームレベルのスポーツ合宿や東京五輪、オリンピックのホストタウンを活用した誘客、そして後山の修験道などの日本遺産認定による観光地の魅力と知名度のアップなどの取り組みを計画しております。また、インバウンドの状況としましては、12月までの数値でありますが、昨年同期に対して174％と、宿泊人数は7,918人と好調であり、今後も現地の旅行会社を招いてのスタディーツアーの実施や海外旅行者向けに宿泊などの手配をしているランドオペレーターを集めての商談会の開催などを行い、積極的に美作市の魅力を発信していきたいというふうに考えております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

中山議員。

５番（中山　忠明君）

たくさんのアイデアまた計画をされておられるようですが、これをどういうふうに、この場だけでというんじゃなしに、どういうふうに生かしていくかということがまだ見えてこないようなんですが。計画は計画ですばらしい。デパートで買い物しとるような気分ですけどね、気分は。お金がない。お金がなかったら何も買えません。そのお金をどういうふうな形で捻出していくのか。観光客の方々が、湯郷の経営者の方、それから一般の店の方が言われるのには、右肩上がりでお客さんが来られとりますという状況なら何も問題はないと思いますけども、右肩下がりでどんどん下がっていく。それが如実にあらわれておるのが入湯税じゃないかと思うんです。かなり下がってきております。昔の話をするつもりも何もないんですけど、最近では日曜日でも閉館をしているというような現状が今の湯郷の現状であります。昔は日曜日に何とか部屋がとれないだろうかと言ったら、ちょっと済いませんとかというような、きょうどうしても満室でとかというような状況だったんですけども。先ほどインバウンドの話をされましたけども、昨今テレビで日本に年間3,000万人ぐらいの旅行客が来られとるということを盛んに報道されておりますが、その湯郷に来られる人は少ない思うんです。ほとんどが東京、大阪、京都、それからあるいは九州の一部も含めて、そのうち来られるとは思いますけども。それでは湯郷の旅館の方々、いろんな商売しとる方々が持ちません。もう既に中国の資本家が旅館を買おうかというような話も聞いております。買おうかじゃなしに、もう売らなければ持たないというような状況なんで、ぜひ企業努力にもやっぱり限界がありますので、そういうことを含めて。

今申しましたように。先ほどの遠藤部長言われたこういう計画ばっかしがありますというんじゃなしに、これをどういうふうにつなげていくんかということをもう少し詳しく説明してもらいたいんですけど、よろしくお願いします。

議長（鈴木　悦子君）

経済部長。

経済部長（遠藤　宏一君）〔登壇〕

確かにインバウンドが好調ということはあるんでございますが、湯郷温泉の関係者の方からは国内からのお客さんがなかなかないんでインバウンドを受けているというようなことで、やはり国内からのお客さんに来ていただきたいという声をお聞きしております。先ほども答弁いたしましたが、その湯郷温泉へのお客さん、今どちらのほうからみえてる方が多いかとか、そういったデータをいただきながら効果的な対策を協議したいと。それで財源的には過疎対策事業債ソフト分、これが活用できないかということを考えております。金額的なことはまだ申し上げられませんが、関係者と協議を進めながら有効な対策になるように検討してまいりたいというふうに考えております。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

中山議員。

５番（中山　忠明君）

ぜひ景気がよくなるように、お客さんがたくさん来られるような方法を執行部のほうでも考えていただいて、この項目は終わります。

議長（鈴木　悦子君）

２項目めに進んでください。

５番（中山　忠明君）

昨年、倉敷市内で働いておられた障がい者の方、220名の方々が解雇された件は皆さん新聞等で御存じだと思います。これはもう大変な問題なんです。そういう方々を集めて仕事をしていただくような施設があるけども、補助が出るからそういう会社をつくって、いわゆる営利を、悪う言えば障がい者を食い物にとは言いませんけども利用しとるような、本当に親身になって生活の支えをしていくような部分を、せっかく国がそういうふうな政策をしていく中で引き受ける業者がちゃんとしていなかったら、結局は障がい者の方々が困る。それを見守る御家族の方もやはり困ると思います。美作市内にも障がい者の方を受け入れて、そして本当に親身になってやられておる事業所もあると私は聞いておりますが、本当のところ美作市内にどんだけの事業所があって、そういうことは余り知らないと思うんです、一般の人はね。そういう意味で、なぜそういうふうに言うんかといえば、そういう方々をやっぱり支援していく、行政だけじゃなしに市民の方々も、できればそういうふうにして、形があらわれるとかあらわれんとかというんじゃなしに、やっぱりそういうふうな体制づくりをしていってあげることが本当に安心して働けることだと思いますので。美作市内の業者の現在どのくらいな事業所があって、それで市民の方々のサポートをする団体があるんかないんかということがまず１項目め。

それから、民間の方々に理解していける、理解していただくためのお仕事はやっぱり行政のほうからしていっていただかないと無理なんで。それをどのような形をとられているのかということを質問します。

済いません。それから、３番目に一番大事なことを忘れておりました。障がい者の方々が働くことによって生活ができるだけの要するに賃金をいただいておるんかということが、やっぱりよく、この間も相談がありまして、本当にわずかなお金しかいただいてないらしいんです、びっくりするような。まだ親御さんある

いは兄弟にしてもそういう方々がおられる間は何とか生活ができるにしても、この方たちもやはり我々と一緒に同じように年をとっていきます。また、病気にもなります。そういう方たちのために、ぜひ生活ができるような体制を整えていくことを考えておられるのかおられないのか、そこらあたりを聞きたいと思います。

議長（鈴木　悦子君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）〔登壇〕

失礼します。障がい者の就労支援ということでございます。

障がいのある方につきましては、一般の企業での就労が困難な方もおられます。このような方たちの雇用を支えているのが、障がい福祉サービスのうち就労継続支援事業と呼ばれるものです。就労継続支援事業所には、原則雇用契約を結ぶＡ型の事業所と雇用契約を結ばない就労の機会を提供するＢ型事業所の２種類があります。市内にはそれぞれＡ型が２カ所、Ｂ型が３カ所それぞれ開設されています。倉敷市のほか、各地でＡ型事業所の大量解雇事案が発生しておりますが、Ａ型事業所は障がいのある利用者への支援と収益活動との両方が求められる事業であり、この両面から適切な対応が必要であると改めて認識しているところであります。就労継続支援事業所につきましては、障害者総合支援法に基づく国の施策であること、また指導機関も岡山県であることから市が直接関与できる部分は限られています。しかしながら、障がいのある方に働く喜びを感じていただくことは非常に重要なことであり、美作市にとって欠くことのできない事業所であることに疑いはなく、求めに応じて市有の土地や建物の貸し付けを行うなど、側面的な支援を行っております。また、事業所の経営改善を進めるためには収益の拡大を図ることが重要であることから障害者優先調達推進法、これは国等により地方公共団体、障がい者就労施設等からの物品の調達、これに関する法律です、の趣旨にのっとり障がい者就労事業所からの物品調達等の拡大を図ることや、新たな販路の開拓などについても協力を行っていきたいというふうに考えております。

それから、２番目の御質問の民間の方に理解して支援していただけるよう行政としてどのようなことをしているのかというお尋ねですが、市内で就労継続支援事業所を開設しているのはＡ型、Ｂ型合わせて４法人でございます。いずれの事業者も指導員等が地元の方であることや利用者も地元の方が多いことから、地域に密着した形で良好な関係を築いていると認識しております。事業所の経営母体は社会福祉法人やＮＰＯによるもので、障がい福祉サービスにとどまらず、地域の福祉に対し非常に熱心な取り組みを行っておられます。昨年、市内で子ども食堂が開設されたことは御承知のことと思いますが、これらの法人のグループが中心となり運営を行っております。子ども食堂との名称ではありますが、その理念は、子どものみならず障がい者も高齢者もどなたでも集える触れ合いの場を設けるというもので、地域共生社会の実現という観点から市においても会場の提供やＰＲなど、可能な限りの協力をさせていただいております。

それから、３番目の障がい者の方たちが生活していける給料をいただいているのかということですが、Ａ型事業所におきましては雇用契約を締結し、原則として最低賃金法に基づく最低賃金以上の給料を支払うことになっておりますが、一部の利用者におきましては労働基準監督署によります減額の特例許可を受け最低賃金より低い賃金で雇用されている場合もあります。また、体調等の理由により就労時間にも幅があるため、個々の給料額には差があり、多い方では月額13万円程度になる方もいらっしゃると思います。ただし、稼働収入のほか障がい者年金を受給されているケースがほとんどで、在宅またはグループホームであれば、生活が可能な収入は確保できていると考えております。Ａ型事業所には市内の方が約40名お勤めですが、事業所に問い合わせを行ったところ、おおよそ半数の方が家族との扶養に関係なく、多くの方が経済的に自立

をされているという状況がうかがえたところでございます。

以上です。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

中山議員。

５番（中山　忠明君）

説明をいただきましたんですが、私のほうからこれからもこういう問題をやっぱり温かい手を差し伸べれるように行政、執行部の方々にお願いいたしましてこの項目を終わりたいと思います。

議長（鈴木　悦子君）

続けて。

５番（中山　忠明君）

３項目めです。国民健康保険について。

まず、１番、平成30年４月から県と市町村がともに共同保険者となって運営していくとのことですが、これによってどのようにかわっていくのか。また、保険料は高くなるのか、安くなるのか。

２番目が、今後は岡山県内の料金、保険代、これを何か統一していくような気がするんですけども、そこら辺の説明をお願いします。

議長（鈴木　悦子君）

市民部長。

市民部長（角南　良雄君）〔登壇〕

国民健康保険料等についてでございますが、国民皆保険である国保制度を将来にわたって堅持していくために平成30年４月より制度改革が行われることになっております。県が財政運営の責任主体となって安定的な財政運営や効率的な事業の確保等、国保運営に中心的な役割を担うことで制度の安定化を目指していくことになります。運営主体の変更により保険給付や保険料の影響は県内自治体の全体としては中立的でありますが、国からの財政支援が強化されること、個々の市町村における健康政策の成果、医療機関の連携などの要因が過去５年間どう変化したかにより市町村にある程度の上下があります。しかし、先月26日の山陽新聞によりますと、平成30年度から８市町村が増額、19の自治体で減額になるとの報道もありました。美作市の平成30年度の国民健康保険税でございますが、県が示した標準保険料率などを参考に検討いたしました結果、税率の引き下げを行うよう国保運営協議会へ諮問し、答申をいただいた結果を反映した条例改正案及び当初予算案を当議会に上程させていただいておりますので、よろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

中山議員。

５番（中山　忠明君）

それでは、この項目を終わって次に行きたいと思います。

議長（鈴木　悦子君）

じゃあ、４項目めに進んでください。

５番（中山　忠明君）

まだ時間が結構ありますけども、これから時間をこの部分に割いていきたいと思います。その前に、ちょうど昨年の市議選より、もう少しで１年になります。何か期待をしていただいて、その背中を後押しされて出てまいりましたが、なかなか思うように、また考えどおりに行かないことの連続でありまして、中山はちょっと心変わりしたんじゃないんかとか、どうなっとんならとかというようなことが漏れ聞いております

が、私は全く変わっておりません。それよりも日々ファイトに燃えておるのがこの中山忠明でございます。もし、お尋ねしたいことがあるなら、ぜひ直接私のほうに言ってきていただきたいと思うわけで。側から聞くと非常にむかっとするんで、やはり面と向かって言う。私も自分の思うことは直接本人に会って、不審な点、また疑問な点は聞くように心がけております。影でとやかく言うことは一切しないように、そういう思いで今日まで生きてまいりましたが、今後ともこの姿勢は変わることはございませんので。残るあと３年ほど、しっかりと美作市政のために頑張っていく所存でございますのでよろしくお願い申し上げます。

次の項目、４項目め、これに入る前に前段が少しありますのでお聞きしていただきたいと思います。私がつくる文章ですから大した文章ではありません。誤字、脱字、言い間違い、思い違い、勘違いは多々あると思いますが、何とぞ御容赦のほどお願いしまして、しばらくお時間をいただきたいと思います。

今日、国際問題を初め、日本を見ても北朝鮮の核の問題等、尖閣諸島の問題、もちろん北方領土４島返還問題、韓国との竹島問題等々、数えておりますと切りがありません。また、国内は憲法改正等、大変重要な問題があります。我が美作市においてもさまざまな話が出ております。しかし、美作市議会の方々はすばらしい考え方と独自のユーモアを出しながら執行部と真摯に向き合って、また執行部も情熱と根気と並々ならぬ勇気を持ってしっかりした議論でタマネギの皮を一枚一枚剥いでいくようにして、少しずつゆっくりとではありますが解決していっております。中にはうまく皮がむけず、混乱することもありますが、そこは知恵を出して前に進んでいっているようです。

さて、今日本へ外国の旅行者が年間3,000万人訪れていると言われております。それと同時に日本に来て働いている外国人労働者は約107万人おるそうです。特に近年はベトナム国籍の人たちが多くなってまいりましたが、ベトナムの人の多くは大変勤勉で真面目な人が多いと聞いております。私も何人かのベトナムの人を、友人にしておりますが、勤勉で心の優しい人たちです。当市では既に80人ほどのベトナム人が労働に従事しております。今後、日本に来て働く外国人はふえてくるのは確実で、工業はもちろんのこと、近年は医療関係には絶対になくてはならない外国人労働者となってきております。そういう中、私もベトナム国を少しでも理解していかなければと思うのであります。昨年、ベトナム建国の父と言われるホー・チ・ミン像が作東バレンタインパーク地内に設置されましたが、この像の設置について反対の声があります。反対の署名活動も起こり、約2,000名の人たちが署名しておられたようです。中には頼まれたのでという人もかなりおったようですが、設置反対の人が何人かいるのは事実です。市長がどうのこうのとか、反対がどうのこうのとかというつもりは全くありません。好きにやっとけばと思うだけですが、それではベトナムの人に大変失礼です。また、世界の人たちからきっと笑われてしまうのではないでしょうか。

そこで思うに、無知な人がさも知ったかぶりをして話をすることぐらい滑稽なことはありません。ベトナムがどのような国で、どんな歴史をたどってきたのか、またホー・チ・ミンがどのような人物であるかを私なりに調べさせていただきました。そこで、ベトナム国、ホー・チ・ミンのことを書いた本を読みましたところ、あのテレビで有名な池上彰さんのふうん、なるほど、そうだったのかという言葉が思い浮かびました。池上彰氏の言葉をかりますとそういう表現になりますが、私は人を知らずして語るなということを強く思っておる人間でございます。私はホー・チ・ミンに会ったことはありません。多分ここの中にも会ったことはないと、会ったという人がおればまた後日いろいろと教えてください。だから、ホー・チ・ミンがどういう人物でどういう人だったかとか、ベトナム国がどういう国でどういう歴史をたどってきたのかということをたくさんの本の中でしか知ることはできませんが、しっかり本を読んで私なりに理解していったことを少しこの場をかりまして報告申し上げたいと思います。あくまでも私自身が感じたことなので、後々間違いであることがわかれば、御指摘されればしっかりと勉強していきたいと、さらに勉強していきたいと思うと

ころでございます。

私が調べたところ、ホー・チ・ミンは純粋な民族主義者で、決して共産主義者ではありません。ベトナム国をフランスの植民地から独立させてベトナムの真の独立を願い、戦ってきた人物であります。我が日本で言えば、近代日本のもととなった幕末の坂本龍馬、高杉晋作、そして吉田松陰、西郷隆盛等々いろんな方がおられますが、そういう人だったのではないかと確信を持った次第でございます。日本が明治政府を充実する中で、既に東南アジア諸国、そして隣の中国、朝鮮等はイギリス、ロシア、強国が、そして今言っておりますベトナムは既に江戸時代にフランスが植民地として経営しておりました。あのインドでさえ大英帝国のイギリスが200年ほど前から植民地として経営しておりました。ホー・チ・ミンは日本とのつながりを持っておりまして、大正時代後半に日本に留学に来ております。ベトナムの実情を日本政府に訴えたそうですが、当時日本はまだまだそういうフランスに物が言える立場の国ではなかったのでありまして、岡山県出身の犬養毅、後の首相で二・二六事件で陸軍に刺殺された人物ですが、この犬養毅を頼ってきたそうであります。当時はロシア、バルチック艦隊を破った日本帝国陸軍艦隊、総大将でありました東郷平八郎が明治42年に破りましたが、この日本でさえロシアにこのときに負けておれば、今ごろ我々の何名か、半分以上はロシア語が母国語になったと思います。

議長（鈴木　悦子君）

中山議員済いません。一生懸命言っておられるんですが、もう少しまとめてしていただけたらと思います。

５番（中山　忠明君）

もう少しまとめて、まとめれんのんですわ、それがなかなかね。

要はそういうことがありまして、日本海海戦を行きました。何かそこら辺から雑談が聞こえるけど、人がしゃべるときには黙っとったほうがええよ。

「天気晴朗なれども波高し、皇国の荒廃この一戦にあり、各員一層奮励努力せよ」との有名な一文を発信し、バルチック艦隊と戦いました。そのときのことが東南アジアのこのホー・チ・ミンの胸を打って中国からも留学生がどんどん来たそうです。しかし、そのときにやはり助けることができませんでしたが、大東亜戦争が始まって、1940年に日本陸軍がベトナムからフランスを一旦追い出しました。ところが、やっぱりそのときに日本軍もフランスと同じようなことをしたんでベトナムの人が何百万人か、数ははっきりしませんが、餓死したと聞いておりますが、真意のとこはわかりません。というのは、私はこの今の平和が享受できるのはこういういろんなことの歴史があったからだと思うのでありまして、要は博愛主義者、いわゆる来る者は拒まず、去る者は追わず、そして世界の人が今仲よくしていく中でホー・チ・ミンの像がどうだとか、こうだとかというようなことが本当に悲しい話だと思いますので、これから質問に入ります。

市はベトナム国の歴史を、またホー・チ・ミンという人物をどのように理解しているのかということの項目の中で、極東アジアの国々であるベトナムは古くから日本国との間に友好歴史があります。現在はベトナム国より当市に労働者として約80名弱の人が働いておりますが、この人たちとの交流はどのようにしているのか。これがまず１番。

２番、今後当市に外国人労働者の推移はどう考えておられるのか、答弁していただきたい。

議長（鈴木　悦子君）

ここで10分間休憩します。

午前10時50分　休憩

午前11時01分　再開

議長（鈴木　悦子君）

休憩前に戻り会議を開きます。

答弁からです。

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

中山議員の質問ですが、ホー・チ・ミンないしベトナムについての理解ということなんですが、私が最初にベトナムとかかわったのはたしか1990年であったと思います。当時、ニューヨークに赴任をしておりまして、ニューヨークでの仕事が通産省の持っている各国に対する債権の回収という、まことに変わった業務でありました。私の担当は中南米であったんですけども、中南米の仕事はかなりうまくいったもんですから次にきたのがベトナムの仕事です。ベトナムになぜ債権があったかというと、南ベトナムに対して日本が借款を供与しておったんですが、戦争が終わって統一された後、その借款の残債がありまして、それをベトナム政府が継承した形になっておった。そのことをまず御先方に話をして、それを回収することによって関係の正常化をしようというもくろみでありました。非常に難しい業務だったからおまえ行けということになりまして、一月ほど準備をしました。つまり、ベトナムがどういう状況になってるか、ホー・チ・ミンはどういう人かということについて、アメリカ国内にあるさまざまな文献あるいはベトナムの関係者の声を聞いて自分なりの頭をつくっていくと、こういうことでありました。当時、アメリカ国内においてはベトナムというのは完全な共産主義者の国であって、その元の悪玉がホー・チ・ミンであったという認識が一般的でありました。それはなぜかといいますと、統一のときにベトナムから逃れた方々がずっとおられて、その方々は怨嗟の気持ちで見てるということもあったし、アメリカ自身が大分傷は癒えてましたけども1975年の敗北の傷の中でまだ悩みが残っていると、こういう状況でありました。したがって、若干そういう認識も持ちながら行きました。

行きますと、本当に貧しい国でありまして、唯一のホテルがタンロイホテルと言いまして川の中にあって、そしてキューバがつくったホテル、そこに閉じ込められて電話回線が日本との関係で６本しか一国全体がないと。電話してると必ず盗聴されると、こういう状況であったんで、最初はこれはかなわんなと、こういう思いが非常に強かったんでありますけれども、１週間の滞在中、交渉を次第にしていく。最初は日本語でいいかっていうんで日本語の通訳をつけたんです。これがどうも向こうでも変わった人であって、旧敵国の仲間みたいなことで通訳をしながら事務を妨害しておったと。そしてそういうことがあったもんですから、途中で日本語を使うのをやめて英語で話をし出したら向こうの30代の女性の財務省の人が理解をし出してだんだん話が通っていって、最後は国家計画委員会というところに行って大談判をして債権の回収に成功してうまくいったんですけども、そのプロセスをずっと見てますと、基本的には私も共産圏とのつき合いもありますけれども、どうもこれは共産圏の国じゃないなということ。つまり、必死でいわゆる最貧の国から何とか立ち上がるために国を挙げて必死で努力をしよう、当時思ったのはこれはまさに明治維新後の日本のような感じじゃなという感覚を持ったんですけれども、一生懸命みんなが努力に努力を重ねる。そして英語の非常に上手な方っていうのはその後財務省の局長になりましたけども、今でも存命ですけども、どこで英語を習ったかっていうと全部自習なんですね。どこですかって言ったら財務省の中で習いましたというようなことで、非常なる熱意とそれから勤勉さというものを持っていて、もう一つは自分たちの国がそのホー・チ・ミンという英雄によってリードされてきた。そのことに対する圧倒的な誇りを持ってる。それから、もう一つは今まで対外的な問題としては中国、フランス、アメリカと、常に侵略を受ける立場にあって、その

侵略に対してどう立ち向かっていくかということが一番大きな課題であったと。これはみんなが言ってました。そういうことの中で、私は交渉が成功して帰るころには、僕は単なる共産主義の国というふうに理解をしちゃいけないんだということをしみじみ、つくづく感じ、そしてある気持ちの中にその最貧の国から国を立ち上げようとしているその姿に尊敬の気持ちを持つと、そういうことになったわけでありまして、その後のベトナム理解が妥当に展開していった原点であったわけであります。

私たちはアジアの先進国として、今はかなり調子よくなってますけども、同じような立ち上がりの苦労をしてきたわけであります。それが私たちの先人の苦労であったと。そのことを思いますと、我々は必死で努力をしている民主的な国としてベトナムを今認識をするようになりましたけども、これが今後日本としての基本的な姿勢であり、その国の形成に携わった方々に対してベトナムの、今国内にいらっしゃる方が圧倒的に支持をしている。そのことを考えたときに、我々としてはこの問題について来る者は拒まず、ありがたく受け取るべきだろうということでホー・チ・ミンの像の寄贈をお受けさせたい。それを今後日本のいろんな方々が見ていただいて、私が今述べたようなことを感じていただければこれにすぐる喜びはないというふうに思っている、そのようにまず申し上げまして、残余の部分につきましては担当部長からお答えをさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）〔登壇〕

失礼いたします。まず、ベトナム国の歴史またホー・チ・ミンという人物をどのように理解しているかという御質問でございます。

日本とベトナムの交流は16世紀にさかのぼり、御朱印船で訪れた日本の貿易商人たちによって中部ダナン市に隣接する港町ホイアンに日本人町が形成されるほど活発な交易関係にございました。現在は、当時の日本人によって建造されたと伝えられる日本橋が残り、町の郊外にある日本人の墓は今も現地の方々によって祭られていると聞いております。こうした歴史的背景を踏まえ、日本とベトナムとは昭和48年９月に外交関係を樹立し、平成30年には友好関係樹立45周年を迎えるなど、親密な友好関係を継続しております。特に平成29年２月には天皇皇后両陛下が初めてベトナムを訪問されるなど、ベトナムの要人から心温まる歓迎をお受けになられるなど、御訪問を通じてベトナムとの従来からの親密な友好親善関係が一層深まっているところでございます。また、日本とベトナム双方の首相が平成29年１月と６月に相互に訪越、訪日し、首脳会談を行うなど、両国の政府間の連携も強く進められているところでございます。

次に、ホー・チ・ミン主席につきましては、ベトナム民族解放、独立に尽力し、一生涯をベトナム国にささげられた人物で、御自身は質素な生活を送り、子どもや青年、農民や貧しい人たちに配慮し、深い関心を寄せていた無私無欲の指導者で、ベトナム国民の敬愛を集めた方と理解しております。

続きまして、ベトナム人労働者との交流につきましてでございますが、昨年10月に美作日越友好協会とＮＰＯ法人みんなでしょうえい、美作国際交流をすすめる会が協力し、作東ふるさと祭りにおいて日越交流村を出店し、フォーや揚げ春巻きの販売やベトナムの紹介パネルの展示など、ベトナム人技能実習生と市民との交流を進めたところでございます。また、平成30年３月には日越友好協会の主催によるベトナム人技能実習生支援事業といたしまして市内バスツアーを開催し、美作市の観光名所を回るなど、市民との文化交流を行う予定としております。今後もこのような取り組みを行い、市民との交流を深めてまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

経済部長。

経済部長（遠藤　宏一君）〔登壇〕

ベトナム人労働者の推移ということでございますが、現在美作市内の事業所では120名の外国人技能実習生の方が働いております。そのうち75名がベトナムからの実習生でございます。全体の62.5％を占めており、次に多いのは中国人で21名という状況でございます。美作市が取り組んでいる外国人技能実習生受入事業補助金は特定の国を対象にしたものではありませんが、事業を実施しているみまさか商工会はベトナムの送り出し機関と契約をしているところでございます。平成29年11月には新たな外国人技能実習制度が制定され、介護職にも技能実習生の雇用が可能となりました。美作市内でも介護職員は不足しており、既にみまさか商工会に相談が寄せられております。それも含めまして労働力を確保するために、今後もベトナム人技能実習生の受け入れを支援していきたいというふうに考えております。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

中山議員。２回目です。

５番（中山　忠明君）〔質問席〕

今後ともそういうベトナムに限らず、これからいろんな国から医療関係の方、また工業関係の方も来られると思いますので、少しでも温かく当地と美作市が迎えれますよう心から切にお願いを申し上げ、３月の一般質問をこれで終わりたいと思います。まだまだ寒い日が続いております。健康には留意されまして、執行部の方、議員の皆様方、もちろん市民の皆様方も健康が一番です。健康でなければ何もできませんので、ひとつそこら辺のところをしっかり健康管理していただきまして私の３月一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

議長（鈴木　悦子君）

以上をもちまして通告順番15番、議席番号５番中山忠明議員の一般質問を終了します。

続きまして、通告順番16番、議席番号１番青山慶議員の発言を許可いたします。

青山議員。

１番（青山　　慶君）〔質問席〕

それでは、議長の許可をいただきましたので、平成30年２月定例議会の一般質問をいたします。

私の質問は全部で６つあります。１番から３番が美作市スポーツ医療看護専門学校関連の質問で、１番目が専門学校への通学路について、２番目が寮利用生徒への移動手段の紹介、３番目が生徒への地域情報の紹介、４番目が高地などにある観光地へ至る市道整備、５番目がブレーキ踏み間違い事故防止促進に対する市の考え方、６番目が小・中学校の児童・生徒数減少に伴う問題への対策でございます。

では、１番目から質問させていただきますが、いよいよ開校間近に迎えまして、大原地区の方からも、大原の高校の卒業生の方で大原高校の校舎が再生されて復活してとてもうれしいと。また、地元の人も７割から８割は大いに歓迎しているという力強い言葉をいただきましたので、この場をおかりして披露させていただきます。また、開校を迎えまして、これからスタートラインに立つというような状況でございまして、これからが大事ということでそういったアドバイスもいただいております。アドバイスの内容なんですが、青山さん、来年以降生徒が集まるかどうかというのは今春入学する生徒たちの口コミの影響が強いよと、強く影響するよというふうにアドバイスをいただきまして、私なりに生徒が快適に過ごせるように行政としてできることがあるのではないかと思いついたところを質問させていただきます。

まず１番目ですが、登下校における生徒の安全と地域住民との摩擦がないように通学路の指定であったり

通学路周辺住民への説明をしたほうがよいのではないかと考えますが、その予定があるかどうかを質問します。

議長（鈴木　悦子君）

企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）〔登壇〕

失礼します。滋慶学校への、専門学校への通学路に関する御質問でございます。

大原駅または寮から専門学校への通学路の指定、地域住民への説明をする予定があるかという御質問でございますが、大原駅、寮から専門学校への通学路につきましては、古町地区、中町西地区の区長さんを初め、地域の皆様から御意見を聞く機会を設けるなど、御協力、御支援をいただきながら生徒が安全に通学できるよう大阪滋慶学園とともに進めてまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

青山議員。

１番（青山　　慶君）

地元の方への説明がある予定ということで安心しました。特にお願いしておきたいのが、何かトラブルが起こりそうになったときに当事者同士でのやりとりにならないように苦情窓口を設置することと、地域の方に広く周知していただくことを強くお願いしておきます。

また、既に要望は出ているようなんですけど、大原駅前に防犯灯を設置してほしいという要望が出ているかと思うんですが、特に帰るとき、暗くなると危ないので防犯灯の設置もしていただきたいというところと、行く行くは国道も歩道整備を視野に入れていただきたいなというところを申し伝えまして１番目の質問を終わります。

続いて２番目の質問です。

特に寮で生活する生徒については休日など外出時に移動手段を確保する必要がありますが、移動手段や近隣の観光地、繁華街への移動ルートを紹介する予定があるかというのを質問します。

議長（鈴木　悦子君）

企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）〔登壇〕

生徒等の移動ルート等の御質問でございます。

寮利用の生徒への休日等の移動手段を紹介する予定ということでございますが、ＪＲ、智頭急行、共同バス、神姫バス等、交通機関の時刻表や近隣市町村の観光のパンフレット、商業施設等のパンフレットなどを新入学生に対して配布するなど、生徒たちが美作市で楽しくて有意義な学生生活が送れるよう大阪滋慶学園とともに支援してまいりたいというふうに考えております。よろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

青山議員。

１番（青山　　慶君）

ありがとうございます。公共の交通機関の時刻表などを配布するということですが、専門学校生は恐らく車の免許を取得してきている子もいると思うんですね。早々に取る子もいると思うんですけど、美作の自動車整備協会と連携しましてレンタカーを借りやすくするというのも一つの案かなと思いますので、ここで提案しときます。特に寮は大原インターの出口にも建設されますので、そこから鳥取ですとか中国道方面、観

光にも行きやすくなりますのでより喜ばれるかなと思います。

続きまして、３つ目の質問です。

議長（鈴木　悦子君）

答弁はいいんですね。

１番（青山　　慶君）

はい。

議長（鈴木　悦子君）

じゃあ、３項目めに。

１番（青山　　慶君）

３項目めに行きます。

３項目めですが、学校周辺の飲食店やアルバイト先などの学生が利用すると思われる施設の情報が行き渡るような取り組みをする予定があるか。これは寮を利用する生徒に限らず、生徒全員を対象とした取り組みがあるかというところを質問します。

議長（鈴木　悦子君）

企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）〔登壇〕

生徒全員へ近隣の飲食店、アルバイト先等の情報が行き渡るような取り組みをする予定があるかという御質問です。

みまさか商工会により、昨年度大原地域、古町地区などの飲食店、商店、観光地などを掲載した学生向けの案内チラシが作成されており、既にオープンキャンパスにおいて参加の学生へ配布しております。好評を得ているところでありますので、今後も引き続きこういう取り組みを行っていきたいというふうに思っております。また、今後新入生に対しましても配布する予定としております。また、アルバイト先等の情報につきましては現在幾つかの事業者からの依頼があり、開校後に大阪滋慶学園において校舎内の掲示板へ掲載し情報提供する予定と伺っておるところでございます。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

青山議員。

１番（青山　　慶君）

総括です。

飲食店やアルバイト先などの情報が既に案内される仕組みが整ってるということで安心しました。この情報につきましては、市内に限らず、隣接の西粟倉ですとか、佐用ですとか、智頭ですとか、３県境で協力する位置づけにある地域の情報もあわせてお伝えすれば、周りの地域にも喜ばれるかなと思います。また、私も学生のころは学校の近くによく行く飲食店があったりとかして、そこで顔なじみになって注文した料理プラスアルファが出てきたりというようないい思い出があったりします。こういった思い出づくりが地域に愛着が出てきたり、これによってトラブルが起こりにくくなったりですとか、さらには定住にもつながると思いますので、先ほど冒頭にも申し上げたとおり、最初の１年目の受け入れ態勢が非常に重要になってくると思いますので、しっかりと受け入れ態勢を整えていきましょう。また、最後にもう一つアドバイスがありまして、地域住民の方から、ゴールデンウイークが過ぎたあたりに学校の先生と生徒を対象にした歓迎会を開いてみてはどうかという声もありましたので御検討のほどよろしくお願いします。

以上で３つ目の質問を終わります。

議長（鈴木　悦子君）

じゃあ、４項目めに入ってください。

１番（青山　　慶君）

４項目めの質問です。

高地などにある美作市内の観光地、ベルピール自然公園ですとか大山展望台、大芦高原などへ至る市道は冬場路面凍結など事故を起こしやすい道路条件となることが多々ありますが、市道整備のルールはどのようになってるか質問いたします。

議長（鈴木　悦子君）

建設部長。

建設部長（真野　弘紀君）〔登壇〕

青山議員の高地などにある観光地へ至る市道整備についてということでお答えをさせていただきます。

美作市の観光資源であるベルピール自然公園、大山展望台、大芦高原などは眺望がすぐれた観光スポットとして多くの来客が望まれますが、一方でこれらは高地に位置することから、そこに至る道路は急勾配でカーブも多く、運転者にとっては神経を使う路線であり、安全確保の観点からも道路整備、保守の重要性を認識しているというところでございます。高地にある観光地に至る市道の冬期の凍結対策や危険箇所整備のルールについては特別な基準はございません。道路の整備につきましては大きく分けて維持管理と新設改良が上げられますが、いずれも通行量や利用形態、防災上の観点に立ち、具体的には地区を結ぶ主要な道路か、通学路か、緊急車両などの走行ができるか、危険箇所があるか、迂回路があるかなど、道路の重要度や優先度を目安として対応しております。冬場の路面凍結対策では、除雪や凍結防止剤散布の基準を申し上げますと、主要路線を中心とした指定路線を対象とした除雪は原則積雪量が10センチを越えると想定される場合、それから凍結防止剤散布は凍結のおそれがある気温０度として実施しております。また、凍結防止剤は指定場所へ配置し、適宜住民の協力を得て散布してもらっているという状況でございます。観光地へ至る市道は集落と主要道路などを連絡する生活道を兼ねているものもありますので、地区や観光担当部署とも連携を図りながら適正な道路管理に努めてまいりたいというふうに思います。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

青山議員。

１番（青山　　慶君）

２回目の質問です。

生活を最優先というのは当たり前のことでごもっともという感じですが、先日の年越しでベルピール自然公園でオールナイト営業がありまして、そこで除夜のベルというのが鳴らされたんですね。私もおくれていったんですけど、ライトアップされて幻想的でありまして、除夜とベルという語呂もいいと思います。これはかなり日の出まつり同様集客が見込めるんじゃないかと。ベルピール自然公園で除夜のベルを聞いて、そのままどこかの日の出まつりに向かうとか、そういったプランも考えられると思います。私、今回行ったんですが、除雪はされていたんですけど、圧雪が残っていた状態で、帰り道かなり決死の覚悟といいますか、下っていったんですけど、無事生還することができましてこの場に立つことができたんですが、観光という観点から事前に凍結防止剤などを散布して、そのイベントのときだけでもそういった連携ができないかというところを質問いたします。

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

私もこの間東粟倉に行きまして、今まで完全に冬場休業だったベルピールが寒さに耐えながら頑張ってるということ、あるいはそれなりにお客さんが来てらっしゃるんですね。考えてみれば、ベルピールもそうですけれども、私どもの高原の地にある観光施設、少なくともインバウンドだけをとってみても冬の日本っていうのは魅力的だってこともありまして、これはなかなかいい方向に物事が動いてるなと、こう感じて帰ってきたわけであります。その決断をし、努力をしている指定管理の方々の気持ちは非常にうれしいなということでいろんな形で応援していこうと思っとります。ことしの冬初めてあの坂道を除雪しましたけれども、除雪の仕方もいろいろあります。あるいは融雪剤がどこまでの気温できくのかっちゅう問題もあって、具体的にどう考えるかについては専門的な知見や、あるいは私の記憶でいえばこういった問題については西粟倉村が非常に造詣が深いんでスキー場へ至る道の除雪はどうなってるかとか、そんなことも含めて勉強させていただきながらいい解法があるかどうか検討させていただきたいと、こんなふうに思っております。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

青山議員。

１番（青山　　慶君）

ありがとうございます。ベルピール自然公園におきましては除夜のベルに限らず、最近ではコスプレの撮影が注目されているなど、かなり注目を浴びてきておりますし、その雪の降った風景というのもかなり需要のある状況だということですので御検討のほどしっかりとお願いいたしまして、この質問は終了します。

議長（鈴木　悦子君）

じゃあ、続いて５項目めに進んでください。

１番（青山　　慶君）

５項目めです。

近年、ブレーキとアクセルの踏み間違いによる事故をよく耳にするようになりました。美作市では美作署の管轄内では昨年１年で11件の当該事故が発生したと聞いております。これに先駆けて、美咲町では先進安全自動車購入費補助金という制度を導入して事故防止の取り組みを行っておりますが、美作市の考え方はどうかというところを質問いたします。

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

これはかなりおもしろい問題になっておりまして、そのブレーキの踏み違いに対していろんな技術的な工夫がされています。その中の一つは回転させなければアクセルが踏めないみたいな形にしてるやつとかいろいろあるんですけれども、実は開発されたのが関東のほうの発明家なんですが、アクセルを急激に踏むと急激さによってブレーキに変わる。つまり踏み間違えたらとまるっていう、そういう機構を特許取った方がおられます。ところがその方々がなかなか生産ができないということの中で生産に至るプロセスが今のところほぼ美作市内に全部来るということになっていて、市内の中小企業Ａさんのところ、Ｋさんかな、のところがその技術的な分析をし、そして私どもが御紹介をして美作市内のＡさんという企業の方にその製造をお願いし、そして私どもが国・県の助成の申請をしてさしあげて、恐らくこれがうまくいきますと美作市がこの踏み間違い防止装置、それも既存の車に取りつけることができるというやつについては100％の生産地域に

なる可能性が出てきておりまして、まずその産業政策の側面でも非常に大きな注目がされているということでございます。そして、このことは当然ですけども、最終目的は事故の防止、安全の確保でありまして、私どもとしても美咲町の例に倣ってこの製品ができて市内に普及ができる段階になりましたら所要の制度を考えていかなければならないというようなことを思っておりますが、その前にとりあえずことしはいわゆる選挙前の骨格予算ですので反映はその後にならざるを得ないというふうに考えておりますので、よろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

青山議員。

１番（青山　　慶君）

先ほどの美作市内某所で開発中という件は私も事前に聞いておりまして、実際体験に行きました。かなり使えるんではないかというふうに私も感じました。こうした安全を促進する仕組みが美作市から発信できるということも非常に喜ばしいことだと思いますので、市のほうもしっかりサポートしていただきたいと思います。

また、導入に対する制度なんですけど、美咲町の制度を批判するつもりはないんですけど、かなり条件が厳しいかなと思います。例えば新車であることというような条件であったり、65歳以上という条件があったりというところがあるんですけど、まず65歳以上で新車を買われる方ってそんなにいらっしゃらないんじゃないかなというところもあり、安全のために車を買いかえるということは多分されないと思うんで、できるだけ使いなれた車で安全をより高めたいというふうに考えるのが一般の方の考え方かなと。そして、今開発中の装置も今使ってる車に取りつけられるというところもありまして、補助の対象をそういったところも考慮していただきたいというところがあり、また65歳以上とあるんですけど、このブレーキの踏み間違いの事故というのは免許を取り立ての人も起こしている事故なんですね。私ごとですが、私40歳で免許を取りまして、この５月で丸３年になるんですけど、私もやったことがあるんです、ブレーキとアクセルの踏み間違えを。ちょうど２年ぐらいたって大分なれてきたころなんですけど、気を抜いてたんでしょうね。幸い周りに何もなかったのでひやりとしたこと、ヒヤリ・ハットですね。ひやりとしたことと、誰もいなかったんで１人で恥ずかしい思いをしたなというところもあったんですが、高齢者だけがこういう事故を起こしてるわけではないというところも現状を十分に踏まえて制度の検討をしていただきたいなと思います。

また、最後に宣伝になるんですけど、２月18日に技能祭みまさかというのが北部高等技術専門学校、安蘇にある学校です。技能祭みまさかというのが開催されて、この開発中の装置が展示されるということですので、興味のある方はぜひ見ていただきたいなと思います。

以上で５項目めの質問を終わります。

議長（鈴木　悦子君）

次に、６項目めに入ってください。

１番（青山　　慶君）

６項目めです。小・中学校の児童・生徒数減少に伴う問題への対策です。

小・中学校の児童・生徒減少に伴う問題として、クラスがえがないことにより幼少期から中学卒業まで同じ顔ぶれで過ごすことにより環境の変化に対応する力が身につきづらいという問題が発生して、市民からもそれを心配する声を少なからず聞いております。ちょうど年度も終わりに差しかかっておりますので、この問題について美作市のほうでどのように考えているか。対策をどのように考えているかというところを質問します。

議長（鈴木　悦子君）

教育長。

教育長（大川　泰栄君）〔登壇〕

失礼いたします。確かに市内小・中学校児童・生徒数少し減少しております。したがいまして、クラスがえができないと、地域によっては就学前から中学校卒業まで同じクラスで過ごすという状況が生まれております。小規模では環境の変化に対応できなくなるのではないかというようなデメリットも考えられるところではあります。それに対応いたしまして、例えば現在英田小学校におきましては、３、４年生では合同体育、合同音楽を実施しており、年下の児童が上の学年の子どもの姿に目標を持ったり、あるいは高学年の児童が年下の児童に教えることで自信を持ったりというメリットが生まれております。また、中学校区全体におきましても、中学生によるスマホ利用に係る啓発活動、これ中学生が自主的にスマホかるた、利用の仕方をかるたにしたもの、こうしたものをつくりまして小学校へ出かけていって、それを紹介しながらしっかりと教える。あるいは、小学校の児童会と中学校の生徒会が協同いたしまして地域清掃活動を行うなど、小規模ならでの連携した取り組みを進めております。今後も学校規模のメリットを逆に最大限に生かして、地域とともに愛されていると実感できる子どもたちの育成を目指した学校づくりを進めてまいりたいと考えております。

以上でございます。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

青山議員。

１番（青山　　慶君）

先ほどの答弁にありました異なる学年での合同授業というところについては、兄弟がいない生徒・児童ですと同学年以外に交流がないことが多くなると思います。また、兄弟がいたとしても末っ子の子が家庭内では一番下の立場ですけど、こういう合同授業ですと上の立場に、教える立場になったりですとか、逆に一番上の子が下の立場になったりですとか、いろんな立場を体験することができまして非常に有意義な取り組みだと思います。私も憧れの先輩がいたりして、こういう先輩のようになりたいというような思いを持ったりしておりました。ここで上下という取り組みがあったんで、同学年という取り組みという意味で私のほうから提案なんですけど、例えば同じクラスの中で９人の生徒がいたとしまして、３人ずつのグループに分けて、テストの点を個人点だけじゃなくてグループ点も競い合うというような取り組みをしてはどうかなというのがありまして、これ単純に高得点を争うという、評価をするということではなくて、そのグループ学習の中で役割を与えたりですとか、その子がそのグループの中でどういう振る舞いをするかというようなところを観察して、いいところは褒めてあげるとか、足りないようなところは助言をしてあげるとか、そういった取り組みをしてみてはどうかなと。さらに学期が変わるごとにそのチームがえをして人の入れかえもしてみてはどうかなと。これ私城東高校で野球やってたんですけど、城東高校ではキャッチボールを同じ相手としないようにというルールがありまして、これが単純なんですけど、かなり相手のことがよくわかるという、単純なんですけど深い取り組みであったというところもありまして、グループ学習をするというところと学期ごとにチームをかえる、こういった取り組みをしてみてはどうかというところを提案いたしますので、感想などをお聞かせいただければと思います。

議長（鈴木　悦子君）

教育長。

教育長（大川　泰栄君）〔登壇〕

本当によくお考えいただいた御提案をありがとうございます。この少人数の中で学ぶ、そしてただ単にグループで、よく小学校では班活動というような言い方をいたしますけれども、その班の中で学ぶということだけではなくて、この３人の中に役割分担、例えば私は司会をして学びを進めていく、私はこれに対して発表する、例えば先生が与えた算数の課題に対して私は考えて発表をすると、そしてそれを２人から意見を聞いて、そしてみんなどう思いますかという進行役を決めると。そうした形でやることは、これ実はアクティブ・ラーニングという考え方でございます。教え合い学び合うという考え方で、本当に大切な視点を持ったすばらしい御提案だと思っております。これは協働学習という言い方もいたしますが、市内でも取り入れて進めておる学校もございますので、ぜひこうしたことも進めてまいりたいというふうに考えております。子どもたちはこういう小グループでやるということは、ある意味では競い合い学び合う、私校長時代に中学校３年生です、３年生ですが、このグループで帰れま10という放課後学習をしておりました。帰れま10というのは何かというと、このグループの中の３人なり４人なりが全員その小テストの10点満点をとるまでは帰れま10ということでございます。どこかの番組の名前ですが、子どもたちはこのネーミングがとっても楽しいらしくって、きょうは帰れま10だから頑張るぞとかって言っておりましたけれども、これがただ単にできない子がつらい思いをするということではなくて、みんなで教え合いながら１回目は10人のうち８人しかとれない、３人のうち２人しかとれない、でも次にやったらとれるぞということで本当に楽しんで毎週のように基礎学習に取り組んでいた姿を思い出します。こうした学びにつながりますように、しっかりとそうしたことも含めまして学校で進めていただけるようにこちらからもしっかりアドバイスをしてまいりたいというふうに考えております。どうぞよろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

青山議員。

１番（青山　　慶君）

既にそういったグループ学習を手がけているということで、帰れま10という取り組み、楽しそうにやっている子どもたちの姿が目に浮かぶようでした。

学校での学習というのは社会に出るための訓練であって、１人で仕事するということはめったにないわけです。必ず複数人とかかわりながら仕事をすることになりますので、そういった訓練を早いうちからやっておくというのは非常に重要なことかと思います、私のサラリーマン時代での経験なんですけど。また、人に教えるというところも、私もその会社にいてそのノウハウをいかに人に伝えていくかというところを重点的に対応してきたんですけど、教えたことを人を教えさせるという、やっぱり人に教えられるかどうかというところが自分の知識の定着につながるかどうかというところが重要になってくると思いますので、そういったところもグループ学習で体験できるというふうに思いますので、非常に画期的なといいますか、有意義な取り組みだと思いますし、こういった学習が全面に出るように、美作市が日本国内でグループ学習ではトップだというようなところを目指していただきまして、この質問を終了させていただきます。

以上で今回の私の一般質問を終了いたします。

議長（鈴木　悦子君）

以上をもちまして通告順番16番、議席番号１番青山慶議員の一般質問を終了いたします。

以上で一般質問は全て終了いたしました。

これより１時まで休憩をいたします。

午前11時51分　休憩

午後１時00分　再開

議長（鈴木　悦子君）

休憩前に戻り会議を開きます。

15番岩江議員が出席をされております。

日程第２　　議案質疑（議案第１号～議案第４６号）

議長（鈴木　悦子君）

それでは、日程第２、「議案質疑」を行います。議案第１号から議案第46号を一括議題といたします。

これより質疑を行います。

なお、議案質疑につきましては、申し合わせにより発言の通告者は質問席で行い、議案質疑の回数は３回までとし、一括質疑となっております。また、通告をしていない者の質疑は１議案につき１件の質疑とし、自席で行うこととなっております。

なお、議案質疑は一般質問化しないようにお願いいたします。

質疑の発言につきましては、お手元に配付しております。発言通告順により議案ごとにその都度発言を許可いたします。通告をしていない質疑につきましては、通告のありました質疑の後、お受けいたします。

初めに、議案第１号「美作市音声告知放送基幹設備・戸別放送端末購入契約の締結について」の質疑を行います。

それでは、発言通告順に発言を許可します。

通告順番１番、議席番号４番岡野鉄舟議員。

岡野議員。

４番（岡野　鉄舟君）〔質問席〕

議長の許可をいただきましたので、議案第１号について議案質疑をさせていただきます。

この告知放送につきましては、当市、美作市の私は29年度の重大案件としてこの告知放送と行政改革だろうと思っておりますが、先ほど議長は一般質問化しないようにという教育的指導がございましたが、この問題についてはやはり昨年６月議会において岡本議員が政治生命をかけて質問をされておりました。ところが、６月議会で急遽一転、こうやって質問をしようとされるときに市長が変えますとこう言われて、以後９月議会、12月議会と長くなっております。そこでこの契約につきまして、やはり市民の皆様が御存じないと思いますので、若干その前の前提として整理をさせていただきたいと思います。

御承知のように、この契約は10年契約でＩＲＵないしはＩＵＲ契約と言われております。慌ただしい作業において、職員の方々は12月の議会が終了する前に作業されております。それはどういったことかと申しますと、美作市音声告知放送システム選定プロポーザル実施要領ということで、12月15日に美作市公示第30号で公示をされております。そして大事なことなんですが、この第８条をお聞きいただきたいと思います。「本プロポーザルは当該事業の予算成立を前提に準備行為として行うものであるため、予算が成立した後、審査結果により決定された事業者と契約の締結を行うが、予算成立がなされなかった場合は契約の締結は行わない」と、こういったもので12月議会終了前に出されております。そして、さらにその下部規定でございます実施要領におきまして細かく規定をされておりますが、御承知のない皆様方もいらっしゃると思いますのでここで御紹介をさせていただきます。まず、納入期限でございますが、音声放送基幹設備については平成30年４月30日までに設置完了、そして戸別放送端末につきましては平成30年５月１日までに2,000台、そ

して残りを暫時８月31日まですることであると、こういった実施要領が規定されております。そして私はここで声を大にして多くして申し上げたいのは、この実施要領が12月15日に発表されて、そして応募受け付けを当日開始し、質疑の受け付けを12月18日から12月22日、参加表明の提出を御用納めの日の５時までと。そしてまた、第１次審査を御用始めの日の１月４日にやるという非常にタイトなスケジュールでございます。担当職員の方は年末も年初めもない、残業されたんではないかと、非常に職員の方々には御苦労を思っても本当に余りあるものがございます。そして年が明けて１月中旬に仮契約を設定しているはずなんですが、そして本契約を当議会において提示をされております。こういったスケジュールの中でやっておられるということをテレビを見ていらっしゃる市民の方々にも知っていただきたいし、お聞きいただいている議員の皆様も恐らく御存じないんではないかなと思いますので、こういった前提のもとに私はこの議案第１号について質問をさせていただきたいと思います。

質問項目は２つございますが、第１番目、告知放送設備、端末機購入契約の公募に何社あったかと。この点につきましては、市長が行政報告の中で言われておりますように４社であるということは既に皆さんもおわかりのとおりでございます。先般の岡本議員の説明でもこういう答弁があったと思います。したがいまして、何社あったかという質問をやめまして、１つ池田部長に確認をさせていただきます。実施要領の３ページですが、確認をさせていただきます。参加表明をした事業者が５社以上あった場合は審査委員会において参加表明を審査し、こうこうありますが、５社以内であれば担当課において書類の確認を行い、ヒアリング要請者の選定を行わないということなんですが、このとおりであったかというのが第１点目でございます。

そして質問の２つ目の契約金額１億692万円の根拠となる予算の内訳を項目ごとに金額を教えていただきたいと思います。これが第１点目の質問でございます、１回目の質問です。

議長（鈴木　悦子君）

企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）

告知放送の御質問でございます。

第１点目の要領に基づきます取り扱いでございますが、議員のおっしゃるとおり４社でございましたので、担当課のほうにおきまして書類審査を行いまして４社が一応１次審査合格ということでプロポーザルのほうへ参加をいただいてるところでございます。

続きまして、２点目の予算の根拠でございますが、この予算の根拠につきましては12月補正におきまして美作市告知放送設備整備費といたしまして５億2,000万円の債務負担行為予算を御議決いただいているところでございます。この予算の内訳といたしましては、このＦＭ告知端末の設置、購入等につきまして１億9,764万円、それから電気信号を音声信号に変換する装置といたします購入費といたしまして5,022万円、それからＦＭ告知端末設置費といたしまして１億8,739万円、それからＦＭ告知設置作業委託費といたしまして453万6,000円、それから新放送サービス構築委託費といたしまして388万8,000円というふうな内訳になっております。このうちのＦＭ告知端末及びセンター設備購入費の１億9,764万円に基づきまして今回の予算につきまして契約を締結させていただくものでございます。

以上でございます。

議長（鈴木　悦子君）

岡野議員。

４番（岡野　鉄舟君）

２回目の質問をさせていただきます。

まず、最初の何社あったかという契約の関係でございますが、告知放送の説明会は昨年末にかけて何回かやっていらっしゃいます。私は年が明けて１月中旬ぐらいですが、この説明会の情報公開請求を総務課のほうに参りました。担当の方は来られたんですが、ホームページにその内容をアップする予定なのでということでございましたので私は情報公開請求をしなかったです。今回、けさ来るときにも見たんですが、いまだその告知放送の説明会がありません。そこで質問なんですが、どのような何回かやられた説明会の中で市民の方々から非常に不安があると思うんですが、要望が出されて今回の契約はそれらに対して当社についてはクリアしたものかということが質問の、契約関係の１つ目の質問です。

そして２つ目の質問でございますが、実は先般岡本議員が質問された確認書についてでございますが、岡本議員も質問をなさいました。若干ダブるかもしれませんが、私なりにこの確認書がどういった意味合いを持つのかなということを質問させていただきます。これは説明会のときに配られた美作市の告知放送が新しくなりますと、こういったことなんですが、この２ページ目の……。

議長（鈴木　悦子君）

岡野議員。ここに通告をしてある１、２とあるんですが、このことに関してだけ質問していただきたいと思います。

４番（岡野　鉄舟君）

ですから、私はしているつもりなんですが、契約に関してということでございますから、まさにダイレクトな問題だろうと思います。

議長（鈴木　悦子君）

契約に関して告知放送設備、端末機購入契約の公募に何社あったか。それから、契約金額１億692万円の根拠となる予算の内訳、これだけ出とんです。ですから、これに絞ってしていただきたいと思いますのでお願いします。

４番（岡野　鉄舟君）

それは議長、まさに今回はこの契約について私は質問をさせていただいとるわけですから、何社あったということであれば、ここの中の契約の中にはその契約の相手も載っているわけですから、まさに関連するものだと思いますよ。

議長（鈴木　悦子君）

余り広くならないようにお願いしますから。

４番（岡野　鉄舟君）

広くならない、それは気をつけますから、教育的指導に従います。

この確認書なんですが、この２ページ目のところに２月、３月に説明会をされるというふうになっているわけなんですが、私の手元じゃなくて家にも確認書が届いたんですが、本来確認なるものは機種が選定された後、決まった後するもんだと思うのですが、この辺はどのように理解をしたらいいのかの質問でございます。

そして、今度は契約金額そのものについてなんですが、ちょうどここのこれの３ページ目のところに分配器があるんですが、お聞きしたいのはこの分配器は幾らでこれに係る工事費は幾らかということを契約金額に関係して質問をさせていただきます。済いません、２回目です。

議長（鈴木　悦子君）

企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）

２回目の御質問でございます。

１点目の説明会等での要望ということでございますが、説明会等での要望といたしましては大きいものでございましたら具体的に設置場所、どういった場所に設置できるのかというところと、それから録音機能があるのかというところ。それから、また停電になった場合はどうするのかと、そういった大きな要望がございます。そういった要望を踏まえまして今回選定させていただきました機種につきましては当然録音機能、これ10分間の録音機能がございます。それから、停電時につきましては乾電池、そういった乾電池のほうで対応していただくということになっておりますし、それからいわゆる停電等につきましても非常時等につきましても乾電池でもってつけていただきますといろいろなところへ持ち運びをいただけるといった、そういった利便性の高いものを選定させていただいているところでございます。

それから、２番目の確認通知ということで機種が決まってからということでございますが、これは昨日の御答弁の時にも御提示させていただきましたけど、この通知につきましては端末の設置を促進するためにお送りさせていただいたものでございまして、ぜひともこの通知のほうへ設置するというふうなことを御記入いただきまして企画振興部のほうへ送り戻しをいただければというふうに考えております。

それから、３点目の分配器のことにつきましては、この分配器につきましては今回の契約の中には入っておりません。

以上でございます。

議長（鈴木　悦子君）

岡野議員。

４番（岡野　鉄舟君）

３回目、最後の質問をさせていただきます。

質問はこの３回で、後は総務委員会で御審議いただくということを、引き継ぎをさせていただくわけですが、最後の質問といたしましてシンクレイヤの広島営業所というとこが契約をされるわけなんですが、１つ大事なことなので、あと10年続くんだろうと思いますが、御承知のように告知放送は市民の安全と安心に欠くことのできない事業でございます。途中でとまった、動かなくなったということはあったらいけないと思います。そういったことで担当課におかれてはパーフェクトな審査をされたと思いますが、１つ御質問なんですが、いろいろ私も仕様書を見せていただきました。その中で当社について絶対安全だよということはどういった基準で担当課において審査をされたか、私これが最後の質問でございます。いいですか。安全であるかどうかということです。

議長（鈴木　悦子君）

企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）

それは端末機ということですか。

〔４番岡野鉄舟君「いや、そうじゃなくて契約のシンクレイヤ社が」と呼ぶ〕

シンクレイヤにつきましては、書類審査等を行った結果でございます。それから、先日の質問にも御答弁させていただきましたけど、近隣の市町村において実績がございます。10年以上の運営実績を持っておられる会社ということで、そういったものを踏まえて選定をさせていただいたものでございます。

以上でございます。

〔４番岡野鉄舟君「それを聞いて安心いたしました。ありがとうございました」と呼ぶ〕

議長（鈴木　悦子君）

続きまして、通告順番２番、議席番号６番倉地重夫議員の発言を許可します。

倉地委員。

６番（倉地　重夫君）〔質問席〕

私は現在の機器が耐用年数が経過し、更新が必要であるとされて今回の新しい機器の導入になったわけでありますが、今度導入される機器の耐用年数はどのように試算されているのかお尋ねいたします。

議長（鈴木　悦子君）

企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）

新しく導入する告知システムの耐用年数でございますが、まず基幹設備でございますシステムサーバーや操作用のパソコン、これにつきましては耐用年数が５年となっておりますが、戸別放送の端末につきましては耐用年数につきましては購入業者から10年間は補修保証をするという保障をいただいているところでございます。

以上でございます。

６番（倉地　重夫君）

10年ごとにこういった予算が発生するということにもつながると思いますんで、間のメンテナンスとか、そういったことをきっちり、先ほども答弁がありましたが、市民に対して次から次へお金のかかることのないようにということを希望しておきます。

以上。

議長（鈴木　悦子君）

続きまして、通告順番３番、議席番号15番岩江正行議員の発言を許可します。

１５番（岩江　正行君）〔質問席〕

同じ質問なんですが、重複することもあると思いますけれども、この耐用年数、５年じゃとか10年じゃとか言ようるけれども、大原のほうが防災無線やってからはやもう、合併以前にやっとるやつが十分聞こえるんじゃ。この間も笹岡のほうで火災じゃというて言うたら、もうウオーンというて何があったんか思うたら、そのくらいまだ機能が物すごうきちっとした形の中で皆さんに危険を知らすわけですが、５年じゃ10年じゃというて先ほども言いよりましたけども、５年や10年ごとにこんだけのお金が要る言ようたらたまったもんじゃねえ。そういうような形の中で、このような今までの実績を踏まえて、こういうなとこが今言う入札に参加しとんか、参加してないんか。それから、めげるとこばあの会社が５年ぐらいのめげるとこばっかしの会社でプロポーザルされたんか。よその地域の、周辺地域の機械の今そういうようなものをよう踏まえてやられたんか。このプロポーザルでやった言われるんじゃけれども、やっぱしこの金額、金額の出し方じゃな、これ。何社か公募した、そこん中で一番安いとこと、ええとこと安いとこと契約しましたというような話なのか、それとも専門的な調査研究されて、その委託料でも払うてどっかメーカーに委託して調査研究されたんか。その辺のところについての答弁をお願いします。

議長（鈴木　悦子君）

企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）

１点目の耐用年数の御質問でございます。

これは端末の耐用年数でございますが、この耐用年数につきましてはこのプロポーザルの審査項目の一つ

として耐用年数がどのくらいになるかということで各提案の会社から耐用年数等をお聞きした上で、この今提案させていただくこのシンクレイヤ会社が製造するこの機種が一番耐用年数が長かったということも踏まえまして選定をさせていただいたところでございます。

それから、金額につきましては昨日の岡本議員のほうにも答弁をさせていただきましたが、提案の内容、それから金額、そういったことを総合的に審査した結果ということでこの金額ということにさせていただいたところでございます。

以上でございます。

議長（鈴木　悦子君）

岩江議員。

１５番（岩江　正行君）

よう話が通じんのんじゃけど。今、美作市の市内の中の大原地域の中にある防災無線が平成何年か、当初のうちに設置したんじゃ。これめげんのがおかしいんじゃろうか。やっぱし５年ごとにめげないけんのじゃろうか。なぜこういうなとこに研究せんのんですかということを、それをしとんかしとらんか、そのことを尋ねとんじゃから、そのことについての答弁をお願いしたいと言ようるわけじゃから。

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）

そのことでしたら、まずなぜ今回こういうことが発生したかというと、10年前の契約が予定していたからであります。つまり、10年前の契約は基本的にはＮＴＴさん何かとともに現行の機種を入れてＩＲＵを設定してやったわけですが、ＮＴＴさんのほうとのＩＲＵ契約が切れて、そしてさらにそのＮＴＴの通信方式が変わったということから交換をせざるを得ないという状況になったと、こういうことでありまして、10年前に岩江議員がどう議論されたのか知りませんけれども、10年前におっしゃったらすばらしかったろうと思います。私はそういう状況を考えて、今回についてはＦＭ告知にしましたから、ＦＭ告知の運用主体は今度は御案内のとおりみまちゃんでございます。みまちゃんは私どものある種の出資会社でありますので、私どもと同一歩調をとってくれます。そして、さらに申し上げますれば、今回の端末についてはこれはもちろん保証期限というのは10年でありますが、実効的にどれぐらい持つかについては恐らくそれは長くもつだろうということは明確でございます。いずれにしましても、岩江議員の御質問は10年前にされるようなことだと思います。

議長（鈴木　悦子君）

岩江議員、３回目です。

１５番（岩江　正行君）

とりあえず、市長言うのとちょっとずれとんじゃ、市長、話が。私が言よんのはＮＴＴの話しょうらんのんじゃ。防災無線でも大原地域が合併せん以前に調べてもろうたら、合併せん以前に設置した、それがいまだたってもう故障も何もせん、十分市民に危険を知らすような、安全・安心のために機能を発揮しょうるのに、何で、ほんなら10年前の話をしょんじゃないんで。あんたの話聞きょうたら、10年前にＮＴＴがしたやつがここまでもった、これこれ契約が切れたからというような話しょうるけども、ほいでまた今回こういうようなことをしょんじゃというんじゃ。また５年じゃ10年じゃというような話しょうるから。そういうな繰り返しじゃなしに、大原のときに入れた防災無線が長いこともっておるのに、何でそねえなとこについての調査研究は、そこのメーカーなんかでも聞いて調査研究はされてないんですかということを聞きょんじゃか

ら、聞いたことだけ言うてください。

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）

これはお答えをしたわけでありますから、ちゃんと理解をいただきたいわけで。大原の防災無線と同様に今回の機種も保証期間10年を過ぎた後も使えるということを申し上げたわけです。したがって、研究が済んだからこうしたんだということであります。終わります。

議長（鈴木　悦子君）

通告者の質疑が終了いたしました。

ほかに質疑を受けますが、ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようですので、これで議案第１号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第２号「美作市こぶしの里設置及び管理に関する条例の廃止について」、質疑を行います。

発言通告がございませんので、ほかに質疑を受けます。

ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようですので、これで議案第２号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第３号「美作市附属機関設置条例の一部を改正する条例について」、質疑を行います。

発言通告がございませんので、ほかに質疑を受けます。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようですので、これで議案第３号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第４号「美作市職員の分限に関する手続及び効果に関する条例の一部を改正する条例について」、質疑を行います。

発言通告がございませんので、ほかに質疑を受けます。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようですので、これで議案第４号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第５号「美作市職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例について」、質疑を行います。

発言通告がございませんので、ほかに質疑を受けます。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようですので、これで議案第５号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第６号「美作市職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について」、質疑を行います。

発言通告がございませんので、ほかに質疑を受けます。

ございませんか。

萬代議員。

１２番（萬代　師一君）

議案第６号につきましては、29年４月に遡及して施行するという説明でございました。このことによりましてラスパイレス指数がどのようにかわってくるのかをお尋ねいたします。

議長（鈴木　悦子君）

総務部長。

総務部長（岡本　和之君）

ラスパイレスの御質問でございますけども、まことに申しわけございません。今手元に資料を持っておりません。申しわけありません。お答えできません。

議長（鈴木　悦子君）

萬代議員。

１２番（萬代　師一君）

手元に資料がないからお答えできませんということですけど、いつの段階でお答えいただけるんでしょうか。それだけ確認させてください。

総務部長（岡本　和之君）

まことに申しわけございません。すぐに資料をつくるように指示をしておきますので、申しわけございませんがお待ちください。

議長（鈴木　悦子君）

萬代議員、よろしいですか。

ほかにはございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようですので、これで議案第６号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第７号「美作市特別職の職員の給料及び旅費に関する条例の一部を改正する条例について」、質疑を行います。

発言通告がございませんので、ほかに質疑を受けます。

質疑ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようですので、これで議案第７号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第８号「美作市国民健康保険税条例及び美作市国民健康保険条例の一部を改正する条例について」、質疑を行います。

それでは、発言通告順に発言を許可します。

通告順番１番、議席番号６番倉地重夫議員。

倉地議員。

６番（倉地　重夫君）〔質問席〕

私はこの条例の変更の細かい数字をずっと計算してみたんですけれども、文章で細かく解説されておりますが、標準的な世帯、これが例になるんかどうかわかりませんが、夫婦、子ども２人、所得300万円くらいの世帯について現行税額が幾らくらい安くなるのか、数字でお答えを教えていただきたいと思います。

議長（鈴木　悦子君）

市民部長。

市民部長（角南　良雄君）

標準的な世帯、例えば夫婦、子ども２人、所得300万円ぐらいの所得について現行税率が幾らぐらいになるかということでございますが、夫婦の年齢を40代とし、４人全員が国保の被保険者、世帯所得300万円とすると現行税率での国保税の年税額は50万7,100円となります。しかし、新税率では48万5,900円となり、２万1,200円の減額となる予定でございます。

６番（倉地　重夫君）

どうもありがとうございました。

議長（鈴木　悦子君）

続きまして、通告順番２番、議席番号３番岩﨑清治議員の発言を許可します。

岩﨑議員。

３番（岩﨑　清治君）〔質問席〕

それでは、国保の税条例、国民健康保険税条例のほうの内容についてお尋ねをしたいと思います。

まず、提案説明のときに余り詳しい説明がなかったので私の１番にしては基礎的な数値をペーパーで欲しい。ていいますのが、これ一般質問化しないようにと言われてるんですけれども、国保や介護保険というのは一般会計とは大分異なりまして支出があって、その必要経費として収入を得るために賦課をします。これはもう御存じのとおりだと思うんですけど、じゃあ支出の残高どうなるんか、こうなるんか。あわせて、これ減になっとりますわね。減になってて、先ほどの倉地議員の平均的な家庭では２万1,200円ですか、これだけ下がるというふうに説明をされてるんですけど、これ議案自体が後ろに後ろに入ってるんですけど、29年度の決算見込みも欲しいわけですよ。それから、30年度の予算も見ないと条例とどうなんかっていうのはわからない。30年度の予算の税収だけを見ましたら、これおおむねですけど５億1,000万円ほどの予算がされています。ちなみにですけど、私の調べた範囲内では28年度が、これ決算で僕見たと思うんですけど、予算ではないと思うんですけど、５億7,000万円ほど。これは予算書上ですから、これは数値が変わってくると思うんですけど、現在の29は５億円。本来だったら先ほど言われた数字が下がるはずですよね。下がってないんですよ。それで一方では、きょうの一般質問でもあったんですけど、制度改正で県に保険者が統一されますよと。予算書上を見ると、30年度の予算は五、六億円下がってるわけですよ、必要経費のほうが。だから、それの一般財源、結局国保税部分がそれだけ下がるのは理解するんですけど、ちなみに29年度は基金からの繰入金を１億円の上使ってるわけです。決算じゃないんでまだわかりませんよ。今の私の調べた限りでは１億円の上使ってる。それから、繰越金もがんとなくなってしまってるわけです。ということは、今年度については税収不足、逆に言うたら同じ制度が続いてるんだったら税率は上げにゃいけんわけです。下げる、逆ですよね。それを先ほど言いました制度改正で五、六億円下がってるからある程度下がる可能性はあるんですけど、基金の残高も含めてどのくらいにいるんだっていうのが１つ。それを調べるのは条例を見ないとそれがはっきりしてこないんで、そのことを聞いてます。私のほうの質問につきましては、条例のほ

うについてはこの条例をそのまま施行した場合に幾ら下がるんですか。これ言うと30年度の予算が違うてくることになるんですけど、そのあたりを特に積算、基礎的な資料の配付をお願いしたい。

次に、これの基礎的な資料をもとに金額を設定されてるんでしょうけど、税が幾ら下がるんですか。試算が幾らになってるんですかという、その２つを教えてください。

議長（鈴木　悦子君）

市民部長。

市民部長（角南　良雄君）

資料については後ほどということにさせていただきたいと思います。

それから、税額どのくらい下がるのかということでございますが、新税率でいきますと総額で４億9,319万7,000円、これは収納率をかけたものです。それから、現行のままでいきますと５億1,350万9,000円になる予定でございます。

以上でございます。

議長（鈴木　悦子君）

岩﨑議員。

３番（岩﨑　清治君）

資料がなしに審議するっていうのが、これは無理があると思うんです。資料なしにこれ審議して議論してあと質問できないでしょ、ほかの方も含めて。後で配ったんだったら審議できませんよ。議長、どうですか。

議長（鈴木　悦子君）

岩﨑議員、資料の請求はされてたんですか。

３番（岩﨑　清治君）

いいえ。資料を出すのが当たり前だろうと思うから請求しておりません。説明を求めてるんだったら、じゃあしてください。それと私は今欲しいんです、休憩してでも。

それから、もう一点、４億9,000万円ほど言われましたよね。これそのときに言わせてもらおう、そっちのほうがいいんだったらそれでもいいんですけど、30年度の予算、私が見る限り５億1,000万円ありますよ。整合性がとれてない。だから、そういうふうな意味合いもあって資料をもらわないと。条例改正ですから、質疑をしなきゃいけない。その条例のもとたる資料もなしに審議をしなさいということですかという意味。だから資料をくださいと。お願いします。

〔「議長、休憩をお願いします」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

それでは、調整のために暫時休憩をいたします。

午後１時38分　休憩

午後１時57分　再開

議長（鈴木　悦子君）

休憩前に戻り会議を開きます。

岡本総務部長より発言を求められておりますので、許可をいたします。

総務部長。

総務部長（岡本　和之君）

失礼いたします。萬代議員にはまことに申しわけございませんでした。

それでは、お尋ねのラスパイレス指数についてお答えをさせていただきます。

29年度の試算でございますけども、97.6％ということでして、ちなみに28年度は97.5％でございます。しかしながら、今回の条例の改正によって変動になるものではないということでございまして、職員の採用、退職によって0.1違うだけで、今回の条例改正については同じ割合での上がり下がりでありますので変更はございません。

議長（鈴木　悦子君）

それでは、角南市民部長より答弁のほうをお願いいたします。

市民部長。

市民部長（角南　良雄君）

先ほど失礼しました。それでは、お手元に資料をお配りさせていただいておると思いますが、説明をさせていただきます。

この資料は、国保運営協議会で出させてもらった資料でございます。この資料については、一般被保険者を対象にしたものでございます。まず、県が示した納付金を納めるために必要な税率として示したものが２の県案税率でございます。それから、現在の美作市の税率は①でございます。この①と②との間にはどれだけの差があるのかを示したものが星印のところの下のほうになります。医療分、後期分、介護分、全てにおいて現行税率のほうがこの表に示した分、高いことがわかります。30年度の税率として提案させていただく数値は③、一番下になります、改正案でございます。県の案をそのまま適用するのではなく、星印の差を全て２分の１、半分解消するような税率を減少させております。この率に基づきまして、11月１日現在の所得を使用し、それぞれの調定を計算し、県の示した被保険者数により１人当たりの調定額をはじき出し、現行税率と比較しましたところ１人当たり約4,400円の減少となりました。

以上でございます。

議長（鈴木　悦子君）

岩﨑議員。

３番（岩﨑　清治君）

今、配付があってぱっと見てる部分で細かい質問っていうのはできないんですけど、今一般の人というて退職の人は違うという意味ですかね。退職の人と一般の人のマッチした数字でないと、倉地議員に言われたのは、先ほど世帯ごと、もう仮説の人数が違うんですけど、言われたのは先ほど２万円少々って言われたみたいに思うんですけど、これ世帯で言うたら6,100円、数字が大分違いますわね。それから、トータルで2,120万円という数字をいわれましたかね。このあたりに含めましたらおおむね５億円という規模だとするとおおむね数字はわかるんですけど、１点、一番最初に言いました歳出を決めてから要る費用をする。このシステムではないようなやり方をされてるみたい。県の標準指数をされてると。これ困るんじゃないかなっていう気がするんです。税率の問題なんで、それほど。ここの場所だけでいうと非常に困る部分があるんですけど、ちなみにそちらのほうでも質問をするんですけど、今年度の国保部分については下げない、現状ですよね。そのときの１億円幾ら金額が、基金繰り入れが１億1,000万円、支出総額42億円程度、これ予算規模ですけど、40億円になるかもわからんのですけど、その中で不足額が１億円幾ら今時点ではあるわけですよね。そこら辺の精算を整理してないと、この税率改正の数値っていうのが正しいかどうかわからないのじゃないかなっていうのが私の意見なんですけど、話を聞けば聞くほど時間がかかるし皆さんに御迷惑かけますんで、委員会のほう十分時間がありますんで審議をしていただいて報告のほうをお願いしたい。非常にこ

の予算については、特に数値的なもんについては疑問があります。整合性がないような気がするんで、私３回目ですからもう時間ないんで、委員会のほうへ譲りますので十分な審議をお願いしたいと思います。

以上で終わります。

議長（鈴木　悦子君）

通告者の質疑が終了いたしました。

ほかに質疑はございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようですので、これで議案第８号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第９号「美作市手数料徴収条例の一部を改正する条例について」、質疑を行います。

発言通告がございませんので、ほかに質疑を受けます。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようですので、これで議案第９号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第10号「美作市介護保険条例の一部を改正する条例について」、質疑を行います。

それでは、発言通告順に発言を許可します。

通告順番１番、議席番号10番岡本泰介議員の許可をいたします。

岡本議員。

１０番（岡本　泰介君）〔質問席〕

今回の改正を見てみますと、月額にすると150円から570円ぐらい、私計算してみたんですけど、下がってるということでございます。下がるということはいいことなんですけれども。この介護保険料については以前にも議論があって、少し取り過ぎてたんじゃないかという話が前にも出たと思います。それで今回お伺いするんですけど、27、８、９、３カ年やったと思うんですけど、そこのときにどの程度基金が年次別にたまっていったのかお知らせいただきたいと思います。今年は見込みになると思いますけど、見込みで結構ですので。

議長（鈴木　悦子君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）

失礼します。先ほど資料のほうは配付させていただいたものを見ていただきたいと思います。

基金の積み立てにつきましては、毎年度、第６期中には毎年度やっておりません。ある程度の金額がたまってから一度に基金を積み立ててた年もありますので、ここではどれぐらいの余剰があったかということについて説明をさせていただきます。頭に、表題のほうに第６期介護保険第１号被保険者保険料と書いたものがあると思います。それで第６期計画値というのが一番左にありまして、それの下から２行目です。月額6,450円、これが第６期の基本額となるものでございます。その右側から３列です。27年度実績、28年度実績、29年度実績ということで、月額の決算見込み額を出しましたところ、このように5,875円とか5,842円、今年度につきましては見込みになりますが6,167円ということで、これが月額、これと6,450円の差額が結局基金のほうに、余剰金に回ったということになります。決算につきましてはこれに納税者数をかけるようになりますので、済いません、ここの人数です。27年度の5,875円の上の段、10,404人というのがこれが被保

険者数になりますので、この差額にこの人数を掛けるとそれぞれの年度の余剰金ということになりますので、よろしく御理解いただきますよう。

１０番（岡本　泰介君）

計算せにゃいけんが。議長、計算するけん。議長、計算せんといけんから、質問続行できんけん、計算する時間ください。今、はっきり言われんから。人数掛けにゃいけんが。

議長（鈴木　悦子君）

今計算してますから。計算できましたか。

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）

それでは、年度ごとに申し上げます。

27年度が7,178万7,000円、28年度が7,700万7,000円、それから29年度の見込みが3,586万6,000円ということになると思います。

１０番（岡本　泰介君）

わかりました。そうすると、ざっと１億七、八千万円の基金が現在残ってるという判断でいいですね。そして、今回150円から510円下げられるんですけど、これは当然だというふうに理解していいですよね。下げられて当然だというふうに私は理解します。ことしも6,167円ですから6,450円から比べれば約300円多いかったということですから、今回平均すれば300円程度の値下げですから、これは当然だなというふうに思います。それのに、この条例の一番最後の３ページに一般会計から特別会計に繰り入れるというような言葉が出てるんですよね。これする必要ないんじゃないですか。これをしなくても、繰り入れしなくても300円ぐらいは基金を使えば十分下げられるという判断を私はしますけど、どうしてこういう条例になってくるんでしょうか。

議長（鈴木　悦子君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）

失礼します。介護保険料の引き下げにつきましては、平成29年度の当初から里山の交付金を介護保険の１号被保険者のほうに充当させていただくという考えのほうは答弁をたびたびさせていただいておりました。確かに基金だけで引き下げ300円というのは、当初の予定では確かに議員がおっしゃるとおり可能な数値であったわけですが、国のほうもいろいろと制度改正がありまして、調整交付金の率が変わりました。それから、１号被保険者の負担率が22％から23％に引き上げになりました。それから、計画期間中に消費税が31年10月から引き上げになります。それから、もう一つ、介護員の処遇改善加算、これが保険料のほうに反映しなければならない。それと介護報酬の引き上げ、去年の年末にありましたが0.54％、この引き上げがありました。ということで、当初想定しておった額を大幅に需要額が上回りまして月に直すと6,800円程度を徴収しないと保険料会計が予算組ができないというような状態になりましたので、基金及びその里山交付金を両方投入しないとだめという判断のもとにこういうふうな条例にさせていただいております。

議長（鈴木　悦子君）

岡本議員。

１０番（岡本　泰介君）

いろいろと先々の計算をされて、不安があるからということでしょう。そういう思いもわからんわけじゃないんですけれども、どうしたらいいんですかね。前回はとり過ぎとって、今回はそれを使ってしまってさ

らに基金を繰り入れなければならない。基金を繰り入れてる市町村というのは日本全国あるということは聞いておりますけど、数もまだ非常に少ない。そういった状況で日本は来てると思います。これを一旦繰り入れ出すと、次から次に繰り入れしていかにゃいけんのじゃないかというおそれもあります。そういったことを考えたときに、それは最後の最後の手段としてやるべきであって、何も今する必要は私はないんじゃないかという判断をしておりますが、その点はいかがでしょうか。

議長（鈴木　悦子君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）

介護保険料の負担を軽減するということで市民の皆様にはお知らせをしてまいりました。一般財源の繰り入れをしなければ、基金はもう全額使ってしまわないと引き下げというか、据え置きの方向もかなり難しいと思います。そうした中で今年度、今度は第８期、９期に向けてのことも考えていかないといけませんから、多少基金も残を残すような形で介護保険の運営をしていきたいというふうに考えております。

以上です。

〔10番岡本泰介君「終わります」と呼ぶ〕

議長（鈴木　悦子君）

続きまして、通告順番２番、議席番号３番岩﨑清治議員の発言を許可します。

３番（岩﨑　清治君）〔質問席〕

まず、今資料もらったもので改めて見ていったわけなんですけれども、29年度の介護保険の事業量の見込み額40億8,500万円ですか。この金額の、例えば極端な話、今年になってから、ことしの１月、２月になってから徐々に上がっていってるんかどうか。といいますのは、来年、30年度にここに出てる数字は43億2,300万円という数字が出てまして、２億7,000万円ですか、数字をふやされてるわけですわ。実際、こういう推計に、その片方では保険事業会計の委員会等でそういうシミュレーションになってるんだろうと思うんですけど、現実的に可能性がどの程度あるんかという部分が１つと、先ほど言われた、岡本議員の言われたように、なぜこんなことを聞くかというたら、今の保険料が今時点では高かった。だけど、30年にどの程度になるのが普通なんかと、入れる入れんっていう話は別なんと、普通なんですかという意味合いでのお尋ねです。31年以降については、そりゃもう私が想像する範囲内を越えてますんで、指数も何も持っとりませんので越えております。

それから、一般会計から入れる。これ私昨年９月議会ですか、大分話をさせていただいたんですけど、そのときの資料も含めて今回も改めて資料をして、もちろん部長のほうがよく知っとられると思うんですけど、概略をして言いますと、政令により制度化された仕組みの枠外、制度化されてるのは消費税の関係で、一般会計から国の補助金もらって入れますよっていうのが今現在されてる。これは制度化されてるんですよね。その「枠外で、低所得者の保険料軽減に要する費用を一般会計から特別会計に入れることは適当ではなく」、これは前後の文章があるんでちょっと違うようになるんですけど、市独自の補填はできない。「また、一定の所得段階に該当する者に対して一律に減免を行うことは、当該者に対して所得に応じた段階別保険料設定による応分の負担を求めているにもかかわらず、これに加えて」、全部読みますけど、「他の第１号被保険者の保険料を財源とした減免を一律に行うこととなり、公平性の確保の観点から適当ではない。保険料の減免、いわゆる単独減免についても、被保険者間の公平性の確保や、健全な介護保険財政の運営と財政規律の保持の観点から、従前からお示ししてるとおり、保険料の全額減免、収入のみに着目した一律減免、保険料減免分に対する一般財源の投入については適当でない」というのが、これは知っとられると思う

んですけど、国からの通達文書の一部ですよね。この文章が何回も出てるわけです、質問に対してね。今回についても、一般質問のときにおかしいですよと言いながら、今回についてもこの附則の部分にされとります。ちなみにですけど、そのときも議論したと思うんですけど、全国が1,718市町村ですか、ただし広域連合されてる部分、介護保険の分はあるんでこれよりも減ると思うんですけど、この中で10件ほど、先ほど言いました保険料の減免とかどうのこうの、３原則に違反してる、国の指示に従ってないの。そこに向かおうとしてるのが美作市なんですよ。このことについて、市長はされると言ったんですけど、少し法的に、違法行為に罰則規定はないのが現状です。それは知ってます。おかしいんではないかなという意味合いも含めての質問なんですけど、２点御質問をいたしました。

議長（鈴木　悦子君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）

まず、給付額のほうですが、サービスの見込み料です。在宅、それから居住系、それから施設ともに各年度を追いまして伸び率が上がっております。ということで、29年度の決算も27、８に比べて上昇傾向にあるということで、こういった見込みになるということでございます。それから、事業費ですが、これもあくまで推計と。30年度以降については推計ということになりますが、人口であるとか、過去のサービス料の見込み額を推計した中でのそれぞれの年度の給付額と地域支援事業費の合計額をもとに算定させていただいてるということでございます。

それから、最後の一般会計の繰り入れということでございますが、同じ話の繰り返しになりますが、被保険者の方の保険料の軽減ということをぜひやりたいという思いで市のほうとしては考えていきたいということで、今回このような条例改正にさせていただいております。よろしくお願いします。

議長（鈴木　悦子君）

岩﨑議員。

３番（岩﨑　清治君）

６期の保険料について、先ほど部長さん言われたように、27年度には40億7,400万円、それが29年度についたら40億8,500万円、ほんの少し上がっとりますわね、金額について、ふえてるね。というのは、１億数千万円、8,000万円って言われましたがそれだけお金が残ってるということはサービス料を使ってない。逆に逆に言えば計算も出てくるんですけど、そういう話の中で第７期についても上がり幅が非常に多いわけですわ。例えば、ことしから比べまして40億円が43億円になり、来年が43億円が32年次は45億円という、２億円ほど、１億8,000万円ですけど上がってるわけですわ。この上がり幅についてはもちろんシミュレーションちゃんとした上で出されてると思うんですけど、保険料の上がるというか、下げるというのを、下げどまり、下げれないという部分があるんでどうなんですかという思いが１つあります。

それから、もう一つなんですけど、特に国保にしても介護にしても納める人の立場っていうのは急激に乱高下をするのはやはりよくない。標準的な部分の金額ができるだけ乱高下せずに負担金が一律になっていく。安けりゃずっと安いほうがいいですよ。というのが当たり前ですから、今回だけ下げる、次に３年後に倍ぐらい上がるっていうのは保険料の賦課のときにも間違いですし、会計上も間違いですし、個人の家庭もだめだっていうのはよくわかられとるとおりなんですけど、そういうふうな試算がこれで確かにいいんかなと。料率については、本来でいえば、一般的にいうたらもう少し下がるという気がします、私自身がね。一般会計からお金を入れなくて下がるだろうと。

それから、後段の部分の国の指導に従わずにやるという部分について、特に市長のお考え、先ほどの部分

では公園のお金、色つきのお金ですか、特に今まで言われてるのは交付税については一般財源ですよというて逆に言われてるような状態に、それによって下げるっていうのは非常におかしいし、もう一点はよくよく考えてくださいよと。隣の奈義町さん、これは国保で県内で多分一番高いと思うんです。財政のほうについては非常にいいんです。借金と借り入れの額、貯金のほうが多いんですよ。でも、入れられてない。その現状も踏まえた上で十分に検討していただきたい。あとの部分や条例そのものについては考え違うって言われたらもうどうにも話にならないんで。ただ、数字については正しいことが出てくる。誰が見ても同じ数字ですから、こちらのほうも一般質問化にそろそろなりそうな雰囲気があるんでやめまして、委員会のほうへ十分調査をしていただきたい。国の制度も含めて調査していただきたいということをお願いし、またこの部分については委員長のほうへ質問をすると思いますけど、調査結果をお願いしたいということで私の質問は終わります。

議長（鈴木　悦子君）

通告者の質疑が終了いたしました。

ほかに質疑を受けますが、ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようですので、これで議案第10号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第11号「美作市指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営の基準等を定める条例の制定について」、質疑を行います。

それでは、発言通告順に発言を許可します。

通告順番１番、議席番号10番岡本泰介議員。

岡本議員。

１０番（岡本　泰介君）〔質問席〕

市当局の方も介護保険のいろんな制度がくるくる変わるということで大変難儀をされてるんじゃないかなという思いがございます。大変御苦労さまです。そういったことの中で、先般2018年、ことし１月28日にこういう山陽新聞の記事が出たんですよね。これは軽介護運営難109自治体ということで、要支援１、２のサービスをする自治体が非常に経営難になってるという新聞記事が出ました。それを考えたときに、今度のここに、これは全然違う話なんですけど、居宅介護支援ということでこの軽介護とは少し事情は違うんですけれども、この文章は多分厚生労働省かどっかから来た文章をそのまま当てはめてられると思うんですけど、これをやったときに美作市内でこの指定を受けることを希望されてる業者というんですか、事業者はどの程度あるのかと。そしてその経営は今の介護保険制度で十分安定していけるという見込みをお持ちでしょうか。それをお聞かせください。

議長（鈴木　悦子君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）

この居宅介護支援事業所ですが、現在既に市内のほうには17の事業所が指定をされております。ここ３年間の動きですが、廃止が１件、新規が２件ということで、増減はもうほとんどないような状態でございますので、ほぼ今の感じで充足してるかなという形でございます。今後の安定性ということですが、居宅での介護サービスというのは国が施設から居宅ということを進めてますから、これからも需要は高まると思いますので、そういうことを考えると経営の安定性はあるというふうに考えております。

議長（鈴木　悦子君）

岡本議員。

１０番（岡本　泰介君）

確かに施設よりも居宅で介護を受けると、それがその人にとっても幸せであるし、介護保険の抑制にもつながるし、私は非常によいことだなというふうに思っております。そして需要が高まっていくので経営も安定してくるのではないかということをおっしゃられましたので、そのようになっていってくれればいいなと思っております。そういう御答弁をいただきましたので、私の質問はこれでよろしいです。

議長（鈴木　悦子君）

通告者の質疑が終了いたしました。

ほかに質疑を受けますが、ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようですので、これで議案第11号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第12号「美作市特定疾患医療附帯療養交通費支給条例の一部を改正する条例について」、質疑を行います。

発言通告がございませんので、ほかに質疑を受けます。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようですので、これで議案第12号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第13号「美作市後期高齢者医療に関する条例の一部を改正する条例について」、質疑を行います。

発言通告がございませんので、ほかに質疑を受けます。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようですので、これで議案第13号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第14号「美作市公共下水道条例等の一部を改正する条例について」、質疑を行います。

発言通告がございませんので、ほかに質疑を受けます。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようですので、これで議案第14号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第15号「美作市都市公園条例の一部を改正する条例について」、質疑を行います。

発言通告がございませんので、ほかに質疑を受けますが、ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようですので、これで議案第15号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第16号「美作市営住宅管理条例の一部を改正する条例について」、質疑を行います。

発言通告がございませんので、ほかに質疑を受けます。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようですので、これで議案第16号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第17号「市道路線の認定について」、質疑を行います。

発言通告がございませんので、ほかに質疑を受けます。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようですので、これで議案第17号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第18号「市道路線の変更について」、質疑を行います。

発言通告がございませんので、他に質疑を受けます。

質疑はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようですので、これで議案第18号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第19号「美作市過疎地域自立促進市町村計画の変更について」、質疑を行います。

発言通告がございませんので、他に質疑を受けます。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようですので、これで議案第19号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第20号「美作市内の辺地に係る総合整備計画の策定について」、質疑を行います。

発言通告がございませんので、他に質疑を受けます。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようですので、これで議案第20号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第21号「美作市高齢者福祉センター「やまゆり苑」の指定管理者の指定について」、質疑を行います。

それでは、発言通告順に発言を許可いたします。

通告順番１番、議席番号15番岩江正行議員。

岩江議員。

１５番（岩江　正行君）〔質問席〕

指定管理全般についてのお尋ねをさせていただきます。

この活性化推進委員会ということでここに委託するようになっとんじゃけども、その指定管理にここに決めた方法、これについて説明していただきたいと思います。と申しますのは、美作市もたくさんの施設を指定管理に出しとんですが、例えば武蔵の里、ここでたくさんの今バス来よります。来ようるけども、あそこ

のとこで神社参拝して、生家のとこを視察して、ほいで神社を参拝して、それからあそこで写真を撮って帰りょうるわけじゃな。帰りょんじゃけども、これが指定管理出してもう少し美作市のためになってくれようる指定管理か思うとったら、ほんに写真を撮りょうるのは鳥取県の業者なんじゃ。１日に多いときには９台、10台ぐらい来よんじゃ。400人ぐらい。１人1,000円としてみても400人おったら40万円じゃ。これが地域に落とすというたら大きな効果になるんじゃ。それが鳥取県のほうの業者に渡して、旧大原地区のほうにおいても２つの、２店舗の写真屋があるんじゃけれども、そこには全然声がかからないようなことで、いったらはねのけられてしまうというようなことなんで、とりあえずこの指定管理渡すのもええけども、地域のためになるような形の、そういうような一つの実績を踏んだ人なのか、どんなんか、そこのとこの説明をお願いいたします。

議長（鈴木　悦子君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）

失礼します。梶並活性化委員会ですが、活性化委員会の活動としましては地域住民が地域で抱える課題につきましてみずから話し合うことで地域の将来像や問題解決のため、打開策を提案し、実践的な活動を行うことより地域活性化を図り、集落を越えた新たな組織づくり及び集落機能の維持、継続を図ることを活動目的とされた組織であります。地域の高齢者等が安心して健康で明るい生活が送れるよう支援に努め、地域福祉の増進及び活性化に取り組んでおられます。特に、会の主たる活動なんですが、地区内の各種任意団体の活動の支援、それから耕作放棄地の再生整備活動、お試し住宅の委託管理及び定住支援、空き家の活用、田舎暮らしの先進地としての視察の受け入れ等、非常に地域に密着した活動を展開されています。中山間地域の原動力として地域活性化のノウハウを全国へ発信しています優良団体と思っております、確認しております。やまゆり苑の管理に当たって、地域の密着性でありますとか、住民の平等の利用性の確保、安定の管理のための物的能力、人的能力は十分に有しておると考えておりまして、総合的な見地から他に比較できる団体はないに等しいというようなことで選定のほうをさせていただいとります。

議長（鈴木　悦子君）

岩江議員。

１５番（岩江　正行君）

これからやっぱしあいうな過疎地の中で、コミュニティづくりというのは非常に大切じゃ思います。けれども、やっぱりその指導力、やっぱりこれがどこと連携してやるんかというような、今までどういうな形の中でやられてきたんか、この会長さんが。やっぱりそういうなことをもう少し説明していただいたらええんじゃけど、いや、そういうような今過疎地の抱えとる大きなたくさんの問題、これらを解決するためにしていくということについては私は異議は申しませんけども、大原のような形の中で同じ指定管理に出しても鳥取県のほうに全部の、地元に業者がたくさんおられるのに、全部鳥取県の応援するような指定管理だったら、これはやめていただきたい、かように思います。終わります。

議長（鈴木　悦子君）

通告者の質疑が終了いたしました。

ほかに質疑を受けます。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようですので、これで議案第21号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第22号「平成29年度美作市一般会計補正予算（第５号）」について、質疑を行います。

それでは、発言通告順に発言を許可いたします。

通告順番１番、議席番号４番岡野鉄舟議員。

岡野議員。

４番（岡野　鉄舟君）〔質問席〕

それでは、議長の許可をいただきましたので議案第22号について順次質問させていただきます。

まず、第１番目ですが、６ページの第２表繰越明許費でございますが、そこに農林関係の災害、それから公共土木の災害、現年でございますが、それぞれ各繰越明許費金額の財源内訳を教えていただきたいと思います。

そして次、14ページ、普通交付税でございますが、款10項１目１節１でございますが、補正後の数値99億4,391万9,000円のうち特別交付税は幾らかということでございます。

続きまして、次ページの15でございますが、市営住宅の使用料でございます。款13項１目６節１、現年度分として1,193万7,000円減額になっておりますが、この内容と、なぜ減額になるかということを教えていただきたいと思います。

同じ15ページの中で道路橋梁費国庫補助金の関係でございますが、款項目節は款が14、項は２、目は６、節１、減額は１億5,458万8,000円でございますが、この内容と減額理由でございます。

３ページはぐっていただいて18ページをお開きください。款19項１目１節１前年度繰越金の補正3,349万円でございますが、この時期の補正となるのはどうしてかということで、当初予算と暫時繰越金の補正をされておりますが、それを踏まえての御答弁をいただきたいと思います。

次ページ、19でございますが、款21項１目１節15看護師等養成学校整備事業債、合併特例債でございますが、1,520万円。起債充当事業費の全体の概要でございますが、補正の理由でございます。これにつきましては萬代議員が御質問されたことと関係ございますが、重なりますが御答弁をいただきたいと思います。

その関係で８番に飛ばせていただきますが、22ページをお開きいただきたいと思います。補助金でございます。款２項１目37節19負担金及び補助交付金の1,600万円でございますが、これは今質問させていただいた６とあわせての全体事業費ということの中で御答弁いただいて結構でございます。

戻っていただきまして、20ページでございます。臨時財政対策債、これは御承知のように赤字地方債でございますが、当初予算比減額で8,938万2,000円となっておりますが、これなぜこの時期に減額になるかということを教えていただきたいと思います。

今度は歳出の31ページでございます。お開きください。款８項１目１節19負担金及び補助交付金でございますが、国県道新設改良事業費負担金2,070万円でございますが、この内容と今回補正の理由でございます。

続きまして、次のページの32ページでございますが、款８項２目２節15工事請負費が２億969万5,000円の減額となっておりますが、この内容と理由を教えていただきたいと思います。１回目の質問でございます。

議長（鈴木　悦子君）

建設部長。

建設部長（真野　弘紀君）

それでは、岡野議員のまず「平成29年度美作市一般会計補正予算（第５号）」のうちの６ページ、第２表繰越明許費でございます。

これにつきましては、災害復旧費の繰越明許ということでございまして、財源といたしましては農林水産事業につきましては県補助金、分担金、起債、災害復旧債並びに一般財源でございます。それから、公共災害のほうにつきましては国庫負担金、災害復旧事業債、あと一般財源ということでございます。最終的には６月に繰越計算書を出してきちっとした額がわかりますけれど、今の段階ではまだ補助の内示がしっかり来てないというような状態があったり、農林災害では増工申請をしまして補助金の率を上げるという作業をしておりますので、それが確定して額が決まるということになります。

それから、続けて15ページです。

款13項１目６節１市営住宅使用料、現年分の1,193万6,000円の減額でございます。こちらは購入予定の雇用促進住宅入田団地に係る住宅使用料の減額が主なものでございます。平成29年度当初予算の段階では耐震診断の結果を待ちの時期がありましたので、耐震性に問題がなかった場合の早期買い取りを考慮して火災保険等の経常経費の支出とともに既存入居者の家賃収入約1,180万円を見込んでおりましたが、補強工事が必要となり、年度内の収支見込みがないことから今回減額をさせていただいております。

続きまして、15ページ、款の14、項の２、目６節１道路橋梁費国庫補助金１億5,458万8,000円の減額でございます。この補正は国庫補助事業の社会資本整備総合交付金、活力創出基盤整備及び防災・安全交付金の補助金の割り当て額が確定したことによる減額でございます。

続きまして、31ページ、款８項１目１節の19国県道新設改良事業費負担金2,070万円の補正です。これは県が事業主体となり実施する国・県道の建設事業に対し、利益を受ける市町村が岡山県建設事業費市町村負担金徴収条例に基づき負担するもので、事業量が増加したことに伴う負担金の増額補正でございます。主な要因は、美作岡山道路の事業の推進が主なものでございまして、県の事業が確定したことによって増減が出てくるということです。

続きまして、歳出、ページ32、款８項２目２節15工事請負費減額２億969万5,000円でございます。この補正は社会資本整備総合交付金事業、辺地対策道路事業及び過疎対策道路事業に係る工事請負費の減額であります。これは事業費の確定及び事業量の調整によるものでございますけれど、減額の主な要因は国庫補助事業である、先ほど申し上げましたけれども、社会資本整備交付金事業の今年度の割り当て額が確定したことによる減額でございます。加えて、辺地債の枠とか用地取得の一部困難なところがありまして、その事業調整に必要となったものでございます。

以上です。

議長（鈴木　悦子君）

総務部長。

総務部長（岡本　和之君）

失礼いたします。それでは、岡野議員の御質問にお答えをさせていただきます。

まず、２項目めでございまして、歳入14ページ……。

〔「議長、もうちょっと声大きくせんと聞こえん」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

皆さん、ちょっと声を大き目にしてください。

総務部長（岡本　和之君）

済いません。款10項１目１節１地方交付税補正後の額が99億4,391万9,000円のうち特別交付税は幾らかという御質問でございます。

地方交付税につきましては、当初予算の説明欄で普通交付税と特別交付税の区分をさせていただいており

ます。特別交付税につきましては３月に確定するというものでございまして、当初予算で予定しております８億円を現在も特別交付税として計上をしているというところでございます。

続きまして、５項目め、歳入の18ページでございます。款19項１目１節１前年度繰越金3,349万円でございます。12月議会で４号補正の財源として繰越金の増額補正をさせていただいております。その残余がありましたので今回増額補正をするというものでございます。内容でございますけども、28年度決算の歳入歳出差額、差し引き額でございますが、10億5,665万6,000円ございました。そしてそのうち翌年度に繰り越すべき財源4,046万8,000円、そして４号補正までの繰越金の予算額９億8,269万8,000円、この２つを差し引いたもの、残ったもの3,349万円をこのたび増額補正させていただくというものでございます。

次に、７項目めでございます。歳入20ページでございます。款20項１目11節11臨時財政対策債の減額8,938万2,000円、減額理由ということでございますが、発行可能額が確定したことによるものでございまして、今回市税の増額補正をさせていただいております。これによりまして基準財政収入額が予想を上回ったため、その分臨時財政対策債が減額となったものでございます。

以上でございます。

議長（鈴木　悦子君）

企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）

それでは、私のほうからは６項目め、歳入19ページ、款21項１目１節15看護師等養成学校整備事業債1,520万円でございます。これにつきましては合併特例債でございまして、大阪滋慶学園が整備した美作市スポーツ医療看護専門学校の校舎等建設費に対します補助金の財源でございます。この補助金を1,600万円増額補正を計上しており、その財源として充当率95％の1,520万円を補正させていただくものでございます。

続きまして、８項目めの歳出22ページ、款２項１目37節19の看護師等養成学校整備費補助金1,600万円の補助金の全体と内容、根拠につきましてでございます。看護師等養成学校整備費補助金は大阪滋慶学園が整備した美作市スポーツ医療看護専門学校の校舎等建設費に対します補助金で、追加工事に伴います増額分1,600万円を補正計上し、平成29年度の補助金額を８億3,983万2,000円とするものでございます。この補正の内容につきましては、高等学校との共有部分であります体育館の改修工事費560万円、同じく駐輪場の整備工事費730万円と専門学校の駐車場舗装工事310万円でございます。なお、高等学校との共有部分の工事につきましては専門学校と高等学校の生徒割により算出をいたしております。平成28年において１億円の補助金を交付しておりますことから補助金の総額は９億3,983万2,000円となります。根拠といたしましては、美作市スポーツ医療看護専門学校建設費等補助金交付要綱第３条の規定に基づくものでございます。

以上でございます。

議長（鈴木　悦子君）

岡野議員。

４番（岡野　鉄舟君）

２回目の質問をさせていただきます。

まずは１番目に質問させていただきました繰越明許費のうちの財源内訳、先ほど部長の話では補助金だけだったんですけど、起債はあるのかないのかという質問でございます。

そして２番目の普通交付税のうち特交は幾らかということで、当初予算は８億円にされてるんですが、28年度を見て３月にどれぐらい県のほうがくれる見込みかということ。これをやはり今時点で見込んでない

と、ある程度皮算用しておかないと当初予算の繰越金も組めないかなという感じがするんで、もし部長のお考えがあれば教えてください。

そして５番目の繰越金の組み方なんですが、部長が先ほどおっしゃられましたように、事務局にも調べてもらいますと６月に2,710万5,000円、９月に653万1,000円、それから12月に、専決で153万4,000円、それから補正で４億9,752万8,000円、そして今私が質問しております３月に3,349万円なんですが、12月に今思い起こしながら発言させていただいとんですが、財政調整基金を約6,000万円ぐらい取り崩しをされていたと思うんですが、トータルは28から29への繰越金はわかっているわけなので、私なりに思えば、12月にこの繰越金をはき出しておけば、財調が少なくなってよかったんじゃないかなと、取り崩しがね。そういう思いがありますが、この辺について予算編成を担当されている担当部長としての御意見をお聞きしたいと思います。

以上でございます。

議長（鈴木　悦子君）

建設部長。

建設部長（真野　弘紀君）

済いません。申し上げたつもりでおったんですが、もう一度申し上げます。

公共災害につきましては、国庫負担金、災害復旧事業債、一般財源です。それから、農林災害につきましては県補助金、それから地元負担金、災害復旧事業債及び一般財源でございます。

議長（鈴木　悦子君）

総務部長。

総務部長（岡本　和之君）

失礼します。まず、２項目めの御質問でございますが、見込みということでございまして、当初予算を編成する段階で直近の決算額の推計ということでこの特別交付税については当初予算のほうでも検討しておりますので、それをそのまま現在まで引き継いでるというものでございます。

それから、５項目めでございますけども、なぜ12月補正で全てを入れなかったかという御質問でございますが、財政調整基金を取り崩した目的というのが災害等でございましたので、そちらのほうで対応させていただいとります。また、その財調につきましては美作市ちょっと多いんではないかというような意見もございますので、あえて財政のほうを取り崩しさせていただいたということでございます。

議長（鈴木　悦子君）

岡野議員。３回目です。

４番（岡野　鉄舟君）

最後ですが、質問の１の繰越明許費の関係で起債があるというふうに部長おっしゃられたんですが、通告内容ではその２表の地方債補正との絡みを言ってないんですが、御説明がつけば、この地方債補正のどの部分との絡みがあるかということを。つまり、補正前と補正後が載っておりますので、わかれば。これが１つだけです。

議長（鈴木　悦子君）

建設部長。

建設部長（真野　弘紀君）

済いません。災害の予算のほうは12月の補正予算で上げておりますので、その財源を充てております。

議長（鈴木　悦子君）

よろしいか。

〔４番岡野鉄舟君「失礼しました。終わります」と呼ぶ〕

議長（鈴木　悦子君）

ここで10分間休憩いたします。

午後２時58分　休憩

午後３時10分　再開

議長（鈴木　悦子君）

休憩前に戻り会議を開きます。

続きまして、通告順番２番、議席番号10番岡本泰介議員の発言を許可します。

岡本議員。

１０番（岡本　泰介君）〔質問席〕

それでは、質問させていただきます。

まず、８ページの地方債補正です。地方債補正の道路整備事業が５億4,850万円から３億4,920万円に減額になっておりますが、この理由をお知らせください。

次は、19ページの款21項１目３節５のごみ処理施設解体事業債（合併）ということで720万円減額になっておりますが、これはなぜ減額になったのかということです。

次は、同じページの農業競争力強化基盤整備事業債（過疎）が660万円減額になっております。これはなぜ減額になったのかということです。続きまして、同じページの農山漁村地域整備交付金事業債も580万円減額になっております。これはなぜでしょうか。

次は、20ページの過疎対策事業債（ソフト事業分）で1,610万円。このソフト事業分というのがよくわからないんですけど、これはなぜ減額になっているのか。ソフト事業分という意味をまたお知らせください。

次は、20ページ、同じページの道路整備事業債１億9,930万円、これが減っております。先ほどの８ページのことと関連してるんじゃないかと思うんですけど、この内容をお知らせください。

次は、24ページ、款３項１目３節19の１億6,070万1,000円、負担金補助及び交付金、これが半額ずつなってるんですね。当初の予算より半額となっているんです。これなぜこんなに減るのでしょうか。理由をお知らせください。

次は、30ページ、有害鳥獣捕獲奨励費、これも2,500万円と大幅な減額になっております。奨励費がこれほど減るというのはどういう理由なんでしょうか。

次は、32ページ、工事請負費で２億円もこれも減ってるんですね。なぜ２億円も減るようなことになってきたのか教えてください。

次は、35ページ、これも減額なんですけれども、700万円。これは教育費のほうなんですけど、減額になっております。どの工事費の減額か、また理由はいかなるものかお知らせください。

次は、36ページ、これも工事請負費で800万円減額になっております。文化施設管理費ということになっておりますが、どこのことか。なぜこんなに減ったのかということをお知らせください。

次は、39ページ、基金がずらっと上げてあるんですけど、下から３つ目のところに美作市広葉樹の森基金費というのがありまして、今回補正が2,000円してあって3,000円に対して2,000円補正して5,000円。これはよくわからないんですけど、これは袴ケ仙に関連したことなんでしょうか。広葉樹の森基金というのは、どういう性格のものか。こういう少額の意味はどういうことか。もう要らないんなら、のうなしてしもうても

ええんでしょうけど。こういうふうに少し。決算を見てみたんじゃけど、決算も四、五千円だったような。見ました。29年度の決算も見てみたんですけど、たしか四、五千円だったと思います。こういったことは繰り返されてるんですけど、どうしてこういうことになるのか。

以上です。

議長（鈴木　悦子君）

建設部長。

建設部長（真野　弘紀君）

それでは、岡本議員の「平成29年度美作市一般会計補正予算（第５号）」の御質問です。

まず、８ページ、表の４表地方債補正でございます。補正前が５億4,850万円、補正後が３億4,920万円となっております。この減額は国庫補助金の割り当て額の確定に伴い、事業費が確定したことによる補助裏の財源である起債額の確定並びに辺地対策道路事業債の起債枠の確定、その他事業実施における用地取得の関係で事業調整が必要となったことによる事業費の確定による減額でございます。国庫補助事業といいますのは、当初予算ではことしどれだけやりたいということで要望するわけですけれど、それに対して国のほうから補助金の枠が確定します。それが我々の要望額に対してついてこなかったということが主なものでございます。

次に、19ページ、項目でいいますと３と４になります。款21市債、項１目４節の１農業振興事業債の農業競争力強化基盤整備事業債（過疎）でございますけど、660万円の減及び農山漁村地域整備交付金事業債（過疎）の580万円減でございますが、この２つの事業は県営土地改良事業で予算要求に対して割り当てが少なかったため、県への負担金が減り、負担金の財源であります起債の減額ということになっております。

続きまして、６項目めのページ20、款の21、項の１、目の６、節の２道路整備事業債１億9,930万円の減額です。これ先ほど地方債のところで申し上げましたが、辺地対策道路事業整備につきましては起債枠によるものです。次に、過疎債では社会資本整備総合交付金事業と防災・安全交付金事業の国庫補助金の割り当て額の確定に伴うもので、それから過疎対策整備事業の事業調整によるものでございます。３番目に公共債は防災・安全交付金事業の国庫補助金の割り当て額の確定に伴うものでございます。

続きまして、項目の９番、32ページ、款の８、項の２、目の１、節の15工事請負費8,200万1,000円の減。この補正は防災・安全交付金事業に係る工事費の減額でございます。これは事業費の確定によるものですが、今年度の割り当て額が確定したということで減額をしております。

〔10番岡本泰介君「中身、防災の中身は」と呼ぶ〕

道路防災の事業でございますけれど、道路防災対策として３路線、畑沖栄町英田小学校線、大山線、舗装対策、補修保守ですけど、これは北山上相線、橋梁補修で４橋を補修しております。いずれにしましても、防災安全対策事業の補助金がつかなかったことについての減額でございます。

続きまして、項目の10番、ページ32、款８項２目２節の15工事請負費２億969万5,000円の減額でございます。この補正は社会資本整備総合交付金事業、辺地対策道路事業及び過疎対策道路事業に係る工事請負費の減額でございます。事業費の確定及び事業量の調整によるものでございますけれど、減額の主な要因は国庫補助事業である社会資本整備総合交付金事業の今年度の割り当て額が確定したものによるものでございます。主な路線は社会資本整備で川北田渕線ということになっております。

以上でございます。

議長（鈴木　悦子君）

環境部長。

環境部長（妹尾　昌弘君）

それでは、失礼します。議員御質問の②でございます。款21項１目３節５ごみ処理施設解体事業債720万円の減額の理由でございますが、この予算は旧南部及び北部環境美化センターの解体撤去に伴う実施設計業務に要する財源でありますが、入札の実施等により事業費が確定したことによりまして減額をするものでございます。

以上です。

議長（鈴木　悦子君）

経済部長。

経済部長（遠藤　宏一君）

まず、５番の歳入、ページ20の過疎対策事業債（ソフト事業分）の減ということでございますけど、過疎債のソフト分と申しますのは、通常起債といいますのはハード事業に発行してきたものでしたが、過疎団体の財政力がなかなか弱いところが多いということで、財政力指数といったものを使って財政力の弱いところに重点的にこのソフト事業分の枠を設けて、限度額が制度的に決まってくるわけですけど、過疎団体の財政力を助けるといった目的で設けられたものでして、商工関係では作東産業団地に立地されております企業への補助金などに充当しております。

それで今回の補正予算でございますけど、歳出のほうの補正でございます。31ページにあります款７商工費、項１商工費、目４企業誘致推進費、節19の負担金補助及び交付金で3,711万1,000円を減額しております。この補助金の財源として充当しておりました過疎債を減額としております。説明欄に名称がありますけど、美作市企業立地雇用促進奨励金の減によるものがこのうち1,900万円ということで、これが減額ですが、高速道路料金補助金への充当を40万円増額と、それから工場設置奨励金への充当を250万円増額としたことから差し引き1,610万円の減となっております。それから、この企業立地雇用促進奨励金の減となった理由でございますが、作東産業団地で操業されております株式会社横山基礎工事岡山第２工場につきまして企業側の都合によりまして平成30年度にこの補助金の奨励金の請求が延びたと、先延ばしになったことによるものでございます。

続きまして、８番目の歳出のページ30、有害鳥獣捕獲駆除奨励費の減でございますけど、平成29年11月末現在のイノシシ、ニホンジカの捕獲頭数はイノシシが728頭、ニホンジカが2,785頭となっております。この捕獲頭数に前年度の12月から３月までの捕獲頭数を加えて平成29年度の捕獲頭数をイノシシが918頭、ニホンジカ5,141頭と見込んで補正したもので、当初予算がイノシシが1,500頭、ニホンジカが5,500頭でしたので課題になっていた部分を補正減させていただくということで、2,523万6,000円ということで大きな減になっておるんですが、補正後の額が１億371万4,000円。それで28年度の決算額は9,521万2,000円ということでこの差はまだ850万2,000円あるということで、有害鳥獣の駆除に取り組んでいただいておりまして、この減といいますのは予算が過大だった部分について減額をさせていただいてるというふうなことでございます。

それから、13番目の美作市広葉樹の森基金積立金でございますが、こちらは基金残高が107万2,171円ということで年間の基金利子が4,622円ということで、補正後の予算額を5,000円と基金利子の増によりまして積立金をふやすものでございますけど、この広葉樹の森基金といいますのは条例を読みますと、「市民をはじめ多くの賛同者の参加による広葉樹林の再生事業を実施することにより、健全な生態系の維持及び災害に強く美しい山林づくりに資することを目的とする」というようなことになってまして、もともとは寄附金なんかもいただきまして、美作市どんぐりの森基金というのがございましたけど、それの名称を変更したものでございます。

以上でございます。

議長（鈴木　悦子君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）

失礼します。私のほうからは⑦番です。歳出ページ24です。

款３項１目３節19負担金及び交付金で△１億6,070万1,000円、この内容ですが、第６期の介護保険事業計画に基づきまして地域密着型サービスの整備についてということで、小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能居宅介護、認知症対応型通所介護施設、この３つの施設に係る公募事業を行いましたが、いずれも応募の申し込みがなく、市内の介護サービスの状況等を見て現在のところ地域密着型の施設については充足しているという判断のもとに事業の公募のほうを中止しました。事業費につきましては全額県の補助金となっておりまして、この事業費が総額で8,647万8,000円という額になります。それに加えまして、介護医療型医療施設、市内病院２つあるんですが、この病院の医療施設の転換が、ベッドの転換です。29年度末までに廃止ということの方向性が出されておったんですが、法律が改正されましてさらに６年間の猶予が設けられたということで、２つの病院ともその病床の転換が行われませんでした。この補助金が7,168万円ということになっております。これも100％県の補助金でございます。それと高齢者の住宅改修助成事業、介護保険をまず使いまして、なおかつまだ住宅改修が必要な場合に県と市とそれから利用者の方で３分の１ずつで50万円限度の改修の助成事業がございます。当初25件見込みを立てておりましたが、３月終了時点の見込みが16件ということで９件分を減額させていただきまして、先ほどの介護保険事業計画の減額と合わせて１億6,070万1,000円の減額という内容になっております。

議長（鈴木　悦子君）

教育次長。

教育次長（山名　浩二君）

私からは11番と12番ということでございます。

まず、11番の款10項１目２節15の工事請負費761万6,000円の減額ということでございますが、この減額につきましては、まず１つ目は市内小・中学校の特別支援教室へのエアコンの設置、また湯郷幼児園の新築移転に伴う旧美作幼児園の園舎解体に係る工事請負費の額の確定による減額ということでございます。

それから、12番目の工事請負費のこれも減額でございますけれども、この減額につきましては英田就業改善センターの解体工事の額の確定によるものでございます。

以上でございます。

議長（鈴木　悦子君）

岡本議員。２回目です。

１０番（岡本　泰介君）

真野部長のほうからはいろんなものが事業費が確定してという話でしたね。確定する時期はいつごろなのか私もよくわからないんですけど、ここ一、二カ月で確定したんじゃ皆さんも仕事にならんわけですから、一体事務事業のあり方としてそういうことはどういうふうな流れでいっとんか私にはわからんもんですから、これ年度末にこれで補正していくんが正しいんか。12月でもできるんか、いつでもええがな、すりゃええがなというもんでもないような気もするし、事務事業のあり方としていかがなもんかという思いもありますので、その辺の流れをまた教えてください。

それから、あとは大体わかったんで。先ほどの基金、広葉樹の森基金です。私はどんぐりの森だなんだっ

て言われたんですけど、それはやっぱり袴ケ仙っていうんですか、この梶並の奥の40ヘクタールかなにか木を切った、それをほんに植樹するという意味での基金だと解釈していいんですか。それとも、もうそれは市内全般に言えることなんだと。広葉樹どっこにも市内全体に植えるんだという考え方なんですか。107万円今残高があるということですけど、もう恐らくここ何年も使わずに1,000円、2,000円と積み立てていって残してあるというような運営の仕方になっとると思うんで。私は梶並は30ヘクタールか35ヘクタールか、私が議員をやめてた時期があるんで覚えてませんけど、相当広いところを切って、ボランティアを頼んで１回か２回植えたということも聞いておりますが、それも随分食われたんだというようなことも聞いてるし、最近見てないんでわからないんですけど、あそこは木を切るときに切る条件があったはずなんです。何年かで植樹していきなさいという条件がついてるはずなんですね。それをせずに、してるんかしてないんか。そこら辺のこともしないと、また大雨が降ればあそこから水が出て、真殿の辺はもう水浸しになるのは目に見えてるんですから。これは私は継続して、市の予算が単独予算組んででもやっていかにゃいけん事業だと私は思っております。そうしないと、森林法に違反してくるんじゃないですか。私よくわからないですけど、その辺を教えてください。木を植えなければならない、そういう思いです。

それから、あとは全体的なこととしては先ほどのソフト事業分で、ソフト事業分のソフトという意味が私ようわからなんで、コンピューターでいえばソフト、ハードというんですけど、有料道路の補助なんかがソフトになるんだということらしいですけど、そういう解釈でいいわけですね。その辺のことを、そのソフトという意味が私よくわからなかったもんでもうちょっと教えていただければと思います。

以上です。

議長（鈴木　悦子君）

建設部長。

建設部長（真野　弘紀君）

先ほどの答弁の中で減額の主なものが国庫補助事業、国庫補助金の減額ということを申し上げました。国庫補助といいますと、当初内示がございます。それは４月でわかるわけなんですけれど、結果的に国の補正があったり、今回でもここで補正予算が上がってきております。我々も経験の中で補正予算がつけば少しでも事業をやりたいということで予算を残しております。ただ、ことし、去年もだったと思います。おととしは補正があったと思うんですが、去年、ことしと補正が我々が求める補正がありませんでしたので減額をさせていただいたということでございます。

それから、防災安全については結構補正予算がありますんで、特に積極的にやりたいというのがありますので、そのつもりで取り組んでおります。

以上です。

議長（鈴木　悦子君）

経済部長。

経済部長（遠藤　宏一君）

広葉樹の森基金ということで、基金自体に場所は特定してはおりません。ただ、袴ケ仙の関係で今まで取り崩して使用してきたという経過がございます。

それから、ソフト事業といいますのはハード事業に対してソフト事業といいますか、建設事業じゃないということで。

以上です。

議長（鈴木　悦子君）

３回目です。

１０番（岡本　泰介君）

どんぐりのことにこだわると思うんですけど、どこでもいいと思うんですけど、差し当たって急務として美作市がせにゃいけんこと、広葉樹を植えにゃいけんというところは袴ケ仙だと思います。それは恐らく執行部の方もわかっとられると思う。木を切ったんですから、30ヘクタールか40ヘクタール。ですから、更新伐で切った面積は少ないですから、それは残してるし、それは少なくていいんですけど、あそこは私は気になってんですよ。あそこは何で植えんのんかなと。その後、事業をやったという話を全然聞いてないから、私は植えにゃいけんと。そのためには基金も、これだけ107万円そこらじゃ足らないんですから、市の予算を組んででも私は植えていかにゃいけんと思うんですけど、その辺の……。

議長（鈴木　悦子君）

一般質問じゃございませんので。

市長。

市長（萩原　誠司君）

これは一般質問的ではございますけども、関連しておりますので申し上げますし、議員がたまたまおられなかったんで御存じないだけの話で、大分あった基金を取り崩して広葉樹の植林をあそこにいたしました。その植林をしたときの苗木代は全部国からもらったんですけれども、植林費でありますとか養生費ということできちっと使って今復活をしております。もちろん、鹿が出ますんで完全とは言いませんけども、相当うまくいきつつあるというふうに報告を受けておりまして、当時違法状態であるんじゃないかという議論もあったんですが、今のところ何とかその状態から脱しつつございます。

〔10番岡本泰介君「終わります」と呼ぶ〕

議長（鈴木　悦子君）

続きまして、通告順番３番、議席番号３番岩﨑清治議員の発言を許可します。

３番（岩﨑　清治君）〔質問席〕

それでは、質問のほうをいたします。

22ページの看護師等養成学校の1,600万円ですけれども、いろいろ話を聞いたり一般質問等々でおおむねの理解はしてるんで説明のほうはいいんですけど、お願いとしてなんですけど、私たち新人議員なんで今までの経過も知りません。トータル数字だけでいいんで、あとでいいですからいただきたいなと。といいますのが、最初の話は15億円とか10億円とか９億円、先ほど９億3,000万円言われましたかね。それから、4,000万円入ってきたとか、よそから500万円入ってきたとか、数字は頭の中に残ってるんですけど、一体的になってないもんで、あとでよろしいですから数字の書いたものいただければありがたいなと思って、この質問はよろしいです。お答えについてはよろしいです。

次に、24ページの地域医療介護の関係ですか。これ先ほど岡本議員の説明のほうで小規模多機能とか病院とか等々聞きましたんで、これもよろしいです。

それから、34ページの消防費の中の消防施設費委託料が1,980万円、設計監理委託料って減額になってます。この内容を少し教えていただきたいなと。

それから、同じページから次のページなんですけれども、学校教育の事務局費の中で工事費についてはエアコンと、こう言われたんですけれども、設計のほうも170万円ほど減額になってますね。このあたりがエアコンの設計だったかどうかということと、小・中学校のエアコンというふうなお話があったんですけど、教育総務の事務局費の予算が正しいんですかね。小・中学校に配分すべきかなという気がするんですけど、

減額の予算ですから聞こうか聞くまあか、どうしょうかなと思うてることで、もし答えるようなことがあれば答えてください。答えなくても結構です。もう終わったことですから。

それから、社会教育の文化施設管理費の設計監理、英田の就業センターって言われましたかね。これ工事費なんですけど、これに対しての工事費かどうか、ここは少し教えてください。

以上でお願いします。

議長（鈴木　悦子君）

危機管理監。

危機管理監（皆木　佳久君）

それでは、３項目め、歳出の34ページになります。款９項１目３節13設計監理委託料1,980万円の減額でございますが、これにつきましては屋外拡声器、当初150基の拡声器を予定しておりました。これの設計委託料でございますが、新告知放送システム、要は先ほど来からも出てましたがＦＭ告知機器を設置するということで、この屋外拡声器を大幅に、既存の拡声器48基と、それから未設置場所の地域に10基を設置する、これの設計委託料ということで1,980万円を減額したものでございます。当初予算といたしましては、2,280万円を当初予算として組み上げていたものでございます。

以上でございます。

議長（鈴木　悦子君）

教育次長。

教育次長（山名　浩二君）

私からは４番から７番でございますけれども、４番につきましては測量設計委託ということでございます。この中には今言われましたエアコンの設置の部分は入っておりますし、湯郷幼児園の分もここに入っておるところでございます。

それから、６番の設計監理委託料につきましては、御存じのとおり英田就業センターの設計委託料ということで減額ということでございます。

以上でございます。

議長（鈴木　悦子君）

岩﨑議員。

３番（岩﨑　清治君）

確認の意味なんですけど、今言われたのは小学校費の事務局費の中に湯郷幼児園の何かにする設計が入ってるんですか。今言われたんですけど、確認の意味なんですけど、それであるならば、一番下に幼児園の建設費っていうのがあります。これは本体建設とあと改修があったんかどうか知りませんけど、款と節と予算のつくり方っていうのが非常におかしいんではないですか。そういう意味で再度お願いします。

議長（鈴木　悦子君）

教育次長。

教育次長（山名　浩二君）

今言われたのは小学校費ではございません。事務局費の中に入っておるということです。

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）

どうも質疑がかみ合ってないんで、私のほうで知ってること言いますと、たしかこの事務局費の中に入っ

てるのは解体のほうじゃなかったでしたっけ。

３番（岩﨑　清治君）

了解いたしました。

議長（鈴木　悦子君）

続きまして、通告順番４番、議席番号12番萬代師一議員の発言を許可します。

１２番（萬代　師一君）〔質問席〕

それでは、私のほうからは22ページにつきまして３点お尋ねをいたします。

款２項１目12節13のバスの運行委託料でございます。当初予算5,528万円に対しまして、この期に1,603万8,000円の減額ということで29％の大幅な減額となっております。その減額理由、内容をお尋ねいたします。続きまして、同じく款２項１目12節19の民間路線バス運行費補助金でございます。143万4,000円の増額補正でございます。こちらにつきましては、平成28年から当初予算ベースでいきますと3,066万6,000円、29年度が3,316万6,000円、そして29年度の補正後の予算額といたしましては3,460万円と、年々増額となっております。その内容及び理由をお尋ねいたします。

次に、何回も一般質問のほうでもさせていただきましたけども、滋慶学園関係でございます。款２項１目37節19、1,600万円の増額でございます。こちらの増額につきましては、御承知のとおり滋慶学園との交渉の中では、当初は大原高校の跡地、寮ということで校舎というものも視野に入れての協議であったろうと思いますけども、滋慶学園さんのほうから現校舎を使うての看護学校、専門学校ではだめだということで新築工事をするということでございまして、それならばということで美作市スポーツ医療看護専門学校建設等補助金交付要綱というものを制定しまして、その校舎の建設工事の補助をするということでございます。先ほど岡野議員の説明の中でそれをお聞きしまして、駐輪場の整備、それから駐車場の舗装整備、これは私は補助金交付要綱の第３条の別表にきちっと当てはまると理解します。しかし、通信制高校と共有するであろう体育館につきましては、これはあくまで新築工事の補助金でございます。修繕工事の補助金はうたわれておりません、でありますから、何をもって補助をされるのか。再度お尋ねをいたします。

以上、よろしくお願いします。

議長（鈴木　悦子君）

市民部長。

市民部長（角南　良雄君）

22ページの歳出、款２総務費、１総務管理費、12交通運行費、13委託料のバス運行委託料1,603万8,000円の減額と19負担金補助及び交付金の民間路線バス運行費補助金143万4,000円の内容と理由について説明をさせていただきます。まず、バス運行委託料の減額でございますが、市内には５地域、勝田、大原、東粟倉、美作、英田地域で路線バス地域循環バスを運行しており、このバス事業で指名競争入札による委託を行っております。平成29年度の運行も指名競争入札を行い、各路線とも落札され、変更もなく委託金額が確定したため、予算に対する契約額の予算差について減額をするものでございます。次に、民間路線バス運行費補助金の増額の内容と理由についてでございますが、市内の基幹線を民間事業者により路線バスを運行しておりますが、利用者の減少に伴う収入の減少と保有車両の老朽化による修繕費の増加、燃料費の上昇による経営状況が厳しい状況になっております。事業者は国の地方公共交通確保維持改善事業補助金や岡山県地域間幹線系等運行費補助金の交付を受けていますが、経常経費から経常収益を差し引いた金額が3,000万円となっており、収入不足が発生しております。こうした状況から、美作市バス運行維持費補助金交付要綱の規定により補助対象経常経費と経常収益の差額を補填することになっておりますので、当初予算2,856万6,000円と

の差額の143万4,000円を増額するものでございます。よろしくお願いいたします。

議長（鈴木　悦子君）

企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）

失礼いたします。私のほうから滋慶学園の補助金につきましての答弁でございますが、一般質問でも御答弁させていただきましたが、今回といたしましては美作市スポーツ医療看護専門学校建設費等補助金交付要綱第３条の規定に該当するということで補助させていただくものでございます。

議長（鈴木　悦子君）

萬代議員。

１２番（萬代　師一君）

今の答弁の中で第３条別表の要綱に基づいて補助するんじゃけど、修繕はどこに入っとんですかというて、あえて修繕についてお尋ねをしたんです。

議長（鈴木　悦子君）

企画部長。

企画振興部長（池田　義和君）

この経費につきましては、別表第３表の建築費、これに該当すると、建築費に該当するということで判断させていただいたものでございます。

議長（鈴木　悦子君）

萬代議員。

１２番（萬代　師一君）

市長、これは何ぼやっても答弁かみ合いませんわな。合わんでしょうな。

まず、１点目の29％からの減額。こちらにつきましては設計金額が高過ぎるんか、それとも５路線の方の競争が過激なものになっとるんかということもあろうかと思うんです。それぞれ業としてやられとる。それから、そんなに収益が利益につながっとる事業じゃないと思いますんで、そこらの調整をできる限りしていただくことと要望をしておきます。

それから、市長就任以来、法令遵守、コンプライアンスというものを掲げておられます。私はこの補助金交付要綱を何回読み直してみても別表３表にそぐわないと思います。それとは逆なことになりますけど、条例第４条につきましても、これは滋慶学園のほうが申請をいたします看護師等養成所施設整備費補助金１億4,777万2,000円、こっちにつきましては滋慶学園さんの都合で申請をされなかったということでありますが、美作市にはその額がそのまま、言葉は悪いかもしれませんけど、損害に私はなってると思います。ということになれば、この条例を熟読すれば、控除に値するものではないかなと思います。先ほど1,600万円増額補正をしております。その中で駐輪場、駐車場の整備、そのものは認めれると思うんですけど、この１億4,770万円から差し引きました１億3,700万円につきましては控除すべきものと思います。

以上のことを申し上げまして終わります。

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）

若干そのかみ合ってなかった議論を少しかみ合わせるために記憶にあることを申し上げますと、滋慶としてはたくさん欲しいのは当たり前なんですよね。そこで出る議論が修繕と改良というのはどう違うんだとい

うあたりで多分議論があったのではないかというふうに記憶をしてる。大規模修繕というのが修繕なのか。それが道路でも建設改良工事っていうのはもう〔聴取不能〕と同じになってますんで、その辺のニュアンスの中で。こういう補助金についても双方のやりとりの中で大体合意がとれるところで出すということになってますんで、そういう議論があったものと私としては伺っておりますので、御参考のために申し上げさせていただきます。

１２番（萬代　師一君）

市長のほうからかみ合ってないとこのすり合わせをということで言われたんですけども、私とすればまだまだ言いたいことございます。鳥取また出雲、そちらのほうには体育館なかったでしょうがなというようなことも質問しております。体育館についてこの補助の対象になるように話が出てきたのは、生徒あわせの関係で通信制高校を整備すると、そのときに体育館を利用すると、だからということでそれはでき上がるもんであれば共有施設にすべきだということで補助の対象にされたというんですけども、もともとは滋慶学園の専門学校では体育館は必要とされてなかったということは明らかでございますので、その私の思いも伝えさせていただきまして終わります。

以上です。

議長（鈴木　悦子君）

続きまして、通告順番５番、議席番号15番岩江正行議員の発言を許可します。

１５番（岩江　正行君）〔質問席〕

では、質問をさせていただきます。

７ページ、第３表債務負担行為補正、看護学生奨学金の問題でございますけれども、当初予算で2,400万円の債務負担行為を組んどった。けれども、今回240万円ということでどがいなっとんじゃろうかな。生徒が来るんじゃろうか、来んのんじゃろうか思うて、物すごう県の補助金と市が新しゅう組んだ補助金と並行して使えるいうて言ようるし。物すごう条件のええこの滋慶学園に何で１年もたたんうちに、もう来年の春、もうこの春開校じゃというようなときになってどうなっとんじゃろうかな。この2,400万円が240万円になったその根拠、非常に心配しておりますので、これの説明をいただきたいと思います。

それと13ページ、現年度分の市税の固定資産税の関係、これが6,520万円、これについての説明をお願いしたいと思います。

それと13ページ、入湯税の問題、380万円の減額補正しとります。これ380万円ていうたら、入湯税約何人ぐらいがこの美作の温泉利用しとる人が減られたんか。それのとこについての御説明がお願いできたらなと思います。

それから、16ページの地域医療介護総合確保基金事業費県補助金についてでございますけれども、この減額の１億5,815万8,000円、これの内訳。

26ページの生活扶助、１億2,000万円減額されておりますが、これどんなんじゃろうかな。非常に生活扶助でも受けんでも生活ができょうるということは萩原市長が行政に非常に力入れたことがこの数字になって出たんかなと喜んどんじゃけども、そうあってほしいんじゃけども、このなった原因。

それと34ページの設計委託料については、これは岡本議員が聞かれましたんで、これもよろしいです。それから、７の歳出、34ページの測量設計委託料、これについても、それから次の34ページの工事請負費についても、これも先ほど説明したようでございますので、これも結構でございます。そんだけの今質問した何点かを御答弁お願いしたいと思います。

議長（鈴木　悦子君）

ここで10分間休憩します。

午後４時01分　休憩

午後４時12分　再開

議長（鈴木　悦子君）

休憩前に戻り会議を開きます。

岩江議員の１回目の質問の答弁から始めます。

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）

失礼します。まず、１番目のページ７の第３表債務負担行為補正、看護奨学金ですが、補正後の額が240万円ということです。これの根拠ですが、新規の看護奨学生、当初10名分を予算計上ということをしておりましたが、募集、再募集、再々募集ということで３回の募集期間を設けて募集をしたんですが、１名の申し込みに今年度はとどまったということで９名分の債務負担行為を減額ということになりました。理由につきましては、何が原因してるかというのはなかなか分析が難しいんですが、先ほど議員もおっしゃいました県の奨学金でありますとか、医療法人が独自に設けております奨学金等もございます。そういった奨学金を利用されたケースもあるのではないかと思います。それから、過去にもこうした例がありまして、26年度は貸し付けがゼロ、24年度につきましても１件というような経緯もございますので、どうしても年度によって波が生じるということがあるようです。今年度以降につきましては看護学校の開設も目の前に迫っておりますので、新年度につきましては需要は見込まれるのではないかなというふうに考えています。

それから、④番の歳入、ページ16、地域医療介護総合確保基金事業費県補助金でございます。これ先ほど岡本議員のときに説明をさせていただいてるんですが、第６期の介護保険計画におきまして地域密着型のサービスの事業所の整備ということで小規模多機能居宅介護施設、看護小規模多機能居宅介護施設、認知症対応型通所介護施設、この３つの施設を29年度において整備するということで公募をかけましたが、その公募に対する応募がなかったということでございます。市内の地域密着型の介護施設の需要は充足しとるという判断のもとで公募を中止しました分を8,647万8,000円減額しております。これとあわせまして、市内の２つの病院につきまして、これが介護療養型の医療施設ということです。ベッドの転換が29年度末までに転換をということで国のほうが方針を出しておりましたが、29年度中にさらにまた６年間、その転換への猶予が認められたということで２つの病院とも転換を見送られました。これに対する補助金が7,168万円減額ということでございます。

それから、⑤番、ページ26、款３項３目２節20の生活扶助費等１億2,000万円の減額でございます。生活扶助費につきましては、社会福祉課内に総合相談係を設置しまして就労の支援や他の社会福祉制度の活用などを平成27年４月に施行されました生活困窮者自立支援法に基づく各種の支援制度を先取りする形で生活困窮者の支援を実施してまいりました。さらに27年度から２名の就労支援員を雇用しておりまして、経済的自立に向けた支援を強化しておるところでございます。これらの効果が徐々にあらわれてきたものと思われ、平成24年度をピークに保護世帯数、人員が減少傾向ということで、29年３月時点で162世帯、195名の保護人員が平成29年12月には149世帯、181名と減少をしております。扶助費の減額の内訳ですが、生活扶助費が2,500万円、それから医療扶助が9,000万円、それから救護施設の入所されとる方の施設事務費が500万円という内訳になっております。医療扶助費の大幅な減につきましては、長期入院者の保護の廃止の影響が大きいかなというふうに考えております。それと29年度の当初予算では、扶助費の中でも医療費が非常に占める

割合が多いんですが、高齢化に伴う突発的な手術や先進医療を見越して140万円の見込みを増額と、プラスで予算を組んでおったんですが、こうしたものの医療費が29年度中はなかったということで大幅な減額になっております。

以上です。よろしくお願いします。

議長（鈴木　悦子君）

市民部長。

市民部長（角南　良雄君）

13ページの歳入の款１項２目１固定資産税6,520万円の増額は、現年度分で6,520万円の増額補正を計上しています。これは平成29年度当初予算時の見込みに対して、償却資産分の税収が増加することが主要な要因です。固定資産税のうち償却資産分は事業者からの申告によるため、当初予算時には前年度の状況から推計して算定しています。今回、メガソーラーの償却資産申告額が見込みより高かったこと及び景気の好調により全体の企業の設備投資による償却資産の増加によるものです。そのため、6,520万円の増額補正を計上させていただいております。

項の６の入湯税の380万円の減額については、当初予算で28年度の入湯税収入見込み額を基礎に算定しておりましたが、これまでの入湯税の収納状況から当初見込みより減少しており380万円の減額ですが、これは１万9,000人分の減に当たると思います。計上し、平成29年度の入湯税１人200円の20万3,680人で補正額後が4,073万6,000円になっております。

以上でございます。

議長（鈴木　悦子君）

岩江議員。

１５番（岩江　正行君）

固定資産税の関係、大体わかりましたけれども、それと13ページの款１項６目１のこの入湯税の関係、きょう自分は葬儀のために午前中は欠席させていただいたんですが、やっぱしまちづくりがもう少し力が入ってないんじゃないか。学校にはきのうも言うたんじゃけど、萩原市長、非常に学校には力入れてしょうるけども、やっぱし湯郷の温泉というたら美作三湯の一つですから、１つに数えられるわけじゃから、もう少しまちづくりに力を入れていただいたら、ここら辺のとこも解消するどころじゃない、これマイナスじゃ△じゃなしに、次のときにはプラス380万円になりゃへんじゃろうか思います。

それと生活扶助費の関係じゃな、１億2,000万円の。きのうの晩、部長、風呂行っとったら、あんた方にこの腎臓疾患の関係のやつ聞きました。もう大体植物人間になったらしいです。もう身内のもんが行っても全然わからんようになってしもうたというて、そういうように言ようります。ですから、ここに減額するんだったら、もう少し今の医療体制、それから生活扶助の問題、そういうなものをやっぱし見直していくことが大事じゃないか思います、市民部長含めて。全体で考えていかなんだら、美作市の福祉行政というのは後退しても前進がないということなんで、それをお願いしまして私の質問を終わらせていただきます。

議長（鈴木　悦子君）

通告者の質疑が終了いたしました。

ほかに質疑を受けます。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようですので、これで議案第22号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第23号「平成29年度美作市国民健康保険特別会計補正予算（第１号）」について、質疑を行います。

それでは、発言通告順に発言を許可します。

通告順番１番、議席番号３番岩﨑清治議員。

３番（岩﨑　清治君）〔質問席〕

29年度の国保の補正予算について質問をさせていただきます。

国保会計そのものの予算を見ますと、補正予算の内容を見ると特に注視すべきところは14ページの基金繰入金3,400万円余り、繰越金3,200万円余り、基金のほうについてはトータルで１億1,000万円、今年度会計に入れられてる。繰越金も1,000円だったのが、枠組みだろうと思うんですけど、3,200万円全額だろうと思うんですけど、入れられてます。これを見て、どのようなところにどういうふうに配分をされたんか。どこが不足だったのかというのをお聞きしたいという部分なんですけれども、特に12ページの財源内訳を見ますと、保険給付費が4,200万円ほどと、それから拠出金が2,100万円ほど。この拠出金については還付ということであるんで、別にどうこうということはないんですけど、保険給付費のほうは4,200万円。何が言いたいかっていうことは、１億の上のお金が足らなかった。先ほどの条例改正の部分なんですけど、この足らなかった部分の理由はどういうことなんですかというのを聞きたいんです。特に国民健康保険なんかの分については概算精算っていうのがすごい多用されてますんで、足らなかった部分については、例えば後日国・県のほうから入ってくるとか、それとか療養給付費の交付金で入ってくるとかということであれば、それは当該年度、俗に言う一時立てかえ金みたいな感じで基金から繰り入れたのだったら安心できるんですけど、一般財源、つまり税の部分がどのくらい影響してるんかと。収入自体は今回補正されてないんですけど、トータル的な決算見込み額をどういうふうに考えられて、今回の予算はどういう意味合いがあって予算をしてるんか。総体的な話でいいですから教えていただきたい。

議長（鈴木　悦子君）

市民部長。

市民部長（角南　良雄君）

まず、14ページの款９項２目１節１の財政調整基金繰入金についてでございますが、3,440万2,000円につきましては歳出の保険給付費のうち、一般被保険者の療養給付費などの増額補正しとりますことが要因でございます。療養給付費などの増額分8,575万円のうち3,905万2,000円は国、県からの公費を財源として、残りを財政調整基金の繰入金で補填するものでございます。

それから、２番の繰越金ですが、繰越金は3,282万7,000円につきましては国などへの過年度返還金が1,965万1,000円の財源としております。残りは基盤安定負担金の減額や一般被保険者の療養給付費の財源としております。

そこで補正のトータル的な話になるんでございますが、医療費のインフルエンザ等による極端な増加、収納率の低下があった場合を考慮して財政調整基金からの繰り入れをお願いしておりますが、結果的に保険税等による繰り入れを減少できることができればと考えております。今の予定でございますが、あくまでも予定なんですけれども、繰り入れをこれよりも少なくできるのではないかなとは考えております。

以上です。

議長（鈴木　悦子君）

岩﨑議員。

３番（岩﨑　清治君）

繰越金については財源の内訳がわかったんですけど、基金の繰入金のときで質問の趣旨と答えが外れてるんですけど、基本的には保険給付費のところに充ててるっていうのは見ればすぐわかる話なんですけど、保険給付費のとこに充ててる部分の財源相当部分が、もちろんない可能性もある、あくまでも見込みですから、それはようわかった上で聞いてるんですけど、その中で、結局集めたお金でしなきゃいけない。もうちょっと言うと税金でしなきゃいけないお金なんか、それ以上に給付費、国・県のお金が今回入ってくる量が少ないんか。予算上の話ですよ。プラ・マイ・ゼロになった話の場合、それはどうなんですかっていう話を聞いてるんで、足らない部分を市のほうが払わなきゃいけないから一時立てかえ払い、言葉が悪いですけど、立てかえ払いにしてるんか。もしくは、お金は完全に見てるんだけど、一般財源、税金部分、一般財源とは言わないですかね、国保税部分を補填するために入れてるんか、どうなんですか。もし、それがわかれば１億円のうちに幾ら保険税部分を入れてるんか。これ何でこの話を聞くかって言ったら、特に税の条例改正があるから余計聞いてるわけです。条例改正を中心にお答えをお願いしたい。

議長（鈴木　悦子君）

市民部長。

市民部長（角南　良雄君）

税との関係ですけれども、恐らくになりますが、約2,000万円近くは今の税よりもふえる可能性があります。ただ、それを今回補正には上げてないのが現状でございます。その分を基金から入れてるのが、そういうことになっております。

それから、補助系統の国からの補助とかといったものあるんですけれども、そういったのも抑えぎみにしているのが実情です。確定してないところについては多く見ていないということです。

以上です。

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）

岩﨑議員が実はもう答えをおっしゃっておられるんですけども、基本的にその制度的な資金でありますので、国・県が支払う部分については後から確定をすると。それを事前に計上しない流儀なのでというふうなことを言っておりますんで、一時払いという性質がほとんどだというふうに理解をいただければと思ったところでございます。

議長（鈴木　悦子君）

岩﨑議員。

３番（岩﨑　清治君）

なかなか質問と答えがもう全然当てはまらないというみたいな言い方するんですけど、私の聞きたかったのは、もう答弁はいいですけど、今回５億円ほどの税収を集めてます。この集めたお金が正しかったんですか、正しくなかったんですか、金額的にですよ。そのことを聞いてる話であって、正しくない部分でも市が支払いしなきゃいけない部分はどっかから財源持ってこにゃいけん。それは基金から持ってきますよと、そういう話もわかるんですけど、基金も今回使えば５億円幾らのが１億円使えば４億円幾らになりますから、後年度影響の部分もあるんでどうなんですかという話をしたんですけど、その数字が2,000万円程度という話ではないみたいにも思うんですけど、質問と答弁、決算見込みをぴしっとされてないように思われるんで、今後予算を出されるときには、そのあたりもした上でお願いをします。回答、答えがあるようだったら

してもらってもいいですし、ないようでしたら平行線ですから、どちらでもお任せします。ありません。じゃあ終わります。

議長（鈴木　悦子君）

続きまして、通告順番２番、議席番号15番岩江正行議員の発言を許可します。

１５番（岩江　正行君）〔質問席〕

歳入で13ページ、款４項１目１節１の療養給付費等交付金現年度分で3,764万円この歳入が減額補正になっとんじゃけども、これについての御説明をお願いいたします。

議長（鈴木　悦子君）

市民部長。

市民部長（角南　良雄君）

13ページの款４項１目１節１の療養給付費交付金現年度分の3,764万円の減額につきましては、同じく国保会計補正予算の歳出にあります退職被保険者等療養給付費等減額分3,764万円を補正しておりまして、したがって退職被保険者の療養給付費などを減額したことにより交付金も減額しております。

以上です。

議長（鈴木　悦子君）

通告者の質疑が終了いたしました。

ほかに質疑を受けます。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようですので、これで議案第23号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第24号「平成29年度美作市介護保険特別会計補正予算（第２号）」について、質疑を行います。

それでは、発言通告順に発言を許可します。

通告順番１番、議席番号10番岡本泰介議員。

１０番（岡本　泰介君）〔質問席〕

私の今回の質問は非常に会計処理上のこともよくわからないんで単純な質問なんですけれども、予備費のことですね。今回が多分最終補正になってくるんだと思うんですけど、最終補正で基金ではなく予備費を積み増しするのはなぜかという、その会計処理の理屈が私よくわからないんで、これどうもなぜかということをお答えいただけたらと思います。

議長（鈴木　悦子君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）

「平成29年度美作市介護保険特別会計補正予算（第２号）」のページ３の第１表でございます。

基金でなくて、なぜ予備費かということですが、第１号の被保険者の保険料は計画期間である３年間の支出及び収入等を勘案しまして３年間を通じて同一の保険料となり、余剰額が生じた場合には基金として積み立てるなどして次年度に備えるというのが基本的な、こういうふうに私も考えておりますが、７期の国の方針がなかなか年内ぎりぎりまでに決まらなかったということで、第７期の介護保険の給付額の総額が決まらない中、繰越財源を幾らぐらい持っておけばよいのか、見込みがなかなか立たなかったことと、それからこ

の中には29年度分の国・県の補助金の返納金も含めて繰り越しをするということになりますので、その額の見込みがこの時点ではなかなか立ちませんでしたので、今回は予備費として次年度に繰り越しをさせていただくというような形をとらせていただきました。

議長（鈴木　悦子君）

岡本議員。

１０番（岡本　泰介君）

いろいろと言われますけど、わかりません、私には。その言いわけがようわかりません。予備費が全然ないんならそれは予備費に入れてもいいんですけど、予備費はあるんですよね。全然ないわけじゃないんですよ。それを積み増しするんですよね、予備費に。だから私わからないんですよ。先ほどのいろんな理由言われたんですけど、それを予備費を積み増しする理由に本当になるんですか。私はちょっと、私の頭ではよくわからないんで、その辺の考え方が違う言やあ違うんでしょうけど。もうちょっとわかりやすく説明できませんかね。何回同じことを言っても始まらんのですけど。補正の前の予備費は5,300万円あって、これ3,100万円補正をして8,400万円予備費になると。その先ほどの７期が決まらないとか決まるだとかというようなことと、この金額を積み合わせすることと、そんなに関係あるようには私は思えないんですけど、いかがですか。

議長（鈴木　悦子君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）

７期の保険料ですが、当初の見込みよりかなり調整交付金の変更であるとか、介護加算であるとか、消費税の増額であるとか、想定を上回る変更が年末にかけて次々と国のほうから伝えられてきたということで、そうしたときの。ある程度その時点で30年度の当初予算は固まりつつあったわけですが、財源として少し急な対応にも対応できる繰越財源というものを持っておきたかったという思いがありましたものですから、予備費として積み立てて、そのまま翌年度に繰り越すというふうな考えに至った次第でございます。

議長（鈴木　悦子君）

通告者の質疑が終了いたしました。

ほかに質疑を受けます。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようですので、これで議案第24号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第25号「平成29年度美作市簡易水道特別会計補正予算（第２号）」について、質疑を行います。

発言通告はございませんので、ほかに質疑を受けます。

ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようですので、これで議案第25号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第26号「平成29年度美作市住宅新築資金等貸付事業特別会計補正予算（第１号）」について、質疑を行います。

発言通告はございませんので、ほかに質疑を受けます。

ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようですので、これで議案第26号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第27号「平成29年度美作市公園墓地事業特別会計補正予算（第１号）」について、質疑を行います。

発言通告はございませんので、ほかに質疑を受けます。

ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようですので、これで議案第27号の質疑を終了いたします。

次に、議案第28号「平成29年度美作市都市と農村の交流施設特別会計補正予算（第１号）」について、質疑を行います。

発言通告はございませんので、ほかに質疑を受けます。

ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようですので、これで議案第28号の質疑を終了いたします。

次に、議案第29号「平成29年度美作市老人保健施設事業特別会計補正予算（第１号）」について、質疑を行います。

それでは、発言通告順に発言を許可します。

通告順番１番、議席番号15番岩江正行議員。

１５番（岩江　正行君）〔質問席〕

「平成29年度美作市老人保健施設事業特別会計補正予算（第１号）」、歳入の９ページ、款１項１目１節１の現年度分の介護報酬の収入が660万円のこれ減額されとんじゃけど、この内訳だけお願いします。

議長（鈴木　悦子君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）

「平成29年度美作市老人保健施設事業特別会計補正予算（第１号）」の歳入ページ９の介護保険料、介護報酬収入の減額の内訳でございます。一般入所を当初予算では46人見ておりましたが、実質的見込みで44.5人、短期入所が当初予算で1.5人であったものが、これが2.4人でございます。先ほどの一般入所は減額の460万円、先ほど申しました短期入所につきましてはプラスの230万円です。それから、最後に通所リハビリテーションという事業をやっておりますが、これが１日平均20人で計算しておったものが実績見込みで17.9人ということで金額で430万円の減額ということです。利用登録されていた方で生活環境や体調変化により入院や施設入所された方がふえていったことが要因ということでございます。引き続き、通所リハの利用者の拡大に向けて努力をしておるところでございます。

議長（鈴木　悦子君）

通告者の質疑が終了いたしました。

ほかに質疑を受けます。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようですので、これで議案第29号の質疑を終了いたします。

次に、議案第30号「平成29年度矢田茂・原田政次郎・福田五男奨学基金特別会計補正予算（第１号）」について、質疑を行います。

発言通告はございませんので、ほかに質疑を受けます。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようですので、これで議案第30号の質疑を終了いたします。

次に、議案第31号「平成29年度美作市後期高齢者医療特別会計補正予算（第１号）」について、質疑を行います。

発言通告はございませんので、他に質疑を受けます。

ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようですので、これで議案第31号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第32号「平成29年度美作市水道事業会計補正予算（第２号）」について、質疑を行います。

発言通告はございませんので、他に質疑を受けます。

ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようですので、これで議案第32号の質疑を終了いたします。

次に、議案第33号「平成29年度美作市下水道事業会計補正予算（第２号）」について、質疑を行います。

発言通告はございませんので、他に質疑を受けます。

ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようですので、これで議案第33号の質疑を終了いたします。

お諮りします。

本日の会議はこれで延会したいと思います。御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

異議なしと認めます。本日はこれで延会することに決定しました。

本日はこれで延会します。

再開は８日午前10時からです。

御苦労さまでした。

午後４時43分　延会

平成３０年２月８日

（第　　６　　号）

1. 議　事　日　程（６日目）

（平成30年第１回美作市議会３月定例会）

平成30年２月８日

午 前 10 時 開議

於　　議　　場

日程第１　議案質疑（議案第１号～議案第46号）

日程第２　請願・陳情について

請願第１号　林野公民館建て替えについての請願書

陳情第１号　ＮＨＫ第一及び第二放送及び山陽放送のＡＭラジオ電波をＦＭ電波に変換してケーブル回線に乗せることに関する陳情書

陳情第２号　「ＮＨＫ第一及び第二ラジオ放送」のワイドＦＭ放送の実現と、音声告知放送端末機の性能対応確保に向けての要望書

陳情第３号　山陽放送（ＲＳＫラジオ）のワイドＦＭ放送開始に備えての陳情書

2. 出席議員は次のとおりである（18名）

１番	青　山　　慶	２番	和　田　広　宣
３番	岩　﨑　清　治	４番	岡　野　鉄　舟
５番	中　山　忠　明	６番	倉　地　重　夫
７番	重　平　直　樹	８番	安　藤　　功
９番	金　谷　の り 子	10番	岡　本　泰　介
11番	山　本　雅　彦	12番	萬　代　師　一
13番	山　本　重　行	14番	尾　髙　誉　久
15番	岩　江　正　行	16番	日　笠　一　成
17番	内　海　健　次	18番	鈴　木　悦　子

3. 欠席議員は次のとおりである（なし）

4. 地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名（20名）

市　　長	萩　原　誠　司	副 市 長	横　山　博　光
教 育 長	大　川　泰　栄	政策参与	山　下　　亨
政策審議監	福　原　　覚	総 務 部 長	岡　本　和　之
危機管理監	皆　木　佳　久	企画振興部長	池　田　義　和
総合戦略監	大　森　洋　平	市 民 部 長	角　南　良　雄
環 境 部 長	妹　尾　昌　弘	経 済 部 長	遠　藤　宏　一
保健福祉部長	江　見　　勉	建 設 部 長	真　野　弘　紀
消　防　長	山　崎　正　雄	会計管理者	山　本　和　毅
市 民 課 長	藤　井　千　枝	高齢者福祉課長	有　友　一　正
上水道課長	小 坂 田　博　幸	教育総務課長	宮　前　　聖

5. 職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名（３名）

議会事務局長	尾　崎　功　三
課　　長	大　佛　裕　彦
主　　任	井　上　大　佑

午前10時00分　開議

議長（鈴木　悦子君）

おはようございます。

携帯電話の電源を切っていただきますようお願いいたします。

傍聴者の方は、傍聴規則第８条にもありますように傍聴席にあるときは静粛にしていただきますようお願いいたします。傍聴者の方が傍聴規則が守れない場合は、議場より退席をしていただきます。

昨日に引き続き会議を開きます。

欠席者の報告をいたします。山名教育次長が体調不良のため欠席です。代理で宮前教育総務課長が午前中出席をされております。

定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

日程第１　　議案質疑（議案第１号～議案第４６号）

議長（鈴木　悦子君）

日程第１、「議案質疑（議案第１号～議案第46号）」を一括議題といたします。

昨日に引き続き通告順に発言を許可いたします。

それでは、議案第34号「平成30年度美作市一般会計予算」について、質疑を行います。

それでは、発言通告順に発言を許可いたします。

通告順番１番、議席番号４番岡野鉄舟議員。

岡野議員。

４番（岡野　鉄舟君）〔質問席〕

改めましておはようございます。

議長の許可をいただきましたので、平成30年度当初予算についての議案質疑をさせていただきます。

順次御質問させていただきますが、まず１番目の質問でございますが、歳入の15ページでございます。お開きください。

固定資産税16億468万8,000円というふうになっております。今回の３月補正後で16億6,182万円になっておりますが、どうして減額になるのかというのが第１回目の質問でございます。

それから、歳入の33ページ、お開きいただきたいんですが、前年度繰越金でございます。３億4,000万円となっておりますが、平成29年度の実質収支額を幾らに見込んだ上での数値か、教えていただきたいと思います。

次ページ、34ページの雑入でございますが、１億7,201万8,000円、今年の３月補正後で２億5,204万円なのに、何が減ったのかということでございます。

今度は歳出でございますが、41ページ、政策参与の報酬でございますが、平成30年度新たに報酬として計上されているが、なぜかということを第１点目にお尋ねをいたします。

同じく歳出41ページの中で、款２項１目１節２の特別職給ですが、1,752万円、職種ごとの内訳と金額を教えていただきたいと思います。

続きまして、歳出47ページ、節の１でございますが、地域おこし協力隊報酬2,788万8,000円となっております。平成30年度の予算概要ではこのように書いてあります。２名増員し、14名で活動となっておりますが、前年度当初3,386万4,000円に比較し、少ないのはなぜかということをお聞きしたいと思います。

51ページの手数料、節の12でございますが、金額は２億1,247万4,000円となっておりますが、この内容は何でしょうか。

めくっていただいて、65ページ、監査委員報酬でございます。款２項６目１節１監査委員報酬108万円となっておりますが、この内容、及び前年比較では報酬が174万1,000円よりも減額となっておりますが、この理由でございます。

同じ65ページの款２項６目１節２の特別職給168万2,000円でございますが、この内容は何でしょうか。

ずっと飛びまして、歳出の103ページ、款７項１目２節19、内容ですが、外国人技能実習生受入事業補助金、前年度平成29年度は300万円がなくなっておりますが、これはなぜでしょうかということです。

105ページの款７項１目３節19美作市観光振興協議会補助金が660万5,000円となっております。平成29年度が408万円でございますが、ふえている理由は何でしょうか。

107ページ、款７項１目４節21地域総合整備資金貸付金、いわゆるふるさと融資でございますが、2,100万円の貸付先はどこか、まずこの点をお聞きいたします。

同じ107ページ、消費生活相談業務委託料11万8,000円ですが、何ゆえ報酬から委託料に変わったんでしょうかということでございます。

歳出の147ページ、節19の岡山湯郷Ｂｅｌｌｅ支援補助金2,200万円でございますが、これは本年度3,200万円になっております。それ以前は1,600万円であったわけですが、この2,200万円の積算根拠を詳しく教えていただきたいと思います。

最後に、15番目の質問でございますが、156ページ、給与費明細書でございますが、「長等」などで４人となっているが、この内容を質問させていただきます。

以上15点につきまして、まず質問をさせていただきます。

議長（鈴木　悦子君）

市民部長。

市民部長（角南　良雄君）

改めましておはようございます。

15ページの款１項２目１固定資産税16億468万8,000円、ことしの３月補正で16億6,182万円なのになぜ減額となるのかという御質問ですが、平成30年度の固定資産税の当初予算額は、現年分15億8,788万8,000円、滞納繰越分1,680万円の合計16億468万8,000円を計上しております。29年度は今回の補正予算後では、固定資産税は現年度分16億4,484万円、滞納分1,698万円の合計16億6,182万円の状況です。平成30年度の固定資産税現年分が平成29年度予算の３月補正後に対して5,695万2,000円の減額で計上となっておりますのは、固定資産税は３年に１度の評価がえにより価格を見直すため平成30年度はその評価がえの年度に当たります。この３年に１度の評価がえにより既存家屋は経年摩耗により評価額が下がることとなり、この影響が平成30年度も生じます。これまでの評価がえ年度の課税額は前々回である平成24年度の評価がえ年度で、23年度より9,779万8,000円、前回の27年度の評価がえ年度では26年度より……。評価がえが理由でございます。

それから次に、107ページの歳出についてでございますが、７の商工費、１商工費、５消費行政推進費のうち、なぜ報酬から委託料に変わったのかでございますが、今年度までは美作市内で消費生活相談員の資格を持っておられる方が相談員として相談業務をしていただいておりましたが、健康上の理由から平成30年度は辞退されました。このことから新たに消費生活を行っていただくため委託業務として実施することといたしております。よろしくお願いいたします。

以上です。

議長（鈴木　悦子君）

総務部長。

総務部長（岡本　和之君）

おはようございます。

それでは、２項目めにお答えをさせていただきます。

ページ33、款19項１目１節１前年度繰越金３億4,000万円、29年度の実質収支額を幾らに見込んだのかという御質問でございます。例年３月の補正で予算の精査を行っておりますが、結果的に実質収支は毎年度10億円程度ということになってございます。今年度も３月補正後の予算状況と収入状況、そして執行状況を踏まえまして、新年度予算の繰越金の見積もりを行っているというものでございます。ざっと10億円程度と見込んでおります。

それから３項目め、ページ34、款20項５目７節１雑入１億7,201万8,000円、29年度補正後との比較の違いということでございますけども、前年度の当初予算と比較いたしますと、738万6,000円程度の減額でございまして、今年度の当初と大幅な差はございません。29年度中の４号補正で森林組合関係の返還金などで1,707万円、それから５号補正で後期高齢者医療広域連合市町村療養給付費負担金精算金が4,292万9,000円、国民健康保険特別会計精算金が1,033万円など、増加をしておりますので、それが差額の大きな要因ということでございます。

次に、４項目めでございます。ページ41、款２項１目１節１政策参与報酬213万9,000円でございますが、政策参与につきましては、昨年委嘱期間を平成29年５月１日から委嘱をいたしております。平成29年度は人件費の予算の範囲内で執行させていただいておりますが、平成30年度においては委嘱実績によりまして継続的な参与の委嘱が必要と考え、当初予算で報酬の支出を明確にするため政策参与報酬として記載をさせていただいているというものでございます。

続きまして、５項目めでございますが、ページ41、款２項１目１節２特別職給1,752万円、職種ごとの内訳ということでございますが、これは市長、副市長、２名の給料でございまして、市長が972万円、副市長は780万円ということでございます。

次に、８項目めでございます。監査委員報酬が前年度に比べて少ないという御質問でございますが、非常勤の監査委員は現在３名でございますが、このうち１名の方が任期が30年４月17日となっております。非常勤の監査委員３名分の報酬でございますが、１名の方につきましては、５月以降の報酬を見込んでいないということで減額になっているものでございます。

続きまして、９項目めでございます。歳出のページ65、款２項６目１節２特別職給、これの内容ということでございますが、こちらは常勤監査委員に対します１年間の給料ということでございます。

そして次に、15項目めでございます。ページ156の給与費明細書の中で「長等」で４人となっております。これについての内容でございますけども、この４人とは、市長、副市長、教育長、常勤監査委員の４人でございます。よろしくお願いします。

議長（鈴木　悦子君）

企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）

おはようございます。

私のほうからは６項目めでございます。歳出47ページ、款２項１目６節１の地域おこし協力隊の報酬2,788万8,000円で、30年度予算に比べて少ないのはなぜかという御質問でございます。これにつきまして

は、29年度の予算につきましては、新規で10名の新規採用を予定をしておりまして、17名分の報酬として3,386万4,000円を計上していたため、それと比較して減少しておるものでございます。

それから、７項目め、歳出で51ページ、款２項１目11節12の手数料２億1,247万4,000円の内訳でございますが、これにつきましては、行政内部の情報運営事業といたしまして、機器の設定費が48万1,000円、それからＣＡＴＶ事業のケーブル管理手数料といたしまして1,140万2,000円、それから美作情報基盤整備事業のケーブル管理手数料といたしまして1,163万1,000円、それから新しい告知放送端末の個別放送端末の設置及び旧放送端末の撤去に伴う手数料といたしまして１億8,896万円という内訳になっております。

それから、14項目めの支出、147ページ、款10項６目１節19の岡山湯郷Ｂｅｌｌｅ支援補助金2,200万円の積算でございますが、これにつきましては、平成25年度から28年度まで年間1,600万円を支援してまいりました。29年度から市が雇用しておりました湯郷Ｂｅｌｌｅの監督の雇用を湯郷Ｂｅｌｌｅの雇用としたことから人件費相当分600万円を追加して、2,200万円ということにしたところでございます。今年度計上いたしておりましたＶ字回復の補助につきましては、30年度の補正予算のほうに計上させていただきたいというふうに考えております。

以上でございます。

議長（鈴木　悦子君）

経済部長。

経済部長（遠藤　宏一君）

私のほうからは10番の項目からでございます。

外国人技能実習生受入事業補助金がないのはなぜかということでございますが、この補助金は萩原市長就任後に新たに制定された補助制度ということで、今回の予算が骨格予算ということで、計上いたしておりません。

それから11番目、美作市観光振興協議会補助金の増額の理由でございますが、美作の国観光連盟というのがございまして、そちらに340万5,000円の負担をしておりました。ですが、事業効果など、事業の見直しを行うということを要望しておりましたが、改革がなかなか進まないということで、平成29年度をもって脱退ということにしております。観光連盟へ負担しておりました340万5,000円をそのまま観光振興協議会のほうへ補助するようにしまして、インターネットであるとか、ＳＮＳを活用した情報発信などをしていきたいということで予算を計上しております。増額は252万5,000円ということで、88万円差がございますが、それはバスツアーの補助金、こちらが骨格予算ということで、半期分の100万円のみの計上となっておりまして、88万円が減額ということで、差し引きになっております。

それから、12番目のふるさと融資2,100万円の貸付先でございますが、株式会社ショウワコーポレーションです。対象事業は安蘇地内の本社工場の生産能力の向上と入出荷業務の効率化を図るためということでございまして、倉庫棟の建設です。それでこの事業の貸し付けにつきましては、地域総合整備財団、ふるさと財団でございますけど、こちらへ調査、検討を依頼しておりまして、適当であるという回答を送るという連絡をいただいております。

以上です。

議長（鈴木　悦子君）

一通り終わりました。

岡野議員。

４番（岡野　鉄舟君）

２回目の質問を順次させていただきます。

まず、固定資産税ですが、評価がえがあったということで、下がるということですが、確認をしたいんですが、評価がえを行った後、固定資産税、その課税標準額に応じて家屋が下がったということなんですが、実質的に今後平成30年度の各納税義務者に対する固定資産税は下がっていくんでしょうねという、その質問です。

続きまして、２番目の前年度繰越金についてですが、総務部長今言われましたように10億円、ちょっとどれだけの実質収支があるかということを25年度からけさ急いで拾い出してみたんですが、非常に高いということを知っていただくために御披露いたします。平成25年度が10億8,100万円、平成26年度が11億3,000万円、平成27年度が12億6,900万円、平成28年度が10億3,500万円です。率にしていずれも7.1％から8.5％まで、非常に高いです。議員必携にも、ページを忘れましたが、この実質収支額が大体４％前後というんが健全な財政運営でありますが、今言われたように今年度においても10億円になると、30年度の当初予算を３億4,000万円ということになれば、あと差額の７億円前後ぐらいを暫時繰越金の補正をやっていくわけですが、これは私は28年度の決算のときに市長に質問をいたしました。実質収支額は非常に高くて、予算の見積もりと執行が拙速であるんじゃないかと、こういう質問をいたしましたが、そのときに市長はこう言われました。繰越財源があるからねと、こういうことを言われて、県が悪いんだというようなことをたしか言われたのを今思い出しながら質問してるんですが、これは経常収支から繰越財源を引いた額なんですが、いずれにしても予算編成を組むときにこういう恒常的な実質収支額は10億円台がどんどん伸びてきます。したがって、当初予算を３億4,500万円、結果的に今議会に歳入として入れておられるんですが、この点について部長にお尋ねしたいわけですが、今申し上げましたように健全な実質収支額ではないんです。この辺部長はどういうふうに組まれて、この当初予算を歳入を上げられたかということをお聞きしたいと思います。

それから、５番目特別職給の職種ごとの内訳ということですが、市長と、それから副市長２名と言われました。手元に私は美作市政刷新のための人的基盤の整備及び情報の積極的公開に関する条例、いわゆる刷新条例、平成26年４月18日施行、条例第17号ですが、ここの中で、第３条と、総務部長にお聞きいたしますが、第７条、第３条は、刷新の期間のことを書いております。第３条の中で副市長２名ということでございますが、条例その期間は30年３月29日までと刷新期間になっておりますが、この条例との絡みで副市長２名がこれにコンプライアンスになっているということを御説明いただきたいと思います。

次の質問でございますが、８番目の歳出、監査委員報酬、７番目の監査委員の特別職給との関係ですが、これにつきましても、刷新条例の中で第３条の監査委員に関する条項と、先ほど間違えましたが、第７条の、どういう条項かと申しますと、刷新期間においては監査委員の定数を４人以内とするという、いわゆる刷新期間と、それから当該４人の人数との関係を納得のいくように御説明をいただきたいと思います。

続きまして、12の歳出、地域総合整備資金貸付金ですが、私は12月補正の額を忘れましたが、ショウワコーポレーションのアパートについての反対をいたしました。そこで、お聞きしたいんですが、御承知のようにこれはショウワコーポレーションから美作市のほうに貸し付けの申し込みがあって、そして美作市はふるさと財団と相談をするわけですが、そこの一番ポイントなのは、公益性がどこにあるかということと、それから当社の採算性がどうあるかということを市のほうで判断をした上でふるさと財団のほうへ聞いてると思うんですが、私は前回のアパートのときでも市長に申し上げましたが、まずお聞きしたいのは、貸し付けの申し込みがいつあったかということを聞いた上での話ですが、なぜあったときに担当常任委員会に話さなかったんですか、突如降って湧いたようにこの３月議会で2,100万円を上げるというのは非常に議会軽視が甚だしいと思います。この点についてお聞きしたいと思います。

以上です。２回目。

議長（鈴木　悦子君）

市民部長。

市民部長（角南　良雄君）

今後の固定資産税が下がるのかということでございますが、前年度より変化がない限り固定資産税は下がると考えております。

議長（鈴木　悦子君）

総務部長。

総務部長（岡本　和之君）

失礼いたします。

実質収支の関係でございますが、この剰余金のうち２分の１以上は基金の積み立て、もしくは繰上償還の財源とするということがございます。ということで、２分の１以内のものについて今年度の繰越金として上げておりますけども、いずれにしましても４％が適当であるというふうにおっしゃっておりましたけども、４％以上でございます。４％以上でというふうな考え方でやっております。

それから、繰越金というんですか、剰余金がたくさん出るということは、先ほど申しましたように２分の１以上の、それこそ基金の積み立てであったり、繰上償還の財源としているということでございますので、少なくなっているものよりはよいのではないかというふうに判断をしております。

それから、刷新と副市長２人体制ということの御質問でございますが、この刷新条例が３月29日までということでございます。これによりまして刷新期間というのは終了するわけでございますけども、御質問の中にございました３条の関係で、副市長、教育委員及び監査委員は市政刷新期間終了後においても当該任期中在職するものというふうにされております。この後の監査委員の定数、人数のことにも関係いたしますけども、それぞれ刷新期間を終了した後に任期が来た方については再任をしないということでなっておるものというふうに思っております。

以上でございます。

議長（鈴木　悦子君）

経済部長。

経済部長（遠藤　宏一君）

地域総合整備資金貸付金でございますけど、この事業は美作市地域総合整備資金貸付要綱というのがございまして、その中で貸付対象事業を定めております。公益性、事業採算性、何項目かありますけど、要綱で定めた事業を行っておるということと、それから民間事業者からの申し込みを受けて、もちろん内容を見て、適当であると判断したものについて、ふるさと財団のほうへ、先ほど申しましたけど、調査を依頼して、その結果、適当であると結果を受けたものについて貸し付けを実行していくということで、今いつ申し込みがあったかということは手元へ資料がありませんが、決して軽視しとるということではありませんので、よろしくお願いしたいと思います。

議長（鈴木　悦子君）

岡野議員、３回目です。

４番（岡野　鉄舟君）

歳入の前年度繰越金の実質収支の絡みで３回目の質問をいたします。私の質問した意図に総務部長はお答えになられましたが、答弁になっていないですね。決算である実質収支額についてどうかということで、そ

の額そのものがこの標準財政規模に比べて高いということですよ。標準財政規模というのは普通、言わないとまた市長から何も知らんのかと、こう言われても困りますんで、言いますと、普通税と地方譲与税と臨時財政対策債と地方交付税です。御承知のように地方交付税は暫時一本算定で下がってきます。そうすると、分母が下がるんですよ。10億円ぐらいありましたら、私から見れば、実質収支額は7.5の半分以上上がるんじゃないかなと。今申し上げましたようにこれが高いということは原因が２つあります。１つは、歳出の見積もりがええかげんだったということですよ。繰越金なんかと関係ありません。もちろん歳入がふえる場合もあります。それはふえたらうれしいことで、いいことなんですよ。だから、歳出をどうやってマネジメントして、箱物の工事をするときに少なくして、そしてソフト部に回すかというやりくりの問題です。私は、もう答弁は要りませんが、考えを改めていただきたいということが、質問ではありませんが。

それから次に、質問させていただきますが、ふるさと融資のことです。遠藤部長の答弁も私がここでテレビを見ていらっしゃる方にふるさと融資がなぜ必要かということを丁寧に質問したつもりなんですが、答弁になっていませんよ。ふるさと財団へ相談をするときには市として、市が起債をするわけですから、ちゃんと公益性と採算性を判断をしてるわけでしょ。ふるさと財団に相談しましたということは答弁になってませんよ。３回目の質問ですが、2,200万円の貸し付けを受けて、公益性がなぜ、倉庫棟と言われましたかね。それがなぜ公益性があるんですか。採算性は民間でしょうから、それはあるでしょう。元利償還の20％部分は市民の税金ですよ。それよりも適債性があるかということを財団にこだわることなく、ちゃんと市でチェックをしてるはずですよ。そこのところを３回目の質問としてお答えいただきたいと思います。

議長（鈴木　悦子君）

経済部長。

経済部長（遠藤　宏一君）

この貸し付けということでございますけど、貸付要綱では美作市が金融機関等と共同して地域振興に資する民間事業活動等を支援し、もって活力と魅力ある地域づくりの推進に寄与するために一般財団法人地域総合整備財団の支援を得て民間事業者等に供給する無利子資金の貸付業務の実施に当たり、その基準を定めるということで、要綱を定めております。貸付対象事業は先ほど申しました魅力ある地域づくりの推進に寄与するといった対象になってまいりまして、対象となる事業費の45％について貸し付けをするということになっております。そして、融資決定までの流れでございますが、民間事業者から申し込みを受けて、ふるさと財団へ調査を依頼すると、ふるさと財団からは結果通知をいただいて、そしてこの起債の手続をしていくという形になっております。

４番（岡野　鉄舟君）

何回言っても答弁になってません。主体性がないですよ。

以上、終わります。

議長（鈴木　悦子君）

続きまして、通告順番２番、議席番号13番山本重行議員の発言を許可します。

１３番（山本　重行君）〔質問席〕

私のほうはまず108ページ、款７項１目６節13武蔵の里関連施設及び愛の村パーク管理運営委託料6,333万3,000円についての内容。

それから、126ページ、款10項１目２節14公開系クライアント運営管理システム使用料286万1,000円の内容について御説明をお願いいたします。

議長（鈴木　悦子君）

経済部長。

経済部長（遠藤　宏一君）

まず、武蔵の里関連施設及び愛の村パーク管理運営委託料6,333万3,000円でございますが、こちらはこの武蔵の里関連施設及び愛の村パークの管理運営事業としまして平成29年度から平成31年度までの期間で１億9,000万円の債務負担行為を設定しております。平成29年度におきましては、この年度協定を結んでおりまして、３分の１の額6,333万4,000円で契約しております。そして、30年度におきましても年度協定を締結するということで、端数が若干1,000円の違いはありますが、収支計画に基づいた３分の１の額と、6,333万3,000円を指定管理料として計上しているところでございます。

議長（鈴木　悦子君）

教育総務課長。

教育総務課長（宮前　　聖君）

私からは②番、歳出126ページ、款10項１目２節14公開系クライアント運営管理システム使用料286万1,000円についての内容でございます。これは小・中学校におきまして教職員が公務用に使用しているパソコンから児童等の個人情報の流出も懸念されておりますので、公務用パソコンのセキュリティー機能向上が求められていることから、どのパソコンから情報が流出したのかというものを確認するための監視システムを導入するものでございます。

議長（鈴木　悦子君）

山本議員。

１３番（山本　重行君）

武蔵の里の関連施設及び愛の村パークの関係で、以前の改修の工事がありましたね、あれの関係をすれば1,000万円ぐらい出てくるというふうな話があったと思いますけれども、その部分についてはどうされるんでしょうか。

それから、２項目めはよろしいです。

議長（鈴木　悦子君）

経済部長。

経済部長（遠藤　宏一君）

愛の村パークを宿泊ができるようにということで改修中でございます。投資した経費について回収というお話があったと思いますが、1,000万円、こちらは指定管理料を減額するという方法で対価を得ていくということで、指定管理者と協議をしているところでございます。

〔13番山本重行君「わかりました」と呼ぶ〕

議長（鈴木　悦子君）

続きまして、通告順番３番、議席番号10番岡本泰介議員の発言を許可します。

１０番（岡本　泰介君）〔質問席〕

それじゃ、御指名いただきましたので、質問をさせていただきます。

まず１番目は、38ページ、歳入で道路整備事業で３億1,180万円、これは過疎、合併、公共というふうになっておりますが、その主な事業は何々なのかということをお知らせください。どういうことに使うかということですね。それは後で支出のほうで見ればわかるんかもわかりませんけど、ちょっと歳入のほうでお聞きします。

それから、歳出の67ページ、節の13委託料のところ、「我が事・丸ごと」の地域づくり推進事業委託料

1,200万円、かなり高額な金額なんですけど、これ一体何をするんでしょうかね。ちょっとよくわからないんで、この内容及び支出先、それをお聞かせください。

次の73ページ、目４、3,800万円の保険料特別軽減費繰出金、これは介護保険のとこなんですけど、条例のとこでも申し上げましたが、私は基金を使ってからこれをするのが当然じゃないかという思いがあるんで、これをまた言ってるわけです。日本全国まだ、岩﨑議員がきのう言われましたけど、一般会計から繰り入れるというのはまだ全国的にも非常に少ないと、そういった状況の中にあると思います。なぜ美作市が率先してこれをやらなければならないのかという意味が私にはわかりません。先ほども言いましたけど、基金がまだあるのにこれをするという理由が私にはないような気がするんですけど、そこら辺のところをお聞かせください。

今度78ページの、これは教育畑のことですね。節の７番、嘱託職員賃金２億240万3,000円、ちょっと資料をもらっとんです。これきのう教育長のほうから前もって資料をいただきました。これを見て、嘱託職員が非常に多いなという気がいたしております。一般質問化しないようにということでございますけど、何でこんなに嘱託職員がたくさんいるのかなと、嘱託職員でなしに正採用の職員をふやされたほうが私はいいんじゃないかという思いがしておりますので、そうしたほうが教育効果が上がるんじゃないかという思いもあります。合計で見ると、正職が49名で、嘱託が58名ですから、約10人ほど多いと。調理や保育じゃ何じゃ、ほかのことを全部足していくと、正職は63名で、嘱託が80人ですから、今度は20名ぐらい違ってくると。いずれにしても嘱託職員がどうしてこんなに多くいるのかなというのがちょっと合点がいきません。教育効果がこれで十分上がるのかなという思いがありますので、この２億円について質問させていただきました。

そして次は、92ページ、この工事請負費は何ですかということです。簡単に答えていただければいいです。

次は、96ページ、農業次世代人材投資事業補助金1,200万円、これの内容をお知らせください。どういったところに出すんでしょうか。どういった種類の補助金なのか、ちょっと私もわからないんで、済みませんけど、教えてください。

次は、97ページの工事請負費4,400万円、節の15、この内容をお知らせください。

次は、102ページ、これも工事請負費です。7,700万円、節15です。これの内容です。

次は、104ページの節13大河ドラマ放映15周年記念事業委託料、これも過年の金額が上がってるんですけど、これ大河ドラマ放映15周年って、これは何の大河ドラマで、何をするんでしょうか。これはよくわからないんで、内容を教えてください。

次は、107ページの節19ものづくり支援事業補助金1,000万円、何のものをつくるんでしょうか。これも教えてください。どこに出すんですか。

それから、107ページの節21、さっき遠藤部長がいろいろとおっしゃったふるさと融資ですね。これはもう一度言ってください。どこに出すんですか。そして、ふるさと財団が先ほどからずっと判断する、判断すると言われてますけど、市としても独自性がやっぱり要ると思うんで、その辺の判断はどうだったのかということを、岡野議員もかなり言われたんですけど、私も聞きょって納得ちょっとできませんでした。もう一度お願いします。

次は、107ページの修繕料、節11です。この修繕料は使途先と内容を教えてください。

次は、108ページの武蔵の里関連の運営委託料6,333万3,000円、これは去年の産建委員会なんかでも今施設改良をして管理料というんですか、委託費用を1,000万円下げるというふうに市長が公言を切られたというふうに聞いております。産建委員会でもそのことをはっきり言われたというふうに聞いておりますので、

ここで同じ金額を上げられるのはいかがなもんかと思います。これから相談するとかというような問題じゃないと思います。３年間の債務負担行為を組んどるから下げれないという問題じゃないと思うんで、下がるのは下げれると思うんです。上げるのは上げれないかもわからない。1,000万円下げれるのは十分考えられることであって、前年度と金額がこれ幾ら違う、3,000円か4,000円しか違わんでしょう。1,000円ですか。ちょっとはっきり数字を覚えてないですけど、６億3,333万7,000円か何ぼ、ちょっと数字はっきり覚えてませんけど、わずか数千円の下げになっとるような気がするので、これはもうどうしても私は納得できないので、質問します。

以上で１回目の質問とさせていただきます。

議長（鈴木　悦子君）

まだありますけど。

１０番（岡本　泰介君）

まだあったかな。ごめんなさい、ちょっと。済みません。頭がちょっとおかしゅうなってるんです。済みません、ありました。風邪引いて、ちょっと頭がおかしゅうなってる。済みません。

次が、108ページ、これは節15です。これも簡単です。工事請負先の内容のことです。簡単に言っていただけりゃあいいです。

次の113ページ、節19、国道新設改良事業費負担金になって、9,900万円、結構金額が大きいんで、これはどういった事業なんでしょうか。これをお知らせください。

次の115ページの節15、２億8,470万円、これ工事請負費なんですけど、この内容をお知らせください。

次の115ページ、これも工事請負費です。節15、２億7,730万円です。これも金額大きいし、内容どんなもんでしょうか。

次の118ページの工事請負費、節15、3,900万円、これも内容をお知らせください。

次の125ページ、先ほどの嘱託賃金のこと等もあるんでしたけど、これも結構金額が大きいんですね、6,000万円と、臨時職員の賃金ということですが、その内容についてお知らせください。どうしてこれだけの臨時職員が要るのかという理由もお知らせください。

126ページの節14、先ほどの公開系クライアントということで、これはさっきの山本議員のところへあったんかな、違いますかね。さっきの山本議員の、これはいいです、わかりましたから。

次は、130ページの節19日本スポーツ振興センター負担金、内容はということで、これは小・中・幼、ほとんどどっこも出てるんですね、これのちょっと内容私わからんもんですから、２つしか上げてませんけど、またたしか幼稚園かどっかにも出とったような気がしたんで、これはどういう内容のもんか、ちょっとわからないんで、教えてください。

これで終わりですね。済みませんでした。

まだあった。失礼。どこへあったかな。

〔「いや、ありました、ありました」と呼ぶ者あり〕

これで終わったでしょう。それは同じことを言うたんです。今のスポーツ振興センターのことです。これは関連しとりますから、多分小学校、中学校、全部出てるなと思うんで、幼稚園も出てましたよね、たしか。その３つをどういうものか、ちょっと教えてください。

議長（鈴木　悦子君）

建設部長。

建設部長（真野　弘紀君）

それでは、岡本泰介議員の議案第34号「平成30年度美作市一般会計予算」についてお答えをさせていただきます。

まず①、歳入でございます。38ページ、款21項１目６節２道路整備事業債の３億1,180万円の主な事業はということでございます。

まず、過疎債分といたしまして、主な事業といたしましては、国庫補助事業の社会資本整備総合交付金事業と防災・安全交付金事業、これ補助裏ということになりますが、と、単独起債であります過疎対策道路整備事業でございます。社会資本整備総合交付金事業では、川北田渕線の改良を、防災・安全交付金事業では、橋梁補修として登喜和橋補修工事のほか、橋梁修繕が４橋、補修の関係で２橋の設計を行う予定としております。それから、過疎対策道路整備事業では、田原吉田線の改良ほか、３路線に充当するものでございます。

次に、合併債では、合併道路整備事業として湯の街上線の改良を対象といたしております。

次に、公共債の道路整備事業債では、国庫補助事業の防災・安全交付金事業の道路防災と舗装対策に充てるもので、道路防災対策といたしましては、英田小学校線ほか、２路線、舗装対策といたしましては、北山上相線ほか、１線を予定をしております。

最後に、公共債の急傾斜地崩壊対策事業債は、岡山県が事業主体で実施中の山元地区をやっておりますが、その負担分でございます。

次に、⑦でございます。97ページ、款６項１目５節15農地費でございます。工事請負費4,400万円でございますが、これは地元からの要望により小規模土地改良事業、これ単県事業でございますが、それに取り組むもので、後山道仙寺水路ほか、８地区、及びダム管理事業の滝宮ダムしゅんせつほか、１件の工事費でございます。

次に、⑧でございます。歳出102ページ、款６項２目３治山林道でございます、工事費7,700万円。主なものは、林道整備事業の林道真木山線開設及び小規模林道整備事業の林道高山線のり面改良ほか、４路線の工事費でございます。

次に、⑮、113ページです。款８項１目１節19国・県道新設改良事業費負担金9,955万6,000円でございますが、これは国・県道新設改良事業費負担金でございまして、県が事業主体となり実施する国・県道の建設事業に対し利益を受ける市町村、美作市ですが、岡山県建設事業費市町村負担金徴収条例に基づき負担するもので、例えば美作岡山道路、粟井地区では実施中の国道429の改良工事、平福地内では楢原駅周辺の馬橋平福線の整備などでございます。これは単県費の15％を負担するということになっております。

次に、⑯でございます。歳出で115ページ、款８項２目１節15工事請負費２億8,470万円でございます。道路橋梁維持費の工事請負費２億8,470万円の内訳といたしましては、市道維持管理事業に7,955万円、交通安全施設整備事業に2,015万円、防災・安全交付金事業に１億8,500万円を計上させていただいております。これらは各地区の自治会等から出される要望や行政懇談会での意見や指摘を受け、市道の修繕、安全施設の整備などに対応するものです。また、既存施設の長寿命化に向けた適正な維持補修及び危険のり面の防災対策などを実施し、維持経費の縮減と平準化を図りながら通行者の安全を確保するために実施するものでございます。

次に、⑰、歳出115ページ、款８項２目２節の15工事請負費２億7,730万円です。道路橋梁新設改良費の工事請負費でございますが、社会資本整備総合交付金事業の１路線、１億4,100万円、過疎対策事業の４路線に係るもの、9,800万円、合併特例債道路整備事業の１路線に係るもの、1,920万円でございます。このうち社会資本整備総合交付金事業では継続路線の川北田渕線を平成30年度の国への要望額として計上をさせてい

ただいております。

次に、⑱です。118ページ、款８項６目１工事請負費3,940万円の内訳でございます。これは入居者が退去した後から新規入居までの空室期間に行う修繕工事でございます。劣化による内装や設備の更新を１部屋当たり平均120万円程度で30部屋分の計上、並びに２団地の屋上の防水改修を見込んでおります。

以上でございます。

議長（鈴木　悦子君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）

失礼します。

私のほうから、まず②番を説明させていただきます。歳出でページ67、款３項１目１節13「我が事・丸ごと」の地域づくり推進事業委託料の内容ということでございます。平成28年に閣議決定されましたニッポン一億総活躍プランにおきまして、子ども、高齢者、障がい者など、全ての人々が地域、暮らし、生きがいをともにつくり、高め合うことができる地域共生社会の実現が提唱されまして、国の施策としまして「我が事・丸ごと」の地域づくり推進事業が創設されております。この事業によりまして美作市におきましても、１つとして、住民が主体的に地域課題を把握して解決を試みる体制の構築、これが我が事という定義になります。それから、２つ目としまして、地域の生活課題を包括的に受けとめる体制の構築ということで、これが丸ごとということで、２つ目のくくりになると思います。こうしたことに取り組んでいくということで、具体的には、１つとして、住民が主体的に地域課題を把握し、解決を試みる体制づくりを行う我が事の地域づくり、他人事を我が事に変えていくような働きかけ、活動の拠点づくり、住民等に対する学習、地域福祉活動へのきっかけづくりや参加促進等に関する取り組みの実施ということになります。以上が我が事の地域づくりというくくりになります。それから、地域生活課題を包括的に受けとめる体制の構築等ということで、これが丸ごとの地域づくりになるんですが、１つとしまして、地域住民の相談を丸ごと受けとめる場や機能を充実させる、そして地域生活課題の把握を行って、地域生活課題に対する解決策の検討等を行うということを主な事業として取り組んでいきたいと思います。

事業につきましては、おたがいさまネット事業を初め、地区社協による地域福祉組織の強化、地域課題を話し合う福祉会議などを実施しており、これまでのノウハウを生かしながら円滑な事業が可能と思われる社会福祉協議会への委託を予定しております。また、本事業は４分の３の国庫補助対象事業となりますので、歳入につきましては900万円の国庫補助金が充当されるという予定であります。

それから、③番、歳出73ページの款３項１目４節28の介護保険料への特別軽減の繰出金でございます。これもきのうたびたび説明はさせていただいておりますが、平成28年度に実施しました市民アンケートの中で最も要望の高かった介護保険料の軽減に向けての繰り出しということでございますので、御理解いただきますようによろしくお願いします。

以上です。

議長（鈴木　悦子君）

教育総務課長。

教育総務課長（宮前　　聖君）

私からは④番、歳出78ページ、款３項２目４節７嘱託職員賃金について。

議長（鈴木　悦子君）

できるだけ大きな声でマイクに近づけて言ってください。

教育総務課長（宮前　　聖君）

御説明をさせていただきます。

嘱託職員賃金の人数でございますが、保育園６園で63名、認定こども園１名で19名の合計82名分の賃金を計上しております。正規職員と嘱託職員の差につきまして嘱託職員のほうが多いという御指摘をいただきましたが、職員を減らせという声がある中で、保育士という専門職ということで、今現在正規雇用を多くしていただいているところでございます。

それから続きまして、⑲番、歳出125ページ、款10項１目２節７臨時職員賃金6,083万1,000円でございます。お尋ねの臨時職員賃金の内容でございますが、これはスクールバス等運転手27名のほか、技師１名、学校の相談員等、合わせまして合計32名分の臨時賃金を計上いたしております。時間給によるものでございますので、臨時賃金に組ませていただいております。

次に、21番目と22番目でございます。

まず21番目、歳出130ページ、款10項２目１節19日本スポーツ振興センター負担金115万8,000円、及び22番、歳出133ページ、款10項３目１節19日本スポーツ振興センター負担金64万8,000円について御説明をいたします。お尋ねの日本スポーツ振興センター負担金の内容でございますが、これは学校の管理下で発生しました事故におきまして見舞金や医療費が給付される制度に係る市の加入負担金となっております。念のために申し添えておきますが、幼稚園、保育園におきましても同様の支出がございます。

議長（鈴木　悦子君）

環境部長。

環境部長（妹尾　昌弘君）

それでは、失礼いたします。

私のほうから⑤番、92ページの款４項２目３節15工事請負費1,190万円の内訳でございますが、この工事費の内訳は、美作クリーンセンター建設に伴う周辺整備である杉原地区の農道整備に係る工事費でございます。

議長（鈴木　悦子君）

経済部長。

経済部長（遠藤　宏一君）

まず⑥、農業次世代人材投資事業費補助金でございます。この事業は平成28年度までは青年就農給付事業と言っていた100％国庫補助の事業でございます。内容は45歳未満の新規就農者で認定新規就農者に認定されますと、農業経営を始めてから経営が安定するまでということで、１年間に150万円を限度に最長５年間給付を受けることができるものです。この30年度は対象8.5人ということで、0.5といいますのは、ちょうど５年目で上期で支給が終わるという方がございまして、8.5となっております。

それから⑨、大河ドラマ放映15周年記念事業ということでございますが、平成30年に大河ドラマ武蔵が放映されまして15周年を迎えます。武蔵武道館でＮＨＫのど自慢の開催を要望しております。他の開催地の事例を参考にしまして、会場設営費が主な経費でございますけど、委託料550万円を計上いたしております。７月８日の開催が見込まれておりまして、経済部観光振興課で担当することになりますので、よろしくお願いしたいと思います。

それから⑩、ものづくり支援事業補助金でございますが、こちらは先ほどから貸付事業でも出ております一般財団法人地域総合整備財団、ふるさと財団でございますけど、こちらに補助事業がございまして、今回はＡタイプと言うんですけど、1,000万円が限度の補助事業でございます。雑入にもその歳入1,000万円を計

上しております。この事業内容でございますけど、きのう青山議員から質問をいただいたブレーキ踏み間違い事故防止装置の開発ということで、市内の事業者が取り組まれております。この商品化のための共同試験などの経費を補助対象にということで申請をしております。補助金の交付の審査はふるさと財団のほうでされるわけですけど、市町村を通して交付するということで、市のほうで予算計上しております。また、補助金を補助する姿勢を見せると、それから事業者のほうも４月から取り組みたいということで、当初予算のほうへ計上をさせていただいております。まだ採択は決定してませんで、１次審査が通った状況でございます。

それから、11番のふるさと融資2,100万円でございますが、貸付先は株式会社ショウワコーポレーションということで、本社工場の生産能力の向上と入出荷業務の効率化ということで、倉庫棟の建設でございます。倉庫棟を建設するんでございますけど、対象事業で先ほど答弁から漏れておったんですけど、新たな雇用、１人以上の新たな雇用が生まれることなどもその条件となっておりまして、45%無利子融資するということで、地域振興に資する民間投資を支援するということで貸し付けを行うものでございます。

それから、12番の観光施設費の修繕料の使途先と内容ということでございますが、まず市内の観光施設の緊急修繕に対応しますものが350万円、それから公用車の車検などに係る経費が45万円ということで、あとは戸別の施設の修繕ということで、愛の村パークの屋上防水などの修繕が592万円、武蔵の里関連施設のエアコン修繕など、82万3,000円、トム・ソーヤー冒険村のコテージの修繕など、206万2,000円、そのほか市営露天風呂の循環ポンプ、津谷野営場の街路灯修繕、木地師の館のろくろの修繕など、予定しております。

それから13番目、武蔵の里関連施設、愛の村パーク管理運営委託料につきましては、３年間で１億9,000万円を限度にしておるということで、初年度が6,333万4,000円、２年度目は6,333万3,000円と、1,000円差がございますけど、ということで限度額を計上しております。投資の部分の改修につきましては、この指定管理料を減額する方向で協議中ということでございます。

それから14番、観光施設費の工事請負費でございますけど、トム・ソーヤー冒険村のコテージの外装塗装工事、それからエアコン更新の工事を予定しております。

以上です。

議長（鈴木　悦子君）

１回目の答弁が終わりました。

ここで10分間休憩いたします。

午前11時16分　休憩

午前11時26分　再開

議長（鈴木　悦子君）

休憩前に戻り会議を開きます。

これもお願いなんですが、岡本議員、もう少しマイクに近づいてできるだけ大きな声で質問してください。それから、答弁をされる方もできるだけ大きな声ではっきりと、そして簡潔に。たくさん議案質疑が出ております。重複した案件もたくさんありますので、それは先ほどの答弁と一緒なら一緒だというふうな形でよろしくお願いいたします。

それでは、２回目の質問から入ってください。

１０番（岡本　泰介君）〔質問席〕

それじゃ、２回目に入ります。

まず、質問の２番目に上げた「我が事・丸ごと」の地域づくり推進事業というので、江見部長のほうからかなり詳しく御説明いただいたんですけど、よくわかりませんでした。１つわかったのは、おたがいさまネットをやっているということだけがわかったんで、あとは全然わからないんで、内容はおたがいさまネットみたいな具体的な例をもう一つ挙げてもらったら、よくわかっていいんじゃないかと思うんで、それだけお願いしたいと思います。

それから、嘱託賃金の話なんですけど、先ほどの回答がよくわかりませんでした。正職をふやす方向で行ってるというふうに言われたんですか。それともちょっとどういったことを言われたんか、ふらふらっとしたような答弁だったので、そこら辺をはっきりおっしゃっていただければと思います。嘱託を減らす方向で行くのか、どういうことかということです。

次は、８番の工事請負費のとこで7,700万円で、久しぶりに真木山林道という話を聞いて、ちょっと私びっくりしました。まだ真木山林道の話が生きてるんだなと思って、もうとうに終わった話なんかなと思ったら、実はあそこ私何年か前に通ったこともあるんですけど、物すごく道が荒れて、もう周りの溝は全部埋まってるんです。倒れた木はもう出てきとるし、もう道という感覚私持たなんだです。ああ、こんなことになるんだなと、真木山林道というのはこんなもんかと、無駄なことにお金を入れるもんだなという思いをそのときにもったもんですから、きょうも真木山林道という話を聞いて、ちょっとびっくりしました。これはどういうふうにしていくんですか、その辺をちょっと教えてください。真木山林道だけじゃなかったですね、ほかのこともあったと思いますけど、真木山林道だけでいいですから。

９番のＮＨＫのど自慢で550万円、結構かかるもんだなと。市長はのど自慢を呼べるということでお喜びのようですけど、結構お金がかかるんだなという思いがいたしました。これももうよろしいです、その思いを私言いたいだけで。

次は、10番、ものづくり支援事業でブレーキ間違いを防ぐ事業に1,000万円ということですが、これは100％ですか、国庫とか補助とか、その資金の内容を教えてください、1,000万円の内容。例えば国が何ぼで、市が何ぼで、県が何ぼでというような内容がわかれば教えてください。

それから、ふるさと融資の2,100万円、これショウワコーポレーションの倉庫を建てるということらしいですけど、それが公益性があるんかなという、どうも私はちょっと合点がいきません。それは倉庫を建てれば、雇用はそれは１人や２人ふえるかもわからんですけど、公益性という面においてはどんなもんかな、そこの2,100万円の予算のうちで45％で、そこの金利の４分の１だから、もう何ぼの金利を美作市が負担するのか、計算ちょっとできませんけど、それは微々たるもんかもわかりませんけど、どうもこれは納得できません。

それから、武蔵の里関連施設及び愛の村パーク管理委託料を6,333万3,000円上げてると、先ほども言いましたけど、これは市長は産建委員会で、もう営業すれば1,000万円下げるんだということを公言されてるわけですから、それを予算を３年間債務負担してるから、このまま上げて、そして協議して下げるんだということにはならんと思います。今もう協議をして、この予算でもう下げてくるというのが当たり前の話じゃないかという思いがありますので、その点市長がどう答えられるか、答えてみてください。

それから、ちょっと順番狂うかもわからんですけど、19番のスクールバスとか臨時職員の賃金を6,000万円上げとると、これはわかりました。私スクールバスの運転手さんと前にちょっと話してたら、スクールバスの運転手さんが非常に不満に思っておられることをぽろんと言われたんです。そのことをついでに言うておきます。スクールバスの運転手さんはその月の給料をもらうんですけど、ひとっつも明細がないんだ。時間給じゃとさっき言われたけど、この日に３時間働いて、この日に４時間働いて、この日に５時間働いて、

この日に３時間と、日ごとの明細が一切ないと、ぽろんともらって、それが正しいんか正しゅうないんか、全然わからんというようなことを言っとられた。それ事実かどうか、確認はしてません。皆さんにも確認はしてないんで、違うとったら違うとったと言うてくださったら結構です。

以上です。２回目は以上です。

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）

私に対して御質問があったんでお答えしますが、今回は骨格予算として、どうしても執行が４月１日以降すぐにやらなきゃいけないものを除いて、私の代になりましてからやったものについては補正予算計上ということに予定をしております。したがいまして、先ほどの件についても補正予算で計上するということで決定をいたしましたので、お答えいたしておきます。

以上です。

議長（鈴木　悦子君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）

②番、「我が事・丸ごと」への２回目の質問に対する答えですが、先ほどおたがいさまネット事業への取り組みということですが、同じく地区社協の活動の中で福祉会議という会議も開いていただいております。具体的には地域住民の方が地域の福祉活動の中でそれぞれの地域が抱える福祉の課題というものを何項目か年間の中で掲げられて、それを年間を通じてどういうふうに解決を図っていこうかということに地区社協の福祉会議の中で今活動として取り組んでいただいております。そういったものもこの事業の中に取り入れる中で、「我が事・丸ごと」の地域づくりをしていきたいというふうに考えています。

また、体制整備とすれば、生活困窮者、それから障がい者、それから認知症等、さまざまな課題を抱える市民の方がいらっしゃいます。そういった方を支える組織として民生委員であったり、地区社協の役員、それから社会福祉法人の連絡協議会等、その他一般の企業等あります。そういった組織を包括的に支援していただくような組織づくりとして連携を持つ中で支えていくような形をつくっていきたいというふうに考えております。

以上です。

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）

本件につきましては、議員は御存じかどうか知りませんけれども、私どもの美作市の社会福祉協議会は岡山県の社協の中で非常に先進的な取り組みをしております。何かといいますと、社会福祉に携わるさまざまな団体、今部長からも出ました、民生委員もそうです、あるいは事業所もそうですが、それとネットワーク構成をしておりまして、その面で今非常に注目を受けてるんですが、そのような方々を今後さらに糾合することによって一体として、あらゆる福祉の相談を受ける総合支援ができそうじゃということで、今社協も準備しております。私どもも期待しておりまして、この資金をそれに充てて、私どもの社協の活力をぐっと高めていく、そういう方向でございます。

議長（鈴木　悦子君）

建設部長。

建設部長（真野　弘紀君）

林道真木山線でございます。先ほど議員言われましたとおり非常に長くかかっておるのが現実でございます。尾谷のほうから河会谷のほうまで抜ける林道でございまして、当然ボリュームもたくさんあるんですけれど、地質が結構複雑で、工事をしてから岩盤が抜けたというようなこともありまして、工事費がかさんでおるのが現実です。ただし、もう２年か３年で抜けるというふうな計画をしておりますので、ここまで来ましたので、やり遂げたいというふうに思っております。

議長（鈴木　悦子君）

経済部長。

経済部長（遠藤　宏一君）

まず、10番のものづくり支援事業でございますけど、こちらはふるさと財団が行う、ふるさと財団からお金が出る補助事業ということで、補助率が10分の９以内ということで、その補助金の上限が1,000万円ということになっております。

それから……

〔「市は〔聴取不能〕だろ、市費負担ないんだろ」と呼ぶ者あり〕

ありません。市費負担はございません。

それから、11番のふるさと融資でございますが、この事業者の行う倉庫棟の拡張ですけど、工場棟が手狭であるということで、倉庫棟を増築して業務拡張に対応するということで、新規従業員２名の増員ということで、地域振興に資すると判断して貸し付けを行うものでございます。

議長（鈴木　悦子君）

教育長。

教育長（大川　泰栄君）

失礼いたします。

保育園の嘱託職員ということでございますが、子育て支援ということのニーズが高まる中、保育園入園者は年々ふえております。そうした中で保育士も非常にたくさん必要になっていると。なお、正規の保育士につきましては、私が参りましてからはできる限り退職者を上回るということで採用をお願いしているということで、ふやそうという方向でございます。

なお、臨時嘱託、スクールバス運転手の件につきましては、その方の勘違いだと思います。明細は毎月自宅に郵送をしておりますので、御理解くださいませ。

以上でございます。

議長（鈴木　悦子君）

２回目の答弁が終わりました。

３回目の質問です。

１０番（岡本　泰介君）

順番に行きましょうか。

真木山林道はもう二、三年ということらしいですけど、私の思いは、つくるのはいいけど、もう管理があれは大変だなと、恐らくもうすぐに通れなくなる道だろうなという思いがしております。多分旧英田町の人もそう思われてるんじゃないかと思う。私は何回も通ったわけじゃないんですよ。だけど、もうとても車で走れる状態じゃなかったということだけお伝えしておきます。できるだけ管理をきっちりして、つくるだけが能じゃないということもぜひ知っておいてください。

議長（鈴木　悦子君）

要望でいいんですか。

１０番（岡本　泰介君）

それは要望でいいです、もう。

それと、社協のほうで総合支援に取り組むということも結構ではないかと思っております。やってください。

あとは、先ほどの市長の例の武蔵の里の1,000万円の答弁は、私納得をそれでもちょっとできないですね。骨格予算だからと言われるんですけど、市長がもう自分で決められたことですから、骨格予算だというふうに言われるのは、私はおかしいんじゃないかなと思います。もう自分が決められたんだから、自分で決めて下げて、提出すると、そうしたほうが後任者の方もどなたがなられてもいいんじゃないかという思いは私はしますけど、その辺はいかがでしょうか。

ふるさと融資のことはよろしい。

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）

先ほど答弁したとおりでございますんで、御理解願います。

議長（鈴木　悦子君）

続きまして、通告順番４番、議席番号３番岩﨑清治議員の発言を許可します。

３番（岩﨑　清治君）〔質問席〕

私のほうはある程度出してるんですけれども、要約して質問もしますし、回答もそのようにしていただいたら結構ですけれども、一番最初の37ページ以下に書いてあるんですけど、市のソフト事業、起債ですね、過疎債、ソフト事業というのがあるんですけど、これ市長の財政的な考えを聞くのに一番いい案件かなと思って、市長のほうに特にお尋ねをするんですけれども、個別のことを聞いてるわけです。過疎債というキーワード、ソフト事業というキーワード、それから、ここには書いてないですけど、経常収支比率、影響すると思うんです。それから、借りてるお金ですから、減債というもんが影響すると思うんですけど、そのあたりの４つ、５つの一般財源という、入れれば５つぐらいなキーワードになると思うんですけど、このキーワードを含めてこのソフト事業について、市長の思いを聞かせていただきたいなと、具体的な中身はよろしいですから。

それから、46ページのところにカーボン・マネジメント強化事業というのが、これ全額補助金で、補助金というか、雑入で入ってるんですけど、この中身を教えていただきたいなと。

それから、47ページの企画費の報償費の記念品代と、これ一緒かどうかわからないんですけど、役務費の通信運搬費423万3,000円、金額両方ともちょっと大きいので、このあたりを含めてどういう事業、同じであればこういう事業、違うのであれば中身を教えていただきたいなと。

50ページにつきましては、国際交流費、旅費の175万8,000円、それから使用料の住宅使用料149万7,000円です。昨年と比べてこの予算が多かったみたいなもんで、ちょっと気になったもんで、中身を教えていただきたい。

それから、情報政策の部分、私の質問で言うと、51ページ、いろいろ質問事項について書いてるんですけれども、この中で債務負担を今年度29年度から５億2,000万円ですか、来てますね。この内訳をどれとどれが債務の部分に影響して、今までの部分がどれだという部分を教えていただきたい。その数字を中心でまだ

決められてないとこもあるんです。そっから先のほうは答えられたら答えられてもいいですし、よければそれでも結構です。

それから、10番の57ページ、みまさか創生費の中でこの字を見て、えっと思うような名前がたくさんあるんで、農作物の栄養分析委託料ですか、これなんか、きのうですか、一般質問のときか何か説明があったんですけれども、この委託料の部分と、次のページの備品購入費、それから負担金の部分を新しい名前ばっかり見ますんで、これを教えていただきたいなと。

それから、72ページの負担金のところで地域医療介護総合確保基金事業ですか、補助金の部分なんですけど、きのうですか、減額のときで話がありまして、介護保険の部分なんですけど、29年度で全額〔聴取不能〕減額をして、新たに予算してるんですけど、本当にこの30年度にできるんか。できるとしたら、どれだけできて、いつ、介護保険に影響しますよね、これ、保険料に。そのあたりを中心に答えていただいたら、どこどこの業者とかなんとかという気は、聞く必要ないんで、そのようにお願いしたいなと。

それから、149ページの２つあるんですけど、委託料でラグビー・サッカー場の野球場と、芝生の管理委託料、これが750万円ほど対前年よりふえてるわけですね。これはなぜこういうふうにふえたんかということと、大芦高原体育館の管理委託料、これも65万円ほどふえてるわけです。このあたりの内容について、ふえた理由の内容について教えていただきたいなと。

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）

ソフト債の基本的な私どもとしての考え方を申し上げますと、１番目にソフト債につきましては、かつてハードだけだった過疎債がさまざまな政策的ニーズを果たす中で、今まで補助がなかったものに充てられるといったことから、政策的な活用が進められてまいりました。当市で具体的な例を挙げますと、作東産業団地の立地補助金の原資として充てることによって、その他の財源がない中で当市の財源改善と立地の促進に寄与している、これ典型例です。これはさまざまな市場を考えたときに作東産業団地を造成して、ほっとくよりもそれをちゃんと立地をさせて、企業の活動をする、雇用増進を図るといったこと、総合的に考えますと、プラスの話だろうと思います。

もう一つは、これにつきましては、去年ぐらいからようやく解消したんですが、例えば施設の除却というのが非常に大変です。ほとんど何の手当もございません。例の総合的な施設の管理計画をつくったとしてもそこに充てられてる財源は３割とか４割の国庫負担しかない。したがいまして、そこに過疎債を充てれるよう工夫をさせていただきましたところ、これは大きな財政改善につながるということがあります。

したがいまして、大ざっぱに言いますと、政策を推進する上で他の助成手段がない、または欠けているところを補う、あるいは純然たる財政改善を行うという形でこの過疎債については、今後もよく見ながら活用していきたい。一方で、これについては、総枠が決まってますので、私どもとして余りたくさん使えることもできないという問題点もございます。

以上です。

議長（鈴木　悦子君）

総務部長。

総務部長（岡本　和之君）

失礼します。

私からは②の歳出46ページのカーボン・マネジメント強化事業について御説明を申し上げます。これは環

境省の地球温暖化対策計画に基づきまして、地方公共団体に地方公共団体実行計画事務事業編の作成というものが義務づけられておりまして、その作成に必要となる市の主要施設でのCO_2の排出削減可能量など、改善余地を検討するための評価、調査に要するものについて委託をするものでございます。

議長（鈴木　悦子君）

企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）

私のほうからは３項目めです。歳出でございます。記念品代として972万円、これの内容でございますが、これにつきましては、ふるさとの寄附事業に対します返礼品、これは寄附額3,000万円の３割に相当するものを返すものでございます。

それから、次の４項目めの通信費423万3,000円、この内容につきましては、地域おこし協力隊の資材の運搬費10万円、それから定住の関係の定住フェアへの荷物の運搬費１万円、それからふるさと応援事業の返礼品の送付費といたしまして412万3,000円を上げとるものでございます。

続きまして、⑤番でございます。⑤の国際費の普通旅費の175万8,000円でございますが、これにつきましては、ベトナム等と友好樹立45周年を迎えることを踏まえまして、ベトナム国やダナン市との交流を深めるための訪越に関する職員の旅費122万8,000円、それから当市のほうへ所属で置いておりますベトナム人の嘱託職員のダナン大学への業務報告などの旅費として22万円、それからダナン大学に派遣している日本語教師の美作市への報告に伴う旅費として16万円、それからダナン大学の美作市訪問に係る旅費として15万円を計上させていただいておるものでございます。

次に、国際費の住宅使用料でございますが、149万7,000円の内訳といたしましては、美作市の嘱託職員でございますベトナムの嘱託職員の住宅使用料といたしまして67万7,000円、それからダナン大学に派遣している日本語教師の住宅使用料として82万円を計上させていただいておるものでございます。

続きまして、７項目めの情報政策費に関しますもので、債務負担との関係はということでございますが、これにつきましては、まず７項目めの役務費２億4,459万9,000円、このうち、１億8,252万円が債務負担行為の予算となります。内容につきましては、個別包装端末の設置費……

〔３番岩﨑清治君「数字だけでいいです」と呼ぶ〕

はい。

それから、次の８番目の委託料の２億5,974万9,000円のうち、債務負担行為に関するものは9,234万円でございます。

それから９番、使用料に関します、これの内訳といたしましては、債務負担行為に該当するものはございません。

それから、10番目の備品購入費２億4,570万円のうち、債務負担行為に関するものは２億4,116万4,000円でございます。

続きまして、15番目の149ページの美作ラグビー・サッカー場等の管理委託料の増額の理由でございますが、これにつきましては、スポーツ合宿の誘致やオリンピックの事前合宿の誘致などに向けまして選手がよりよい状況でグラウンドを使用していただくと、そういったことで全面的に管理の内容を見直したために増額させていただくものでございます。

それから、16番目の大芦高原の管理費の増額要因でございますが、本年度までは備前ゴルフクラブのほうから機器を借りて整備のほうを行っておりましたが、来年からはゴルフ場の閉鎖に伴い、この機材が借りられないということになりまして、この部分を委託料として増額をさせていただいたものでございます。

以上でございます。

議長（鈴木　悦子君）

総合戦略監。

総合戦略監（大森　洋平君）

失礼します。

私のほうからみまさか創生費の分についての御説明をさせていただきます。

まず、57ページの委託料につきましてですが、1,766万9,000円ですが、まず１つ目として、農産物栄養成分分析委託料として300万円、こちらのほうは農作物の栄養価を分析をして、全国に比べて優位にある農作物商品のブランド化を推進するというものでございます。

２つ目としまして、高齢者フィットネス事業委託料として130万円、こちらのほうは市民の健康寿命の延伸というものを目的として、認知機能の回復維持といったことの効果が見込まれるような運動プログラムの開発及び推進というものを行うものでございます。

３つ目として、創業支援セミナー委託料として72万円ですが、市内の新規創業希望者の掘り起こし、あるいは近年開業した創業間もない事業者を支援すると……

〔３番岩﨑清治君「ちょっとゆっくりしゃべってもらえる」と呼ぶ〕

失礼しました。

創業支援セミナーにつきましては、新規創業希望者の掘り起こしであるとか、創業した間もない事業者さんを支援するためのセミナーを開催をするというものでございます。

４つ目ですが、啓発動画作成委託料でございますが、こちらのほうは食と健康の推進という観点のほうから健康効果の高いもち麦の普及啓発というものを図るということで、もち麦ＰＲの動画の作成を行うというものでございます。

５つ目として、登録商標の委託料でございますが、こちらのほうは市が作成をしたもち麦のキャラクターやロゴに係る商標の登録を行うというものでございます。

６つ目といたしまして、リンリン農業交流業務委託料ですが、こちらのほうは近年人気が出てきておりますサイクリング、こちらのほうに注目をしまして、サイクリングと農業体験をかけ合わせた観光振興に取り組んでいくというもので、新たな魅力の発掘と発信を行っていくというものでございます。

７つ目、スポーツツーリズム推進インバウンド業務委託料というところでございますが、インバウンドにつきましては、台湾、香港、韓国等が多いというところではございますが、今後力を入れていく国といたしまして、英語圏の国を対象としたインバウンドの推進というものを行っていくものでございます。

８つ目、海外向けコンテンツ制作業務委託料ですが、前段のものと近いんですけれども、英語圏をターゲットとして美作市の文化、スポーツ、観光を紹介する動画を作成していくというものでございます。

以上が委託料でございます。

次に、⑫番、歳出58ページでございますが、創生費の備品購入費でございます。内訳としまして、１つ目として、もち麦の普及促進を図るためのイメージキャラクターのもち麦君の着ぐるみの購入費用として207万円でございます。こちらは啓発セミナー等で使用するということを想定をしてございます。

２つ目として、ヨガやフィットネスチューブを使った運動プログラムに取り組む市民の効果を測定をするというためのソフトウエアとして15万円を購入するものでございます。

３つ目としまして、美作市獣肉処理施設の除菌関係の設備を強化をするというものでございまして、除菌水精製装置378万円を購入をする、導入するものでございます。

次に、⑬番、58ページの負担金補助及び交付金についてでございますが、１つ目として、地域活力創生事業補助金703万円でございますが、新規創業者や市内の中小企業を対象として、新規創業経営合理化、事業の持続などを対象とした補助制度を行うものでございます。

２つ目として、女子７人制ラグビーのラグビー祭事業補助350万円ですが、自衛隊体育学校の合宿にあわせて市民のスポーツ振興とラグビー・サッカー場のブランド力の向上、ラグビーの普及といったことで、ラグビーセブンズ交流会の実行委員会に補助を行うというものでございます。

３つ目として、生産基盤の強靭化事業補助金でございますが、地域の農業の担い手が生産活動を持続する、継続するために必要な機械等の導入に対して補助を行うというものでございます。

４つ目として、中小企業支援事業補助金というところでございますが、市内の中小企業を対象として販路拡大、事業拡大を目的として展示会等への出展や動画作成というところの費用に補助を行うものでございます。

５つ目、ベトナムダナン大学とのスポーツ連携事業補助金でございますが、ベトナム女子サッカーの代表チーム、ナショナルチームの合宿誘致を行うものでございまして、スポーツキャンプ美作実行委員会に補助を行うというものでございます。

６つ目として、農作物販路拡大推進会議補助金ですが、全国レベルの商談会に積極的に参加をして、ＰＲ及び情報収集を行うということの活動の経費に補助を行うというものでございます。

７つ目の欧州剣道チーム剣道大会でございますが、剣道と宮本武蔵というものを核としたスポーツツーリズムの推進という観点から、お通杯に参加する海外からの選手に対して剣道実行委員会に対して補助を行うというものでございます。

８つ目のスポーツアカデミー支援事業補助金でございますが、定期的なサッカースクールを開設をして、就学前の子どもたちの体力、基礎的能力の向上、心の成長といったものの取り組みを進めるものでございます。

以上でございます。

議長（鈴木　悦子君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）

失礼します。

私のほうからは⑭番の地域医療介護総合確保基金事業費補助金についてです。議員おっしゃいましたとおり昨日補正予算のほうで減額をいたしたものですが、平成30年度に市内２つの介護療養型の医療施設がありますが、このうちの一つの１施設が30年度の転換を予定していらっしゃいます。それから、もう一つの施設につきましても検討中ということでございまして、県への要望が７月ということになりますので、本年度また改めて予算に計上ということになっております。それに加えまして、特別養護老人ホームのほうからプライバシー保護のための改修という事業の申し出がございまして、この事業が１事業所の22ベッドの事業費が加わりまして、8,708万円ということになっております。100％県の補助でございます。

それと、介護保険に対する影響ということでございますが、転換の方向性としまして、１つは、介護医療院という新しい制度といいますか、介護医療院という定義の施設ができる予定でございます。それの介護報酬の点数とかが介護保険計画策定時点ではまだ具体的に示されておりませんでしたので、具体的にその報酬を上げるとか下げるとかということは計画には反映できてないと思います。現状のままの数値で上げておりますが、恐らく点数につきましては下がる方向で調整が進むと思いますので、計画よりは恐らく少し下がっ

たような給付額というものになるのではないかなというふうに考えております。

以上です。

議長（鈴木　悦子君）

よろしいか。

それでは、１時まで休憩いたします。

午後０時05分　休憩

午後１時00分　再開

議長（鈴木　悦子君）

休憩前に戻り会議を開きます。

岩﨑議員、２回目の質問から入ってください。

３番（岩﨑　清治君）〔質問席〕

２回目でございますので、数点のみお尋ねをいたします。

まず１点は、過疎債のソフト事業、これは逆に言えば一般財源と同じような使い方ができる、もちろん経常収支比率にしてもこれがあることによってプラスアルファに動くし、いい制度でありながら市を守る財政的な問題があると思いますんで、そのあたり、市長、もしあればお願いをいたします。

それから、済みません、58ページの説明いただいたんですけど、みまさか創生費の中の地域活力創生事業補助金703万円、この内容をもう少し丁寧に教えていただきたい。

それから、体育施設費の中の、先ほど答弁いただいたんですけど、美作ラグビー・サッカー場、野球場の芝管理の部分、750万円ほどふえてるわけなんで、ふえる率がちょっと多いという中での内容、中身、何があってこれだけふえたか。

それから、その下の大芦高原体育館の部分についても、機械を借りるとかなんとか言われたんですけど、もう少し丁寧に教えていただきたい。

以上、お願いします。

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）

一般的におっしゃるとおりで、財務改善につながるんですが、ただし当然ですけど、起債ですんで、この償還ということも考えながら、適切な残高管理をしていくというのを心がけていこうと思っております。

議長（鈴木　悦子君）

企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）

美作ラグビー・サッカー場の委託の増でございますが、これにつきましては、今までやっておりました芝の管理、そういったものを２回を３回にふやすとか、それからグレー芝、そういったところにつきましても管理業務、そういったものを見直しをさせて、より丁寧な作業を行うようにということで増額になっているものでございます。

それから、大芦高原の委託料でございますが、これは備前ゴルフ場から芝刈り機を借りて、職員がみずから芝を刈っておったんですが、閉鎖に伴いまして、この芝刈り機が借りれなくなったために委託料に回すというものでございます。

以上でございます。

議長（鈴木　悦子君）

経済部長。

経済部長（遠藤　宏一君）

地域活力創生事業補助金703万円でございますが、中小事業者へ対する補助金で４項目ございます。１つ目が、スタートアップ支援事業ということで、新規創業の事業者、事業所の新設に対するもの、３件分で303万円、それから２つ目に、事業持続化支援事業ということで、経営合理化になる備品導入ということで、２件分、200万円、それから新事業活動支援事業ということで、経営革新を行われる事業所等の機能強化に対する補助ということで、１件分、100万円、それから活力アップ補填支援事業ということで、小規模な店舗改修、トイレの洋式化等なども対象になりますが、５件分、100万円を計上しております。

議長（鈴木　悦子君）

岩﨑議員。

３番（岩﨑　清治君）

一応の疑問点はお答えをいただいたんですけれども、先ほど言いましたように市のソフト事業で使う一般財源部分については、逆に言うたら、減債基金で３割相当預金をするとか、そういう財政策をされるのが市を守るためにはいいんじゃないかなというふうな意味合いがございました。

それから、一般的に見まして、市長がきょう今議会においては骨格予算とずっと言われてるんですけど、予算額が非常にふえた分、先ほどの芝なんかの部分については、年間契約というのであるので、やむを得んと思うんですけれども、それ以外にふえた部分が非常に多うございます。私は骨格予算というのはもう少し違うような予算の成立ではないかなというふうに全体を見て思いました。

私の質問はこれで終わります。

議長（鈴木　悦子君）

続きまして、通告順番５番、議席番号12番萬代師一議員の発言を許可します。

萬代議員。

１２番（萬代　師一君）〔質問席〕

それでは、早速質問のほうに入らせていただきます。

私は８項目につきまして通告をしておりましたけれども、いろいろ前もっての質問等がありまして、それの答弁で割愛させていただくことがたくさんあろうかと思います。

まず、①といたしましては、バスの運行費でございますけども、こちらにつきましては、昨日の議案第22号で説明を受けまして、この金額の差異についても確認ができました。ただ、30年度執行におきましては大幅な減額補正予算とならんように配慮していただきたいということだけお願いしておきます。

それから、②の54ページのタクシー利用補助金についてでございます。実証実験ということで過疎債のほうにも項目として上がっております。こちらにつきましての実証実験の対象者、エリア、またこの期間についてお尋ねをいたします。

次に、３点目の58ページの備品購入費につきましては、岩﨑議員の質問で了解をしました。

④の歳出58ページにつきましては、ベトナムダナン大学等とのスポーツ連携事業補助金につきましては、大森総合戦略監の説明がありましたんですけども、なぜ当初予算の予算計上となったのか、また内容と、その効果について再度説明をお願いをいたします。

続きまして、同じページの欧州剣道チーム等剣道大会交流事業補助金につきましては、対前年比から見ま

すと、大幅な金額の増額となっております。この内容といたしましては、欧州のほうの剣道チームの人を迎えるための予算という説明があったように理解しておりますけども、来られるのが何人で、そして補助の対象としてはどの範囲を補助されるのか、その内容についてをお尋ねをしておきます。

それから、６点目のものづくり支援事業補助金につきましては、岡本議員の質問で理解いたしましたので、よろしいです。

⑦番目の123ページの款９項１目３節15工事請負費１億6,320万円につきましては、工事請負費でございますけど、内容についてお尋ねをします。

８番目のページ149の美作ラグビー・サッカー場、美作野球場芝等管理委託料につきましては、岩﨑議員の質問で理解をいたしましたので、答弁は結構でございます。

以上、よろしくお願いいたします。

議長（鈴木　悦子君）

市民部長。

市民部長（角南　良雄君）

それでは、款２項１目12節19負担金補助及び交付金のタクシー利用補助の607万7,000円の実証実験の範囲でございますが、７月から実施しておりますものが作東地域、それから12月から全市に拡大いたしました介護認定者で運転免許を持っていない方を対象にした実証実験を市内全域としておりまして、当初予算では６カ月分を計上しております。

以上です。

済みません、追加で。

期間については、４月から６カ月間です。そういう意味です。

議長（鈴木　悦子君）

総合戦略監。

総合戦略監（大森　洋平君）

失礼します。

ベトナムダナン大学とのスポーツ連携事業につきましてですが、なぜ当初かというお話でございますが、本事業、みまさか創生費全てでございますが、28年度に申請をしております地方創生推進交付金、これが28年度から３年間で獲得をされてございまして、その３年目の事業として４月１日から実施をするということでございますので、当初予算として計上させていただいているというものでございます。

その効果につきましてですが、ベトナムからのナショナルチームの合宿を湯郷Ｂｅｌｌｅと連携をして交流試合等も行うということでございまして、ラグビー・サッカー場が合宿地として世界からも注目をされるような高いポテンシャルを持つ競技場であるということを発信をできる、そしてそのブランド力を発信をしていけるといった効果が認められるものではないかというふうに思っております。

もう一つ、欧州剣道の件でございますけれども、まず何人来るかといったところでございますが、昨年度の実績でございますが、海外からのお客様が51名来ていただいております。来年度につきましても、昨年度は欧州が主に中心でございましたけれども、欧州を初めとして、その他アジアの国も含めて新たな競技人口がまた来ていただけるような形で取り組んでまいりたいというふうに考えております。

また、費用に関しまして、項目としては宿泊費、旅費、消耗品等々でございます。

以上でございます。

議長（鈴木　悦子君）

危機管理監。

危機管理監（皆木　佳久君）

⑦、123ページ、消防施設費の工事請負費１億6,320万円でございますが、この費用の中には２件の工事費が含まれております。

まず１件目は、屋外拡声器、既存の屋外拡声器48機の修繕料、及び未整備地域、10機を新設しますが、これの工事費１億5,670万円でございます。

そしてもう一件は、これ位田地区になりますが、防火水槽の新設工事費ということで、650万円を計上させていただいております。

以上でございます。

議長（鈴木　悦子君）

萬代議員。

１２番（萬代　師一君）

ありがとうございます。

ベトナムダナン大学等とのスポーツ連携については、関連事業と、３年間の継続事業ということの最終年度の予算ということで当初予算に上げたということでしょう。

欧州チームにつきましては、昨年の実績として51人で上げられて、予算で見れば240万円ほどだったと思うんです。それが418万円という、予算計上するに当たっては当然積算されとると思うんですよね。私のほうからお尋ねさせていただいております人数はどのくらいを予定されとんですかということについて、その数字が違うとるがなというてつめりゃあしませんけども、余りにも200万円から増額になっとんだから、どのくらいの人数を見込んどるんだというお答えがいただけたらと思います。説明のほうお願いします。

議長（鈴木　悦子君）

総合戦略監。

総合戦略監（大森　洋平君）

失礼いたしました。

人数につきましてですが、一応50名、前年度実績を踏まえて50名程度で積算をしてございまして、まず欧州、渡航費につきましてですけれども、渡航費は全てじゃなくて、一部の負担でございます、全てを市が支払うわけではございません。まず、欧州について15名、カナダ、18名、シンガポール、12名、台湾、15名といったところで積算をさせていただいておるところでございます。また、国内の旅費、羽田あるいは関空から美作までの往復の旅費であるとか、宿泊の費用、こういったものを計上させていただいておりまして、合計として418万円の計上とさせていただいているところでございます。

以上です。

議長（鈴木　悦子君）

萬代議員。

１２番（萬代　師一君）

済みません。

欧州剣道につきましてですけども、こちらについて再度効果について通告させていただいておりますので、どのような効果があるかということだけを説明をお願いいたします。

議長（鈴木　悦子君）

総合戦略監。

総合戦略監（大森　洋平君）

効果につきましてですが、今年度の欧州剣道大会に私も参加をさせていただいたんですけれども、すごく国際色の豊かな、数で言うと十何カ国ぐらいの選手が来ていただいたということで、かなりの方々からもう非常に好評と申しますか、すごく海外の女性剣道家が集まる国際的な試合として認知をされたというふうに理解をしてございます。こういったところで海外への武蔵というブランド、武蔵という武道館、こういったもののアピールにかなり強くつながっているのではないかというふうに思っております。

以上です。

１２番（萬代　師一君）

よろしい。終わります。

議長（鈴木　悦子君）

続きまして、通告順番６番、議席番号15番岩江正行議員の発言を許可します。

１５番（岩江　正行君）〔質問席〕

では、質問をさせていただきます。

最後になりましたんで、ほとんどの項目が重複してるんじゃないかと思います。じゃから、端的に御回答お願いいたしたいと思います。

やっぱりこの予算質疑しょうる、なぜこの予算をここにことしはこんだけの予算を計上したんかという、やっぱし新しい事業をするんだったら、このような効果を求めてやりょんじゃというような説明が、何か知らんけど、できてないように思います。そして、やっぱり古い事業を継続する事業については、これこれじゃからこいつは継続していきたい、もう少しやってみたいんじゃとか、それから今言ようる切らにゃあいけん事業についてはいつまでも要らん事業をどろどろ引こずっていくんじゃなしに、これはこういうな形の中で切っていくんじゃとかというような、そういうな説明が全然できてないんじゃないかと思うわけでございますんで、その辺のとこを求めて、先ほど来萬代議員も言ようりましたけども、この事業大きな税金を投資するわけですから、効果ぐらいはきちっとした説明をしていただきたいと思います。

それと、今回の質問で前年度との比較を私は全部ずっと出しております。なぜこうなったんかというその根拠を説明していただきたい。

では、１番目から入らせていただきます。歳入、15ページ、款１項１目１の本年度と前年度の比較、1,262万9,000円の説明。

それから、歳入の15ページ、款１項１目２の本年度と前年度の比較、3,855万円の説明、なぜこうなったんかという。

それから、本年度、前年度の比較で、15ページの款１項２目１、本年度、前年度の比較、806万8,000円の説明。

それと、15ページ、款１項４目１、本年度、前年度の比較、329万5,000円の減額。

それから、歳入で16ページ、本年度、前年度の比較で、款１項６目１、460万5,000円の説明、内容。

それから、17ページの本年度、前年度の比較、300万円の減額の説明。

それから、７番で17ページの本年度、前年度の比較の３億4,000万円の説明。

それから、８番の本年度と前年度の比較で、6,480万6,000円の説明。

それから９番目、本年度と前年度の比較で、款15項２目２、6,423万7,000円の説明。

歳出の46ページ、カーボン・マネジメントの強化事業委託料の996万7,000円、これの説明。

それから、記念品のページ47、２、１、６、972万円。

それから、12の防犯灯設置事業補助費の進捗率はということで、300万円。

それから、防犯カメラ設置事業補助金の81万円。

それと、14の51ページ、款２項１目１の3,152万9,000円の説明について、通信運搬料ですね。

それから、歳出の51ページ、款２項１目11節12、２億1,247万4,000円。

それから、歳出がページ52、備品購入費２億4,570万円の内訳。

それから、17番、ページ54、款２項１目12節19、利用人数、行き先、市内、市外の場所はということです。

それと、18番、歳出のページ58、款２項１目38節19女子７人制ラグビー祭事業補助金350万円。

歳出で58ページの款２項１目38節19ベトナムダナン大学スポーツ連携事業補助金550万円の内訳ですね。

それから、20番の歳出で58ページ、款２項１目38節19欧州剣道チーム剣道大会交流事務補助金の418万5,000円。

歳出で67ページ、「我が事・丸ごと」の地域づくり推進事業の委託料1,200万円、委託料ですね。どこに委託されるんか。

ページ67、款３項１目１節13権利擁護アドバイザー委託料。

それから、ページ67、款３項１目１、48万1,000円。

それから24、ページ68、款３項１目１節20の326万8,000円。

高齢者福祉費の歳出でページ71、款３項１目３。

それから、26番の歳出72ページ、款３項１目３節19の高齢者住宅改造事業補助金732万6,000円。

それから、歳出でページ73、款３項１目７、この人権推進費の減額されとる、少なくなっとることについての説明。

生活保護扶助費のページ82、款３項３目２、本年度と前年度の比較で、減額の8,873万5,000円の説明。

それから、歳出で、人権教育費、141ページ、款10項５目３、本年度との比較で、△の１万6,000円。

それから、歳出で149ページ、款10項６目２節13勝田運動公園管理委託料592万1,000円。

それと、歳出は、ページ149、款10項５目２節13庭園管理委託料で595万3,000円。

以上です。重複しとるところがあると思いますので、先ほど言うたような私が聞きたいのは、新しい事業を取り入れとる、この根拠、目的、やっぱしこういうな効果を求めてこの事業を取り組んだんじゃとかというような、それから減額されとんだったら、これは今言ようる減額された中身、必要ねえけん切ったんじゃとか、その辺のとこのいろいろと説明があると思いますんで、その辺のとこからお願いします。

議長（鈴木　悦子君）

市民部長。

市民部長（角南　良雄君）

それでは、①の15ページ、款１項１目２節１市民税個人分の前年度1,262万9,000円の増加については、市民税の課税状況として市民の方全体で課税所得が企業の景気、公共や社会環境の変化などから上昇しています。平成29年度の予算につきましても、今回の３月で増額補正しておりますが、30年度も同様の所得状況と見込んで予算計上しております結果、平成29年度当初予算より1,262万9,000円の増収で予算計上しております。

続きまして、②の法人市民税につきましては、平成29年度より企業の業績好調の状況が見受けられ、29年度予算の３月補正で増額補正を計上していますが、全体の決算状況が好転していることが継続する見込み、さらに平成29年度より新たに納税義務者となった新規法人の課税分の税収も見込まれることから、３月補正

後の29年度予算額とほぼ同等の見込みをして、現年度分の法人市民税予算額を前年度当初予算より3,871万円の増で１億9,228万2,000円で計上させていただいております。

③については、岡野議員に先ほど説明したとおりでございます。

④の市たばこ税につきましては、平成30年度も市たばこ税の税収が減少することが推察され、329万5,000円の減収で１億8,606万1,000円の予算を計上しております。

続きまして、⑤の入湯税については、今年度の29年度の入湯税歳入についても、その状況が継続するとしての歳入見込みで算定しており、平成30年度の入湯税を3,993万1,000円で計上しております。

続きまして、⑫の総務費の負担金補助及び交付金の防犯灯設置補助の補助金の300万円の進捗率と防犯カメラ設置支援事業補助金81万円についてでございますが、まず防犯灯設置補助については、ＬＥＤ化のため新設更新に伴う設置費の２分の１を補助しているもので、300基の防犯灯に予算計上しております。進捗率についてでございますが、市内の防犯灯の契約数は約5,259件で、平成24年度以降4,226基がＬＥＤ化されておりますので、約81％がＬＥＤ化されております。これは２月９日現在であります。

⑬の防犯カメラ等設置支援補助金でございますが、地元が防犯カメラを設置する場合、設置費の10分の９を補助するもので、３機分を計上しております。

17のタクシー利用補助についてでございますが、先ほど萬代議員のときにも説明させていただきましたが、質問内容が少し違うようなので説明をさせていただきます。607万7,000円の利用人数、行き先、目的についてでございますが、まず利用人数でございますが、実証実験の状況を踏まえ、１カ月の利用者数を作東地域の実証実験分で239人、介護認定者分で605人としております。

次に、行き先、目的、場所でございますが、現在までの利用状況から、市内から市役所または各総合支所、ＪＡ、金融機関、病院、福祉施設、買い物では地域の商店や地域外の商業地などとなっております。市外では病院が主な行き先となっているようでございます。

27の人権推進費のところでございますが、本年度3,534万5,000円と前年度3,716万1,000円の差額181万6,000円の減額になっておりますが、これは人権推進費につきましては、本年度と昨年度の差額は１万4,000円の増となっております。昨年に引き続き事業を実施してまいりますが、減額の理由としては担当職員の人件費、給料等に差があり、減額となっているものでございます。

以上であります。

議長（鈴木　悦子君）

総務部長。

総務部長（岡本　和之君）

失礼いたします。

ページ17、ゴルフ場利用税の減額ということでございます。ゴルフ場利用税の平成28年度決算額は4,743万8,000円でございました。岡山県に確認したところ、平成29年度の利用者はほぼ前年並みということでございますが、美作市で収入された12月までのゴルフ場利用税収入は3,316万1,000円でございまして、前年度の同時期と比較すると、約７％程度減となっております。平成29年度の決算見込みは4,400万円程度と見込んでおりまして、利用者が同数であるのに利用税が減った原因でございますけども、ゴルフ場利用税が非課税となります70歳以上の利用者の割合がふえたことが考えられます。このことから平成30年度も同じ割合で減ると見込みまして、前年度比較300万円減の予算としております。

次に、７項目めの歳入17ページ、地方交付税が前年比較３億4,000万円の減ということでございます。減額の一番の要因でございますが、これは普通交付税の合併算定がえの縮減率が前年度の50％から70％へと、

20%ふえたことが主な要因でございます。

以上でございます。

それと、46ページでございます。カーボン・マネジメント強化事業の委託料でございますが、これは先ほど岩﨑議員の御質問にお答えしたとおりでございますので、よろしくお願いいたします。

議長（山本　雅彦君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）

失礼します。

⑧番のページ23の民生費国庫負担金の6,486万円の減額の内訳ということですが、最も減額の影響が大きかったものが、節の生活保護費国庫負担金6,655万1,000円でございます。きのうの補正予算の質問でもお答えしましたが、生活保護によらない社会保障制度の活用や就労支援による経済的自立に向けた支援によりまして平成24年度をピークに保護世帯数、人員が減少傾向にあります。30年度の当初予算におきましては、予算編成時の保護世帯のおおむね５％増、これが160世帯になりますが、これを基礎として積算を行いまして、３億5,000万8,000円、前年比でマイナスの8,873万5,000円の減額ということの歳出の予算を計上しまして、これの４分の３の負担率を減じて、8,873万5,000円の減額となっております。ということで、この部分に係る金額が最も大きいということになり……。失礼しました。４分の３を掛けました6,655万1,000円を減額ということで、この部分が最も影響が大きいものとなっております。

それから⑨番、26ページの民生費県補助金の減額の理由でございますが、これにつきましても、一番大きいのが、きょうの御質問の中にもありましたが、地域医療介護総合確保基金事業、きのう説明しました小規模多機能居宅介護事業所と看護小規模多機能居宅介護施設、それから認知症の入所通所施設の公募事業がことしは行いませんので、この分が減額となっておりまして、これの影響額が7,107万8,000円ございます。その他、補助金がたくさんありますので、それらで多少の増減がありますが、主な要因としましては、この地域医療介護総合確保基金事業の減額というものが一番大きい要因となっております。

それから、21番、ページ67、「我が事・丸ごと」の推進事業ですが、委託先につきましては、岡本議員にも御説明いたしました社会福祉協議会でございます。内容につきましては、岡本議員への説明の内容のとおりでございます。

それから、22番、権利擁護アドバイザー委託料でございます。これは高齢者、障がい者、児童の虐待防止、それからＤＶの被害者支援、成年後見制度の利用、その他、市民の権利擁護の支援を行いまして、地域社会における不当な権利侵害や虐待をなくす目的で平成28年度に美作市権利擁護センター12（トゥエルブ）を設立しております。この中で毎月１回、支援検討委員会を開催しておりますが、専門的な見地からアドバイスをいただいております公益財団法人のリーガル・エイド、ここに相談業務を委託しておりますので、この法人に対する委託料でございます。

それから、23番、ページ67の市民後見人養成及び法人後見事業委託料でございます。これも先ほどの権利擁護センターに関する事業でありまして、認知症や障がいにより判断能力が低下されておられる方に対しまして成年後見制度の利用を行っていただいております。今後におきまして親族等における後見が困難な方が見込まれることが多くなってまいりまして、弁護士や司法書士など、専門職による後見人は限度がありますので、一般市民の方に市民後見人の役割が期待されておりまして、その後見人を養成する事業でございます。委託先は社会福祉協議会ということで行います。29年度までに10名の方が市民後見人バンクに登録をいただいたという実績でございます。

それから、24番のページ68、特定疾患療養附帯交通費326万8,000円ですが、この交通費につきましては、従来より人工透析や難病の患者さんの通院費の一部を助成しております。平成28年度から月額上限額を5,000円に引き上げており、今回も条例改正の提案を行っておりますが、難病患者の対象者が拡大傾向にありまして、29年度実績をもとに10万円の増額を見込み、予算計上をしているところでございます。

それから、25のページ71の高齢者福祉費の6,883万6,000円の減額でございます。これにつきましても、たびたび話に出てくるんですが、地域医療の介護総合確保基金事業、これも先ほど歳入のほうで説明しましたが、この部分につきましては、歳出に係る部分でございます。先ほど説明しました去年行う予定であった事業がことしは行う予定がございませんので、その部分が減額となりまして、その減額の部分が7,042万9,000円です。これが一番大きな要因でございまして、目の中で差し引きいたしまして6,883万6,000円の減額ということになっております。

それから、72ページの高齢者住宅の改造事業補助金でございます。これにつきましては、介護保険を優先して高齢者の住宅改造は行うんですが、それで追加的にまだ住宅改造が必要な場合につきましては、県及び市でその費用の３分の２を助成する改造事業の補助金を支出しております。事業費の基本額が50万円で、33万3,000円の補助費掛ける22件分ということで、積算をいたしまして、予算を計上させていただいております。

それから、ページ82の生活保護費の減額でございますが、先ほど国庫負担金のところで説明しましたが、29年10月時点の保護世帯を基本としまして、おおむね５％増の160世帯を基礎といたしまして、今年度の予算は３億5,000万8,000円ということで扶助費を計上しております。昨年と比較しまして、大きい減額となっておりますが、内訳の中で一番大きいのは医療費扶助ということになります。昨年長期入院者であるとか、施設入所者の方の生活保護廃止というものも件数的にはそこそこの件数がありましたので、このような減額の金額となっております。

以上でございます。

議長（鈴木　悦子君）

企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）

失礼いたします。

私のほうからは11項目めでございます。47ページ、記念品代972万円でございますが、これは先ほど岩﨑議員のほうに御説明させていただいた内容と同じでございますので、よろしくお願いいたします。

続きまして14項目め、51ページの通信運搬費の3,152万9,000円の内訳でございますが、行政内部情報運用事業のインターネット接続料といたしまして218万8,000円、それからＣＡＴＶ事業の料金に係る通信費としまして134万円、それから美作情報基盤整備のＩＰ告知に係るフレッツ使用料といたしまして2,800万1,000円を計上させていただいているものでございます。

それから、15項目めの手数料の２億1,247万4,000円でございますが、これは先ほど岡野議員のほうに御説明させていただいた内容と同じでございますので、よろしくお願いをいたします。

それから16項目め、52ページの備品購入費２億4,570万円の内訳でございますが、これは行政内部情報運営事業の通信機器の購入費47万4,000円、それからＣＡＴＶ事業の議会中継用のカメラ等の購入費といたしまして406万2,000円、それから告知放送の整備に係る個別の放送端末、それから機械設備、それから映像用の光変換機器、こういったものの購入費として２億4,116万4,000円を計上させていただいとるものでございます。

それから、30項目めでございます。149ページ、勝田運動公園管理費委託料の592万1,000円でございますが、これにつきましては、公園の芝、立木の管理費、または草刈り費、清掃作業の費用として計上させていただいとるものでございます。昨年まではこの委託料の中に遊具の点検料を含めておりましたが、これは別途ほかのところで計上させていただいたことから、昨年から減額となっております。

それから、31項目めの支出でございます。庭園管理の委託料でございますが、この委託料につきましては、ラグビー・サッカー場の庭の剪定、刈り込み、それから沈渣池周辺の草刈り、それから立木の伐採、それから武蔵武道館の清掃、草刈りと少林寺拳法記念館の植栽、清掃、それから作東Ｂ＆Ｇ海洋センターの植栽、清掃、それから英田トレーニングセンターの庭木の剪定等になっております。これにつきましては、ラグビー・サッカー場の立木伐採を新規に行うことから増額というふうになっております。

以上でございます。

議長（鈴木　悦子君）

総合戦略監。

総合戦略監（大森　洋平君）

私のほうからは⑱、⑲、⑳、３つでございますが、まず⑱、58ページの女子７人制ラグビー祭事業補助金でございますが、こちらのほうは先ほど岩﨑議員の御質問の中で御説明をさせていただいたとおりの事業でございます。補足として事業の効果というところでございますが、本事業を行うことによりましてラグビー・サッカー場の知名度のアップにつなげられたといったところでございますとか、2019年ワールドカップラグビー日本開催に向けた事前キャンプ地の誘致に向けた取り組みのアピールとして効果が出てきているというふうに考えております。また、地元経済効果という観点からもこのラグビー祭に10団体、12チームが全国から参加をしていただいておりますので、そういったところで宿泊費用等々で地元への経済効果にもつながっておるというふうに理解をしております。

続きまして⑱、ベトナムダナン大学とのスポーツ連携というところでございますが、こちらのほうも内容に関しましては、先ほど岩﨑議員と萬代議員のところで御説明をさせていただいたとおりでございます。また、効果につきましても、同じようにラグビー・サッカー場の合宿地としてのアピールといったところ、そしてサッカーチーム湯郷Ｂｅｌｌｅとの交流試合といったところでのＢｅｌｌｅの強化というところが考えられるというふうに思いますし、先ほど申したような経済効果という観点でも地元への宿泊というところで効果があらわれているというところかと思っております。

欧州剣道チームにつきましてですが、先ほど萬代議員のところで詳しく御説明をさせていただいたようなところで効果が認められるというふうに考えておりますので、よろしくお願いいたします。

議長（鈴木　悦子君）

教育長。

教育長（大川　泰栄君）

㉙、人権教育費の１万6,000円の減額でございますが、これはこれまで各施設で支払っておりました美作市ケーブルテレビ使用料が平成30年度から免除となり、２万4,000円が減額となったものが大きな理由でございます。

議長（鈴木　悦子君）

岩江議員、２回目です。

１５番（岩江　正行君）

２回目。

何かもう目がちらちらして、もう字も何も見えんようになりょうる。

まとめて言うけども、市民税の関係、これ数字だけべらべらっと言うたけども、景気が上向いたんじゃと、それでこういうな数字が出たんじゃと言よううりますけど、どこが景気がえかったんな。百姓なんか、林業なんか、その辺の商業なんか、サービス業なんか、その辺のとこをちょっと説明してもらわなんだら、これが林業関係が大体何%、商業が大体何%、それから今言ようる大きな工場じゃ、生産しょうる、そこらのところが何%ぐらいというような全体の中でそのくらいなね、また資料がないんじゃろうから。けさ叱られましてね、自治法の121条を読んどんか、岩江さんというて叱られまして。というのは、３番議員が質問しましたら、職員が説明ができん、資料がない、手持ちにない、答弁はできない、というふうなことで、ここで議会じゃというて、こんなもん議会でも何でもありゃあへん、雑談じゃ、そんなもんな。雑談しょってもやっぱりしっかりした説明をせなんだら、これは市民をばかにしたことになるんじゃないんかと思います。それで、やっぱり市税の関係、これについて職種を全部拾い上げて、上向いたという、上向いとんだったら、どこが上向かんのんか、伸ばすのはどんどん伸ばして上がったらよろしいがな。落ちこぼれをしょうる企業にどういうに今後は取り組むというんが、これ行政の責任じゃないんかと思うんじゃ。その辺のとこができとらんというのは、これはちょっとおかしいんじゃねんか。

それと、たばこ税ももうよろしい。少のうなるような健康管理されよんじゃなというような、たばこというのは百害あって一利ないというて言われておりますんで、市としては税収が落ち込むというのは、これは非常につらいこっちゃけども、市民の健康あってのことですので、これについてはもう私はよろしいです。

それから入湯税、これを数字だけ読んだ。406万5,000円という数字だけ読みなった。読んだんじゃけども、この数字を新年度に向けてどのような働きをしょうと思うんじゃというような一つの決意ぐらいは言うても、議会が承認しました、これで結構ですというような問題じゃならんと思うん。

それから、ゴルフ利用税の関係、これについても一緒、これも300万円減額になっとるけど、これも一緒。じゃけん、やっぱしなぜこう減ったんじゃから、これ必要なんじゃから、税収伸ばすのはやっぱしこういうな取り組みせにゃいけん、これがこういうふうな数字が出てからこう頑張ろうというような気持ちだけは、決意ぐらいは言ってほしいな。

それと、ずっと見ていきょうて、自治振興の防犯灯の設置、それから防犯カメラの問題、きのうもあれカメラがついとんかついてないんかというような、けさ人から電話ありまして、東栗倉のほうで施設の中の前のとこがつるつるに凍っとったらしいです。そこで転倒しまして、足を折って、月曜に手術するというて言よんですけども、やっぱりそういうな明るうするとか、それから今言ようる、保険もらうのにやっぱしこういうなとこでカメラがあったら、保険屋へ申請するんでも、こういうなところでこうして転倒したんじゃというて、保険の関係もいろいろと関係してくるんじゃないんかと思います。そういうな形の中でけさ電話がございました。

それと、52ページの２の１の１の18、情報政策費備品購入費２億4,570万円、何をどこで、早う言うたら、市内で消費できるもんか、備品購入、またこれも市外のほうで買うてしまうんか、何かその辺のとこでも説明できる範囲でよろしいから。

それから、交通運行費の問題、タクシー利用補助金607万7,000円、利用人数言うただけ、それでこの下に私市外と市内というて書いとん。市外だったら一番遠いとこはどの辺まで行かれたんか。というのは、よそだったら岡山行くんだったら１万円以上は免除しますよとか、いろんなことを取り組みょうる町があるわけじゃ。そのことを今ここで一般質問で議論したんじゃけども、何にもうちの市民部長わかっちょらへんのんじゃ。周辺の、近隣町村のそういうないいもんについちゃあ全然取り組んでいかなんだらいけんので、それ

が全然できてない。非常に残念に思います。それで、市内はわかっとんじゃけど、市外だったらどの辺まで行っとんか、津山なんか、岡山なんか、鳥取なんか、病院にしてみても。例えば黄福タクシーやこうだったら、病院を指定しとるわけじゃ、病院というて言ようるけど、病院を。岡山だったら大きな病院をずるっと指定しております。そういうなことは恐らくうちはまだしとらんのんで、そういうないいことについてはどんどん取り組んでいただきたいと思います。

それから、人権推進費、もうこれはじゃぶじゃぶ言よったけども、市民部長、これ法律じゃあな。平成28年12月９日に成立して、16日から施行しとるわけじゃ。美作市も法令遵守をやられとんだったら、ここの中で何をうとうとんな。ここの中で少のうなった問題じゃねえ、ふやさにゃいけんのんじゃねんか。去年の１年でふやしとかにゃいけんのんじゃねんか、これ予算を。６条にうとうとるわけじゃ、実態調査しなさいよ。どのくらいかかるんな、これ実態調査したら。これは教育委員会も言えるこっちゃ。実態調査したらどのくらい要られるんですか、これ。これ学校じゃというて書いとらんよ。それを減額補正するようなばかな話が２年続いてしてくるような、どこの市町村があるんな、こんなもん。そうでしょうがな。法令遵守せにゃいけんというて言うんだったら、そこんとこをきちっとよう読んどかなんだら。質問した後、おまえ、わかっとんかというて言うてから、あ、本当ですなというようなことでしょう。皆がたるんどる、これ。

そういうこって、それから次行きますけども、７人制ラグビー事業補助金、この350万円の、なぜ何にするのにどこに350万円かかるかという、議長のお父さんのことを褒めるんじゃないけども、お父さん二天一流もされようりましたし、居合いが達人だったん。たくさんお父さんを慕うて、カナダのほうから、世界各国から二天一流や、それから居合いを習いに来よった、全国から。金はこがいに出とらんよ。それで、戦略監、私らが行くのにお金を出していって、向こうから来る人にはもう何でこんだけのお金が必要なんか。この事業というのは投資効果を狙うていきょんだったら、もう少し営業の仕方があるんじゃないんか、どこが営業課か知らんけど。今議長とこのお父さんの話をしたけども、もう少しいいことはどんどん歴史に非常にいい人がおられるわけじゃから、なぜお父さんがあんだけの人を呼んで来よったんか。このようなことをもう少し、まだ娘さんがおられるわけじゃけん、そこの上へ、聞いてじゃな、してくれなんだら、金をつつきょんじゃねえ、来てもらうんだったら誰でも来て、ここで生徒もしてくれる。こういうな問題じゃないと思う。欧州の剣道もそう。ダナン大学についてもそう。じゃから、人権推進費については先ほど言いましたけども、教育長のほうにももうそれでよろしいです。

それから、運動公園の関係じゃな。これも毎回やかましゅう言よんじゃ、ずっと何年にもわたって。ひとっつも減りゃあへんの、勝田のやつ、運動公園。先ほど来話を聞きよったら、そこらのやつ全部武蔵の武道館から、あっちやこっちやのやつ、全部のやつをして593万円じゃ、庭園管理委託料でしょうがな。何でここだけでほんなら592万1,000円もかかるん、これ。何を試算してこの数字が出るんならというて、数字の出し方の根拠を教えてくださいというて。草刈りが平米何ぼで、こんだけ平米数があるからこんだけなんじゃと。立木の散髪するのにこんだけかかるんじゃというような、その辺のきちっとした説明をせなんだら、こんな中身をテレビの向こうで商売人が見よったら、何をしょんじゃろうかというて怒りますよ、それ。戦略監はよそのほうから来られて、いろいろと努力してくれよんじゃけども、もう少し効果というのは少ないお金で大きな効果を生むのが、これは最大の効果を生むわけじゃから。金をかけて来てもらうんだったら必要ないんじゃ、これ。500万円かけて、ほれで何ぼの効果があるん。その辺のとこやっぱしきちっとした説明をしていただきたいと思います。

議長（鈴木　悦子君）

これより10分間休憩します。

午後２時03分　休憩

午後２時13分　再開

議長（鈴木　悦子君）

休憩前に戻り会議を開きます。

２時45分までにこの審議が終わらないときは２時45分から市長が約30分程度所用があります。暫時休憩をとりたいと思いますけども、御了承ください。

岩江議員にお願いをしておきます。少し一般質問化しておりますので、もう少し簡潔に予算について質問をお願いします。

〔15番岩江正行君「これ難しいんじゃ、これがな」と呼ぶ〕

難しいですけど……

〔15番岩江正行君「議案質疑と一般質問との間が難しいんじゃ、これ」と呼ぶ〕

一般質問化しないようにお願いします。

〔15番岩江正行君「難しいんじゃ、これが」と呼ぶ〕

難しいんですけど、その辺は長年の経験でお願いをいたします。

〔15番岩江正行君「長年の経験が生かせれんのじゃ、年をとったら、今言ようるぼけとると言ようるけん、ぼけが出よんじゃろう」と呼ぶ〕

いや、もう始まっておりますので。

２回目の答弁からお願いをいたします。

市民部長。

市民部長（角南　良雄君）

市民税についてのことですが、業種別にというようなことは分析ができておりません。申しわけありません。

議長（鈴木　悦子君）

企画振興部長。

企画振興部長（池田　義和君）

16項目めの備品購入費の２億4,570万円、これに対しまして市内発注、市外発注があるかという御質問でございます。これに対しまして告知放送の整備に係る個別の端末、それから機械設備、これについてはこの議会で契約の締結をお願いしておりますけど、こういった経費につきましては、市外のほうへ契約をさせていただきます。それから、通信機器の特殊な機能を擁しているものにつきましても、この分はやむを得ず市外業者になろうかと思いますが、市内業者で取り扱いができるものにつきましては、市内業者への発注を心がけていきたいというふうに思っております。

それから、30項目めの勝田の運動公園の積算でございますが、若干補足をさせていただきますと、先ほど答弁をさせていただきました庭園管理に含めまして、この勝田の運動公園につきましては、トイレの２カ所を清掃する作業が入っております。それから、芝の管理、それから草刈り等は年に４回行うようなことにさせていただいておりまして、極力経費のほうは落とすように努力はさせていただいておりますが、この経費でということで積算をさせていただいとるところでございます。

以上でございます。

議長（鈴木　悦子君）

総合戦略監。

総合戦略監（大森　洋平君）

失礼します。

７人制ラグビー、ベトナムダナン大学とのスポーツ連携、欧州剣道の効果に関してでございますが、先ほど少し触れさせていただいたかもしれませんが、宿泊といった形で地元への経済効果といったことは発生をしてきております。

また、先ほど御指摘がございました春名先生のような形で集まってくるようにといったようなお話もありましたけれども、今現在武蔵武道館で申し上げれば田原先生のところにこういったお通杯を通じて交流が深まった剣士の方々がお見えになられたりといったことも起こっているというふうに聞いておりますので、今後そういった自主的な活動も展開されていくのではないかというふうに思っております。

以上です。

議長（鈴木　悦子君）

市民部長。

市民部長（角南　良雄君）

済みません、１点落ちておりました。タクシーの市外のことでございますが、市外が２件ありまして、佐用と岡山市の牟佐へ行かれた方がおられます。

以上です。

〔15番岩江正行君「もう終わろうか」と呼ぶ〕

議長（鈴木　悦子君）

はい。

１５番（岩江　正行君）〔質問席〕

もう答弁がないらしいで、言いとうないんじゃろう。

市税の関係、そこんとこわからんのんじゃっちゅうような、とんでもない、わからんもんがこがいな数字を書くこと自体が、鉛筆転がしてするような行政だけはやめとかなんだら、きちっと捉えて、美作の未来を創造するような、市民部長さん、そういうふうな取り組みが必要じゃないかと思います、私は。

それと、ほかの人はないんじゃな、なからにゃいいんじゃけども、やっぱしこの人権推進費の関係、これはどがいなんな、する気があるんかないんか。それから、ここら、さっき言うたら、私は県のほうの教育指導課のほうから指示いただいておりませんというて、どういうふうな今まで同和問題の教育してこられたんか知らんけども、時の内閣佐藤栄作大臣のときに新しい答申が出たわけじゃ。同和問題は人類普遍の原理である人間の自由と平等に関する問題じゃと、その早急な解決こそ国民的課題じゃという。今うちの教育長さんは国民的課題じゃという意味は勉強されてないんじゃな。ようわからんのんじゃろう。ほじゃから、まだじっとまた構えとんじゃ。へじゃから、いいもんだったらぬくめとったらええけども、ほんまに一人の人間としてのきちっとした人権を保障せにゃいけんというような気持ちがあるんだったら、県はおかしいんじゃないかと、こういうな法律が出とんじゃないんかというようなことをあんたのほうから言わにゃいけんのんじゃ。県の言うことにずるずるついていくんじゃなしに、いいことはもうどんどん議論し合うことが私は大事じゃないかと思います。あんたにもう答弁してもらわんでもよろしいですけども。

それと審議監、戦略監か、もう字も何も見えんようになってしもうとる。このお金の関係を自分は言うたわけじゃから、ほじゃからこの418万5,000円と、550万円の関係についてもう少し努力をせなんだら、宿泊

するお客が来るけん、効果がありますというような問題、そがんことわしが言ようることと答弁と全然もう違う答弁じゃから。

これで終わります。

議長（鈴木　悦子君）

通告者の質疑が終了いたしました。

ほかに質疑を受けますが、ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようですので、これで議案第34号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第35号「平成30年度美作市国民健康保険特別会計予算」について、質疑を行います。

それでは、発言通告順に発言を許可します。

通告順番１番、議席番号３番岩﨑清治議員。

３番（岩﨑　清治君）〔質問席〕

それでは、30年度の国民健康保険について御質問をさせていただきます。

まず、一番最初なんですけど、平成30年から国保が県内が一つの保険者となるというのはよく聞いております。ただ、制度改正がどういうふうになるんかという説明があったんかもわからないですけど、私は承知しておりません。ずっと予算書を見比べますと、対前年との比較をずっと見てるんですけど、保険給付費については8,700万円ほどふえてるんですけど、それ以外、例えば後期高齢者の支援金とか、介護の納付金とか、これは集めたお金を出すという部分があると思うんですけど、これなんかが多分なんですけど、国民健康保険事業納付金のほうへ、これ県でしょうね、出されてするというんですけど、ちょっと制度自体をわかりやすく教えてください。特に私が今見てるのは国保の12ページなんですけど、12ページをもとに説明をお願いしたいなというふうに思います。負担割合も私が見る限り国庫のお金が全部なくなって、県の負担が来てて、トータルでは６億円ほどの金額が下がってるというのは理解した上での話なんです。

それから、条例改正と、それからきのうの補正予算、それを比べたときに税額が下がってないんですよね。税率を下げてるのに、これ14ページになるんですけど、対前年とは金額が少しですけど、５億円ほどの数字なんですけど、差し引きしたら180万円ほどふえてるような格好、この180万円という金額はもうしれてる金額ですけど、減ってないと。きのうの説明では2,000幾らの金額が減ってますよという、税額改正をした場合にですよ、それがここに反映されてない。非常に矛盾があるなという気がするのと、ここの予算書の部分を見ると、繰越金のほうは予算枠をとっただけの1,000円というのがしてあるんですけど、逆に言うと、予備費のほうは500万円、対前年と同じ金額なんです。それで、29年も500万円の予備費はつくってあるわけです。これはゼロになるかどうかは別ですよ。一般的に言うたら、これは繰越金が500万円できるのは予備費から充用して、それを使ったら、それは終わりですけど、普通は繰越金が発生して、予備費をするんじゃないかなと。そういうふうなことを考えよった場合にこの予算書全体のつくり方が本当に正しいのかなという疑問まで出てくるんです。

まず１つは、質問の趣旨をはっきりしてくださいと言われると思うんで、１つは、今年度の制度改正によってどれがどういうふうに29と30年が違う、その税率か、負担割合についてどのようになるかというのが１点目。

２点目が、税率を改正、まだ通ってないんですけど、税率改正案が出てるわけですから、それをしたら2,000幾らの金額が下がりますよと言われてるのが、これに反映されてない矛盾がある、この部分は２つ

目。

３つ目は、予備費と繰越金の関係、これをどういうふうに思って予算をされたんか。

この３つについて、まずお尋ねをいたします。

議長（鈴木　悦子君）

市民部長。

市民部長（角南　良雄君）

まず、制度の改正、どういうところが変わったかということでございますが、まず今までは国庫支出金とかがあったわけですが、国からいただいたものがあったものですが、それから療養給付費等交付金であったり、前期高齢者交付金、それから県支出金の中の高額医療共同事業負担金、特定健診とか、財政調整交付金とかがありましたが、これがなくなります。それから、出のほうで申し上げますと、後期高齢者支援金、それから前期高齢者納付金、老人保健拠出金、介護納付金、それから共同事業拠出金といったものがなくなります。かわって、制度が変わったことによってふえるものが、入のほうで言いますと、県支出金で保険給付費等の交付金ということで入ってきます。それから、歳出のほうで申し上げますと、国保事業納付金というのがあります。これがふえております。この制度改正については、大きく言うと県も保険者になったということなんですけれども、納付金というのが今までなかった医療費、後期高齢とか前期高齢、先ほど申し上げましたが、老人保健拠出金であったり、そういったものがなくなったかわりに国保納付金というのが県から示されます。それは県下全域のトータルしたものからはじき出されるものなんですけれども、その納付金を市のほうの保険税等で支払いをするようになったということが大きな改正点であります。

それから、２点目の税率を下げた効果が予算に反映していないということでございますが、平成29年度の一般被保険者現年分の保険税予算額は４億8,225万9,000円でございますが、30年１月末の収入見込みは、見込み額で行きますと、４億9,979万1,000円と見ております。その差額ですが、1,753万2,000円の増となる状況でございます。これを30年度の予算額４億7,981万2,000円と比較しますと、30年度予算は1,997万9,000円の減となることになります。

それから、繰越金の予算計上についてでございますが、今年度国から交付されます療養給付費負担金や社会保険診療報酬支払基金から交付されます療養給付費交付金などにつきましては、概算交付であるため過年度精算額が発生することがございます。その精算額は平成29年度の実績が確定した後に反映するもので、現時点で正確な額を見積もることは困難なことから、1,000円の予算計上とさせていただいております。

それから、歳出、６億円減額についてでございますが、主に国保の制度改革により県が国保の保険者にかわり国保運営の中心的な役割を担うことになったことの影響を受けております。現在社会保険診療報酬支払基金へ納付しておりました後期高齢者支援金、介護納付金などは県へと移行するため歳出予算から削除したこと、また国保連合会へ納付しておりました共同事業拠出金は事業が廃止となるため、こちらも削除したこと、さらに新たに国保事業納付金が加わり、それらの差額が歳出６億278万2,000円の減額の主なものでございます。

以上でございます。

議長（鈴木　悦子君）

岩﨑議員。

３番（岩﨑　清治君）

少しかみ合わないんですけれども、まず１点は、後ろのほうからいうと、予備費に500万円してあったら、普通は残りますわね、予備費だけは、それ以外のお金は別としても。それを予備費の充用して、振りか

えて使うたら、それはのうなるんですけど、一般的には予備費の範囲内は繰越金として見れるんだという話の中でしてるんですけど、それは予算のつくり方の基本じゃないかなと思うんですけど、そのあたりももう少し説明していただきたい。

それから、29と30年度の違いを少し説明をされたんですけれど、後期高齢者の支援金、それから介護の納付金なんかも、これ皆さんから集めてるわけでね、国保税の率の中に入って、もう負担をいただいてるわけです。それは極端な話、国民健康保険の納付金の中に入ってますよという話になると思うんです。そしたら、この国民健康保険の納付金、さっきちょっと聞き取れないというか、解釈の違いの部分はあったんですけど、これは県下の平均を市町村ごとに割り振りをしたんですか、もしくは美作市の今までの経費をそのまましたんですか、そのあたりのとこが、というのが、県下平均なんかでぽんと出すと、もちろん基準数値があるんでしょうけど、先ほど言いました介護の納付金、これが率が今年度よりも１％下がるんでしょうけど、そのあたりがどうなんかな、後期高齢者の支援金というのも昨年だったら３億8,000万円ぐらいです。これも率で集めた部分があります、全額じゃないですよ、私の言ってるのは。国庫の部分なんかは県に振りかえて、県のほうから一旦入って出すようなシステムなんですけど、お金の７億500万円のこの部分について、これが全部ここのことになってるんでしょうけど、これどうなのかな、県下統一でもないみたいだし、美作市分だろうとは思うんですけど、そしたら６億円の部分は逆にお金たくさんもらって支出は変わらんという話になろうかと思うんですけど、ちょっと理解ができないんです。私自身の数字の、頭の中で理解ができない。

それから、保険給付費というのは、今までの保険の部分ですが、この金額が上がってるわけね、下がってない、上がってるわけです。これは美作市独自の部分ですわね。そのあたりの部分、制度改正の部分について、私質問したい意味がわからないぐらい制度改正の部分が理解できてないんです。だから、教えてもらいたいなと。

それからもう一つ、一番最初に、国保税が率を下げて、苦し紛れに言われてるんかもしれませんけど、それを言われるならば、見込み額を言われるならば、今申告してる最中でしょう。よくそんな数字がはじけれましたねと。対前年と同じぐらいな数字出すんだったらいいんですよ。対前年と同じじゃないわけですわ、率がね。率を下げて、二千何百万円下げてるのに、全然こちらのほうへ下げてねえがなと、理屈が合わないがなと、そしたら今年度収入がふえてるからって、収入ふえてるの確定してるんですか。まだしてないはずですが。今申告の最中でしょう。人数がふえたとかという理由だったらまだわかりますよ。所得がふえるっていうの、じゃあ所得割だけかなというみたいな気もするけど、ちょっと理屈が合わないんじゃないかなという意味です。

２回目の質問とします。

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）

前半部分で繰り越しの話がありましたね。繰り越しと、それから今の……

〔３番岩﨑清治君「予備費の」と呼ぶ〕

予備費の話、繰り越しについて見ておわかりのとおり基本的にうち余り今まで見てなかったんですね。前年度も１、今年度も１と、したがって繰り越しについては前年の今まで流れを踏襲をしていると。次に、予備が、あれなぜかといいますと、これは見ておわかりのとおり収入がまず県やなんかのほうから大体見えてくるわけですね。収入について見えてきて、次に支出項目を見てみると、余ってる部分が予備費に入ってる

というだけの話で、したがいまして次年度以降においてこの予備費が繰り越しに回る可能性は非常に高いというふうに御理解を賜りたいと思います。その辺が制度が変わったこと。制度が変わって何が変わったかといいますと、１つには、この裏側で国が地方に対して、あめなんですけれども、全体として国費の支出をふやしてるんですよ。都道府県経由で県に若干たまる部分と、今回配分される部分があるんですけれども、その配分される部分が多いもんですから、当面上が楽になるというようなことがこの制度改正の中のいわゆる数量的な効果なんですけども、そこが若干あらわれて残ってきてるというふうに理解をさせていただければと思います。

議長（鈴木　悦子君）

市民部長。

市民部長（角南　良雄君）

納付金が美作市にとってどういうふうになっているかということでございますが、県全体の分の中で県全体の所得のシェアをまず出すようです。その出したシェアによって分けると。それから、その後に今度は市町村の医療費の水準、そういったものが加味されて県から納付金が示されているということになっております。

議長（鈴木　悦子君）

岩﨑議員。

３番（岩﨑　清治君）

市長はすごく私は財政を物すごくよく知っとられると思って、きょうもきのうもずっと質問をしてたんですけど、一般会計だったら市長の言われるとおりですよ、一般会計であれば。特に国保とか介護っていうのは必要な経費を算出をして、要る収入をする、そうですよね。それが余ったお金があったからどうのこうのじゃないです。必要な経費を先ですよ。逆ですよ。というのが１つ。

それから、国民健康保険の給付金の部分、この部分について、一部分は部長の言われるとおりだと思うんですよ、一部分についてはね。ただ、集めてる後期高齢者支援金や介護納付金については、昨日の指数についても入ってるわけですわ。これ基準に集めてるわけですわ。これは集めた部分については一定の分出さにゃいけん。きのうの話も、僕今市長に言った、必要な経費を一旦積算して、そのかかる部分の個人個人の分を国保税として集める、これ当たり前の話ですよ。こっちの部分に介護にしても後期高齢者にしてもあるわけです。その数字がこれだけなんですというのが出ないと、積算できないはずですよ。それを部長の話では県の数値をどうのこうのって、逆でしょうと。経費が幾らであったからこれだけ市民の方に負担してもらわにゃいけんですよという意味なんですよ。そういう意味合いで私が質問してるわけです。わかりますか。市長はよくわかられた。部長はわかりますか。わかられてないから、同じような議論をずっとおとついからやってるんで、ちょっとわかったものの中でお答えを願いたいと思います。

議長（鈴木　悦子君）

市長。

市長（萩原　誠司君）

実は、原則そういうことなんです。国保会計の場合には基本的に出がわかって、それをどうみんなで負担をするかという基本構造であることはそのとおりなんです。ところが、今回ずっとこの１年間やってきたことは、制度の中の細かいところが非常にわかりにくいんですよ。それを国が段々に示していって、県が示していく、一方で30年度から予算を組まなきゃいけないということで、我々としては自己算定がほとんど不可能な状況の中で、したがって県内各自治体が県の算定を待って、それを予算にする。ところが、御案内のよ

うにまだ最終的には出が確定してからの話であることは間違いないんで、若干余裕を持ってそこのところにバッファーを積んで予算配布があったというふうに理解をしておりますんで、普通の年じゃあこういうことは起こりませんが、今回制度変更の年なもんだから、さらにその制度変更の細かいところがなかなかわかり切らないもんだから、本来なら岩﨑さんの言うとおりなんだけども、ことしだけちょっと異常な年なんだというふうに理解をしておりますのでよろしくお願いします。

議長（鈴木　悦子君）

３回目、終わりました。

ありますか。

〔「市長の言われたとおり」と呼ぶ者あり〕

〔３番岩﨑清治君「違う、せえでも税率の話があるから、ちょっともうちいとは言わにゃいけんと思うで。じゃあ、いいですわ」と呼ぶ〕

議長（鈴木　悦子君）

はい。

３番（岩﨑　清治君）

仕方がないんで、これ以上部長をいじめるつもりで聞いてるわけじゃないんで、委員会のほうでこのことについては、制度も含めて徹底的な、わかる範囲ですよ、もちろん市長の言われるように制度改正ですから難しいんで、これ以上言うたらほかの話になるんで、やめますから。

〔「ルールは守らにゃいけんのじゃないんか」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

通告者の質疑が終了しました。

ほかに質疑を受けますが、ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようですので、これで議案第35号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第36号「平成30年度美作市介護保険特別会計予算」について、質疑を行います。

それでは、発言通告順に発言を許可します。

通告順番１番、議席番号10番岡本泰介議員。

１０番（岡本　泰介君）〔質問席〕

16ページの款８項１目４節３の3,800万円の保険料特別軽減費繰入金ですね。それと、１番と２番は連動しとるというたら、連動しとるという言い方はちょっとおかしいんですけど、２番は、歳出、同じ16ページの同じところに3,800万円の介護給付費準備基金繰入金と、これが２つ出てるわけです。これけさほどの一般会計のところでも申し上げたんですけれども、私は何度も言うように基金の繰入金はわかるんですけど、保険料軽減費繰入金はちょっとおかしいんじゃないかというふうに思っております。

そしてもう一つは、なぜこれが同額なのか、これもわからないですね。偶然ですか、これ。同額にしてあるんです。3,800万円、3,800万円と。私は例えば基金準備繰入金が5,800万円で、上が1,800万円というようなことでもなるんならまだ少し考えるんですけど、何でこれ同額なんかなと、意識的にされてるんじゃないかと思うんですけど、これどういうことでしょうか。

１回目です。

議長（鈴木　悦子君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）

一般会計の繰り入れは、同じことを繰り返しますが、介護保険料引き下げのための一般会計からの繰り入れです。金額が同額ということですが、きのう資料としてお配りをした各年度の繰り入れの金額を見ていただきますとおわかりだと思いますが、介護基金のほうから繰り入れが３年間続いて、基金のほうは１億4,070万円、それから一般会計からの繰り入れは１億1,400万円ということで、30年度は同額としておりますが、31年度、32年度につきましては、金額が相違があるということでございます。

議長（鈴木　悦子君）

岡本議員。

１０番（岡本　泰介君）

ずっとこれは平行線を行っておりますので、余り、幾ら言ってものれんに何とかになってしもうて、もう新しい答弁も何にもありません。私はこれは納得できないということを申し上げて、終わります。

議長（鈴木　悦子君）

ここで暫時休憩します。

午後２時44分　休憩

午後３時14分　再開

議長（鈴木　悦子君）

休憩前に戻り会議を開きます。

議案第36号、続きまして、通告順番２番、議席番号３番岩﨑清治議員の発言を許可します。

３番（岩﨑　清治君）〔質問席〕

それでは、介護保険の30年度の予算について御質問のほうをさせていただきます。

こちらのほうも３点ございます。

１点は、介護給付費の総トータル金額の話でございますけれども、昨日いただいた平成27年から29年の第６期の計画の中でも見ますと、40億7,000万円から40億8,000万円ほどで、1,000万円程度の３年間でふえてるというのが現状として、現実的にあるという中でなんですけれども、平成30年になりますと、40億8,000万円が43億2,000万円にぐんと伸びてる。それ以降も３年間伸びてという、例えば31年、これはあくまで計画ですけど、44億円、それから45億円というふうに徐々に伸びております。利用者の部分、いろいろな推計をされているんですけれども、サービスを受ける施設のじょう、前の介護保険の質問したときに今の状況、昨年の９月議会でしたか、質問したんですけど、その時点よりも施設の拡充をするみたいなことをちょっと言われたんですけど、施設をどのようにふやして、利用者がふえていって、最終的に保険給付費がふえるのかというのが１点でございます。それが金額的に今本年度29年度と比べまして、２億4,000万円ふえるように計算してあるんですけど、これの積算の部分、大ざっぱでいいですけど、なぜふえるのか、どういう施設ができてどうふえるのかというのを教えていただきたい。

２点目は、この予算を見まして、先ほどの国保の部分については、制度改正によって物すごく変わってくるんでというお話があって、それは納得したんですけれども、一番に気になるのが、出のほうは、先ほど言いましたようにその数字が正しいんであれば、今度は入のほうを考えなきゃいけない。その入のほうなんですけど、繰越金が当該年度で2,000万円予算してあるわけですね。29年度については、今回の補正予算で増額になって、8,490万円の補正の部分で、予備費が計上されてる。もちろん交付金などの返還金がある可能

性ももちろんございます。はっきりした金額というのはわからないんですけど、先ほど言いましたように計画よりも大分少ない数字の利用料になってるわけですから、俗に言う介護保険料が残っているということになりますわね。その部分もある。それで、過去数年間の部分もあるという中で、なぜこの部分で2,000万円しか計上してないんかというのが１点です。なぜならば、これで2,000万円だけ入れてお金があるんだったらいいんですけど、基金が3,800万円入れてある。2,000万円と3,800万円足しても5,800万円で、まだおつりが来るわけです。まだ使えるということなんです。それなのになぜしてあるんかという部分で、逆に言ったら、基金は全然使わずにまずは繰越金を使って、それから足らなければ基金を入れてやるという部分を考えるべきじゃないかな、予算計上の考え方の中ですけど。

それからもう一点は、条例の附則の中で一般会計から基準外繰り入れ3,800万円をするというふうに予算上見るとなってるんですけど、なぜ3,800万円ですかという疑問です。条例で見ると、私は厚労省、国の指導では好ましくないと言われてるんですけど、それをなおかつ条例制定されるんであって、やるんなら徹底的にやる、これ市長の考えですけど、やるんなら徹底的にやって、介護保険料をゼロにしてあげりゃあえん、８億円入れりゃあゼロですから。高齢者の方が美作市にたくさん来られると思いますよ、介護保険料ゼロであれば。私のほうももうちょっとしたら65歳になって介護保険料を納めるんですが、納めなくてもいいわけですから、それは転入者がふえる可能性ですけど、あると思います。そういう意味で３つの部分、なぜ中途半端な300円かどうかわかりませんけど、下げる金額にされてるんか。そうじゃなしに平均で７万円幾ら下げりゃあいいわけですから。この300円の基準が一切わかりませんね、それで質問です。という３点でお願いします。

議長（鈴木　悦子君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）

失礼します。

まず、１点目のお尋ねですが、給付費の伸びをどのように見たかということでございます。一番大きいのは小規模多機能型の居宅介護施設、これが平成30年度で、これ全く増床するようになります。ベッド数が29床というふうになりますので、これの影響が大きいかなと思います。

それから、特養ですが、市内の入所というのは、ほぼ伸びは今いっぱい、つついっぱい受け入れてるはずなんで、市内の伸びは余りないと思いますが、住所地特例によりまして市外へ入所される方がおりますので、その方の伸びを見なさいと、これは県の指導です。その住所地特例による伸びを幾らか見ております。

それから、きのう説明しましたように３つ目としましては、介護報酬の引き上げが年末、去年ありました。0.54％ということで、その伸びを見まして、それらとほかに一般的なその他の伸び、居宅、入所のそれぞれの利用の伸びを推計した数値をもとにはじいたものが43億2,300万円ということでございます。なおかつ、計画期間内の伸びにつきましては、それ以外に処遇改善加算、きのうも説明しましたが、そういったものとか、消費税の引き上げ、そういったものも計画期間中には影響してくるということがございます。

それから、予備費と繰越金のことですが、確かに30年度だけを考えると、そういうふうなことにもなりますが、我々が考えたのは３年間の期間を通しての資金の投入というものを一番に考えておりますので、確かに当初でもう少し繰越金というのは見える余裕はあったかと思いますが、３年間通しての資金の投入計画ということで考えておりますので、御理解いただきたいと思います。

それから、3,800万円の根拠ですが、介護保険料が県下の市の中でトップということで、まずはトップから抜け出さんといけんと、その辺を市民の方に理解してというか、満足してもらえるというか、引き下げの

生活の暮らしやすさみたいなもんを実感してもらうために１番でないことを目指そうというところから始めたので、それの根拠は月額300円というところですから、それと被保険者の数のぐあいで3,800万円というのが根拠でございます。

以上です。

議長（鈴木　悦子君）

どうぞ、岩﨑議員。

３番（岩﨑　清治君）

１つは、住所地特例という話をされましたけど、これ介護保険制度が始まってから住所地特例ございました、よく御存じだろうと思うんですけど。住所地特例で何で急にこの時期になるんか。介護報酬の切り上げ、切り下げというのはわかるんですよ。制度改正というのはわかるんですけど、住所地特例を特に出されるというのはどうなんかなと、こう思うんですけれども、小規模多機能というのはいつごろ完成なんですか。もうでき上がってるんですか。といいますのが、今時点の数字を12カ月掛けて少し上げるというたら、反対に言うたら上がり幅が少なくなります。先ほど２億円幾らといったら、１億2,000万円でも一月1,000万円ですから、そういう計算をされたんかなと、もともと介護保険制度の部分はサービス量積算を数値を入れ込んだ場合にもう計算が出るようになってくるわけじゃね。確実に計算、人員的な、政策的な数字じゃなしに数値は出てきます。これは介護保険制度が始まってからずっと同じだろうと思うんですけど、それが片方に置きながら、現実の数値を見ながら、利用率をまだまだ試算しながらいろんな勘案をしながら保険料を決めていく、そして基金の状態などを勘案して料金を決めていかなきゃいけない、それが本当にできてるんかな。失礼な言い方かもわからないんですけど、第６期の介護保険計画については、基金の部分について間違いがあったと、基金だけを見たら。結局ようけ集め過ぎたという部分ですよね。先ほど言われたんですけど、３年間の部分を今ある金を平均で繰り入れしますという話になれば、もともとそれが正しいかもわからないなと私自身思ってるんですけど、そうであるならば、29年度今年度の部分を繰越金としてではなしに、なぜ残った部分を一定部分基金に入れなかったか。もともと準備基金ですからね、準備基金の場合には年度年度で精算されるのに、年度年度の精算を少し飛ばして繰越金でずっとされてる節が見えますわね。これはなぜ年度年度にされてないんかな。基金に入れたり出したりするのがややこしいから余計されてるんかもわからんですけど、準備基金というのは介護保険制度の立ち上げのときから目的が違う。逆に言えば不足ができた場合には市の一般財源から入れるわけじゃなしに、借り入れするわけでしょう。それを返すわけです。そういうふうなことを考えてみた場合には少し、部長の言われる３年間統一して入れるというのも理解するんですよ。理解するんであれば、会計事務をそのように全てしないとおかしいんではないかなという気持ちがします。

それから、介護保険料が市の中のトップでありました、だからそこの水準に合わせます、一つの話としてはわからんことないですけど、先ほど言いましたように第６期の部分については金額が大きかったわけですよ。余分にもらい過ぎたわけです。それをなぜそこだけの部分は無視して下げるんか。

それから、もう一つ言えば、きのうでしたか、言いましたけど、このあたりで一番高いのは奈義町さんですよね。多分英田郡の西粟倉村さんも、これ新聞見ただけで、奈義町さんも新聞見ただけの話なんですけど、西粟倉村さんも介護保険料安かった、安くて、不足して借り入れをして、その部分も返さなきゃいけないから、倍々ゲームみたいに上がっていくわけです。そういうふうなことを考えた場合に、このあたり一帯では美作市が一番安くなるような数値になると思います。市とか町とかということでなしに、市境をした場合、一番安くなって、それもなおかつ計算上安くなってるのに、なおかつ一般会計からの税金入れて、そこ

を考えるんであれば、ゼロにしてあげりゃあいいじゃないですかという発想はおかしいですかねと思っての話です。だから、もう少し考える、いろんな多方面から考えて介護保険計画、事業計画ですわね、それをした上で予算をつくっていかないとおかしいんじゃないかなというふうに思うんですけど、どうでしょうか。

議長（鈴木　悦子君）

保健福祉部長。

保健福祉部長（江見　　勉君）

住所地特例につきましては、これ県の指示のほうでありまして、総枠で第７期の県計画の中でこれぐらいの増床が見込まれますよ、その分が美作市さんにも住所地特例で割り振りになりますから、この分を見てくださいというお話がありましたんで、その指定のあった数をふやさせていただいた。それが金額的にはちょっと今すぐにはお伝えできませんが、給付費に反映になったということでございます。

それから、小規模の多機能の居宅介護施設につきましては、現在まだ工事中でございます。完成が３月いっぱいぐらいにはなるんではないかと思いますから、４月以降12カ月間を増額という形で見させていただいております。その影響額がどれぐらいかというのはちょっと今ただいま申し上げることはできません。申しわけありません。

それから、基金の積み立てですが、本来それは議員の言われることが正論だと思います。ただ、補正予算の編成時期が正月明けというぐらいなことで、それで１、２、３と３カ月残した中で見込みを立てて、積み立てということになりますので、そこで積み立てができなかったらそのお金が活用できないかということにもなりませんので、繰り越しで翌年度に送って、またその翌年度へ送った中である程度見込みが確かになった時点で積み立てということも可能ですので、今回はそういうふうな判断をさせていただいたということでございます。介護保険料の個人の負担額につきましては、いろいろとあって、県内の各市からの問い合わせもたびたびあります。岡山、倉敷のほうから美作市の介護保険料幾らになるんかということで、倉敷市が調査の対象にしてるのが岡山市と、それから美作市というようなことで、県内の中でも非常に市の自治体の中では介護保険料を幾らにするかというのはかなりシビアなレベルのことになっております。市民の方への負担軽減というのは大きいことだと思いますので、今回は３年間については、そういうふうな考え方で行くという方針のもとに今回の予算編成をさせていただいておりますので、御理解いただきますようによろしくお願いします。

議長（鈴木　悦子君）

岩﨑議員。

３番（岩﨑　清治君）

部長が困られた言い方をされるんで、部長に何ぼ責めてみても仕方がないんですけど、１つは、国保でもそうですし、介護保険でもそうです、個人個人の負担部分、税の負担、料の負担部分について、金額が上がったり下がったりというのは行政の本当にマイナスだと思うんですよ。同じぐらいな料金をずっとする、率は個人個人関係ないですけど、同じぐらいな料にするの当たり前です。それを今回一般財源を入れて、たとえ300円でも下げるということは、次の年、第８期はどうなるんですか、９期はどうなるんですか、10期はどうなるんですかという議論になるわけです。だから、安易に下げてはいけない。そして、国のほうは、これは法律違反ではないです、法律違反で罰則規定まであるということは書いてないです。ただし、国のほうの厚労省の指導の中で介護保険局のほうのＱ＆Ａの中でたびたび出てきて、これは入れてもろうたら困るんですよというお願いというか、指導が入ってるわけです。先日話をしたような感じで、これはもう十分知っとられた上でされるわけです。そこでされるんなら徹底的にやられたらどうですか、という話になるわけで

す。だけど、多分厳しい指導が入ってくるだろうと私は思いますよ。

それから、先ほども言いましたけど、市のトップどうのこうのと言われたけど、この地域の問題の分がありますよね。例えば勝央町さんの料金僕は頭の中に入ってないですけど、美咲町さんの料金もうちより高かったと思います。もちろん西粟倉村さんの部分は安かった時期が、これが安過ぎて、先ほど言うた不足になって、お金を借り入れて、払う分も含めて、再度値上げしなきゃいけない、結局先ほど言いましたように介護保険料の金額の上がり下がりを押さえなきゃいけないという部分からいうと、おかしいという話になる。そこら辺で介護保険料の金額を決めるのは非常に難しい判断をされると思うんですけど、もともと６期の計画の場合に基金が今１億7,000万円か、１億5,000万円よりは超えてたみたいな気もするんですけど、その部分、それから繰越金が8,000万円あるんですが、１億5,000万円としても２億3,000万円あるわけですよね。２億3,000万円を３年間で割ったらどうなんですか。繰越金にしても５期から６期への繰り越しというのがあるわけですよね。その部分は実質比率というか、実際にどうだったんならという問題あるんですけどね。それから、きょうどなたかの質問のときに、もらい過ぎたお金を返さなきゃいけん、資金にもあるよって、それも理解してるんです。だけど、２億円からの金があるわけです。余ってた。言葉を変えりゃあ、介護保険料が高過ぎたわけですよ、２億円分ね。そのあたりを整理をした場合に市の中で何番目になってたか、料金どうなんだという議論はされてないんか、されてるんか、よくわからないんですけど、１人平均で300円下げる、それオンリーで行くと、行政は継続という話の中で非常に困ることが起きるよ、だから考えたほうがいいです、予算のつくり方もおかしいですよというのが私の質問です。もし答えれたら答えていただいて、答えれなかったら、もう部長気の毒ですから、これ以上言ってみても同じ答えだろうし、どうにもならないんで、お答えはよろしいです。故意にいじめるようなことはしたくないんですけど、非常におかしい数字ですよ、考え方も非常におかしいですよ、県や国は多分指導に入られる可能性は大ですよということだけ言って、私の質問を終わります。

議長（鈴木　悦子君）

通告者の質疑は終了いたしました。

ほかに質疑は受けますが、ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようですので、これで議案第36号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第37号「平成30年度美作市簡易水道特別会計予算」について、質疑を行います。

発言通告はございませんので、他に質疑を受けます。

ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようですので、これで議案第37号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第38号「平成30年度美作市住宅新築資金等貸付事業特別会計予算」について、質疑を行います。

発言通告はございませんので、他に質疑を受けます。

ないですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようですので、これで議案第38号の質疑を終了いたします。

次に、議案第39号「平成30年度美作市公園墓地事業特別会計予算」について、質疑を行います。

発言通告はございませんので、他に質疑を受けます。

ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようですので、議案第39号の質疑を終了いたします。

次に、議案第40号「平成30年度美作市都市と農村の交流施設特別会計予算」について、質疑を行います。

発言通告はございませんので、他に質疑を受けます。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようですので、議案第40号の質疑を終了いたします。

次に、議案第41号「平成30年度美作市老人保健施設事業特別会計予算」について、質疑を行います。

発言通告はございませんので、他に質疑を受けます。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようですので、議案第41号の質疑を終了いたします。

次に、議案第42号「平成30年度矢田茂・原田政次郎・福田五男奨学基金特別会計予算」について、質疑を行います。

発言通告はございませんので、他に質疑を受けます。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようですので、議案第42号の質疑を終了いたします。

次に、議案第43号「平成30年度美作市後期高齢者医療特別会計予算」について、質疑を行います。

発言通告はございませんので、他に質疑を受けます。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようですので、議案第43号の質疑を終了いたします。

次に、議案第44号「平成30年度美作市水道事業会計予算」について、質疑を行います。

それでは、発言通告順に発言を許可いたします。

通告順番１番、議席番号10番岡本泰介議員。

岡本議員。

１０番（岡本　泰介君）〔質問席〕

私の質問非常に簡単ですので、簡単にお答えいただければいいです。

１ページの第２条で、給水中止戸数ということで、1,237戸と出てるんですけど、この推移を教えてくだ

さい。

それから、以前は有効給水率ということをよく言ってたと思うんです。浄水した水が幾ら、何%お金になったかという、漏れたもののことですね。それを前はずっとよく言ってたと思うんで、今回見てみると、どこにも出てないんで、それがどんなふうになっているかということをお知らせいただけたらと思います。出てましたか。どっか。大分見たんじゃけど、出てなかったようなかった。

議長（鈴木　悦子君）

環境部長。

環境部長（妹尾　昌弘君）

それでは、失礼いたします。

議員御質問の１ページの第２条給水中止戸数と有効給水率の推移はということでございます。

上水道における給水中止戸数の５年間の推移についてお答えをさせていただきます。平成24年度決算では1,285戸、25年度では1,279戸、26年度では1,244戸、27年度は1,256戸、28年度は1,295戸となっております。

次に、議員言われました有効給水率でございます。５年間の推移につきましては、平成24年度決算では78.55%、25年度では77.72%、26年度では80.37%、27年度では80.62%、28年度は79.51%となっております。

議長（鈴木　悦子君）

岡本議員。

１０番（岡本　泰介君）

わかりました。私ちょっと変な言い方になるけど、中止というんですから、もうやめてしまった家が千何戸もおるんかなという、ちょっと勘違いもございました。私は国語の問題ですけど、これは休止としたほうがいいんじゃないかなと思います。中止でなしに休止。直されたほうがいいんじゃないかなと思います。

それからもう一つ、有効給水率ですけど、昔は石綿管がどうのこうのというような話があったんですけど、私ちょっと議員をやめてた時間がようけあったもんで、わからないんですけど、今もうそういうものはないんですか。それが予算と関係ないようなんですけど、この有効給水率には大いに関係あるんで、ちょっと教えていただけたらと。

議長（鈴木　悦子君）

環境部長。

環境部長（妹尾　昌弘君）

議員御質問の石綿管、要は石綿管でございます。それにつきましては、旧美作区域ではまだ数キロ、はっきりした数字をちょっと覚えてないんですけど、数キロ残っております。

〔10番岡本泰介君「よろしいです」と呼ぶ〕

議長（鈴木　悦子君）

通告者の質疑が終了いたしました。

ほかに質疑を受けますが、ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようですので、議案第44号の質疑を終了いたします。

続きまして、議案第45号「平成30年度美作市病院事業会計予算」について、質疑を行います。

発言通告はございませんので、他に質疑を受けます。

ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようですので、議案第45号の質疑を終了いたします。

次に、議案第46号「平成30年度美作市下水道事業会計予算」について、質疑を行います。

発言通告はございませんので、他に質疑を受けます。

ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようですので、議案第46号の質疑を終了いたします。

以上で全ての議案に対する質疑が終了いたしました。

これより議案の委員会付託を行います。

お手元に配付しております審査付託表をごらんください。

お諮りいたします。

ただいままでに上程されております各議案は、審査付託表に記載のとおり各委員会に付託することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

異議なしと認めます。よって、付託表のとおり付託いたします。

日程第２　請願・陳情について

議長（鈴木　悦子君）

日程第２、「請願・陳情について」を議題とし、一括して上程いたします。

今定例会までに受理した請願・陳情につきましては、既に配付いたしておりますので、付託表のとおり所管の委員会に付託いたします。

なお、請願第１号につきましては、紹介議員から請願の紹介をお願いいたします。青山慶議員、お願いいたします。

青山議員。

１番（青山　　慶君）〔登壇〕

請願第１号について説明いたします。

「林野公民館建て替えについての請願書」となります。

請願趣旨としましては、林野公民館については、美作市のハザードマップにおいて風水害時における避難所にも指定されておりますが、雨漏りなど、老朽箇所が多数見られ、また施設の耐震についても不安を感じており、地域住民の中にも早期の建てかえを希望する声もある状況です。地域住民の安心・安全を確保するためにも林野公民館の早期の建てかえを検討していただき、早期の実現を請願いたします。

以上でございます。御審議のほどよろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

お諮りします。

本日の会議はこれで散会したいと思います。御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

異議なしと認めます。

本日はこれで散会することに決定しました。

本日はこれで散会します。

再開は３月２日午前10時からです。

大変御苦労さまでした。

午後３時44分　散会

平成３０年３月２日

（第　　７　　号）

1. 議　事　日　程（７日目）

（平成30年第１回美作市議会３月定例会）

平成30年３月２日

午 前 10 時 開議

於　　議　　場

日程第１　議案第１号～議案第46号、請願第１号、陳情第１号～陳情第３号（委員長報告、質疑、討論、採決）

日程第２　議案第47号　美作クリーンセンター最終処分場建設工事請負契約の締結について

2. 出席議員は次のとおりである（17名）

１番	青　山　　慶	２番	和　田　広　宣
３番	岩　﨑　清　治	４番	岡　野　鉄　舟
５番	中　山　忠　明	６番	倉　地　重　夫
７番	重　平　直　樹	８番	安　藤　　功
９番	金　谷　の り 子	10番	岡　本　泰　介
11番	山　本　雅　彦	12番	萬　代　師　一
13番	山　本　重　行	14番	尾　髙　誉　久
15番	岩　江　正　行	16番	日　笠　一　成
18番	鈴　木　悦　子		

3. 欠席議員は次のとおりである（１名）

17番　内　海　健　次

4. 地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名（21名）

市　長	萩　原　誠　司	副 市 長	横　山　博　光
教 育 長	大　川　泰　栄	政策参与	山　下　　亨
政策審議監	福　原　　覚	総 務 部 長	岡　本　和　之
危機管理監	皆　木　佳　久	企画振興部長	池　田　義　和
総合戦略監	大　森　洋　平	市 民 部 長	角　南　良　雄
環 境 部 長	妹　尾　昌　弘	経 済 部 長	遠　藤　宏　一
保健福祉部長	江　見　　勉	建 設 部 長	真　野　弘　紀
教 育 次 長	山　名　浩　二	消　防　長	山　崎　正　雄
会計管理者	山　本　和　毅	英田総合支所長	赤　堀　卓　司
作東総合支所長	田　中　慎　一	大原総合支所長	栃　岡　雅　之
東粟倉総合支所長	竹　田　茂　雄		

5. 職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名（３名）

議会事務局長	尾　崎　功　三
課　長	大　佛　裕　彦
主　任	井　上　大　佑

午前10時00分　開議

議長（鈴木　悦子君）

おはようございます。

携帯電話の電源を切っていただきますようお願いいたします。

傍聴者の方は傍聴規則第８条にもありますように傍聴席にあるときは静粛にしていただきますようお願いいたします。傍聴者の方が傍聴規則が守れない場合は議場より退席をしていただきます。

２月８日に引き続き会議を開きます。

欠席者の報告をいたします。17番内海健次副議長が通院のため欠席です。

定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

先般議会運営委員会を開催いたしておりますので、議会運営委員長より報告をお願いいたします。

尾髙委員長。

１４番（尾髙　誉久君）〔登壇〕

皆さんおはようございます。

ただいまから議会運営委員会の委員長報告を行います。

先般２月26日午前９時から議員控室において、議長、委員、市長、副市長、政策審議監、担当部長出席のもと、議会運営委員会を開催し、追加議案１件について協議いたしましたので、その結果を報告いたします。

市長より送付されました議案は、契約の締結案１件であります。この議案については、即決案件として本日の日程第２として上程いたします。

以上で議会運営委員会の委員長報告といたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

ただいま議会運営委員長の報告がありましたように、議案第47号を日程に追加し、議題といたしたいと思います。

日程第１　　議案第１号～議案第４６号、請願第１号、陳情第１号～陳情第３号（委員長報告、質疑、討論、採決）

議長（鈴木　悦子君）

続きまして、日程第１、「議案第１号～議案第46号、請願第１号、陳情第１号～陳情第３号（委員長報告、質疑、討論、採決）」を一括して議題といたします。

これらの議案等につきましては、２月８日に各常任委員会及び予算審査特別委員会に付託しております。いずれも各委員会において審査終了の旨報告があり、審査結果報告書等はお手元に配付のとおりであります。

この際、各委員長から審査結果の報告を求めることにいたします。

まず、文教厚生委員長の報告を求めます。

金谷委員長。

９番（金谷　のり子君）〔登壇〕

おはようございます。

文教厚生委員会における審査の経過並びに結果について御報告申し上げます。

去る２月13日及び14日午前10時から美作市役所４階議員控室におきまして文教厚生委員会を開催し、委員全員出席のもと、執行部より萩原市長、横山副市長、大川教育長、山下政策参与、福原政策審議監のほか、担当部長以下、関係職員が出席し、当委員会に付託されました議案についての審査を行い、その審査の内容について御報告申し上げます。

まず、保健福祉部所管分から審議をいたしました。

議案第10号「美作市介護保険条例の一部を改正する条例について」では、委員から、3,800万円の繰り入れをしない場合７期、８期の保険料はとの質疑があり、執行部より、７期の算定は国が提供する介護保険事業計画等の策定、実行を総合的に支援する情報システムで行っているが、それによると、月額6,800円ぐらいの数字が出てくるため、このままでは現在の6,450円を上回る、まずは基金を取り崩すことによって前回並みぐらいになるが、昨年行った市民アンケートで介護保険料が安くならないかという市民の強い要望に応えるため一般会計からの繰り入れによってさらに300円ほど値下げして、6,150円と算定したとの説明がありました。

また、委員から、介護保険料の算定方法と、附則で一般会計から特別会計への繰り出しをするということは原則論からいうとコンプライアンス違反ではないかとの質疑があり、執行部より、保険料については所得額に基づき負担額が決まる、第７期も所得段階は９段階で行こうとしているが、５段階のところが標準的な金額となり、第６期の標準額７万7,400円は、月額では6,450円、第７期標準額７万3,800円は、月額では6,150円で、300円の減となる、また一般会計からの繰り出しの特例については、市民から何とか下げてほしいという強い要望をいただいている、国は一般会計からの法定外繰り入れは好ましくないとは言っているが、それが違法であるとかペナルティーがあるということは聞いていないし、全国でも幾つかの前例がある、国では社会全体で高齢者の面倒を見るということで介護保険制度が始まったわけであるが、その制度の維持が困難になって市町村に移譲しているということの中、それぞれの町の実情に合ったサービスを提供するため一般財源を繰り入れすることは一つのあり方と思っているとの説明がありました。

さらに委員から、第７期の介護保険事業計画について、65歳以上の人口数値を何人で見ているのか、第７期のうち30年、31年、32年の推計値はどのように算出したのかとの質疑があり、執行部より、65歳以上の人口については平成30年度１万1,094人、平成31年度１万966人、平成32年度１万875人という見込みで計算している、第７期の推計値については、第６期の介護給付実績をもとに、まずは過去３年間の月報数値から年度ごとの伸び率を計算して自然体推計を出し、その後に30年から32年について市内に新しくできる施設の見込み量や介護報酬の改定、消費税増税分、介護福祉士処遇改善加算等を加味した上で算定しているとの説明がありました。

次に、議案第11号「美作市指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営の基準等を定める条例の制定について」では、委員から、附則第１項中、第15条とあるのは16条の間違いではないかとの質疑があり、執行部より、附則について指摘どおり間違っており、正しくは第16条第１項第20号であるとの説明がありました。

また、委員から、指定居宅介護支援事業所の具体的な内容の質疑があり、執行部より、ケアマネジャーがいる事業所で市内にある17施設との説明がありました。

次に、議案第12号「美作市特定疾患医療附帯療養交通費支給条例の一部を改正する条例について」では、委員から、改正後の条例第３条に医療受給者証を交付されている者に限るとあるが、これを義務づけている理由と当初予算で見込んでいる人数について、質疑があり、執行部より、医療受給者証については、県が難病の患者に対する医療費等に関する法律に基づいて受給者証を交付しており、これにより難病の確認を行うという意味である、人数については平成29年12月末現在で、腎不全による方が55名、難病に関する方が

34名、小児慢性特定疾病が１名となっており、新年度の見込み人数については増加傾向にあることから、予算は増額しているとの説明がありました。

次に、議案第21号「美作市高齢者福祉センター「やまゆり苑」の指定管理者の指定について」では、委員から、社協が撤退された具体的な理由と現在の管理状況はとの質疑があり、執行部より、今までは社協の職員をやまゆり苑に置いて建物の管理をしていたが、職員が勝田支所に移り、支所から梶並に行っていたということ、それから社協自体がさまざまな事業をする中でやまゆり苑の管理がやりにくくなっているということから撤退の申し入れがあった、管理の状況としては、施設の維持管理のほか、高齢者サロン、子どもサロン、ミニデイサービス等が開催されているとの説明がありました。

また、委員から、指定管理先が梶並活性化推進委員会ということで、地元の方がやられるので理想的だが、そうなることでのメリットについて、質疑があり、執行部より、梶並活性化推進委員会になることで人件費を抑えることができ、現在に比較し年間30万円程度の経費削減ができるとの説明がありました。

さらに、委員から、選定委員会はいつ開催したか、梶並地区活性化推進委員会の人数はどれくらいかとの質疑があり、執行部より、選定委員会は12月18日に第１回目を開催し、選定方法等について検討した。第２回目は１月９日に開催し、指定管理申請書の内容を審査し、決定に至った。委員会のメンバーは20名で、積極的に地域活動をされている方が加入されており、会としては全国的にも注目されている、しっかり管理していただけると確信しているとの説明がありました。

次に、議案第22号「平成29年度美作市一般会計補正予算（第５号）」についてでは、委員から、生活保護費を１億2,000万円減額していることについて、美作市では平成24年度をピークに対象者が減ってきている、全国や岡山県では横ばいとなっているが、美作市だけが特に減っている理由について、質疑があり、執行部より、美作市では平成22年度に各種相談を一元化的に行うことを目的に総合相談係を設置し、就労の支援やほかの社会保障制度の活用などの支援を他市町村に先駆け取り組んできた、また平成27年度からは就労支援員を雇用し、積極的に就労支援を行った成果であるとの説明がありました。

また、委員から、地域医療介護総合確保基金事業について、公募に対して応募がなかったということだが、必要だから公募したと思うが、利用者への対応ということではどうなのかという質疑があり、執行部より、第６期介護保険事業計画に基づき事業所整備について公募を行った、小規模多機能型居宅介護１つ、認知症対応型通所介護１つ、看護小規模多機能型居宅介護１つの計３つについて公募を行った。そのうち小規模多機能型居宅介護については、平成28年度に公募したものが現在豊野地区に建設中である、認知症対応型通所介護については補助対象となるため公募した、看護小規模多機能型居宅介護については、県内で施設が不足していることから、県の指導もあり、公募したが、小規模多機能型に看護がプラス、病院が後ろ盾になることが限定されたかなりハードルが高いものだったとの説明がありました。

次に、議案第23号「平成29年度美作市国民健康保険特別会計補正予算（第１号）」、文教厚生委員会所管分についてでは、委員から、診療所の運営形態についての質疑があり、執行部より、作東、福山診療所については直営、英田、粟井、梶並診療所については指定管理であるとの説明がありました。

作東診療所の外来収入が約670万円減額になっている理由について、質疑があり、執行部より、人口減による影響が主な要因であるとの説明がありました。

委員から、美作市立診療所施設整備基金の積み立て現在高について、質疑があり、執行部より、平成28年度末で１億5,472万3,518円と説明がありました。

委員から、英田、粟井、梶並の診療所の指定管理の実態把握を定期的に行っているのかと質疑があり、執行部より、毎年指定管理状況報告書が提出されており、平成28年度の収支は３診療所合わせて約287万円の

赤字となっている、協議により指定管理期間の５年間が終了する平成30年度までは指定管理料は無料で行うが、平成31年度から公募時には指定管理料が必要になるのではないかとの説明がありました。

次に、議案第24号「平成29年度美作市介護保険特別会計補正予算（第２号）」について、委員から、在宅医療連携について医師会への委託ができなかったことについて、どのような補完をされたかとの質疑があり、執行部より、在宅医療連携については医師会を中心にやっていただくほうがより高い効果が得られるのではということで、多職種連携研修会や切れ目のない医療の確保について委託できないかとお願いしていたが、医師会より、市が中心で行ったほうがうまくいくのではないかということで委託には至らなかった、しかし在宅医療の会議や多職種連携研修会について、医師会に協力してもらい開催することができており、委託はできなかったということでの支障は生じていないとの説明がありました。

委員から、介護給付費に係る歳入の国庫負担金、県負担金の負担割合はどのようになっているのか、準備基金積立額は幾らなのかとの質疑があり、執行部より、国庫負担金の施設給付費については15％、居宅給付費については20％である、県負担金の施設給付費については17.5％、居宅給付費については12.5％である、基金積立金は平成28年度末現在で１億8,132万5,564円であるとの説明がありました。

次に、議案第29号「平成29年度美作市老人保健施設事業特別会計補正予算（第１号）」については、委員より質疑はありませんでした。

議案第36号「平成30年度美作市介護保険特別会計予算」についてでは、委員から、介護保険料を下げるための施策としてどこに重きを置いているのかとの質疑があり、執行部より、地域包括ケアシステムを構築する中で、在宅で介護度が上がらないようにするための予算を地域支援事業の中に盛り込んでいる、健康な人をふやすためには一般会計のみまさか創生費の健康づくりに関する予算も関係してくる、介護に至る前からスポーツ政策や食の改善への取り組みも見ていただきたい、また介護予防の特色として今後は認知症予防ということにも重点に置くことになり、認知症に早期対応する初期支援チームを設置し、予防に取り組む計画であるとの説明がありました。

次に、議案第41号「平成30年度美作市老人保健施設事業特別会計予算」については、委員から、入所、退所の利用者数について、平成29年度の見込みと平成30年度当初予算に何人を見込んでいるのかと質疑があり、執行部より、一般入所、短期入所合わせて平成29年度見込みが延べ１万7,191人、平成30年度予算は１万7,520人、通所リハビリは平成29年度見込みが4,392人、平成30年度予算では4,880人を見込んでいるとの説明がありました。

次に、議案第45号「平成30年度美作市病院事業会計予算」については、委員から、予算書中の平成29年度の予定貸借対照表の未収金１億4,500万円と平成30年度の予定貸借対照表の未収金１億6,784万1,000円の違いと、患者負担金未収額の回収方法との質疑があり、執行部より、未収金は予算作成時において平成29年度病院事業会計における上半期の決算数値に基づき計上しているが、主なものは入院、外来の診療報酬２カ月分であり、平成30年度においてはこの予算で経営を行ったとき患者の伸び率等も考慮して平成31年３月31日を予測したものであり、前年より増加しております、また患者負担金の未収金については、平成28年度決算で859万4,284円ですが、平成29年５月31日現在では489万9,907円であり、この金額が繰り越していくこととなりますが、回収方法につきましては日々の督促等に努め、また院内に総合相談窓口を設置しており、患者の入退院だけでなく、支払いに関する相談も受けており、早目早目の対応を講じるようにしていると説明がありました。

委員より、予定貸借対照表の活用はと質疑があり、執行部より、平成30年度の予算を作成するのに貸借対照表、損益計算書がセットで、あくまでも年度ごとの営業結果を予測して予定損益計算書を作成している、

平成29年度末には純利益として8,342万9,000円を予測しており、これに基づいて貸借対照表を作成し、これは資産、負債、資本の部に分かれており、減価償却費も含めて平成30年度の予算執行に基づき、資産、負債、資本の動きを予測しているものと説明がありました。

また委員より、公共施設の管理計画の中で建物の更新費が約24億円かかると思うが、建物以外でも構築物や医療機器等を購入したりする中で内部留保資金の活用や起債の借入など、施設の管理計画はとの質疑があり、執行部より、病院の建物、構築物は耐用年数がそれぞれ違い、当面は現状を維持し、大規模な改築等は考えていないが、車両運搬具、医療機器に関しては耐用年数を経過したものから安全性、緊急性、精密性を考慮して随時更新しているとの説明があり、また損益勘定留保資金としては平成28年度末で３億1,104万358円であると説明がありました。

続いて、教育委員会所管では、議案第22号「平成29年度美作市一般会計補正予算（第５号）」についてでは、委員から、教育支援体制整備国庫補助金の充当先及び、単年事業なのか、継続事業なのかとの質疑があり、執行部より、民生費の保育所費のほか、教育費の事務局費、教育研修センター費及び小学校費の教育振興費にそれぞれ充当し、事業実施については３年間の継続事業との説明がありました。

また、英田小学校、英田中学校教育施設整備基金の残高について、質疑があり、執行部より、5,462万9,195円との説明がありました。

他の委員より、外国語指導助手業務委託料の減額理由について、質疑があり、執行部より、ＡＬＴの派遣期間が１カ月間短くなったことによる減額との説明がありました。

次に、議案第30号「平成29年度矢田茂・原田政次郎・福田五男奨学基金特別会計補正予算（第１号）」についてでは、委員から、債務負担行為の減額にかかわる貸し付けの見込み人数と決定の人数の差について、質疑があり、執行部より、当初４年制大学で７人分を見込んでいたが、短大への入学が２人、専修学校への入学が１人、４年制大学への入学が２人による減額との説明があり、また奨学金に関する破産事案の有無について、質疑があり、執行部より、今のところ破産という事案はないとの説明がありました。

次に、議案第42号「平成30年度矢田茂・原田政次郎・福田五男奨学基金特別会計予算」についてでは、委員から、奨学金の貸付希望者は年々減少しているのか、それとも予算額に合う人数に貸し付けをしているのかとの質疑があり、執行部より、以前は二、三名と少ないこともあったが、ここ数年は五、六名の応募があり、安定した数になっているとの説明がありました。

また、奨学金会計の将来見通しについて、質疑があり、執行部より、今後の見通しを図るため奨学金会計の将来推計を行い、再計算したところ年５人程度の貸し付けであれば利子による運用は可能である、そのため償還金の徴収をしっかり行うという説明がありました。

ほかの委員から、滞納繰越分について、当初で45万3,000円であるが、年を追うごとに微増している、今後の滞納分にかかわる償還見通しはどうなっているのかとの質疑があり、執行部より、現在の償還人数は57名となっており、そのうち９名が延滞している、９名のうち８名は償還計画に基づき償還が行われているが、残りの１名は連帯保証人に連絡をとり、償還に向けて手続を進めているとの説明がありました。

奨学金の破産問題にかかわる人的保証についてどのような対策をしているのかとの質疑があり、執行部より、２名の連帯保証人の保証を条件として奨学生本人による奨学金の返還ができなくなった場合は連帯保証人に連絡をとり、返還手続を進めていくとの説明がありました。

続きまして、全議案の質疑終了後、本会議において文教厚生委員会へ付託されました議案について、討論、採決に入り、議案第10号「美作市介護保険条例の一部を改正する条例について」は、委員より、財源のやりくりの問題で国はしてはならないとしていることに反し、一般財源からの繰り入れをなぜやるのか、市

の保険料の平準化をということで１期３年ごとだが、悪影響が出てくるのではないか、市の財源への影響ということで国からの交付税も一本算定など、減少する傾向にあり、このことはルールにも反するので、だめである、介護保険事業そのものの問題であるが、出に対して、入りを決め、やりくりするのが介護保険事業計画、こういった前提がある中で条例の附則でこれを入れていくことは相入れないもので、将来的に遺恨を残すものであるので反対するとの反対討論がありました。賛成討論はなく、採決の結果、賛成多数により可決されました。

次に、議案第11号「美作市指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営の基準等を定める条例の制定について」ですが、この議案については、委員より、修正動議が出され、内容は附則第１項のただし書き中の「第15条第20号」を「第16条第１項第20号」に修正するものでした。委員会における動議は委員１名で提出できるため、動議は成立し、議題といたしました。提出者の説明後、質疑を行いましたが、質疑はなく、議案第11号の修正案について討論に入りましたが、討論はなく、採決の結果、全員賛成により可決されました。

次に、議案第11号の修正部分を除く原案について、討論に入りましたが、討論はなく、採決の結果、全員賛成により可決されました。

次に、議案第12号「美作市特定疾患医療附帯療養交通費支給条例の一部を改正する条例について」、議案第21号「美作市高齢者福祉センター「やまゆり苑」の指定管理者の指定について」の２議案は、討論はなく、採決の結果、全員賛成により可決されました。

次に、議案第22号「平成29年度美作市一般会計補正予算（第５号）」の文教厚生委員会所管分、議案第23号「平成29年度美作市国民健康保険特別会計補正予算（第１号）」の文教厚生委員会所管分、議案第24号「平成29年度美作市介護保険特別会計補正予算（第２号）」の３議案は、討論はなく、採決の結果、賛成多数により可決されました。

次に、議案第29号「平成29年度美作市老人保健施設事業特別会計補正予算（第１号）」、議案第30号「平成29年度矢田茂・原田政次郎・福田五男奨学基金特別会計補正予算（第１号）」の２議案は、討論はなく、採決の結果、全員賛成により可決されました。

次に、議案第36号「平成30年度美作市介護保険特別会計予算」は、委員より、条例と予算は表裏一体のものであり、一般会計からの繰り入れを前提なので反対をいたしますとの反対討論があり、賛成討論はなく、採決の結果、賛成多数により可決されました。

次に、議案第41号「平成30年度美作市老人保健施設事業特別会計予算」、議案第42号「平成30年度矢田茂・原田政次郎・福田五男奨学基金特別会計予算」、議案第45号「平成30年度美作市病院事業会計予算」の３議案は、討論はなく、採決の結果、全員賛成により可決されました。

続いて、請願・陳情の審査に入り、執行部同席のもと、請願第１号「林野公民館建て替えについての請願書」について審査いたしました。委員に意見を求めたところ、委員より、なぜこの請願が突如降ったように出てきたのかとの意見がありました。また、委員より、執行部に対し、林野公民館については雨漏りがあると聞き、問い合わせたが、実地調査や現状把握をされているのかと質問があり、執行部からは、調査した結果、該当箇所の修繕を実施し、今のところは雨漏りもない、問題はないようだとの答弁がありました。ほかに意見はなく、討論、採決の結果、全員賛成により採択することに決定いたしました。

議長（鈴木　悦子君）

金谷委員長、２ページ目の上から４行目の介護保険料の6,450円が6,400円と読まれたんで、それだけ訂正してください。

９番（金谷　のり子君）

訂正させていただきます。

介護保険料の現在の6,450円を6,400円と誤って読みましたので、6,450円と訂正させていただきます。

以上をもちまして文教厚生委員会の委員長報告とさせていただきます。

御審議のほどよろしくお願いします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、産業建設委員長の報告を求めます。

中山委員長。

５番（中山　忠明君）〔登壇〕

平成30年３月美作市議会定例会産業建設委員会の委員長報告をいたします。

去る２月15日、16日の両日、午前10時より美作市役所４階議員控室におきまして、議長及び委員全員出席のもと、執行部からは市長、副市長、政策参与、政策審議監及び各担当部長以下、関係職員が出席し、産業建設委員会に付託されました議案につきまして、慎重に審査いたしました。

審査の過程において議論となった点について御報告申し上げます。

まず、議案第14号「美作市公共下水道条例等の一部を改正する条例について」では、委員より、受益者の負担金額について、公共と農集では違うが、どうするのかとの質問があり、執行部より、今回の条例改正は従来の負担金額を継続するようになっているが、今後統一などについて検討していきたいとの答弁がありました。

委員より、勝央町の下水施設との広域化について質問があり、執行部より、今後の課題として調査研究を行いたいとの答弁がありました。

委員より、下水施設統合の接続方法について質問があり、執行部より、ポンプを活用した圧送管により接続整備しているとの答弁がありました。

委員より、ポンプが故障した場合すぐ生活に支障を来すことがあるので、よく点検などを行うよう意見がありました。

次に、議案第15号「美作市都市公園条例の一部を改正する条例について」では、都市公園法の一部改正によりこの条例に引用している条文に条ずれが生じたための改正と説明がありましたが、質疑はありませんでした。

次に、議案第16号「美作市営住宅管理条例の一部を改正する条例について」では、公営住宅法の一部改正により認知症患者等の収入申告義務が緩和されたことなどに伴い、この条例の条文に条ずれが生じたための改正と説明がありましたが、質疑はありませんでした。

次に、議案第17号「市道路線の認定について」では、委員より、認定基準について質問があり、執行部より、宗掛家ノ奥線については、県道から家屋２戸に接続する生活道路となっているとの答弁がありました。

次に、議案第18号「市道路線の変更について」では質疑はありませんでした。

次に、議案第22号「平成29年度美作市一般会計補正予算（第５号）」について、まず経済部所管では、委員より、農地中間管理機構への貸付実績や集積率、今後の取り組みについて質問があり、執行部より貸付実績は、平成27年度、21.5ヘクタール、平成28年度、26.1ヘクタール、平成29年度は12月までで10.4ヘクタール、集積率は63％となっている、今後告知放送や農地中間管理機構による新聞広告などでお知らせし、農地の集積に努めていきたいと答弁がありました。

委員より、農地中間管理機構を通じて預けた土地が耕作放棄地のようになった場合はどこに言えばよいのかとの質問があり、執行部より、そういった場合は機構と市で借り受け者に対して申し入れをしているとの

答弁がありました。

また、委員より、この制度のことを農家に説明するよう要望がありました。

委員より、青年就農給付金について対象年齢と利用者数について質問があり、執行部より、年齢に下限はなく、45歳未満の方が対象で支給期間は５年間となっている、これまで利用された方が17名で、そのうち９名の方が現在利用されているとの答弁がありました。

委員より、企業立地関係の補助金が減額になっているが、現在国が進めている固定資産税を減免する制度について美作市内の企業は該当するのかとの質問があり、執行部より、国の制度確定後、議会での議決が前提となるが、認定を受けた企業は該当になるとの答弁がありました。

次に、建設部所管では、委員より、起債の減額は国庫補助事業費の確定に伴う減額との説明だが、補助金の減に対して起債の減が多いことについての質問があり、執行部より、国庫補助事業とは別に過疎、辺地等起債事業についての減額も含まれているとの答弁がありました。

委員より、農業振興事業債の減額について質問があり、執行部より、1,940万円の減額補正のうち、1,300万円は県営土地改良事業であり、県が国へ予算要求した額に対し、国からの割り当て額が少なかったためであるとの答弁がありました。

次に、環境部所管では、委員より、じんかい収集車の購入金額等について質問があり、執行部より、契約金額は車両本体と附属品などを含めて960万円であるとの答弁がありました。

委員より、ガラス類処理等委託料の減額について質問があり、執行部より、焼却処理量が減ったことに伴い、焼却灰と飛灰の処理量が減ったことによるもので、市民の皆様方がごみ分別を行った結果によるものであるとの答弁がありました。

委員より、旧焼却施設の解体設計業務委託の契約金額と減額の理由について質問があり、執行部より、契約金額は2,579万400円で、減額の理由は入札差金などによる減額であるとの答弁がありました。

委員より、じんかい収集車の購入費の減額より起債額の減額のほうが上回っている、また旧焼却施設の解体設計業務委託についても、委託費の減額に対して充当率で算定すると起債額の減額が多いが、その理由はとの質問があり、執行部より、車両購入費には附属品が含まれているが、起債対象になるのは車両本体のみのため差異が生じる、また設計委託料についても、合併特例債の充当率が95％であり、端数処理の関連によるものであるとの答弁がありました。

委員より、当初予算編成において100％起債充当という考え方により生じた事例と思われるので、もう少し精査して予算編成したほうがよいとの意見がありました。

委員より、瀬戸の最終処分場は最終的にはどのような仕上がりとなるのかとの質問があり、執行部より、最後は覆土をかぶせて仕上げをする予定であるとの答弁がありました。

委員より、旧焼却施設の解体撤去費用は過疎債の対象となるのかとの質問があり、執行部より、過疎債ではなく、合併特例債での対応を予定しているとの答弁がありました。

次に、議案第25号「平成29年度美作市簡易水道特別会計補正予算（第２号）」では、人事院勧告に伴う人件費及び財政調整基金積立金の補正について説明を受けましたが、質疑はありませんでした。

次に、議案第28号「平成29年度美作市都市と農村の交流施設特別会計補正予算（第１号）」では、委員から、滞納分の回収について質問があり、執行部より、ガレージ使用料の滞納が１名あり、住所不定で追跡していたが、本人と接触することができ、滞納分全額と不法占拠ということで68カ月分の損害金などを回収したとの答弁がありました。

次に、議案第32号「平成29年度美作市水道事業会計補正予算（第２号）」では、人事院勧告に伴う人件

費、及び貸倒引当金などの補正について説明を受けましたが、質疑はありませんでした。

次に、議案第33号「平成29年度美作市下水道事業会計補正予算（第２号）」では、人事院勧告に伴う人件費、及び事業確定に伴う建設改良費などの補正について説明を受けましたが、質疑はありませんでした。

次に、議案第37号「平成30年度美作市簡易水道特別会計予算」では、委員より、水道使用料が前年に比べ減っていることについて質問があり、執行部より、人口の減少などの要因によるものであるとの答弁がありました。

委員より、水道施設整備費の実施予定場所について質問があり、執行部より、勝田地域での老朽管更新工事などを予定しているとの答弁がありました。

委員より、施設管理費の経費が前年に比べてふえていることについて質問があり、執行部より、主に人件費の上昇や、新たに車両を購入することなどによりふえているとの答弁がありました。

委員より、一般会計からの繰入金が前年と比べ、ふえていることについて質問があり、執行部より、平成30年度は前年に比べ、起債償還が多くなるためふえているとの答弁がありました。

次に、議案第40号「平成30年度美作市都市と農村の交流施設特別会計予算」では、質疑はありませんでした。

次に、議案第44号「平成30年度美作市水道事業会計予算」では、委員より、久賀ダム水質検査委託料について質問があり、執行部より、カビ臭が発生する原因となるものなどについて検査を行っているとの答弁がありました。

委員より、カビ臭以外の水質検査の結果について質問があり、執行部より、水質検査の結果、異常はないとの答弁がありました。

委員より、久賀ダム水質改善装置保守管理委託について質問があり、執行部より、カビ臭の発生などを抑えるためにダム湖内の水が滞留しないよう貯水の攪拌を行う装置の保守点検管理委託料であるとの答弁がありました。

委員より、浄水場汚泥撤去処分委託料について質問があり、執行部より、汚泥はその一部を市民に無償で提供し、畑の肥料として利用していただくなど、経費の削減に努めているとの答弁がありました。

委員より、無形固定資産減価償却費とはとの質問があり、執行部より、水利権やソフト使用権などを取得するために要した委託費用などを定額法により減価償却しているとの答弁がありました。

委員より、火災があった場合の消火栓からの使用量を加味すれば、有収率が上がるのではとの質問があり、執行部より、施設全体が老朽化しており、有収率の悪いところに関して修繕を行いながら有収率向上に努めている、今後消火栓の使用量を加味することも検討するとの答弁がありました。

委員より、受託工事費の内訳について質問があり、執行部より、美作地域の県道馬橋平福線改良工事や作東地域の市道日指東線改良工事、国道429号線改良工事などに伴い、支障となる水道施設の移転補償工事であるとの答弁がありました。

委員より、検満量水器取りかえ委託料について質問があり、執行部より、量水器は８年に１度取りかえるもので、美作地域、830件、作東地域、750件、英田地域、620件を予定しているとの答弁がありました。

委員より、材料費について質問があり、執行部より、配水管の修理や量水器取りかえに使用する材料で市で購入し、緊急修繕や検満量水器取りかえなどにおいて請負業者に対してその材料を支給しているとの答弁がありました。

委員より、緊急修繕に係る工事発注と費用について質問があり、執行部より、緊急修繕の施工業者は当番制としており、費用は設計基準に基づいた価格により積算しているとの答弁がありました。

委員より、修繕費と工事費との違い、随意契約と入札による発注の違いについて質問があり、執行部より、修繕費は原形復旧を基本としており、主に破裂等、緊急を要するもの、工事費は施設の改良を含む場合や計画的な更新工事などである、発注については緊急性のある場合などは随意契約とし、あらかじめ予定のつくものは入札を行っているとの答弁がありました。

次に、議案第46号「平成30年度美作市下水道事業会計予算」では、委員より、前年度比較で薬品費の減額と動力費の増額の理由、また施設統合に伴う効果について質問があり、執行部より、薬品費の減額は公共下水道の汚泥の減少などによるもの、動力費の増額は契約単価及び燃料調整費の高騰によるものである、施設の統合に伴う効果は委託料で約1,000万円の削減となっているとの答弁がありました。

また、委員から、下水道の未接続世帯に対し、水洗化の推進に取り組むよう意見がありました。

全議案の質疑終了後、本会議において産業建設委員会へ付託された議案について、討論、採決に入り、まず議案第14号「美作市公共下水道条例等の一部を改正する条例について」は、討論はなく、採決の結果、全員賛成により可決されました。

次に、議案第15号「美作市都市公園条例の一部を改正する条例について」は、討論はなく、採決の結果、賛成多数により可決されました。

次に、議案第16号「美作市営住宅管理条例の一部を改正する条例について」、議案第17号「市道路線の認定について」、議案第18号「市道路線の変更について」の３議案は、討論はなく、採決の結果、全員賛成により可決されました。

次に、議案第22号「平成29年度美作市一般会計補正予算（第５号）」、産業建設委員会所管分は、討論はなく、採決の結果、賛成少数により否決されました。

次に、議案第25号「平成29年度美作市簡易水道特別会計補正予算（第２号）」、議案第28号「平成29年度美作市都市と農村の交流施設特別会計補正予算（第１号）」、議案第32号「平成29年度美作市水道事業会計補正予算（第２号）」、議案第33号「平成29年度美作市下水道事業会計補正予算（第２号）」、議案第37号「平成30年度美作市簡易水道特別会計予算」、議案第40号「平成30年度美作市都市と農村の交流施設特別会計予算」、議案第44号「平成30年度美作市水道事業会計予算」、議案第46号「平成30年度美作市下水道事業会計予算」の８議案については、討論はなく、採決の結果、全員賛成により可決されました。

以上、産業建設委員会委員長報告とさせていただきます。

御審議のほどよろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

ここで10分間休憩いたします。

午前11時09分　休憩

午前11時20分　再開

議長（鈴木　悦子君）

休憩前に戻り会議を開きます。

続きまして、総務委員長報告を求めます。

安藤委員長。

８番（安藤　　功君）〔登壇〕

それでは、失礼をいたします。

それでは、総務常任委員会委員長報告をさせていただきます。

去る２月19日月曜日午前９時及び20日火曜日午前10時からの２日間にわたり、美作市役所４階議員控室において、総務委員全員出席、執行部より萩原市長、横山副市長、山下政策参与、福原政策審議監、大森総合戦略監、各担当部課長以下、関係職員の出席のもと、総務委員会を開催いたしましたので、その審査の経過並びに結果について、御報告を申し上げます。

本委員会に付託された案件は、議案第１号「美作市音声告知放送基幹設備・戸別放送端末購入契約の締結について」のほか、条例の改正、廃止が９件、計画の変更が１件、計画の策定が１件、補正予算が５件、当初予算が３件の議案20件と、陳情案件３件の計23件でありました。

これらの審査に当たりましては、執行部に説明を求め、慎重に審査をいたしました。

それでは、審査の過程において特に議論となった点について順次御報告を申し上げます。

まず、議案第１号「美作市音声告知放送基幹設備・戸別放送端末購入契約の締結について」では、委員から、放送端末はワイドＦＭには対応しているのかとの質問があり、執行部から、対応している機器であるとの回答がありました。

他の委員から、端末の保守対応について質問があり、執行部より、購入する機器は導入後１年間は無償での交換、補償となる、その後の不具合による修理については個別に対応するとの回答がありました。

また、他の委員から、故障に対する修理費の負担は個人か、市役所かとの質問があり、執行部より、修理費は市で負担するとの回答がありました。

他の委員から、保守の内容について説明を求められ、執行部より、保守は31年度からであり、詳細については今後市と業者で協議を行うとの答弁があり、委員より、市の負担軽減に努めるようとの要望がございました。

他の委員より、契約不履行の場合の連帯保証はどうなっているのか、また区長が行う放送についての対応はどうなっているのかとの質問があり、執行部から、契約については保証金の規定があり、保証されている、区長放送は従来どおりの運用ができるとの答弁があり、委員より、区長放送について周知を図るよう要望がありました。

次に、他の委員から、保守内容は契約時に決定しておくべきではないか、契約相手は余り聞いたことのない業者で、広島支店である、不具合発生時の対応はどうなるのかとの質問があり、執行部より、今回の契約は備品購入契約のため保守に関する契約事項は含まれていない、10年間運用するための運用保守の詳細は今後シンクレイヤと協議し、美作市に合った内容にしていく、なおプロポーザルの際には保守に関する事項も含め、業者選定を行っており、保守体制や緊急時の対応内容、またセンター設備に対する遠隔サポートなど８項目にわたり協議、採点している、プロポーザルの提案時には10年間の維持、設備更新費用についてもあわせて提出があり、シンクレイヤと次点者の10年間の費用差は、シンクレイヤのほうが2,000万円程度安い価格となっている、また導入実績は全国71団体にあり、島根県安来市に１万5,000台、松江市に３万台納入している、シンクレイヤは名古屋市に本社があり、昭和37年操業のＣＡＴＶなどの業務向けのシステム関連機器メーカーであるため一般の方にはなじみがないが、ジャスダックにも上場している企業であるとの回答があり、委員より、契約内容は契約時点が全てであり、決定するまでは議題として出すべきではないとの意見がありました。

次に、議案第２号「美作市こぶしの里設置及び管理に関する条例の廃止について」では、委員から、補助金の申請をする際に事業の確実性を判断するため条例の設置状況などを国・県が審査する必要があったのか、審査の必要がないのであれば、少し拙速であったと思われるとの意見があり、執行部から、以前は条例案などを示さないと補助金の交付申請ができないこともあったが、最近は要求されないことから審査は受け

ていない、こぶしの里は整備をした後、指定管理により運営を行う計画であったので、条例整備が遅くなると公募の期間が十分確保できないことから、９月議会での条例制定をお願いしたとの回答でありました。

他の委員より、当初の提案では地域との交流拠点として地元からのニーズも高いという説明を受けたが、地域の方に対してどういう説明をしてきたのか、今後はどうするのか、また利用状況を見てオープンを判断するとの説明であるが、２億円での改修計画に１億円の追加が必要になったことでなぜ利用状況を見るという判断になったのかとの質問があり、執行部より、工事を休止する段階で地元の区長さんに相談をかけている、若い方など多くの方に利用してもらえる施設にしてもらいたいとの希望もあったことから、休止をして様子を見ることにした、また現在愛の村の整備が進められている状況であり、今後滋慶学園の生徒も年々ふえていくと思われる、生徒の顔が見え、確実性が増せば、皆さんにも安心していただけると考え、事業を一時先送りにしたものであるとの回答でありました。

また、他の委員から、事務事業の進め方が不適切である、その点は今後どのようにしていくのかとの質問があり、執行部から、本来なら十分な時間をかけ事業費を計算してから事業を実施すべきであった、準備不足で御迷惑をおかけしたことを反省している、今後は十分な調査、設計期間をとり、間違いのない事業実施を行いたいとの回答がございました。

さらに、委員から、十分な期間がとれなかったことが大きな問題であるとの指摘がされ、執行部から、国の交付金が平成28年度の補正予算に計上され、既に一度繰り越しをしており、もう繰り越しができないので監督局が急いだところに大きな原因があったとの答弁がございました。

他の委員から、今後の警備体制はどのようにするのかとの質問があり、執行部から、屋根の改修後、新たにバリケードを設置している、建物には電気が来ておらず、防犯カメラの設置が難しいことから、上の施設に防犯カメラ等を設置できないか検討しているとの回答がありました。

次に、議案第３号「美作市附属機関設置条例の一部を改正する条例について」では、委員から、大原高校の跡地は全て利用しているのかとの質問があり、執行部から、全て利用しているとの回答がありました。

次の議案第４号「美作市職員の分限に関する手続及び効果に関する条例の一部を改正する条例について」では、委員からの質疑はございませんでした。

次に、議案第５号「美作市職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例について」では、委員から、現在育児休業をしている職員は何人ぐらいいるのかとの質問があり、執行部より、女性の常勤職員が５人取得中であるとの回答がありました。

他の委員より、この改正によりどのような影響が出るのか、また美作市独自の条文はあるのかとの質問があり、執行部から、現在非常勤の職員の中に育児休業取得者はいないが、今後取得する場合は子どもが２歳になるまで育児休業の取得が可能となる、また現在正規職員のうち、保育園等の待機状態にある者はいない、今回の改正は法律に基づいたもののみであり、市独自の内容はないとの回答でありました。

次に、議案第６号「美作市職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について」では、委員から、労働組合との決定はされているのか、またラスパイレス指数が97程度だと思うが、これについての見解を聞きたいとの質問があり、執行部から、組合との交渉については議案提出前に交渉を重ねており、確認書を締結している、ラスパイレス指数については国家公務員と地方公務員との比較であるが、国家公務員の部長職以上の給与額は算入されておらず、高い給与額の国家公務員が比較対象から外されて地方公務員との比較がされている、地方公務員の給与を下げる意味では効率的な制度ではあるが、地方公務員が楽な仕事をしているという意味とは違う、指数が100を切っていることは緊縮型でよい面もあるが、職員の士気や優秀な職員の発掘に影響があると見ており、無理に下げる必要はないと思っているとの回答でありました。

次に、議案第７号「美作市特別職の職員の給料及び旅費に関する条例の一部を改正する条例について」では、委員からの質疑はありませんでした。

次に、議案第８号「美作市国民健康保険税条例及び美作市国民健康保険条例の一部を改正する条例について」では、委員から、国からの公費により保険料が下がったのかとの質問があり、執行部から、国からの金ということもあるが、保険料算定のもとになる交付金の所得係数や医療費指数は都道府県によって変わってくる、保険料については県内市町村でも上がるところと下がるところがあり、県の示す標準保険料率の算定情報では上がるところが13、下がるところが14となっている、上がるところは新見市、岡山市、早島町などであり、新見市においては以前県内の市の中で一番低い調定額であったが、実態を計算した結果、上がる見込みになったものと思われるとの回答でありました。

次の議案第９号「美作市手数料徴収条例の一部を改正する条例について」及び議案第13号「美作市後期高齢者医療に関する条例の一部を改正する条例について」では、委員からの質疑はありませんでした。

次に、議案第19号「美作市過疎地域自立促進市町村計画の変更について」では、委員から、タクシー利用補助事業に関し、交通対策アンケートを吉野地区のみで実施した理由について質問があり、執行部から、全市的に見て交通空白地のモデル地区として吉野地区で実施したとの回答がありました。

次の議案第20号「美作市内の辺地に係る総合整備計画の策定について」では、委員からの質疑はございませんでした。

次に、議案第22号「平成29年度美作市一般会計補正予算（第５号）」について、消防本部所管分では、委員から、歳入の中国自動車道救急業務支弁金の減額は事故が減ったことによるものかとの質問があり、執行部から、支弁金の算定は西日本高速道路株式会社が行うものであり、美作市の属する人口５万人未満の枠組みにおいて計算の基礎となる救急隊１隊当たりの維持費が8,512万5,000円から8,279万2,000円に減額となり、平均出動割合も７％から６％に減額の方向で見直されている、これに市内にインターチェンジが２つある特殊事情により係数1.5を乗じて支弁金が計算されるが、今回減額となった一番の要因は高速道路に出る割合が７％から６％に見直されたことであるとの回答でございました。

他の委員から、大原出張所の耐震工事が126万1,000円減っているが、当初の予算額は幾らだったのか、また減額の理由は何かとの質問があり、執行部から、当初予算は300万円であり、減額となった理由は、業者から徴取した見積もりは220万円程度であったと記憶しているが、予算を要求するに当たり資材の高騰等を加味し、300万円での予算計上をしたためであるとの回答でありました。

次に、総務部所管分では、委員より、配当割交付金の減額理由について質問があり、執行部より、交付金の減額は12月までの交付実績と県からの配当見込みによるものであり、株式取引による配当が当初の見込みほど伸びなかったためと思われる、配当割交付金は株式の配当に対する税金の地方分として交付されるもので、例年並みの金額に落ちついたものであるとの答弁でありました。

次に、市民部所管分では、委員より、固定資産税は景気状況を反映して増収との説明であったが、入湯税が減額補正になっていることについて分析しているのかとの質問があり、執行部より、平成27年度は岡山県のプレミアム旅行券で宿泊者が伸びたが、平成28年度では減収となり、29年度でも減収と見込んでいる、美作市では連泊補助金事業などの対策に取り組んでいるが、温泉に宿泊するという余暇の過ごし方が全国的に厳しくなっているものと思われるとの答弁でありました。

委員より、交通運行費について指名競争入札により減額になったとの説明であったが、従来から入札を行っていたと思う、多額の入札残が発生した原因は入札のメンバーがかわったのか、あるいは路線が変わったのかとの質問があり、執行部から、平成27年度から全委託について指名競争入札を実施している、平成29年

度の指名業者は９業者であり、平成28年度から変更はしていない、変更した点は、勝田バスと英田バスの津山線が平成28年度までは単年契約であったが、平成29年度からは３年契約としており、経営の安定化が図れることから、入札率が下がったものと思われる、また他の単年契約分についても、前年度より入札率が下がってきたため1,600万円の予算減になったものであるとの答弁でありました。

他の委員より、入札率が低くなっても安全性の確保は図られているのかとの質問があり、執行部より、入札率については、高いところで87.9%、低いところで55.9%となっている、入札は仕様書により行い、運行管理、始業前点検等については確実に実施しており、毎日の記録簿についても市のほうへ提出されていることから、運行上では問題がないと認識している、しかし安全性の確保、運転手の健康管理等の観点から、入札のあり方、下限を設ける等については今後検討していくとの回答でありました。

次に、企画振興部所管分では、委員より、滋慶学園への補助金に関し、補助金交付要綱では高校の校舎建設費は対象になっていない、説明によると高校との共有部分は案分したとのことであるが、高校の校舎建設費は含まれていないのかとの質問があり、執行部より、高校の校舎建設費用は含まれていないとの回答がありました。

また、委員より、起債には金利がかかるが、金利を含めると実質負担額は３億円を超えるのではないかとの質問があり、執行部より、補助金の総額は９億3,983万2,000円であり、財源は地方創生加速化交付金が4,000万円、西粟倉村負担金が500万円、佐用町負担金が500万円、合併特例債が８億4,530万円、一般財源が4,453万2,000円である、合併特例債は元利償還額の70%が交付税措置されるので、市の負担額は残りの30%と一般財源を合わせ、現在の金利を含めても２億9,900万円となる見込みで、２億円台になっているとの答弁がありました。

次の議案第23号「平成29年度美作市国民健康保険特別会計補正予算（第１号）」については、委員からの質疑はありませんでした。

次に、議案第26号「平成29年度美作市住宅新築資金等貸付事業特別会計補正予算（第１号）」では、委員から、繰出金（余剰金）について質問があり、執行部より、歳入と歳出の精算をした結果、翌年度への繰越金が生じた場合通常では特別会計内でそのまま繰り越しを行うが、本特別会計については一般会計から繰出金として拠出していた過去の経緯があり、起債の償還額が毎年減少していることから、歳入のほうが歳出よりも多くなるため余剰金が発生しているとの回答がありました。

次の議案第27号「平成29年度美作市公園墓地事業特別会計補正予算（第１号）」、議案第31号「平成29年度美作市後期高齢者医療特別会計補正予算（第１号）」及び議案第38号「平成30年度美作市住宅新築資金等貸付事業特別会計予算」については、委員からの質問はありませんでした。

次の議案第39号「平成30年度美作市公園墓地事業特別会計予算」では、委員より、基金の残高について質問があり、執行部より、基金残高は5,684万円である、本来の設計は公園墓地を全て売却し、基金の利子で運営していく予定であったが、利率が低いため基金を繰り入れしているとの答弁がありました。

次の議案第43号「平成30年度美作市後期高齢者医療特別会計予算」については、委員からの質疑はなく、全議案の質疑を終えました。

続いて、全議案の質疑終了後、本会議において総務委員会へ付託された議案について、討論、採決に入り、議案第１号「美作市音声告知放送基幹設備・戸別放送端末購入契約の締結について」は、委員より、まだ未確定な部分がたくさんあり、不安も残るので反対いたしますとの反対討論がありました。また、他の委員より、最初保守の部分で多々未確定な部分があるような印象があったが、その後の説明でおおむね決まっていると理解し、プロポーザルの結果において一番得点も高く、他の自治体への導入実績が多数ある点も勘

案し、賛成いたしますとの賛成討論がありました。その他、討論はなく、採決の結果、賛成多数により可決されました。

次に、議案第２号「美作市こぶしの里設置及び管理に関する条例の廃止について」は、討論はなく、採決の結果、賛成多数により可決されました。

次に、議案第３号「美作市附属機関設置条例の一部を改正する条例について」、議案第４号「美作市職員の分限に関する手続及び効果に関する条例の一部を改正する条例について」、議案第５号「美作市職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例について」、議案第６号「美作市職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について」、議案第７号「美作市特別職の職員の給料及び旅費に関する条例の一部を改正する条例について」、議案第８号「美作市国民健康保険税条例及び美作市国民健康保険条例の一部を改正する条例について」、議案第９号「美作市手数料徴収条例の一部を改正する条例について」、議案第13号「美作市後期高齢者医療に関する条例の一部を改正する条例について」、議案第19号「美作市過疎地域自立促進市町村計画の変更について」、議案第20号「美作市内の辺地に係る総合整備計画の策定について」の10議案は、討論はなく、採決の結果、全員賛成により可決されました。

次に、議案第22号「平成29年度美作市一般会計補正予算（第５号）」の総務委員会所管分については、委員より、看護学校に新たに追加をするということで、執行部の説明も理解しがたいし、次々と出していくことに対してよくないと思うので反対です、それとこぶしの里の予算を落とされるが、中止にしたから落とすのは当然であるが、中止になった経緯が納得できないので反対いたしますとの反対討論があり、また委員より、営業活動費の中で看護師等養成学校の整備の補助金について、規則等でも該当するとの説明があったが、相当無理があるし、おかしいのではないかと思います、またこぶしの里についても、そもそもの経過からいうと、ここでやるべきではなかったと思いますので反対いたしますとの反対討論がありました。賛成討論はなく、採決の結果、賛成多数により可決されました。

次に、議案第23号「平成29年度美作市国民健康保険特別会計補正予算（第１号）」の総務委員会所管分について、議案第26号「平成29年度美作市住宅新築資金等貸付事業特別会計補正予算（第１号）」、議案第27号「平成29年度美作市公園墓地事業特別会計補正予算（第１号）」、議案第31号「平成29年度美作市後期高齢者医療特別会計補正予算（第１号）」、議案第38号「平成30年度美作市住宅新築資金等貸付事業特別会計予算」、議案第39号「平成30年度美作市公園墓地事業特別会計予算」、議案第43号「平成30年度美作市後期高齢者医療特別会計予算」の７議案については、討論はなく、採決の結果、全員賛成により可決されました。

次に、議案の審議終了後、執行部同席のもと、本会議において本委員会に付託された陳情の審査に入り、まず陳情第１号「ＮＨＫ第一及び第二放送及び山陽放送のＡＭラジオ電波をＦＭ電波に変換してケーブル回線に乗せることに関する陳情書」について、委員に意見を求めたところ、委員より、技術的なところを執行部に聞きたいとの意見があり、執行部が答えられる範囲で質疑を行いました。委員より、真庭市ではできていると書いているが、当市でも機械的な経費をかければできるのか、またもしわかれば、どの程度の予算を要するのかとの質問に対し、執行部より、予算的なところはあるが、対応はできます、陳情書に250万円とあるが、それよりは高くなると思うが、何千万円単位にはならないと思うとの答弁。

また、委員より、ＡＭとＦＭの番組的な違いがよくわからない、災害情報をＡＭラジオのほうが多く流すのであれば、やる価値はあると思うが、ＦＭでも同様に流すのであれば余りメリットはない気がするが、その辺がよくわからないとの意見があり、また委員より、継続審査にしたらどうかとの意見があったため、まず継続審査について諮ったところ、採決の結果、賛成多数により継続審査となりました。

次に、陳情第２号「「ＮＨＫ第一及び第二ラジオ放送」のワイドＦＭ放送の実現と、音声告知放送端末機の性能対応確保に向けての要望書」については、委員より、端末機の性能対応はできていると思われますし、災害時にはラジオから情報を取得することは非常に有効であり、かつワイドＦＭは災害時に力を発揮する側面もあるようなので、採択すべきと思うとの意見があり、また委員より、災害時には有線では切れるおそれもあり、結局最後は無線である、そういう意味では必要だと思うとの意見がありました。

他に意見はなく、討論、採決に入り、討論はなく、採決の結果、全員賛成で採択することに決定いたしました。

次に、陳情第３号「山陽放送（ＲＳＫラジオ）のワイドＦＭ放送開始に備えての陳情書」については、委員より、陳情第２号と同じで、無線はできるだけふやしたほうがよく、拡充すべきであると思いますとの意見がありました。

他に意見はなく、討論、採決に入り、討論はなく、採決の結果、全員賛成で採択することに決定いたしました。

以上、本委員会における審査の経過及び結果を御報告いたしましたが、執行部におかれましては審査の過程で出された意見や要望に十分配慮し、事務事業の執行に当たられますようお願いし、総務委員会の委員長報告とさせていただきます。

御審議のほど、よろしくお願いを申し上げます。ありがとうございました。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

御苦労さまでした。

これより１時まで休憩いたします。

午前11時49分　休憩

午後１時00分　再開

議長（鈴木　悦子君）

休憩前に戻り会議を開きます。

それでは次に、予算審査特別委員長の報告を求めます。

岡野委員長。

４番（岡野　鉄舟君）〔登壇〕

ただいまから予算審査特別委員会の委員長報告を行います。

去る２月26日午前10時より市民センター３階大研修室におきまして、委員全員の出席のもと、執行部から市長、副市長、政策参与、政策審議監、教育長、各部長並びに関係職員が出席し、３月定例会本会議において付託されました議案第34号「平成30年度美作市一般会計予算」、議案第35号「平成30年度美作市国民健康保険特別会計予算」の２議案について審査を行いました。

初めに、各分科会の委員長報告を受け、その後質疑、討論、採決を行いました。

主な質疑では、総務委員会分科会委員長報告についてでございますが、まず平成30年度美作市一般会計予算については、委員より、入湯税が前年度の比較では少なくなっているが、今後の取り組みについて、防犯カメラの設置事業の進捗率と今後の取り組みについて、公共交通の関係でバスの運行の状況について、ベトナムダナン大学等のスポーツ連携事業補助金と欧州剣道チーム等剣道大会交流事業補助金について、体育施設費の勝田運動公園管理委託料の試算の仕方についての質疑がありました。

次に、「平成30年度美作市国民健康保険特別会計予算」については、委員より、国保の関係で６億円お金

が下がる、その６億円下がる部分の財源内訳について、税にどれだけ影響するかについて、税率改正をされて、説明では2,000万円以上の金額は下がるという話があったが、28年度決算が５億7,000万円、29年度今現在で５億円、30年度が2,000万円ほど下がるのに５億1,000万円の予算がある、税率改正で金額が下がるのに税が今の予算よりもふえている矛盾についての質疑がありました。

次に、文教厚生委員会分科会委員長の報告に対しては、委員より、障害者差別解消法、部落差別解消推進法の関係で、法律の施行後１年、２年たっても予算が変わっていない、どのような取り組みをされようとしているのか、また人権問題をどのように考えられているのかという質疑がありました。

また、他の委員より、介護保険料の減免、いわゆる単独減免については、保険者間の公平性の確保や健全な介護保険財政の運営と財政規律の保持の観点から従前から示しているようにだめですよというのが国の方針である、厚生労働大臣が常に一般会計の単独減免をしたらいけませんよと、また大臣の答弁では、介護保険法全般を読んでいただければ、公平性の原点から、これは外れますよと、一切入れたら困りますよと、もし入れた場合については強い指導をしますよというような中で、美作市のほうが今回繰り入れを前提にした条例改正をして、一般会計から特別会計へ繰り入れる予算をすることは国の指導に従ってないということになるので、このことについてどのような審議をしたのかという質疑がありました。

次に、産業建設委員会分科会委員長の報告に対しては、委員より、平成30年度の予算方針という通知が執行部のほうで各部に出ているが、その中で美しい里山公園については順次区域を広げ、利用者が増加するような取り組みを行い、必要な維持管理費を計上することと留意事項のところに書いてあるが、このたびの一般会計予算の中には管理費が全然出ていない、このことについて議論があったのかの質疑がありました。

質疑終了後、討論、採決に入り、議案第34号「平成30年度美作市一般会計予算」については、まず反対討論があり、委員より、介護保険制度への繰り出しは全国に美作市を悪い例の一つとして挙げられる、これを通した場合に今後、数年後大変なことになるという気持ちで大反対です。

次に、愛の村と武蔵の里を指定管理をするときに工事をした場合1,000万円下がりますという説明があったが、しかし今回これが骨格予算だからということで下がっていない、片方では骨格予算、片方では通年予算、そんな話はない、指定管理者が下げるというなら下げてもらうべきである、それ以外に骨格予算とは言いがたい予算がたくさんあるので反対いたします。

また、他の委員より、私も介護への繰り出しには反対です、愛の村と武蔵の里の指定管理料を1,000万円下げること、これは約束みたいなものである、これをやってないのは反対です、それからベトナムの語学講師派遣やサッカーチームの合宿受け入れについても反対です。

また、他の委員より、人権問題について具体的に議論されていないような、また福祉の問題にしてみてももう少し目が向いていない、弱者の目線で行政がやられていない、このようなことについては反対です、それからベトナムダナン大学等のスポーツ連携事業にしてもどれだけの経済効果があるのか、欧州の剣道チーム等剣道大会交流事業についてもこの金額は何なのか、よくわからない予算には賛成できない、人権教育費についても法が施行されているが、いまだに予算に反映していない、勝田の運動公園の管理委託料の算出根拠は見直されない、他とのバランスがとれていない、これらの点については納得できないので反対ですとの反対討論があり、賛成討論はなく、採決の結果、賛成多数で可決されました。

次に、議案第35号「平成30年度美作市国民健康保険特別会計予算」については、委員より、税額がどういう基礎金額によって算出されるのかなど、予算全体の流れが全然示されない中で議員として理解できないままの状態で賛成とは言えない、理解ができるような状況になれば賛成ということもあるが、現時点では理解できないので反対ですとの反対討論がありました。

また、他の委員より、私は今一般質問の中で、国保税については１人年２万円の引き下げを要求しております、その立場からこの予算には反対しますとの反対討論がありました。

賛成討論はなく、採決の結果、賛成多数により可決されました。

なお、付託案件には直接関係ありませんが、審議の途中に分科会審議のあり方について委員より発言がございました。それは分科会方式で審議するがために分科会の内容以外のことに関しては答弁がない、議案質疑の中で明確な答弁がなかったり、時間の関係で十分な回答が得られなかったことでさえも委員会の審議の中で議論されていなければ、答弁がない、また執行部からも議案質疑になされたことについて充実した審議のために丁寧な説明がない、これでは十分な議論ができない、議論しないような議会は議会ではないという委員会、分科会、議会のあり方について示唆に富んだ意見がございました。

以上、委員長報告のあり方として審査の経緯と結果をありのままに御報告させていただきましたが、私ども委員会運営にふなれで本会議の議案質疑を分科会審議に生かす役割を果たせなかったことを深く反省をいたしております。

最後に、このたび予算審査特別委員会の審査の過程でいただいた御意見をいま一度私なりに整理をさせていただきます。それは二元代表制のあり方でございます。一つは、予算が憲法とも言える平成30年度予算編成に基づき編成されること、もう一つは、議会とは何かであります。反対討論と賛成討論を通じて到達点を見出すべきということでございます。

本日の審査において十分な議論がなされ、慎重な審議がなされますようお願いし、私の予算審査特別委員会委員長報告とさせていただきます。改めて御審議のほどをよろしくお願いいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

各委員長からの審査結果の報告はただいまお聞きのとおりでございます。

これより各委員長の審査報告への質疑を行います。

まず、文教厚生委員長報告に対する質疑はございませんか。

岩江議員。

１５番（岩江　正行君）

美作市は人権尊重の町の宣言をこの玄関の前っかわに大きな立て看板を上げておりますが、きょうの早朝ちょっとＮＨＫのニュースを見ようりましたら、岡山市、総社市、この中で３カ所でＡ型事業所、これが経営が物すご悪化したという理由によって閉鎖しておりますとのニュースがありました。皆さん御承知かどうなのか知りませんけども、もう美作市もＡ型の事業所がこの上のほうにございます。ここのＮＰＯ法人の代表されとる人の会社で障がいのある人を雇用しとって、ここでなくなっております。Ａ型事業所から出張して出て、そこでなくなっております。それで、この事件を通じてはやもう裁判が起きとるらしいです、裁判が。それで、このような経営が非常に厳しいというて言ようるのに裁判の中身というのは何ならというて言うたら、障がい者に対する給料、それから年金、これが不明瞭じゃという形の中で裁判を起こしているらしいですが、とりあえず人間誰しも一人一人の人間としての人権が尊重できる、される社会の実現に向けての取り組み、これは誰しも思うとることは一つじゃないかと思うわけでございますけれども、このような中で美作市、平成28年４月に障害者差別法の関係、障害者差別法が４月に法制定された、それから先ほど特別委員長のほうからも報告がございましたけれども、何らこの人権にかかわる、障がい者にかかわる合理的配慮の問題、予算がきのうも27年度からずっと予算書を見させてもらいました。全然かわりばえがしない。ほんまにこれで障がい者の方々の合理的配慮が美作市が取り組んでいけとんじゃろうかというふうに一つの疑問を持ちました。これについて今言ようる文教厚生委員会に一つの委員会主導型で美作市の行政をやっており

ますけども、そこの中で議論がなされてない。これを議案質疑で私は言いました、今回も。そしたら、議長は一般質問化しないようにしてくださいよと言われるから、これは質問の範囲が決まってしまいます。それで、今度はこの前そこの特別委員会がございました。ここで言おうと思うても、やっぱりたくさんの執行部が前へおられる。職員も傍聴席にたくさんおられる、傍聴席のところにたくさん来られとる、幹部職員が。何しに来とんじゃろうかなというような、職員は補足説明するのに来られとんかというような認識でおったわけですよ。今までは委員長報告の中で、委員長の報告に対して議論されてないことについては執行部に振りまして、後ろのほうの執行部のほうが答弁をされた経過がございます。なぜ今回からこういうふうに変わったんじゃろうかというような、委員会では議論してないというて言いながら、どこでこれ議論するんじゃろうか、議会というのは議論の府でしょう。二元代表制の中で切磋琢磨、しっかりとここで議論することが我々議席をいただいとる一人一人の責任じゃないかと私は思うわけでございますけれども、これについてどの辺のとこまでが委員会の中で審議されたんか、それについてちょっとお尋ねをいたしたいと思います。

議長（鈴木　悦子君）

金谷委員長、答弁できますか。

９番（金谷　のり子君）

30年度のことになると、ここで私が答弁するのが29年度になると思うんですが、補正についてですけれども、30年度のところになりますが、今岩江議員がおっしゃったことに当たるかどうかわかりませんけれども、わが事・丸ごと地域づくり事業推進事業についての質問がありまして、その中で社協に委託をし、障がい者地域支援センター委託料2,000万円というところで専門的な立場で今後社協に委託して、よりサービスを行っていくということで審議がなされたと思います。

議長（鈴木　悦子君）

岩江議員。

１５番（岩江　正行君）

言ようることがよう見えんのんじゃけども、私これから説明して、３月にこの質問しました、ハンセン病の問題。できるんですよ。下見たら、パネルで啓蒙啓発せにゃいけんという形の中で、恐らく市民部がするんでしょう。どんだけの予算がかかったんか知らんけども、恐らくたくさんの予算はかかってないと思います。私は非常に感心しました。えらい早い対応ができたなと思うて。けれども、これ文教厚生というていうたら文教も厚生も一緒じゃから、ここで言わせてもらうんじゃけど、ここへ書いとんじゃ、こういうふうにね。合理的配慮というのは学校教育だけを想定してるのではなく、職場、病院、デパート、あらゆる公共施設などを想定しているわけでございますと、さまざまな場面で役立つのではないでしょうかと。共通的な認識、共通的な課題としてたくさんの文言を書いとる。このくらいのものは私の手元へあるんじゃから、職員の手元にもなけらにゃいけん。そういうことで答弁ができんのだったらええけども、一つ一つを私もここで拾うて説明するわけにもいきませんけれども、とりあえずできるんじゃから、私は非常にびっくりしたんですよ。謄本とりに向こうのところちょっと行きょうたら、パネルでやっとんじゃ、あそこへずっと、四角なとこ、区切りましてね。啓蒙啓発しょうりました。非常に感心しました。ですから、やっぱりすればできるんじゃから、やる気になってしてもらわなんだら困るということと、それと議会というのは議論の府じゃから、やっぱり少子・高齢化の社会の問題、農業の問題、たくさんの問題が、教育の問題、ありますがな。ここでやっぱり議論して、初めてこの当初年度で落ちとる問題については、６月の補正でも今度は取り組んでいくんじゃとか、この障害者差別法の問題、今言ようる部落差別の関係、解消法の問題もこの１年間にヘイトスピーチと３つも新しい法案ができとんじゃ。萩原市長になってから法令遵守じゃ、コンプライアンスじ

ゃというて言いながら、職員がほんまにこのことをよう肝に銘じて行政やりよんじゃろうかと疑いを持ち出したんじゃ。やっぱり部落差別解消法の関係でも６条にわたってのその６条の中身がまだ頭へなかったんじゃ、この間のときまでね、部長。ですから、特別委員会までにちいとぐらいそのくらいのことは委員長さんぐらいには言うとって教えとってあげなんだら、それは答弁せえと言うたってできんのが当たり前じゃ。いまだたって恐らく知らんのんでしょう。資料も持ってないんじゃろう。これは姫路市で配っとるやっちゃけどもね。簡単な６条についての問題をここへ書いとるわけじゃ。６条には何をせにゃいけんかというて言うとんよ。ほじゃから、やればできるんじゃから、私はやっぱし差別で苦しみ、差別によって人権が侵害されとる、その一人一人の、一人の人間としての尊厳をきちっとした形の中で取り組んでいかなんだら、そこの前の立っとる看板が泣きますよ。

そういうことで終わります。もうええ。よろしい。

議長（鈴木　悦子君）

いいですか。よろしいか。

１５番（岩江　正行君）

はい。

議長（鈴木　悦子君）

ほかに質疑ございませんか。

岩﨑議員。

３番（岩﨑　清治君）

それでは、私のほうから議案第10号の介護保険条例の一部を改正する条例の附則の部分についお尋ねをいたします。

先ほど委員長の報告の中で少しお話が１割か２割程度あったんですけれども、十分ではないという意味の中での質問なんですけれども、特に財政とか介護保険の財政部分についても中・長期的に考えなきゃいけない。その中でこの附則の部分、特別会計への繰り入れの特例ということが書いてありまして、30年から32年、つまり第７期の部分だけの繰り入れというふうになってまして、議案質疑のときにもお話をさせてもろうたと思うんですけれども、負担の均一化、それから財政の先を見通した健全財政の運営、この２つの部分で先ほど委員長答弁については、多分65歳以上の方の人口等についてはお話があったんですけれども、財政そのもの、ここに与える財政そのものと平準化、つまり第７期を入れて下げることによりその反動が第８期以降ある、こういうふうな負担の平準化の部分については説明がなかったので、そのあたりを含めて再度説明をお願いしたい。

議長（鈴木　悦子君）

金谷委員長。

９番（金谷　のり子君）

８期以降の話が出たかということですかね、と思いますので、そういうことについては説明は受けておりません。質疑もございませんでした。

議長（鈴木　悦子君）

岩﨑議員。

３番（岩﨑　清治君）

議案質疑のときもこのあたりも含めて十分協議をしていただきたい、それによって条例のよしあしということの判断の一つの材料にもなるということで、介護保険財政の運営と負担の平準化の話をさせていただい

たと思うんですけど、審議をされてないということであれば、今後の議題にせざるを得ないという意味で、されてないんですから答えがない、仕方がないと思いますので、よろしいです。

〔９番金谷のり子君「済みません、失礼しました。私が見落としておりました」と呼ぶ〕

議長（鈴木　悦子君）

金谷委員長。

９番（金谷　のり子君）

８期になってもどうかという質疑がありまして、財源の規模も８期も継続可能ですという答弁をされております。中・長期的に見ますと、2025年問題ということがありますけれども、そういうことも加味してこの保険料率を維持すれば、繰り入れが要らなくなるということの答弁がありました。

議長（鈴木　悦子君）

岩﨑議員。

３番（岩﨑　清治君）

説明をいただいたんですけど、説明の意味が少し不明なんですけれども、１つは、私がさっき言いましたようにここの附則の部分は30年度から32年ですね、第７期の時限立法にしてあるわけです、附則でですね。ということはそっから先はないわけですよ。そのあたりをどういうふうに議論されてるんですか、保険料なんかは均一というか、上がるんだったら上がるようにある程度の部分を上がっていかなきゃいけない、それを一旦下がった部分があるわけですから、切ってるわけですから、そのあたりの議論をどのようにされたのか、財源があるというふうな話をされたんですけど、附則ではこれはもう３年間だけの時限立法ですから。もしわかれば、質問の内容と答えの内容がちょっとかみ合ってないんですけど、わかればでいいです。わからなければ、わからないということで、今後質疑の方法を変えますので。

議長（鈴木　悦子君）

金谷議員。

９番（金谷　のり子君）

先ほど言いましたように具体的な８期についての数字は出ておりませんが、財源が安定していますということで可能であるという答弁はありました。

３番（岩﨑　清治君）

３回でしょう。

議長（鈴木　悦子君）

そうです。

３番（岩﨑　清治君）

だから、もうしょうがない。

議長（鈴木　悦子君）

ほかに質疑はございますか。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようですので、これで文教厚生委員長報告に対する質疑を終了いたします。

次に、産業建設委員長報告に対する質疑はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようですので、これで産業建設委員長報告に対する質疑を終了いたします。

次に、総務委員長報告に対する質疑はございませんか。

岡野議員。

４番（岡野　鉄舟君）

２議案について質問をさせていただきます。

第１点目は、議案第３号美作市附属機関設置条例の一部を改正する条例ということで、その本文のところには大原高校跡地利用検討委員会を大原高校の跡地の利用方法に関する事務というふうに、そういう変更なんですが、それを改正後はなくするという意味なんですが、総務委員会でこの条例を議論されたときに、ちょうど今私新やすらぎ荘の平面図を手元に見ながら質問をしているわけなんですが、そこの多目的広場について議論が、質疑があったと聞いてるんですが、どのような内容であったかということを第１点目にお聞きいたします。

そして、第２議案目ですが、議案第43号後期高齢者の30年度予算についてなんですが、去る２月14日の山陽新聞をちょうど見ることがありました。大きな見出しで保険料2.2％減、年間で６万4,472円下がるんですよと、こういった新聞の見出しになっております。この原因はここの中の新聞に書いてあるんですが、医療費が上がるにもかかわらず、薬価の原価で相対的に16、17年度の給付費が約40億円の余剰が出るんだと、こういうふうに記載されております。当市の常任委員会はそれ以後ではございますが、その時点でいろいろな情報として県の連合会から入っていたんではないかと思うんですが、具体的に何をお聞きしたいかと申しますと、この予算書を見ていただきますと、保険料が平成29年度は２億5,100万円でございます。ところが、平成30年度は２億6,300万円となっております。つまり税額が上がっていると。先ほど安藤委員長の御報告では質疑はなかったということなんですが、それはよしとしまして、執行部の説明としてこの保険料がふえてるということについてどのような説明があったかということをお聞きいたします。

以上、２議案についての質問でございます。

議長（鈴木　悦子君）

安藤委員長。

８番（安藤　　功君）

それでは、１点目のお尋ねの部分で議案第３号の大原高校の跡地利用に関しての、質問の関係は先ほど御報告のとおりでございますが、多目的広場に関しては、今の既存のやすらぎ荘のほうへ全てを貸しているというふうな説明がございました。多目的広場はそちらに含まれているという説明でございました。

それから、議案第43号の件でございますが、議員からの質問はなかったんですが、執行部の説明をということなんですが、ちょっと時間をいただいていいですか。執行部の説明を再現するの、ちょっと時間がかかるんですが。私の手元の資料では43号のその詳細についての説明部分といいますか、確認できるちょっと書類がございませんので、今ここでは答弁がいたしかねます。

議長（鈴木　悦子君）

岡野議員。

４番（岡野　鉄舟君）

まず、３号議案についてですが、私も大原に時たま行きまして、市民の方とお話をする機会があるんですが、コンビニができるんじゃないかと、こういうような話で、岡野さん、どうならと、こういうお話を伺っ

ております。私も詳細な賃貸関係をよく存じていないせいもあるんですが、管財課のほうに行きますと、管財課長にお話をしますと、確かに業者さんのほうからあったということは聞いておるんですが、これ御承知のようにここはやはり入所されてる方々が安心して生活をされる場でございますから、あそこに24時間のそういったものができるとすれば、極めて問題が起きるんじゃないかなという素人目から見まして思うわけで、そのあたりのことをどのようにといいますか、俎上に上ったのかということを２つ目にお聞きいたします。

それから、43号につきましては、これはやはり予算審議と連合会の情報提供の食い違いといいますか、発表のタイムラグがあったんではないかなとは思うんですが、やはりこれはもう少し情報を機敏に察知して、執行部のほうから常任委員会のほうに説明があるべきだと思うんですが、これについてお時間をいただいてもいいんですが、どういう説明があったかということをお聞きしたいと思います。

議長（鈴木　悦子君）

岡野議員、３号議案につきましては、まだある程度うわさもあるんでしょうけども、まだ本格的な話でないし、管財のほうにそういう問い合わせがあったという程度ですので、そのことについては委員長は答えられないと思いますので、これはちょっと控えていただきたいなというふうに思います。

４番（岡野　鉄舟君）

了解しました。

議長（鈴木　悦子君）

議案第43号について。

安藤委員長。

８番（安藤　　功君）

今手元の資料を確認したんですが、予算書により説明があったというふうな記述があるんですが、詳細については私の手元にございませんので、先ほども申し上げましたけれども、答弁いたしかねます。

議長（鈴木　悦子君）

よろしいですか。

４番（岡野　鉄舟君）

はい。

議長（鈴木　悦子君）

総務委員長の報告に対してほかに質疑ございますか。

岩江議員。

１５番（岩江　正行君）

二、三点をちょっとお尋ねしたいと思います。

告知放送のこのプロポーザル方式によって契約金額がここへ計上されておりますけれども、これ合併する前に大原が無線の関係で各戸にこういうなやつをずっと防災無線の関係で入れとるわけ。これ平成１桁時分に大原町は入れたように思います、総務省の補助金をいただいたりしまして。それで、これ合併してから、何でこれほど再々変えにゃいけんのじゃろうかと一つの疑問を持っとん。何でこがいなめげる機械を再々変えにゃあいけんのんじゃろうかな、これ耐用年数についちゃあ、これはどのくらいもつんかな、その辺のとこもよう議論されたんかということ。

それから、前旧大原のときはメーカーで入札したわけじゃな。これメーカーじゃないようなふうじゃな、これ見るのに、メーカーではないようなな。それで、その辺のとこにどういうな中でここへ決めたんかなと

いうことと、それと先ほど来３号の問題についても言ようりますけども、やっぱりよう考えとかなんだら、ここも前は病院、後ろは特別養護老人ホームで、物すご重症の人もおられるし、余り騒がしいようなことをするのは、そういうような形の中でするのはようないんじゃないかなということを簡単に言います。

それと、これＮＯＤＡレーシングの問題、今回予算に計上しておりません。見落としたんじゃないんかと思うて見たけども、載ってない、予算書の中に。ほれで、今まで8,000万円からのお金を導入して、まだあと２年ぐらいは継続で、昨年は700万円になっとりましたけども、まだ２回ぐらいは補助金を、助成金を出さにゃいけんのんじゃないんかと思うんです。なぜこの継続事業はこういうな形の中で一遍に消えてしもうたんか。それから、当初は30人は来るというて言うたんよね。経済効果も抜群じゃというて言うような説明受けとるわけ。それが今の状況の関係についたら、皆さんどがな議論されたんか。ほんまにこれが今までの8,000万円をほんにこれどういうに考えられとんじゃろうか。一つ非常に疑問に思っております。もう一千万円、2,000万円だったら足しても30人近い生徒が来てもろうて、ほんまにあそこの英田のサーキットを中心に効果が当時この予算計上したときに効果が出るんじゃと言われるんだったら、そのように私はせにゃいけんと思うんじゃけど、何でここで継続でやったやつが何である日突然この予算書の中で消えたんじゃろうかと思うて、疑問に思っております。これをどういうふうな議論をされたんか、教えてください。

議長（鈴木　悦子君）

安藤委員長。

８番（安藤　　功君）

先ほどの議案第１号の告知放送端末の件でございますが、このシンクレイヤさんはメーカーであるというふうに認識をいたしております。名古屋が本社で、当時の説明によりますと、自社工場で組み立てもしているということでございますので、メーカーであり、設置業者であるというふうに説明があったかと思います。

それから、耐用年数に関してなんですけど、説明の中では基本的に家電製品というのは比較的五、六年程度が耐久性という面ではよくある年数らしいんですが、この機械に関しては10年間の、どういった補償内容になるかは今後の協議に委ねるところではありますけれども、10年間の耐用年数ということでプロポーザルの時点で説明があったというふうな説明がございました。

また、ＮＯＤＡレーシングに関してなんですが、これは新年度予算のほうで確かに協議をいたしましたが、この補正のところでは協議も質問もいたしておりませんので、御答弁ができません。

以上です。

議長（鈴木　悦子君）

岩江議員。

１５番（岩江　正行君）

先ほど、委員長、私が大原の場合についたら平成１桁のときにやったやつがまだ健在に今言う機械がめげずに放送されようると、防災無線が動きょんじゃと。なぜ、その10年ぐらいなものをたびたび１億円から莫大な金を入れてせにゃいけんのんじゃろうかな、もう少し長もちはせんのんか、そがな会社はないんかということをよう調べてやってくれなんだら、それはこれから人口がどんどん少のうなってくるし、非常に市民の負担が多くなりますんで、もう少し十分検討してやっていただいたらいかがなもんかと思うんじゃけどね。もっと強い機械をしてもらえませんかというような、やっぱり10年、旧大原町は平成１桁のときに設置したやつがいまだたって健在に動きょうるわけじゃから。私とこのは告知放送入れとらんのよ。なぜならというて言うたら、防災無線をつけとるから入れとらんのよ。そういうことです。

議長（鈴木　悦子君）

安藤委員長。

８番（安藤　　功君）

10年の件なんですけど、委員会での執行部の説明では基本的に10年ぐらいになると、壊れたときの部品とかがもう製造しなくなるというようなことも今現在では起きてるようです。そのプロポーザルの中で10年の保証といいますか、10年の製品の耐久性があるというふうにお示しをした業者はここで決まったシンクレイヤさんだけであったと、10年以上もつ機械があるのかないのかというなところまでは突っ込んだ協議はしておりませんけど、現時点ではそういった機械は見当たらなかったという報告でございました。

〔「ＮＯＤＡの関係は」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ＮＯＤＡレーシングの関係は答弁されました。

ほかに質疑ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようですので、これで総務委員長報告に対する質疑を終了いたします。

次に、予算審査特別委員長報告に対する質疑ですが、委員会は議員全員で構成され、審査を行っておりますので、質疑はないものと思います。よって、予算審査特別委員長報告に対する質疑を終了したいと思いますが、これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

異議なしと認め、予算審査特別委員長報告に対する質疑を終了いたします。

続きまして、討論、採決に移ります。

討論、採決は１議案ごとに行います。

初めに、議案第１号「美作市音声告知放送基幹設備・戸別放送端末購入契約の締結について」、討論に入ります。

反対討論ございませんか。

反対討論ですか。

１０番（岡本　泰介君）

はい。

反対討論をいたします。議員の皆さん、聞いてください。

委員会でも反対討論したわけですが、先ほどから委員長も報告されてますとおりまだ協議中ということが多々あったというふうに思います。そういった報告もあったように思います。メンテナンスとか、いろんなことに関してまだ煮詰まっていない部分があるということでございますので、そういうものが煮詰まってからこういった議案をしたほうが私はいいんじゃないかという思いがございますので、反対討論とさせていただきます。

以上です。

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございませんか。

青山議員。

１番（青山　　慶君）

賛成の立場で討論いたします。

この機種につきましては、要件を十分に満たしており、またワイドＦＭにも対応してるということで、拡張性もあるということで、私はこの機器についてはふさわしいと思います。

また、先ほど反対討論の中にありました全て煮詰まってからというところの話なんですけど、恐らく業界によって進め方というのは違うと思うんですね。私がいたＩＴ業界というのは工程ごとに契約していくというのが一般的でして、決まってないことがあるというのは当たり前で、工程の早いほうから、決まったら契約、決まったら契約というふうにしていくのが一般的でしたので、この点につきましては、私は特に問題すべきではないというふうに解釈しております。

以上です。

議長（鈴木　悦子君）

次に、反対討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第１号「美作市音声告知放送基幹設備・戸別放送端末購入契約の締結について」、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立多数〕

議長（鈴木　悦子君）

賛成多数。よって、議案第１号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第２号「美作市こぶしの里設置及び管理に関する条例の廃止について」、討論に入ります。

まず、反対討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございますか。

賛成討論もないですね。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第２号「美作市こぶしの里設置及び管理に関する条例の廃止について」、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立多数〕

議長（鈴木　悦子君）

賛成多数。議案第２号は委員長の報告どおり可決されました。

次に、議案第３号「美作市附属機関設置条例の一部を改正する条例について」、討論に入ります。

まず、反対討論ございませんか。

岡本議員。

１０番（岡本　泰介君）

実はこの案に対して私は委員会では賛成したんです。でも、ちょっとその後事情が変わってきたので、ここで反対討論をさせていただきます。

と申しますのは、やすらぎ荘の正面入り口の左側のところに残地があるんですね。残地があるといっても、これはやすらぎ荘に全部福祉施設として貸してあるという土地らしいんですけど、建物も何もない土地があるんです。ここにコンビニエンスストアができるんじゃないかという雑音が入ってきました。それで、いろいろと私も調べてみたんですけど、どこまで本当かうそか、わからないんで、内容は余り申し上げられませんけれども、こういったことが出ておりますので、やっぱしもう少し大原高校跡地利用検討委員会というのは置いとく必要があるんじゃないかと思います。このあいてる土地は地元の人に聞くと、避難場所だとか、ゲートボール場ができるんじゃないかとかというような話もあるようでございますが、どうもはっきりしない土地のようになってるような気がします。やすらぎ荘に貸してあるのにこんな話が出てくるというのは、どうも私は不思議でかなわないんですけど、そういった理由でこの跡地利用検討委員会はまだ残しておく必要があるという判断に至りましたので、この案には反対いたします。

以上です。

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、反対討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第３号「美作市附属機関設置条例の一部を改正する条例について」、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立多数〕

議長（鈴木　悦子君）

賛成多数。よって、議案第３号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第４号「美作市職員の分限に関する手続及び効果に関する条例の一部を改正する条例について」、討論に入ります。

反対討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第４号「美作市職員の分限に関する手続及び効果に関する条例の一部を改正する条例について」、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（鈴木　悦子君）

全員賛成。議案第４号は委員長の報告どおり可決されました。

次に、議案第５号「美作市職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例について」、討論に入ります。

まず、反対討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

討論がないようですので、終結いたします。

これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第５号「美作市職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例について」、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（鈴木　悦子君）

全員賛成。よって、議案第５号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第６号「美作市職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について」、討論に入ります。

反対討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

討論がないようでございますので、討論を終結し、採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第６号「美作市職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について」、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（鈴木　悦子君）

全員賛成。よって、議案第６号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第７号「美作市特別職の職員の給料及び旅費に関する条例の一部を改正する条例について」、討論に入ります。

まず、反対討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

討論がないようでございますので、討論を終結し、採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第７号「美作市特別職の職員の給料及び旅費に関する条例の一部を改正する条例について」、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（鈴木　悦子君）

全員賛成。議案第７号は委員長の報告どおり可決されました。

次に、議案第８号「美作市国民健康保険税条例及び美作市国民健康保険条例の一部を改正する条例について」、討論に入ります。

反対討論ございませんか。

岩﨑議員。

３番（岩﨑　清治君）

私は今回の国保税条例の改正について反対の立場で討論をさせていただきます。

なぜならば、税率を下げるという部分の根拠が全然示されてない。根拠が示されてない中での賛成、反対というのは非常におかしいという意味で反対であります。30年度においては国保が県一本になって制度改正になることは十分理解をしております。理解しておりますけれども、税をなぜこのときに下げるんか、その根拠は何であるかという質問に対して委員会においても正式に議論されてないし、私が議案質疑のときにも議論されてない。こういうふうな状況下で条例を通すというのは国保の財布を預けるに値しないというふうな意味合いをもちまして、私は反対の立場でございます。

以上です。

議長（鈴木　悦子君）

賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、反対討論ございますか。

岡野議員。

４番（岡野　鉄舟君）

私は反対でございますが、反対理由を３点申し述べたいと思います。

昨年12月までに行政懇談会がございまして、私はその28の中の21参加しました。その中で市長はこのように言っておられました。国保と介護保険について約１万円程度下げる気持ちでおると、こういったものがございまして、当初予算の編成に当たってその伏線になったものがあるかなというふうに思います。先ほど岩

﨑議員がおっしゃられましたようになぜ下げなければいけないかというあたりがはっきりしておりません。私は非常に腑に落ちない分でございます。では、その部分を百歩譲ったとして、議案質疑のときに出されました平成30年度国民健康保険税率案というのを手元で見ながら質問をしておるわけなんですが、それはこういうふうに私は独自に調査をしましたところ、現行税率と、それから県案税率というものがございまして、それを差し引いたものを足して２で割ったものを現行税率から引いていると思われます。ちょうどそれが所得割、資産割、均等割、平等割に合致するわけなんですが、先ほどなぜ下げるかという議論も当然のことながら、なぜ２分の１にしなければいけないかなというところは余りにも横着過ぎるかなという議論です。そしてまた、国保の審議会でどういった議論がなされたかということも担当常任委員会でもはっきりされていないようでございます。まず、これが第１点目です。

そして、２つ目でございますが、法定外繰り入れについては、厚生労働省はつまり保険の趣旨が違うと、つまり国保の被保険者に対してそれ以外の方の税金を投入するようになるから、厚生労働省はそれはやめるべきだという行政指導があるわけですが、当市においては、29年と30年を若干比較してみますと、わずかですが、法定外繰り入れがございます。これが２点目でございます。

３点目でございますが、国保税は医療費が増嵩すれば、当然それに上がるわけでございますが、そういった税率もさることながら、その医療費を上げない対策をどういうにするかという医療費の抑制についてパラレルに提示をされるべきだったろうと思います。例えばなされてはいると思いますが、生活習慣病の予防とか、がん診療の受診率の向上とか、それからどこに住んでも平等な医療介護サービスを受けれるという地域包括ケアシステムの、そういったものもトータルの議論がなされていないんではないかと思っております。そしてまた、大事なことなんですが、保険料の収納率の向上ということもこの保険料を下げるという意味では重要だろうと思いますが、以上、申し述べました３点を判断をさせていただきましても、今回の条例の一部改正はだめだなと、そういうことで反対をいたします。

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございますか。

尾髙議員。

１４番（尾髙　誉久君）

賛成の立場から討論します。

確かに反対の方のおっしゃられるように多々問題はあると思います。このために実施期間が延伸されてきたのも事実でございます。しかしながら、反対の方の気持ちにどこにも触れられないのを言いますが、岡山県においても３方式、すなわち資産税を除く所得割と均等割と世帯等というものをもってしているわけでございますが、美作市におきましては、この県北においてはほとんど４方式ということで資産税割を含めている。そのやり方、応能割と応益割の問題等々ありますが、一番大事なのは、私が考えるのは美作市の市民の方でございます。健康保険を出したい、出さなければ診察していただけないという基本的な国の方針に対して物申すこと多々あります。国保税こそが所得、課税額にもってこの税金が課税されてない、最初の所得にもってやってると、控除後の課税でやってない、そういう問題はあります。ありますが、これを直すにはうちの市長に総理でもなっていただかないとできないことで、大きな流れとして国民の健康、美作市の市民の健康という立場から大きく捉えて、賛成でございます。

以上でございます。

議長（鈴木　悦子君）

次に、反対討論ございますか。

倉地議員。

６番（倉地　重夫君）

昨年県が発表した標準保険税の算定の基礎ですね、これが７万7,204円となっておりますが、当市が去年納入額は、税額は９万7,455円と、２万円から県の算定した額よりも高いということで、これの引き下げを願って、反対いたします。

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

反対討論ありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

討論がないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第８号「美作市国民健康保険税条例及び美作市国民健康保険条例の一部を改正する条例について」、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立多数〕

議長（鈴木　悦子君）

賛成多数。議案第８号は委員長の報告どおり可決されました。

次に、議案第９号「美作市手数料徴収条例の一部を改正する条例について」、討論に入ります。

反対討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

討論がないようでございますので、終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第９号「美作市手数料徴収条例の一部を改正する条例について」、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（鈴木　悦子君）

全員賛成。議案第９号は委員長の報告どおり可決されました。

ここで10分間休憩いたします。

午後２時02分　休憩

午後２時13分　再開

議長（鈴木　悦子君）

休憩前に戻り会議を開きます。

次に、議案第10号「美作市介護保険条例の一部を改正する条例について」、討論に入ります。

反対討論ございませんか。

岩﨑議員。

３番（岩﨑　清治君）

この条例改正案については反対でございます。

数点理由がございますけれども、まず１点は、この条例改正案の本文ですけれども、本文については今の金額で十分いけるだろう、今の持ってる介護保険料の中で十分いけるだろうということで、ここについては構わないというか、賛成の立場なんですけれども、特に附則の部分については一般会計から特別会計の繰入金の関係につきましては、これは非常に悪い条例である、俗に言う悪法であるというふうに思います。なぜならば、国のほうが介護保険法をつくって以来、こういうことをしてはだめですよという強い指導がございます。現実的な罰則というのは明記はされてないんですけれども、いろいろな指導、強い指導があるだろう、そういう中でどうしてもこういうことをすると問題である。なぜならば、強い指導の中で厚労省の補助金等々についていろいろな問題ができてくるだろう。強いて言えば、補助金をもらうについても非常に審査が厳しくなるだろうという面も思います。そして、先ほども言いましたけれども、一般会計から入れるということは介護保険料の平準化的な問題に波風を起こすと、平準化にならないという観点でございます。こういうふうな問題をすると、末代まで、なぜこのときにこの条例を通したんだという汚点になるので、私は絶対反対でございます。

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

反対討論ございますか。

岡本議員。

１０番（岡本　泰介君）

私も反対の立場で申し上げます。

介護保険の料金というんですか、これは過去３年間、６期に関してはもらい過ぎていたということじゃないかと思います。それが証拠に介護保険の今度の補正予算でも繰越金とか予備費にお金があって、１億4,000万円以上のお金もあるということでございます。ですから、ここで料金を下げてもやっていけるし、3,800万円のこの繰り入れをする必要もない。ですから反対です。基金を使うというのが皆さんからいただいたものを先に使うというのが原則でございましょう。介護保険の原則というのはそういうもんだと私は認識しておりますので、基金を使って、もし万が一それが足らないことがあれば、それは繰り入れというようなこともあるかもしれませんけど、今はそういったことを論じる時点ではない、そのように判断いたしております。基金の繰り入れをしてはいけないという思いも岩﨑議員と一緒です。ですから、この案には私は反対いたします。

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

反対討論ございますか。

岡野議員。

４番（岡野　鉄舟君）

私は３点の理由からこの本条例の改正には反対をいたします。

１つは、先ほど岩﨑議員がおっしゃられたことにはなるんですが、介護保険法、つまり介護保険法制度に基づいて国は指導しているわけでございますが、これに反するということでございます。つまり法令違反であるということです。ありていに簡単に言えば、歳出は歳入で賄うという、私は一時議案質疑のところでパンフレットをお示ししましたが、あれを見ても明らかになることでございます。

第２点は、公費を12.5％負担している県の指導にも反するということでございます。改めて私は特別委員会が終わった後、長寿社会対策課の担当を通じて課長にお話をしました。課長いわく、不適切であると、こういうふうに指導していると、美作市さんは昨年の５月ぐらいから御相談があったが、私は不適切であるというふうに指導しておると、こういうふうに担当を通じて課長の答弁がございました。ちなみに27市町村で、担当の方にお尋ねしたんですが、どういう状況ですかと、こう聞きましたら、まだ聞いたことがないと、つまり繰り入れをするところは聞いたことがないと、こういったように県も国の指導に準じてみずから公費負担をしているわけですから、やってるということです。こんなところでやるべきでないというのは火を見るよりも明らかであります。

そして、３つ目でございますが、介護保険事業計画でございますが、これは文教厚生委員長と議長がメンバーになって、介護保険策定計画にるる参加をされていらっしゃるわけですが、いわゆるそこの中で議論されたと思いますが、サービス料と保険料は比例をするという、以上３点でこの条例には、私も介護保険を負担しているわけですから低いほうがいいに決まっているんですが、それとやはり法令を遵守するということは全く別であります。そういったことでこの条例改正には大反対であります。

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございますか。

尾髙議員。

１４番（尾髙　誉久君）

しなければならないと繰り入れることができるとの表現だけをはっきりと聞きたいと思いますが、市長は次の各項のいずれかに云々ということがある中で、最後に一般会計から特別会計へ繰り入れることができる、一般会計から特別会計へ繰り入れることができることであって、しなければならないということじゃなくて、これで賄えれば十分いいことです。健康寿命を推進して、平均寿命と健康寿命を短縮すべくして行っているわけですから、我々議員もそれを一生懸命貫こうとしているわけですから、することができなくなったとき一般会計からするんだと。

それから、何回も言ってるようにそれに充てるために都市公園を広げていくんだと、そのものでもっての交付税というものをそっちに充てていくんだという大きなシステムの中では、これは大きな市長のお考えの中で前に進んでいる行為だと私は思います。私は大賛成です。

以上です。

議長（鈴木　悦子君）

次に、反対討論ございますか。

倉地議員。

６番（倉地　重夫君）

市民のアンケート等で介護保険料が高いと、負担が重いという意見が上がっております。ちなみに当市の

市民の所得の額ですが、全国の2016年、総務省が発表した住民１人当たりの平均所得ということで、美作市が242万9,817円ということで、1,741ある自治市町村の中で、美作市の位置というのが1,465位と非常に低い位置にあります。やっぱり市民生活をきっちり応援していくという立場から介護保険料はできるだけ安くの立場から、これに反対します。市民の負担を少しでも軽くするという立場から。

議長（鈴木　悦子君）

反対ですか、今の。

６番（倉地　重夫君）

300円よりももっと下げてくださいという意味。

議長（鈴木　悦子君）

はい。

次に、賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

反対討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

別にないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第10号「美作市介護保険条例の一部を改正する条例について」、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立多数〕

議長（鈴木　悦子君）

賛成多数。議案第10号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第11号「美作市指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営の基準等を定める条例の制定について」、討論に入ります。

まず、修正案について討論を行います。その後修正部分を除く原案についての討論を行います。

初めに、修正案について討論を行います。

反対討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、修正部分を除く原案について討論を行います。

反対討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

別に討論がないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

採決の方法ですが、本案に対する委員長の報告は修正可決ですので、まず修正案について採決をいたします。修正案が可決された場合、修正部分については確定いたしますので、その後修正可決された部分を除く原案について採決を行います。

お諮りします。

議案第11号「美作市指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営の基準等を定める条例の制定について」の修正案のとおり修正することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（鈴木　悦子君）

全員賛成。よって、議案第11号「美作市指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営の基準等を定める条例の制定について」の修正案は可決されました。

次に、修正可決された部分を除く原案について採決を行います。

お諮りします。

修正可決された部分を除く原案について賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（鈴木　悦子君）

全員賛成。議案第11号は一部修正の上、可決されました。

次に、議案第12号「美作市特定疾患医療附帯療養交通費支給条例の一部を改正する条例について」、討論に入ります。

まず、反対討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

別に討論がないようですので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第12号「美作市特定疾患医療附帯療養交通費支給条例の一部を改正する条例について」、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（鈴木　悦子君）

全員賛成。議案第12号は委員長の報告どおり可決されました。

次に、議案第13号「美作市後期高齢者医療に関する条例の一部を改正する条例について」、討論に入ります。

まず、反対討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

別に討論がないようですので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第13号「美作市後期高齢者医療に関する条例の一部を改正する条例について」、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（鈴木　悦子君）

全員賛成。議案第13号は委員長の報告どおり可決されました。

次に、議案第14号「美作市公共下水道条例等の一部を改正する条例について」、討論に入ります。

まず、反対討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

別に討論がないようでございますので、討論を終結し、採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第14号「美作市公共下水道条例等の一部を改正する条例について」、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（鈴木　悦子君）

全員賛成。よって、議案第14号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第15号「美作市都市公園条例の一部を改正する条例について」、討論に入ります。

反対討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようですので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第15号「美作市都市公園条例の一部を改正する条例について」、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（鈴木　悦子君）

全員賛成。議案第15号は委員長の報告どおり可決されました。

次に、議案第16号「美作市営住宅管理条例の一部を改正する条例について」、討論に入ります。

まず、反対討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

討論がないようでございますので、終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第16号「美作市営住宅管理条例の一部を改正する条例について」、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（鈴木　悦子君）

全員賛成。よって、議案第16号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第17号「市道路線の認定について」、討論に入ります。

反対討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようですので、討論を終結し、採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第17号「市道路線の認定について」、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（鈴木　悦子君）

全員賛成。議案第17号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第18号「市道路線の変更について」、討論に入ります。

反対討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

討論がないようでございますので、終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第18号「市道路線の変更について」、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（鈴木　悦子君）

全員賛成。議案第18号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第19号「美作市過疎地域自立促進市町村計画の変更について」、討論に入ります。

まず、反対討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

討論がないようですので、終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第19号「美作市過疎地域自立促進市町村計画の変更について」、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（鈴木　悦子君）

全員賛成。議案第19号は委員長の報告どおり可決されました。

次に、議案第20号「美作市内の辺地に係る総合整備計画の策定について」、討論に入ります。

まず、反対討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

討論がないようですので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第20号「美作市内の辺地に係る総合整備計画の策定について」、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（鈴木　悦子君）

全員賛成。議案第20号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第21号「美作市高齢者福祉センター「やまゆり苑」の指定管理者の指定について」、討論に入ります。

まず、反対討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようですので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第21号「美作市高齢者福祉センター「やまゆり苑」の指定管理者の指定について」、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（鈴木　悦子君）

全員賛成。議案第21号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第22号「平成29年度美作市一般会計補正予算（第５号）」について、討論に入ります。

反対討論はございませんか。

萬代議員。

１２番（萬代　師一君）

私はこの議案第22号「一般会計の補正予算（第５号）」につきましては、反対の立場で討論に参加させていただきます。

本補正予算につきましては、看護師等養成学校整備費補助金といたしまして1,600万円の追加補正がなされております。平成28年度分の１億円を含めまして、総額といたしましては９億3,983万2,000円の補助金額となるものでございます。この補助金を大阪滋慶学園に交付する根拠といたしましては、補助をするために平成28年６月１日、告示第85号として制定されました美作市スポーツ医療看護専門学校建設費等補助金交付要綱に基づくものであります。この補助対象経緯につきましては、同補助要綱第３条の規定のとおり校舎建設に伴うものであり、通信制高校の開設に伴う旧大原高校体育館の改修工事を補助の対象として追加することを認めるわけにはまいりません。また、この滋慶学園につきましては、平成27年度当初より一貫して国、県等へ働きかけを行い、美作市の負担軽減を図るための財源確保に努めるとの説明でありました。その主たるものといたしましては、国の補助事業であります看護師等養成所施設整備費補助金１億4,772万円であるとの説明でもありました。そのためにさきの美作市の同補助金交付要綱第４条におきまして、補助対象者が申請を行う国及び県からの交付金等がある場合は、当該交付金の額を控除した額のうち、市長が定める額とすると明文化されております。しかし、補助対象者であります滋慶学園が補助申請のスケジュールのために申請を行わなかったとの説明でありました。補助申請することで受け入れることが可能な国の補助金１億4,772万円を差し引いた額を美作市の補助金額とすべきと考えます。したがいまして、市長の定める額を1,600万円を追加し、総補助金額を９億3,983万2,000円とする本補正予算は絶対に認めるわけにはいきません。

以上、反対の討論といたします。

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございませんか。

尾髙議員。

１４番（尾髙　誉久君）

この平成29年度一般会計補正予算、減額にするにしろ、増額するにしろ、この一般会計補正予算が、例えば先ほどもいろいろ出ました後期高齢者医療保険基盤安定であるとか、特別会計や、また企業会計との絡みというバランスからいっても、この補正予算を否決してしまうと、あとの全体的な構成が全て崩れていく、いろんな修正であるならば、修正案というものを示されたならばあれですけど、全体的なバランスの観点からこれを飲んでいかないと、全ての他の予算が砕け散ってしまうという大きな大局に立ったときにこの予算を賛成いたします。

以上です。

議長（鈴木　悦子君）

次に、反対討論ございますか。

岡野議員。

４番（岡野　鉄舟君）

先ほど尾髙議員が言われたことに対してのまず予算的な考えからいえば、全体予算を、補正予算を否決したとしても予備費対応は可能ですし、暫定もできますし、それは賛成の理由にはならないと思います。

さて、本論に対してですが、滋慶学園に対しては、私は議員ではなかった平成28年度の３月にたしか最終予算と、それから債務負担行為を含めて10億円がなったと記憶をしております。平成29年度になりまして最終予算が執行されていくという過程なんですが、そもそも私の持論として、公共団体が箱物をつくる時代はもう既に終わっております。底地を貸して上に建物を建てていただいて固定資産税をもらうという論法とか、あるいは民間が来て固定資産税を落としてくれるという、そういう理由であれば、私は大賛成でございますが、もともと滋慶学園については、既にもう動いておりますが、反対でございます。そういったものの中で額としては2,000万円弱ではございますが、なぜ滋慶学園がこれをしないのかということがもう全く理解できません。おんぶにだっこです。こんなことをやっておれば、事あるごとに湯水のように予算を多数決の論理で可決してしまうという、全く禍根を残すことになります。したがいまして、議案第22号の一般会計補正予算は大反対でございます。

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

反対討論ございますか。

岩﨑議員。

３番（岩﨑　清治君）

私もこの滋慶学園絡みの1,600万円について反対の立場で、予算そのものを反対という立場でございます。

理由は先ほど岡野議員も言われましたけど、滋慶学園関係については、私が議員でいなかったためについ先日いろいろな議事録を読ませていただきました。規則のほうも見させていただきましたけれども、もともとの流れは15億円かかるんですよ、そのうち市のほうが10億円出しますよ、俗に言う３分の２補助金しますよという意味だったんですけど、最近になって15億円が12億円ほどになってますよと、美作市は９億3,000万円出すよと、これ入れた部分なんですけど、なぜそこまで市が援助しなければいけないのかという非常に疑問点です。公設民営であればまだ違う話があるんですけど、補助金として出して、率的に何割になるかわからんですが、これだけの高額の補助というのは市が出す分については余り前例がないと思うほどの金額です。その上に今までの当初の約束の人数からすごく少なくなってる、金額的にも減ってきてる。トータル金額については、先ほど言いましたけど、12億円幾ら何がしかの金額、もともとは15億円、そのうちの10億円、３分の２ですね。そういうふうな意味合いで、それであればやむを得んかなとも思ったんですけど、面積も小さくなり、人数も少なくなり、美作市の負担部分だけの10億円というのがほぼ変わらない。これは私自身だけでは納得いかない方が非常に多い。その上に市が出せば、今国でまだ取り上げられている森友学園と同じような疑念を持たれるという気持ちがありまして、私もこのことについては反対でございますので、予算全てが反対、予算全体の構成についてはできない方向はない、いろいろな方法があるんで、でき

ると思います。

以上です。

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございますか。

山本議員。

１１番（山本　雅彦君）

賛成の立場として討論を申し上げます。

いろんな御意見がある中で、確かに執行部の説明の中でもどうかなと思う説明もあったのも事実であろうかと思います。今この平成30年まで進んでまいりまして、美作市においては一層の高齢化が進んでおります。また、少子化も進んでおります。若い人たちも幾らかは戻ってくるけども、都市部への流出はとまったわけではない。そうした中で、本来は姫路市にという話があった中で、いろんな努力の結果だろうと思いますけれども、大原のほうに立地が決まったと。この過疎化に悩む美作市、また大原地域を少しでも活性化ができるならば、協力しようというような思いもあったのではないかなというふうに思います。しかし、だからといって整合性のない予算というものがもしあるとすれば、そこは襟を正さなければならないし、また今後においてもきちんとした納得のできる説明を我々議会にもこれは示していただかなければならない、この思いは一貫して変わるものではありません。この補正予算には今ございました看護師等養成学校の施設費の補助金の1,600万円、またそれ以外の急を要する補正予算もございます。また、今年度から引き続いての繰越明許の災害関連もあります。こういったものが修正ですぐにできるかどうかはわかりませんけども、全体を通してこれはこの補正予算を認めていきながら、私はあえて申し上げますけれども、今後においても執行部におかれては、我々議会に納得のできる説明を今後もすることをぜひ努力をしていただきたい、そのことを申し述べておきまして、この補正予算には賛成をいたします。

議長（鈴木　悦子君）

次に、反対討論ございますか。

山本議員。

１３番（山本　重行君）

私は反対の立場で討論をさせていただきます。

先ほど来も話がございました看護師等養成学校に関する整備補助金1,600万円の追加でございます。この件につきましては、先ほども言われましたけれども、補助金の交付要綱等から見ましても、この追加というのは相当無理があるだろうというふうに思います。

次にもう一点は、みまさか創生費の減額１億9,000万円についてでございますけれども、これはそもそもこぶしの里の工事の中断にかかわるものでございます。ここに至ってこぶしの里の工事を再開するかどうかは愛の村の利用状況を見てから判断するというふうなことでございましたが、当初の予算の上程のときには学生の宿泊、またあるいは地元との交流拠点としてどうしても必要なんだと、だから改修工事をするんだという、そういう説明をされてきたわけですね。この１年の間にこぶしの里の再開、あるいは延期、そして再開断念、ころころと方針が変わってるわけですね。こういったことで全く計画性がない。そういったものを含んでるこの予算に対しては重大な問題があるというふうに思います。よって、私は反対をいたします。

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、反対討論ありますか。

岡本議員。

１０番（岡本　泰介君）

先ほど来から大原の滋慶学園の1,600万円に対してるるございました。私の意見もほぼこの1,600万円に関しては同じでございます。ですから、この補正予算には反対でございます。

そしてもう一つは、先ほど山本議員が言われましたけれども、こぶしの里の減額です。やらないんだから減額は当たり前だというふうになるということももちろんそれはあるでしょう。しかし、3,200万円も投資して、そして廃止ということですので、一般質問でも申し上げましたけれども、この責任も何もうやむやのままこうして減額して補正予算が通っていくということに対しては、私はいかがなものかという思いが強うございます。きっちりとした市長なりの責任の所在というものをはっきりさせて、こういったことをしなければ今後の禍根に残す、今後のことによくないという思いがいたします。ですから、この補正予算には以上２点で反対させていただきます。

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

反対討論ございますか。

岩江議員。

１５番（岩江　正行君）

私も反対の立場から討論させていただきます。

３番議員が言われましたけども、当初総事業費が15億円じゃと、それで10億円出したらあとは全部滋慶学園がするんじゃというような、そのような我々は説明を受けておりますけども、私はもう初めからこの滋慶学園については反対しております、初めから。それで、職員がこれに関係しとるんでも２年余りあっこで職員の給料を払ようるわけじゃな。その事務所の経費というたって恐らく少ない経費じゃないと思います。大原支所の一角を仕切って、あそこでずっと２年ほど職員を派遣して頑張ったわけじゃ。

それと、この前総務委員会の話を聞いたら、非常に生徒数が少ないと、募集、行きたいという生徒が少ない、非常に。初めは680人という話を聞いたわけ、680人じゃというて。それから次には360人じゃというて言うたん。360人が、360人切れたら経営が不可能じゃというて言ようる。これは今言ようる協定書の中にちょっとどっかしらに書いておりました、360人切れたら経営が不能になりますよということは書いておりました。ほれで、この施設は公設民営化だったらええけども、これ補助金を10億円ほど出しとるわけ。経営が不能になって、あそこの建物はもう全部補助金出しとんじゃから滋慶学園の品物、土地は市のもん、けれどもやっぱし地上権の権利というんか、これが主張された場合について、公設民営化だったら、ああ、ほんならうちがもう今度は何かに考えますというような話もできますけども、あの施設の関係が今度はどがいなるんかという物すご心配しとんじゃね。その辺の話もなしに、今言ようる初めはライフサポーターから始まって、それから今言ようる豊野の小学校、また大原の旧やすらぎ荘の跡地、こういうな固定資産税が全部ただじゃ。30年無償じゃというな形の中で、またその上に10億円以内でぽっきりもうそれ以上は滋慶がするんじゃと言うたやつを、寮はほんなら市がして出すんじゃとか、こぶしの里というんは途中で頓挫しましたけども。そのような形の中でもう話はずるずるいろんな形の中でうそによどかされて、この大きな市民の大切な

税金が使われていきょうるということに対しては、これは市民に対して申しわけないということで私は反対します。

議長（鈴木　悦子君）

賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、反対討論ございますか。

重平議員。

７番（重平　直樹君）

私も反対の立場からさせてもらいます。

追加補正の1,600万円、これもとんでもない話でございますし、再三私は滋慶学園反対してまいりました。こぶしの里のときにも言わせてもらいましたが、今岩江議員も言われましたが、10億円以内がこぶしの里、愛の村で軽く10億円を超すようなことでありました。とにかくそんなむちゃくちゃなことはもう反対でございます。

以上でございます。

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、反対討論。

倉地議員。

６番（倉地　重夫君）

私も今までいろいろ反対討論に立たれました営業活動費の看護学校整備補助金1,600万円、これの予算を組みますこの補正予算に対しては反対であります。

以上です。

議長（鈴木　悦子君）

次、賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

反対討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

討論がないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

議案第22号「平成29年度美作市一般会計補正予算（第５号）」について、原案に賛成の方の起立を求めます。

〔起立８名〕

議長（鈴木　悦子君）

可否同数であります。よって、地方自治法第116条の規定により議長において本案に対する可否を採決いたします。

本案について、私議長は可決と採決いたします。

賛成多数。よって、議案第22号は原案のとおり可決されました。

続きまして、議案第23号「平成29年度美作市国民健康保険特別会計補正予算（第１号）」について、討論に入ります。

まず、反対討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

反対討論ございますか。

岩﨑議員。

３番（岩﨑　清治君）

私は反対という立場の中で討論をいたします。

反対の理由、なぜならば、この予算書はほぼ決算書に近い数字でなければならないというふうに思うんですけれども、非常に決算書に近い数字とはかけ離れた数字が並んでるというふうに思います。なぜならば、例えば基金の、トータルですけど１億1,000万円余りの金額を入れられてますし、実際はわかりませんけれども、税収の項目については、当初予算以降、補正をされてない。ほかの金額につきましても、どういう意味合いでこの予算をつくられたのか、補正をつくられたのか、意味不明な内容が多々見えますので、反対という立場で討論をさせていただきます。

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

反対討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

討論がないようですので、終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第23号「平成29年度美作市国民健康保険特別会計補正予算（第１号）」について、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立多数〕

議長（鈴木　悦子君）

賛成多数。議案第23号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第24号「平成29年度美作市介護保険特別会計補正予算（第２号）」について、討論に入ります。

まず、反対討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

ないようですので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第24号「平成29年度美作市介護保険特別会計補正予算（第２号）」について、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立多数〕

議長（鈴木　悦子君）

賛成多数。よって、議案第24号は委員長の報告どおり可決されました。

次に、議案第25号「平成29年度美作市簡易水道特別会計補正予算（第２号）」について、討論に入ります。

まず、反対討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

討論がないようですので、終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第25号「平成29年度美作市簡易水道特別会計補正予算（第２号）」について、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（鈴木　悦子君）

全員賛成。よって、議案第25号は委員長の報告どおり可決されました。

次に、議案第26号「平成29年度美作市住宅新築資金等貸付事業特別会計補正予算（第１号）」について、討論に入ります。

まず、反対討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

討論がないようですので、討論を終結し、採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第26号「平成29年度美作市住宅新築資金等貸付事業特別会計補正予算（第１号）」について、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（鈴木　悦子君）

全員賛成。よって、議案第26号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第27号「平成29年度美作市公園墓地事業特別会計補正予算（第１号）」について、討論に入ります。

反対討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

討論がないようですので、討論を終結し、採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第27号「平成29年度美作市公園墓地事業特別会計補正予算（第１号）」について、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（鈴木　悦子君）

全員賛成。よって、議案第27号は委員長の報告どおり可決されました。

次に、議案第28号「平成29年度美作市都市と農村の交流施設特別会計補正予算（第１号）」について、討論に入ります。

まず、反対討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

討論がないようですので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第28号「平成29年度美作市都市と農村の交流施設特別会計補正予算（第１号）」について、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（鈴木　悦子君）

全員賛成。よって、議案第28号は委員長の報告どおり可決されました。

次に、議案第29号「平成29年度美作市老人保健施設事業特別会計補正予算（第１号）」について、討論に入ります。

反対討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

討論がないようですので、討論を終結し、採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第29号「平成29年度美作市老人保健施設事業特別会計補正予算（第１号）」について、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（鈴木　悦子君）

全員賛成。よって、議案第29号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第30号「平成29年度矢田茂・原田政次郎・福田五男奨学基金特別会計補正予算（第１号）」について、討論に入ります。

反対討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

討論がないようですので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第30号「平成29年度矢田茂・原田政次郎・福田五男奨学基金特別会計補正予算（第１号）」について、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（鈴木　悦子君）

全員賛成。よって、議案第30号は委員長の報告どおり可決されました。

次に、議案第31号「平成29年度美作市後期高齢者医療特別会計補正予算（第１号）」について、討論に入ります。

反対討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

討論がないようですので、討論を終結し、採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第31号「平成29年度美作市後期高齢者医療特別会計補正予算（第１号）」について、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（鈴木　悦子君）

全員賛成。よって、議案第31号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第32号「平成29年度美作市水道事業会計補正予算（第２号）」について、討論に入ります。

反対討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

討論がないようですので、討論を終結し、採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第32号「平成29年度美作市水道事業会計補正予算（第２号）」について、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（鈴木　悦子君）

全員賛成。よって、議案第32号は委員長の報告どおり可決されました。

ここで10分間休憩します。

午後３時02分　休憩

午後３時12分　再開

議長（鈴木　悦子君）

休憩前に戻り会議を開きます。

続きまして、議案第33号「平成29年度美作市下水道事業会計補正予算（第２号）」について、討論に入ります。

反対討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

賛成討論はございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

討論がないようでございますので、終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第33号「平成29年度美作市下水道事業会計補正予算（第２号）」について、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（鈴木　悦子君）

全員賛成。よって、議案第33号は委員長の報告どおり可決されました。

次に、議案第34号「平成30年度美作市一般会計予算」について、討論に入ります。

まず、反対討論ございませんか。

岩江議員。

１５番（岩江　正行君）

反対の立場から討論させていただきます。

１点目に、先ほども言いましたけれども、ＮＯＤＡレーシングの補助金が今回の予算書に計上されてない。

それから、都市公園の交付金の関係、これは初め市長らに我々が説明受けたのは、あそこの交付金が来たら遊歩道を整備するのに雇用の創出になるというて、こういうふうに言うとるわけじゃな。雇用の創出になる、１億円余りの交付金が来るんじゃと、そしたら雇用の創出になると言うたやつが、29年度の当初予算を審議したときに福祉に回すというて言うたんよ。福祉に回すと言うて、今度はこの後の維持管理費、これ産業建設委員会でもちょっと私質問したと思うんですけども、後の維持管理費、これはどがい、何の金を充てるんじゃろうか、全然予算書見ても載っとらんの。こういうふうな問題があります。

それと、先ほど来朝から言いましたけども、コンプライアンス、コンプライアンスと言ようる、この美作市が法に尻向けたような行政をやってきょうる。このことについては、これはもう真っ向から私は反対でございます。

それと、共立メンテナンスの指定管理委託料6,333万円、こんだけの皆さんの公費をもって地域の活性化をお願いしながらやってくれるんじゃと思よったら、これも産建でも言いましたけども、あそこのほうにたくさんのバスが来よった、この間うち。夏も来た。武蔵の里で写真を撮っとん。美作市の中でも大原地区だけでも２店の写真屋がある。そこらに写真も撮らすようなことはしない。何ならというて言うたら、鳥取のほうから写真屋連れてくる。このようなどっち向いた行政しょんじゃろうか、美作市の行政しょんじゃろうか、鳥取の行政やりよんじゃろうかという、こういうふうなべらぼうのようなわけのわからないような予算書をここへ計上しとるが、これについては、私は御理解できないということで、私は反対でございます。

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございますか。

尾髙議員。

１４番（尾髙　誉久君）

平成30年度美作市一般会計予算の基本的な考え方は骨格予算であると、政策予算ではないと。以前より継続してる、持続しているものについては計上しているということを基本的なスタンスとして今回盛り込まれた予算が一般会計予算でありまして、政策予算ではないんだということを、これみまちゃんネルを見ている皆さんにもよくお伝えして、私は賛成ということでございます。

議長（鈴木　悦子君）

次に、反対討論ございますか。

山本議員。

１３番（山本　重行君）

私はまず、最初に言われました、今回骨格予算なんですね。にもかかわらず、政策的予算が、例えばベトナムのダナン大学のスポーツ連携事業とか、あるいは欧州の剣道チームとの交流事業とか、そういったものが含まれておりますし、片や先ほどもありましたＮＯＤＡレーシングの関係でございます。以前減額の修正予算が出たときには、市との約束であり、信頼関係を損なう、そこまで言われてるわけですね。それにもかかわらず今回1,000万円組んでおられない。これは非常におかしいと思います。骨格予算と言いながら、この点はおかしい。

次に、武蔵の里関連施設、愛の村パークの管理運営の委託料でございます。6,333万3,000円、以前委員会であったり、議会であったり、愛の村パークの改修後は1,000万円減額するんだと、そういうふうなことを答弁をされております。しかるに、今回同額が計上されてるわけです。こういったことはまさに議会軽視そ

のものではないでしょうか。ということで、私は反対の討論とします。

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

反対討論ございますか。

岡野議員。

４番（岡野　鉄舟君）

まず、平成29年10月25日付の30年度の予算編成方針なんですが、これはホームページをずっと探しておったんですけども、なくて、たまたま情報公開請求をされたものの中をクリックしますと、出てきました。それを年が明けて引っ張り出したわけなんですが、ここをまずどうも不思議な感じがしております。なぜ総務部長名なのかなという、本来市長名でなされてもいいんかなと、仮に総務部長が威厳がないというわけじゃないんですが、やはり憲法たるものはやはり市長で依命通達で出されるものかなという印象を受けております。その型式は別といたしまして、るる二、三の議員がおっしゃられましたように骨格予算と通年予算の区分がもう極めて不十分です。これは額の多寡を問いません。具体的にその里山公園の話を岩江議員がおっしゃられましたが、ここの通達の中の３ページに３の予算編成の留意事項の中にはっきり書いてあるわけです。美しい里山公園については順次区域を広げ、云々かんぬんで、必要な維持管理費用を計上することとあるにもかかわらず、中山委員長の報告にありましたように、ないというふうに、これなぜかということです。整合性がないということは額の多寡を問いませんが、極めて遺憾であります。

そして、この予算編成をずっと見ておりますと、例えば３の予算編成の留意事項で何々を検討することとか、検討するぐらいならいつでもできますよ。これを何で当初、骨格予算で、選挙を控えとるとはいえ、もう少しアクティブな表現でなぜできなかったかなというふうに極めて遺憾に思います。

そして、次の項目ですが、４の予算編成の基本事項の中の第６番目に特別会計に関する事項ということで、安易に一般会計からの繰入金をやっちゃなりませんよと、こういうふうに言ってるにもかかわらず、繰り出しがなされているという、全体の感じ、予算編成方針とその当初予算との整合性の問題を感じております。

そして、個別申し上げると、湯郷Ｂｅｌｌｅ事業の2,200万円です。このことにつきまして私は昨年一般質問でいたしました。平成28年は1,600万円であって、29年は倍の3,200万円になっていたわけですが、今回は総務委員会を傍聴しておりましたが、2,200万円で、内訳は県が300万円、市が1,900万円であります。何を私が腑に落ちないかと申しますのは、補助金を出す側であるにもかかわらず、Ｂｅｌｌｅの実態を把握していないと、会員、組織、あるいは営業活動という自助努力をしてるのかなという、そういう思いが当然です、補助金を出す側としては。私が湯郷を歩いておりましても、会費を取りに来ないと、例えばそういう話を昨年末聞いてるわけです。１人3,000円ですが、団体は１万円ですが、一人でも多くの自助努力をするというのが一般社団法人になった法人格を取得した団体としての当然の務めであります。そこに骨格であるとはいえ、なぜ2,200万円を出すのかなという、このあたりのことが傍聴しておっても聞かれなかった。

そして、御承知のように私もＢｅｌｌｅのファンでありました。創設当時のＧＭも知っておりますし、本田さんも知っておりますし、宮間さんもよく話をしてました。ちょうどスロベニアのキャンプインがあったときに私も県におりまして、300万円を出すということに私の知り合いが絡んでいたわけでございますが、御承知のように作陽の女子高校はこのたびナンバーツーになりました。そして、美作市と、それから湯郷Ｂ

ｅｌｌｅと、それから作陽高校とのトライアングルの中でこの美作地域の女子サッカーを普及するという一つの理想郷のようなものを感じておったんですが、私の耳に入ってまいりますのは、ちょっとそれがないんじゃないかなと。例えばこういう話もあります。つまり一般社団法人である湯郷Ｂｅｌｌｅのあり方というものをもう少し補助金を出す側としてしっかり実態把握をした上で支援をしっかりしていくべきだろうと思いますが、その辺のことが私のところには入ってまいりません。

そして、その次の３番目ですが、介護保険の特別会計への繰出金でございます。これは私が条例のところで申し上げましたように条例と予算は表裏一体のものです。この3,800万円についてはだめです。

そして４つ目、武蔵の里、愛の村管理事業の、これはるる皆さんがおっしゃられましたが、やはり1,000万円の減額は約束事として指定管理に乗せるべきではありません。

そして５つ目、最後でございますが、ショウワコーポレーションへのふるさと融資2,100万円でございます。元金は企業であるショウワコーポレーションが返済されるんですが、その利子部分につきましては、75％が交付税補填補償すると言われながら、これはるるこれまでの起債の元利償還に対する補填と同じように国が非常に財政状況が悪くなっておる中で、国が風邪を引けば美作市は風邪どころかインフルエンザになります。こういった状況の中で利子部分の負担というものがあります。これは滋慶学園に対する支援でございますが、箱物に対することがよくないと私が申し上げましたとおりこれについても反対でございます。

以上、重立ったものを申し上げて、当初予算に私は反対であります。

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

反対討論ございますか。

岩﨑議員。

３番（岩﨑　清治君）

私は反対の立場で申し上げます。

まず１点は、先ほどから少し出てますけれども、骨格予算という言葉が出てます。今回の骨格予算で市長の提案のそのものについては、骨格予算以外のところ、通年をするベースのもの、それから各地区の希望の大きいものについては乗せると、これまさに骨格予算じゃないんですよ。通年予算です。予算については、皆さんは御存じでしょうけど、通年予算と骨格予算と暫定予算がございます。その中で、いいところは骨格予算、自分の都合のいいところは。都合の悪いところは通年予算で骨格予算に紛れ込ませてる。もう少し言葉を考えていただいて制度をしていただきたいなと。市長選挙がある場合については、どこの市町村も骨格予算という部分で政策的な経費を使う。その中で特に今回私が反対してるのは介護保険の繰り出し、繰り入れの関係です、一般財源の。これはまさに今回条例を出してつくってる。これは政策的以外のものでは何物でもないというふうに思いますし、新しい部分もあるし、なおかつ対前年に比べて非常に金額が伸びてるもんもあります。これは全て骨格予算とは言いません。

先ほど言いましたけれども、介護保険の条例のときで反対をいたしましたけれども、介護保険料を下げる方法は２通りあると思います。１つは、介護保険料のサービスを、例えば施設から在宅、在宅から介護保険を使わない、つまりサービスそのものを考え方を変えるという方法があります。もちろん施設の参酌基準というのがあるんですけど、その部分を抑える方法もありますし、いろいろな方法があると思います。もう一つは、一般会計の中でなぜ反対するかというたら、介護保険に直接入れずに……。

議長（鈴木　悦子君）

ちょっと休憩します。

午後３時27分　休憩

午後３時29分　再開

議長（鈴木　悦子君）

休憩前に戻り会議を開きます。

３番（岩﨑　清治君）

介護保険の部分で料金を下げようと思うと、元気な老人をつくればいいわけですね。介護保険へ直接入れずに一般事業の中で同じお金を使って、例えば保健師の状況とか、介護予防事業をどんどんすれば、時間的にはかかると思いますけれども、安くする方法があると思います。その２通りの方法があるのに直接的な、国が絶対だめですよと言っているのに、やる、国に対してけんかを売ってると一緒ですから、こういうことについては反対である。

もう一点は、愛の村の指定管理料の減をされなかった。委員会でもさんざん言ったんですけれども、６月の一番最初の予算を上げられたときに業者から提案があって、市においては審議をして、そのときについては1,000万円下げますよ、向こうから言われた。それが今回の予算、これは骨格予算でも相手が言われたら下げるべきだと思うんです。下げれます。債務負担をしてあっても、それ以上は出せませんけど、下げれます。こういう中をされてない。言い出せばたくさんあるんですけど、時間の都合もありますので、その３つを含めて反対だというふうに表明をいたします。

議長（鈴木　悦子君）

金谷議員、携帯電話の電源はきっちり切っておいていただくようにお願いします。大変迷惑になりますので、よろしくお願いします。

次に、賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

反対討論ございますか。

岡本議員。

１０番（岡本　泰介君）

反対の意見がたくさん出たので重複するかもわかりませんけれども、私も反対討論をさせていただきます。

まず、介護保険の3,800万円の繰り入れは私も反対です。理由は先ほどの条例のところで述べましたが、基金もあるし、こんなことをする必要はない。まして６期は取り過ぎていた、もらい過ぎていたということでございますので、このくらい下がるのは当然だというふうに私は思います。ですから、繰り入れる必要はない、そのように思います。

それから、愛の村の1,000万円、先ほどから出ておりますけど、これも市長はこれはもうほとんど約束みたいな話だったんです、委員会では。それを守られてない。そして、これは骨格予算だと強弁される。これは私はもう何としても理解しがたい。どうしてもこれはいけないと私は思います。当然1,000万円は下げて計上されるべき予算であったと思います。

それから３点目としては、ベトナム関係です。ベトナムに対して、ダナン大学に対して日本語教師を派遣

する予算が410万円、ベトナム国交流事業で339万円、合わせて700万円の計上がされております。これは私はこんな小さな町がする事業ではないと思います。この予算に対して私は反対いたします。

それから、同じくベトナムのサッカーチームを養成する事業です。この予算もベトナム大学、ダナン大学とのスポーツ連携推進ということで、予算を全部上から下まで見ますと、1,060万円、非常に大きな金額が計上されております。この予算もこのような小さい町でする事業では私はない、こんなことをするのなら、もっと市民に目を向けた事業をするべきであるという思いがいたしております。

こういったことでこの当初予算に対して私は反対いたします。

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございますか。

山本議員。

１１番（山本　雅彦君）

賛成の立場で討論いたしますが、先ほど補正予算の折にも申し上げましたけれども、今回の平成30年度の一般会計の予算でございますが、確かに議論のあるように骨格予算だと、あるいはそうは言えないんじゃないかという議論もあります。また、現実にこの予算書を見てそう感じているところは私なりにもあるわけであります。例えば、ちょうど２年前だったと思いますけども、あの告知放送端末の更新時期を迎えるに当たっていろんな議論があったわけです。そして、そのときの予算の説明で約14億円かかると、そういう話もあったわけです。これはとんでもない話だと。これが多分事業としてなされたのが平成18年か19年ごろだったというふうに思うんですね。そのときはちょうど私も議会に出ておりませんでしたので、詳しいことはわかりません、その当時議員だった方は多分おわかりだったろうと思うんですけど。それで、そういったことじゃだめじゃないかということで、何か方法ないのかということで、一生懸命、担当課も、あるいは担当部も努力されたり、また議員としてもいろんなそれぞれが協力をされた。その中において今年度予算案では約５億5,000万円の予算が計上されている。実に約３分の１になったわけであります。こういった努力も見られるわけであります。

また、この新年度予算案については、この予算の中でこの平成30年度にこういった仕事をしていこうというような事業者の方、あるいは各種団体の方いらっしゃって、この予算の成立が即自分たちのこの30年度についてははね返ってくるというような方々もいらっしゃるかもしれない。そういったことも考えてみると、確かに今議論のある骨格、あるいはそうではないという議論はあるのは承知しておりますが、私自身はこの約193億円の予算についてはここで成立を見て、そして平成30年度にしっかりとこれ生かしていただきたい。また、その折々に補正とか、いろんな予算、あるいは財政の審議をすることがあろうかと思いますけども、今回のこの当初予算を踏まえた上でしっかりと今後においても意見は申し述べさせていただきたいし、また場合によっては修正をかけていくというようなことも視野に入れながら取り組んでまいりたい、また様子を見ていきたいというふうに思っております。

したがって、今回のこの平成30年度の予算については、私は賛成であります。

以上です。

議長（鈴木　悦子君）

次に、反対討論ございますか。

倉地議員。

６番（倉地　重夫君）

私も先ほどから出ております商工費、ショウワコーポレーションの倉庫棟の建設のためのふるさと融資の

貸付金2,100万円、１人以上の雇用が創出できる、見込めるということでこれを予算化されているわけでありますが、一企業のこういった倉庫を建設するための融資、貸付金が適正なものかどうかという思いで、この予算に対して反対します。

それからもう一点、民生費の生活保護の扶助費ですね、昨年就労支援で対象者が減ったということで、昨年１億2,000万円の減額修正がなされたわけですが、それに基づいて今年度も8,800万円からの予算が前年比で減額になっておるわけですね。これ窓口での支給制限につながるんじゃないかと、だんだん市民の皆さん高齢化されて、仕事につきたくても健康上とか、いろんな能力上つけない人を無理やり仕事につかさせるというか、そういうことにつながるんじゃないかという危惧を持って、これも含めて反対いたします。

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、反対討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

それでは、討論がないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第34号「平成30年度美作市一般会計予算」について、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立８名〕

議長（鈴木　悦子君）

可否同数であります。よって、本案については、私議長は可決と採決いたします。

続きまして、議案第35号「平成30年度美作市国民健康保険特別会計予算」について、討論に入ります。

反対討論はございますか。

岩﨑議員。

３番（岩﨑　清治君）

同じことを言うんですけれども、今回の国保の会計については、制度改正という一つの問題がございますけれども、それを含めましてもこの予算では私たちの会計を任せることができない。よって、この予算については反対とします。

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、反対討論ございますか。

岡野議員。

４番（岡野　鉄舟君）

議案第８号の税条例の改正について私反対をいたしました。条例と予算は表裏一体のものでございます。そういった条例をベースにつくられた予算でございますので、私は反対をいたします。

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

反対討論ございますか。

倉地議員。

６番（倉地　重夫君）

私は一般質問でもって１人２万円の国保税の引き下げを要求しております。その立場からこれに反対いたします。

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございますか。

尾髙議員。

１４番（尾髙　誉久君）

何度も言いますけど、国の流れとしてこれを県統一ということで、３方式、４方式、または所得合計額で所得割合を決める、扶養を除いた課税標準額で決めないという、いろんな問題点はありますが、国の大きな方針としてこのことに取り組んでいるということでございますし、国民のための健康、それが第一でございます。このものの予算をつくって美作市民の健康を願う１人として賛成いたします。

議長（鈴木　悦子君）

次に、反対討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

討論がないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第35号「平成30年度美作市国民健康保険特別会計予算」について、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立多数〕

議長（鈴木　悦子君）

賛成多数。よって、議案第35号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第36号「平成30年度美作市介護保険特別会計予算」について、討論に入ります。

まず、反対討論ございませんか。

岩﨑議員。

３番（岩﨑　清治君）

たびたびで同じことを３回言ってるみたいなんですけれども、国に対して美作市がけんかを売るような予算は認めるわけにはいきません。

以上によって反対です。

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

反対討論ございますか。

岡野議員。

４番（岡野　鉄舟君）

条例のところでも反対いたしました。先ほど岩﨑議員が言われましたように国に対してけんかをするようなことはやっちゃいけないと。そして、私の場合は特別に担当課長と話をしておりまして、岡野さん、不適切よと、ここまで約束をしております。したがって、県にけんかを売るようなことはやったらいけません。そういうことで反対をいたします。

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、反対討論ございますか。

岡本議員。

１０番（岡本　泰介君）

3,800万円の繰り入れが入っている予算書には反対です。

議長（鈴木　悦子君）

賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

反対討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

討論がないようでございますので、討論を終結し、採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第36号「平成30年度美作市介護保険特別会計予算」について、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立多数〕

議長（鈴木　悦子君）

賛成多数。よって、議案第36号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第37号「平成30年度美作市簡易水道特別会計予算」について、討論に入ります。

まず、反対討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

別に討論がないようでございますので、終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第37号「平成30年度美作市簡易水道特別会計予算」について、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（鈴木　悦子君）

全員賛成。よって、議案第37号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第38号「平成30年度美作市住宅新築資金等貸付事業特別会計予算」について、討論に入ります。

まず、反対討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

別に討論がないようでございますので、終結いたします。

これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第38号「平成30年度美作市住宅新築資金等貸付事業特別会計予算」について、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（鈴木　悦子君）

全員賛成。よって、議案第38号は委員長の報告どおり可決されました。

次に、議案第39号「平成30年度美作市公園墓地事業特別会計予算」について、討論に入ります。

反対討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

討論がないようでございますので、終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第39号「平成30年度美作市公園墓地事業特別会計予算」について、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（鈴木　悦子君）

全員賛成。よって、議案第39号は委員長の報告どおり可決されました。

次に、議案第40号「平成30年度美作市都市と農村の交流施設特別会計予算」について、討論に入ります。

まず、反対討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

別に討論がないようですので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第40号「平成30年度美作市都市と農村の交流施設特別会計予算」について、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（鈴木　悦子君）

全員賛成。よって、議案第40号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第41号「平成30年度美作市老人保健施設事業特別会計予算」について、討論に入ります。

まず、反対討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

討論がないようですので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第41号「平成30年度美作市老人保健施設事業特別会計予算」について、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（鈴木　悦子君）

全員賛成。よって、議案第41号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第42号「平成30年度矢田茂・原田政次郎・福田五男奨学基金特別会計予算」について、討論に入ります。

反対討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

討論がないようですので、討論を終結し、採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第42号「平成30年度矢田茂・原田政次郎・福田五男奨学基金特別会計予算」について、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（鈴木　悦子君）

全員賛成。よって、議案第42号は委員長の報告どおり可決されました。

次に、議案第43号「平成30年度美作市後期高齢者医療特別会計予算」について、討論に入ります。

反対討論ございませんか。

岡野議員。

４番（岡野　鉄舟君）

委員長報告に対して質問をさせていただきました。確かに予算は見積もりでございますが、新聞報道がなされた２月14日、常任委員会での近々ではございますが、やはり情報を密にして、決算でどうなるかわかりませんが、やはり一番直近の情報をベースにしながら当初予算というのはつくられるべきだろうと思いますが、そういったことができておりませんので、私は反対をいたします。

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

反対討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

討論がないようでございますので、終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第43号「平成30年度美作市後期高齢者医療特別会計予算」について、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立多数〕

議長（鈴木　悦子君）

賛成多数。よって、議案第43号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第44号「平成30年度美作市水道事業会計予算」について、討論に入ります。

まず、反対討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

別にないようですので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第44号「平成30年度美作市水道事業会計予算」について、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（鈴木　悦子君）

全員賛成。よって、議案第44号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第45号「平成30年度美作市病院事業会計予算」について、討論に入ります。

反対討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

別にないようでございますので、討論を終結し、採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第45号「平成30年度美作市病院事業会計予算」について、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（鈴木　悦子君）

全員賛成。よって、議案第45号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、議案第46号「平成30年度美作市下水道事業会計予算」について、討論に入ります。

まず、反対討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

別にないようでございますので、討論を終結し、採決を行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第46号「平成30年度美作市下水道事業会計予算」について、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（鈴木　悦子君）

全員賛成。よって、議案第46号は委員長の報告どおり可決されました。

続きまして、請願第１号「林野公民館建て替えについての請願書」について、討論に入ります。

まず、反対討論ございますか。

岡野議員。

４番（岡野　鉄舟君）

実は、恥ずかしいことなんですが、文教厚生委員会では担当常任だったんですが、賛成をしておりましたが、大事なことを失念をしておりました。それは何かと申しますと、公共施設等管理計画というのは私は一般質問でもいたしました。２回しておりますが、やはり325余施設ある中でどことどこをどうするという全体計画ができてからこそ、計画的に修繕をしたり、建てかえをしたりすべきだろうと思います。そういった意味合いで確かに雨漏りをすると、それは直さなければいけないんですが、この請願にあるように建てかえというところまでは行くんじゃなくて、やはり修繕という緊急的な対応で対応すべきであろうと思いますので、建てかえという請願には私は反対をしておくべきだろうと思います。

以上です。

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございますか。

尾髙議員。

１４番（尾髙　誉久君）

この林野公民館は私が詳細図をかいたもんでございますが、非常に既存の公民館のところに建って、俗に鼻ぺちゃというか、前の駐車場が本当にない、あそこには初代の水嶋計次郎町長の銅像がありますけど、非常に林野の町が一つの活性化する起爆剤としてこの公民館は新たな土地を求めて広い駐車場をちゃんと確保した上で建てるべきだと、そのことが皆さんの気持ちの中に、また林野高校にも私は学生の気持ちの中にもつながっていくんじゃないかなと、どんどん前を向いて行かなければ、下を向いてぐちぐちと言っとっても始まらないんで、もっと前向いて行きましょう。そういうことです。

議長（鈴木　悦子君）

反対討論はございますか。

岡本議員。

１０番（岡本　泰介君）

美作市内に公民館が私幾つあるか、ちょっとまだ調査不足で知らないんですけど、公民館というものはほかにもたくさんあると思います。そして、古いもんもあれば、新しいもんもあって、その中で林野公民館というものがどのような位置づけになるかというのがちょっと私まだはっきりしておりません。私は公民館を建て直すのであれば、古いものも十分考慮してあげて、その地域のためにやったらいいんじゃないかなという思いがあります。林野公民館だけが請願で建てかえられて、古い公民館がおざなりになるということがあってはならない、私は思っております。こういった請願が通って、こういうことがもし建てかえられるようなことが起これば、もう請願合戦ですよ。もう議員はみんな請願でだっだだっだ出して、それは収拾がつかなくなります。ですから、私は計画的に、先ほど４番議員が言われたように公共施設の管理計画に基づいて公民館も古いものから順次建て直していくという方針を立てなければならないと私は思います。そういった意味でこの請願は無理があるという思いでございますので、私は反対いたします。

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございますか。

中山議員。

５番（中山　忠明君）

林野公民館建てましてかなりの年数たっております。現在林野公民館、林野地区には避難所がありません。この建物、公民館も耐震になっておりません。そういうとこを避難所にするというのであれば、これは何か地震とか、そういう部分について安心して避難ができるという地域住民の考えを大事にしていただきたいと思います。そういうことで賛成でお願いいたします。

議長（鈴木　悦子君）

次に、反対討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

賛成討論ありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

別にないようですので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は採択です。

請願第１号「林野公民館建て替えについての請願書」について、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立多数〕

議長（鈴木　悦子君）

賛成多数。よって、請願第１号は委員長の報告どおり採択されました。

続きまして、陳情第１号「ＮＨＫ第一及び第二放送及び山陽放送のＡＭラジオ電波をＦＭ電波に変換してケーブル回線に乗せることに関する陳情書」について、委員長から本案については、会議規則第111条の規定により閉会中の継続調査との申し出がありますので、継続調査の申し出についてお諮りいたします。

陳情第１号「ＮＨＫ第一及び第二放送及び山陽放送のＡＭラジオ電波をＦＭ電波に変換してケーブル回線に乗せることに関する陳情書」について、閉会中の継続調査とすることに賛成の方の起立を求めます。

〔起立多数〕

議長（鈴木　悦子君）

賛成多数。よって、陳情第１号は継続調査とすることに決定いたしました。

続きまして、陳情第２号「「ＮＨＫ第一及び第二ラジオ放送」のワイドＦＭ放送の実現と、音声告知放送端末機の性能対応確保に向けての要望書」について、討論に入ります。

反対討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

別に討論がないようですので、討論を終結し、これより採決を行います。

本案に対する委員長の報告は採択です。

陳情第２号「「ＮＨＫ第一及び第二ラジオ放送」のワイドＦＭ放送の実現と、音声告知放送端末機の性能対応確保に向けての要望書」について、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立多数〕

議長（鈴木　悦子君）

賛成多数。よって、陳情第２号は委員長の報告どおり採択されました。

続きまして、陳情第３号「山陽放送（ＲＳＫラジオ）のワイドＦＭ放送開始に備えての陳情書」について、討論に入ります。

まず、反対討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

次に、賛成討論ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

討論がないようですので、討論を終結し、採決を行います。

本案に対する委員長の報告は採択です。

陳情第３号「山陽放送（ＲＳＫラジオ）のワイドＦＭ放送開始に備えての陳情書」について、委員長の報告どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立多数〕

議長（鈴木　悦子君）

賛成多数。よって、陳情第３号は委員長の報告どおり採択されました。

日程第２　　議案第４７号「美作クリーンセンター最終処分場建設工事請負契約の締結について」

議長（鈴木　悦子君）

続きまして、日程第２、議案第47号「美作クリーンセンター最終処分場建設工事請負契約の締結について」を議題とし、市長より提案説明を求めます。

市長。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

御苦労さまです。

ただいま御上程になりました議案第47号「美作クリーンセンター最終処分場建設工事請負契約の締結について」、御説明をいたします。

この２月５日でございますが、本件請負事項に関しまして３社による一般競争入札が行われまして、開札の結果、岡山県真庭市の梶岡建設株式会社が税込みで５億3,400万円余において落札をしたものでございます。

本工事につきましては、埋立面積が800平方メートル、そして埋立容量が3,400立方メートル、地上１階鉄骨づくり、地下１階鉄筋コンクリートづくりの覆い型、つまり屋根がついた形の最終処分場及び鉄骨平家建ての浸出水調整、つまり地下水等がきちっと管理される施設ということで安全性の高いものでございます。

〔「ないんじゃけど、資料が」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

26日にお配りをしております。

市長（萩原　誠司君）

よろしゅうございますか。

続けます。

契約の締結に当たりましては、御承知のとおりの金額でございますので、地方自治法第96条第１項第５号並びに美作市の議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例の第２条の適用がございまして、議会の議決が必要でございます。

以上、議案について説明をいたしましたので、御審議のほどよろしくお願いをいたします。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

お手元にお持ちでない方がちょっとあるようですので、ここで休憩をして、配らせていただきます。

10分間休憩します。

午後４時01分　休憩

午後４時11分　再開

議長（鈴木　悦子君）

休憩前に戻り会議を開きます。

提案説明が終わりました。

これより質疑を行います。

質疑はございますか。

岡本議員。

１０番（岡本　泰介君）

今回落札ということでよかったなと思っておりますが、何か過去私ははっきりは聞いてないんですけど、過去３回か４回か、この入札が不調に終わったということを聞いておりますが、不調といったらそういう言葉が適当かどうかわからないんですけど、落札者がいなかったということで、そういった原因は一体何が原因だったのだろうかなという思いがあって、その辺について執行部の方がどういう思いを持たれてるかをお聞きしたいと思います。

議長（鈴木　悦子君）

環境部長。

環境部長（妹尾　昌弘君）

失礼をいたします。

過去に平成27年に設計施工一括入札で行いましたが、参加者がございませんでした。その後も本年度になってから一般競争入札で公告をいたしましたけども、参加者が１回目は全然なくて、２回目は１社でございました。これの原因につきましては、大手となっておる業者が東京オリンピック、東北の震災等の大きな工事が多数全国から出ておる関係上、本市における発注の案件が５億円程度ということで、規模的になかなか大きなものではないので、参加する魅力がなかったものではないかというふうに考えております。

〔10番岡本泰介君「よろしい」と呼ぶ〕

議長（鈴木　悦子君）

いいですか。

ほかに質疑ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

質疑がないようでございますので、質疑を終了いたします。

本件は、美作市議会申し合わせ事項及び会議規則第37条第３項の規定により、委員会付託を省略し、直ちに本会議において採決することに賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（鈴木　悦子君）

全員賛成。よって、議案第47号は委員会付託を省略し、直ちに会議において採決することに決定しました。

これより討論を行います。

反対討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

賛成討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

討論がないようでございますので、討論を終結し、これより採決を行います。

お諮りします。

議案第47号「美作クリーンセンター最終処分場建設工事請負契約の締結について」、本案に賛成の方の起立を求めます。

〔起立全員〕

議長（鈴木　悦子君）

全員賛成。議案第47号は原案のとおり可決されました。

以上で今議会の日程は全て終了いたしました。

この際、萩原市長より御挨拶をお願いいたします。

市長（萩原　誠司君）〔登壇〕

議長のお許しをいただきました。

平成30年３月定例会の閉会に当たり、恒例に基づきまして会期中の動きを振り返りながら御挨拶を申し上げます。

まず、ＮＨＫのど自慢の美作市開催につきましては、去る２月21日に正式に決定をされ、表に出たわけでございます。当市におけるＮＨＫのど自慢の開催は旧作東町でたしか平成５年に開催をされております。そのときから25年ぶりの開催ということでございますし、また聞くところによれば岡山県内では来年度につきまして当市のみというふうに理解をいたしております。開催日につきましては、ことし平成30年７月８日の日曜日、そして会場は宮本武蔵顕彰武蔵武道館が予定をされてございます。こののど自慢への出演や観覧などで市民の皆様に大いに楽しんでいただきたいと思っておりますし、また当市の魅力について全国に発信できる、そういう機会になるものと期待をいたしておるところでございます。

次に、ツキノワグマ対策でございますけれども、この件につきましては、かねてより当市について捕獲して処分をする許可権限を移譲してほしいということを申し上げてまいりました。住民の方々の強い要望に基づくものでございます。これにつきまして、この４月から当市に権限の移譲をするという決定が岡山県においてなされ、そして関係条例の改正案が現在開かれております県のほうの定例議会に提出をされております。平成29年にツキノワグマが集落の近くに何度も何度も繰り返し出没をいたしまして、捕獲許可がされた事案は市内で14件でございましたが、実際に捕獲できたのはわずか２件となっております。この要因は申請手続に時間がかかることでしたが、頻繁な出没で人身の被害も危惧される中で、権限移譲によってスピーディー、素早い対応が可能となり、捕獲の確立もそれ相応に向上するものというふうに考えております。

次に、作東のメガソーラー工事につきましては、地元の方々からいろいろの御苦情が届いておりまして、殊にその中で最近発破作業が行われているわけでございますが、突然の爆発だとか、えらい大きな音がするんだということで不安を感じるという声を頂戴しておりまして、この対応の一つとしまして、市の告知放送を活用しまして、会社から入手をする作業予定時間、例えばあすは何時ごろに発破作業がどの辺でありますということを近隣の地域の方々に情報提供を行うということで、たしか28日から開始をさせていただいたわけでございます。これらも含めまして本件につきまして御地元のさまざまな問題につきましては、私どもとしては住民の方々の立場に立って工事関係者にしっかりと要請をする、あるいは問題提起をするという方向でございますので、御遠慮なくお申し越しをいただきたいと思います。

こういった動きでございますが、この際、この４年間いろいろお世話になりまして、さまざまなことがございました。議員の方々を初めとして多くの方々の協力のもとで美作市の未来のために重要な案件を進めてまいりました。その中で特に強く感じていることを１点だけ申し上げたいと思いますが、やはり非常に難しい状況にある消滅可能性自治体ということでございますので、大胆な動きというものが当然必要でございます。一方で、人口問題というのを考えると、大胆なことだけではなくて、小さなこと、それぞれの地域の住民の方々が困っていることにもきめ細かに目を向けさせていただきながら、あるいは耳を傾けながらやっていく、つまり大きな改革をする一方で小さいことの積み上げをきちっとやっていく、これが市政の基本なんだなということを強く感じさせていただいたわけであります。

この基本方針というものは今後も継続をしていく、そのために選挙がありますんで詳細なことは余り申し上げられませんけども、市当局として30幾つかある自治振興会、これを単位としてこれまでどおり丹念な情報収集、あるいは意見の交換というものを継続をしていかなければいけないだろうなと強く感じているところでございます。

同じように感じたことでございますけれども、それぞれ英田から東粟倉、あるいは勝田から作東、そしてこの中心である美作、いろんな特徴ございますけども、その特徴にはやっぱり差があります。いいところがいっぱいある。けれども、そのいいところも勝田にあるけれども美作にない、美作にあるけれども東粟倉にないとか、いろんなことがある。逆にこれをあわせますと、毛利元就ではございませんけれども、３本の矢というのがありますけど、６本の矢というものをしっかり合わせることが必要であり、そうするとその強さというものは倍増どころか、３倍増、４倍増するわけでございます。そうした気持ちが次第に市民の方々の中に育ちつつあるということも強く感じているところでございまして、この動き、この気持ちというものを市政、あるいは議会活動の中でも大切に今後ともしていかなければいけない。林野公民館の話がございましたけども、これは林野だけの問題ではなくて、全市のいろんな意味での福利厚生にもつながるんだというような気持ちを市民の方々も恐らく持ちつつございます。その点も含めて我々もきちっと全市のことを常に考え、その中での個々の動きを結びつけていくという努力をしてまいりますので、よろしくお願いを申し上げておきたいというふうに思っております。

風邪の季節がほぼ終わった、春一番が吹きました。一方で花粉症みたいなものもこれからあるわけでございます。それぞれ体には気をつけながら新年度へ向けての活動に励むようにお願いします。

また、年度がわり、子どもたちの卒業シーズン、あるいは入学のシーズンになるわけであります。きょうの新聞などによりますと、林野高校も久しぶりにほぼ定員ばっちりということが出て、これ何を意味するかというと、市外に流出する数が減っているということでもあるわけであります。林野高校の動きも実は林野高校単独ではありません。私ども美作市との共同共栄ということでなった部分もあるわけであります。明るい未来というものを信じながら、あるいはそれに向けて努力をしながら新年度を迎えていただきますように御祈念申し上げて、本議会最後の御挨拶にさせていただきます。

また、４年間いろいろお世話になりまして、心から御礼を申し上げます。どうもありがとうございました。〔降壇〕

議長（鈴木　悦子君）

平成30年第１回３月美作市議会定例会の閉会に当たり、私からも一言御挨拶を申し上げます。

皆様には１月31日開会以来、本日までの31日間にわたり御熱心に御審議を賜り、適切な御決定によりここに全議案を議了し、閉会する運びになりました。

市長を初め、執行部各位におかれましては、今定例会において成立いたしました諸議案の執行に当たりま

して、各委員長報告、今期中に発言されました各議員の御意見を尊重していただき、市政発展、向上のためにより一層の御尽力をいただきますようお願いを申し上げまして、私からの御挨拶といたします。

お諮りをいたします。

今定例会の会議に付された事件は全て終了いたしました。よって、会議規則第７条の規定により、本日をもって閉会したいと思いますが、これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（鈴木　悦子君）

異議なしと認めます。

以上をもちまして平成30年第１回３月美作市議会定例会を閉会いたします。

ありがとうございました。

午後４時24分　閉会

上記会議次第は事務局長の記載したものであるが、その内容が正確であることを証するためにここに署名します。

平成30年３月２日

美作市議会議長　　鈴　木　悦　子

会議録署名議員　　金　谷　のり子

会議録署名議員　　岡　本　泰　介

その他資料

一般質問【平成３０年第１回（３月）美作市定例会】

通告順番	氏　　名	項　　目	質　問　の　要　旨	質問の相手	頁
1	16番　日笠一成	1.旧県立江見商業高等学校跡地等を活用した特別な支援を必要とする子供の支援と地域の活性化対策について	①学校法人日本体育大学の誘致（進出）計画の進捗状況と今後の取り組みのプロセスについて	市　　長 担当部長	40
		2.議会の生中継放送及び再放送について	①放送の形態について	市　　長 担当部長	42
2	４番　岡野鉄舟	1.美作市公共施設等総合管理計画について	①当管理計画の現在の進捗状況はどうか ②「公共施設」と「等」の内容、箇所数、面積はいくらか ③②の内容を「公共施設」と「公共施設以外」に区分した場合、２区分につき、「更新の見込期間」は何年と設定し、また「更新費用」はいくらか ④２区分を修理、更新しようとした場合に見込まれる財源不足額はいくらか また、この財源不足をクリアするためには、どのような作業が必要か ⑤「公共施設等」には、上水道、下水道、簡易水道、大原病院の整備を含むのか ⑥上水道、下水道、簡易水道、大原病院について、公共施設等の整備と同じ更新期間を設定した場合、更新費用はどのくらいと考えられるのか ⑦上水道、下水道、簡易水道、大原病院に係る、其々の減価償却累計額（管理計画作成時点現在）はいくらか また其々について、直近３カ年平均で１年当たりの一般会計からの繰出金はいくらか	総務部長 総務部長 総務部長 総務部長 環境部長 保健福祉部長	43
		2.美作市の財政力指数について	①財政力指数はどのように計算され、また、どのような意味を持つのか ②平成２８年度の数値 ③２７市町村に占める位置と県平均	総務部長	51
		3.美作市の経常収支比率について	①経常収支比率はどのように計算され、また、どのような意味を持つのか ②平成２８年度の数値 ③２７市町村に占める位置と県平均	総務部長	53
		4.美作市の実質公債費比率について	①実質公債費比率はどのように計算され、また、どのような意味を持つのか ②平成２８年度の数値 ③２７市町村に占める位置と県平均	総務部長	55
		5.美作市の将来負担比率について	①将来負担比率はどのように計算され、また、どのような意味を持つのか ②平成２８年度の数値 ③２７市町村に占める位置と県平均	総務部長	57
		6.美作市の自主財源比率について	①自主財源比率はどのように計算され、また、どのような意味を持つのか ②平成２８年度の数値 ③２７市町村に占める位置と県平均	総務部長	59
		7.美作市の財政は大丈夫だろうか	①上記５つの指標から判断して、美作市の財政状況をどう診断するか ②公共施設等管理計画の実施プランが、未作成の状況下にどのようなことが予想されるか また、考えなければならないか	市　　長	63

通告順番	氏　　名	項　　目	質　問　の　要　旨	質問の相手	頁
		8.人口一人当たりの教育費の類似団体比較について	①美作市と類似団体の教育費（直近３カ年間）の決算数値はどのようになっているか ②この現状をどのように分析しているか	教育長	67
3	12番　萬代師一	1.美作市スポーツ医療看護等専門学校について	①生徒数及び職員体制について ②建設に係る総事業費及び美作市の補助金額について ③市補助金の財源及び実質負担額について	市長 企画振興部長	69
		2.財政の総点検「第４版」について	①電力料金の節減について ②公共施設の統廃合等について ③今後の収支見込みについて	市長 総務部長	75
4	13番　山本重行	1.高齢者の移動手段の確保について	①その後の利用状況について ②生活協同組合方式はどこに問題があったのか	市長 部長	78
		2.ベトナムとの友好関係の問題点について	①ホーチミン像は今も反対の意見が多い、どうするのか ②ベトナム人・留学生をめぐり問題が指摘されている、どう考えているか	市長 部長	80
		3.議会との関係について	①庁舎の位置に関する議論のなかで、議会の判断に従うと言いながら、再議とかの動きをされたが	市長 部長	83
		4.美作市の学校誘致の施策について	①滋慶学園、日本体育大学の高等部の支援学校、自衛隊の体育学校等、学校の誘致になぜこだわるのか	市長 部長	85
		5.日体大高等支援学校の誘致施策について	①期成会等の結成に向けどのような内容でどこまで、進めているのか ②議会には報告がないが、やまゆり苑の例もあるが ③バレンタインパークは多くの市民の利用があるが ④支援学校の組織体制等について	市長 部長	88
5	11番　山本雅彦	1.高速路線バスについて	①市内の高速バス、夜行バスの利用状況について ②鳥取県倉吉駅発、東京行きの夜行バスについて	市長 担当部長	97
		2.ＪＲ姫新線・智頭急行鉄道の利用について	①利用状況について ②ＪＲ佐用駅のポイント切替について	市長 担当部長	101
		3.ふるさと納税について	①平成２９年度の状況と今後の考え方について	市長 担当部長	106
6	14番　尾髙誉久	1.固定資産税減免と補助政策について	①中小企業生産性革命に係る固定資産税減免と補助政策について	市長 担当部長	110
		2.生産者人口不足について	①景気は右肩上がりで売り手市場と聞いておりますが、働き手不足が問題になっているのは如何なる問題があるのか	市長 担当部長	114
7	７番　重平直樹	1.大芦高原多目的野球場について	①社会人野球チームが、本拠地を大芦高原多目的野球場に移転したとのことであるが、前年度までの野球場の使用状況 ②グランドゴルフ場の整備費用はいくらかかり、だれが負担するのか ③体育館を社会人野球チームが改修し専属使用するような説明を求める そして今までの実績は	市長 担当部長	120
8	17番　内海健次	1.エイジレス社会を見据え、新たな年齢区分で高齢者を削減する考え方、発想について	昨年（２０１７年）１月に高齢者を７５歳以上に引き上げ６５～７４歳については准高齢者とし、区分を新設し社会の支え手として捉え直すよう提案が行われた　そこで ①２０２５年問題での提言を美作市に置き替えたら人口区分はどのようにみえるか ②美作市行政としての取り組みは	市長 担当部長	124

通告順番	氏　　名	項　　目	質　問　の　要　旨	質問の相手	頁
		2.セカンド市民制度を考えてみては	都会の住民が出身地に限らず、お気に入りの旅行先などを第二の居住地として選び、セカンド市民として美作市に住民登録して頂こうと考えるもので、 ①登録した人達には第二居住地の行政サービスの一部を受けられるような特典を考えてみては	市　　長 担当部長	128
９	９番　金谷のり子	1.里山公園について	①里山公園の２９年度末までの進捗と、３０年度の計画について	市　　長 担当部長	130
		2.もうもう工房跡地について	①もうもう工房跡地の現在の状況と、今後の活用計画はどのようになっているのか	市　　長 担当部長	134
１０	８番　安藤　功	1.美作市の所有者不明などの空き家、土地問題について	①平成２７年に「空き家等対策の推進に関する特別措置法」が施行されたがその特別措置法に沿った施策は現在どのようになっているか ②美作市空き家バンクの実態はどうか ③美作市内の空き家・廃屋・土地等で所有者不明の実態調査はされているか	市　　長 担当部長	137
		2.学校教育について	①小中学校の道徳教育について ②小学校の英語科教育について ③小中学生の学力全般について	市　　長 教 育 長	143
		3.合併後の美作市について	①合併した事による行政上のメリット・デメリットはどうか ②合併した事による住民のメリット・デメリット感をどのように把握されているか ③今後旧６ヶ町村の益々の一体感の醸成と均衡ある発展の実現に向けてのさらなる取組をどのように考えるか	市　　長 担当部長	148
１１	３番　岩﨑清治	1.メガソーラー事業について	①メガソーラーの進捗状況と問題点・対策・今後の工事の進め方 ②泥水等の対策と問題点 ③道路の通行・汚れ・破損の状況 ④獣害対策	市　　長	155
		2.こぶしの里について	①改修工事の発案・予算見積もり・補助金申請 ②今後の対応 ③責任はどうするのか		160
		3.条例の制定時期は、について	①条例とは ②条例の施行日前に廃止になるのは		163
		4.ＮＰＯ法人	①市における特定非営利活動と経済活動		167
		5.財政状況について	①普通建設事業の計画と合併特例債 ②交付税一本算定や人口減に対応した財政運営は		169
１２	15番　岩江正行	1.中山間地における農業の現状と課題	①若者の農業離れ、後継者不足、農業所得の安定について ②耕作放棄地対策と大規模化土地改良事業、農業の効率化 ③農産物の輸出計画について尋ねる	市　　長 副 市 長 教 育 長 政策審議監	172
		2.障がい者差別解消推進法と合理的配慮について尋ねる	①少子高齢化と過疎化について課題を抱える地域の足をどう守る （イ）高齢者 ・ドライバー免許証自主返納 ・買い物や病院など生活に必要な移動手段 （ロ）子供 （ハ）障がいのある人 ②ハンセン病 偏見・差別解消の為の啓発、実施について	企画振興部長 経済部長 総務部長 建設部長 危機管理監 市民部長	177

通告順番	氏　　名	項　　目	質　問　の　要　旨	質問の相手	頁
		3.子供の貧困対策について	①子供の貧困の現状、実態調査と支援体制の整備計画の策定について尋ねる		183
		4.部落差別解消推進法とこれからの人権同和行政について	①平成２８年の１２月に部落差別解消推進法が制定された差別解消に向けた取組について尋ねる		184
		5.市民が安全安心して暮らせる社会実現にむけての取組について尋ねる	①セキュリティ 犯罪や事故などを防止する為の警備全般について		186
１３	10番　岡本泰介	1.ホーチミン像除幕式	①除幕式に幼児を参列させたことについて	市　　長 教 育 長	189
		2.国際交流	①国際交流のあり方と市民感覚	市　　長	193
		3.こぶしの里盗難事件の顛末と改修中止	①こぶしの里で盗難が発生したが、管理状況やその後の報告と、行政が実施する事業のあり方について	市　　長	195
		4.光ファイバー事業の変更全体像	①システム全体像は確定したのか	市　　長	198
		5.特別支援学校誘致	①構想の内容について	市　　長	202
		6.農業振興と観光振興政策	①農業振興と観光振興政策についての取り組みを問う	市　　長	205
１４	６番　倉地重夫	1.核兵器禁止条約について	①昨年７月国連では核兵器禁止条約が採択されましたが、このことについて、市長のお考えをお伺いいたします	市　　長	209
		2.学校給食において地場産農産物の利用について	①美作市健康増進・食育推進計画策定委員会設置要綱で、美作市健康増進計画策定委員会が設置されていますが、「いきいきニコニコ夢プラン」は、現在どのような取り組みがなされているかお尋ねします	担当部長	211
		3.当市の農業政策について	①基幹産業である、農業政策についてどのように取り組まれようとしているのか	担当部長	216
		4.特産物の取り組みについて	①特産物をどのように取り組むのか	担当部長	219
		5.特産物の栄養評価について	①栄養評価の結果について	担当部長	221
１５	５番　中山忠明	1.湯郷温泉の活性化について	①平成２７年７月～２８年２月末まで岡山県が国の補助金で取り組んだ事業内容と当市の湯郷温泉への効果の説明 ②今後美作市として独自の事業展開の計画はあるのか無いのか また、やる考えはあるのか無いのか	市　　長 担当部長	225
		2.美作市における障がい者雇用について	①倉敷市で働いていた障がい者２２０名が解雇された件は新聞等で皆さんはご存知だと思いますが、美作市内での事業所は現在何カ所ほどあるのか また、この事業所に市として支援していっているのか、市民の方々のサポートはあるのか ②民間の方に理解していただき支援していただける様に行政としてどの様な事をしているのか ③障がい者の方達が生活していける給料をいただいているのか	担当部長	227
		3.国民健康保険について	①平成３０年４月から県と市町村がともに共同保険者となって運営していくとの事ですが、これによってどの様に変わっていくのか また、保険料は高くなるのか、安くなるのか ②今後は岡山県内の料金はどうなるのか	担当部長	229

通告順番	氏　　名	項　　目	質　問　の　要　旨	質問の相手	頁
		4.市はベトナム国の歴史を、またホーチミンという人物をどの様に理解しているのか	①極東アジアの国々であるベトナムは古くから日本国との間に友好の歴史があります 現在はベトナム国より、当市に労働者として約８０名働いていますが、この人達との交流はどの様にしているのか ②今後当市には外国人労働者の推移はどう考えているのか	市　　長 担当部長	231
１６	１番　青山　慶	1.専門学校への通学路について 【美作市スポーツ医療看護専門学校関連】	①大原駅、または寮から専門学校への通学路の指定、地域住民への説明をする予定があるか	担当部長	234
		2.寮利用生徒への移動手段の紹介 【美作市スポーツ医療看護専門学校関連】	①寮利用生徒へ、休日等の移動手段の紹介をする予定があるか	担当部長	235
		3.生徒への地域情報の紹介 【美作市スポーツ医療看護専門学校関連】	①生徒全員へ、近隣の飲食店、アルバイト先等の情報が行き渡るような取り組みをする予定があるか	担当部長	236
		4.高地等にある観光地へ至る市道整備	①高地等にある観光地へ至る市道整備のルール	担当部長	237
		5.ブレーキ踏み間違い事故防止促進に対する市の考え方	①ブレーキ踏み間違い事故防止に対する市の考え方	担当部長	238
		6.小中学校の児童、生徒数減少に伴う問題への対策	①市内小中学校の児童、生徒数減少に伴う問題への対策	担当部長	239